DVD付録
もっと楽しいNゲージ
鉄道模型レイアウト
DVD VIDEO

70分DVD付き

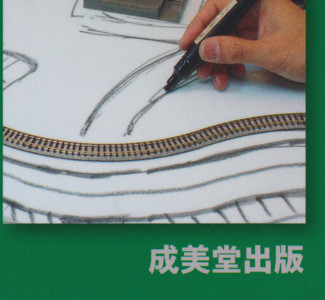
永久保存版

もっと楽しいNゲージ鉄道模型レイアウト

この1冊でだれでもできる!

DVDと本誌第2章
「江ノ電のレイアウトを作る」
が完全連動

レイアウト制作の基本から
㊙技まで大公開!!



成美堂出版

70分
DVD
付き

もっと
楽しい

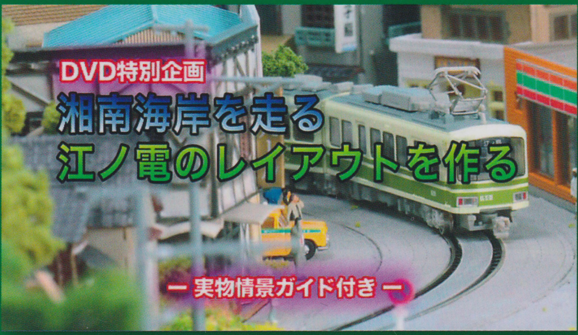
Nゲージ鉄道模型レイアウト

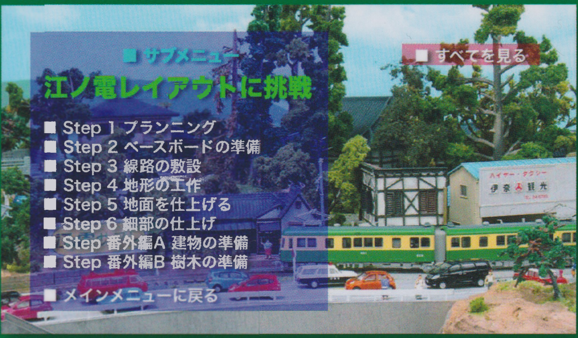
成美堂出版

ビギナー必見！のDVD

本誌DVD「江ノ電レイアウトに挑戦」では、
工作過程を8ステップに分け、
さらに部分別に細分化。
だれでもチャレンジできるよう
詳しく解説しています。

迫力のカメラワークで、
完成レイアウトを走るさまざまな
江ノ電車両が存分に楽しめます。


DVD特別企画
湘南海岸を走る
江ノ電のレイアウトを作る
— 実物情景ガイド付き —


■ サブメニュー
江ノ電レイアウトに挑戦
■ Step 1 プランニング
■ Step 2 ベースボードの準備
■ Step 3 線路の敷設
■ Step 4 地形の工作
■ Step 5 地面を仕上げる
■ Step 6 細部の仕上げ
■ Step 番外編A 建物の準備
■ Step 番外編B 樹木の準備
■ メインメニューに戻る
■ すべてを見る
ハイヤー・タクシー
伊奈観光

成美堂出版の鉄道模型本
好評発売中!

Nゲージ
永久保存版
レイアウトを楽しむ
鉄道模型入門
ミニレイアウトからノスタルジックな本格レイアウトまで。
これならできる憧れのNゲージレイアウト!
成美堂出版
実物の「箱根登山鉄道」をお手軽サイズでつくってみよう!
本棚に飾れる木造機関庫ジオラマに挑戦!

Nゲージレイアウトを楽しむ
鉄道模型入門
成美堂出版編集部編　AB判

Nゲージ
鉄道模型大事典
作りたいもので引ける!!
昔懐かしいローカル線、
スイッチバックのある山岳鉄道、
夜景の美しい大都会…
どんなレイアウトもこの一冊でOK!
成美堂出版
永久保存版

Nゲージ
鉄道模型大事典
成美堂出版編集部編　AB判

＊表紙デザイン、内容の一部が変更·改訂となることがあります
◎弊社出版情報はホームページをご覧下さい。
http://www.seibidoshuppan.co.jp

DVD付き もっと楽しい Nゲージ鉄道模型レイアウト

発　行	2011年8月20日
価　格	本体1800円+税
編　者	成美堂出版編集部
印　刷	凸版印刷株式会社
発行所	成美堂出版 〒162-8445　東京都新宿区新小川町1-7 ☎(03)5206-8151　FAX(03)5206-8159

70分DVD付き

もっと楽しいNゲージ鉄道模型レイアウト

成美堂出版

特選青果 八百吉
江ノ電サブレ

70分DVD付き

もっと楽しいNゲージ鉄道模型レイアウト

成美堂出版

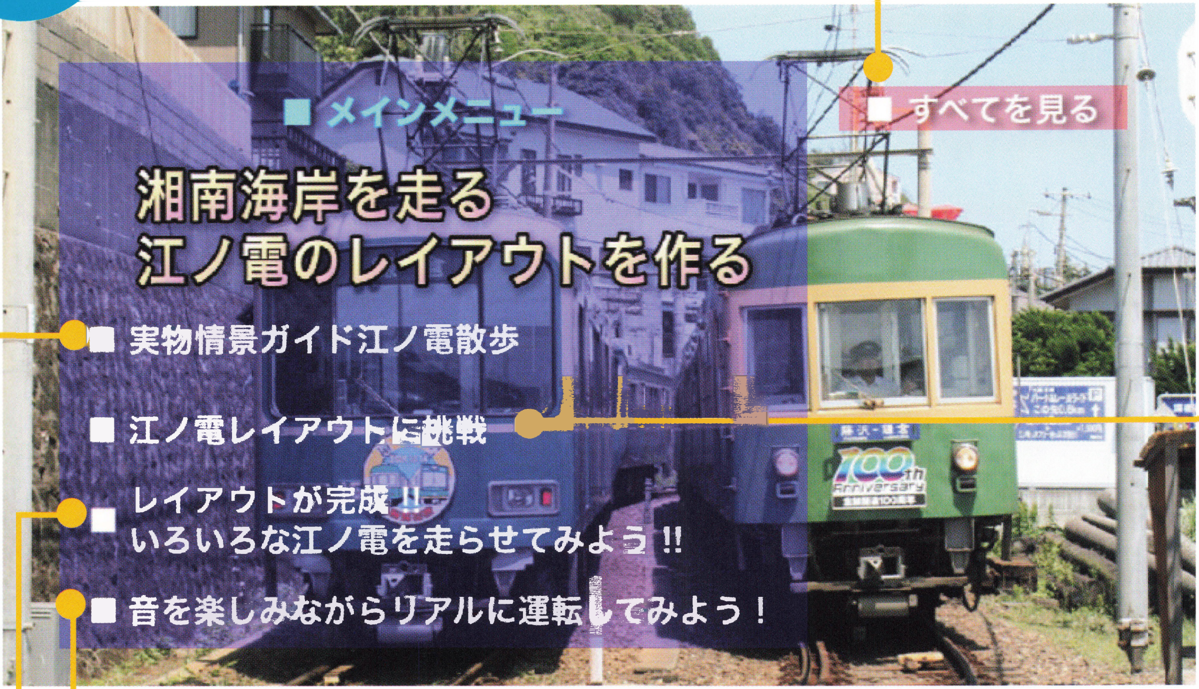
DVDの使い方

付属のDVDには、本書の第２章「湘南海岸を走る江ノ電のレイアウトを作る」で紹介した内容がいっそう詳しく収録されています。特に江ノ電のレイアウトの作り方はStepを８項目に分けさらに細かく収録しています。実際に作られる際の参考に役立ててください。

メインメニュー画面

メインメニューは収録されている４項目がすぐに選べるようになっています。見たい項目を選んでクリックしてください。

すべてを見るをクリックすると４項目がすべて順番に見ることができます。


■ メインメニュー
■ すべてを見る
湘南海岸を走る
江ノ電のレイアウトを作る
■ 実物情景ガイド江ノ電散歩
■ 江ノ電レイアウトに挑戦
■ レイアウトが完成!!
いろいろな江ノ電を走らせてみよう!!
■ 音を楽しみながらリアルに運転してみよう！
100th Anniversary

実物情景ガイド
江ノ電 散歩

実物情景ガイド 江ノ電散歩

実際の江ノ電を観察してレイアウトを作る際の参考にしよう。海岸、トンネル、川、神社、併用軌道など魅力あふれる素材がいっぱいです。クリックするとすぐに映像が再生されます。

レイアウトが完成！！
いろいろな江ノ電を走らせてみよう!!

レイアウトが完成!! いろいろな江ノ電を走らせてみよう!!

完成したレイアウト上を発売されているいろいろな江ノ電車両を走らせてみました。まるで本物の風景の中を走っているようです。クリックするとすぐに映像が再生されます。

音を楽しみながら
リアルに運転してみよう！

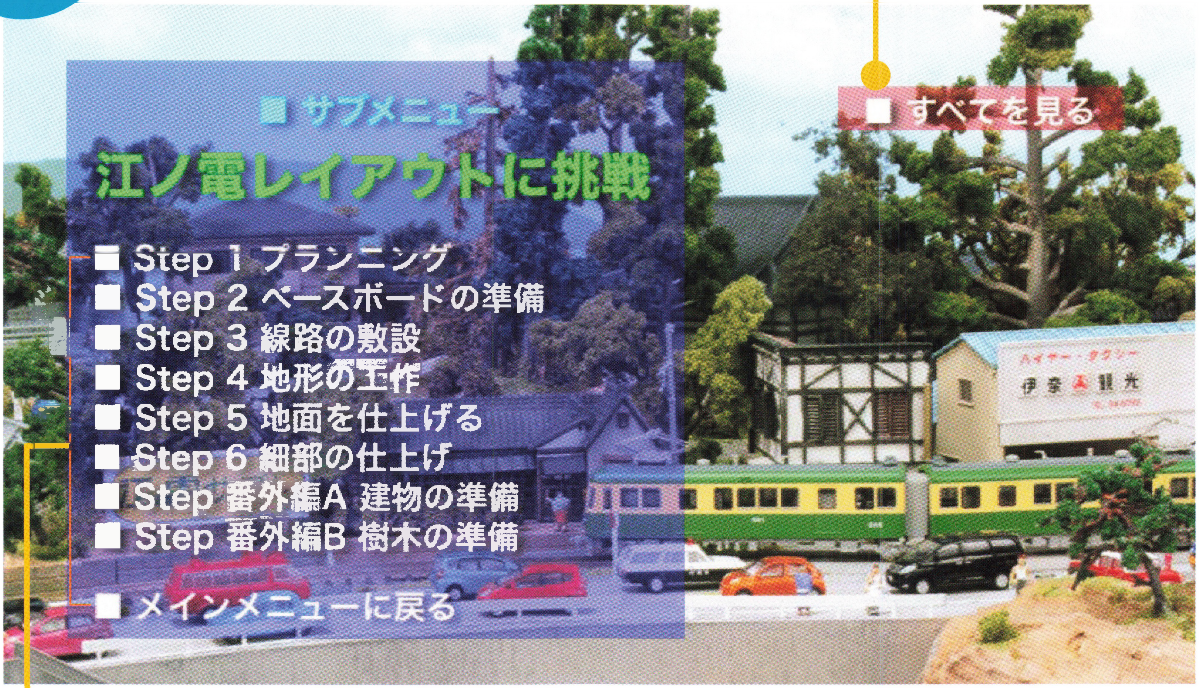
音を楽しみながらリアルに運転してみよう！

トミックス製のサウンド付きのコントローラーを使い、実際に運転しているような臨場感あふれる音と運転を楽しんでみました。クリックするとすぐに映像が再生されます。

サブメニュー画面

メインメニューの「江ノ電レイアウトに挑戦」を選ぶとサブメニューが出てきます。8つのStepに分かれていますので、見たい項目を選んでクリック。

すべてを見るをクリックすると8Stepの項目をすべて見ることができます。



■ サブメニュー

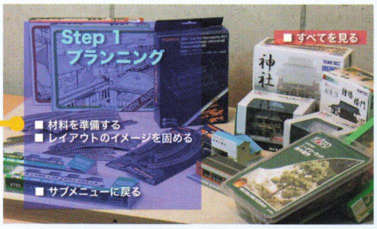
江ノ電レイアウトに挑戦

■ Step 1 プランニング
■ Step 2 ベースボードの準備
■ Step 3 線路の敷設
■ Step 4 地形の工作
■ Step 5 地面を仕上げる
■ Step 6 細部の仕上げ
■ Step 番外編A 建物の準備
■ Step 番外編B 樹木の準備

■ メインメニューに戻る

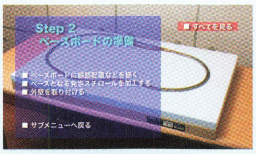
■ すべてを見る

Step1～Step番外編Bの画面
サブメニューの項目を選ぶと各Stepのメニューが出てきます。



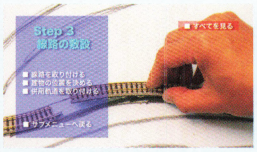
Step 1 プランニング
■ すべてを見る
■ 材料を準備する
■ レイアウトのイメージを固める
■ サブメニューに戻る

Step1



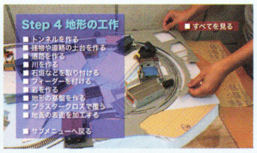
Step 2 ベースボードの準備
■ すべてを見る
■ ベースボードに線路配置などを描く
■ ベースとなる発泡スチロールを加工する
■ 外壁を取り付ける
■ サブメニューへ戻る

Step2



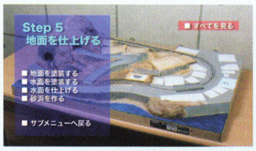
Step 3 線路の敷設
■ すべてを見る
■ 線路を取り付ける
■ 建物の位置を決める
■ 併用軌道を取り付ける
■ サブメニューへ戻る

Step3



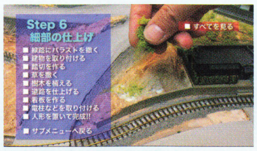
Step 4 地形の工作
■ すべてを見る
■ トンネルを作る
■ 建物や道路の土台を作る
■ 道路を作る
■ 川を作る
■ 石垣などを取り付ける
■ フィーダーを付ける
■ 岩を作る
■ 地形の基盤を作る
■ プラスタークロスで覆う
■ 地面の表面を加工する
■ サブメニューへ戻る

Step4



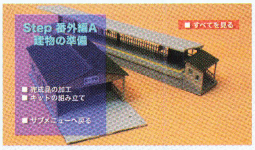
Step 5 地面を仕上げる
■ すべてを見る
■ 地面を塗装する
■ 水面を塗装する
■ 水面を仕上げる
■ 砂浜を作る
■ サブメニューへ戻る

Step5



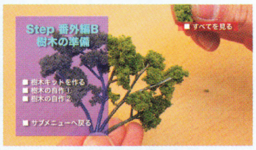
Step 6 細部の仕上げ
■ すべてを見る
■ 線路にバラストを撒く
■ 建物を取り付ける
■ 踏切を作る
■ 草を撒く
■ 樹木を植える
■ 道路を仕上げる
■ 看板を作る
■ 電柱などを取り付ける
■ 人形を置いて完成!!
■ サブメニューへ戻る

Step6



Step 番外編A 建物の準備
■ すべてを見る
■ 完成品の加工
■ キットの組み立て
■ サブメニューへ戻る

Step番外編A



Step 番外編B 樹木の準備
■ すべてを見る
■ 樹木キットを作る
■ 樹木の自作①
■ 樹木の自作②
■ サブメニューへ戻る

Step番外編B

材料を準備する

材料を準備する

Stepごとのメニューから項目を選ぶとそれぞれの項目の映像が始まります。Stepごとのすべてを見るをクリックするとそのステップをすべて続けて見ることができます。

DVDの内容紹介

湘南海岸を走る江ノ電のレイアウトを作る

DVD特別企画
湘南海岸を走る
江ノ電のレイアウトを作る
― 実物情景ガイド付き ―

実物情景ガイド 江ノ電散歩

江ノ電レイアウトに挑戦

Step1 プランニング

材料を準備する

レイアウトのイメージを固める

Step2 ベースボードの準備

ベースボードに線路配置などを描く

ベースとなる発泡スチロールを加工する

外壁を取り付ける

Step3 線路の敷設

線路を取り付ける

建物の位置を決める

併用軌道用を取り付ける

Step4 地形の工作

トンネルを作る

建物や道路の土台を作る

道路を作る

川を作る

石垣などを取り付ける

フィーダーを付ける

岩を作る

地形の基盤を作る

プラスタークロスで覆う

地面の表面を加工する

Step5 地面を仕上げる

地面を塗装する

水面を塗装する

水面を仕上げる

砂浜を作る

Step6 細部の仕上げ

線路にバラストを撒く

建物を取り付ける

踏切を作る

草を撒く

樹木を植える

道路を仕上げる

看板を作る

電柱などを取り付ける

人形を置いて完成!!

Step番外編A 建物の準備

完成品の加工

キットの組み立て

Step番外編B 樹木の準備

樹木キットを作る

樹木の自作１

樹木の自作２

レイアウトが完成!! いろいろな江ノ電を走らせてみよう!!
音を楽しみながらリアルに運転してみよう！

ＤＶＤビデオの取り扱い上のご注意

●このディスクにはコピーガード信号が入っています。そのためコピーすることはできません。
●ディスクは指紋、汚れ、キズ等をつけないようにお取り扱いください。
●ディスクが汚れたときは柔らかい布を軽く水で湿らせ、内周から外周に向かって放射状に軽くふき取ってください。レコード用クリーナーや薬剤等は使用しないでください。
●ひび割れや変形、また補修されたディスクは危険ですから絶対に使用しないでください。
●使用後は必ずプレーヤーから取り出し、専用ケースに収めてください。直射日光の当たる場所や高温、多湿の場所をさけて保管してください。
●ディスクの上に重いものを置いたり落としたりすると、ひび割れしたりする原因になります。

＊本ＤＶＤビデオならびに本書に関する全ての権利は、著作権者に留保されています。成美堂出版株式会社の承諾を得ずに、無断で複写・複製することは法律で禁止されています。
＊本ＤＶＤビデオの内容を無断で改変したり、第三者に譲渡・販売すること、営利目的で利用することは法律で禁止されています。
＊本ＤＶＤビデオや本書において乱丁・落丁、物理的欠陥があった場合は、不良箇所を確認後お取り替えいたします。必ず本書とＤＶＤディスクを合わせてご返送ください。
＊本ＤＶＤビデオおよび本書に関するご質問は、葉書か封書にてお送りください。なお内容の範囲を超える質問にはお答えできない場合もありますので、ご了承ください。

ＤＶＤビデオを使用する前にお読みください。
ＤＶＤビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。
ＤＶＤビデオ対応のプレーヤーで再生してください。

DVD付き もっと楽しいNゲージ鉄道模型レイアウト

CONTENTS

DVDの使い方 …… 2
DVDの内容紹介 …… 4
巻頭グラフ …… 8

第1章

テーマで考えるレイアウト作り …… 15

レイアウトのテーマは日常の中に広がっている …… 16

故郷の川を美しく表現 …… 17
故郷の山間を走るローカル線
梶尾鉄道 肱川本戦　梶尾 太一郎

日本の四季を表現 …… 26
四季の里鉄道　宮越 洋司

都市の日常を再現する …… 34
怒濤の新小田原駅前風景　夏目 貴央

豊かな農村風景を再現！ …… 42
美作鉄道　木村 尚之

第2章

湘南海岸を走る江ノ電のレイアウトを作る …… 49

併用軌道のある小型レイアウト　松本 典久 …… 50

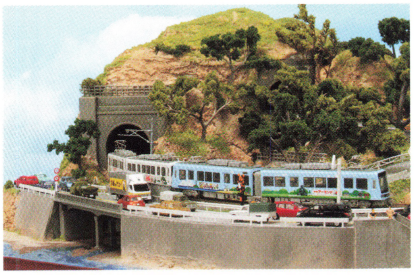
江ノ電フォトスケッチ　ロケハンをして
レイアウトのイメージをふくらませよう …… 56

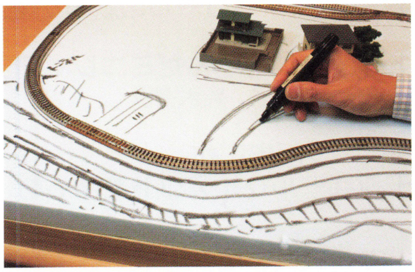
江ノ電レイアウトに挑戦
Step1 プランニング …… 64
材料を準備する／レイアウトのイメージを固める／今回作ったプランについて

Step2 ベースボードの準備 …… 68
ベースボードに線路配置などを描く／ベースとなる発泡スチロールを加工する／発泡スチロールをベースボードを取り付ける／外壁を取り付ける

Step3　線路の敷設 …… 70
線路を取り付ける／建物の位置を決める／併用軌道用の石畳パーツを塗装する／併用軌道用の石畳パーツを取り付ける

Step4　地形の工作 …… 72
トンネルを作る／トンネル内を塗装し、内壁も取り付ける／建物や道路の土台を作る／建物の土台も地形に合わせて整形／道路を作る／川を作る





／岩を作る／地形の基盤を作る／石垣などを取り付ける／プラスターで地面を作る／地面の表面を仕上げる

Step5　地面を仕上げる …… 78
地面を塗装する／水面を塗装する／水面を仕上げる／漁船や消波ブロックで海を演出

Step番外編A　建物の準備 …… 80
完成品の加工／キットの組み立て／塗装にはプラスチック専用の塗料を使用／組み立てにはプラスチック接着剤を使用

Step番外編B　樹木の準備 …… 84
樹木キットを作る／樹木の自作①本物の木を使う／樹木の自作②ドライフラワーを使う

Step6　細部の仕上げ …… 86
線路にバラストを撒く／建物を取り付ける／踏切を作る／草を植える／樹木を植える／道路面の標記を描く／電柱や人形など小物を取り付けて完成

これで江ノ電レイアウトが完成だ!! …… 90

江ノ電レイアウトのディテールを観察してみよう!! …… 92

小型レイアウト向き車両大紹介 …… 94

レイアウト作りを楽しむアイデア ①
路面電車＆小型車両を楽しむレイアウトプラン２題 …… 98

レイアウト作りを楽しむアイデア ②
簡単な工作で完成、レイアウトに背景をつけよう …… 100

第3章

初心者向けレイアウトスタートの基礎知識 …… 101

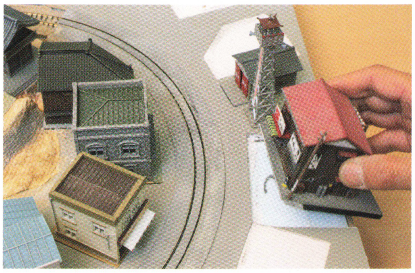
1　レイアウト作りへの第一歩 …… 102
2　レイアウトの設置場所を考える …… 104
3　レイアウトの基盤のいろいろ …… 106
4　給電関係の基礎知識 …… 108
5　２列車運転の基礎知識 …… 110
6　列車コントロールの新しい潮流 …… 112

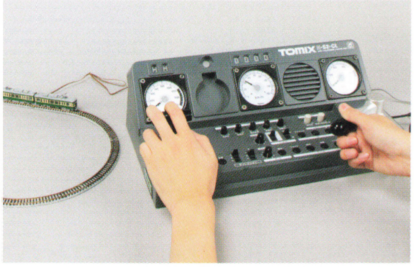
トランクに仕込んだミニレイアウト …… 114
トランク鉄道　鈴木 惇久

Nゲージ簡単工作
モジュールレイアウトを楽しむ　池口 英司 …… 120

レイアウト作りを楽しむアイデア ③
ジオラマコレクションをさらに楽しむ …… 122

レイアウト作りを楽しむアイデア ④
ペーパークラフトにチャレンジしよう …… 124





第4章

みんなのレイアウト……………………………… 125

いろいろな橋を盛り込んだレイアウト……………… 126
岩倉鉄道　小山 義記

同時7列車運転が楽しめるレイアウト ……………… 136
青梅臨海高速鉄道　木崎 郁夫

高架線のある都市の風景………………………… 144
射水戸破鉄道　釣 康宏

夜景を楽しむレイアウト………………………… 152
国分寺鉄道　田村 明

コの字型の大型レイアウト……………………… 160
甲総越鉄道　松山 泰治

子供と遊べる隠し絵のレイアウト………………… 168
吉井本郷鉄道　関根 一秀

HOとNゲージを混在させたレイアウト ………… 174
愛媛鉄道　高岡 隆雄

ガイドブックで作ったレイアウト………………… 182
明石大窪鉄道　上村 芳啓

ミニレイアウト工作　テーマとスペースを考えてレイアウトを作る
スイッチバックレイアウトに挑戦………………… 188
篝沢鉄道高根線　池口 英司

レイアウト作りを楽しむアイデア ⑤
鉄サビ・汚れ・褪色でリアルさを出す……………… 196

レイアウト作りを楽しむアイデア ⑥
駅舎に色を塗ってリアルさを演出………………… 198

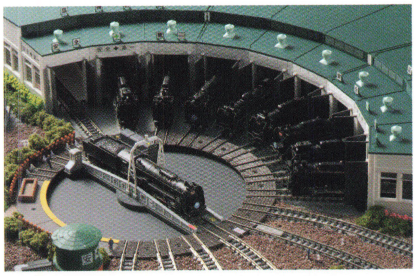
第5章

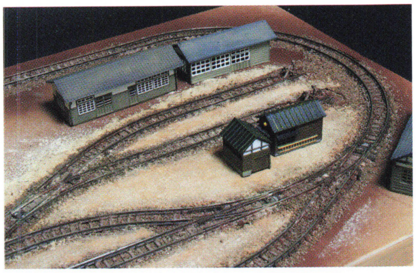
実物の風景を観察しよう……………………… 199

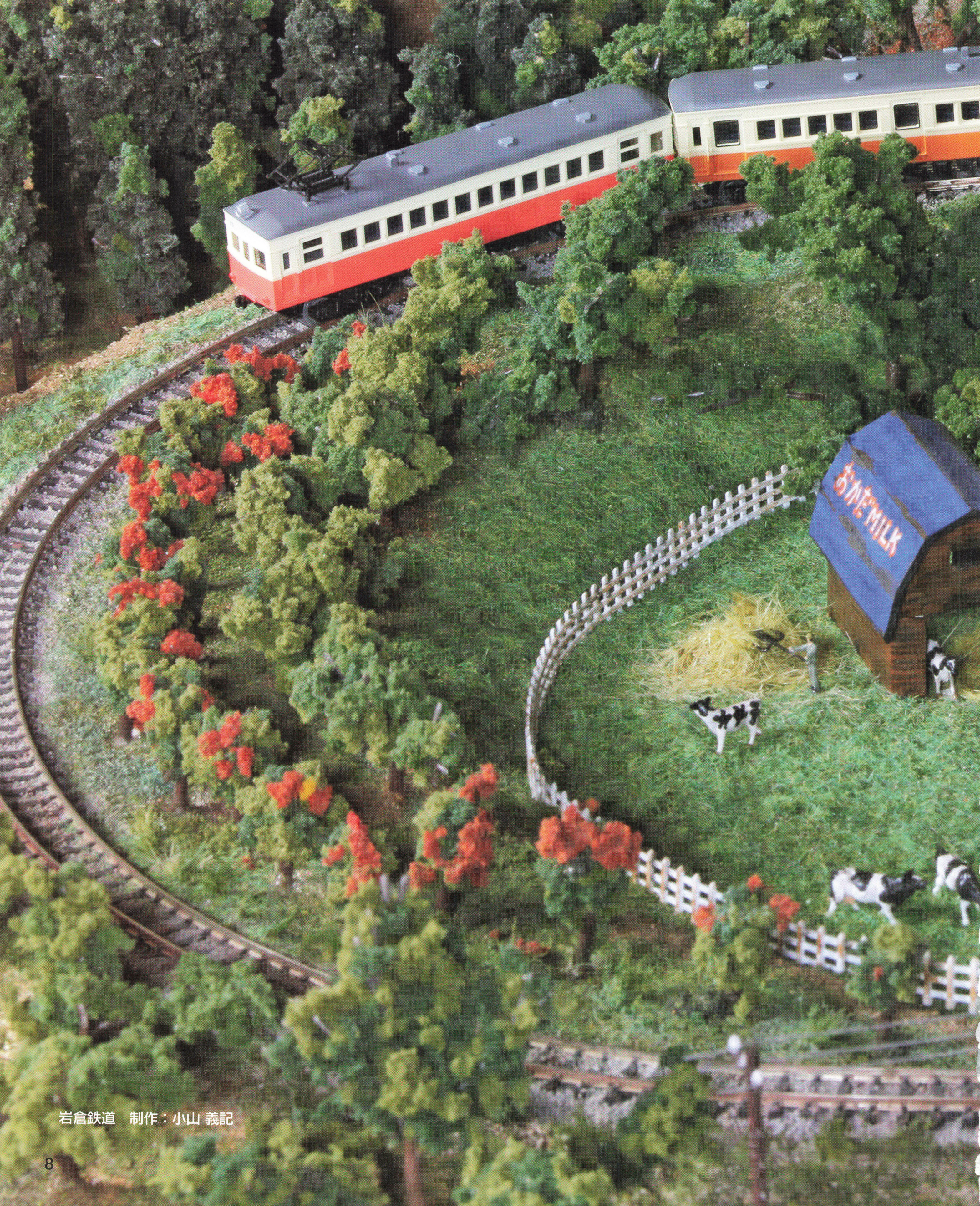
橋梁 ……………………………………………… 200
トンネル・落石止めなど………………………… 202
都市の駅…………………………………………… 204
ローカル駅………………………………………… 206
貨物駅……………………………………………… 208
車両基地…………………………………………… 210

実物の風景を観察して作ったレイアウト
銚子電気鉄道仲ノ町風レイアウト　池口 英司 ………… 212
銚子電気鉄道フォトスケッチ…………………… 214
銚子電鉄風レイアウトを作る…………………… 218

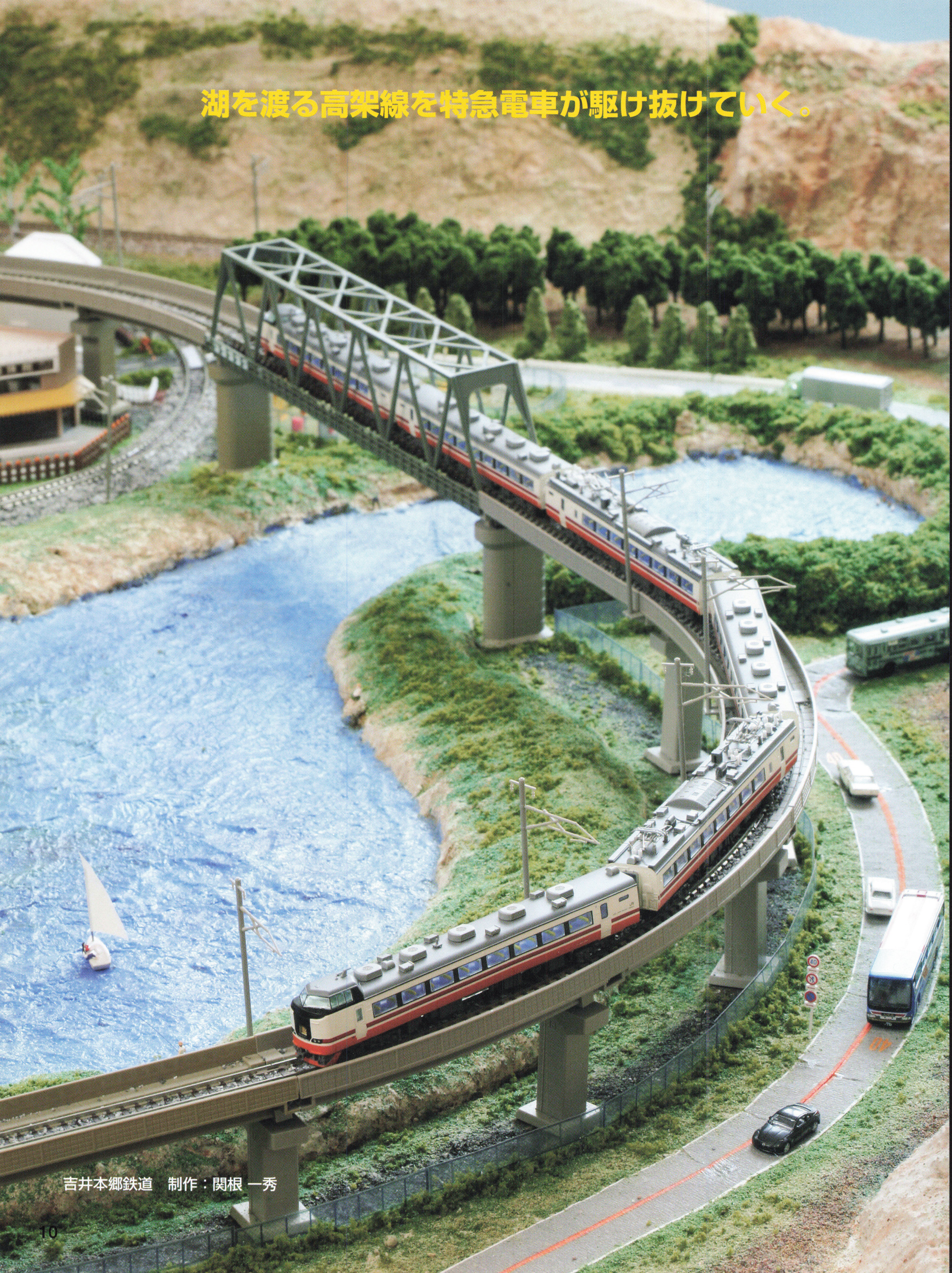
INDEX 鉄道模型用語辞典………………………… 222







岩倉鉄道　制作：小山 義記



湖を渡る高架線を特急電車が駆け抜けていく。

吉井本郷鉄道　制作：関根 一秀

カラン、コロンとカウベルのなる午後。
鉄橋が轟々と鳴り響き、
２両編成の電車がやってきた。

四季の里鉄道　制作：宮越 洋司

愛媛鉄道　制作：高岡 隆雄

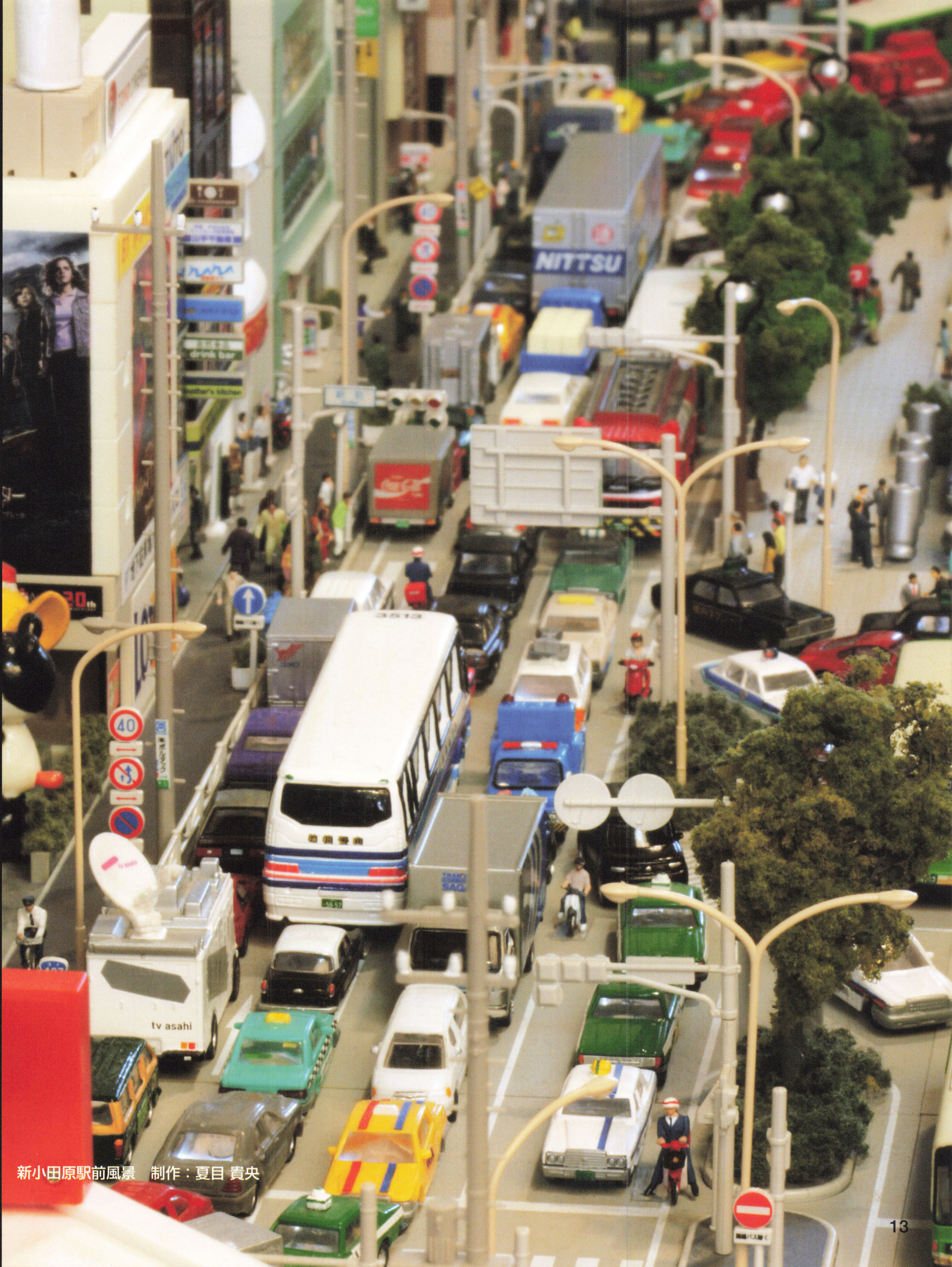
T-UP
Hello Kitty
ガスピタン
クラウン
コロナ
カローラ
OMEGA
SEIYU
IDEMITSU
JR BUS KANTO

射水戸破鉄道　制作：釣 康宏

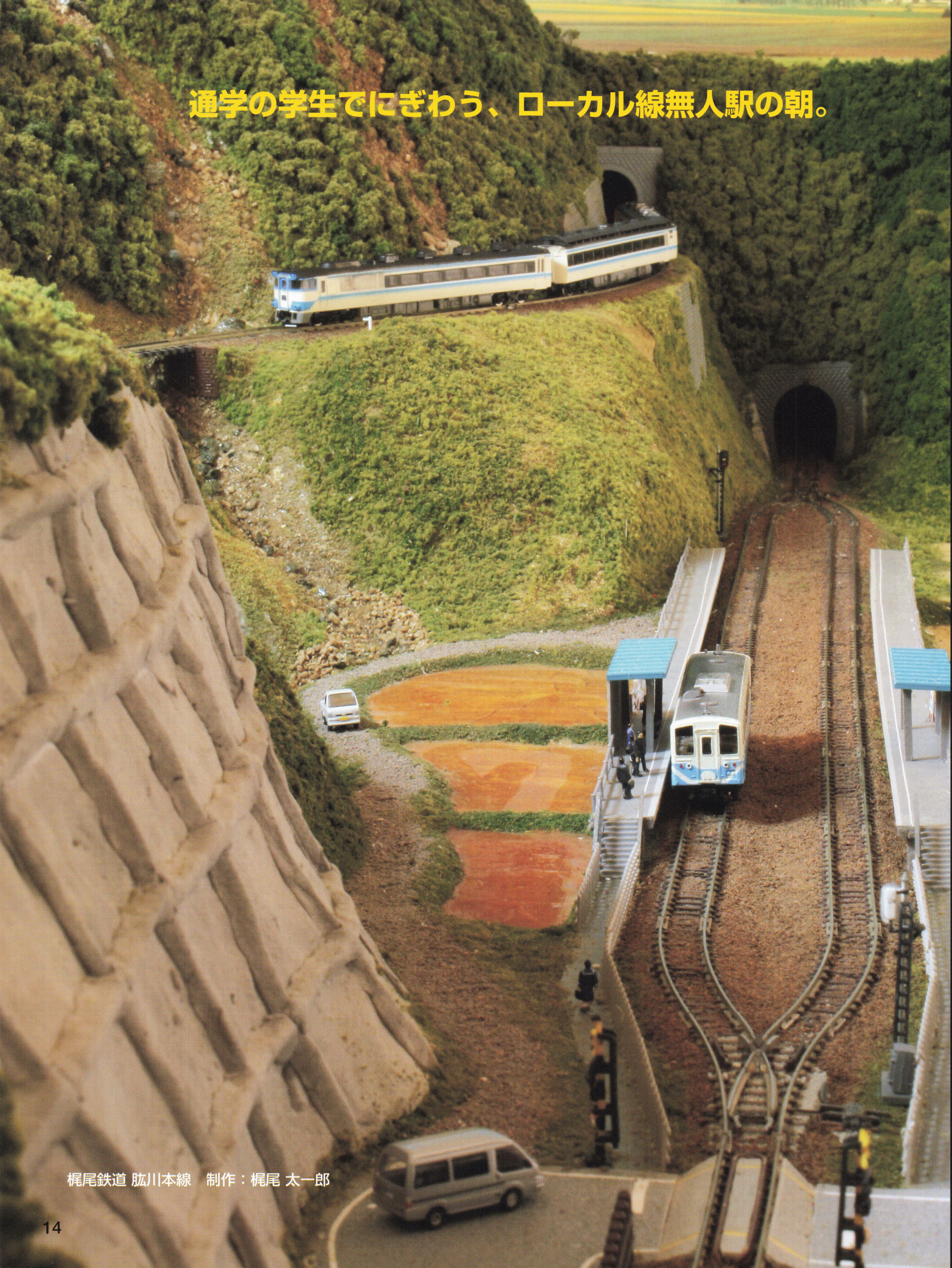
自動車や人々、そして光。都会の息吹が聞こえてくる。

国分寺鉄道　制作：田村 明

青梅高速鉄道　制作：木崎 郁夫


NITTSU
drink bar
tv asahi
40

新小田原駅前風景　制作：夏目 貴央



通学の学生でにぎわう、ローカル線無人駅の朝。

梶尾鉄道 肱川本線　制作：梶尾 太一郎

第1章

テーマで考える レイアウト作り

鉄道模型の楽しさがいっぱいつまったレイアウト作り。初めて作るときは何から手をつけたらよいか分らなくなりがち。そんなとき、作るレイアウトのテーマから考えていくのもひとつの方法だ。

レイアウトのテーマは日常の中に広がっている

リアルな情景を作っていくこともレイアウトの楽しみ方のひとつだ。こんなレイアウトをめざすなら、闇雲に作らずにテーマや物語を考えていくといい。

川をテーマにしたレイアウト

季節をテーマにしたレイアウト

自分のテーマを決めてレイアウトを作ってみたい

鉄道模型のレイアウトは、「このように作らねばならない」なんていう決まりはない。自分の思うままに作っていけばいいのだ。本書で紹介したレイアウトにしてもひとつとして同じものはない。まさに十人十色の世界なのだ。

しかし、自由に作るとなると、それもまた難しい。線路を敷き、建物を並べ、山を作り、トンネルを付け…と思いは膨らむが、具体的な作業に進みにくいものだ。こんなとき、自分が作りたいレイアウトのテーマやモチーフを決め、心に描いた物語に沿って構想を膨らませていくといい。

例えば「新幹線」をテーマとする。ミニ新幹線を別として全線複線だ。また、本線では道路との平面交差はなく、すべて立体交差。高架橋あるいは築堤が基本となる…と考えていくと、大まかな全体像ができ、さらに細部についても詰めていくことができるだろう。

都市をテーマにしたレイアウト

AQUA MUSEUM
アクアミュージアム
Fm yokohama 84.7
サンバード
長崎屋
りのち晴れ
B1
Planetarium

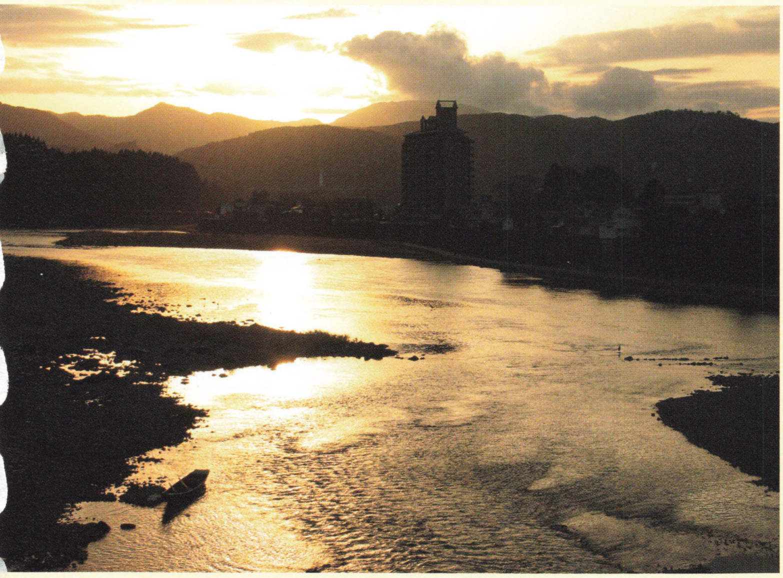
農村風景をテーマにしたレイアウト

レイアウトのテーマ

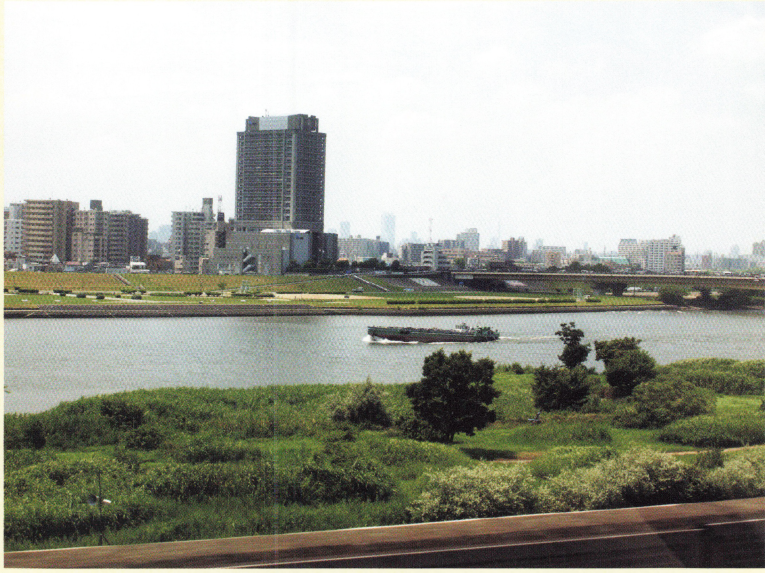
故郷の川を美しく表現

水に恵まれた日本は、全国各地どこにでも川が流れている。山間部の渓流に始まり大河となって海に流れ込む。そんな川をレイアウトにも取り込んでみたい。

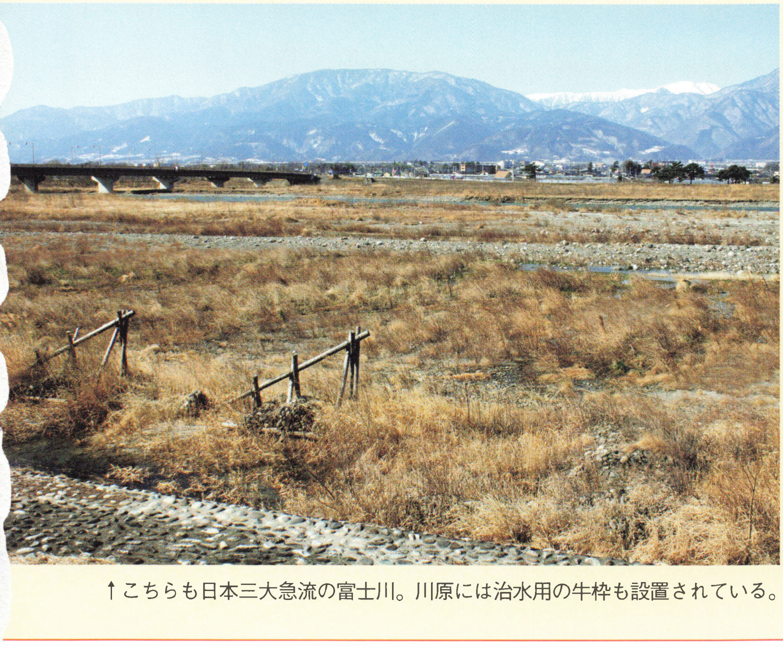
川は源流から河口にかけて表情を変えながら流れていく。源流は上流域の最上部。流れは細く、川原も狭い。いくつかの流れが集まり、岩がごろごろした急流となる。山間から平地に出た川は勾配も緩くなり、川原が発達する。これが中流域だ。そして海が近い下流域では、流域に都市が現れ、水害を防ぐための堤防も目立つようになる。



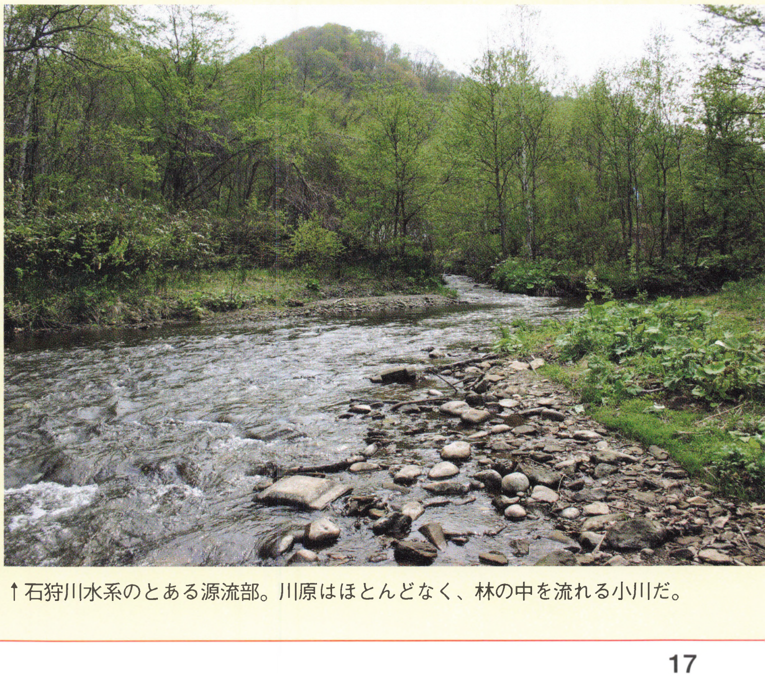
↑日本三大急流に数えられる球磨川。人吉盆地を流れる区間では川原が発達。



↑東京都内を流れる荒川。堤防の向こうには高層ビルも建っている。



↑こちらも日本三大急流の富士川。川原には治水用の牛枠も設置されている。



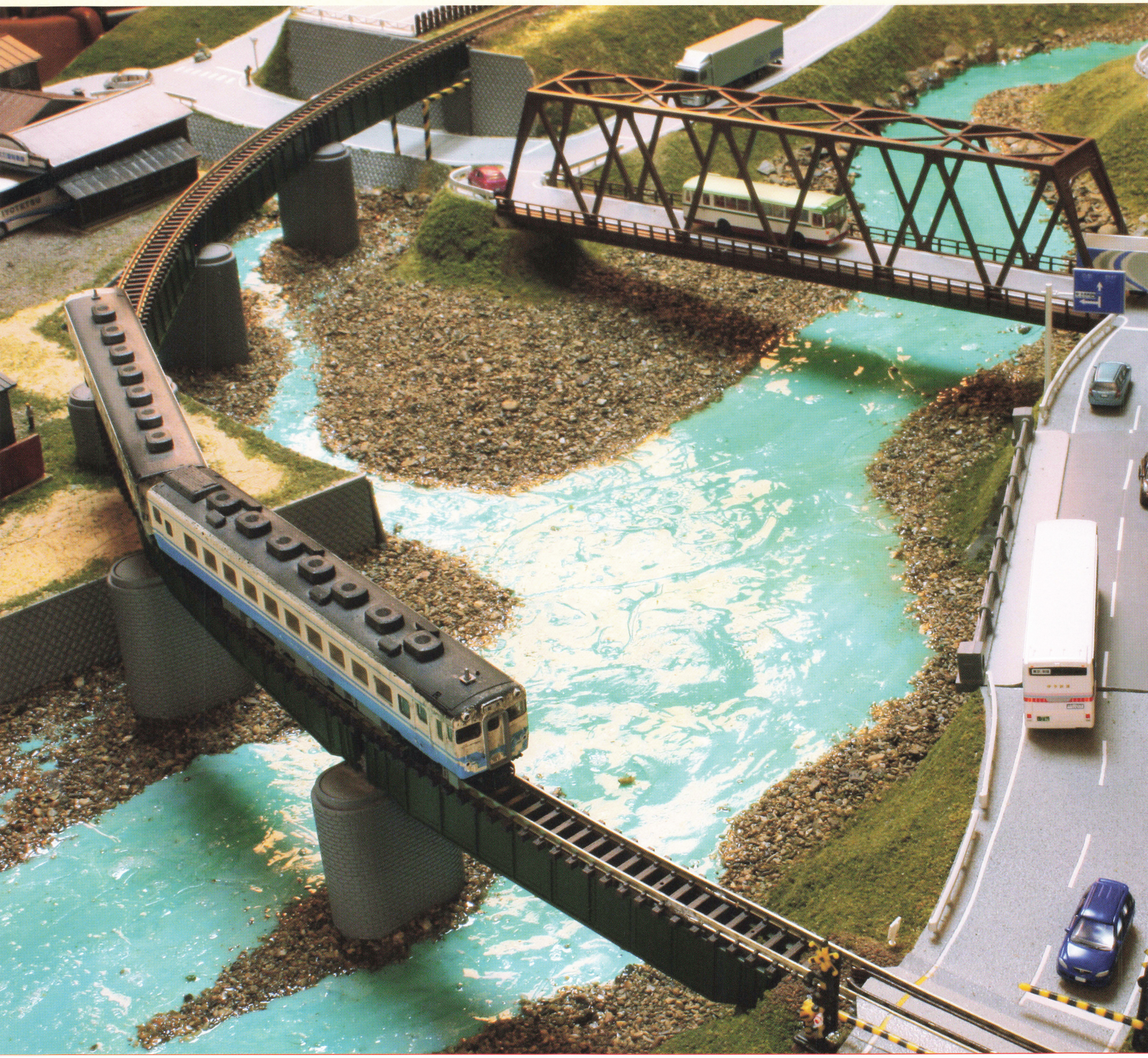
↑石狩川水系のとある源流部。川原はほとんどなく、林の中を流れる小川だ。

故郷の山間を走るローカル線

ゆとりあるスペースに現代日本のローカル風景を再現。持て余し気味の鉄道施設、山間部を抜けるバイパスなども精緻に作られている。

梶尾鉄道 肱川本線　制作：梶尾 太一郎

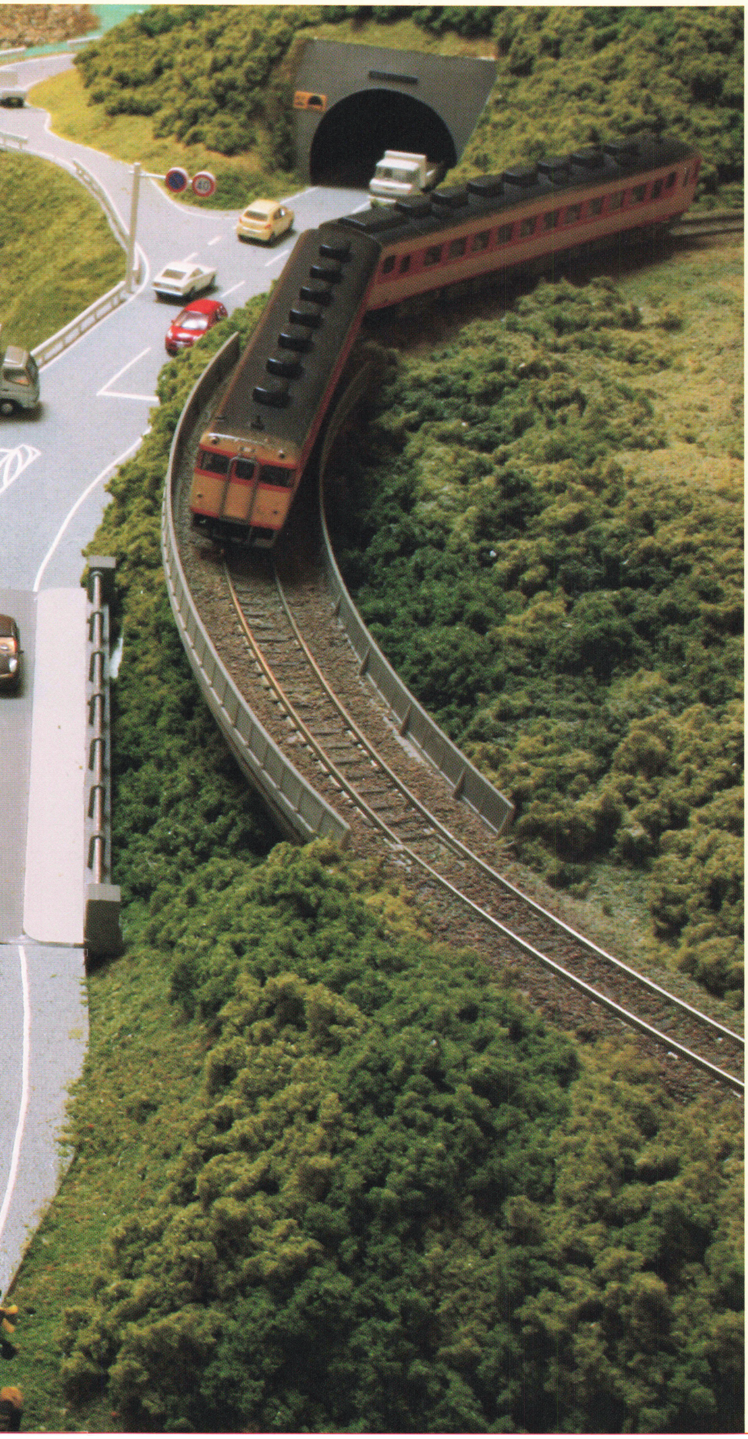
レイアウトの大きさ	2,500×1,600㎜
制作のべ時間	6年3ヶ月
総費用	250,000円

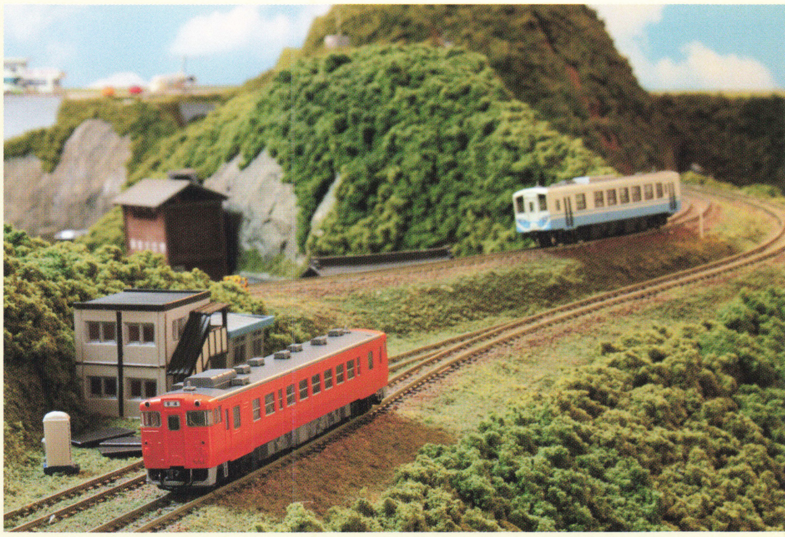


時の流れにさらされた現在のローカル線を再現

好きな時間に好きな車両を思いのまま走らせる…。それが自分の思い描く世界の中であれば、どんなに素晴らしいことでしょうか。

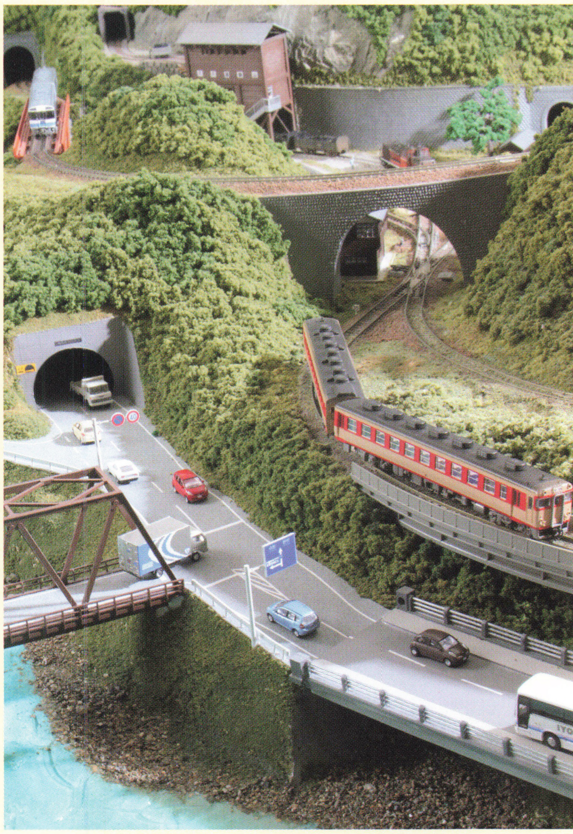
そんな夢を抱きながら制作したのが、この梶尾鉄道肱川本線です。舞台は愛媛県大洲市を流れる肱川の上流に位置する架空の町。その町の玄関口となっていたローカル線を再現しています。制作にあたって意識したのは「時の流れ」です。時代設定は現代。昔は長い編成の列車が行き交っていましたが、今は短い編成が中心となり、長いホームは持て余し気味。道路にはバイパスも建設され、旧道に残る古い民家が往年の雰囲気を伝えてくれる…。今の日本のあちこちで見られる情景を再現しました。





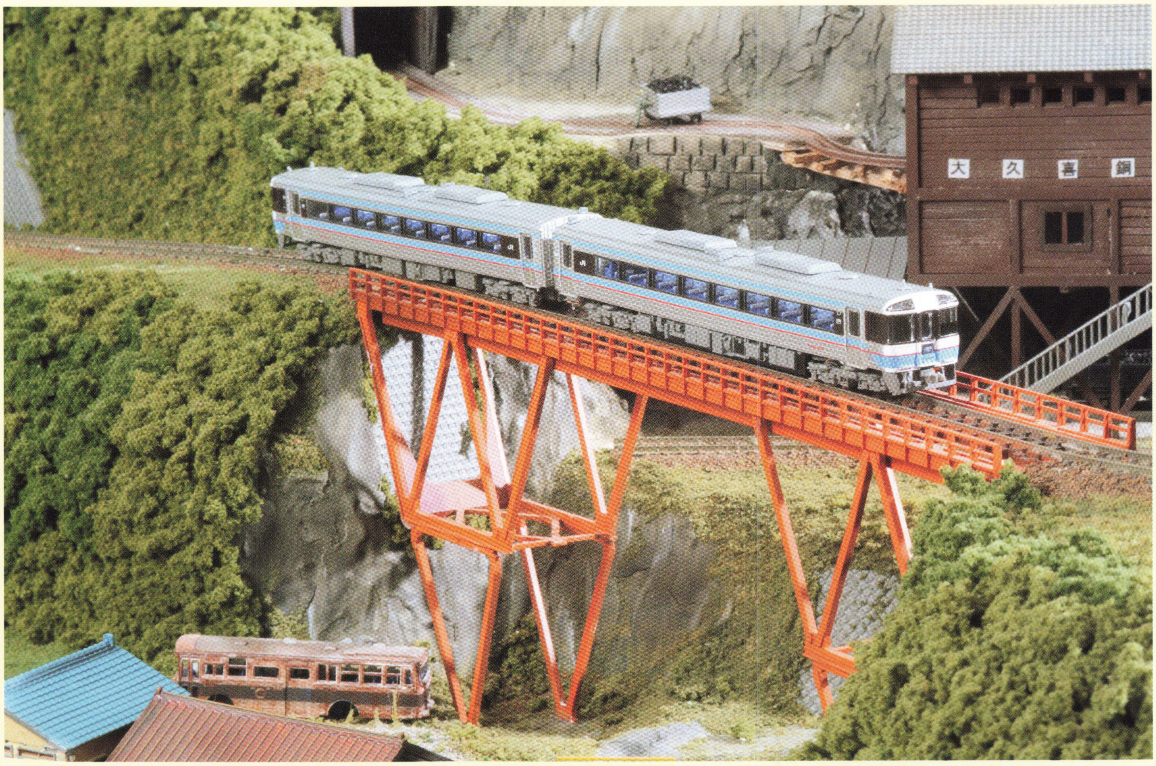
↑スイッチバック風の信号所
信号所はルート変更のための工事中という想定で制作。本線と高低差があるため、スイッチバックと見ることもできる。

←肱川の鉄橋を渡るキハ58系
カーブしたガーダー橋はフレキシブル線路を使用。川の両側に通じる道路は所々に旧道を作り、昨今の開発状況を表現。



→リアルに作られた道路まわり
道路は白く塗った厚紙製。センターラインなどをマスキング、アサヒペンの石調スプレーで凹凸を表現、さらに塗装で仕上げ。

立体交差の石積みアーチ橋
キハ185系の渡るアーチ橋はグリーンマックス製の石垣素材で自作。手前の橋はカトー製の高架橋を加工して制作した。

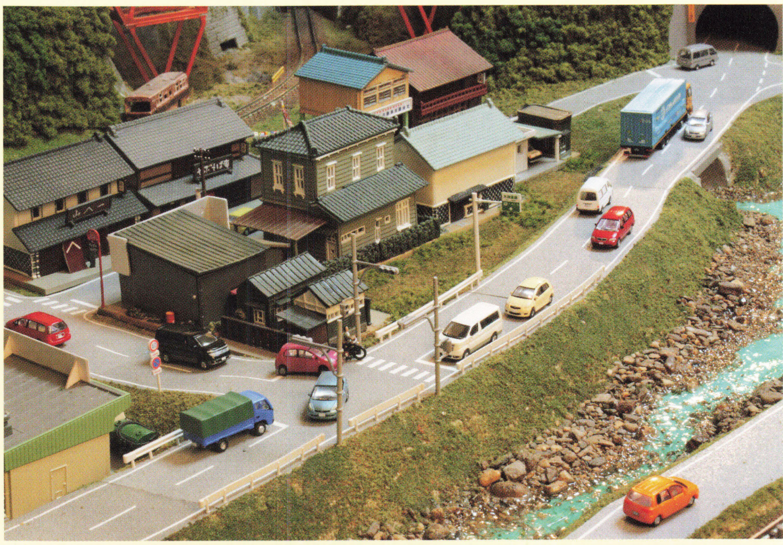


餘部鉄橋をモチーフにした
トミックス製のトラス橋を分解、上部構造を橋脚になるように組み直した。岩肌は家屋の壁用補修材を塗り、乾燥前に凹凸を表現してそれらしく仕上げている。

中央に横たわる大きな山が雄大な情景を見せてくれる

梶尾鉄道肱川本線の一番の見せ所は、何といってもレイアウトの中央に横たわる大きな山です。ここに単線の線路が山を縫うように複雑に配置されています。途中には列車の行き違いが可能な駅や信号所、さらにはスイッチバック駅も設けて実物に即した運転を楽しめるように配慮しました。また、大きな山により情景は表と裏で二分され、それぞれ違った風景を楽しめるといったメリットもあります。

この山は、その大きさゆえ相当な重量になっています。そのため、土台はダンボールと割り箸、表面は紙粘土で仕上げるなどと軽量化に配慮しました。木々はフォーリッジクラスターを使いましたが、その量は半端なものではありません。植樹も相当な労力を要しましたが、快走する気動車たちを眺めていると苦労も忘れてしまいます。



川沿いに開けた集落“深河（みかわ）”
集落の建物は主にジオコレを使用。青い屋根の建物は「中古車屋A」を元に八幡浜市に実在する中古車屋を再現。街中の旧道とバイパスの幅員の違いにも注意。

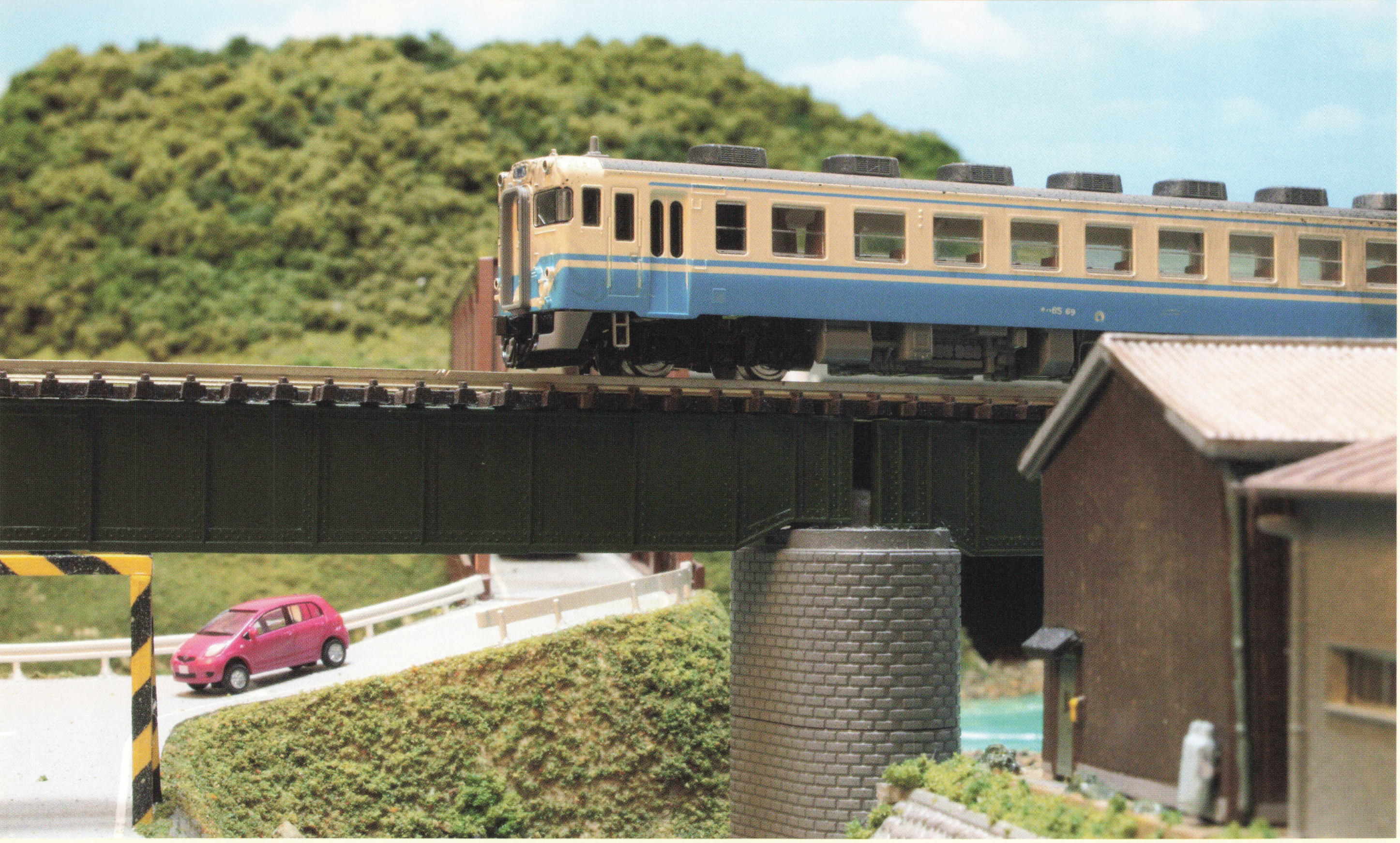
このレイアウト制作のポイント POINT OF THE LAYOUT

リアルな情景再現にこだわったレイアウト

①雄大なボリュームを見せる山々
複雑な起伏を描き、崖やガレ場なども見事に再現。

②全体をゆったり見せる熟考された線路プラン
フレキシブル線路も活用した緩やかなカーブも実感的。

③旧道とバイパスをうまく組み込む
今の日本を象徴する道路設定によって街並みもリアル。



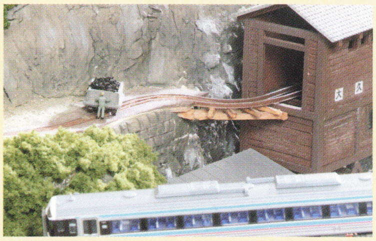
↑ガーダー橋を渡るキハ65
予土線の江川崎駅、予讃線の上灘駅周辺を参考に制作。ガーダー橋はグリーンマックス、橋脚はトミックスを加工。

←山間部を走る気動車特急
山の緑はフォーリッジクラスター。山の斜面にはガレ場や小川も再現、リアルな雰囲気にまとめている。

→レイアウトの中心・朱島（あかじま）駅
ローカル駅といっても朝夕はホームに通勤通学客の姿が…。乗客はバリエーション豊かなジオコレ。

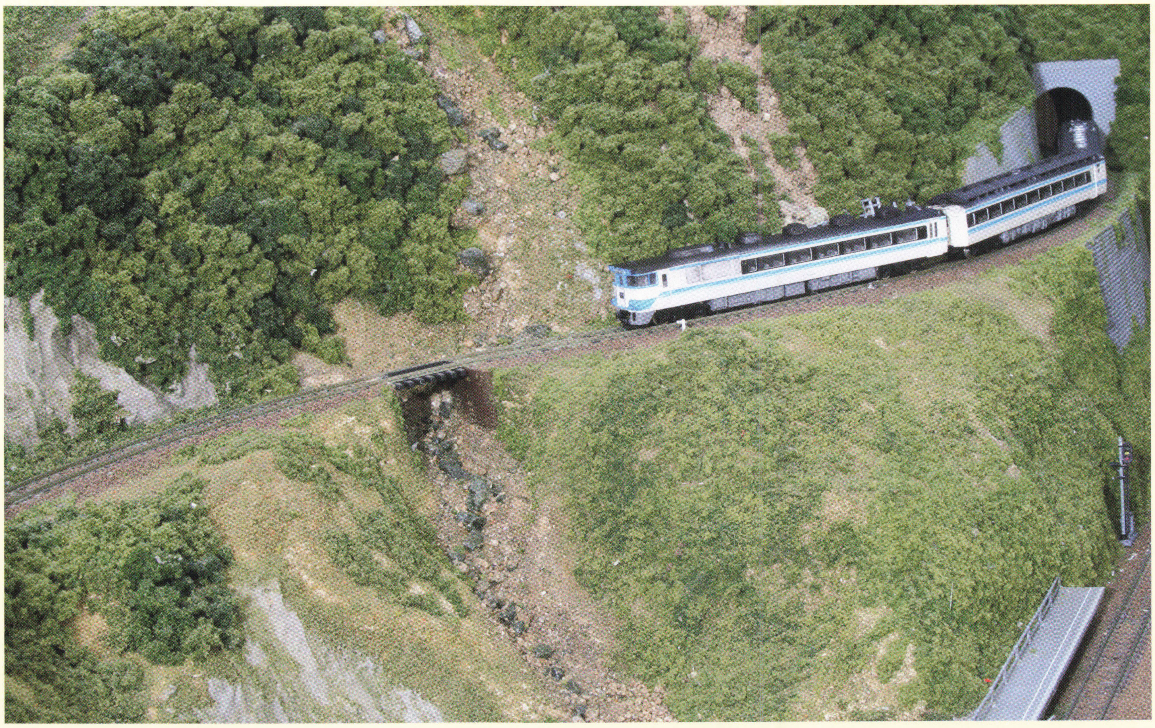
ここに注目　山間部にある大久喜（おおくき）鉱山

愛媛県は別子銅山に代表されるように鉱物資源の豊富な土地です。私のレイアウトにも大久喜という名の鉱山を作ってみました。線路は角材で作った枕木を並べ、ナローで作りました。鉱夫のおっちゃんが押すトロッコはバルサ製です。レイアウトの中央部にあるため、なかなか手が届かず、この部分の工作には苦労しました。

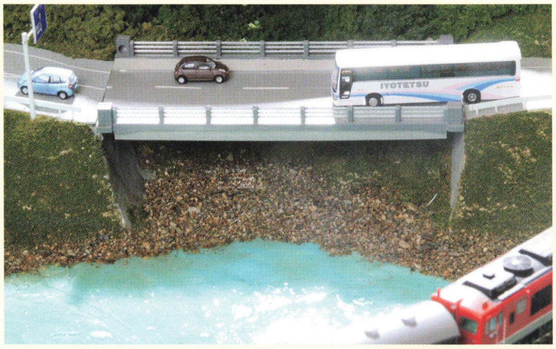


↑鉱石を積んだトロッコやホッパーが楽しい。

↑空港へのアクセス道路
山間部には小さな空港があり、そこに向かうアクセス道路。緑の斜面には梶尾鉄道のイニシャル「K」も…。



➡Sカーブのある崖沿いの線路
山の裏手に位置し、内子線の喜多山～五十崎間をモチーフにした部分。列車は編成をくねらせて走行する。小さな鉄橋は自作によるもの。



⬅川を渡らない橋
川が蛇行、対岸のえぐれ部分を道路は橋で跨いでいる。橋はグリーンマックスの製品利用。

➡上流部の川
上流部は水量が少ないので、大きな水面を作らずに庭で集めた小石を敷き詰めて表現した。

ここに注目 夜景も楽しめる山頂のローカル空港

私は鉄道だけでなく空港で飛行機を眺めるのも好きです。そのため、レイアウトにも「神南（かんなん）空港」という架空の空港を作りました。1日に1～2便が発着する想定のローカル空港です。それでも滑走路は広いスペースが必要なので、山の上にその一部を表現することにしました。

見せどころは滑走路やエプロンです。実際に空港を見学したり、航空雑誌などの資料を集めたりしながら作りました。標識灯はLEDを使っていますが、色によって回路に組み込む抵抗値が異なるため、一番苦労したところです。

↑滑走路にはLEDによる標識灯が設置され、夜景が楽しめる。

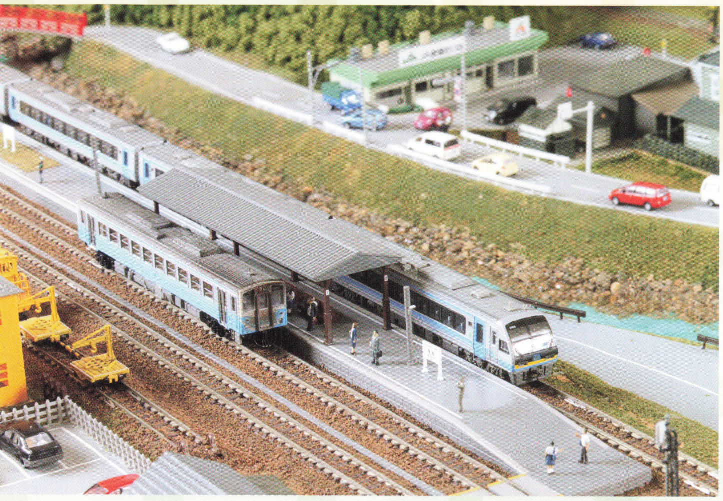
↑滑走路はパソコンの絵画ソフトで作成。

↑空港ターミナルはトミックスの詰所。

これがレイアウトの全貌だ！

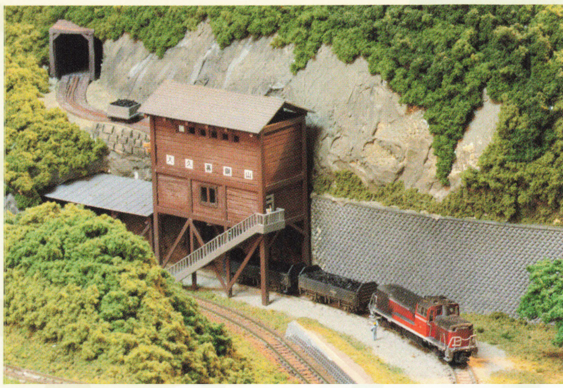
現在に生きるローカル線を精緻な観察と秀逸な工作力で

中央を横切る川を中心に、山間の小さな町を再現。線路は自然なカーブを描き、列車ものびのびと走る。道路や街並みのつながりもリアルだ。



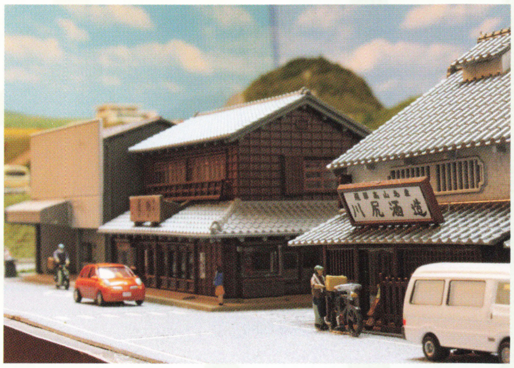
❶朱島（あかじま）駅のホーム

トミックス製ローカルホームを改造。半分は未舗装で、草もはえている。現在のローカル駅らしく、一部しか使用されないという設定。



❷大久喜（おおくき）鉱山

自宅の裏にある廃止された鉱山を参考に制作。鉱石用のホッパーは角材とバルサ材による自作だ。



❸朱島（あかじま）の集落

駅のそばに位置する集落は内子町の古い街並みをモチーフにしたもの。グリーンマックスなどの建物を小加工して配置した。

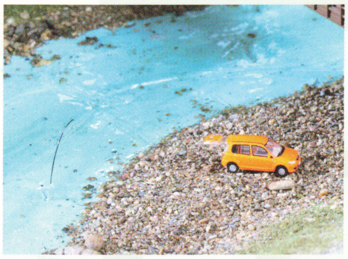
ここに注目　地方にも欠かせない携帯電話アンテナ

携帯電話の発達により、今や山間部でもアンテナが立っています。このレイアウトでも近所に立っているアンテナを参考に簡略化して再現してみました。機器室はコンテナを灰色に塗ったもの。針金でアンテナを作ってあります。

↑山腹に設置されたアンテナ。

❹JAの事業所

農業の盛んな愛媛を表現するのに欠かせない“JA”。カトー製のタウンショップを改造。車も配置してにぎやかに。



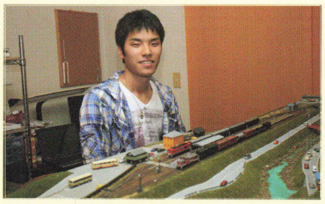
❺川原の釣り人

釣り人は人形に黒く塗った真鍮線を釣竿として持たせた。車のトランク部を開いた状態にしてあるのにも注目！

データファイル

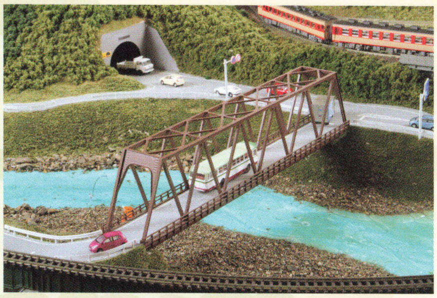
レイアウト名	梶尾鉄道 肱川本線	作　者	梶尾 太一郎
テーマ	川沿いに広がる田舎の風景	場所設定	四国の山間部
大きさ	2,500×1,600㎜	基　盤	ベニヤ板と自作の木枠
使用線路	カトーユニトラック他	制御装置	カトー＆トミックス各種
制作のべ時間	6年3ヶ月	総費用	250,000円
模型歴	12年	月にかける費用	平均10,000円
楽しむ日	月に1度の帰省の際	よく利用するお店	しおかぜ堂本舗
使用車両	JR四国2000系、キハ185系、キハ181系、キハ58系、キハ54、キハ40系、キハ32		
参考にしたもの	「日本と世界の鉄道模型カタログ」や航空雑誌など		

PROFILE
再現したい風景を求めドライブも楽しみです



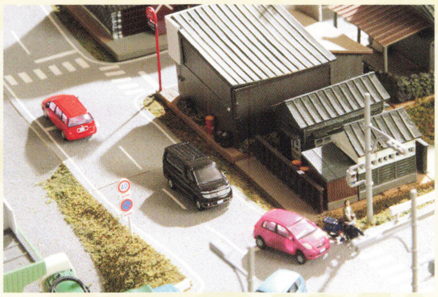
梶尾 太一郎さん　20歳　愛媛県

幼い頃から鉄道が好きで、近所にある内子線新谷駅で「しおかぜ」と「宇和海」の離合シーンを見るのが楽しみでした。Nゲージを知ってからレイアウトでの再現を夢見つつ、3度目のリニューアルでようやく完成しました。



❻肱川に架かる道路橋

トミックス製のトラス鉄橋を利用、路線バスが走行中。制作に一番こだわった場所でもある。

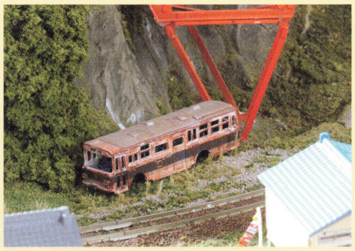


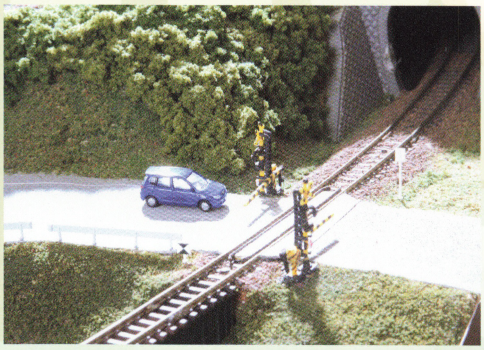
❼街中の道路

センターラインなどは、道路と一体の塗装表現なので経年劣化による剥がれの心配はない。

ここに注目 鉄橋下には捨てられた廃車バス

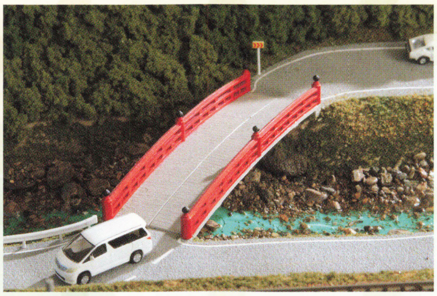
廃車となったバスを倉庫として活用する例はよくあるが、いつしか朽ち果ててしまう…。そんな情景を作ってみました。実はブラインドパッケージで入手してしまった不要の製品の活用アイデアです。窓ガラスを外し、きつめにウェザリングすれば完成です。





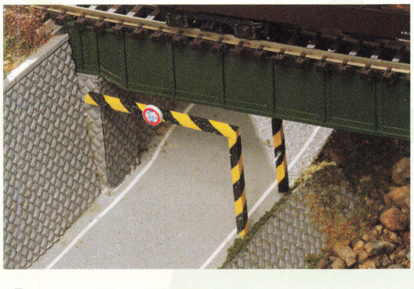
❽踏切

道路標識を表現するため、白く塗った厚紙に道路の色を塗っていくという作者の手法で一番苦労するのが踏切部分。



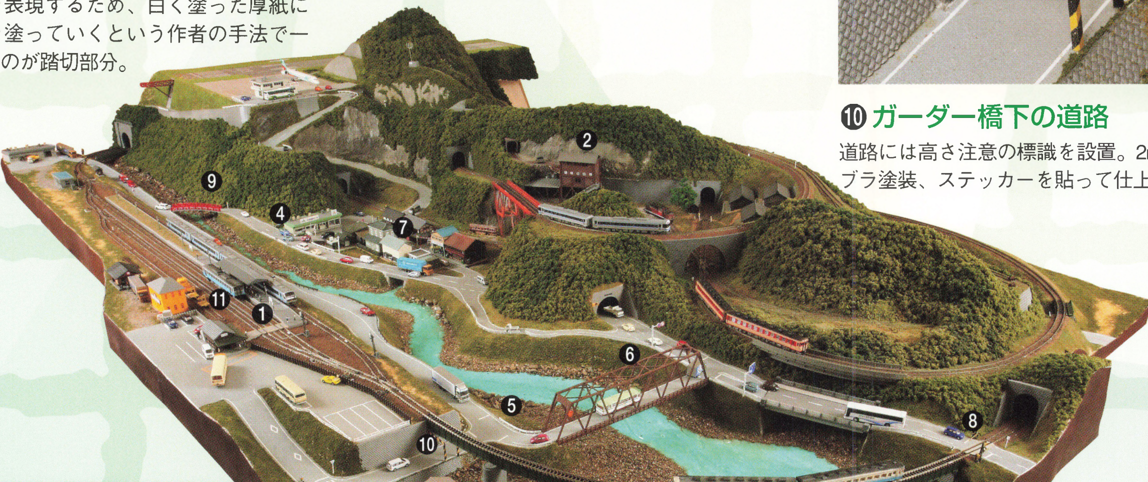
❾赤い太鼓橋

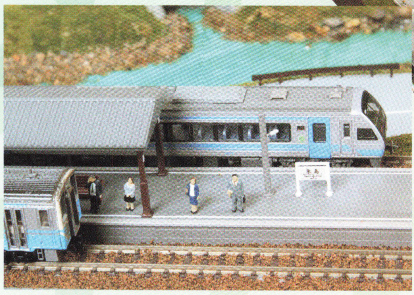
グリーンマックスの製品を利用。レイアウトに変化を付けたかったため、欄干を赤に塗った。



❿ガーダー橋下の道路

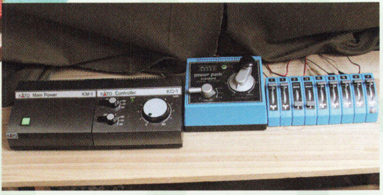
道路には高さ注意の標識を設置。2㎜角材をゼブラ塗装、ステッカーを貼って仕上げた。





⓫朱島（あかじま）駅に停車中の列車

島式ホーム1本に留置線という規模だが、ローカル線では十二分な拠点駅となっている。



ポイント制御器は表裏に設置

中央の山が大きく反対側が見えないため、ポイント制御器は表裏に分けて設置。

レイアウトのテーマ

日本の四季を表現

春夏秋冬、四季の移り変わりのある日本。同じ場所であったとしても、それぞれの季節に魅力的な情景が現れる。季節感をレイアウトに盛り込んでみよう。

レイアウトでよく表現される季節は、桜や菜の花をはじめ多彩な花が咲き誇る「春」、そして田畑では実りを受け、山は紅葉色に染まる「秋」が多い。いずれも特徴をつかみ易いため、多くのモデラーのターゲットとなっていると思われるが、その対極となる「夏」や「冬」も魅力的だ。実物の季節の移ろいをよく観察しながら作ってみたい。

↑春を告げる桜は日本人にもっとも愛されている花だろう。

↑夏は海辺のにぎわいでも表現できるが、初夏の緑も美しく再現したい。

↑田畑が黄金色に染まる実りの秋。緑が残る初秋のころも面白そうだ。

↑冬は北国に降る雪が象徴的だ。その質感をどう表現するか悩まされる。

⇧日本の秋に欠かせない柿の木
近所の公園で拾った枯れ枝に、実となる朱色の粒（模型用製品）をひとつずつ接着した労作だ。

四季の里鉄道

分割式のセクションレイアウト。セクションごとに四季のエッセンスを盛り込み、さまざまな季節の情景を楽しめるのがポイントだ。

制作：宮越 洋司

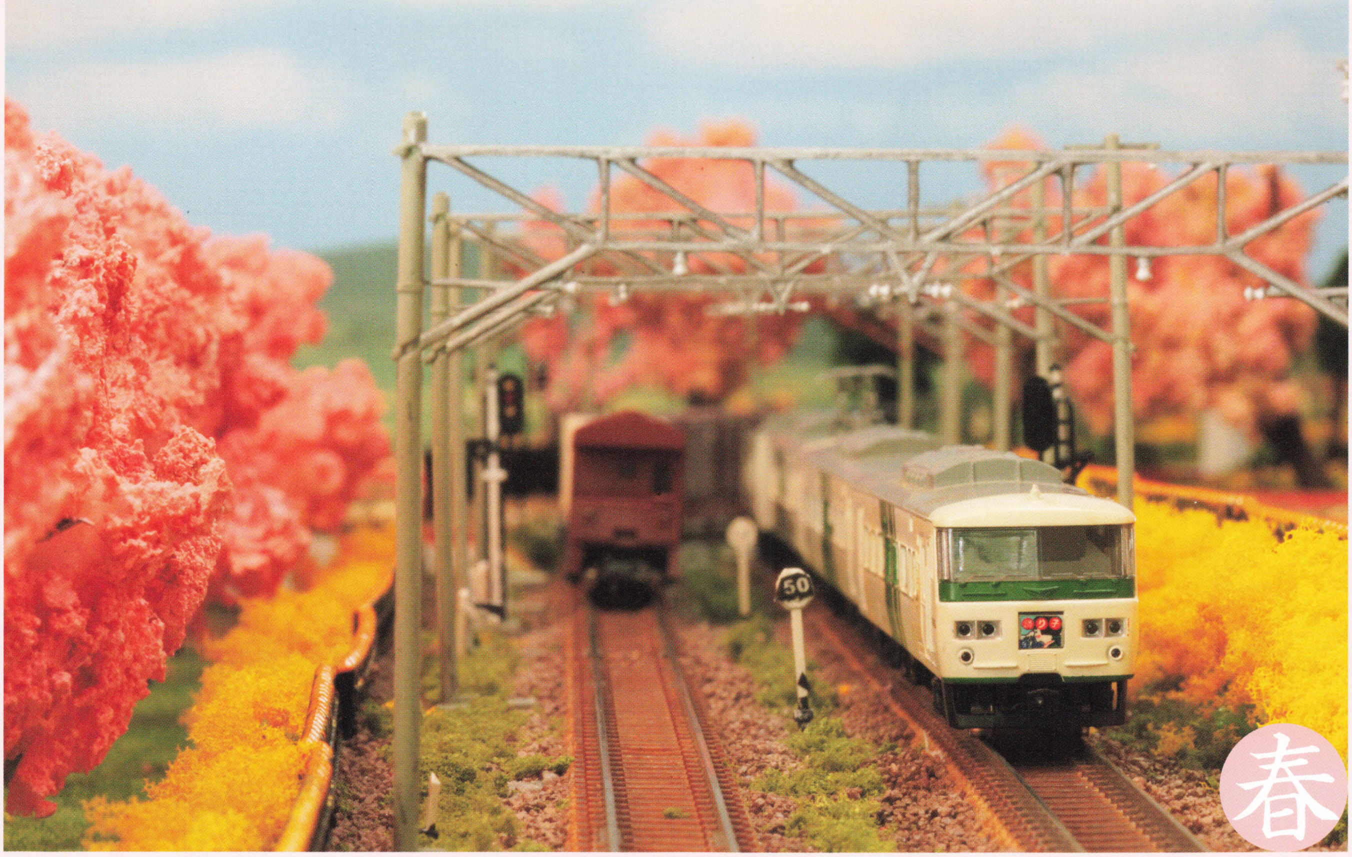
レイアウトの大きさ	2,100×1,500㎜ (450+1,200+450) × (450+600+450)
使用線路	トミックス
制作のべ期間	7ヶ月

転勤族という制約から セクション方式を採用

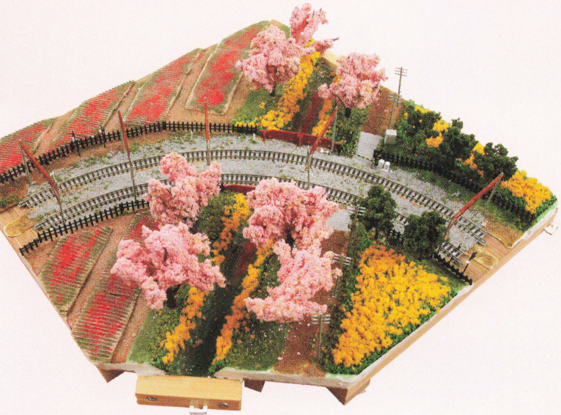
私は仕事柄いわゆる“転勤族”です。赴任地は遠方となるため、すでに13回も転居を重ねてきました。一方、レイアウトへの夢は捨てがたく、長年、どうしたものかと悩んで来ました。あるとき、トミックスのレイアウトプラン集にあったコンビネーションボードを使ったセクションレイアウトを発見。「これなら私でも実現可能だ！」とレイアウトづくりに着手したのです。

といっても、このサイズでも転居は大変。初期に作った駅や車両基地のセクションは、そのまま20年近く実家の屋根裏にしまったままとなっていました。今回、ようやく一所に落ち着けそうになったので、実家からこれを引き取り、久しぶりに通電してみると、ポイントはもちろん、列車もちゃんと走り、その優秀さを改めて思い知らされたのです。

これをきっかけに新たなレイアウト整備を開始。従来のセクションに続くものは、長年温めていた日本の四季を盛り込んだものとしました。春は「桜」、夏は「海岸の小山と岩礁」、秋は「参道の鳥居と祭りの幟」、冬は「田んぼに積み上げられた稲穂の束」とそれぞれイメージを固め、ひとつ1ヶ月ほどの工作で仕上げていきました。ようやく四季を走る鉄道が完成したのです。



↑春をテーマにした桜堰のセクション
旅行会社のパンフレット写真を参考に、桜堤、線路沿いの菜の花、そしてレンゲ草などを作り込んだ。



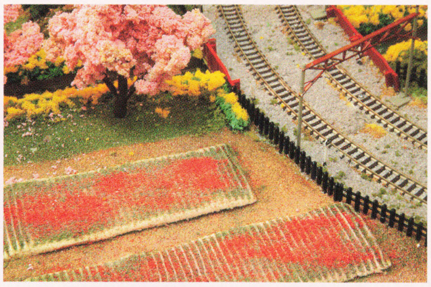
↑桜並木のある小川を中央にレンゲと菜の花で春を演出した450×450㎜のコーナーセクション。

① 色鮮やかな花を咲かせ、春爛漫を再現

春をテーマとして
2つのセクションを制作

子供の頃に親戚一同が集まったお花見を思い浮かべながら作りました。昔の桜はこんな感じで重たそうに枝いっぱいに花を咲かせていたような気がします。桜は白いスポンジをピンク色に染めたもの、ここに黄色の菜の花、赤のレンゲ草をあしらい、一目で春とわかる見栄えのする風景になっていると思います。ただ、個人的には「コーナー」より「桜堤」の桜の方がよくできたと思います。なお、人工物はこの風景に合わせるのが難しいと考え、できるだけ排除しました。

↑桜並木に包まれた小川を通過中の特急「踊り子」号。春の風景に白と緑の車体がよく似合う。



↑畑は紙粘土を薄く延ばし、巻き簾で畝を作ったもの。色を塗ってからパウダーを撒いて草花を表現。

↑踏切は製品を使用。踏み板はうまく作らないと運転性能に関わるため、今後の課題となっている。

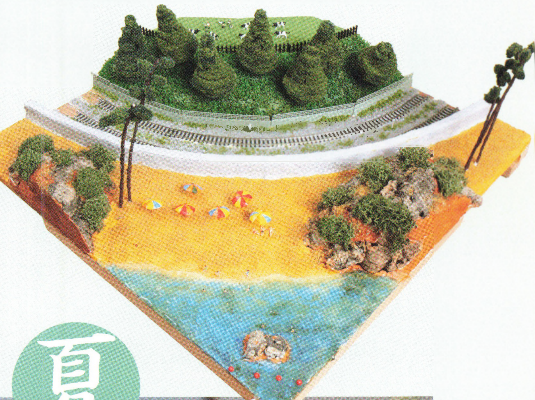
② 真夏の感じを出すため、砂浜と海の表現に苦心

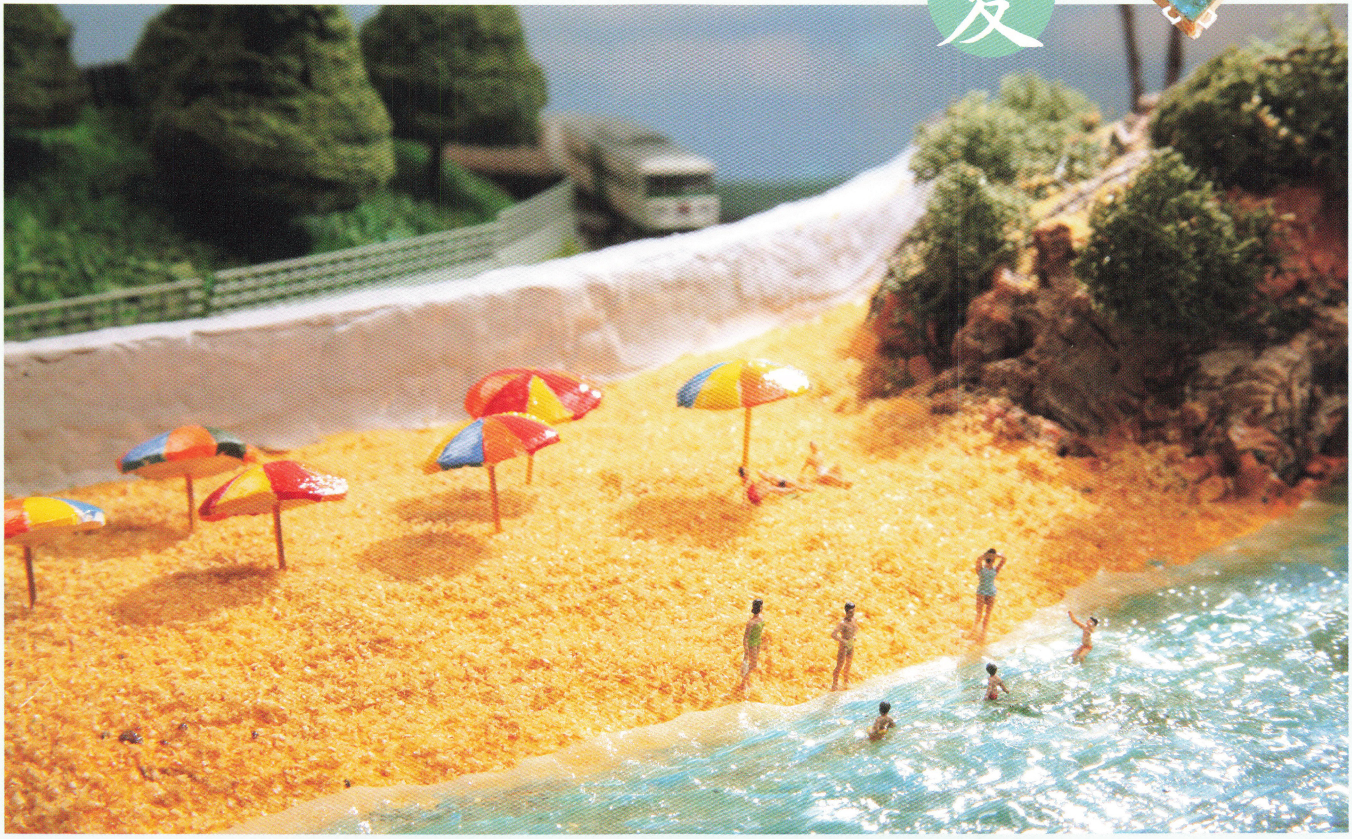
夏と海をテーマにしたコーナーセクション

四季のなかでテーマの選択に苦労したのが、夏です。いろいろ検討しましたが、海岸で遊ぶ子供とそれを見守る親といった、夏の浜辺風景を再現することにしました。カーブの内側の処理も迷いましたが、最後に丘と牧場になりました。

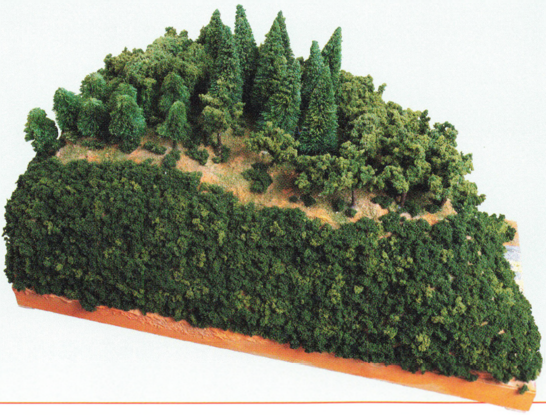
このセクションは制作面でも苦労しました。特に海の青い透明感を出すのは難しかったです。人形は予算の都合で少なめですが、もっと海水浴を楽しむ人物がいれば、にぎやかに夏らしい風景になったのではと思います。もっとも、これでも十分、子供の歓声が聞こえてきそうです。

↓夏の情景は450×450㎜のコーナーセクションに再現。海岸は砂浜だけでなく、岩礁地帯を作った。





⇧ビーチパラソルの並ぶ砂浜　砂浜はカラーパウダーを撒き、海はカトーのEZウォーターで表現。子供の歓声が聞こえてきそうだ。



→夏の情景はコーナーセクションだけでなく、300×600㎜の夏の山もある。山頂付近の杉は既製品に緑色のパウダーを振りかけたもの。ほかの木々はすべて自作。

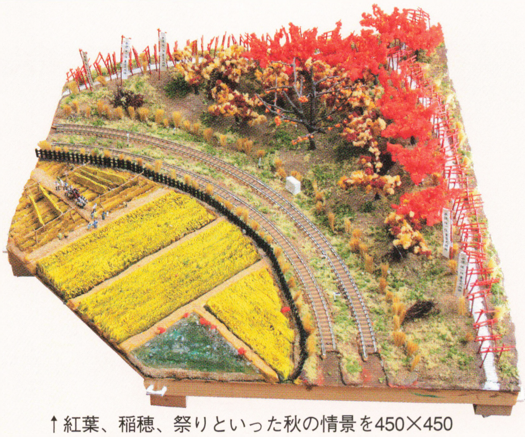
↑海を作ったコーナーセクションのカーブの内側は牧場。乳牛と共に農家の人がくつろいでいる。

③ 実りの秋のイメージは娘さんの好きな映画から

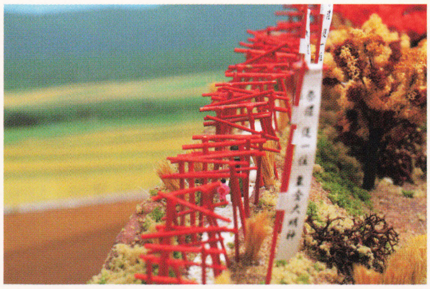
映画「バッテリー」の舞台を再現したコーナーセクション

紅葉、稲穂、祭りと、ひとつでも秋を表現できるのに、全部を取り入れた贅沢な風景です。作る手間はかかりましたが、でき上がりは予想以上で、気に入っているセクションです。

この情景のイメージは、娘がファンとなっている林遣都さんの主演映画『バッテリー』から得ています。以前、倉敷で行なわれた握手会に家族で出かけ、劇中では新田神社となった岡山県の粟倉神社などロケ地の見学もしてきました。このセクションには、このとき、車窓から眺めた情景を盛り込んで構成しています。粟倉大明神という名もここから拝借しました。

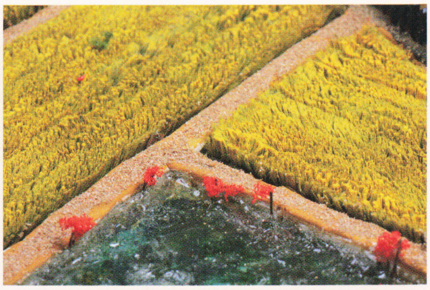


↑紅葉、稲穂、祭りといった秋の情景を450×450㎜のスペースに盛り込んだコーナーセクション。

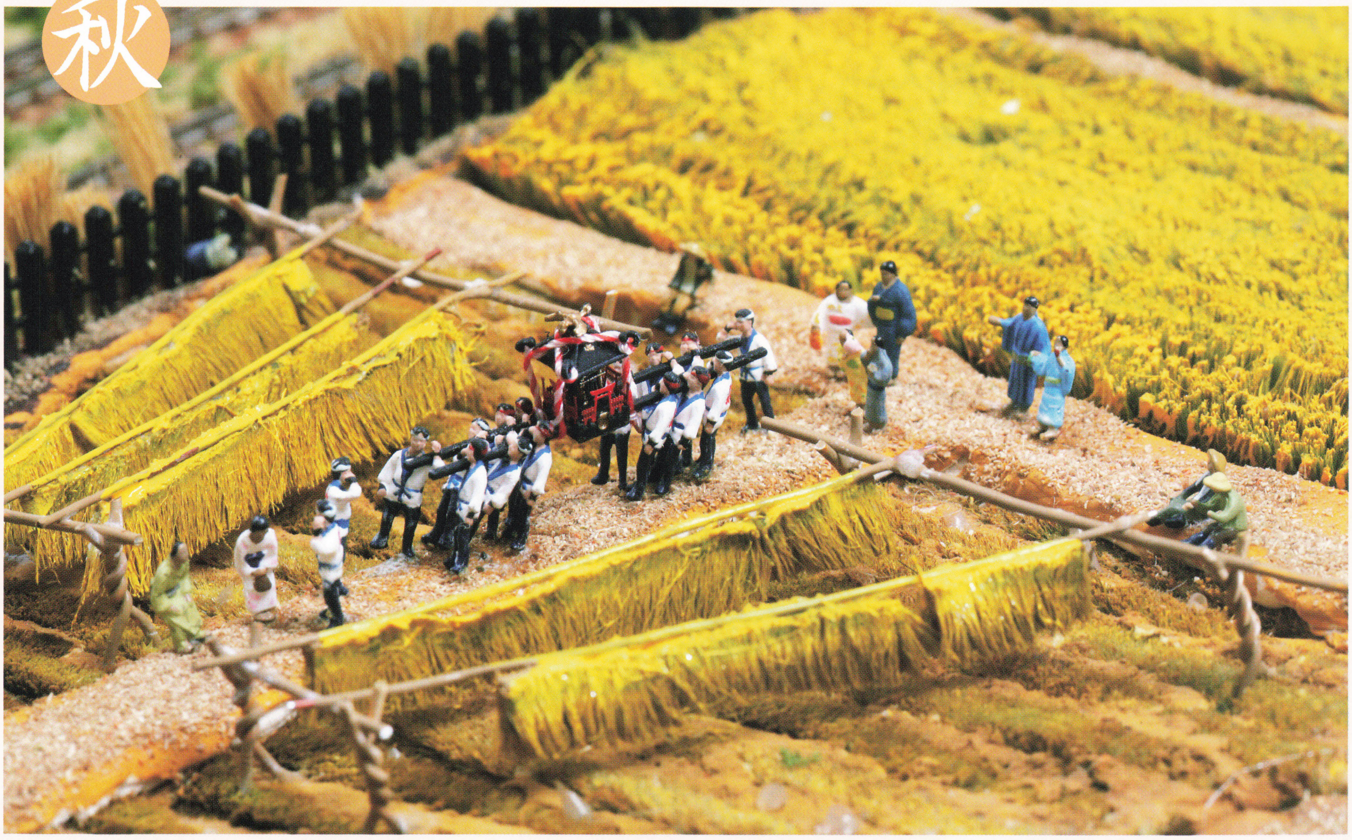


↑粟倉大明神への参道。鳥居や幟の棹はイグサ製。質感は最高だが、折れやすいので苦労したという。

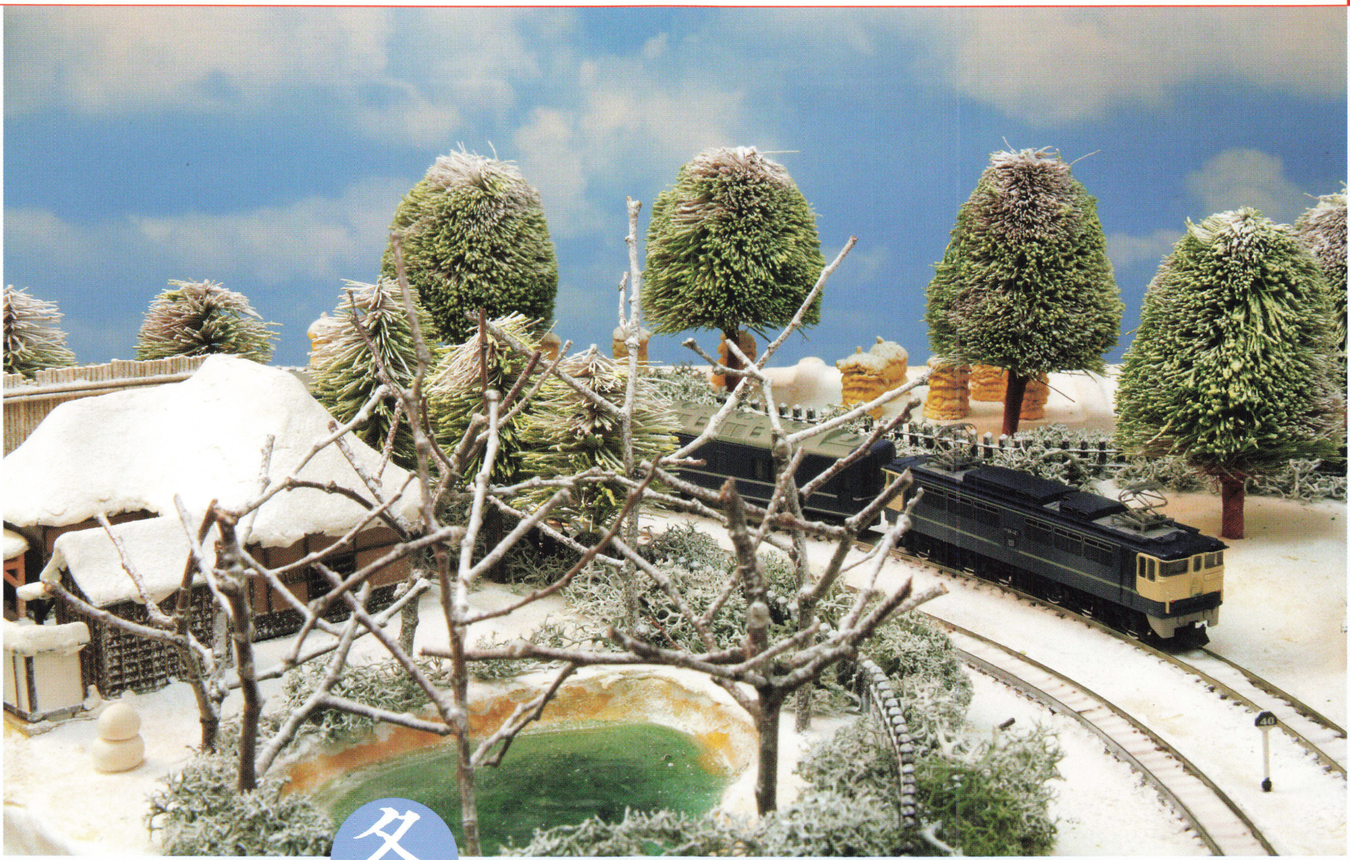
↑柿の木は、たわわに実る朱色の実が印象的。幹は枯れ枝の組み合わせ。自然な枝振りで風景にマッチ。



↑収穫後と収穫間近の田んぼ、休耕田も作り分け。田んぼの隅の赤い彼岸花も秋らしさを盛り上げる。

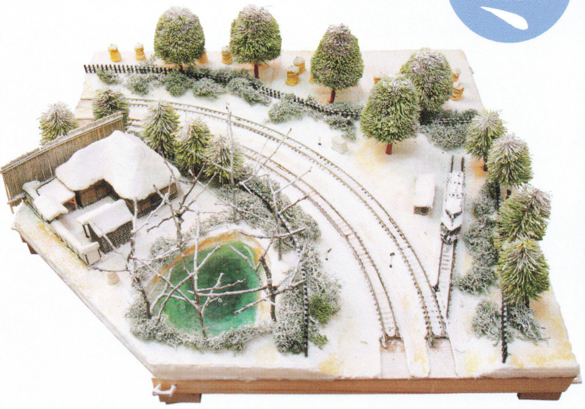


↑秋祭りの神輿　豊作となった田んぼの中を行く、神輿の風景。祭囃子も聞こえてきそうだ。干した稲穂にも注目。



冬

↑雪国を走るEF65牽引のブルトレ
作者は「実際に乗って車窓から眺めたい景色」という。白い世界にエメラルドグリーンの池が印象的。



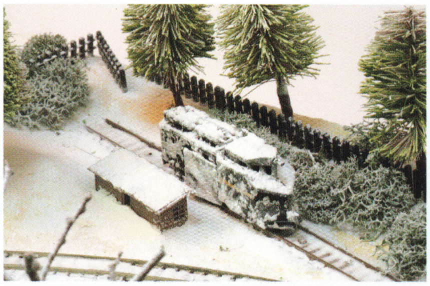
↑雪景色を再現した450×450mmのコーナーセクション。農家や池が変化のある情景を作っている。

④ 深閑とした降雪直後の雪景色で日本の冬を表現

白い世界の中に映える エメラルドグリーンの池

一面が白い世界となった、冬の景色です。ここに、わらぶき農家、池、田んぼ、ラッセル車、杉の木をあしらいました。冬なのに凍らない緑色の池、最初は白くして氷を張らそうかと思いましたが、白いだけの世界よりも、この池の方が雪の白さをより印象付けると思い、そのままにしました。

雪は、以前プラ模型のジオラマで使用していた「タルク」で表現しています。また、積み上げた稲穂はトミックスのレイアウトプラン集に掲載されているものを参考にしました。



↑引込み線ではラッセル車が待機。車体にまとわりついた雪が北国の厳しい気候を伝えてくれる。

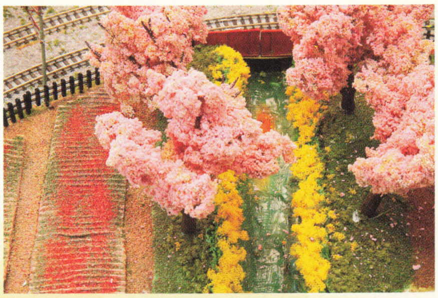
↑タワシで作った杉の木、紙粘土製の干した稲穂が雪原に変化を与える。稲穂の干し方も様々ある。

↑農家は岩手県などで見られる曲がり屋。これは塀がこいと共に製品利用。屋根に雪を積もらせてある。

このレイアウトの全貌を見てみよう

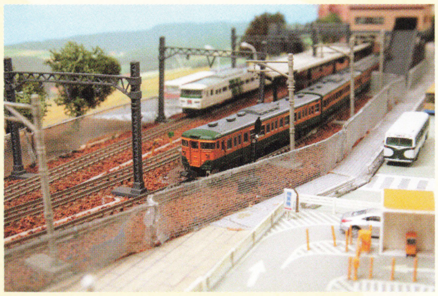
日本の四季の情景を各セクションに盛り込んだ

仕事の都合で転勤が多いという作者。しかし、セクションレイアウトであれば転居にも対応可能と考え、四季をテーマにひとつずつ制作してきた。



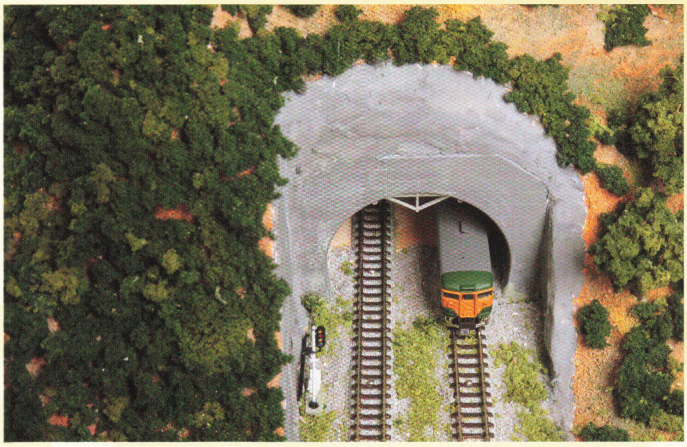
❶桜並木の小川

子供の頃のお花見を思い浮かべながら作成した情景という。咲き誇った満開の桜が日本の春を表現。



❷駅まわりのフェンス

フェンスは金属線と自宅で使う網戸の余りから自作した。網戸はほつれぬよう木工用ボンドで固着。



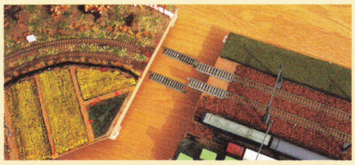
❸夏の山を抜けるトンネル

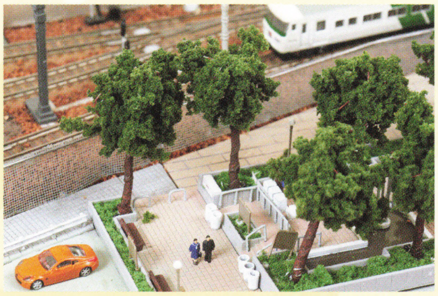
真夏のイメージで作られた山にはトンネルも作られている。車両が見えなくなることで、運転にも変化がついて楽しい。

ここに注目

分割式レイアウトは接続部が重要

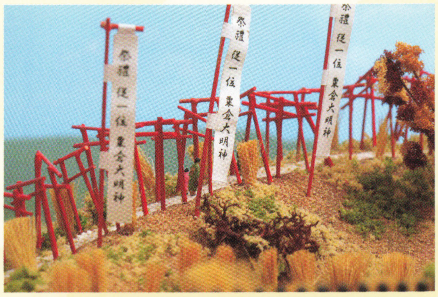
接続は普通の直線線路（S72.5）を使用。本当はバリアブルレールを使ったほうが微調整も効いてよいのですが、かなり高額なので我慢しています。





❹既製品利用の公園

高校生カップルがデート、サラリーマンがベンチで昼休み。このレイアウトでは数少ない製品利用。



❺粟倉大明神への参道

神社の名は娘さんの好きな映画『バッテリー』のロケ地にちなんだもの。鳥居と幟がいい雰囲気だ。

データファイル

レイアウト名	四季の里鉄道	作　者	宮越 洋司
テーマ	日本の四季を表現	場所設定	四季折々の憧れの風景
大きさ	2,100×1,500㎜	基　盤	手作り木製ベース
使用線路	トミックス	制御装置	トミックスのニューパワーユニット
制作のべ時間	3ヶ月（駅、引込線）＋4ヶ月	総費用	約100,000円
模型歴	鉄道レイアウトは25年	月にかける費用	1,000円くらい
楽しむ日	家族のいない休日	よく利用するお店	Tam Tam相模原店、ダイソー
使用車両	EF65プルトレ、185系踊り子号、113系東海道線、DE10貨物編成、阪急電車6300系（学生の頃、京都に行くときによく乗りました）		
参考にしたもの	トミックスレイアウトプランブック、旅行会社のパンフ、秋の岡山路、遠い昔の思い出		

PROFILE

30分でも工作できればストレス解消!!

宮越 洋司さん　53歳　東京都

鉄道模型を始めて四半世紀。転勤が多いので中断の時期もあります。しかし、レイアウトを作ることはいい気分転換。30分でも集中して作業するとストレス解消になっています。なお、運転は家族が留守のときに限ります。

❻真夏のビーチ

カラフルなパラソルは紙粘土で作成。塗装後、クリア塗料で、ビニールの質感を表現している。

❼貨物駅のトラック

四半世紀前に作った貨物駅をイメージしたセクション。

❽雪だるま

庭先には紙粘土を丸めて作った雪だるまも置かれている。レイアウト見学者に人気のアイテムとか。

❾洗浄機

引込線に配した洗浄機が出発を待つブルトレをきれいにしている。

❿保線区

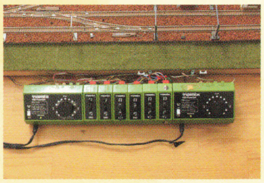
引込線の奥は保線区として、詰所と保線車両、保線職員などを配置。

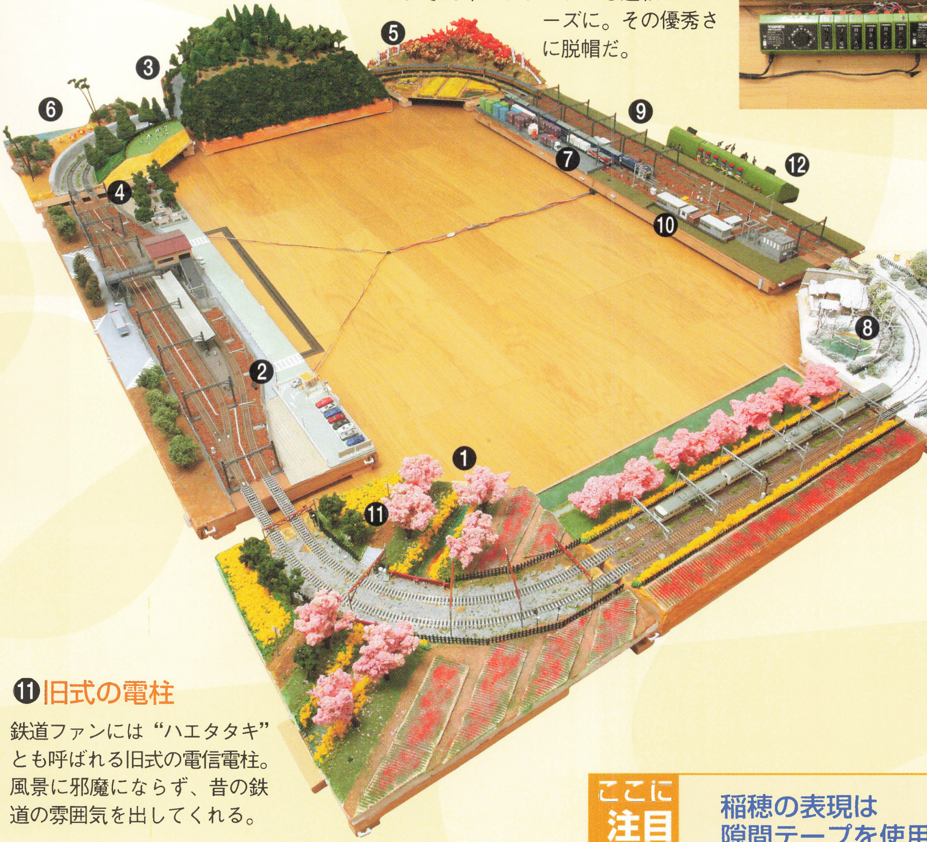
⓫旧式の電柱

鉄道ファンには“ハエタタキ”とも呼ばれる旧式の電信電柱。風景に邪魔にならず、昔の鉄道の雰囲気を出してくれる。

⓬制御装置

およそ20年のブランクにも運転はスムーズに。その優秀さに脱帽だ。





ここに注目

埃対策も考慮した収納方法

セクションは、3畳の納戸に専用棚を作り、分割した状態で収納しています。

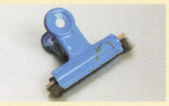
埃除けはゴミ袋をかぶせていますが、細部を壊さぬよう2㎜角の角材を枠にしているのがポイントです。

セクション台枠に電気コードを固定するステープラを打ち、そこに2㎜角材をX形に掛け、ゴミ袋をかぶせて棚に収納。

ここに注目

稲穂の表現は隙間テープを使用

稲穂は隙間テープを絵の具で黄色に染めて使用。そのまま並べて貼り付ければ田んぼが完成。干している稲穂は、隙間テープの粘着部に爪楊枝を付け、まっすぐした状態にしてから目玉クリップで固定。ここで先の部分をボンドで固め、棹となる針金を付けて表現。

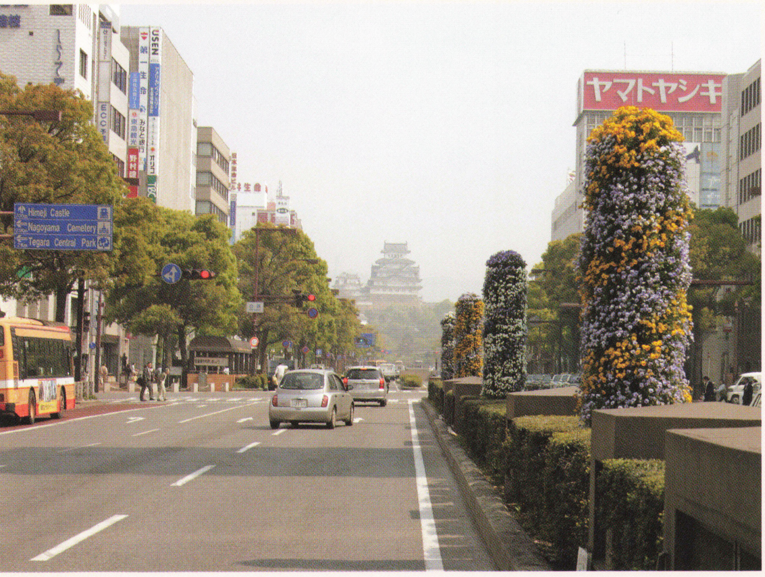


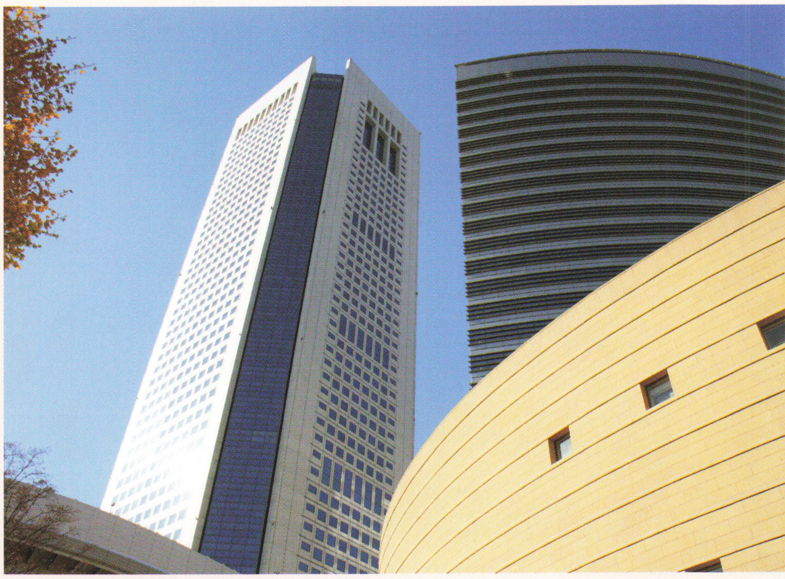
レイアウトのテーマ

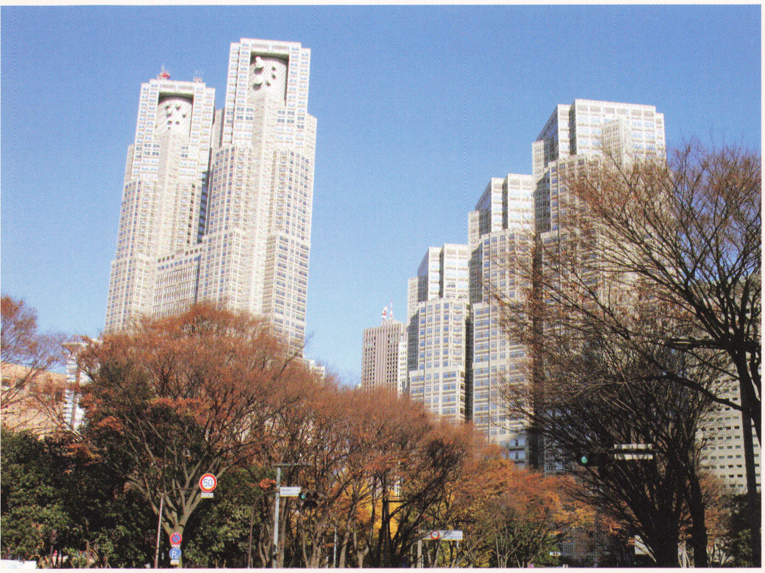
都市の日常を再現する

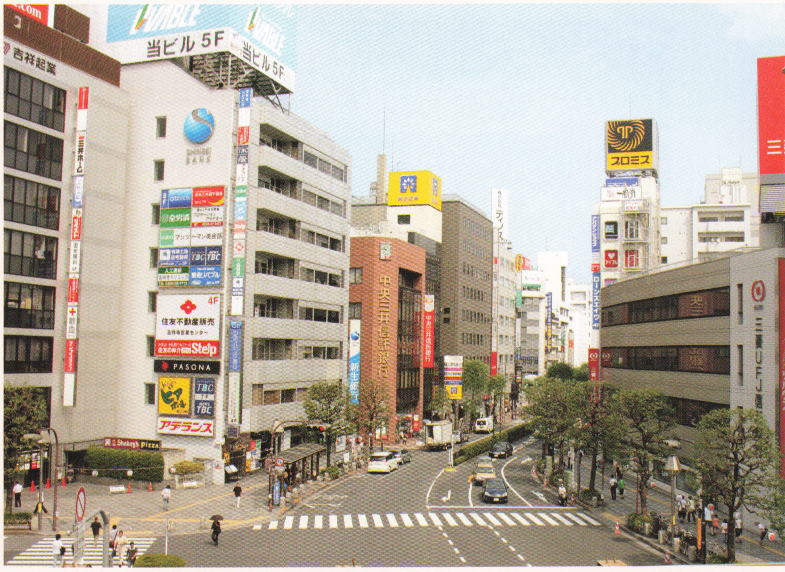
通勤電車の走るレイアウトでは都市の情景も欠かせない。近代的な高層ビル、大勢の人々でにぎわう繁華街など、制作は大変だが挑戦したくなるテーマだ。

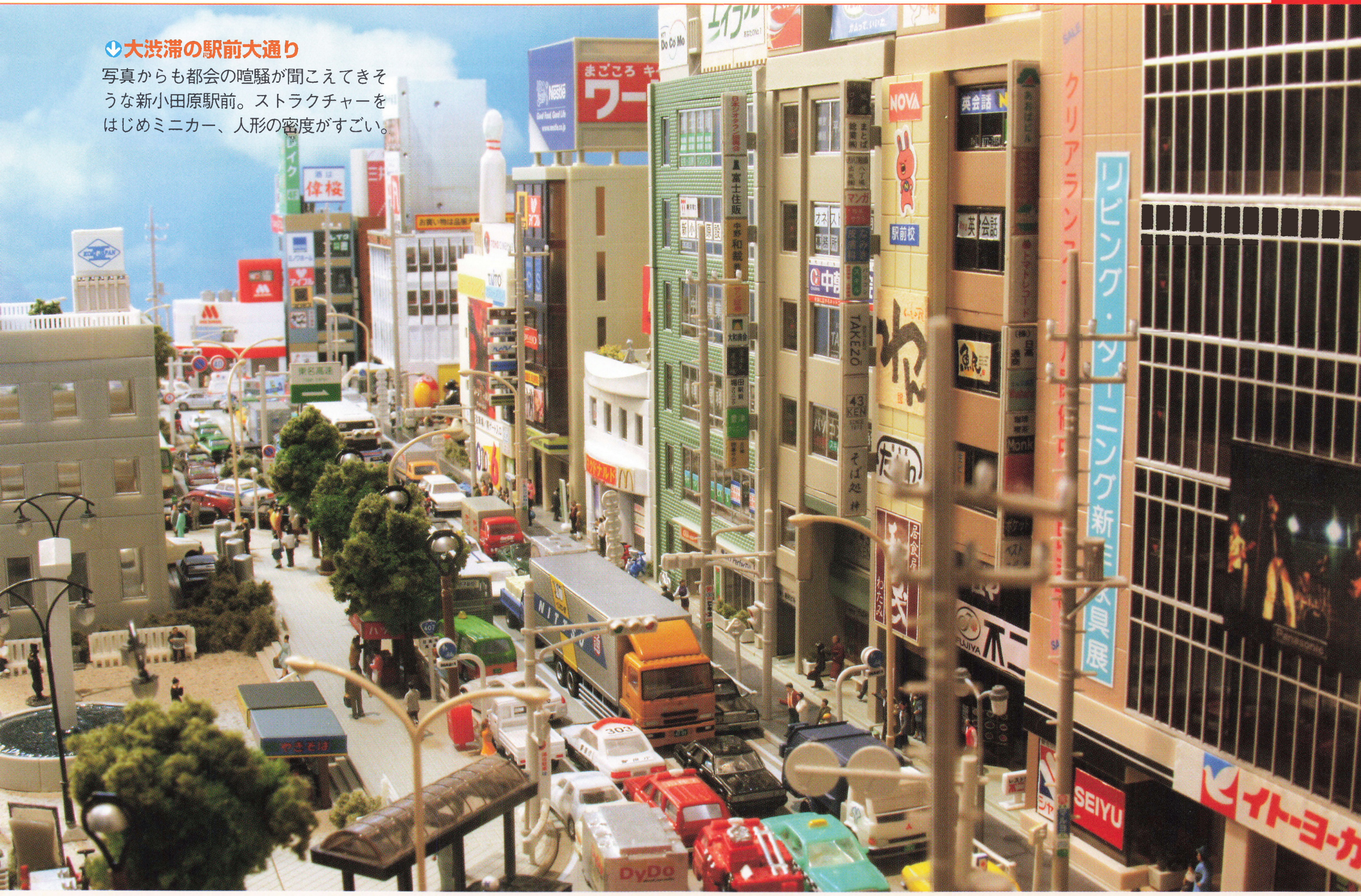
巨大な都市をそのままレイアウトに作ることはできない。いかにその特徴を捉え、それらしい雰囲気を再現していくかがポイントとなる。高層ビルの建ち並ぶところでは、街路樹や公園などの組み合わせも重要だ。繁華街ではごちゃごちゃとした看板や広告塔が雰囲気を盛り上げる。活気ある都市にするならミニカーや人形も欠かせない。


↑姫路の駅前大通り。正面には姫路城がそびえ、並木道も美しい。


↑西新宿の東京オペラシティタワー。シンプルなデザインの高層ビルだ。


↑新宿中央公園から望む東京都庁。公園は都市のオアシスだ。


↑中央線吉祥寺駅の北口。大小のビルが並び、看板などがうるさいぐらいだ。



大渋滞の駅前大通り
写真からも都会の喧騒が聞こえてきそうな新小田原駅前。ストラクチャーをはじめミニカー、人形の密度がすごい。

怒濤の新小田原駅前風景

フロアー運転に使う前提で制作を開始した駅前セクション。細部に至るまでこだわりと情熱を注ぎ、臨場感にあふれる情景が誕生した。

制作：夏目 貴央

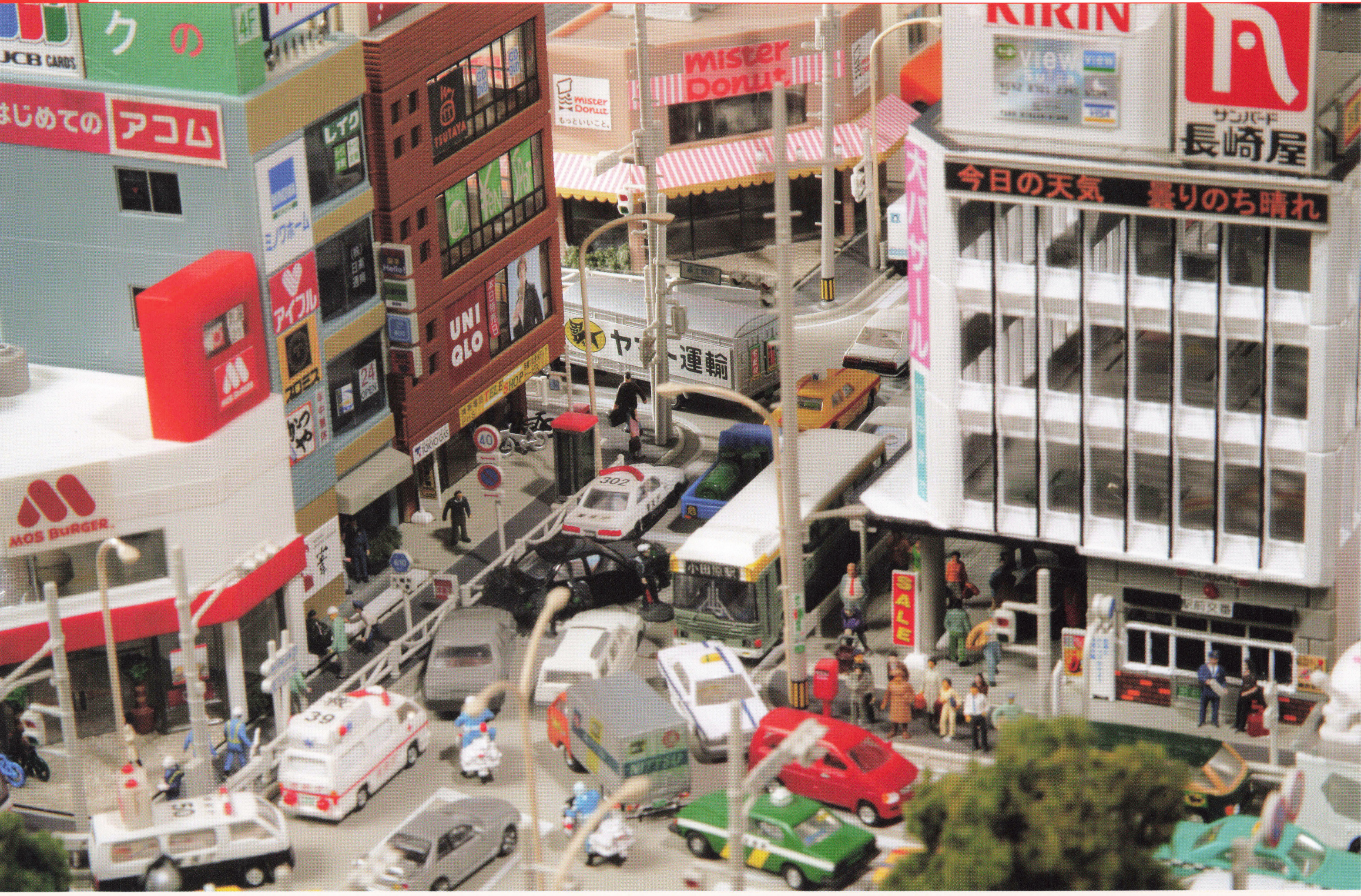
セクションの大きさ	1,300×500mm
制作のべ期間	6年

好きだった都会の情景をボード上に再現

子供のころから床に直接線路を敷く“フロアー運転”でNゲージを楽しんでいましたが、やはり線路だけではさびしい感じです。実は子供のころから車両よりストラクチャーに興味があり、ストラクチャーもかなり集めていました。しかし、フロアー運転のたびにストラクチャーを並べるのは面倒で、駅前だけでもボード上にまとめようと考えたのが、「新小田原駅前風景」の始まりです。

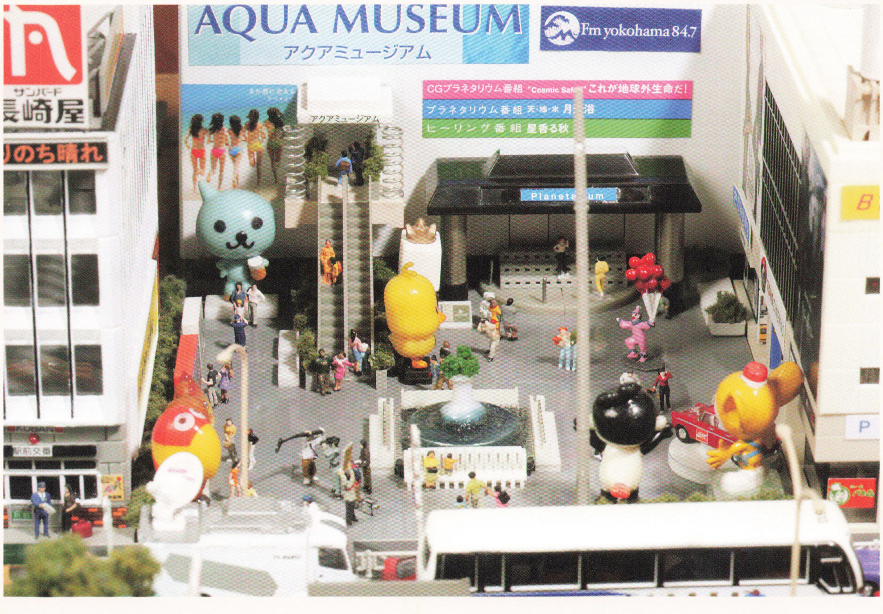
新小田原と銘打っていますが、これは自分の住まいが小田原にあるためで、地元の情景そのものを再現しようと考えたわけではありません。私は仕事の都合で出張が多く、あちこちの都市を歩いてきました。そこで見た風景を参考にしつつ、自分のイメージで架空の新小田原という大都市の駅前風景を構築しています。

また、昨今の豊富なストラクチャーやミニカーといった製品群も新小田原駅前風景の制作に向かう情熱に火をつけてくれました。これらの製品の入手に際してはペアーハンズさんなどショップに大変お世話になり、深く感謝しています。



⇧大渋滞の原因は交通事故
駅前大通りで事故が発生。警察も駆けつけ、事後処理に当たるが、渋滞はひどくなるばかり。

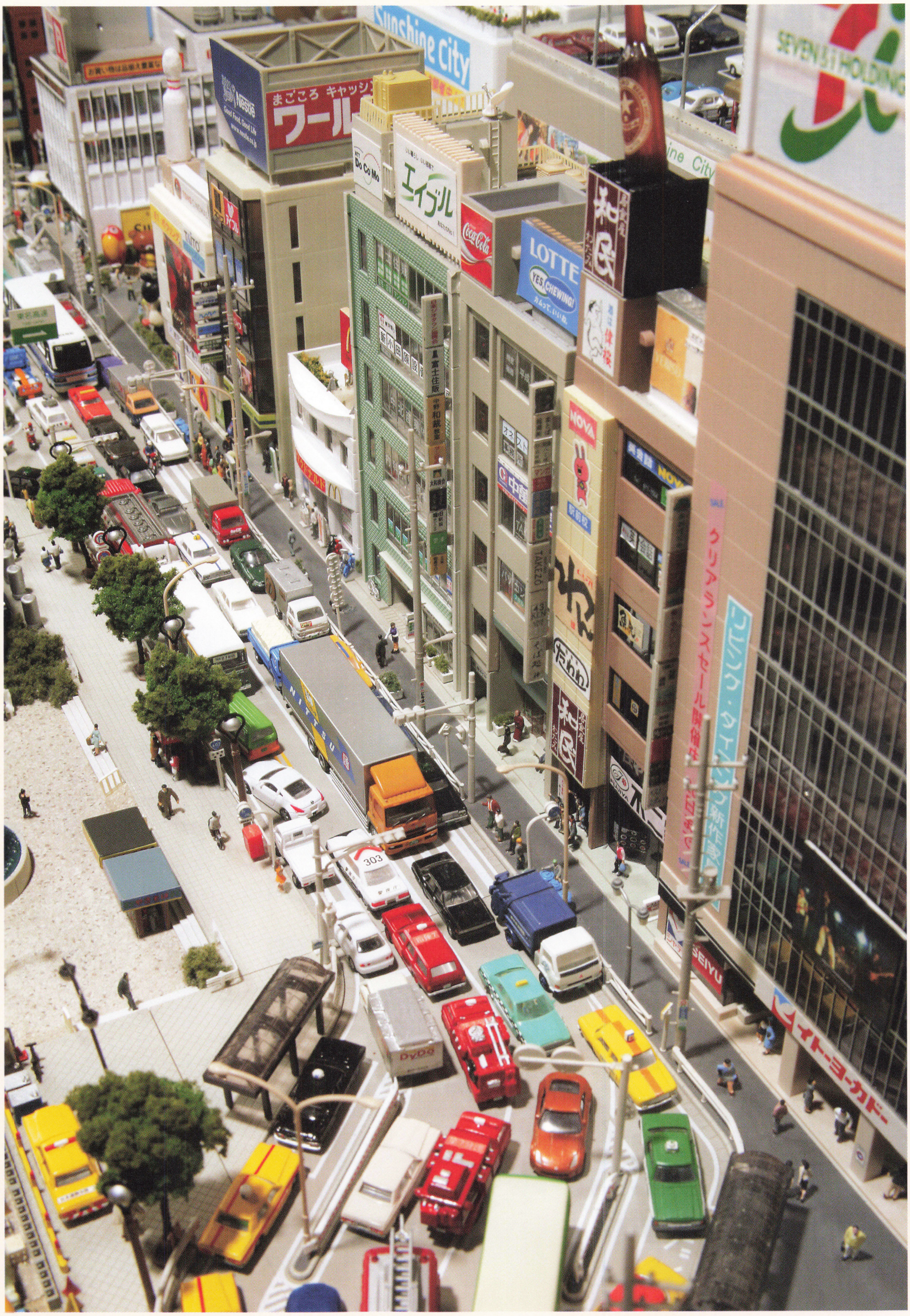
⇩ショッピングセンター前の広場
広場ではファミリー向けのイベントを開催。キャラクターは飲料などのおまけグッズを使用。


AQUA MUSEUM
アクアミュージアム
Fm yokohama 84.7
Planetarium
長崎屋

細部に至るまで臨場感を高める工夫をこらす

この「新小田原駅前風景」は、1,300×500㎜というボード上に制作しました。自分にとって手ごろな大きさだったこともあり、制作には一切妥協しない方針で作り込みました。

例えば、ストラクチャーやミニカーなどは豊富な製品を活用していますが、そのまま使わずに必ず一手間加えています。配置も重要で、人形のひとりひとりに至るまで、それぞれシチュエーションを考えながら設置しました。これによって情景の臨場感がぐっと増し、自分にとっては“芸術”とも呼べる作品に仕上がったと思っています。


Sunshine City
まごころ キャッシン
ワール
Nestlé
DoCoMo
エイブル
Coca-Cola
LOTTE
YES CHEWING!
和民
NOVA
和民
クリアランスセール開催中
リビング・タイム
SEVEN & i HOLDINGS
SEIYU
イトーヨーカドー
303
DyDo

➔ミニカーの並べ方にも注目

ミニカーは基本的に既製品利用だが、そのまま使用せずに塗装を変えたり、文字を描いたりと、細部に変化を付けるべく加工してある。並べ方も車種や色味がバラエティーに見えるよう工夫してある。

活きた情景を作るための工夫

「新小田原駅前風景」の魅力は、単に細かく作り込まれているだけでなく、それぞれの情景が臨場感にあふれ、生き生きと見える点だ。そのノウハウをチェックしてみよう。

① 人形はシチュエーションを考えて配置する

Nゲージの人形は高さ10㎜程度の小さなものです。よくできていますが、その大きさゆえ１体１体ではあまり目立つものではありません。そこで何体かをグループとして配置していくと１体ずつよりも効果的で、目が行くようになります。グループとして人形を置くとき、その人たちが何をしているのか､必ずシチュエーションを考えます。それにより人形の向きが決まってきます。対話、見物、肩を並べて歩く…。それによって臨場感が出てきます。もちろん、グループではなく、孤独な時間を楽しむ人がいても構いません。

↑ストリートミュージシャンの演奏に集まった人々。

WOWOW
SKY PerfecTV!
↑赤の他人もすれ違う形にすれば効果的。

←裏道を歩く千鳥足の酔っぱらい。日が沈むとこんな人たちも現れる。

↑公園には易者やくつろぐ人もいる。

② ミニカーは人形と連動させるとより効果的だ

ミニカーも単に道路に並べるだけでなく、人形同様にシチュエーションを考えながら配置していきます。例えば、客が乗り降りするタクシーは、道路の中央ではなく歩道に寄った位置に置きます。さらにドアを開いておくと、その意味がより明瞭に見えてきます。このほか、路線バス、工事用の車両、警察の車両なども人形とからめたシチュエーションを作りやすいと思います。これで臨場感が増してきます。

↑既製品のミニカーを改造＆塗り替えてある。

↑献血車はTV中継車を改造したもの。

↑ダーティーな雰囲気も大都会ならでは。

↑ドアが開き、乗客が乗降中のタクシー。

↑事故処理の車のそばには、たくさんの警察官が活動中。

↑バスを待つ人々。新聞を読みながら待つ人もいる。

③ 建物には看板や広告を多数掲示して雰囲気を演出

ビル街では看板や広告の掲示にも気を配りました。実物の町を観察していると、それぞれの建物に店名や事務所名を掲げた看板が必ず出ています。またビルの壁面を使った広告も多く見かけます。建物は既製品を活用していますが、こうした看板や広告を設置することで、それらしい雰囲気を演出できます。広告は雑誌や新聞チラシから切り抜いたものをカラーコピーで適当な大きさにして貼り付けています。

クリアランスセール開催中
28日まで
SEIYU

↑店名の掲示も新聞チラシなどから自作。

BIG ECHO
TOWER RECORDS
パイレーツ・オブ・カリビアン
P 地下駐車場
mother's kitchen

↑ビルの壁面には雑誌などの切り抜きで自作した広告が。

KONICA MINOLTA
Sunshine City
キャラクターフェスタ開催中！！

←ビルの名前も新聞チラシなどから自作したもの。

クリアランスセール開催中
28日まで
イトーヨーカドー
SEIYU

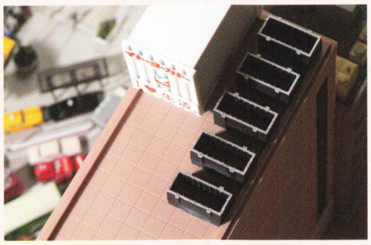
→既製品の建物も自作広告で生き生きと見えてくる。

④ 上から見る機会の多い模型では、建物の屋上表現も重要

「新小田原駅前風景」のような情景模型は、低い目線から鑑賞するとリアルに見えますが、やはり上から眺めることも多くなります。そのため、ビルの屋上にも作り込みが欠かせません。

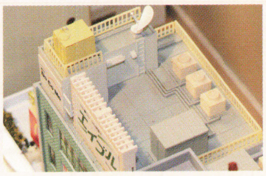
ビルの屋上にあるのは、空調装置や広告塔が一般的ですが、駐車場となっているところもあります。また、ビヤホールや遊園地なども目にします。ビルごとにシチュエーションを考え、こういったものを設置していくと、活気のある街の雰囲気が出てきます。何を作るかは観察とアイデア次第です。

屋上には駐車場（↑）や空調装置（↓）が。



Sunshine City

↑ビヤホールとした屋上。グリーンの配置も効果的だ。



←空調装置もただ並べるだけでなく、配管などを施すとよりリアルだ。

⑤ 鉄道模型用品以外にも使えるものが多い

鉄道模型用としてさまざまなパーツが販売されていますが、それ以外にも使えるものがたくさんあります。食玩、キャラクターグッズ、景品などミニチュアになっているものであれば、いろいろな使い道が考えられます。普段から使えそうなものをストックしておくと、幅広い表現が楽しめます。

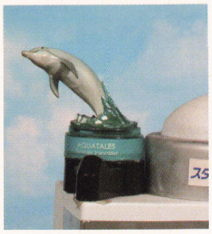
居食屋
和民
LOTTE

↑飲み屋の屋上にはビールのミニチュア瓶が。

BIG ECHO
TOHO CINEMAS
ボウリング
TAITO

↑ボーリング場の屋上にはピンが立っている。

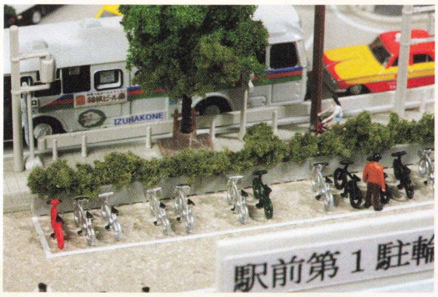
↓イルカのミニチュアは屋上水族館のシンボルに。



このセクションの全貌を見てみよう

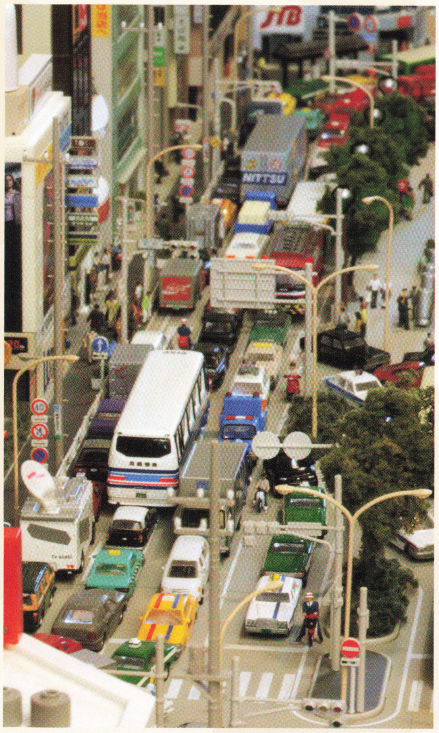
大都会の息吹が聞こえてくる新小田原駅前風景

1,300×500㎜のスペースに作られた「新小田原駅前風景」。非凡な観察力と精緻な作り込みによって生まれた情景は迫力ある臨場感で迫ってくる。



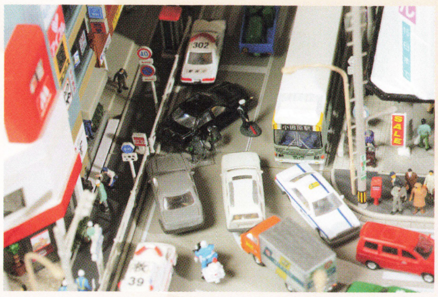
❶駅前の駐輪場

駅前の情景として欠かせない駐輪場。模型の自転車を並べただけではなく、細かい作り込みに注目。



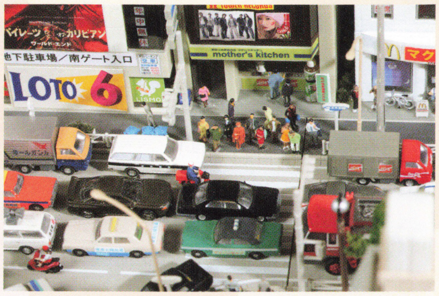
❷渋滞する駅前通り

このセクションの中心となる駅前通り。道路にさまざまなミニカーをぎっしりと配置、渋滞を演出。



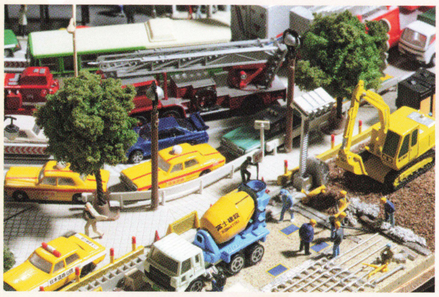
❸渋滞の原因となった事故現場

この渋滞にはちゃんとした原因が…。接触大破した自動車と事故処理に当たる警察官が見どころ。



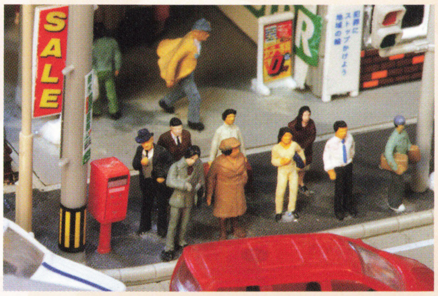
❹路駐する商用車

配達などのために、路上駐車している商用車たち。お店との関連性も考慮し、絶妙なバランスで配置。



❺駅前広場の拡張工事

コンクリートミキサー車に油圧ショベル。働く自動車を配置して工事現場の状況をリアルに再現。



❻信号を待つ人々

横断歩道の前には信号待ちの人が並ぶ。その立ちぶるまいもそれぞれシチュエーションを考えた。

データファイル

レイアウト名	怒濤の新小田原駅前風景	作　者	夏目 貴央
テーマ	大渋滞発生！！都市の日常	場所設定	小田原駅前
大きさ	1,300×500㎜	基　盤	ボード
使用線路	なし	制御装置	なし
制作のべ時間	6年	総費用	約150,000円
模型歴	約10年	月にかける費用	約3,000円
楽しむ日	いやされたい時	よく利用するお店	ポポンデッタ、ペアーハンズ
使用車両	小田急線、伊豆急線、箱根登山線、大雄山線、山手線。		
参考にしたもの	さまざまな都市風景を観察して培った自分の勘。		

PROFILE

21歳になってから情景模型の楽しさに開眼

夏目 貴央さん　27歳　神奈川県

小学生のころからNゲージを楽しんできましたが、21歳からは情景模型に熱中。家族たちは車両より情景のほうに理解を示してくれるようです。普段はギターや温泉めぐりを楽しみ、次に作るイメージを膨らませています。

❼公園前通り

公園前の通りも車でひしめきあっている。消防車に続いて、パトカーが…どこかで火事が発生か!?

ここに注目 セクションの埃よけは布をかけて対処しているが…

情景模型は埃対策に悩まされます。一応、鑑賞しないときは薄い布をかけていますが、効果的とは言いがたく、いつのまにか埃が侵入してしまいます。また、布をかけたときにディテールを壊さぬようにとコーナーに柱を立てましたが、これも鑑賞の邪魔になり、気に入りません。

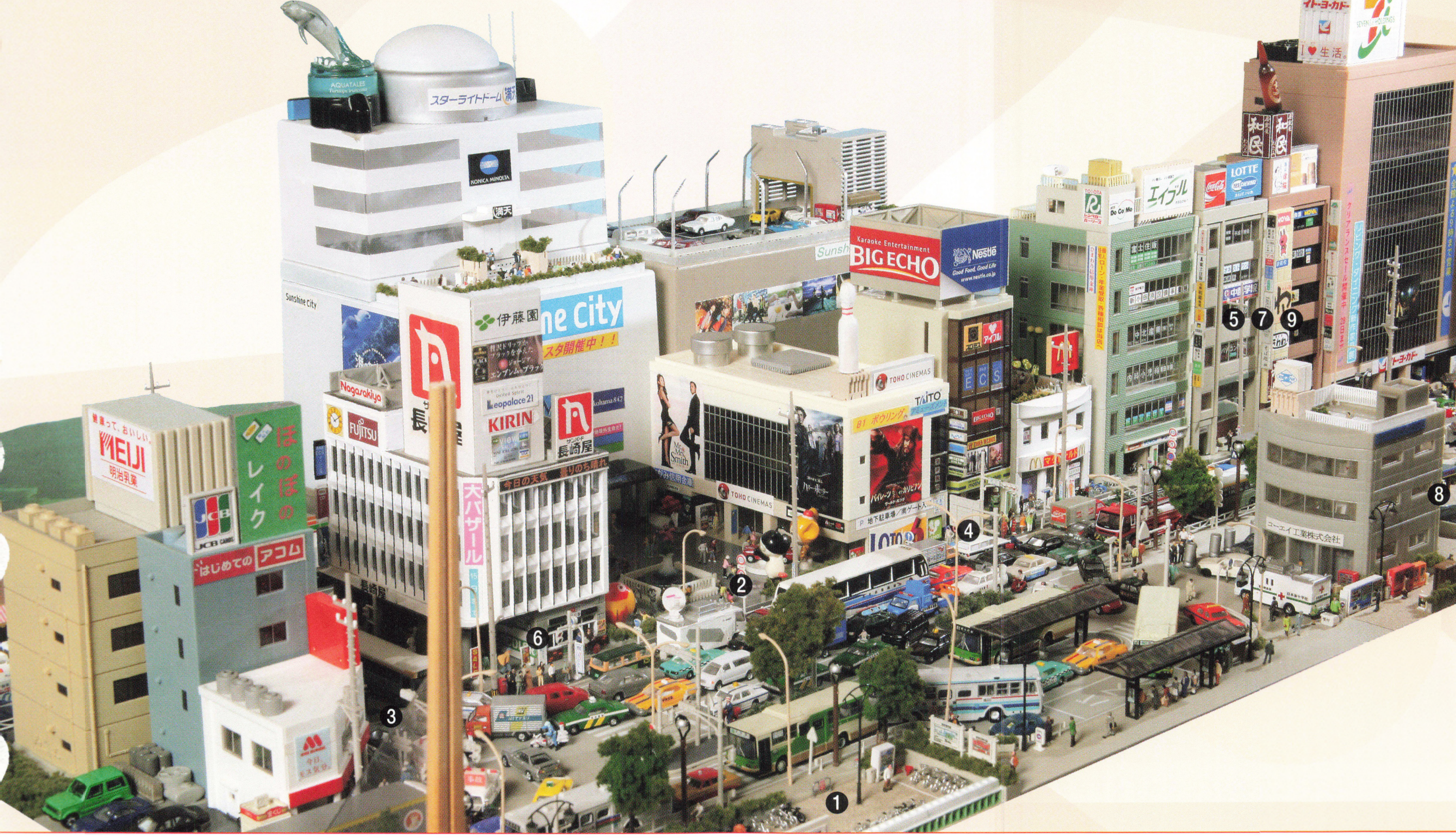
↑ふだんは布をかけて埃対策としている。

❽駅に隣接した公園

公園のベンチとなっているのは作者の本職である電子部品を利用したもの。ほかにも使われている。

❾二次会に向かう人々

居酒屋の出入り口には、二次会へ向かう人々。ゴミ収集作業中の作業員とのコントラストが面白い。

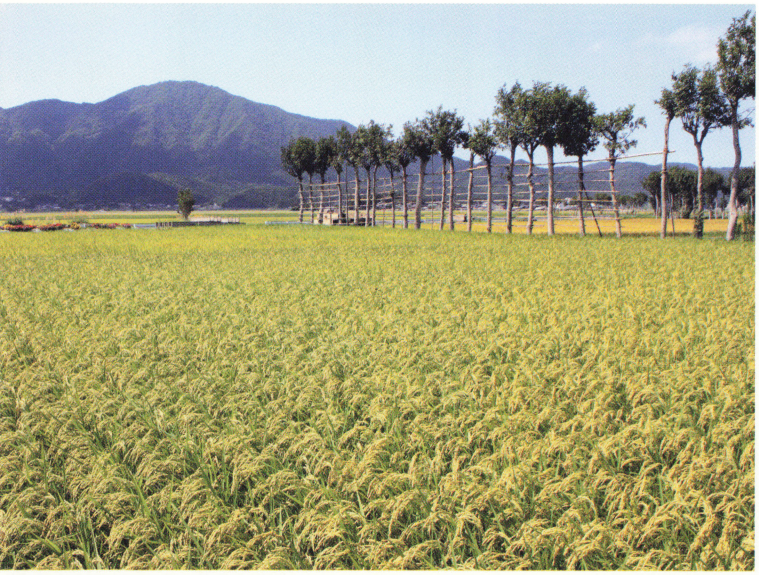

❶
❷
❸
❹
❺
❻
❼
❽
❾
BIG ECHO
Nestlé
MEIJI
KIRIN
FUJITSU
長崎屋
伊藤園
イトーヨーカドー

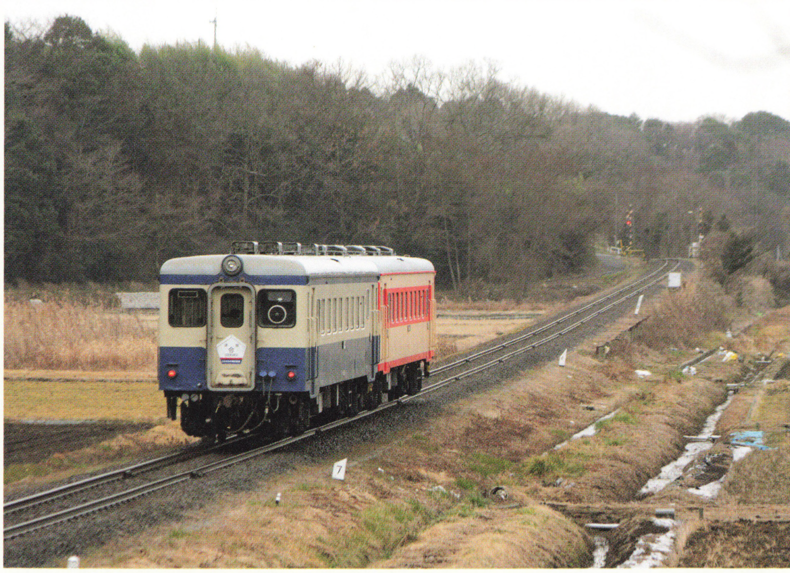
レイアウトのテーマ

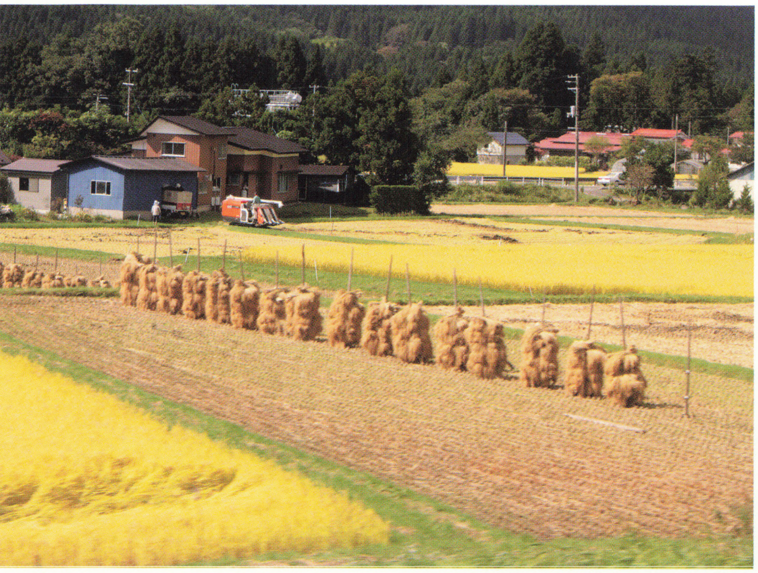
豊かな農村風景を再現！

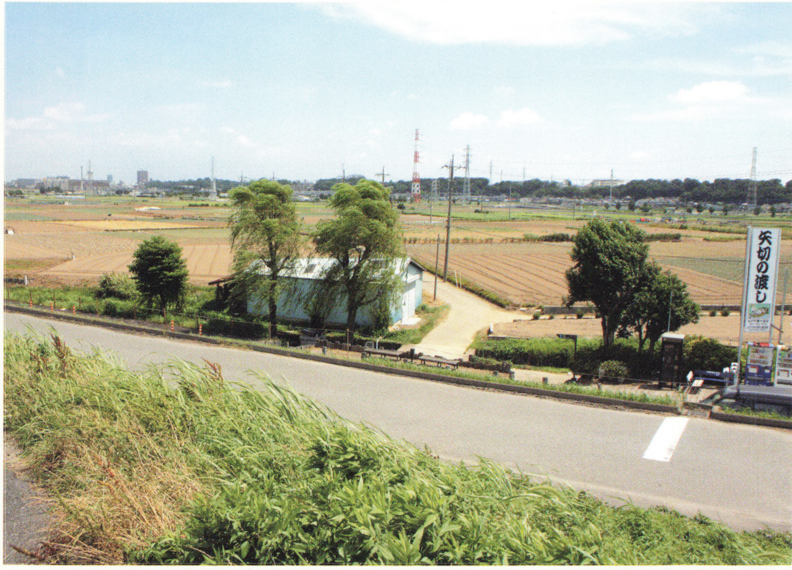
“田んぼ”の広がる農村地帯。水田による稲作の情景は、日本人にとっては原風景とも言えるもの。心の故郷を思い起こさせる、農村地帯を作ってみよう。

農村風景を代表する“田んぼ”といっても、その姿は四季折々異なっている。春先はレンゲの花でピンク色に埋まり、それを肥料として鋤き込んでいく。田んぼに水を張り、稲を植えていく。やがて成長、盛夏には花が咲き、秋になると稲穂が黄金色に色づいていく。そして刈り入れが行なわれ、何もない冬枯れの田んぼで年を越すのだ。

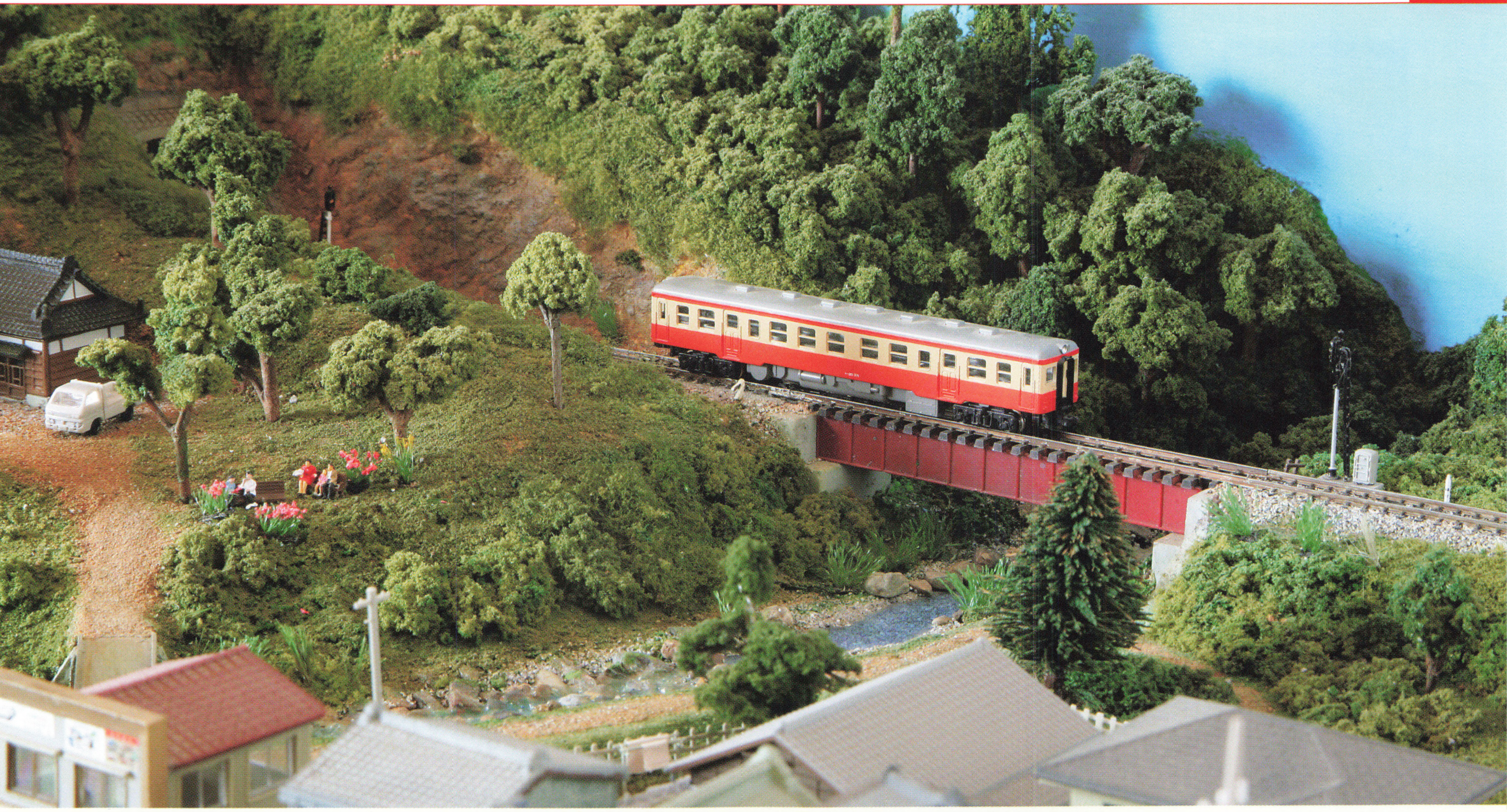

↑越後平野では、あぜ道に植えた“はざ木”に刈り入れた稲を干していた。


↑刈り入れを終え、ただ切り株だけが転々と残る冬の田んぼ。


↑稲の干し方は地方によってさまざま。これは東北地方で見かけたもの。



↑初夏の畑。周囲にある道や並木などもうまく再現したい。



↑家並みの奥を走る本線
線路はシンプルなエンドレス。奥の線路は家並みの向こうで遠近感を演出。

→2軒の農家
庭先に小さな畑や納屋などを配置、作者としてはもっとも力を入れた部分だ。

美作鉄道

「美作（みまさか）」とは岡山県東北部に広がる温暖で豊かな地域の名称だ。そこに広がる素朴な農村風景を、非凡な観察と作風によって見事に再現した。

制作：木村 尚之

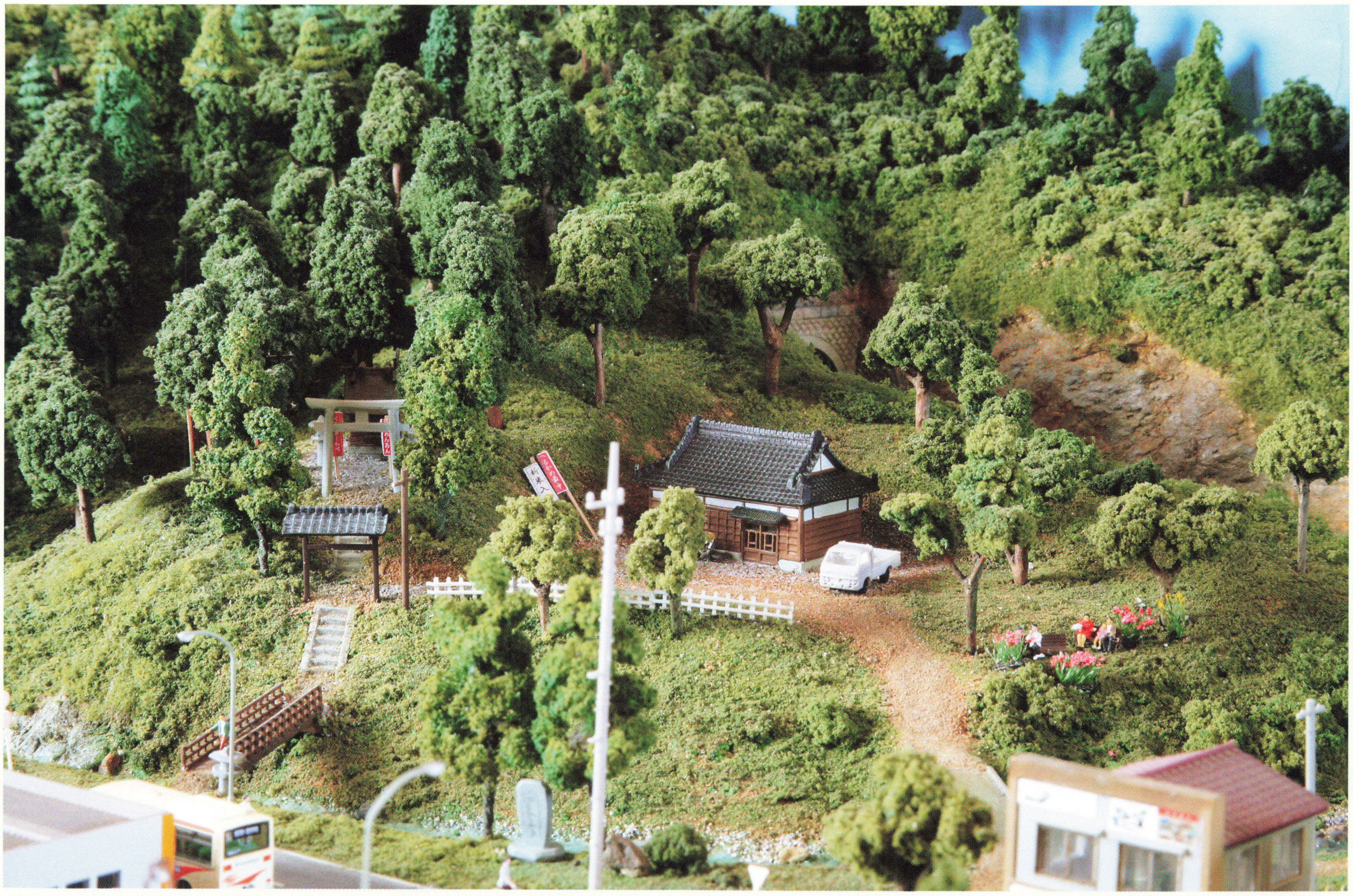
リアルな情景を再現するため線路は少なめにプランニング

幼少より津山線沿線で過ごしてきました。今はJR西日本となっていますが、私にとっては国鉄時代の思い出のほうが深く残っています。そんな津山線をモデルに昭和40年代ぐらいの設定で作ったレイアウトです。制作開始からすでに15年、今もあれこれ改造を加えながら工作を続けていますが、何とか完成の域に達してきたと思います。

レイアウトの線路プランは極めてシンプルです。エンドレスに行き違い設備のある駅がひとつ。しかし、線路の面積を抑えることにより、さまざまな表情を見せる沿線の情景をリアルに作り込むことができるのです。列車はC58の牽く貨物列車とキハ20が駅でタブレット交換をしながら交互に周回します。当時のローカル線は、まさにこんなのんびりとした感じだったのです。

レイアウトの大きさ	1,600×750㎜
使用線路	ユニトラック
制作のべ期間	15年

レイアウト基盤は45×20㎜の角材を井桁に組み、その上に5㎜厚のベニヤ板を張ったフラットトップ構造。山は発泡スチロールを整形、その上に薄めた木工ボンドに浸したティッシュペーパーを張り重ねています。



↑鎮守の森
レイアウトの一隅に作られた鎮守の森。鳥居のある参道を登って行けば、神社の祠や社務所も建てられている。

↑町外れの踏切
駅を出た貨物列車は、町外れの踏切を渡り、山の中へ。踏切はカーブの途中で制作に苦労した。

←線路わきの牧場
線路わきの牧場には乳牛が放たれ、のどかな農村風景を再現している。コーナースペースをうまく活用した情景だ。

↑ローカル線の駅舎
駅舎はトミックス製のローカル駅舎がベース。スレート掛け屋根の追加など、大改造している。

昭和の情景を思い浮かべその再現に気を配った

　このレイアウトでは農家や畑などの情景も重要な位置を占めています。昭和40年代といえば、稲の刈り入れから脱穀まで一気にできるコンバインは導入されず、脱穀をやってくれるJAライスセンターもありませんでした。各農家では、耕運機、脱穀機、籾スリ機など、個別の機械を使ってそれぞれの作業をしていたのです。脱穀作業のために庭は広く、また多くの機械を収納するため、倉庫も必要です。また、庭先には家庭で食べる野菜なども植えていました。そんな当時の情景を思い浮かべながらレイアウトを作っていきました。

　現在の津山線は、すでに茅葺き農家は見当たらず、レイアウトの情景は過去のものとなってしまいました。

農村風景をリアルに演出する工夫

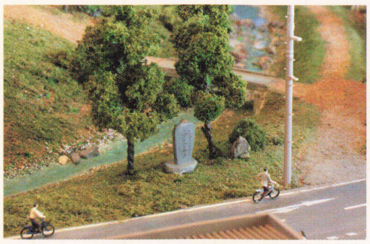
リアルな情景を再現するためには、実物の観察とそれを限られたスペースにどのように作っていくかが問題となる。作例からそのポイントを探ってみよう。

① 農家はもちろんのこと、その周辺の情景にも注目

　トミックスなどから、茅葺き屋根の農家が発売されていますが、それを置いただけで農村の家ができあがったと思うのは間違いです。庭先には農機具や生産物をしまっておく納屋があり、また、自家消費用の小さな畑などもあります。こうしたものを作り込んでいくと農家がリアルに見えてくるのです。納屋は田畑の周囲にも建っています。

　また、岡山県は日蓮宗の多いところ。農村部では道路わきには「南無妙法蓮華経」の「お題目碑」が立っている姿もよく見かけます。これも土地柄を表現するポイントのひとつです。

↑農家の庭先には納屋が欠かせない。



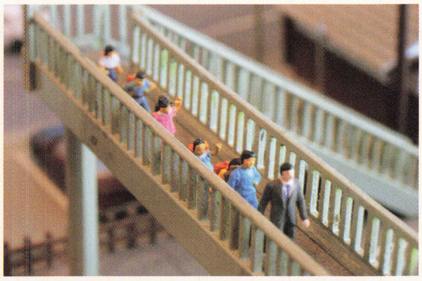
↑道路わきに立つ「お題目碑」にも注目。

↑農家の庭先には自家用の畑や小さな池も作られている。

② 人形の配置は重要。常にストーリーを考えて！

　情景を作るときは、そのシーンのストーリーを考えながら配置していくと、自分も楽しみながらリアルな感じにまとまっていきます。例えば神社の場合。春祭りの準備に人々が集まった。作業がひと段落着いたところで、縁台に集まりお茶を飲みながら小休止。そんな情景を思い浮かべながら作っていきます。

↑ベンチに座り、花を楽しむ人々。



↑跨線橋をにぎやかに渡る子どもたち。

③ 自分で写真を撮ったり、資料集めも重要だ

　レイアウトを作り出したときから駅舎、線路、トンネル、鉄橋、駅前風景などを積極的に撮るようになりました。こうした資料はいろいろな本に載っていますが、今や貴重な資料集です。

↑自分で撮った写真は重要な資料。木次線出雲坂根駅、スイッチバックの小駅。

↑撮った写真はアルバムに整理。

このレイアウトの全貌を見てみよう

昭和40年代の初夏をイメージしたレイアウト

線路プランのシンプルなレイアウトながら、各部の情景を観察していくと、いつしか40年前の世界に引き込まれていく。非凡な観察力と表現力。そこにかけた限りない情熱が、観るものを魅了する世界を作り上げた。

❶神社では春祭りの準備

当番の人が早朝から神社の掃除をして供物を供えたところ。一休みしてから幟を立て始める想定。

❷牛を飼う牧場

レイアウトのコーナー処理として制作。小高い丘を作って草地にして牧柵と牛を配置すれば完成。

❸道路わきを流れる小川

神社のある山を囲むように流れる小川。今ならコンクリート護岸だが、当時は石積みか自然のまま。

❹町外れの踏切

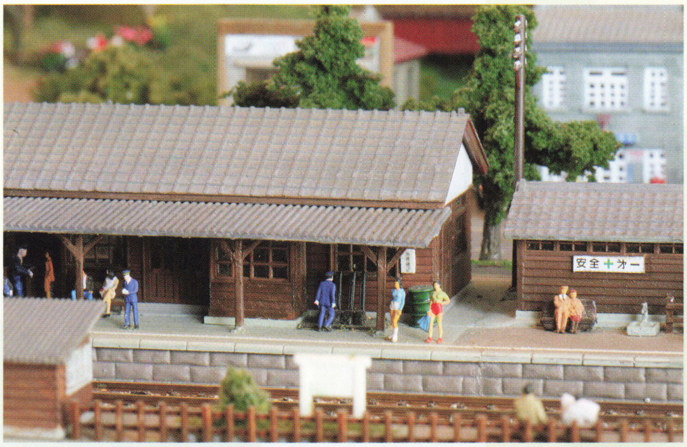
レイアウトを左右につき切る県道。両端は線路と交差、踏切になっている。警報器などは製品利用。

PROFILE

15年の月日をかけ心の故郷が完成しました

木村 尚之さん　67歳　岡山県

今でもアウトドアで遊んでいますが、子どものころから親しんだ鉄道模型は格別の楽しみがあります。レイアウトの前に座り、列車を走らせていると時間の経つのも忘れてしまいます。そろそろ女房の声が後ろから聞こえてきそうです。



❺国鉄ローカル線の駅舎

トミックスのローカル駅舎にスレートの差し掛け屋根を追加、赤い閉塞器を置いた出窓、そして信号テコなどを取り付けて国鉄風に変身させた。

データファイル

レイアウト名	美作鉄道	作　者	木村 尚之
テーマ	昭和40〜45年の岡山県の中山間地	場所設定	津山線、姫新線など
大きさ	1,600×750㎜	基　盤	45×20㎜角材井桁組に5m合板
使用線路	カトーユニトラック	制御装置	カトーパワーパック
制作のべ時間	15年　仕上げたのは定年退職から2年	総費用	45,000円
模型歴	40年	月にかける費用	10,000円以内
楽しむ日	農作業のない日（週2日ほど）	よく利用するお店	トレビック模型津山駅前
使用車両	カトーのSL、DL、DC、貨車、客車		
参考にしたもの	坂本衛氏の記事（レイアウトモデリング） 国鉄ローカル駅など		

ここに注目

半鐘やぐらのある消防団倉庫

消防用の器具を入れた倉庫と火事などの急を知らせる半鐘です。倉庫は既成品を利用しましたが、正面をスレート波板でシャッター風に表現。半鐘はプラキットのランナーから削り出し、半鐘の台は電柱と信号機用のはしごを組み合わせました。

↑小さな半鐘も再現！

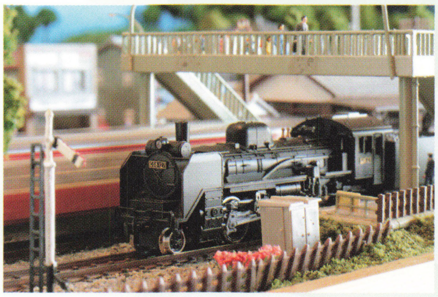
ここに注目 ホームわきには枕木やトロッコを配置

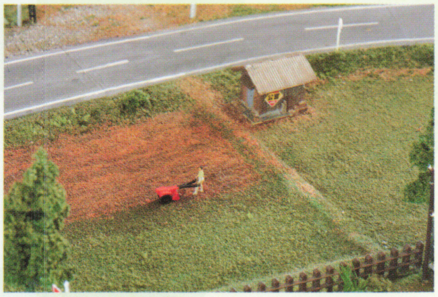
ローカル駅でも線路のまわりにはさまざまな物があり、レイアウトにもこうしたものをあしらうとリアルに見えてきます。枕木は2㎜角のヒノキ棒。サンドペーパーで軽く角を落とし、黒く染めて使用。

↑枕木は実物の積み方を参考に積む。

❻小川を渡る鉄橋

鉄橋はトミックス製のガーダー橋を利用、橋台が地形と一体になるように作り込んである。





❼県道沿いの古い街並み

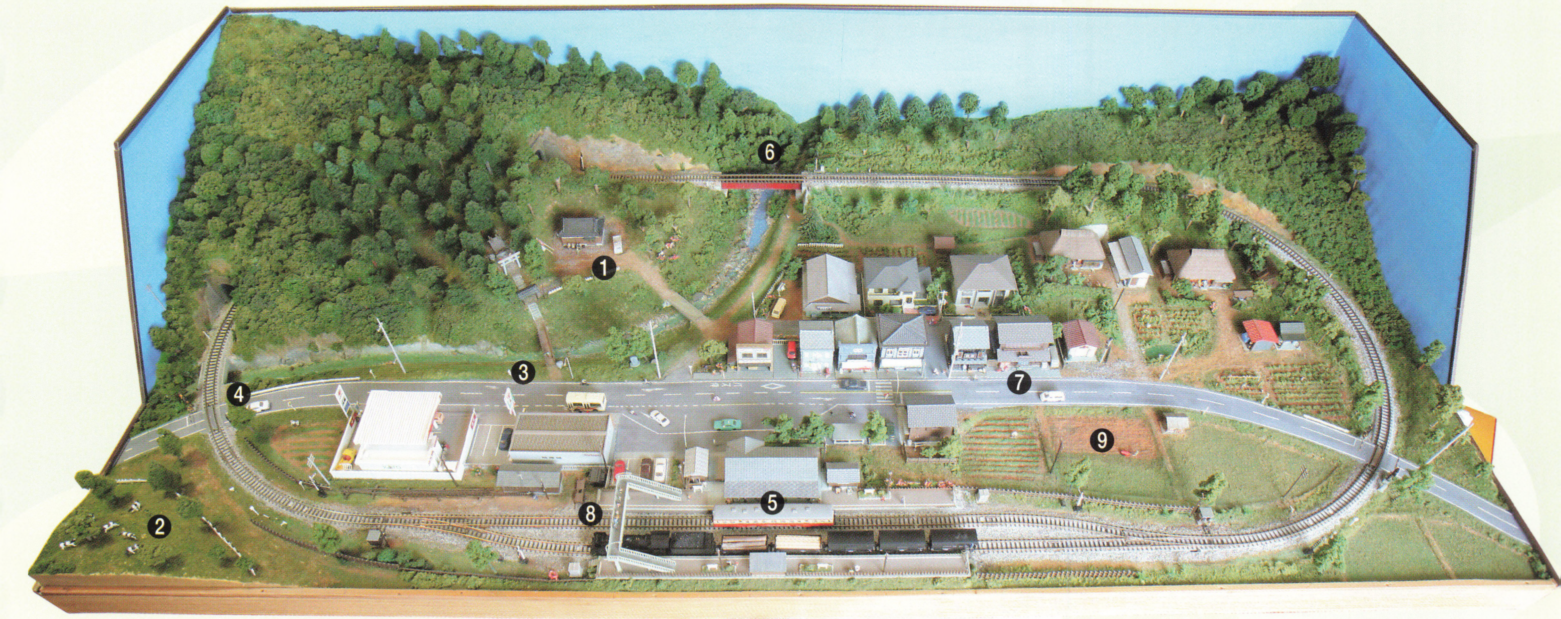
一歩奥に入ると新しい家も建っている。これらはカトーやトミーテックの製品をうまく活用。

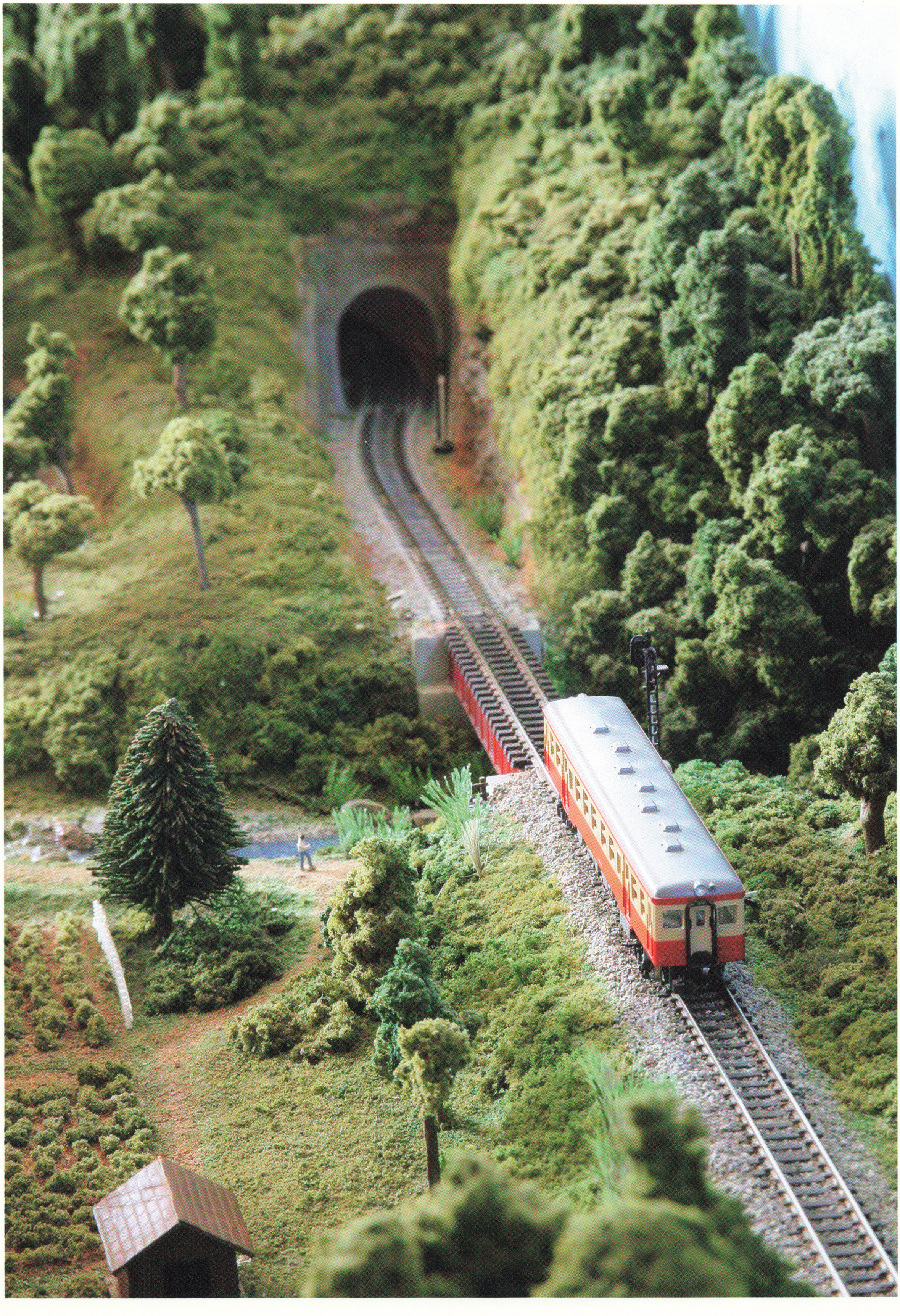
❽オープンスタイルの跨線橋

最近作られたという想定の駅の跨線橋は、グリーンマックスの歩道橋を改造したもの。

❾納屋のある畑

小さな納屋は、製品を小さく改造、錆びたトタン屋根として、最後にホウロウ看板を貼った。



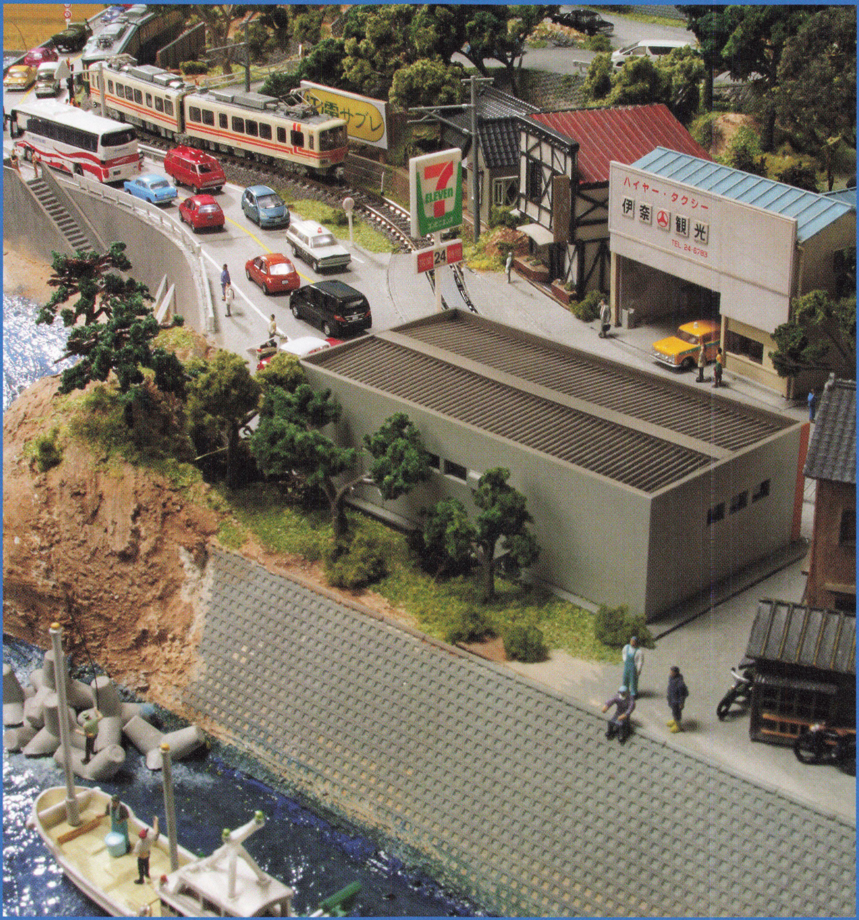


トンネルと鉄橋のある風景
トンネルを抜け、鉄橋を渡るキハ20。このあたりは津山線福渡〜津山間のエッセンスを盛り込んで作った情景。線路わきの木々もさまざまな素材を使って変化を付けてある。

第2章

DVD
完全連動
70分

湘南海岸を走る江ノ電のレイアウトを作る



さあ、手軽に取り組める小型レイアウト作りに挑戦だ。今回は江ノ電のイメージをふんだんに盛り込んだレイアウト作りを、70分のDVDと連動して紹介しているので、楽しさを実体験してみよう。

湘南海岸を走る
江ノ電のレイアウトを作る

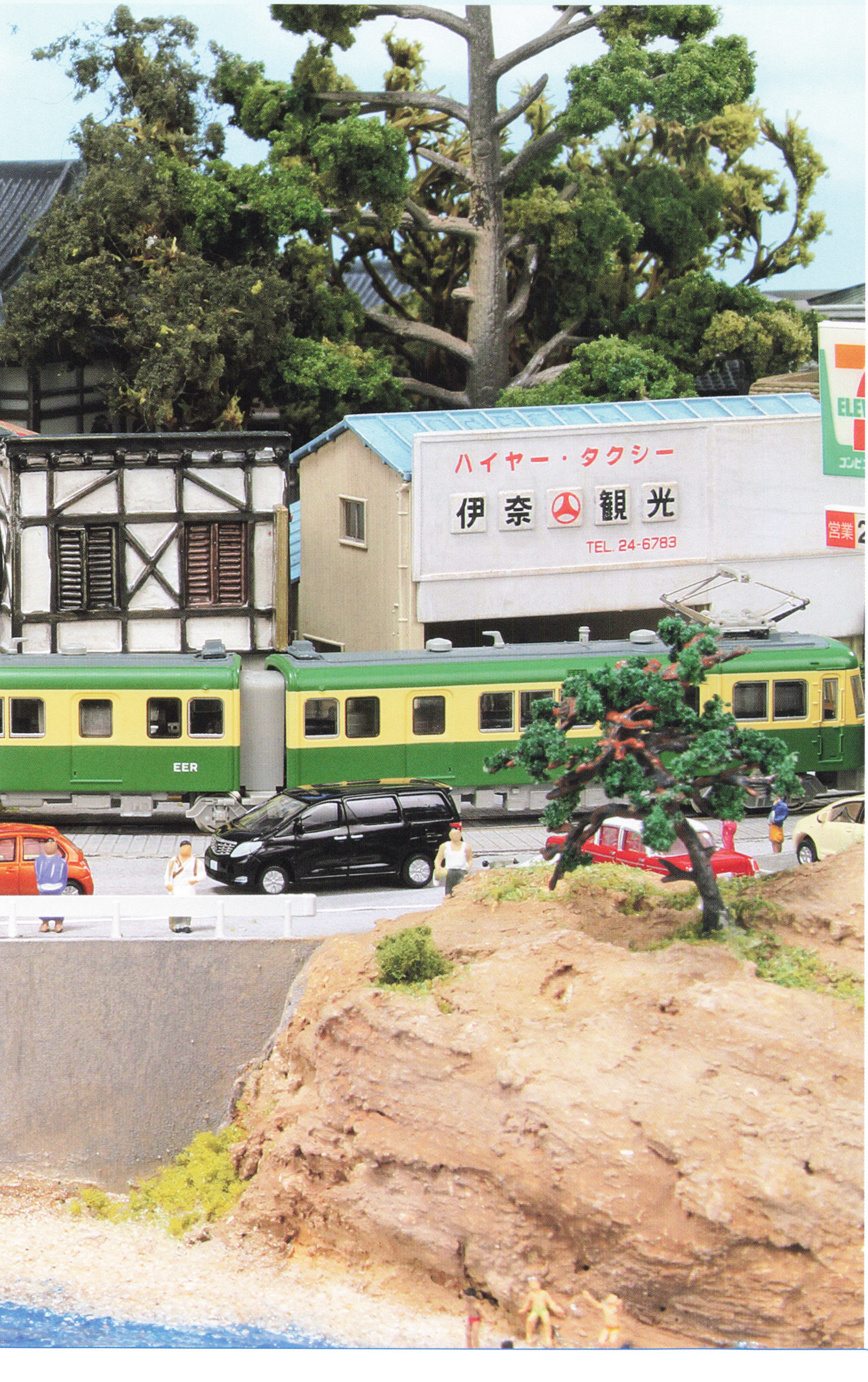
併用軌道のある小型レイアウト

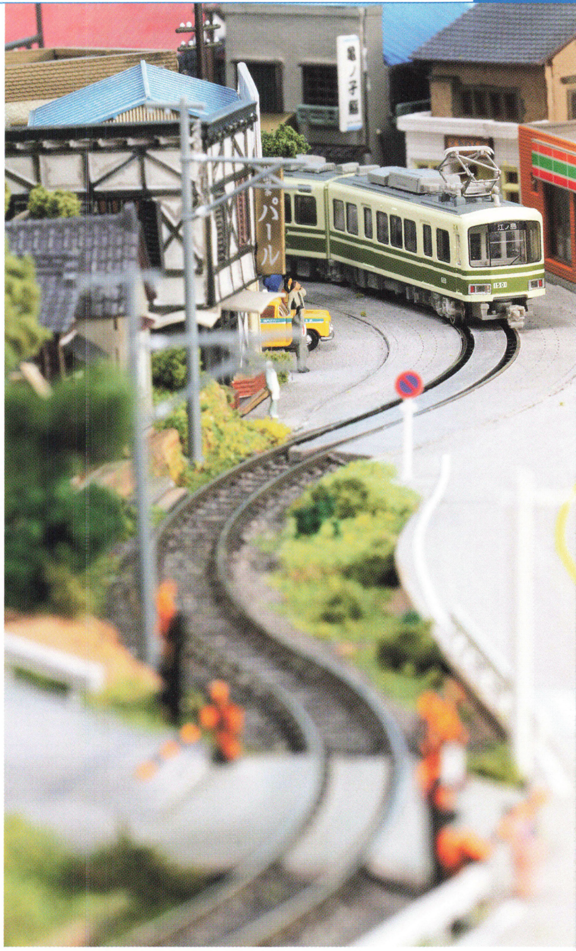
DVD

DVDでここをチェック!!
↓
レイアウトが完成!!
いろいろな江ノ電を走らせてみよう!!

レイアウトを作るとき、実物の鉄道をモチーフにイメージを広げていくのもひとつの方法だ。今回は湘南海岸を走る江ノ島電鉄（江ノ電）をモチーフとしてレイアウトを作ってみた。

制作・解説：松本 典久


ハイヤー・タクシー
伊奈 観光
TEL. 24-6783
営業
ELEV
EER

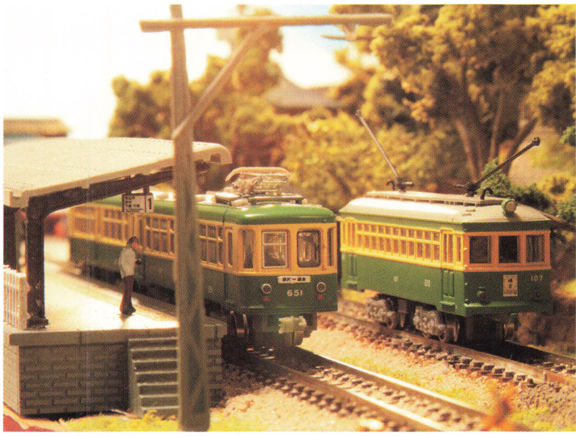


↑併用軌道から専用軌道へ

江ノ電の楽しさは、道路上を走る併用軌道と専用軌道が混在すること。欠かせないテーマだ。

←海岸沿いを走る

江ノ電の一部区間は湘南海岸沿いに走っている。サーフィンも楽しめる海辺も表現してみた。



↑森の中の小さな駅

江ノ電の極楽寺駅をモチーフに森に囲まれた駅も作ってみた。ローカル私鉄らしい雰囲気だ。

列車に注意
洋食
中将軒
藤沢
2053
ミルクチョコレート

神社の参道を横切る踏切
江ノ電沿線には寺社仏閣が多い。なかには線路がそのすぐわきを抜けているところもある。

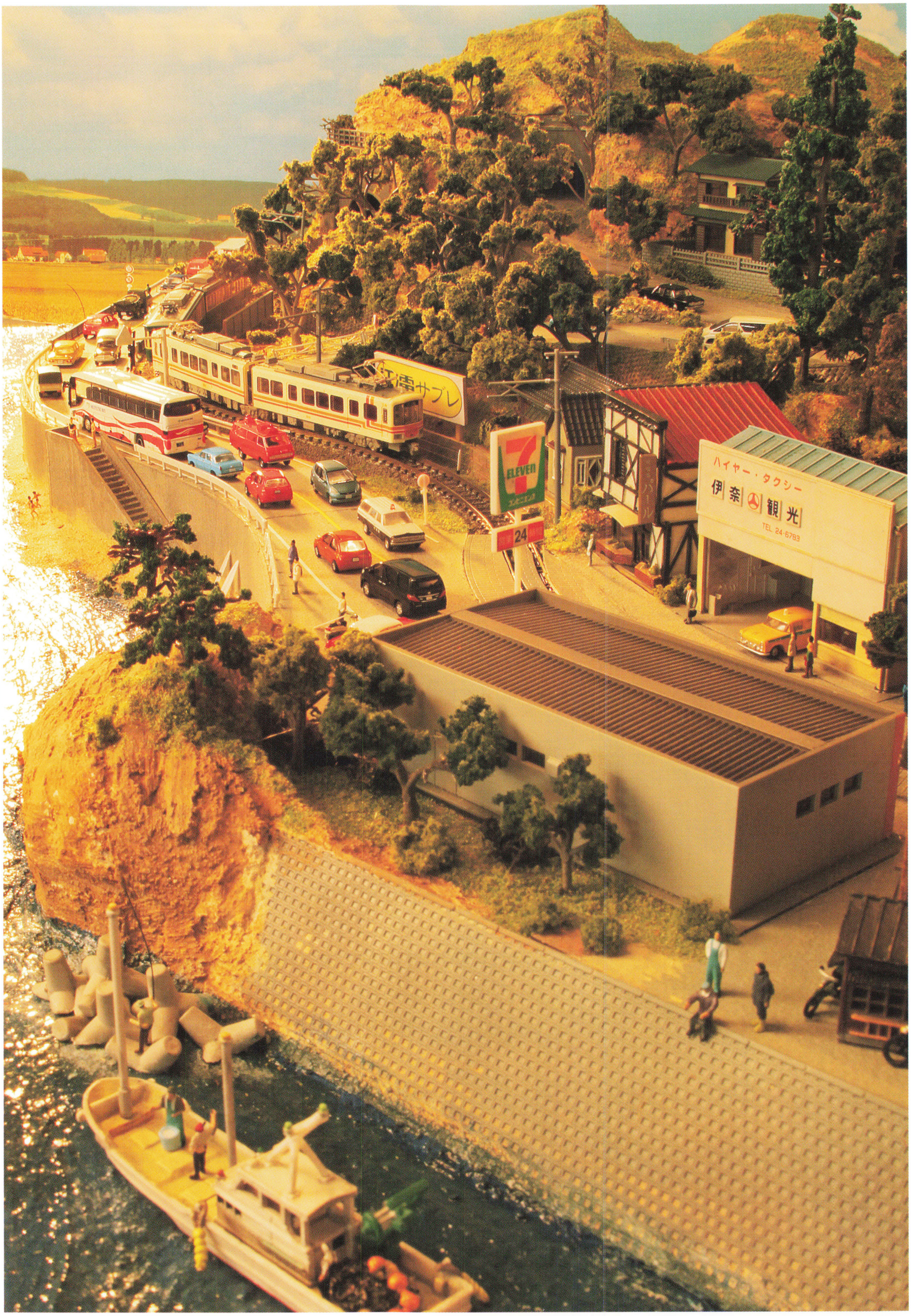
電車の顔のある店舗
沿線の菓子店のなかには、電車の顔を壁面に組み込んでしまったところもある。これも楽しい。

目にした情景を自分なりに表現していく

レイアウトの場合、車両作りと違い、実物の鉄道をモチーフにしてもそのままスケールダウンして作る必要はない。実際、実物同様に作るとなると、多大なスペースが必要になってくる。今回のレイアウトは900×600㎜という、市販のベースボードの上に制作した。この中に気に入った情景をいくつか盛り込んで行けばいいのだ。

実物の江ノ電沿線を歩いて目に付いたのは、併用軌道、海、鉄橋、トンネル、神社の参道を横切る小さな踏切等々…。心に残った情景をどんな形に表現していくか、それを考えるだけでも楽しくなってくる。

各部のイメージが固まってきたら、次はそれをどう配置するか。まさにこの作業が“レイアウト(配置)”なのだ。


ハイヤー・タクシー
伊奈観光
TEL 24-6783
ELEVEN
24

←車と並んで併用軌道を走る
路面電車のように道路上を走る併用軌道も印象的だ。モデルでは道路の幅員をぎりぎりまで狭くし、電車と自動車がせめぎ合う姿を再現してみた。

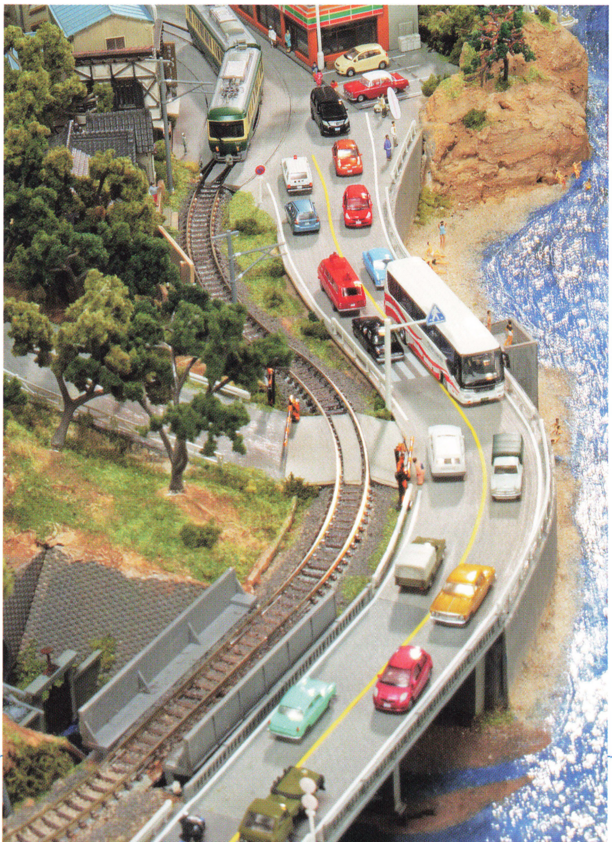
→海沿いに敷設された鉄道と道路
江ノ電沿線には丘が海まで迫り、海岸沿いのわずかなスペースに鉄道と道路が通っている部分もある。ここでは海の表現ももちろんだが、迫ってくる丘の表現も重要だ。

↑お寺の境内

本堂から出てきた住職が庭を掃除している坊主たちに声をかける。そんなシーンを描いてみた。

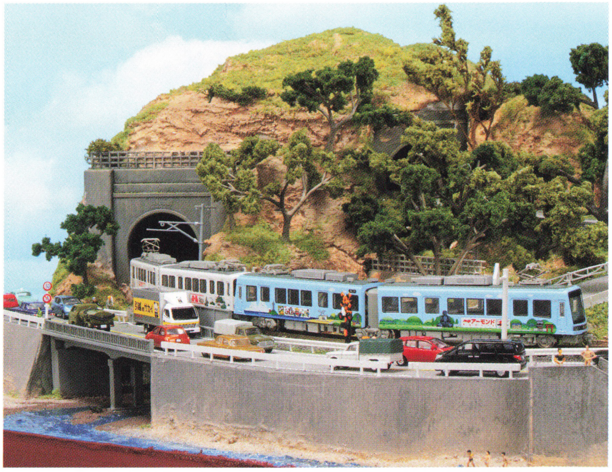
↓海岸沿いの道

江ノ電に並行する道路は週末ともなると大渋滞。ミニカーをたくさん並べて渋滞シーンを再現。



←サーファー

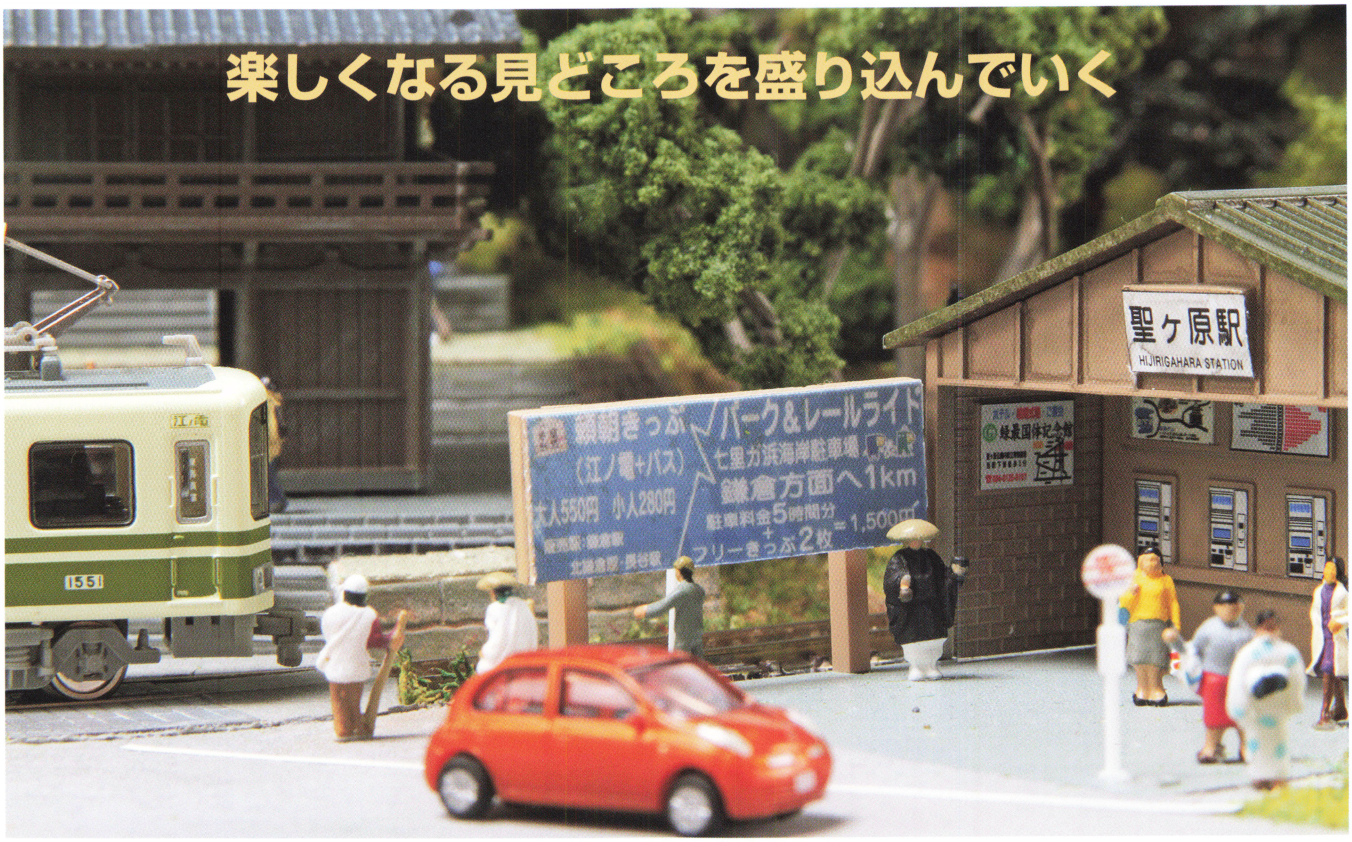
湘南海岸はサーフィンのメッカ。夏に限らず一年中サーファーの姿が見られる。近所の人たちはボードを自転車やバイクに乗せてやってくる。



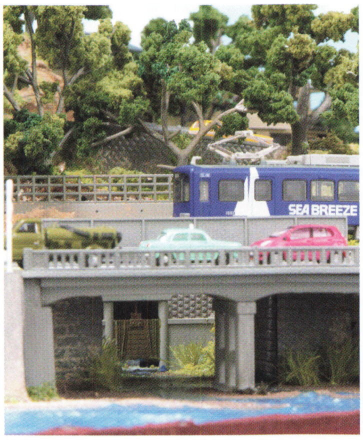
→海岸沿いの護岸

護岸は厚紙やプラ素材を使って再現。厚紙はコンクリートをイメージしたもの。垂直、斜め、階段といろいろ変化を付けてみた。自然の岩が露出した部分もある。

楽しくなる見どころを盛り込んでいく

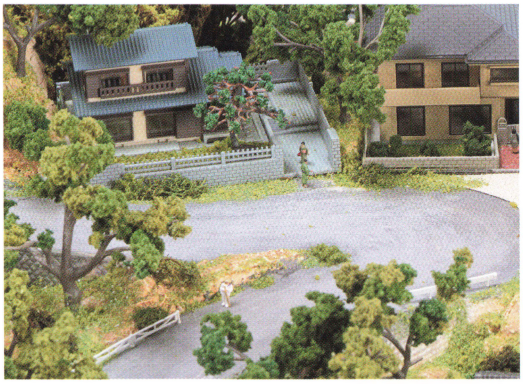

聖ヶ原駅
HIJIRIGAHARA STATION
頼朝きっぷ
（江ノ電+バス）
大人550円 小人280円
パーク&レールライド
七里ガ浜海岸駐車場
鎌倉方面へ1km
駐車料金5時間分
+
フリーきっぷ2枚
=1,500円
1551

↑駅前広場
コンパクトにまとめた駅前広場。托鉢のお坊さんや実物の看板を利用した表示などが雰囲気を盛り上げる。

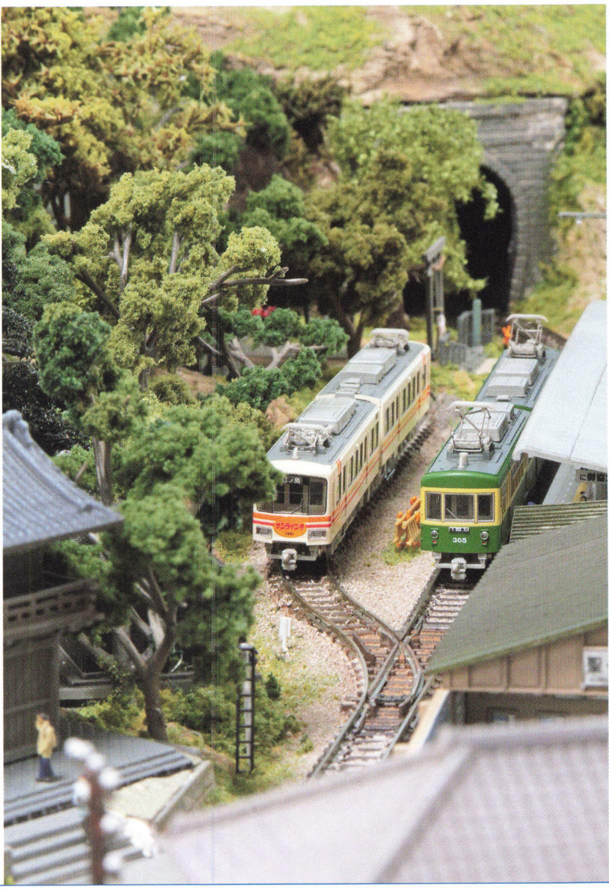


→小さな水路
護岸壁に変化を付けるため、小さな水路を作り、道路橋や鉄道橋も敷設。のぞき込むと、奥に水門も見える。

↓丘の上の住宅地
レイアウトの中央に位置する丘には住宅を建設。この丘はレイアウトの表と裏を視覚的に切る役目もある。



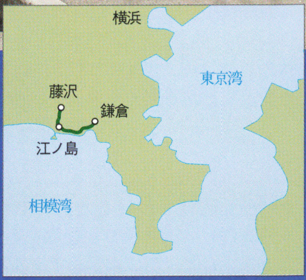
→留置線のある山間の駅
極楽寺駅に併設された車両基地にヒントを得て作った留置線。車庫も作りたかったが、このレイアウトでは嵩張り過ぎるため、単純に側線とした。



江ノ電フォトスケッチ

DVD

DVDでここをチェック！
⇓
実物情景ガイド
江ノ電散歩



ロケハンをしてレイアウトのイメージをふくらませよう

崖のわきを走る江ノ電。右側は道路を隔ててすぐ海だ。（鎌倉高校前～腰越間にて）

これはと思う情景をガンガン記録してこよう

実物の鉄道をモチーフにレイアウトを作る――。それには資料集めが欠かせない。その鉄道を紹介している雑誌や書籍、ビデオ、DVDなど。インターネットでチェックしてもさまざまな資料が見つかるに違いない。

しかし、できるなら現地を訪ねてみるのが一番だ。列車に乗ったり、沿線を歩いたり、そこで出会った情景がレイアウトのモチーフとなっていくのだ。

実際、車両の資料はかなり見つかるものだが、レイアウト作りに活かせる資料となると、なかなか見当たらないもの。その意味でも現場に立つのが手っ取り早いのだ。

なお、レイアウトのモチーフ探しに特化した訪問ができるなら、カメラやビデオを用意、琴線に触れた情景をバシバシ撮ってこよう。このとき、車両だけでなく、周囲の情景も写し込んでおくのがポイント。レイアウト作りにはこちらのほうが重要なのだ。また、鉄道とは関係なくても、心に残る情景があるはず。これも忘れずにチェックしておこう。

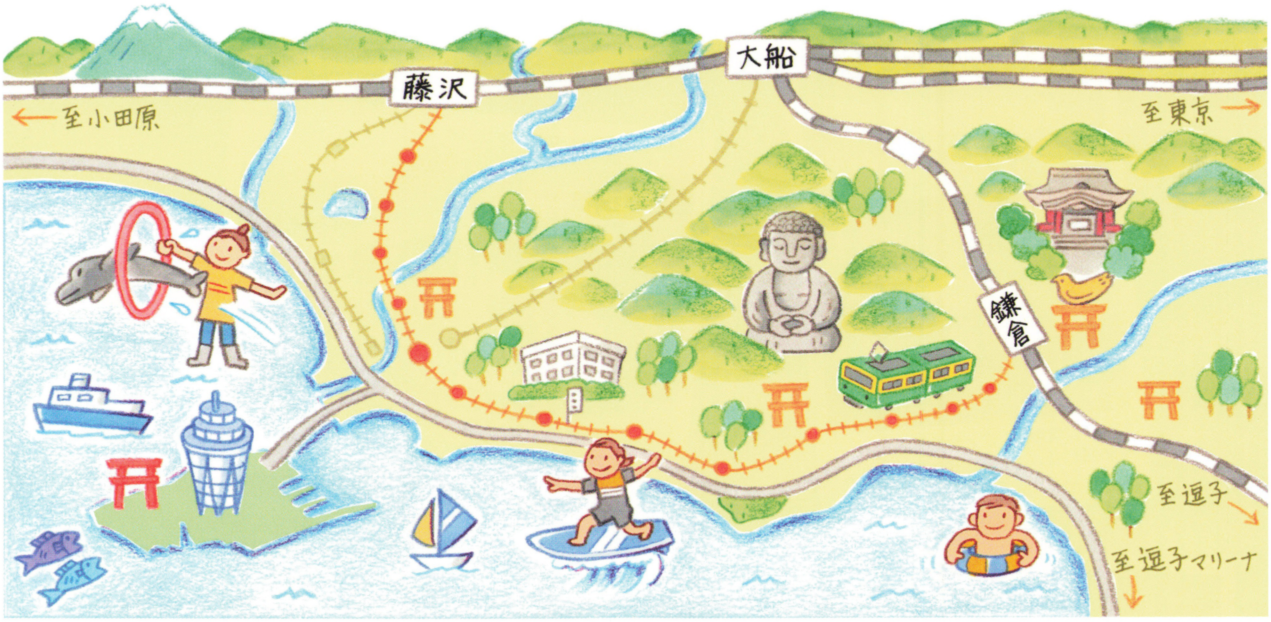
江ノ電の魅力

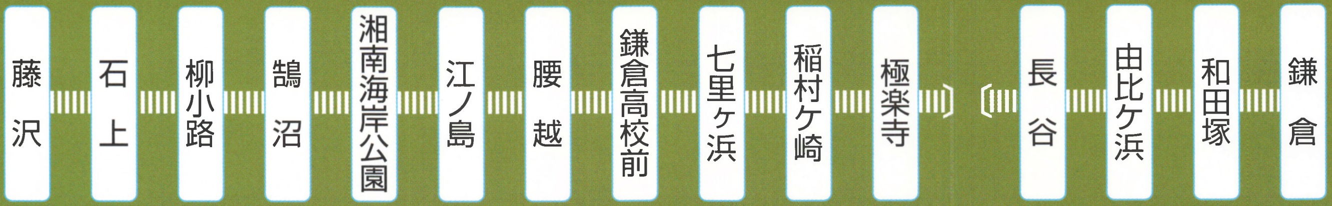
旅のポイントとしても人気のある江ノ電だが、沿線風景やバラエティーに富んだ車両など、モデラーにとってもいろいろな魅力にあふれている。その魅力を探りながら沿線を歩いてみよう。

住宅地から海岸沿いへ さらには併用軌道もある

江ノ島電鉄（江ノ電）は藤沢と鎌倉を結ぶ路線だ。明治43年（1910）に全通、すでに100年以上活躍してきた歴史ある鉄道だ。

江ノ電の藤沢駅はJR藤沢駅とは駅前広場を挟んだ小田急百貨店の２階から発着する。駅を出ると高架線で市街地を抜け、やがて地上に降り住宅地を走っていく。江ノ島駅を出ると次の腰越駅までは併用軌道。道路の中央をゆっくりと走っていく。この先は右手に湘南の海が広がる。江ノ島が見えるのもこのあたりから。稲村ヶ崎駅まで行くと海とは離れ、次の極楽寺駅に車両基地が併設されている。このあたりは山が迫り、海岸沿いとは違った雰囲気だ。極楽寺駅を出たところに江ノ電唯一のトンネルがある。トンネルを抜けると再び住宅地を走り抜ける。このあたりは家が線路に迫り、一般の鉄道とはちょっと違った雰囲気だ。終点の鎌倉駅はJR駅に並んで設置されている。


大船
藤沢
←至小田原
至東京→
鎌倉
至逗子
至逗子マリーナ


藤沢
石上
柳小路
鵠沼
湘南海岸公園
江ノ島
腰越
鎌倉高校前
七里ヶ浜
稲村ケ崎
極楽寺
長谷
由比ケ浜
和田塚
鎌倉

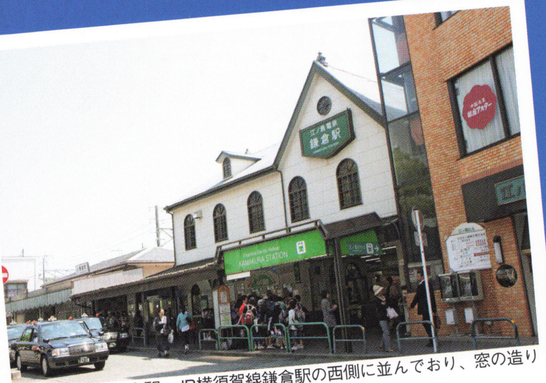
江ノ電路線図

江ノ島電鉄は、藤沢駅を起点に鎌倉駅までを結ぶ営業キロ10.0kmの路線だ。駅は起終点を含み、15駅。この他、鎌倉高校前駅と七里ヶ浜駅の間に峰ヶ原信号場もある。全線単線で、長谷、稲村ヶ崎、峰ヶ原、江ノ島、鵠沼の各駅・信号場に行き違い設備を持つ。軌間はJR在来線などと同じ1067㎜で、直流600Ｖで電化。

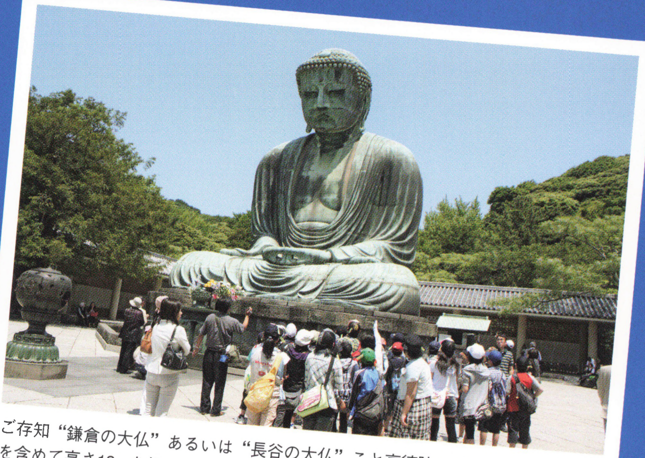
寺社仏閣から美術館まで見どころ多い人気観光地

“江ノ電”こと江ノ島電鉄のターミナルのひとつとなっているのが、鎌倉駅だ。ここではJR横須賀線と連絡しており、江ノ電の駅舎もある。

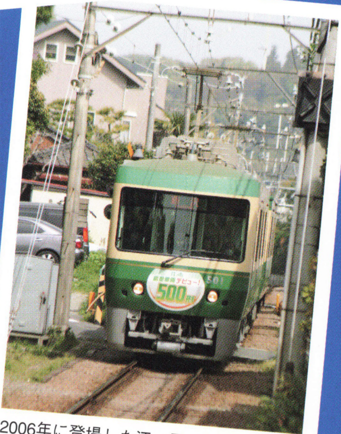
鎌倉は、大仏様をはじめ、有名な観光地が目白押し。江ノ電に乗りながらこんなポイントを訪ね歩いてみると楽しい。レイアウトに取り込みたいモチーフに出会えるかも知れない。



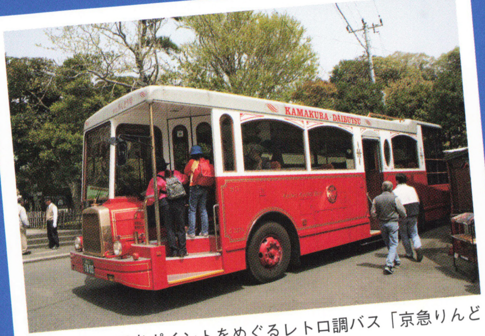
江ノ島電鉄の鎌倉駅。JR横須賀線鎌倉駅の西側に並んでおり、窓の造りがお洒落だ。三角屋根の下が江ノ電の改札口。



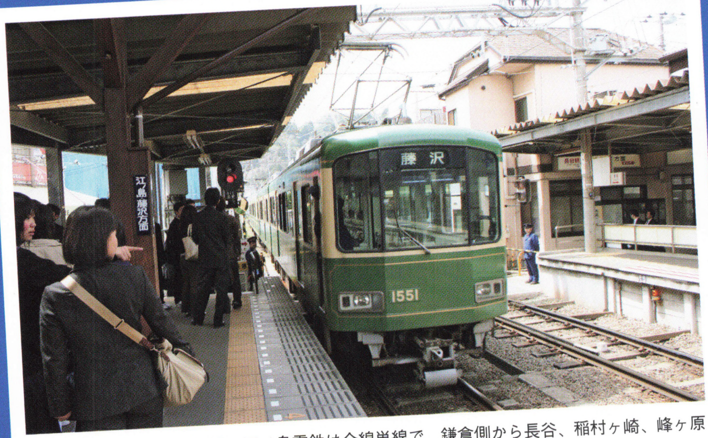
ご存知“鎌倉の大仏”あるいは“長谷の大仏”こと高徳院の阿弥陀如来像。台座を含めて高さ13mを超え、レイアウトにも取り込みたいテーマではある。



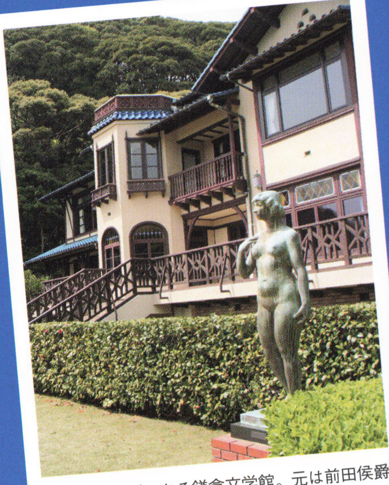
2006年に登場した江ノ電では最新型となる500形。丸みのあるデザインがかわいい電車だ。（由比ヶ浜～長谷間にて）



鎌倉市内の観光ポイントをめぐるレトロ調バス「京急りんどう号」。こんなバスをレイアウトに走らせてみたい。



対向式ホームのある長谷駅。江ノ島電鉄は全線単線で、鎌倉側から長谷、稲村ヶ崎、峰ヶ原信号場（七里ヶ浜～鎌倉高校前）、江ノ島、鵠沼に行き違い設備がある。

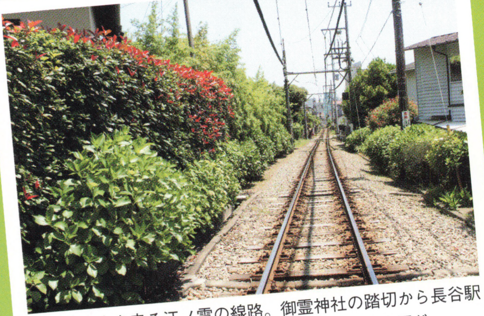


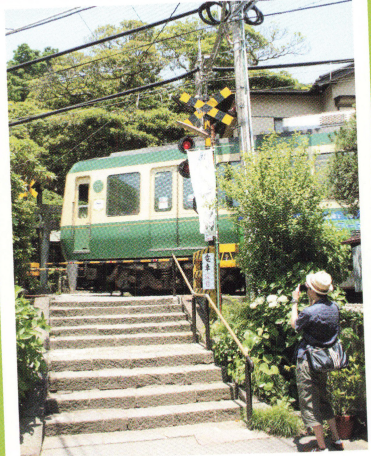
大仏様のそばにある鎌倉文学館。元は前田侯爵の鎌倉別邸で、今は国の登録有形文化財。

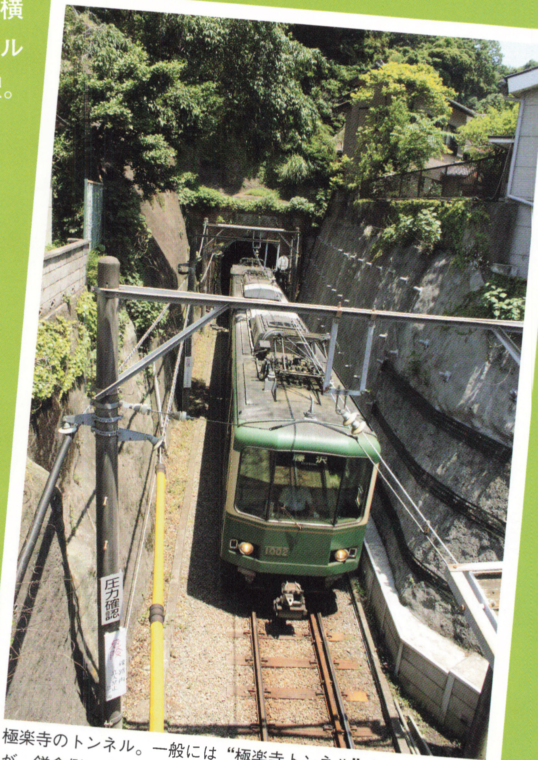
長谷〜極楽寺　トンネルもある、江ノ電の“山岳”区間

長谷〜極楽寺間はちょっとした山越えになっており、江ノ電の中ではもっとも緑の多い区間だ。

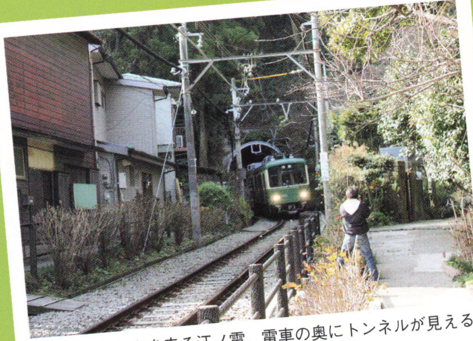
住宅地を抜け、御霊神社の参道を横切ると、すぐに江ノ電唯一のトンネルがある。トンネルを抜けると極楽寺駅。

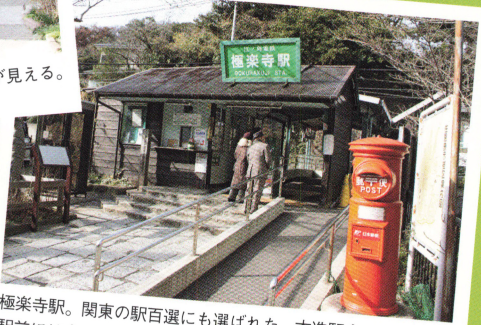

住宅地の中を走る江ノ電の線路。御霊神社の踏切から長谷駅方向を眺めたところ。左手に続く緑は、民家の生垣だ。


御霊神社に向かう参道の踏切。参道といっても住宅街を抜ける細い路地で、電車が現れるとその大きさにびっくりする。

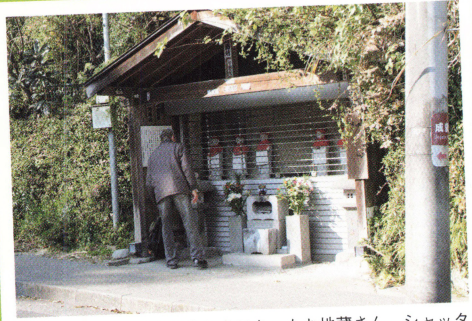


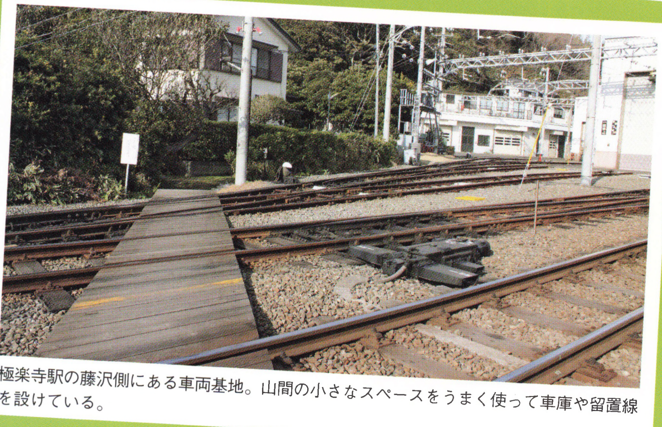
極楽寺のトンネル。一般には“極楽寺トンネル”と呼ばれているが、鎌倉側は「千歳洞」、藤沢側は「極楽洞」と命名。


御霊神社のわきを走る江ノ電。電車の奥にトンネルが見える。このトンネルの奥が極楽寺駅だ。



極楽寺駅。関東の駅百選にも選ばれた、木造駅舎がかわいい。駅前には今では懐しいデザインの郵便ポストが健在。


御霊神社そばの虚空蔵堂わきにあったお地蔵さん。シャッターは可哀想だが、レイアウトに取り込みやすい大きさだ。

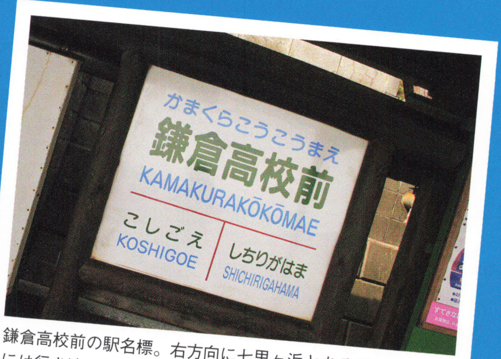

極楽寺駅の藤沢側にある車両基地。山間の小さなスペースをうまく使って車庫や留置線を設けている。

長谷〜極楽寺間の線路わきにある御霊神社。うっそうとした大きな木に囲まれ、いかにも神域の雰囲気が漂う。

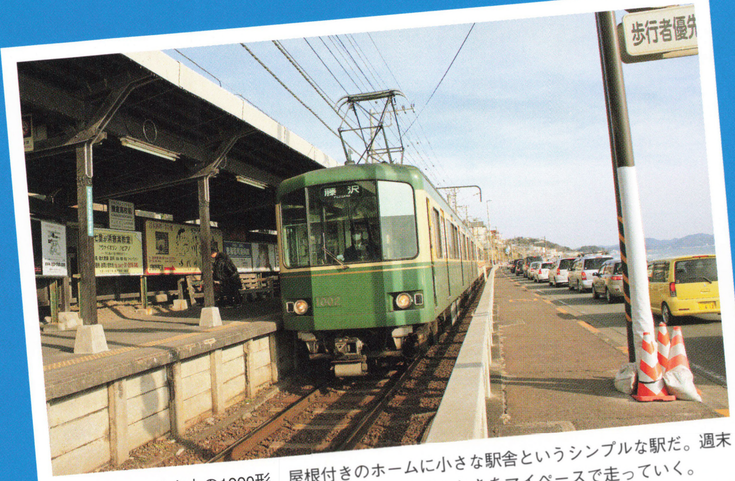
鎌倉高校前　湘南海岸に面した丸い水平線の見える駅

江ノ電は稲村ヶ崎から腰越にかけて海沿いを走る。多くの部分は線路のすぐわきが道路、そして海岸へとつながっている。車内からも広々とした海が望め、気持ちのいい車窓が続く。

関東の駅百選にも選ばれた鎌倉高校前は、海に向かってホームが開けており、ベンチに座ると目の前に海が広がる。ぜひ一度、訪ねてみたい駅だ。

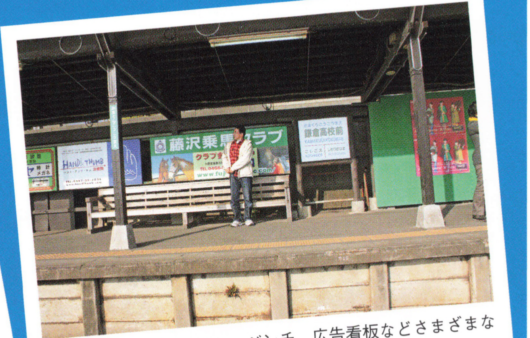

かまくらこうこうまえ
鎌倉高校前
KAMAKURAKŌKŌMAE
こしごえ
KOSHIGOE
しちりがはま
SHICHIRIGAHAMA

鎌倉高校前の駅名標。右方向に七里ヶ浜とあるが、その途中には行き違い設備を持った峰ヶ原信号場がある。

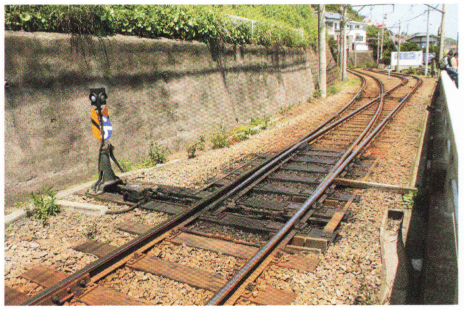


鎌倉高校前に停車中の1000形。屋根付きのホームに小さな駅舎というシンプルな駅だ。週末になると並行する道路は渋滞が激しい。江ノ電はそのわきをマイペースで走っていく。

レトロ調の10形。江ノ電はここで海と別れ、腰越から内陸部を走っていく。

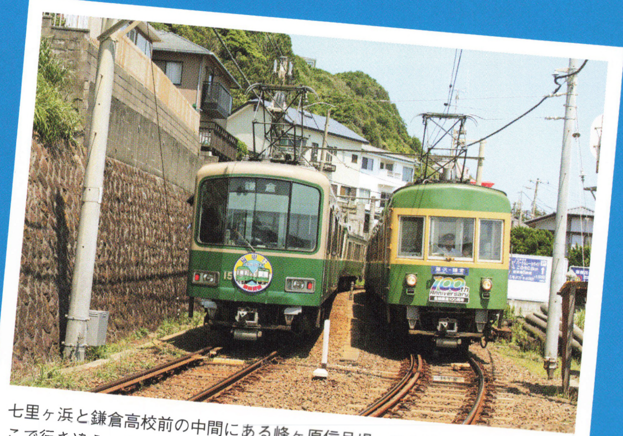

藤沢乗馬クラブ
鎌倉高校前

ホームには駅名標のほか、ベンチ、広告看板などさまざまなものがある。レイアウトにはこうしたものも作り込みたい。



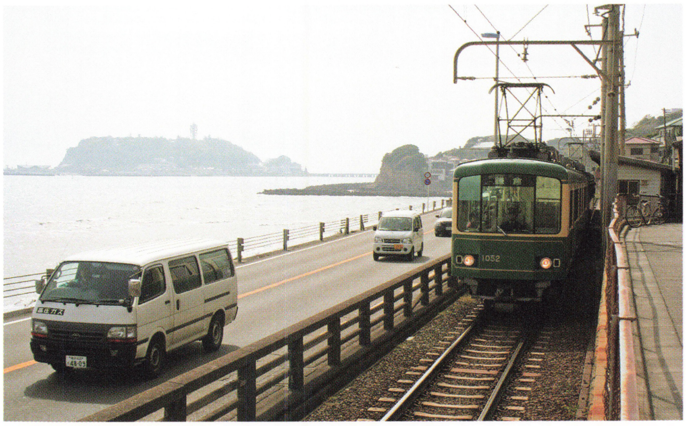
峰ヶ原信号場のスプリングポイント。進入時は常に左方向に進む。出発時はレールを押しながら進み、通過後に自動復帰。

鎌倉高校前～腰越間にある小さな崖。このあたりは山が海に迫っているので、湘南海岸といってもこんな地形になる。



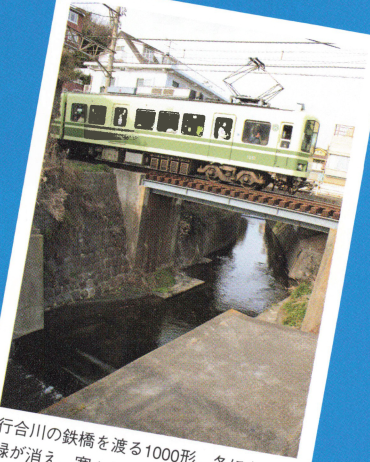
七里ヶ浜と鎌倉高校前の中間にある峰ヶ原信号場。日中はすべての列車がここで行き違う。スプリングポイントを使い、進路は自動的に切り替わる。

鎌倉高校前付近から望む江の島。湘南を代表する景勝地で、島へは江の島弁天橋が通じており、歩いて渡ることができる。

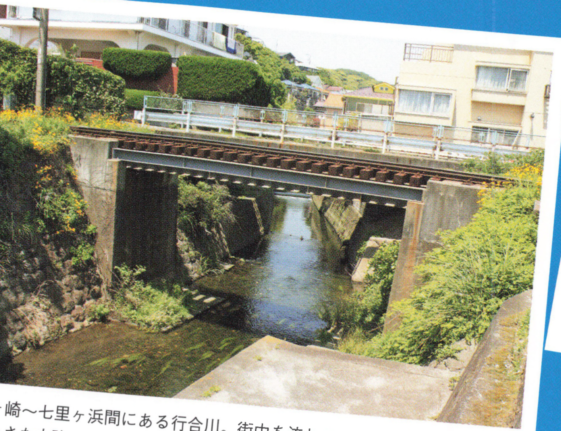


鎌倉高校前駅を出発、鎌倉方向に向かう1000形。右奥に鎌倉高校前駅の小さな駅舎が見える。左の海上には江の島が浮かんでいる。手前に見える防波堤の奥が腰越漁港だ。

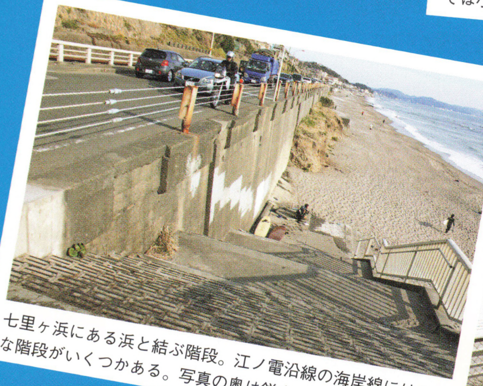
このあたりはいつでもサーファーたちがいる。ちなみにこの写真を撮ったのは真冬の1月だ。



行合川の鉄橋を渡る1000形。冬になると緑が消え、寒々しい雰囲気だ。



稲村ヶ崎〜七里ヶ浜間にある行合川。街中を流れているため護岸が進み、今では小さな水路のような雰囲気だ。それでも水辺にはちょっとした緑がある。



七里ヶ浜にある浜と結ぶ階段。江ノ電沿線の海岸線にはこんな階段がいくつかある。写真の奥は鎌倉方向だ。

水平線が丸く見える湘南海岸。沖合いに波を待つサーファーたちの姿も見える。写真中央の川は行合川の河口部だ。

鎌倉高校前駅の駐輪場。自転車やバイクに並び、サーフボードも置いてあった。サーファーたちの休憩場でもあるのだ。

江ノ島と併用軌道

電車が道路を走る、江ノ電の人気ポイント

江ノ電の腰越～江ノ島間には、路面電車のように電車が道路上を走る併用軌道がある。その運行には苦労も多いと思うが、鉄道ファンやモデラーにとってはとても興味深い場所だ。界隈には魚屋や海鮮料理屋も多く、これも江ノ電らしさを演出している。

観光地となった江の島界隈の雰囲気もチェックしておきたいポイントだ。

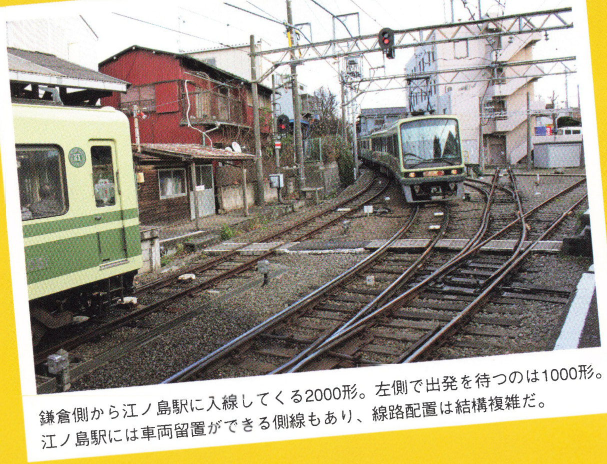
江ノ島電鉄線
江ノ島駅
ENOSHIMA STA

江ノ島電鉄の江ノ島駅。駅舎は観光地の玄関口らしいデザインとなっている。

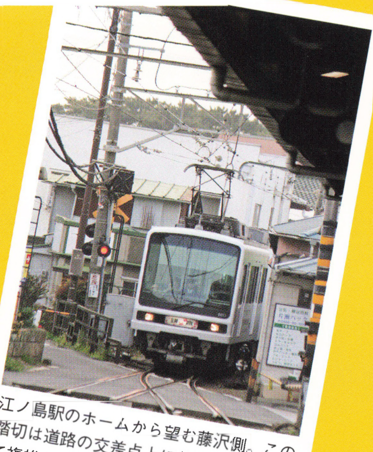
江ノ電の江ノ島駅から徒歩5分ほどの海側にある小田急電鉄の片瀬江ノ島駅。こちらは竜宮城を模したといわれるユニークなデザインの駅舎が建っている。

江の島に面した海岸沿いにある新江ノ島水族館。レイアウトにイルカのショーが楽しめるプールを作るのも楽しそうだ。

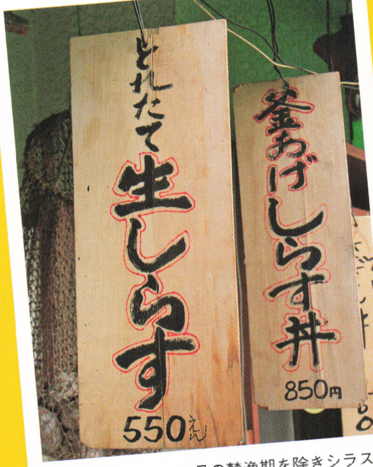
江の島弁天橋から見た湘南の海。防波堤の先には消波ブロックが設置され、釣り人の姿も見える。



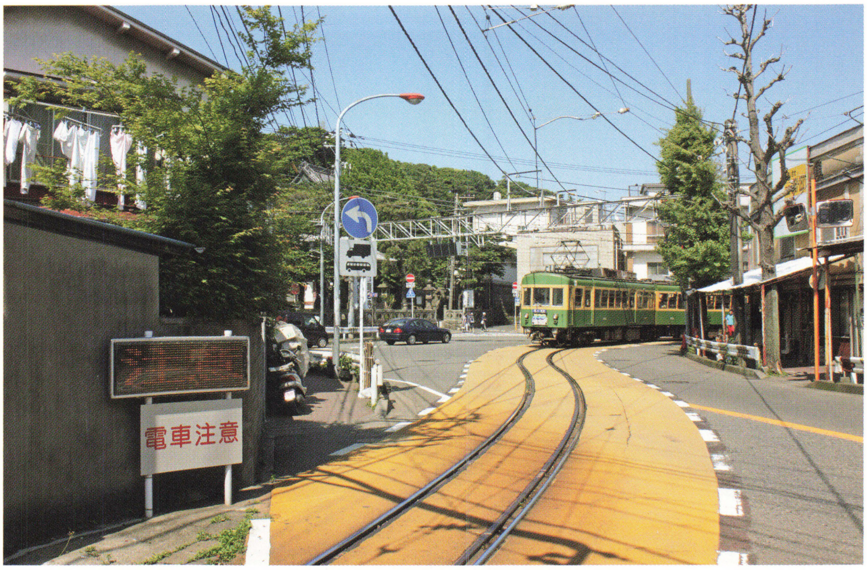
鎌倉側から江ノ島駅に入線してくる2000形。左側で出発を待つのは1000形。江ノ島駅には車両留置ができる側線もあり、線路配置は結構複雑だ。



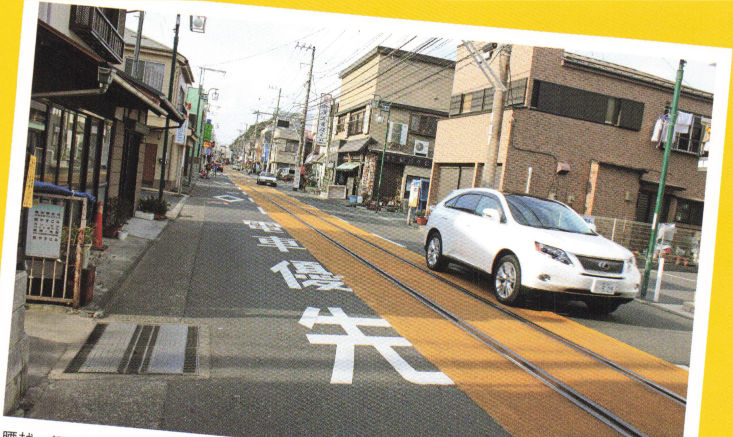
江ノ島駅のホームから望む藤沢側。この踏切は道路の交差点上に位置し、きわめて複雑な形状になっている。



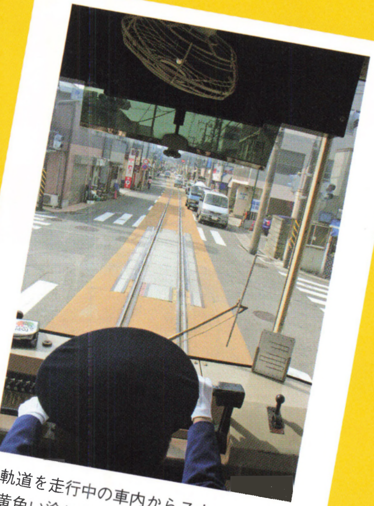
湘南海岸では１～３月の禁漁期を除きシラス漁が盛ん。界隈にはこんな看板を掲げた店も多い。



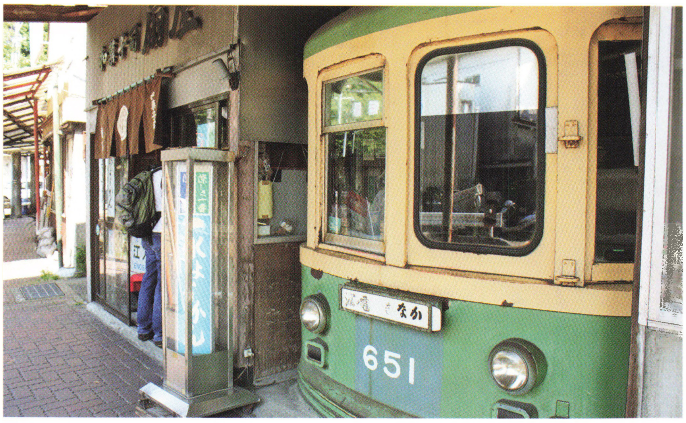
龍口寺の前からSカーブを抜け、江ノ島駅（左方向）に向かう300形。300形は昭和30年代に導入された、今の江ノ電では最古参の車両だ。道路には電車の走行範囲を示す黄色い塗り分けも施されている。



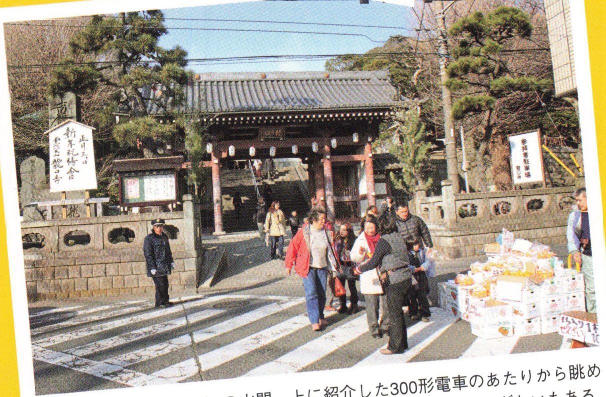
腰越～江ノ島間の併用軌道。道路には、電車の車両の走行範囲を示す黄色い塗り分けが施され、ところどころに「電車優先」の文字も見える。この塗り分けは10数年前から施行。



併用軌道を走行中の車内からスナップ。歩道部分も黄色い塗り分けとなっているのがわかる。



上に紹介したSカーブの右手にある和菓子店「扇屋」には、かつて江ノ電を走っていた651号の前面が保存されている。同店は「江ノ電もなか」で知られ、お土産にもおすすめ。



龍口寺（りゅうこうじ）の山門。上に紹介した300形電車のあたりから眺めた情景だ。龍口寺は日蓮宗の本山で、周辺は門前町としてのにぎわいもある。

ハイヤー・タクシー
伊奈観光
TEL. 24-6783
7 ELEVEN
営業24時間
禁止
列車に注意
亀ノ子鮨

江ノ電レイアウトに挑戦

江ノ電をモチーフにレイアウトを作ってみよう。工作の過程はレイアウト工作ビギナーでも気軽にチャレンジできるようDVDでも紹介。合わせて見てほしい。

Step 1　プランニング

DVD Step1

DVDでここをチェック！
⇩
材料を準備する
レイアウトのイメージを固める

1-1　材料を準備する

テーマに合わせて建物や車両を揃えよう

レイアウトを作るとき、いろいろな不安が付きまとうものだ。特に初めてのレイアウトともなれば、全体像をイメージすることもなかなかできないだろう。

そこでおすすめしたいのは、最初にある程度の材料を揃えてしまうことだ。レイアウトを作るベースボード、線路、そして使ってみたい車両や建物などを集め、現物に触れながらイメージを広げていこう。ここでどんなものが不足しているかも見えてくるはずだ。

TOMIX
3076 Tram Rail Accessories Kit 1
神社
TOMYTEC
KATO

→ベースボードをはじめ、線路、建物などを用意する。

1-2 レイアウトのイメージを固める

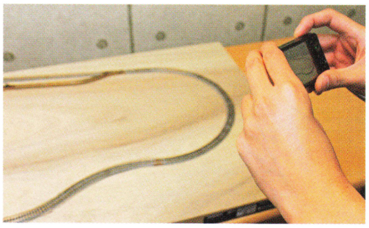
線路を仮組みしながらプランを固めていく

今回のベースボードは、レイアウト用として市販されている900×600㎜のパネルを使用。この上に思い描く鉄道の情景を作っていく。まず、ベースボード上に線路を並べ、線路配置を決めていく。今回は手放しでも運転が楽しめるプランとして、エンドレスを基本にした。きちんとした小判型では単調なので、曲線や直線の線路を組み込みながら自然な線形を探していく。そんな作業で徐々にイメージが固まっていくはずだ。

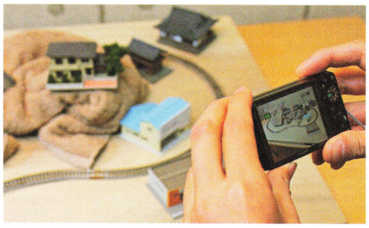
Check!

プランはデジカメで記録

線路などの配置が決まったら、デジカメやスケッチなどで記録しておこう。レイアウトの制作は試行錯誤の繰り返し。後で検討するときに必ず役立ってくる。

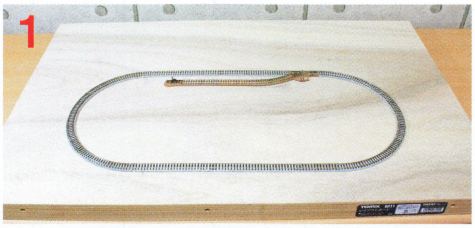


↑線路配置が決まったところでパチリ！



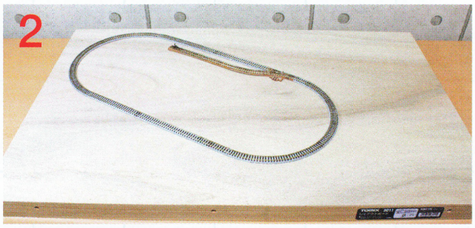
↑建物の位置が決まったところでも記録。

1



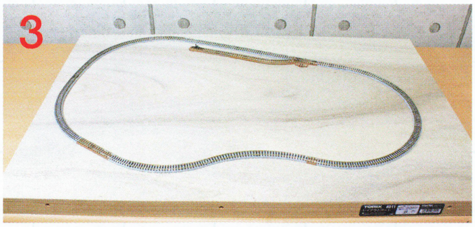
ベースボード上に小判型のエンドレスを置いてみた。エンドレスだけだと単調なので引き込み線も設けてみた。

2



直線部の線路がボードと並行にならないように置くと空間に広がりが出てくる。これを元にさらに考えていく。

3

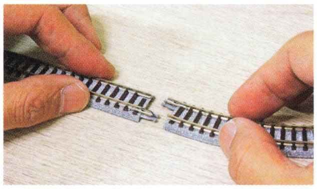


線路の形が自然に見えるよう、適当な曲線と直線の線路を追加しながら修正。地形のイメージもわいてくる。

Check!

線路の組み立て＆分解はていねいに作業すること

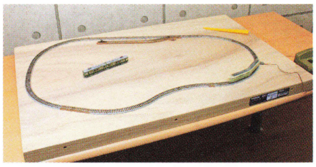
プランニング中、線路は何度も組み立てと分解を繰り返す。接続部を破損しないように注意して作業。



↑ボード上でつなぐのがおすすめ。

Check!

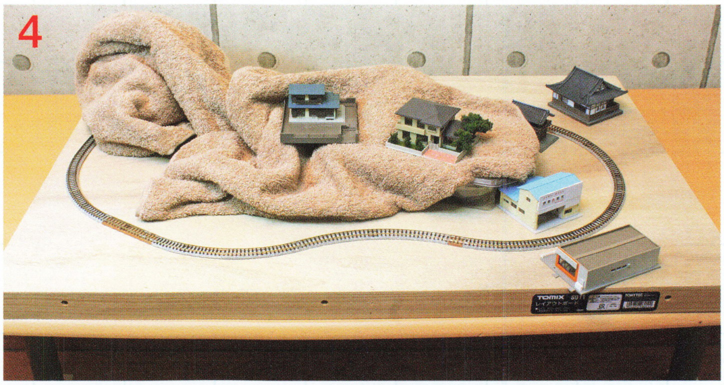
線形が決まったら走行テストも忘れずに



↑運転予定の車両を使って試運転。Sカーブも支障なく通過すれば安心だ。

作りたいレイアウトが具体的に見えてきた!!

4



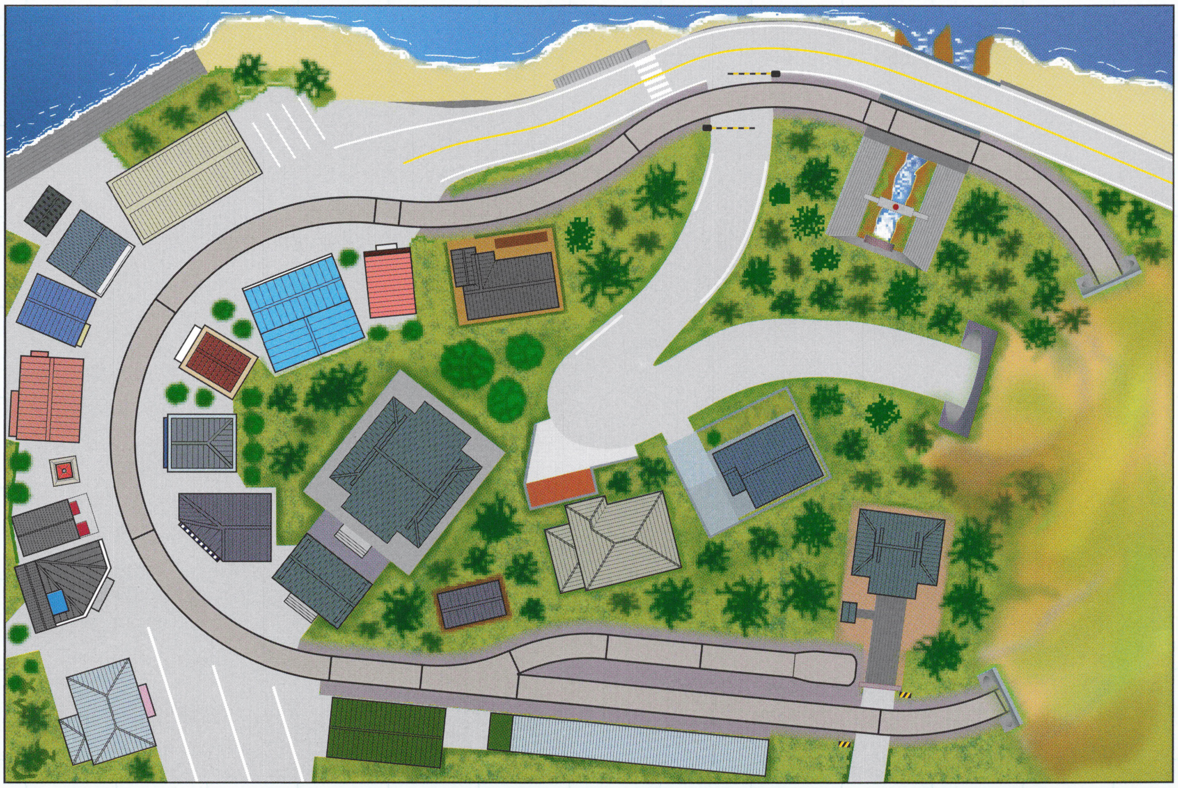
線路の配置が決まったら、山などの地形も考えていこう。これはバスタオルなどを仮置きするとイメージしやすい。さらに建物の位置なども検討する。

レイアウト工作の手順

1日5〜6時間の工作として流れを示した。毎週末工作すれば2ヶ月ほどで完成だ。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
線路	プランニング		線路敷設 試運転							線路の調整・完成!!
地形		基盤準備		トンネルの取り付け	道路土台・地形の骨組み	プラスター作業	地面の塗装			
建物					建物土台		建物の準備		建物の取り付け	
草木							草木の準備	草や砂の散布	樹木の取り付け	
アクセサリー							アクセサリーの準備		アクセサリーの取り付け	

江ノ電レイアウト線路プラン図

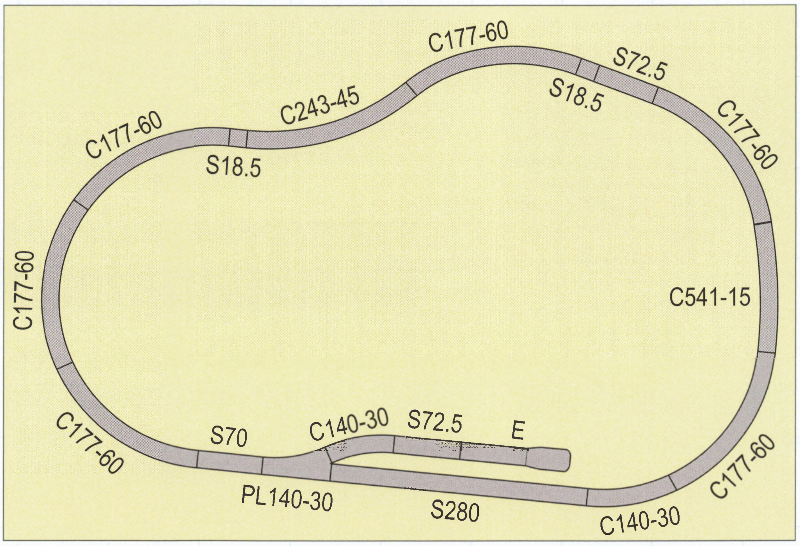


1-3 今回作ったプランについて

2両編成の小型車両を運転 各部に見どころを盛り込んだ

テーマを江ノ電としたため、車両も江ノ電が基本。そのため、市販されている江ノ電の車両をテスト、最急カーブをチェックしてからプランを固めている。これは、他のレイアウトを作るときにも忘れてはいけない、重要なポイントだ。

線路配置が決まったところで、海と山の位置も決めていく。全体のスペースは小さいが、山を目隠しのように置くことで反対側にまったく別の情景を作ることもできる。これで各部に見どころが点在する、変化のあるプランになった。


C177-60
S72.5
S18.5
C243-45
C177-60
C177-60
S18.5
C177-60
C541-15
C177-60
S70
C140-30
S72.5
E
PL140-30
S280
C140-30
C177-60

カーブ半径の決まっている道床付き線路を使いながら、できるだけ自然に見えるようにさまざまな半径の線路を組み合わせてある。なお、接続部の遊びでなんとか完結した。

江ノ電レイアウトに使った材料

品名	メーカー名	個数	単価(税込)	合計(税込)	備考
●線路関係					
直線線路S18.5	トミックス	2	¥588	¥588	S18.5とS33が2本ずつセット
〃　S70	トミックス	1	¥294	¥294	2本入り
〃　S72.5	トミックス	2	¥294	¥294	2本入り
〃　S280	トミックス	1	¥420	¥420	2本入り
曲線線路C140−30	トミックス	2	¥798	¥798	C140−30とC140−60が2本ずつセット
〃　C177−60	トミックス	6	¥798	¥2,394	C177−30とC177−60が2本ずつセット
〃　C280−15	トミックス	4	¥378	¥756	2本入り
〃　C243−45	トミックス	1	¥420	¥420	2本入り
〃　C541−15	トミックス	1	¥378	¥756	2本入り
ポイントPL140−30	トミックス	1	¥2,520	¥2,520	電動ポイント
スルーガーダー橋	トミックス	1	¥735	¥735	
車止め線路	トミックス	1	¥315	¥315	エンドレールE（F）
●制御機器関係					
パワーユニットN−1	トミックス	1	¥6,090	¥6,090	
ポイントコントロールボックスN−S	トミックス	1	¥840	¥840	
DCフィーダーN	トミックス	1	¥525	¥525	
●台枠関係					
レイアウトボード	トミックス	1	¥3,150	¥3,150	
50mm厚発泡スチロール板		1	¥756	¥756	900×600mmサイズ
3mm厚ベニア板		1	¥786	¥786	900×900mmサイズ
●地形素材関係					
プラスタークロス	ウッドランド・シーニクス	3	¥1,260	¥3,780	
焼石膏		1	¥630	¥630	
バラスト（細目）	カトー	1	¥472	¥472	
シーナリーペーパー（砂目）	カトー	1	¥787	¥787	
●建物関係					
小型駅	グリーンマックス	1	¥1,260	¥1,260	
機関区施設セット	カトー	1	¥3,885	¥3,885	8棟＋小物セット
お寺A（本堂）	トミーテック	1	¥2,625	¥2,625	ジオコレ
お寺B（鐘楼・楼門）	トミーテック	1	¥2,625	¥2,625	ジオコレ
神社	トミーテック	1	¥4,725	¥4,725	ジオコレ
近郊住宅	トミックス	1	¥1,050	¥1,050	
コンビニエンスストア	トミックス	1	¥1,680	¥1,680	
庭のある家1	カトー	1	¥1,890	¥1,890	
駅前タクシー営業所	カトー	1	¥2,573	¥2,573	タクシー2台入り
通運会社営業所	カトー	1	¥2,520	¥2,520	
火の見櫓・消防団車庫	トミーテック	1	¥1,260	¥1,260	
漁船C	トミーテック	1	¥819	¥819	
消波ブロックB	トミーテック	1	¥819	¥819	25個入り
コンクリート製の橋	トミーテック	1	¥1,260	¥1,260	
橋と小舟	グリーンマックス	1	¥1,680	¥1,680	
トンネルポータル（単線電化）	グリーンマックス	2	¥630	¥630	2個入り
三灯式信号機	津川洋行	1	¥525	¥525	2個入り
架線柱A	トミーテック	1	¥609	¥609	6本入り
架線柱B	トミーテック	1	¥609	¥609	8本入り
線路際標識	津川洋行	1	¥525	¥525	2セット入り
鉄路柵	グリーンマックス	1セット	¥420	¥420	6本入り
鉄路柵	津川洋行	1セット	¥525	¥525	6本入り
踏切	津川洋行	1セット	¥630	¥630	
無人踏切	津川洋行	1セット	¥630	¥630	2セット入り
ジオタウン・道路アクセサリーセット1	カトー	1	¥1,575	¥1,575	
外灯	津川洋行	1セット	¥525	¥525	10本入り
電柱	津川洋行	1セット	¥525	¥525	15本入り
ガードレール	カトー	1セット	¥1,050	¥1,050	
●樹木・草関係					
樹木キット広葉樹（小）	カトー	1	¥2,415	¥2,415	36本入り
樹木キット広葉樹（中）	カトー	1	¥2,415	¥2,415	14本入り
樹木キット針葉樹（中）	カトー	1	¥2,415	¥2,415	24本入り
カラーパウダー（各色）	トミックス	5	¥210	¥1,050	
ターフ（各色）	カトー	3	¥473	¥1,419	
コースターフ（各色）	カトー	3	¥473	¥1,419	
フォーリッジ（各色）	カトー	2	¥578	¥1,156	
ライケン（各色）	カトー	1	¥893	¥893	
合計				¥80,737	

＊上記の建物のほか、現在発売されていない製品なども数点使用しています。

Step 2 ベースボードの準備

DVD Step2

DVDでここをチェック！
⇓
ベースとなる発泡スチロールを加工する
外壁を取り付ける

2-1 ベースボードに線路配置などを描く

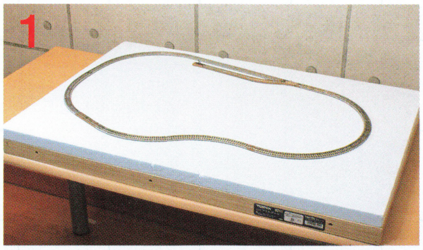
最初に線路をトレース 道路や地形のイメージも描く

いよいよ本格的なレイアウト工作のスタートだ。

今回のレイアウトは海を作るために線路をベースボードより一段高い位置に設置することにした。この基盤は建築の断熱材として市販されている発泡スチロールを使用することにした。適度の固さがあり、加工もしやすい。

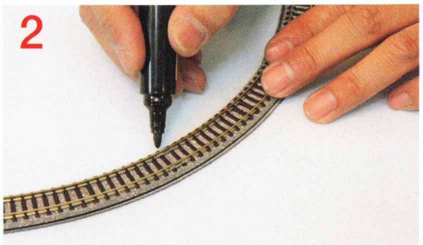
ベースボードと同じ大きさの発泡スチロールを用意、まずStep1で考えたプラン通りに線路を配置する。それから油性マーカーなどでその位置をトレースしていく。線路を描き終えたら、道路や海岸線、川、トンネルなど地形に関わるものも描いていく。

1



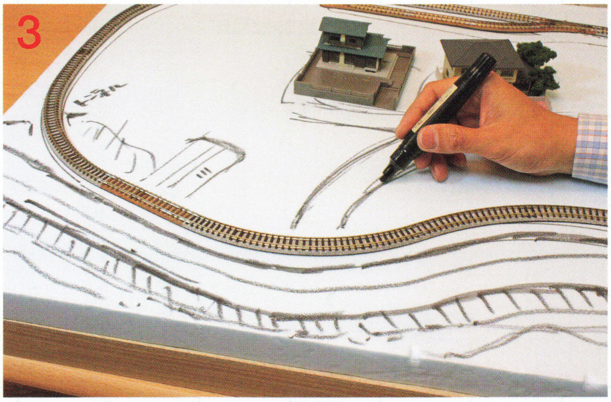
発泡スチロール上にプラン通りに線路を配置する。

2



線路の位置を油性マーカーなどでなぞっていく。

3



線路を描き終えたら、引き続き、道路や海岸線、川、トンネルなど地形に関わるものもイメージをふくらませて描いていく。

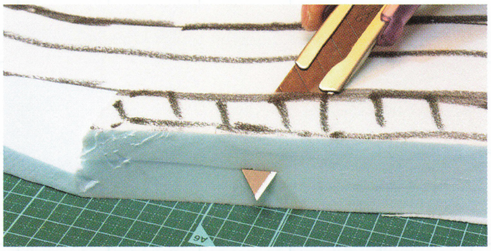
2-2 ベースとなる発泡スチロールを加工する

カッターナイフを使うときは 十二分に注意して作業

発泡スチロールの基盤より標高が低くなる海や川の部分をカットする。ちなみに標高が高くなる部分は、発泡スチロール上にさまざまな素材でかさ上げして表現していくことになる。

発泡スチロールの切断は、ニクロム線で焼き切る専用の道具がある。安全に手早く加工できるので、できればこの道具を使うのがおすすめだ。

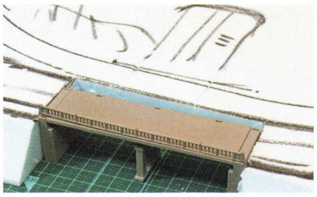
しかし、特殊な道具なので、作例では刃の大きなカッターナイフを使うことにした。写真のように刃をやや長めに出して使用するため、刃が非常に折れやすい。無理な力を入れず、だましながらカットしていく。



刃を折らぬように注意しながらカッターナイフで加工。

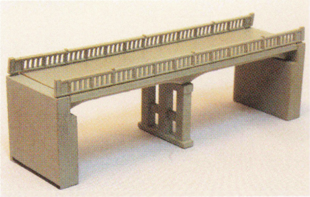
Check！ この段階で川の部分も加工

川の製作で厄介なのは橋梁などの構造物だ。発泡スチロールを加工するとき、使用する橋梁を用意、現物合わせで検討を重ねながら作業する。



使用する橋梁を当てながら基盤を加工していく。

Check！



市販されている道路橋を活用。

地形に関わる素材は 早めに用意するのがコツ

レイアウトで使用する素材は、作業工程に合わせて用意してもいいが、地形に関わる素材は先に用意しておくほうが便利だ。例えば、ここで紹介した道路橋は川の基盤を加工するときに関わってくるものだ。イメージだけで加工してしまうと、うまく橋が架からなくなったり、後の調整が大変になってしまう。

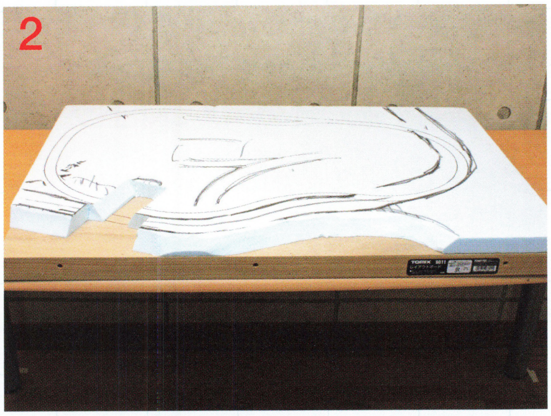
2-3 発泡スチロールをベースボードに取り付ける

木工用接着剤や発泡スチロール用接着剤で

整形した発泡スチロールをベースボードに取り付ける。この取り付けには木工用接着剤か発泡スチロール用接着剤を使用する。ちなみにゴム系の接着剤などを使用すると、発泡スチロールが溶けてしまうこともあるので要注意。

なお、広い面積の発泡スチロールを接着するとき、接着剤の硬化に時間がかかる。この面積なら一昼夜置いても中央部は生乾き状態になっていることもある。位置がずれないように、ガムテープなどで仮止めしておくのがおすすめだ。

接着面に木工用接着剤を塗る。

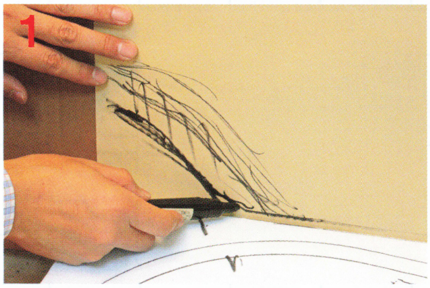


ベースボードに整形した発泡スチロールを接着。接着剤が完全に硬化するまで、仮止めして、ずれを防ぐ。

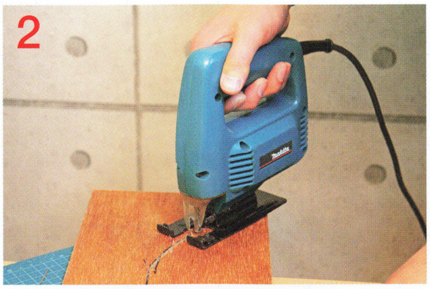
ボンド
木工用 速乾
倍速!強力!
セメダイン
木工用
速乾

発泡スチロールの接着に便利な木工用接着剤。速乾性のほうが、硬化は気持ち早い。

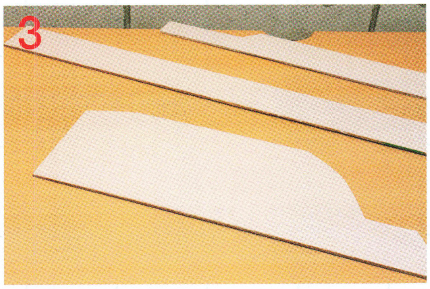
2-4 外壁を取り付ける



適当な紙を当て、山のイメージを描いていく。



紙を型紙として、ベニヤ板を加工する。

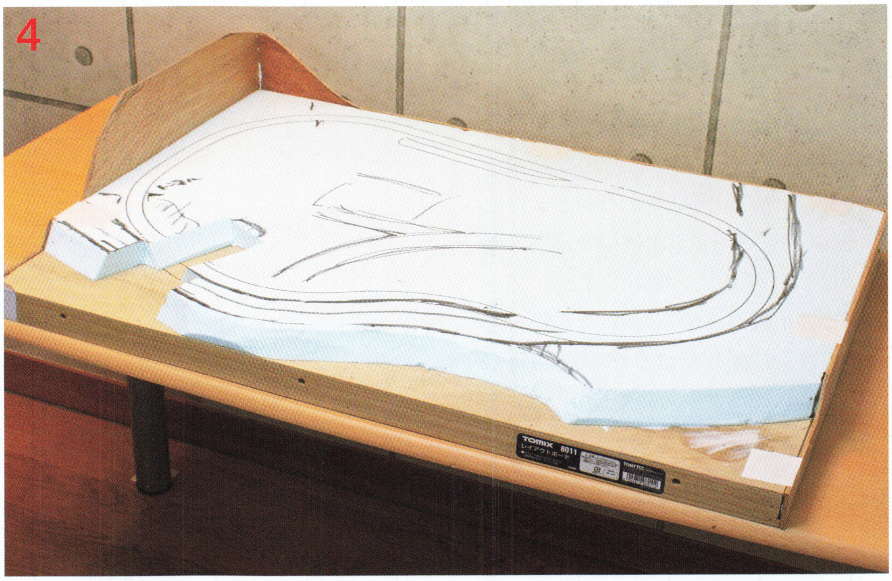


加工を終えたベニヤ板。

レイアウトの保護にもなるのでベニヤ板を使うのがおすすめ

基盤となる発泡スチロールの取り付けが終わったところで、ベースボードの周囲にベニヤ板による外壁を取り付ける。外壁はレイアウトの見た目をよくする目的もあるが、山などの破損を防ぐのにも役立つ。特にこのような小型レイアウトでは有効だ。

初めに適当な紙を当て、山の稜線を描く。気に入った稜線が描けたところで、その紙を型紙としてベニヤ板を整形する。直接ベニヤ板の加工に入ると、取り返しの付かない失敗をしてしまうこともあるが、この方法なら安心だ。



ベニヤ板の取り付けも木工用接着剤が便利だ。硬化するまで、適宜ガムテープなどで固定しておく。

Step 3　線路の敷設

DVD Step3

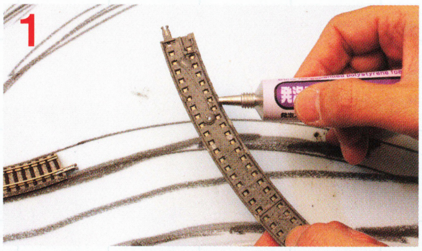
DVDでここをチェック！
⇓
建物の位置を決める
併用軌道を取り付ける

3-1 線路を取り付ける

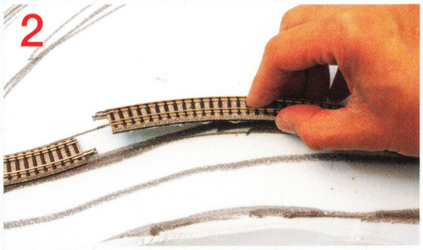
発泡スチロールの基盤に線路を接着する

線路を所定の位置に取り付ける。これは線路を完全に組み上げた状態で一度に行なうより、ある程度のブロックごとに行なうほうが簡単だ。

線路の取り付けは、釘を使う方法もあるが、今回は基盤が発泡スチロールとなっているため、発泡スチロール用接着剤を使った。線路の裏に接着剤を塗り、ちょっと乾いたところで押し付けるようにすれば簡単に固着できる。線路を取り付けるとき、線路同士がしっかりつながるように注意して作業しよう。



線路の裏に発泡スチロール用接着剤を塗る。

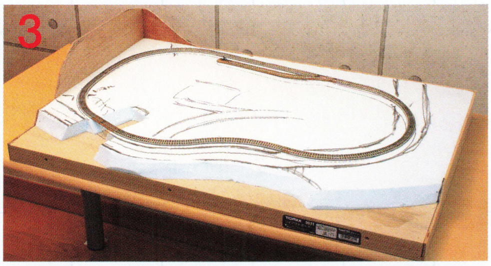


接着剤をちょっと乾かしてから固着していく。

Check！ 発泡スチロール接着は専用接着剤で

発泡スチロール用ボンド
発泡スチロールとその他材料の接着に
透明タイプ / Clear Type

市販の発泡スチロール専用接着剤。



線路取り付けが完了した状態。

3-2 建物の位置を決める

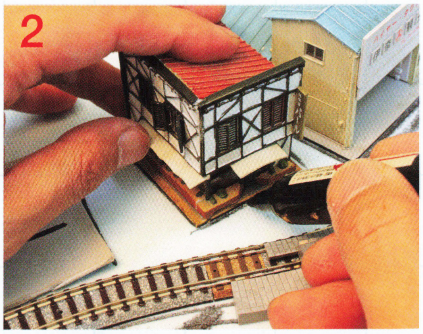
あらかじめ準備した建物を仮置きしてみる

建物などをレイアウトに仮置きして位置を検討する。このとき、すべての建物が完成状態で揃っているのがベストだが、もしも間に合わなかったら、建物の土台だけ置いてみたり、スペースに合わせて切り取った紙で代用する。

今回のレイアウトでは併用軌道があるので、建物の位置はかなりシビアになる。右ページで紹介した併用軌道用の基盤なども仮置きして検討しよう。

建物の位置が決まったら、その位置をレイアウトに記しておく。作例では見やすいように油性マーカーを使用したが、建物の縁を汚してしまうこともある。後で補修することもできるが、4Bぐらいの柔らかい鉛筆を使い、建物の縁が汚れてもすぐに取れるように考えておくほうが無難だ。

このレイアウトのために用意した建物。



建物の位置が決まったら、その位置を記しておく。

Check！ 建物はできるだけ完成状態に準備しておく

レイアウトの建物は、完成品やキットの状態で発売されている製品を使うのが便利だ。キットの場合、あらかじめ完成状態に組み上げておくと作業効率があがる。キットの組み立て方は81ページでも紹介している。

TOMYTEC
N
街並み
第3弾

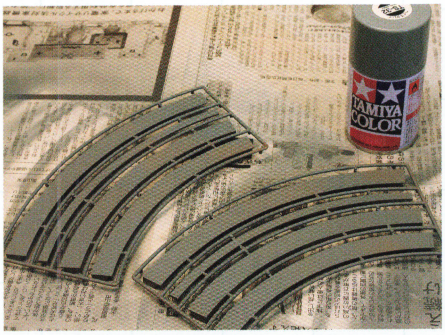
Nゲージのレイアウトで使える建物はいろいろな製品がある。写真のようにプラ製のキットも多い。

3-3 併用軌道用の石畳パーツを塗装する

プラスチックの製品に塗装で質感を演出する

併用軌道は、専用に作られたトミックス製の石畳パーツを利用した。このパーツはプラ製なので、塗装によって石らしい雰囲気を加えてから使用する。なお、現在の江ノ電の併用軌道は識別しやすいように黄色で塗られているが、今回は石畳の質感を活かすことにした。

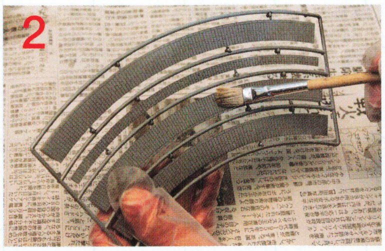
塗装は、最初にベースとなる色を塗り、墨入れ、ドライブラシの順に仕上げていく。全工程を終えるとプラの質感は消え、石畳らしい雰囲気になってくる。



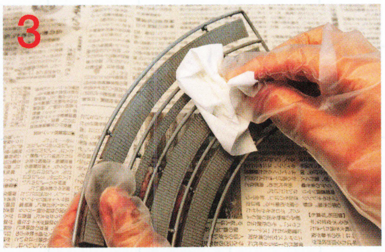
缶スプレーで全体をざっくりグレーに塗る。塗料は艶消しを使うが、ないときは最後に艶消しクリアーで処理。

墨入れ

艶消し黒のエナメル塗料と専用溶剤を用意。



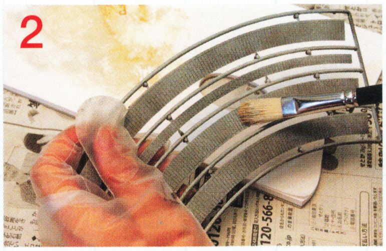
薄めた塗料を全体にざっくり塗る。



すぐにティッシュで拭い、凹部に塗料を残す。

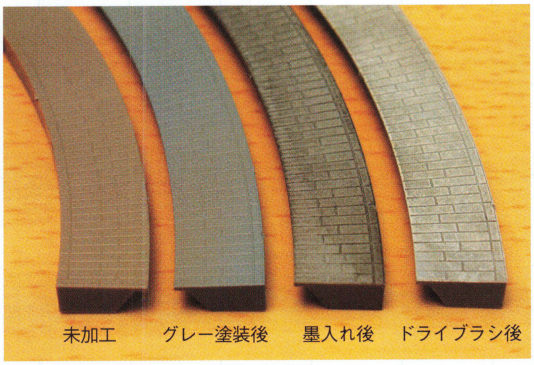
ドライブラシ

アクリル絵の具と腰の強い筆を用意。



筆にかすかに塗料が残った状態でこする。

効果の様子を比較してみよう

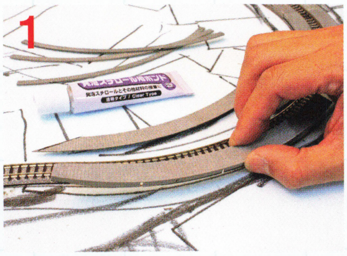


→左から未加工、グレー塗装、墨入れ、ドライブラシと行なった状態。仕上がると石畳の質感が出る。

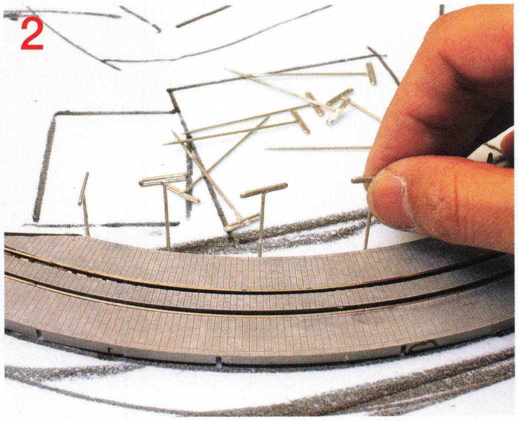
3-4 併用軌道用の石畳パーツを取り付ける

この取り付けも発泡スチロール用接着剤で

併用軌道用の石畳パーツの取り付けも発泡スチロール用接着剤を使う。なお、接着剤を付ける前に必ずひとつずつ取り付け位置を確認すること。もし、石畳パーツがレール面より出っ張っていたら、裏面を削るなどして調整しておくこと。また、接着剤が硬化するまで、ピンで止め、ずれないように注意しよう。



↑専用軌道用の石畳パーツを発泡スチロール用接着剤で取り付けていく。



→接着後、完全に硬化するまでピンなどで仮止めしておこう。

Step 4　地形の工作

DVD Step4

DVDでここをチェック！
⇓
トンネルを作る／道路を作る
川を作る／岩を作る

4-1 トンネルを作る

トンネルポータルは取り付け前に塗装する

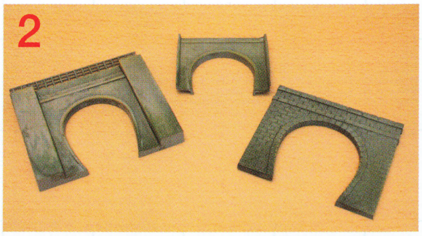
レイアウトにトンネルを作るときは、山を作る前にトンネルポータルや内壁を取り付けておく。

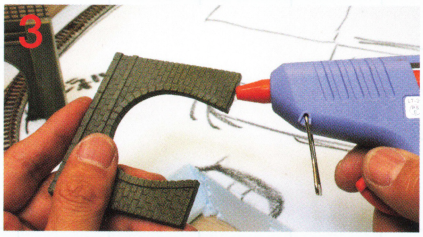
トンネルの出入り口となるトンネルポータルは、各社からいろいろなスタイルの製品が発売されている。トンネルの穴の大きさは、メーカーや製品によって異なるので要注意。レイアウトに仮置きして、車両の運転に支障のないことを確認してから使うようにしたい。なお、併用軌道用の石畳パーツと同じ手順で塗装してから使う。

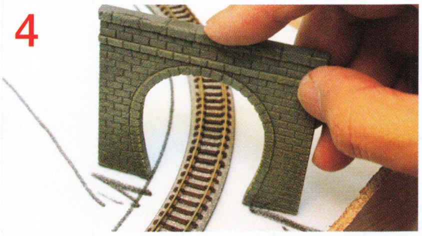
トンネルポータルの取り付けはホットグルーを使用した。硬化が早く、強度もあり、レイアウト工作には欠かせない道具だ。ホットグルーやグルーを溶かすグルーガンは、日曜大工用品や手芸用品を扱っているショップで入手できる。

1

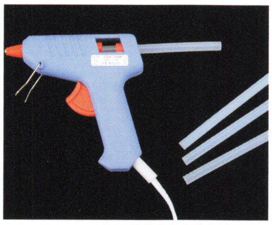
トンネルポータルは各社から発売されている。

2

取り付け前に石畳パーツの手法で塗装しておく。

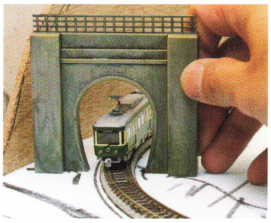
3

取り付けはホットグルーが便利だ。

4

グルーを塗って固定してやるとすぐに硬化する。

Check！ ホットグルーが便利!!


ホットグルー（右）とグルーガン。ホットグルーはグルーガンに入れて、使う。

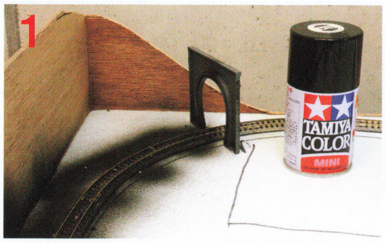
Check！ 取り付け前にチェック!!

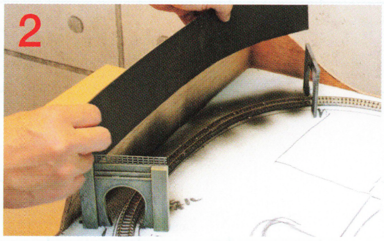

トンネルポータルを仮置き、車両を走らせ、パンタグラフなどが接触しないか必ずチェックする。

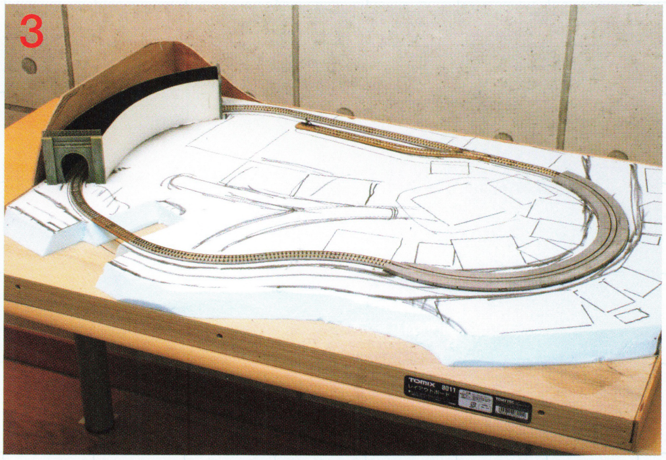
4-2 トンネル内を塗装し、内壁も取り付ける

リアルなトンネルを作るための一工夫

トンネルポータルをいくらリアルに作っても、トンネルからレイアウトの舞台裏が見えてしまったら興醒め。そこで、トンネルポータルから覗き込める部分だけでも内壁を作ろう。地面を黒く塗り、黒く塗ったボール紙の内壁を付けるだけだが、これでトンネルらしい雰囲気になってくる。

1

トンネル部の地面を缶スプレーで黒く塗る。

2

黒く塗ったボール紙で内壁を作る。

3

トンネルポータルとトンネルの内壁などができた状態。

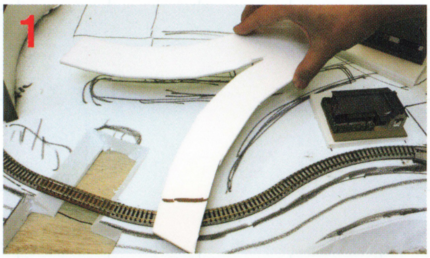
4-3 建物や道路の土台を作る

薄手の発泡スチロール板で道路などの土台を作る

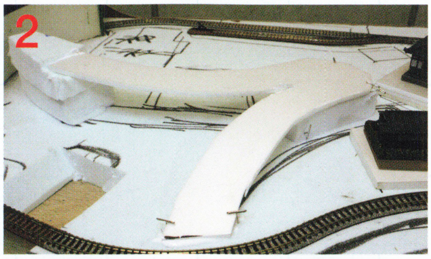
発泡スチロールの基盤より高い位置に設置する建物や道路の土台を作る。

建物の土台は、発泡スチロール板を貼り重ねて作る。ポスターなどのパネル用として糊の付いている発泡スチロール板を使うと接着も簡単だ。

レイアウトの中央部に位置する道は、坂のある山道となる。これも発泡スチロール板で道路の土台を作る。最初に適当な紙で型紙を作り、仕上がりの様子をよく検討する。この型紙に合わせて発泡スチロール板を切り抜き、取り付ける。



発泡スチロール板で道路の土台を作る。



木工用接着剤で接着、硬化までピンで仮止め。

Check！

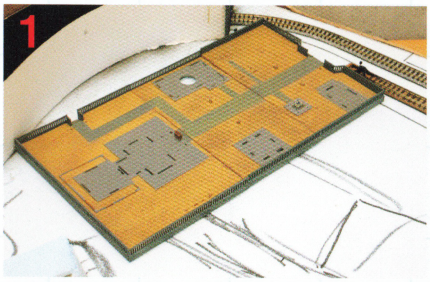
Subterrain

勾配作りに便利な「サブテレイン」。

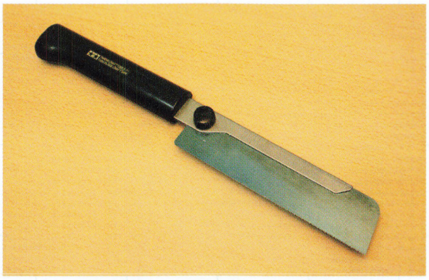
勾配区間を作る専用素材 サブテレインも使ってみたい

線路に勾配を付けるために開発された専用の発泡スチロール素材もある。蛇腹状になっており、左右自由に曲がるのがミソ。商品名は「サブテレイン」。ホビーセンターカトーなどで取り扱っている。

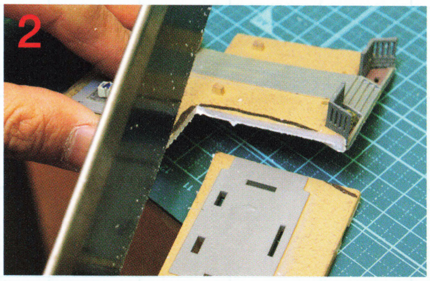
4-4 建物の土台も地形に合わせて整形



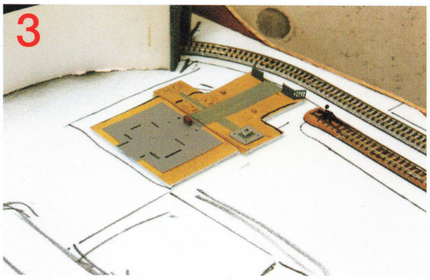
作例は神社。本殿から神楽殿まで揃い、かなり大きい。



プラ工作用のレザーソー。模型店で入手できる。



レイアウトのスペースに合わせて切り刻んでいく。

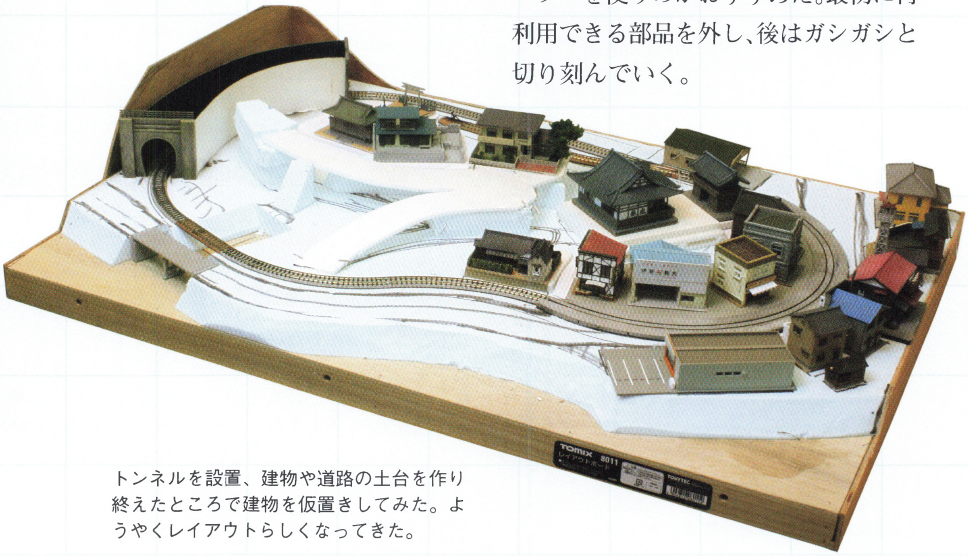


加工を終え、ぐっと小さくなった神社の土台。

使える部分を活かしつつ土台を切り刻んでいく

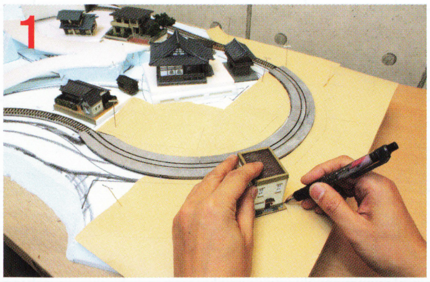
製品の中には、土台まで一体に作られた建物もある。石畳や階段が表現されたものもあり、これはうまく活用したい。一方、レイアウトのスペースに合わない ケースも多い。これは小さく切り刻みながら使うことになる。

こうした加工にはプラ工作用のレザーソーを使うのがおすすめだ。最初に再利用できる部品を外し、後はガシガシと切り刻んでいく。

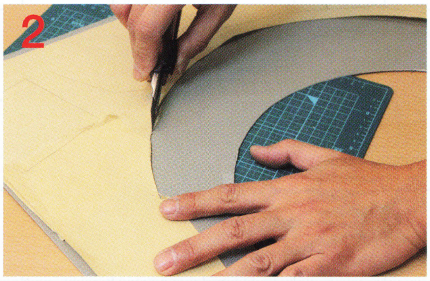


トンネルを設置、建物や道路の土台を作り終えたところで建物を仮置きしてみた。ようやくレイアウトらしくなってきた。

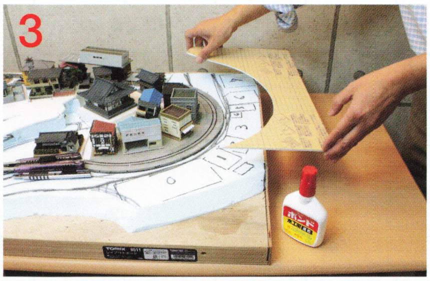
4-5 道路を作る



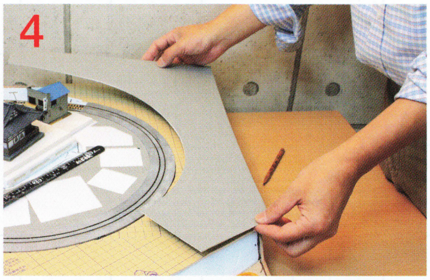
適当な紙で道路の型紙を作る。建物の位置もメモ。



型紙に合わせて道路となるボール紙などをカット。



最初に道路の高さを調整する素材を貼る。



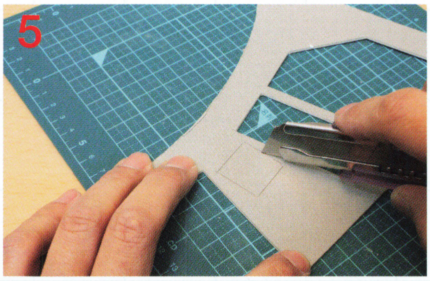
道路となる厚紙を仮置きしてカーブなどを確認。

道路はグレーの厚紙で表現 形を整えてから貼っていく

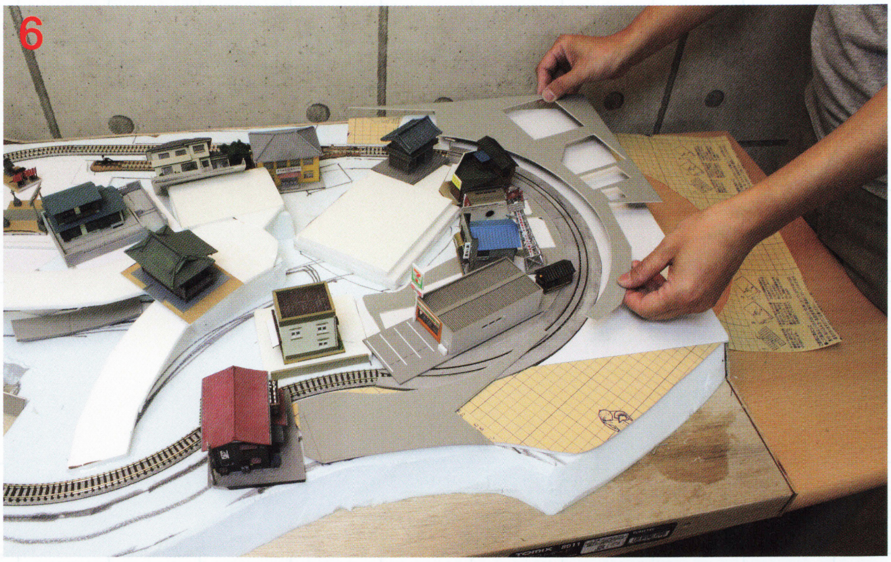
地形作りに取り掛かる前に、道路をある程度まで仕上げておく。

今回のレイアウトでは、道路をグレーの厚紙で表現することにした。併用軌道部分は石畳と同じ高さになるように取り付けるのがポイント。適当な厚紙や発泡スチロール板で高さを調整しながら取り付けてある。

また、商店街に並ぶ建物は既製品を利用したが、ほとんどが土台付きだった。道路と自然な感じでつながるように周辺をグレーの厚紙仕上げとして建物は厚紙に穴をあけて取り付けてみた。

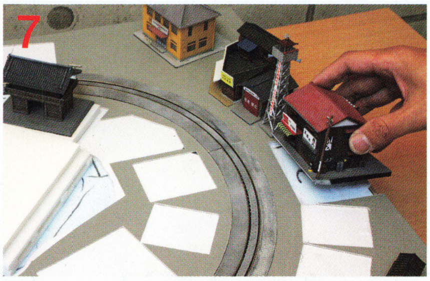


整形した厚紙からさらに建物の土台部分を切り抜く。

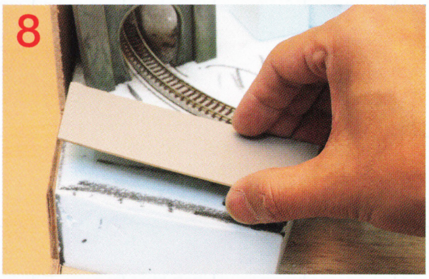


土台部分が窓あきとなった厚紙をレイアウトに取り付ける。ずれないように要注意。

道路や商店街の地面はグレーの厚紙で作る



窓の部分に建物を埋め込むように置き、確認する。

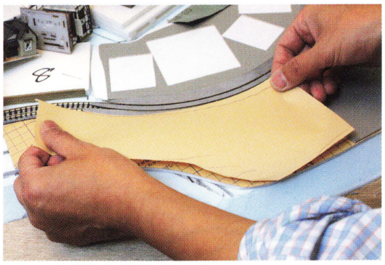


海岸沿いの道路も厚紙で表現した。

Check!

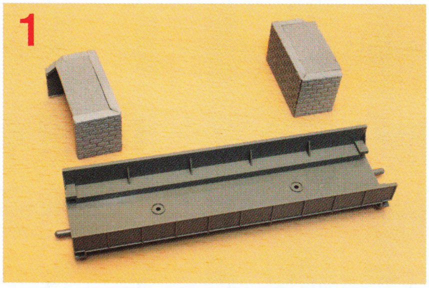
複雑な形を作るには 型紙チェックが欠かせない

記事中でもたびたび紹介しているが、型紙によるチェックは複雑な形状のものを作るときに欠かせない。型紙で形や大きさをチェック、満足のいくものを作り、それを元に本番で使う素材を加工すれば、初心者でも失敗しない。

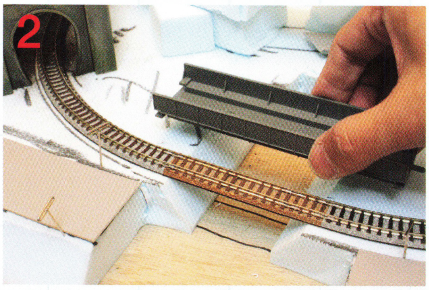


→面倒がらずに必ず型紙でチェックする。

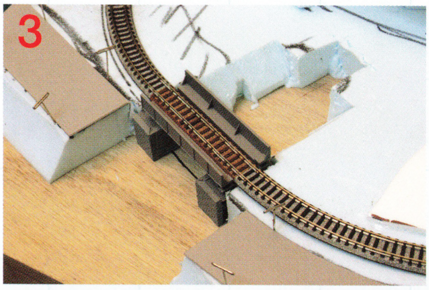
4-6 川を作る



鉄橋は製品を利用、橋台はプラ材で自作した。



製品の鉄橋はこの水路には大きいので短縮して使用。



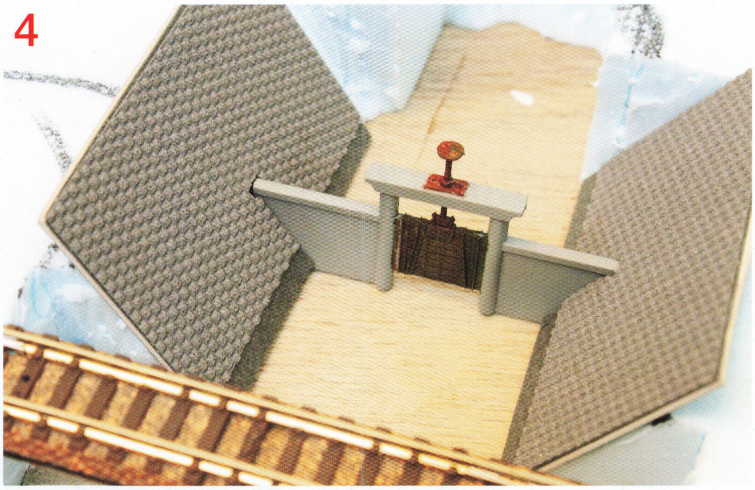
鉄橋と橋台を設置した状態。

川の工作は鉄橋や橋台など構造物の準備からスタート

このレイアウトではスペースが限られていたので、一般的な川というよりは水路のイメージだ。それでも工作の手順は基本的に変わらない。

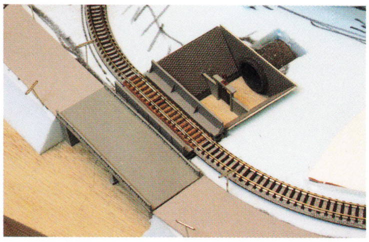
この水路には鉄道と道路と2つの橋が架かっている。特に鉄道の橋は線路の位置が決まっているため、それによる制約も大きい。まずはこうした制約のある部分から作っていく。用意した橋はやや大きかったので、レイアウトに合うように短縮。橋の位置と大きさが決まったところで、橋台を設置する。同様に道路橋も加工しておく。

土手となる部分は都市部という想定から石積み表現とした。水の出てくる土管はアルミホイルを巻いてあった芯材を利用。水面や川原の表現は海と同時に加工したので、78ページや87ページを参照していただきたい。海と違うのは流れの表現や川岸の草の有無だ。



土手は石積み表現とした。これは歩道用として売っている素材を使用。変化を付けるため、水門も設置。これはグリーンマックスの製品を塗ったものだ。

Check！

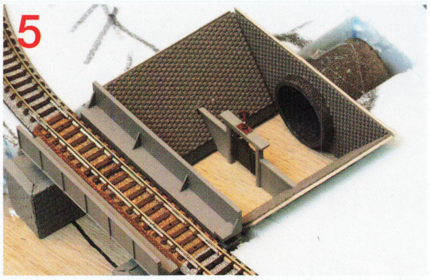


道路と鉄道の橋を仮置きした状態。

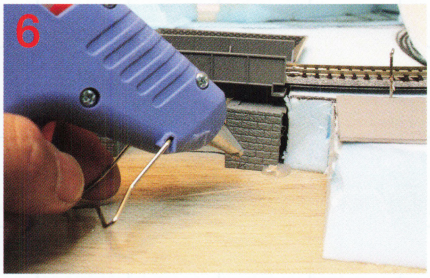
鉄橋などは接着前に仮置きして詳細検討

鉄道の橋は取り付け後に不具合が生じると運転状態にも関わってくる。まずは仮置きした状態で試運転、問題のないことを確認してから取り付けるようにしたい。

その点、道路の橋は見た目がおかしくなければ問題ないので気楽に工作できる。

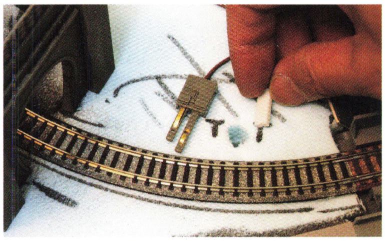


アルミホイルを巻いてあった芯材利用の土管も設置。



橋台や土手の取り付けはホットグルーを使用した。

Check！



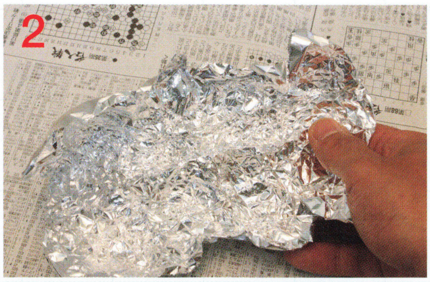
コードはレイアウトの裏側に通すと目立たない。

フィーダー取り付け位置はメンテナンスも考えて決定

ここまでできたところで、運転用のフィーダーも取り付けてしまおう。コードは基盤に穴をあけ、ベースボードの裏側に出しておくとすっきり仕上がる。一度取り付けてしまったら外す必要はほとんどないが、取付位置はやはり扱いやすい場所がいい。

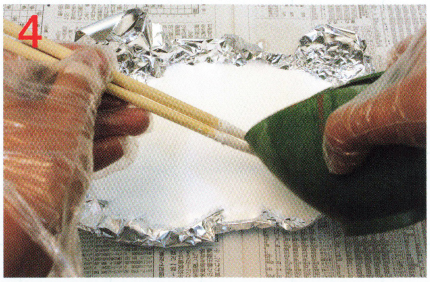
4-7 岩を作る

石膏、溶かす容器、アルミフォイルなどを準備。



アルミフォイルをくしゃくしゃにして型を作る。

水に石膏を入れ、溶き合わせる。



どろどろになった石膏を型に流し込み、硬化させる。

アルミフォイルを型にして石膏を固めて岩にする

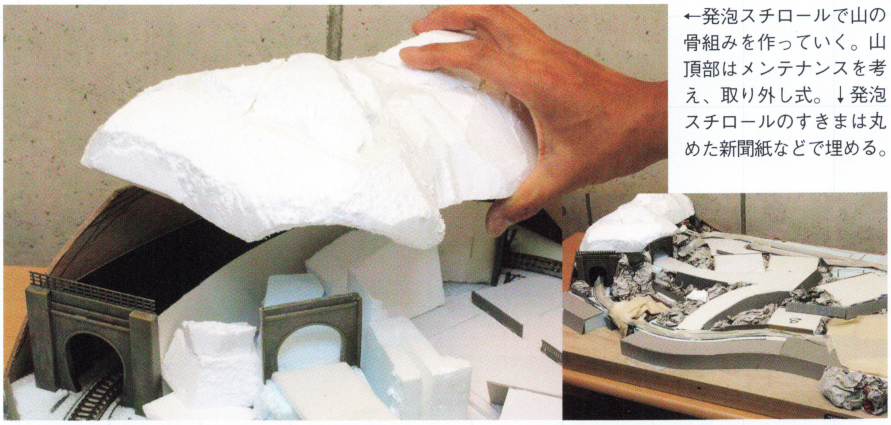
露出した岩の作り方はいくつかあるが、ここでは石膏を固めて岩の素材を作ってみよう。できあがった岩は山の基盤などに接着して使用する。

ごつごつした岩肌を表現する型は、ゴム製のものが市販されているが、ここでは料理などで使うアルミフォイルで自作した。自作といっても、くしゃくしゃにしてから皿状に広げるだけ。広げるとき、アルミフォイルを破かないように丁寧に作業するのがポイント。ここに溶かした石膏を流し込み、硬化を待てば岩が完成だ。

4-8 地形の基盤を作る

発泡スチロールや新聞紙で山の骨組みを構築

発泡スチロールで山となる地形の骨組みを作っていく。発泡スチロールのすきまは、丸めた新聞紙などを埋め込めばOK。今回は右ページのようにプラスタークロスで仕上げるため、このあたりの工作はラフなものでも問題ない。なお、トンネル部のメンテナンスを考え、山頂部は取り外し式とした。

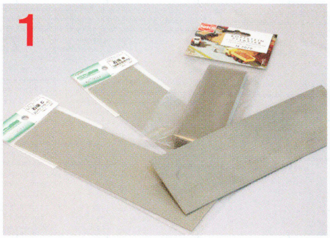


←発泡スチロールで山の骨組みを作っていく。山頂部はメンテナンスを考え、取り外し式。↓発泡スチロールのすきまは丸めた新聞紙などで埋める。

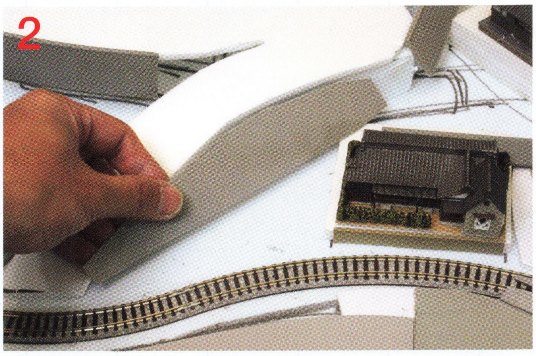
4-9 石垣などを取り付ける

地形の骨組みに石垣や岩を接着していく

石垣や護岸といった地形に関わる構造物を取り付ける。これは市販の素材を使ったが、プラシートや厚紙などで自作することも可能だ。また、石膏で自作した岩もこの段階で取り付けてしまおう。こうした石垣や岩の接着はホットグルーが便利だ。



石垣や護岸は、さまざまなパターンのものが、製品化されている。



市販の石垣を使用サイズに整形して接着していく。

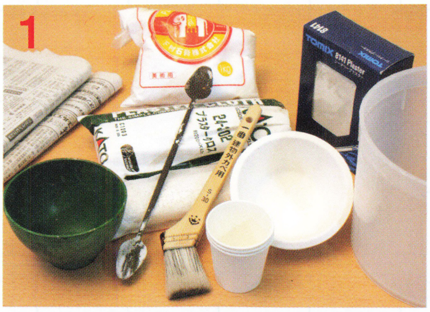
4-10 プラスターで地面を作る

地形の骨組みを プラスタークロスで覆う

地形の骨組みとなる基盤が完成、さらに石垣や護岸、岩などを取り付け終わったところで、全体をプラスタークロスで覆う。プラスタークロスとは、ガーゼ状の素材に石膏の粉を付着させたレイアウト用素材だ。水分を与えることで硬化、山の地肌とすることができる。作例程度の山ならプラスタークロスが3～4枚重なるように覆えば、強度も十分だ。

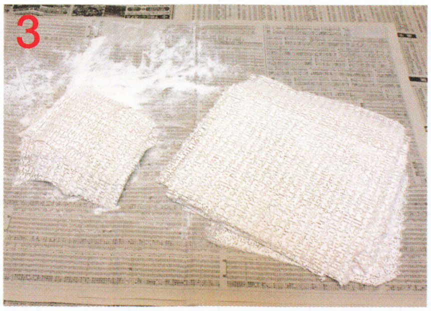
プラスタークロスはロール状になって発売されているため、ハサミで適当な大きさに切っておくと扱いやすい。これを水に浸してから貼り重ねていく。また、プラスタークロスを乾いた状態でレイアウトに置き、霧吹きで濡らすという方法もある。どちらでもちゃんと硬化するので、やりやすい方法で作業していこう。

なお、プラスタークロスを入手できないときは、適当な大きさに切った新聞紙などを、水で溶いたプラスターや石膏に浸して貼り重ねていく。これでも同様の仕上がりが得られる。

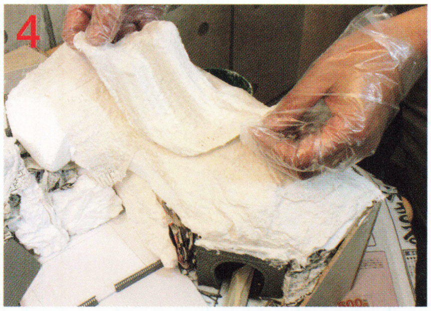


プラスターなどの他、水を入れる容器も用意する。

2
PLASTER CLOTH
KATO
24-302
プラスタークロス
プラスタークロス。ロール状で発売されている。

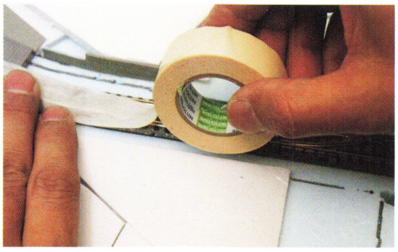


プラスタークロスは適当な大きさに切って使う。



水に浸したプラスタークロスを貼り重ねていく。

Check! 線路はプラスター作業前にマスキングしておく



プラスター作業は水を使う。この水が直接線路にかかると、隙間に滲み込み、錆などの原因となってしまう。また、溶けたプラスターが付いてもやっかいだ。特にポイント部などでは脱線や故障の原因となる。プラスター作業の前に線路をマスキングテープで覆っておくといい。

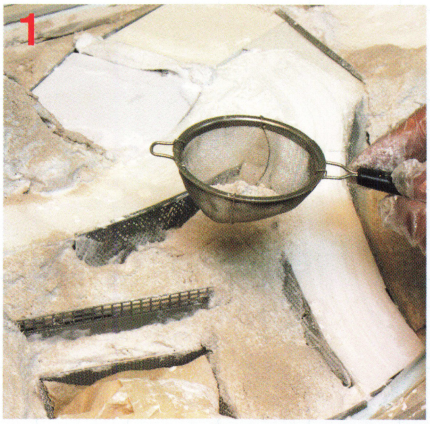
←線路は必ずマスキングしておく。

4-11 地面の表面を仕上げる

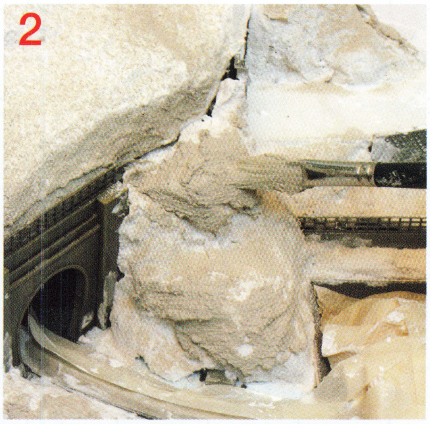
粉を撒き、プラスターを塗って 地面の細部を表現していく

プラスタークロスは水に浸してから数十分で硬化する。この状態ではプラスタークロスのガーゼ状の素材が見えてしまうので、表面を仕上げていこう。

簡単なのはプラスターの粉を撒布する方法。最初に霧吹きでプラスタークロス面を濡らし、茶漉しで粉を撒く。これで地面らしくなる。岩肌を表現するときは、溶いたプラスターを塗る。



茶漉しにプラスターや石膏の粉を入れ、撒布する。



溶いたプラスターを塗って岩肌を表現する。

Step 5　地面を仕上げる

DVD Step5

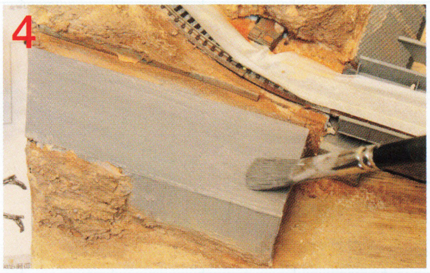
DVDでここをチェック！
⇓
水面を塗装する
砂浜を作る

5-1 地面を塗装する

地面の塗装などに使うアクリル絵の具。

地面を塗装するときは水で薄く溶いて使う。

広い面積を塗るときは刷毛があると便利だ。



道路用の水性グレインペイントは原液状態で塗る。

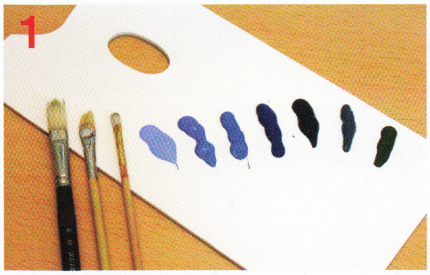
塗料はアクリル絵の具など水性が扱いやすい

　プラスターが完全に硬化したら、地面を塗装する。この塗料は水性のアクリル絵の具などが使いやすく、おすすめだ。

　アクリル絵の具を水で溶き、それを刷毛で塗っていく。面積が広いので、ペンキ用の刷毛を使うと効率的だ。絵の具は薄く溶き、プラスターに染み込ませるような感じで塗っていく。

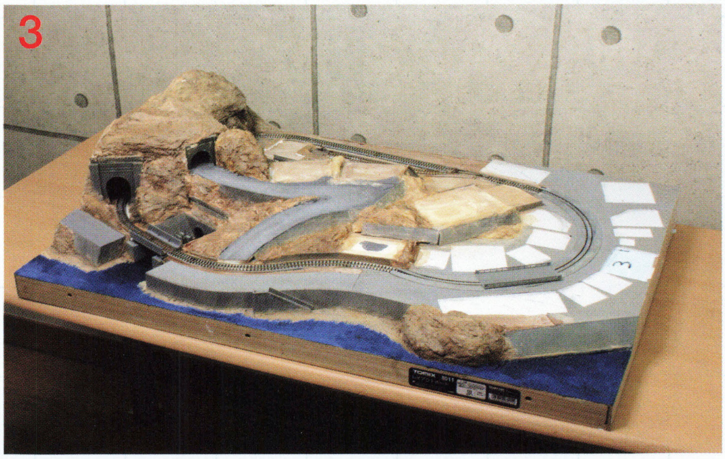
　道路は模型工作用として販売されている専用塗料（水性グレインペイント）を使った。塗料そのものは水性アクリル系だが、砂状の粉が混ぜてあり、道路のようなざらついた仕上がりになる。

5-2 水面を塗装する



水面の塗装に使うアクリル絵の具。

アクリル絵の具を原液の状態で塗っていく。



←海から水路にかけて水となる部分を塗り終えた状態。青や緑系の絵の具を使い、わざとむらの出るように塗っている。

　実物の水辺をよく観察し、さらに自分のイメージを盛り込んで塗っていこう。

水面はアクリル絵の具を薄めずに原液で塗っていく

　地面の塗装が終わったら、水面となる部分を塗装する。なお、地面の塗装が乾いていないと、水面を塗装したときに地面の色が浮いてくる場合もある。地面を塗ってから一昼夜ほどあけてから水面の作業に入るのが無難だ。

　水面の塗装もアクリル絵の具を使ったが、地面を塗るときと違い、絵の具を水で薄めず、原液で塗っていく。もし、絵の具の伸びが悪いようなら、筆を湿らせる程度の水でのばす。

　水の色決めは難しく、本物の水を再現するというより、水のイメージを絵画のように描いていく感覚だ。単純な青ではなく、水色から緑色などを混ぜ、わざとむらが出るように塗るほうがそれらしく見えるようだ。

5-3 水面を仕上げる

木工用接着剤で水面のツヤと透明感を出す

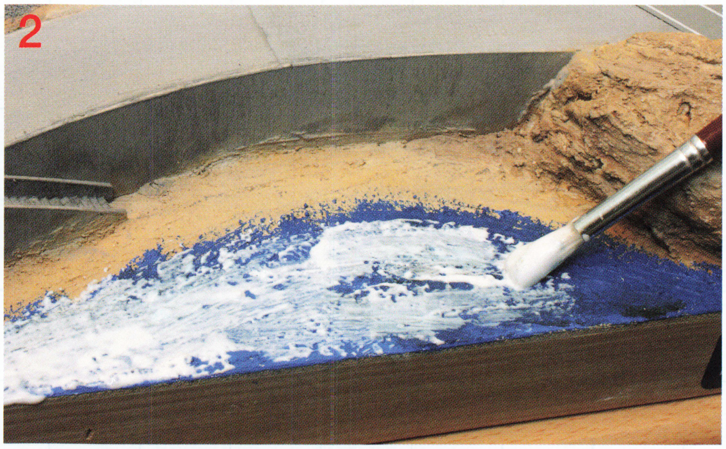
水面として塗ったアクリル絵の具が完全に乾いたところで、さらに表面のツヤを出し、水らしさを演出してみよう。

ツヤ出し塗料としては、ニスやクリアラッカーも使われるが、ここでは木工用接着剤を使用した。木工用接着剤は乾燥すると透明になり、ツヤも出てくる。

木工用接着剤は原液のまま塗り、表面が生乾きのとき、わざと刷毛目が出るようにさらに筆でこする。表面が凸凹になり、さざ波のような雰囲気が出せる。

倍速!強力!
セメダイン
木工用
速乾
CCS

1 木工用接着剤は原液のまま使用する。速乾性タイプがおすすめだ。



2 木工用接着剤を筆で塗っていく。生乾きのとき、刷毛目が出るようにさらにこする。

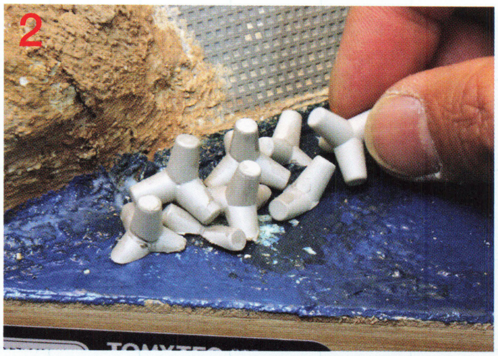
5-4 漁船や消波ブロックで海を演出

水面が完成したところで水辺の小物を取り付けていく

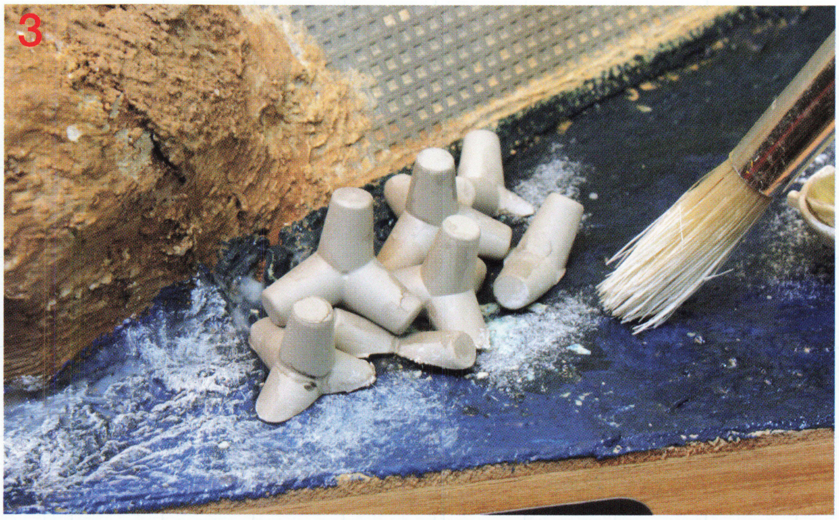
木工用接着剤が完全に乾いたところで、波の砕けている部分を白く塗る。これはアクリル絵の具をドライブラシの要領で塗っていく。塗り過ぎないようにするのがコツだ。

さらに消波ブロックや漁船も置いてみよう。これは製品を使用した。今回、水面は平らに仕上げてあるため、消波ブロックや漁船共に水面となる部分で切断、沈んでいるように見せた。これらは瞬間接着剤などで水面に接着後、その周囲を白いアクリル絵の具でドライブラシ。これでぐっとリアルな雰囲気になってくる。

1 消波ブロックや漁船は水面となるところで切断。



2 消波ブロックは瞬間接着剤などで水面に直接取り付ける。



3 消波ブロックの周囲を白いアクリル絵の具でドライブラシ。波の泡立つ様子を描いていく。

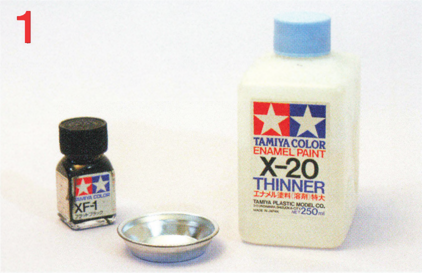
Step 番外編 A 建物の準備

DVD Step 番外編A

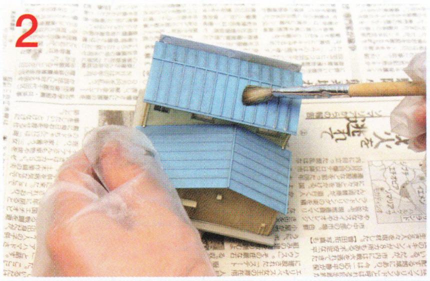
DVDでここをチェック！
⇓
完成品の加工
キットの組み立て

A-1 完成品の加工

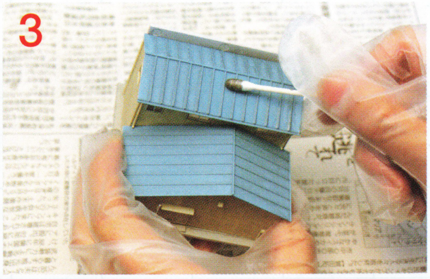
墨入れ



ツヤ消し黒のエナメル塗料と専用シンナーを用意。



うっすらと色が付くぐらいに薄めてから筆塗り。



綿棒やティッシュペーパーで塗料をぬぐっていく。

塗装済みの完成品も手を加えてリアルさを演出

Nゲージのレイアウトに使える建物として、さまざまな製品が発売されている。塗装済みの完成品となっているものもあり、これはそのままレイアウトに設置することができる。しかし、多くの製品は新築の状態だ。ある程度、風雪にさらされた雰囲気を盛り込んでやりたいものもある。

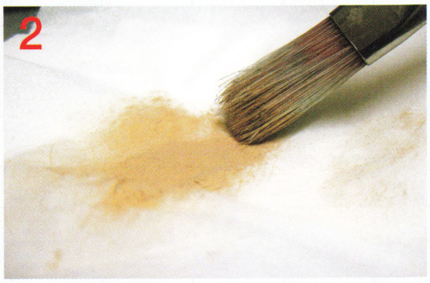
ここでは墨入れとドライブラシを施し、完成品そのままとは一味違った雰囲気に仕上げてみた。

墨入れは、凹凸を強調、建物の経年変化を表現する技法だ。ツヤ消し黒のエナメル塗料を使用。専用シンナーで薄め、ざっくりと筆で塗っていく。生乾きの状態になったところで、綿棒やティッシュペーパーで表面の塗料をぬぐっていく。

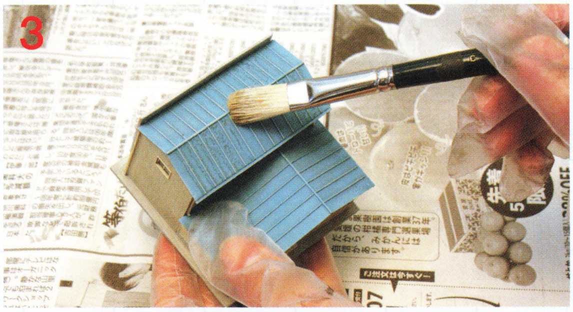
ドライブラシは、凸部のハイライトを強調したり、建物の経年変化を表現する技法だ。アクリル絵の具をやや腰のある筆に絵の具を付け、その筆をティッシュペーパーにこすり付け、絵の具を落とす。うっすらと色が付くぐらいにしてから、筆をこすり付けるようにして塗っていく。

ドライブラシ

ドライブラシに使うアクリル絵の具。

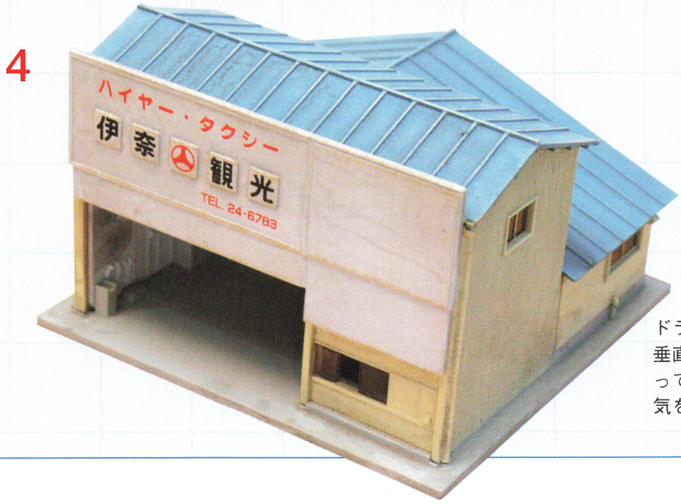


絵の具を付けた筆はティッシュペーパーでぬぐう。



塗料がかすかに付くぐらいの状態で塗っていく。

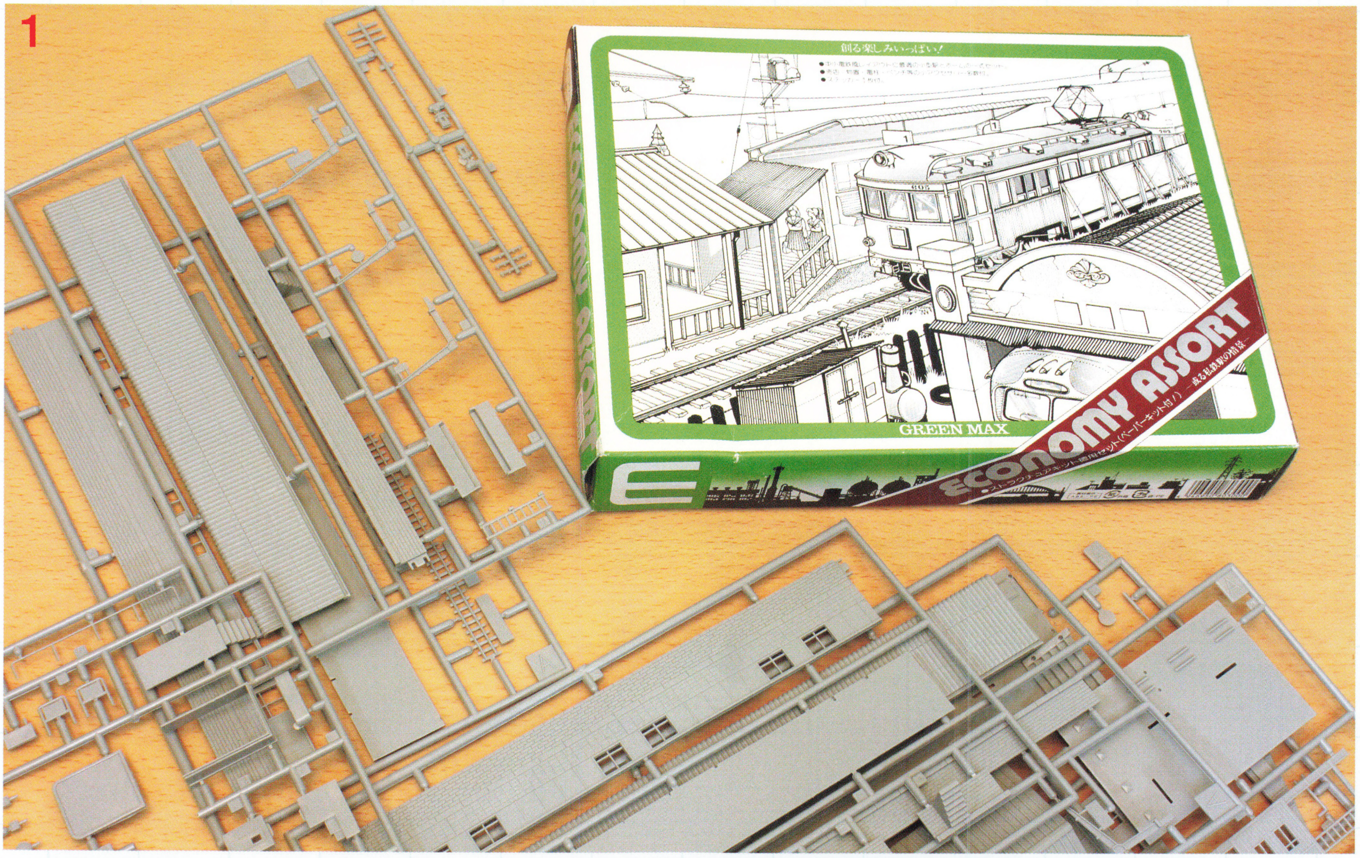
風雪に耐えてきた雰囲気をリアルに演出



ドライブラシの筆使いは、垂直方向に動かすことによって、雨だれやさびの雰囲気を出すこともできる。

A-2 キットの組み立て

1


創る楽しみいっぱい!
GREEN MAX
ECONOMY ASSORT

作例に使った製品は、グリーンマックス製の小型駅。駅舎の他、ホームも付属している。

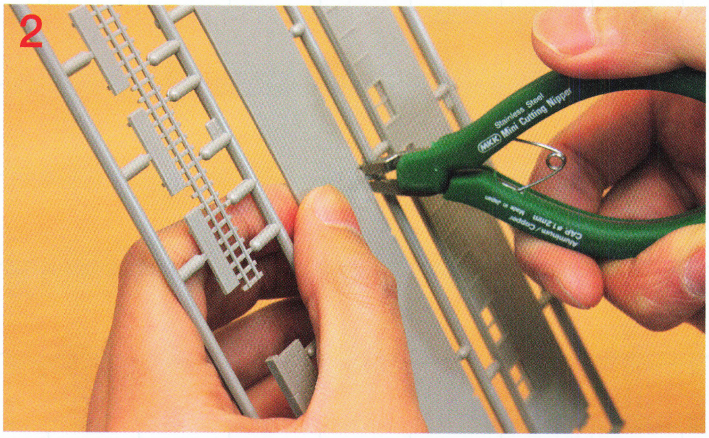
プラモデル感覚で作れる建物キットに挑戦

Nゲージのレイアウトに使える建物の中には、プラモデルのようなキットとして発売されているものもある。より自分で作る楽しみを味わいたい人は、こんなキットの組み立てに挑戦してみてもいいだろう。

最初にランナーから部品を切り出していく。このとき、部品を指でちぎるようなことはせず、ニッパーなどで丁寧に切っていくこと。また、ランナーが残ってしまったときは、カッターナイフなどで整形しておく。これはプラ製キットを扱うときの基本だ。

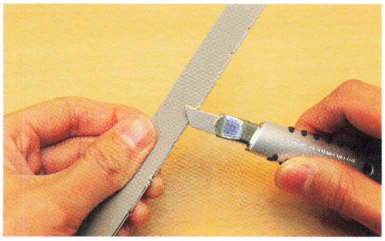
丁寧な工作がキットを美しく作るコツだ!!

2


Stainless Steel
Mini Cutting Nipper

←ランナーに付いている部品はニッパーなどで丁寧に切り取っていく。指でちぎると、肝心の部品を傷めてしまうこともあるのだ。

Check!



細かい修正はカッターナイフなどで

切り出した部品にランナーが残ってしまっていたら、カッターナイフやデザインナイフで修正しておく。これを残してしまうと、うまく組み上がらなくなってしまう。

A-3 塗装にはプラスチック専用の塗料を使用

手軽に扱える缶スプレーで塗装する

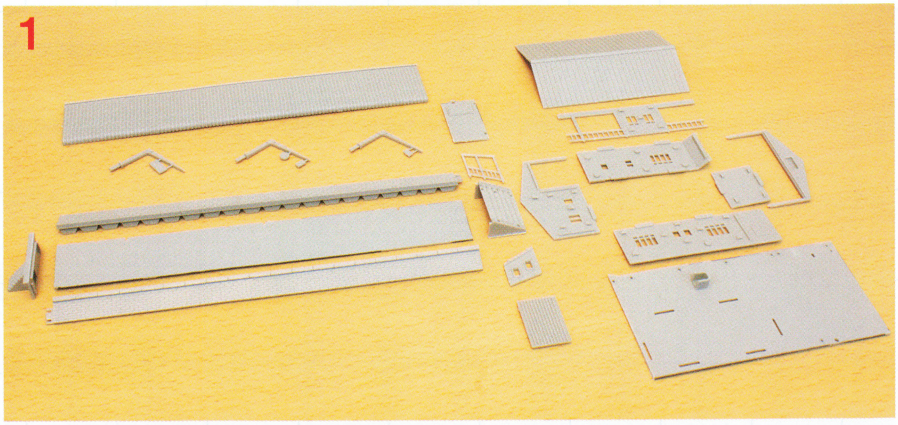
ランナーから部品を切り出したら、次は塗装だ。塗料はプラスチック専用のものを使う。ラッカー系の塗料などでは、プラスチックを溶かしてしまうものもあるので、十分に注意する。

塗料は、原液の状態でビンや缶に入れて販売されているものもあるが、ここでは扱いの楽な缶スプレーを使用した。簡単に吹き付け塗装ができ、仕上がりも美しく、モデラー必携の塗料だ。その一方、自分で塗料を薄めて使うより、価格はどうしても高めになってしまうのが辛いところでもある。

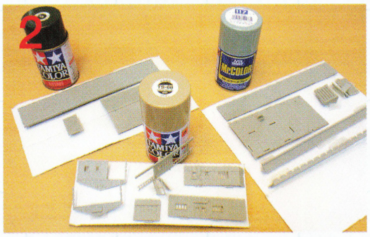
効率的に塗装するには、同じ色で塗るものをいっしょに塗ってしまう。また、組み立ててから塗るのがいいか、部品の状態で塗るほうがいいか、よく判断すること。さらに、部品を支える方法も重要だ。新聞紙の上に部品を置いただけでは、缶スプレーの空気圧で吹き飛んでしまう。両面テープで厚紙や割り箸などに固定するなど、各自で工夫してみよう。

さて準備が終わったら本番の塗装だ。換気のよい場所で作業するのはもちろんだが、塗装作業用のマスクやゴム手袋を着用することも忘れずに。

缶スプレーは、吹き始めのとき粒子が粗くなることがあるので、塗ろうとする部品以外のところで空吹きして、そのまま部品へ移動する。また、一度で塗ろうとせず、さっと薄く吹くだけにする。塗料が乾燥したところで、これを繰り返しながら重ね塗りするのが、美しく仕上げるコツだ。

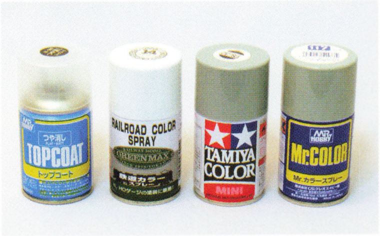


ランナーから切り出した部品。ここでどのように組み立てるか検討、塗装の手順も決めていく。



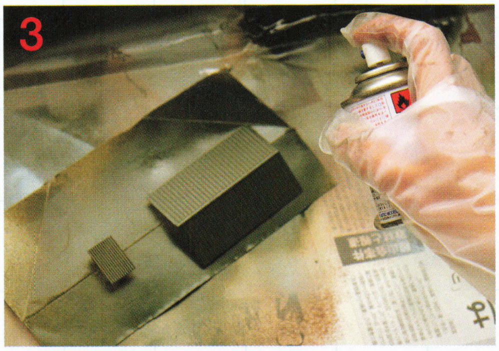
同じ色に塗る部品ごとに仕分けておく。

Check!



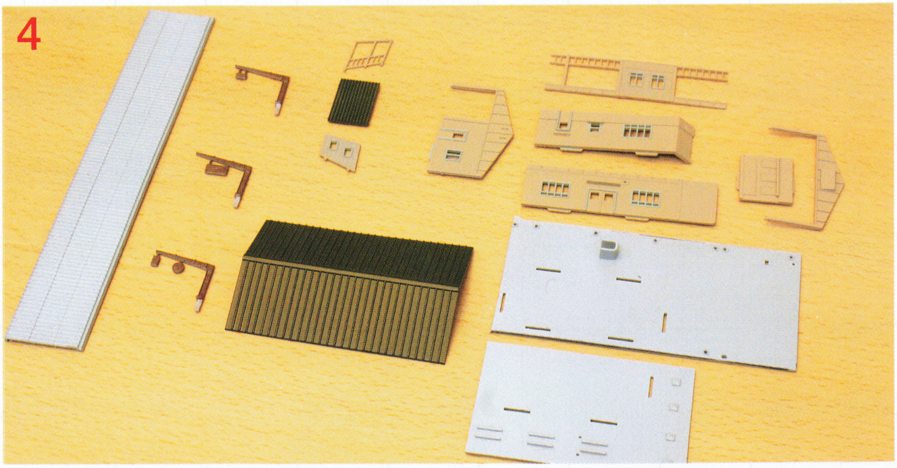
プラスチック用の缶スプレー

プラ製キットの塗装に使える缶スプレーは各社から発売されている。建物の塗装の場合、気に入った色があれば、どの製品でも問題ない。ツヤ消しで揃えたいときは、仕上げにツヤ消しクリア（左端の缶）を吹けばよい。



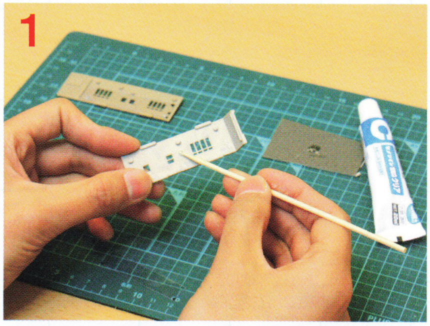
薄く吹き、塗料が乾燥したところで、再び薄く吹くという重ね塗りがコツだ。

手軽な缶スプレーでも、美しい吹き付け塗装ができる

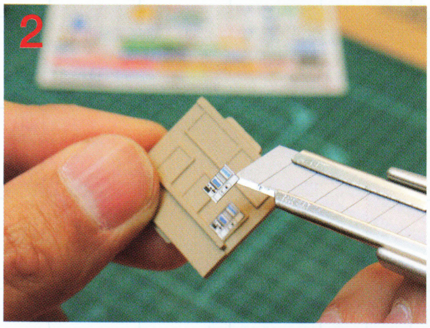


塗り終えた部品は、完全に乾燥させてから次の工程に進む。ここで焦ると指紋などを付けてしまう。

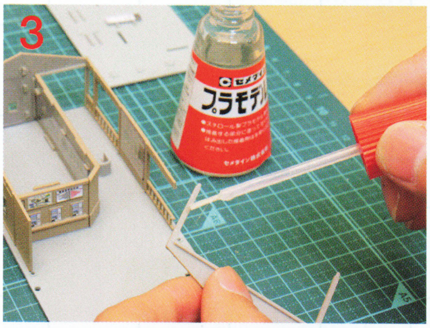
A-4 組み立てにはプラスチック用接着剤を使用



窓ガラス（透明プラシート）はゴム系接着剤で接着。



ステッカーはカッターナイフですくうように扱う。


3
セメダイン
プラモデル

組み立ては一般的なプラスチック用接着剤を使用。

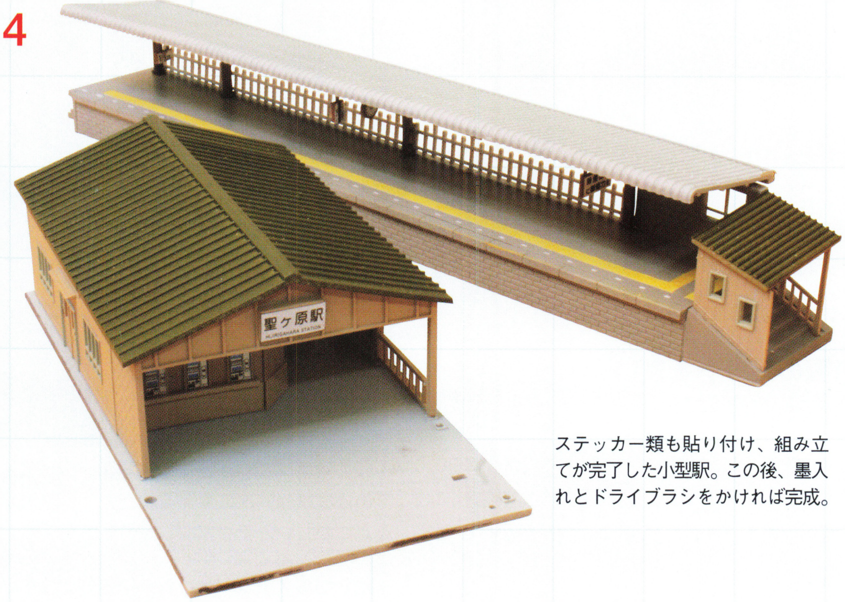
部品を組み立て看板なども貼っていく

塗装が完了したところで、部品を組み立てていく。この組み立ては一般的なプラスチック用接着剤を使用する。

なお、窓ガラス、看板などの各種ステッカーは、組み立て前に作業するほうが簡単なものもある。組み立てに入る前に、このあたりを検討して工作手順を考えよう。

窓ガラスは、裏側から透明のプラシートを貼って表現した。このときの接着剤は、ゴム系のものがいい。プラスチック用接着剤は粘性が低く、窓枠などに流れ込んでしまうことがよくある。また、瞬間接着剤は透明のプラシートを曇らせてしまうこともあるので、できるだけ避けたい。看板などはキット付属のステッカーで表現した。

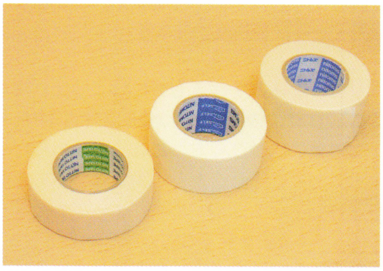
組み立て終わったところで、80ページに紹介した方法で墨入れ、ドライブラシをかければ完成だ。



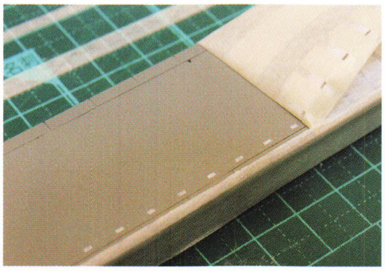
ステッカー類も貼り付け、組み立てが完了した小型駅。この後、墨入れとドライブラシをかければ完成。

上級テクニック

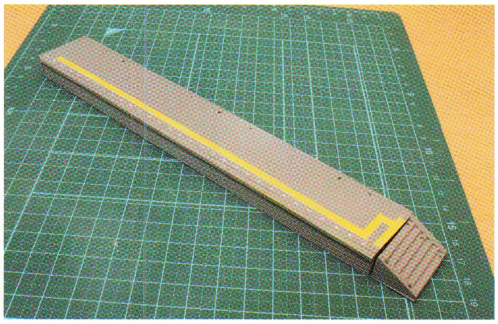
プラットホームの点線や点字ブロック表現



↑マスキングテープで塗り残す部分を覆う。



↑白い点線を塗り、マスキングを剥がす。



↑白い点線や点字ブロックを描いたプラットホーム。

プラットホームの上で目立つのは、安全のために設けられた白い点線や点字ブロックだ。これはアクリル絵の具で描いてみた。

点線は実物通りに描くとNゲージでは小さくなりすぎるので、1×2mmを3～4mmあける見当で描いた。また、点字ブロックは1辺が30cm以上とJISで決まっており、30cm四方ないしは40cm四方の製品が多い。40cmとしてもNゲージでは2.7mmなので、これは3mm幅とした。

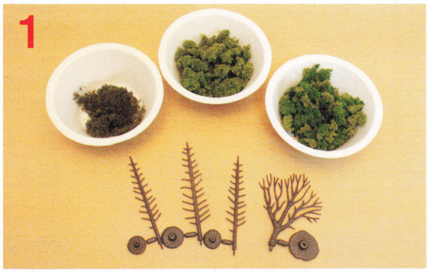
作業はマスキングテープを使って塗り残す部分を覆って、筆塗り。白い点線はドライブラシ風に塗り、かすれた感じを演出した。

Step 番外編 B 樹木の準備

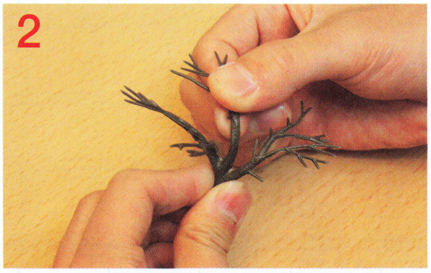
DVD Step 番外編B

DVDでここをチェック！
⇓
樹木キットを作る
樹木の自作①②

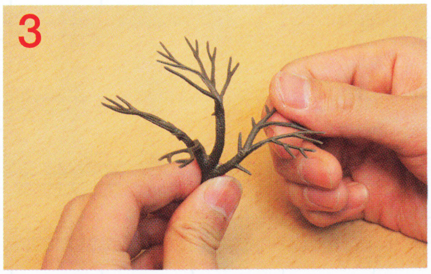
B-1 樹木キットを作る



樹木キット。キットとは別の色のスポンジも使いたい。



幹を曲げていく。最初は根元の太い部分を曲げる。



最後に先端部を曲げながら形を整えていく。

タン、グレー、薄茶などの缶スプレーで幹を塗装。

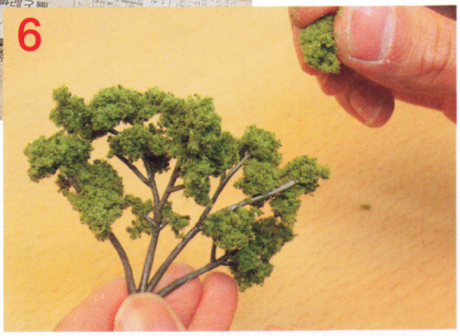
市販のキットを使い樹木を量産する

プラスチック製の幹と緑色のスポンジがセットされたキットを使い、樹木を作ってみよう。簡単な工作なので、量産にも向いている。

幹は軟質プラスチック製で、指で簡単に曲げることができる。ただし、そのまま折り曲げようとせず、枝を回転させるようにひねりながら枝振りを整えていくのが、リアルな感じに仕上げるコツだ。幹を曲げ終えたら、タン、グレー、薄茶などの缶スプレーで塗装。多少むらのあるざっくりした塗り方のほうがリアルに見える。

葉となるスポンジはゴム系接着剤などで幹に付けていく。大きな塊のまま付けずに、小さくちぎって少しずつ隙間をあけるように付けていくのが、リアルな樹木を作るコツだ。

↑幹の塗装はむらが出ても構わない。かえってそのほうがリアルに見える。ただし、ツヤがあるとおかしいのでツヤ消し塗料を使うこと。



→葉となるスポンジをゴム系接着剤で接着。小さくちぎり、隙間があくように付けるのがコツだ。木によってスポンジの色も変えてみよう。

Check! **実物の樹木を観察しよう!!**

リアルな樹木を作るためには、やはり実物の観察が欠かせない。幹の色、枝ぶり、そして葉の色や茂り方。これは樹木の種によっても異なるし、たとえ同じ種であっても生育している環境や季節によっても大きく異なる。実物を見ることが難しいときは、図鑑やインターネットで参考資料を探せばいい。実物そっくりに作る必要はないが、こうした知識は樹木作りに役立つはずだ。

←桜などの大木がシンボリックに植えられてあるところもある。これもレイアウトで再現してみたい情景だ。

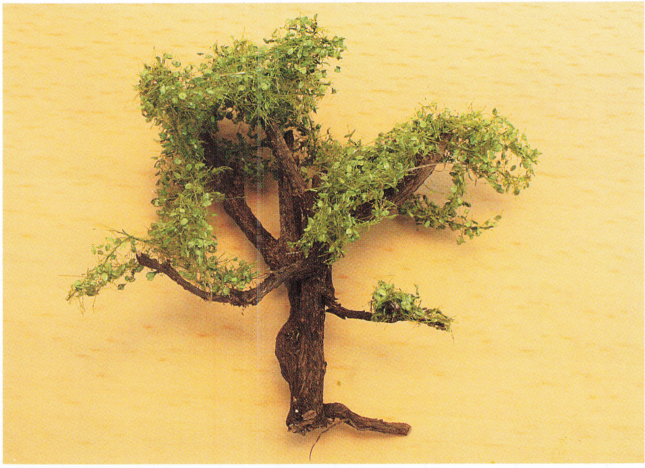
B-2 樹木の自作①本物の木を使う

Nゲージの木には根の部分がおすすめ

本物の枯れ木を幹に見立てて樹木を自作する。適当な低木があればベストだが、見当たらない場合は根に着目したい。枝振りが細かく、おすすめだ。

葉は繊維状の素材にパウダーを固着した模型用素材を使用した。適当なサイズにちぎって幹に絡めるように接着していく。この素材は繊維がつんつんと飛び出してしまうので、最後にハサミで枝振りを整えて完成だ。

↑本物の枯れ枝と模型用の葉を用意。


↑剪定した枯れ枝に葉を付け、さらに枝振りを整えて完成。

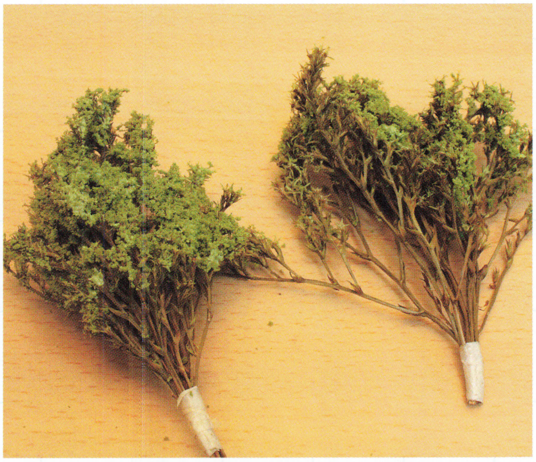
B-3 樹木の自作②ドライフラワーを使う

カスピアなどを幹に見立てる量産に向いた技法だ

ドライフラワーを幹に見立てて樹木とする技法だ。ドライフラワーは専門店で購入したが、自作も可能だ。今回はカスピアを使用してみた。

ドライフラワーを適当な長さに切り、これを数本まとめて１本の木とする。花の部分に木工用接着剤の水溶液を塗り、葉となるパウダー（スポンジ粒やオガクズなど）を振り掛ければ完成だ。

↑ドライフラワーとパウダーを準備。


→適当な長さに切ったドライフラワーを束ねて、木工用接着剤の水溶液を塗り、パウダーを振り掛ければ完成だ。

Check! **樹木はいくらあっても足りないぐらい**

樹木は予算と時間の許す限り、たくさん用意しておきたい。また、特定の木だけを植えた人工林を表現するときは別として、針葉樹、広葉樹、そして葉の色や素材など、形態も極力バラエティーになるように心がけよう。日本の森や林はさまざまな木が混在して生えているのだ。

←樹木はさまざまな形態のものを幅広く用意したい。

→今回のレイアウト用としてこれだけの木を用意したが、これでも足らないぐらいだ。

Step 6　細部の仕上げ

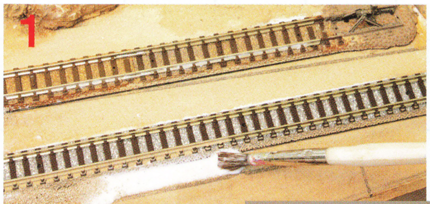
DVD Step1

DVDでここをチェック！
⇓
草を撒く
樹木を植える

6-1 線路にバラストを撒く

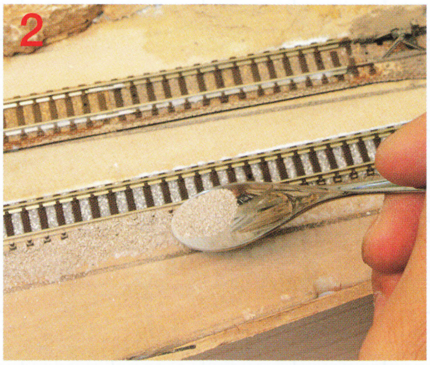
線路わきに砂を撒き バラストの雰囲気を出す

今回使用した線路は、バラストも表現された道床付き線路だが、線路わきにバラストとして砂を足してやると、よりリアルな感じに仕上がる。砂を撒く部分に木工用接着剤の水溶液を塗り、乾かないうちに砂を撒き、筆で形を整えていく。最後に水溶液を垂らして完全に固着させる。



↑砂を撒く部分に木工用接着剤の水溶液を塗っていく。

→木工用接着剤を4〜5倍の水で薄めて水溶液を作る。

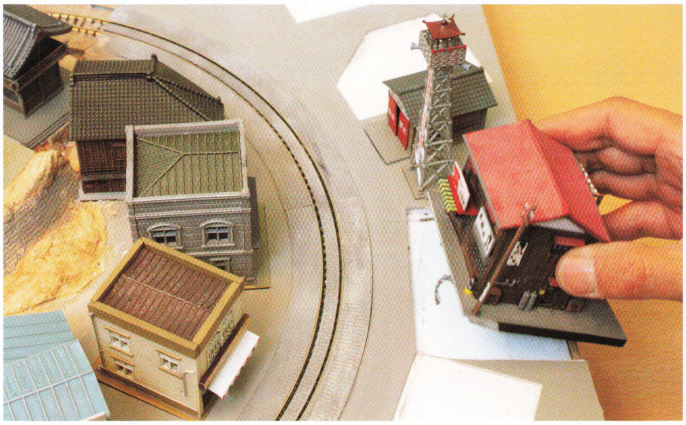


水溶液が乾かないうちに砂を撒く。筆で形を整え、最後に木工用接着剤の水溶液を上から垂らす。

6-2 建物を取り付ける

建物が並んでいくと 町らしくなっていく

建物を所定の位置に取り付けていく。レイアウトを動かさないのであれば、建物は置くだけでもいい。今回は持ち運びも考え、大半の建物はホットグルーで固定してしまった。なお、建物と接する石垣や階段、塀などもこの段階で取り付けていく。作業が進むごとに雰囲気が出てくる楽しい工程だ。



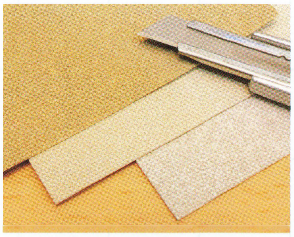
←建物を所定の位置に取り付けていく。建物をレイアウトに固定してしまうときは、ホットグルーを使うと作業が早い。

6-3 踏切を作る

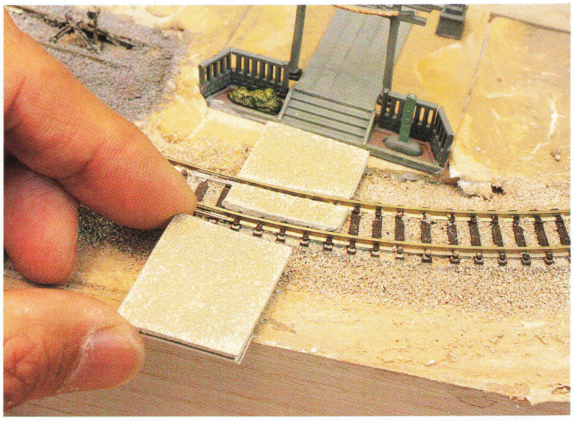
車両が脱線しないよう テスト走行しながら作業

踏切部の道路も一般の道路と同じようにグレーの厚紙で作った。このとき、車両と接触しないように何度もテスト走行してから取り付ける。

神社の前に位置する未舗装の踏切は、こうして準備した厚紙の上にシーナリーペーパーを貼ったもの。シーナリーペーパーの厚みも計算して仕上げる。



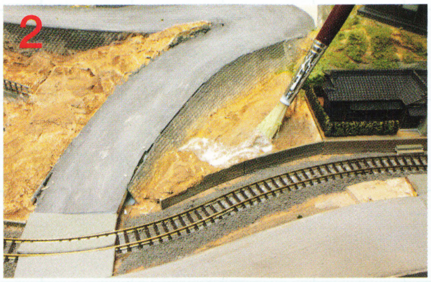
↑ここではカトー製のシーナリーペーパーを使用。色も5色ある。



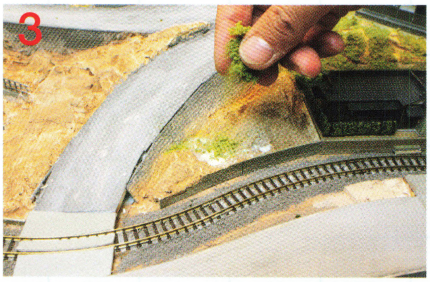
→厚紙にシーナリーペーパーを貼って踏切とした。ここでもドライブラシをかけ、自然な雰囲気を演出。

6-4 草を植える

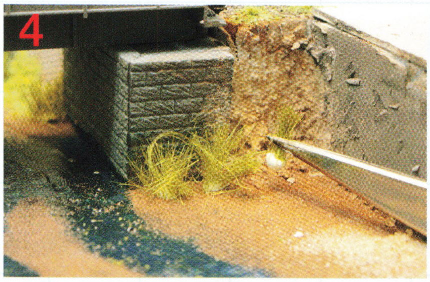
パウダーは何種類かをブレンドして使うのがコツ。



草を撒くところに木工用接着剤の水溶液を塗る。



パウダーを撒き、乾燥したら余分なものを除去。

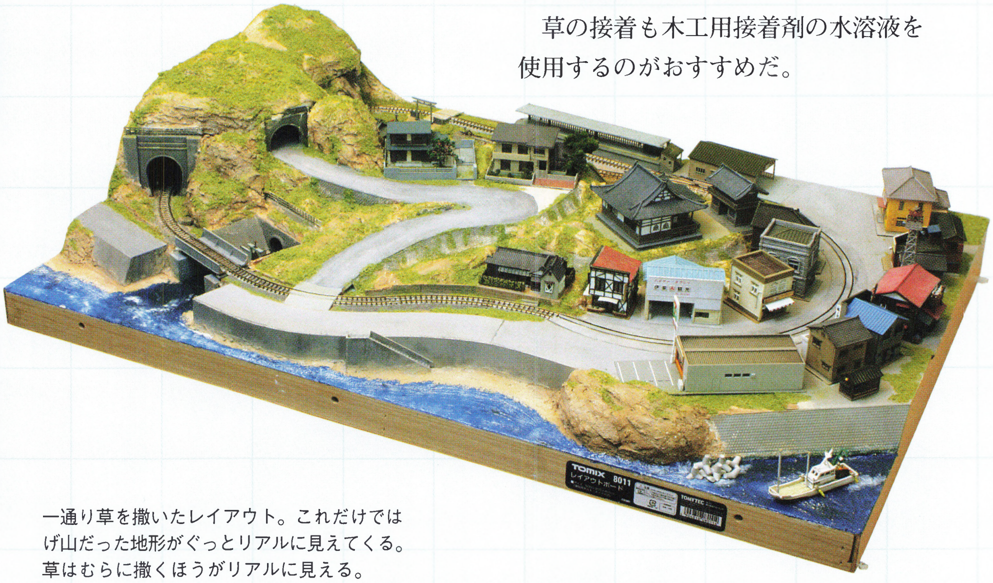


繊維状の草も使うと変化が付いてくる。

さまざまなパウダーを撒き地面を緑化していく

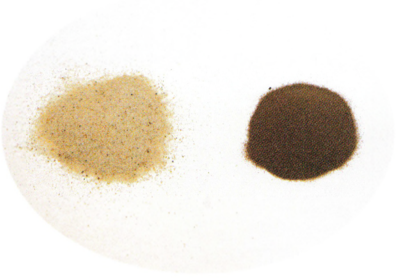
草の材料として、スポンジ、おがくずなどさまざまな素材を使ったものが発売されている。また、色もさまざまある。これらを何種類か用意してブレンドして使うと、簡単に自然な仕上がりとなる。いろいろな配合を試してみるのも楽しみだろう。

草の接着も木工用接着剤の水溶液を使用するのがおすすめだ。

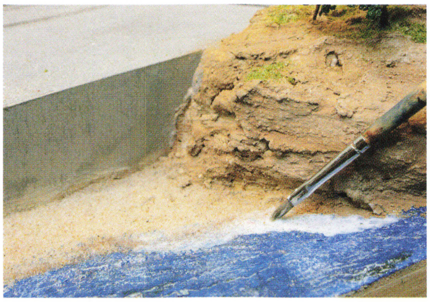


一通り草を撒いたレイアウト。これだけではげ山だった地形がぐっとリアルに見えてくる。草はむらに撒くほうがリアルに見える。

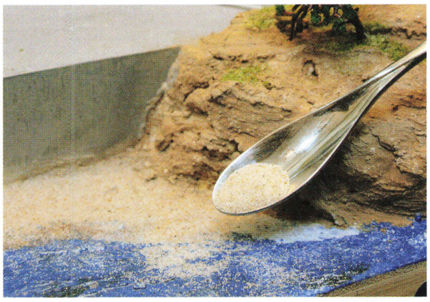
上級テクニック 砂浜を作る



砂浜にする砂は粒子の細かいものを用意した。



砂浜とする部分に木工用接着剤の水溶液を塗る。



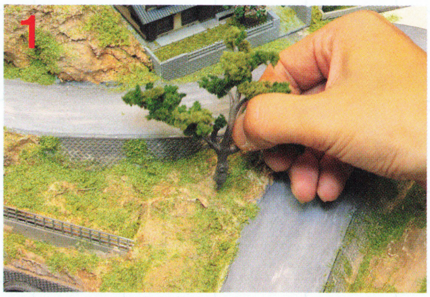
砂を撒いていく。接着剤硬化後、余分な砂を取る。

「砂絵」の要領で砂浜や川原を表現していく

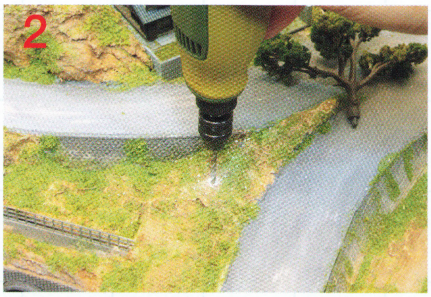
水面の仕上げとした木工用接着剤が完全に乾燥したところで砂浜や川原を作る。これも上記の草植えと同じように木工用接着剤の水溶液を使うが、こちらは草のようにむらを作らず、撒くべきところはしっかり撒いていく。いわば「砂絵」の要領で砂浜や川原を描いていくのだ。なお、水との境界は特に気を使う部分だ。一度に仕上げず、少しずつ作業するといい。

木工用接着剤が十分に乾いたところで全体に電気掃除機をかけ、余分な砂を取り去れば完成だ。

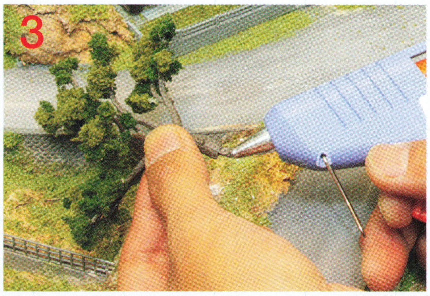
6-5 樹木を植える



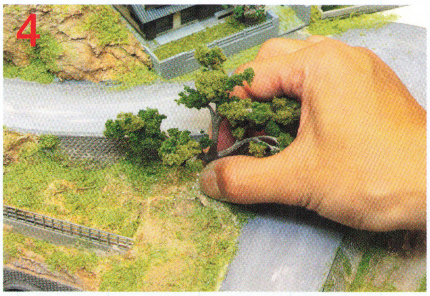
樹木を植える位置を検討する。



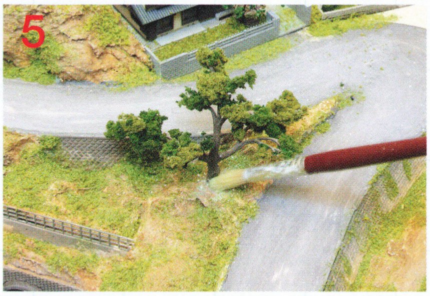
植樹する位置に孔をあける。



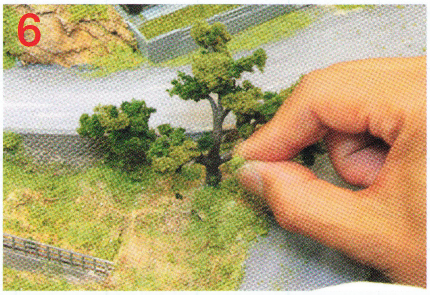
樹木の根元にホットグルーを塗る。



ホットグルーが硬化しないうちに植樹。



根元に不備があるときは、木工用接着剤を塗る。



草を撒いて見た目におかしい部分を補修する。

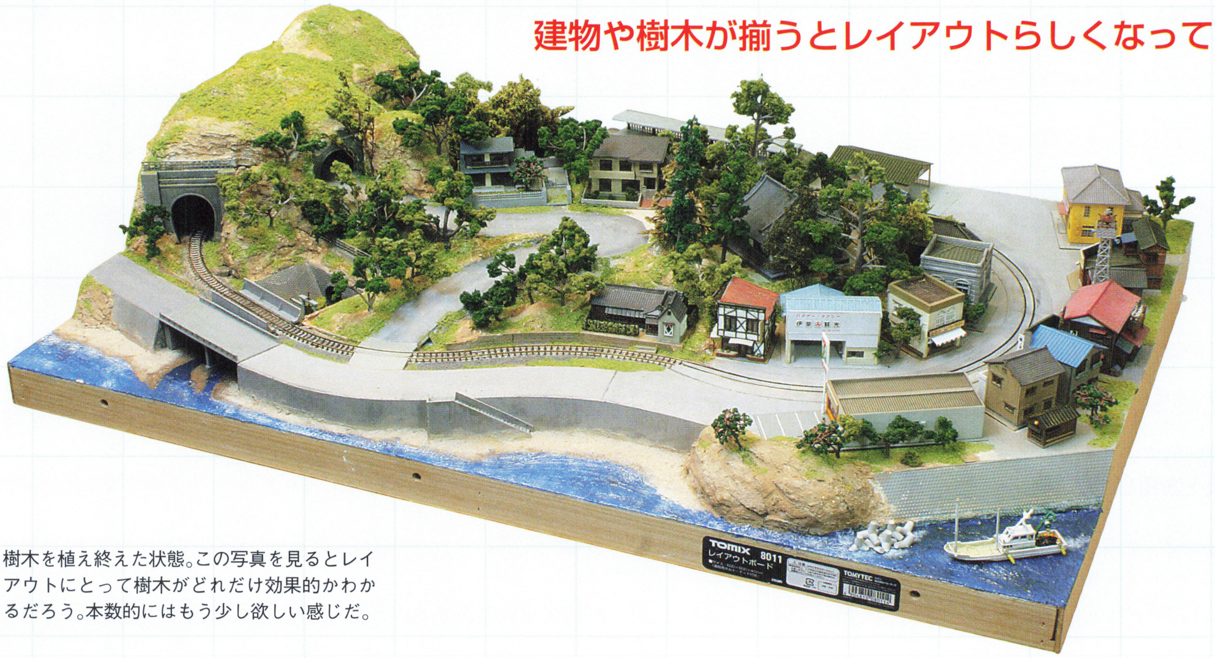
地面に孔をあけ
樹木を差し込んで接着

草を植え終えたところで樹木を植えていく。草を撒くとき、木工用接着剤の水溶液を使っているため、その水分が残っているとゴム系やホットグルーといった接着剤の効きが悪い。水分が飛ぶまで十分乾燥させてから樹木を植える作業を始めるようにしよう。

樹木は地面に孔をあけ、接着剤で固着していく。作業効率を考えると、この接着はホットグルーがおすすめだ。とにかく手早く植樹していくことができる。

なお、ホットグルーなどの接着剤がはみ出したり、孔が大きくなってしまったりした場合は、根元に草を撒いてカバーする。

建物や樹木が揃うとレイアウトらしくなってくる



樹木を植え終えた状態。この写真を見るとレイアウトにとって樹木がどれだけ効果的かわかるだろう。本数的にはもう少し欲しい感じだ。

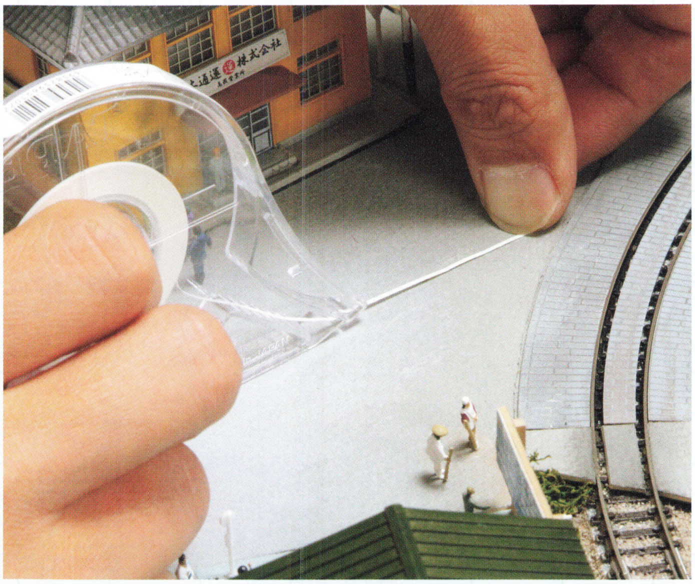
6-6 道路面の標記を描く

デザイン用の色テープで センターラインなどを表現

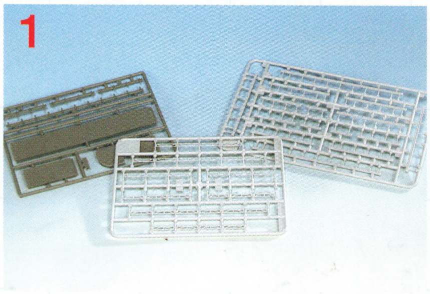
道路はグレーの厚紙を使い、一部は塗装も施して仕上げているが、その上にセンターラインや横断歩道などの標記を描いていこう。センターラインなどは、デザイン用の色テープを使うのが簡単だ。Nゲージなら1㎜幅のテープがちょうどよいサイズで、白と黄色の2色使った。

横断歩道はNゲージ用として市販されているシールを使った。必要な大きさに切り取り、所定の位置に貼り込んでいく。

デザイン用の色テープ。幅や色は各種ある。


センターラインとして色テープを貼る。カーブ区間もだましながら貼っていく。

6-7 電柱や人形など小物を取り付けて完成



ガードレールはいろいろな製品が発売されている。

電化路線なので線路わきには架線柱を設置。

人形はシーンを考えて設置すると効果的だ。

ガードレールなどはゼリー状の瞬間接着剤で固定。墨入れも施すとリアルな感じに仕上がる。

人形はシチュエーションを 考えながら設置していこう

最後に電柱、信号機、遮断機、標識、ガードレール、道路標識、柵、看板といったような小物を取り付けていく。これらはNゲージ用として各種発売されているが、看板などは自作しても楽しい。こうした小物の取り付けは、ゼリー状の瞬間接着剤が使いやすいだろう。

また、人形や自動車も重要なアイテムだ。1人置くだけでも情景が生き生きとしてくる。その人が何をしているのか、どんなシーンなのか、考えながら配置していくと効果的だ。

これで江ノ電レイアウトが完成だ!!

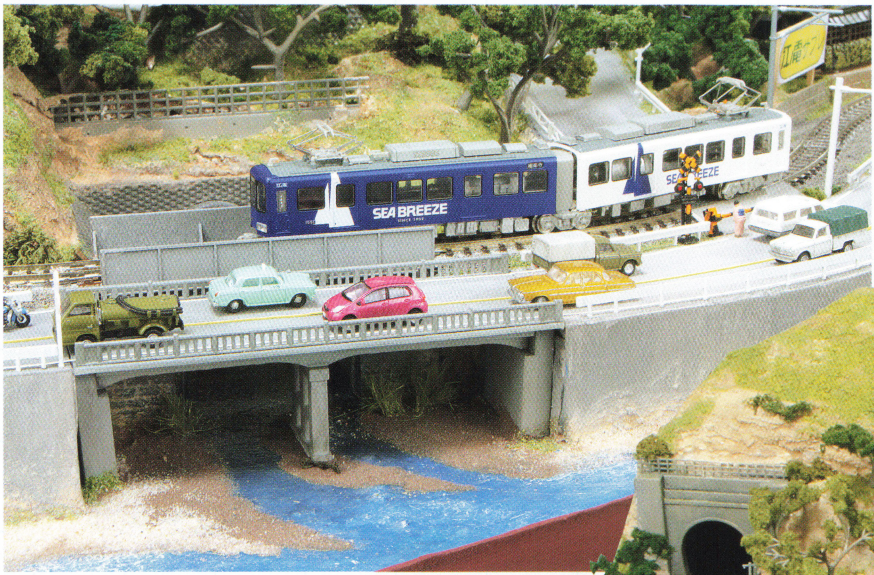
DVD

DVDでここをチェック！
⇓
レイアウトが完成！！
いろいろな江ノ電を走らせてみよう!!

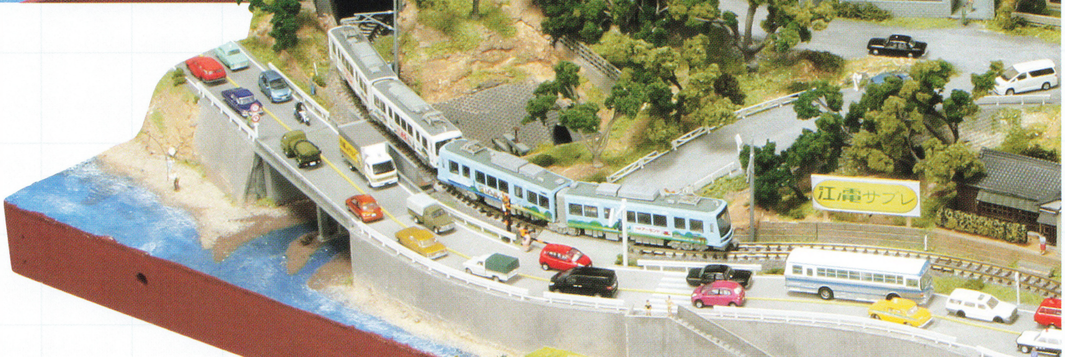
Point！

山頂には樹木を植えない

山頂はわざと樹木を植えず、草を撒いただけで表現した。これにより遠近感を演出、小さなレイアウトが大きく見えてくる。



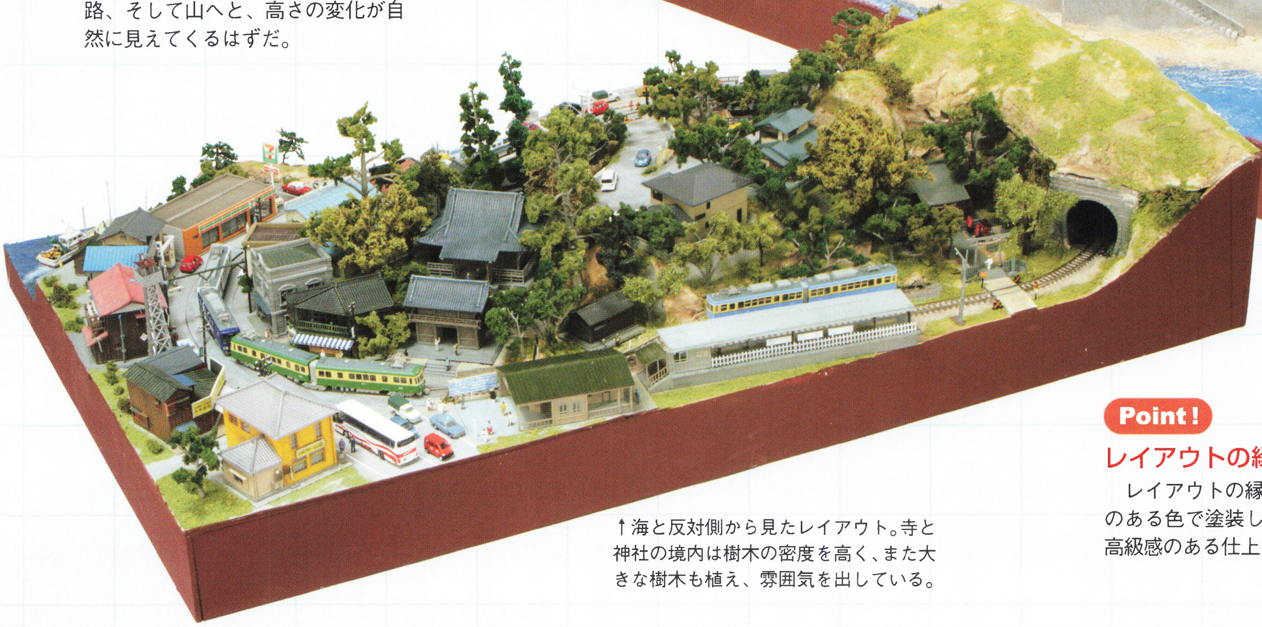
↑渋滞する道路を横目に水路に架かる鉄橋を渡る江ノ電。水路から海に流れ込む水の表現も見どころだ。



Point！

線路より低い地形を作る

作例のようなベースボードを使ったレイアウトでは、線路より低い地形を作るのは面倒だが、できあがりを見るとその効果がわかる。海、線路、そして山へと、高さの変化が自然に見えてくるはずだ。



↑海と反対側から見たレイアウト。寺と神社の境内は樹木の密度を高く、また大きな樹木も植え、雰囲気を出している。

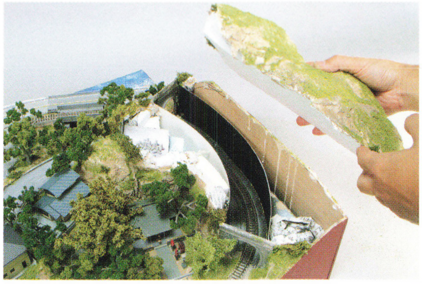
Point！

レイアウトの縁は塗装する

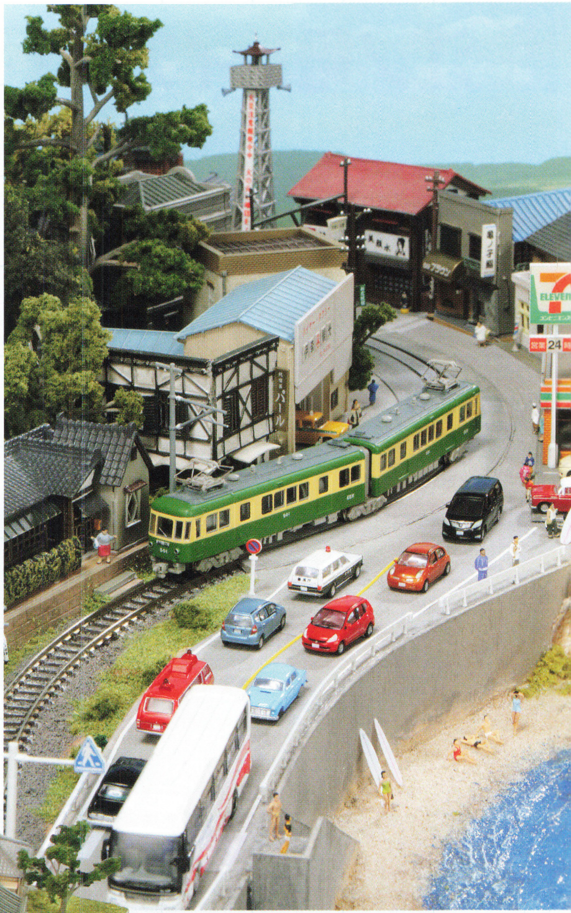
レイアウトの縁や外壁は落ち着きのある色で塗装した。これでぐっと高級感のある仕上がりとなってくる。

Check! 山頂部はメンテナンスのために取り外し可能

このレイアウトでは、山にトンネルを穿ち、線路が通じている。鉄道模型では、線路のメンテナンスや脱線などのトラブルに対する配慮が欠かせない。そのため、山頂部は取り外し可能な構造として、トンネル内の線路にも手が届くようにしてある。



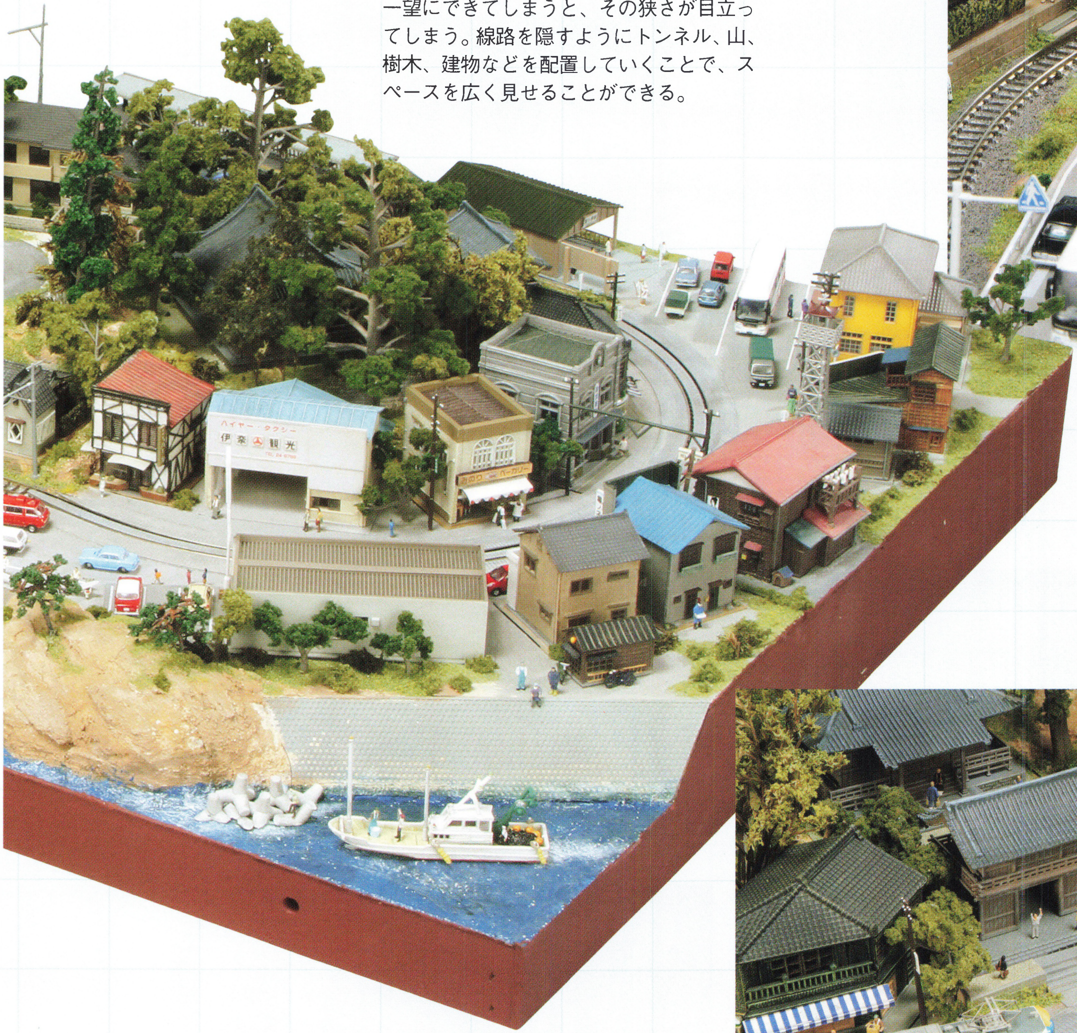
→山頂部を取り外したところ。



↑海岸沿いに通じた道路のわきを走る江ノ電。海にはサーファーたちの姿も見え、湘南らしい情景となっている。

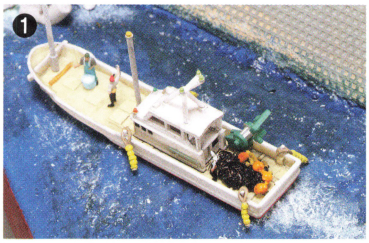
Point! 線路はできるだけ隠す

小型のレイアウトでは、すべての線路を一望にできてしまうと、その狭さが目立ってしまう。線路を隠すようにトンネル、山、樹木、建物などを配置していくことで、スペースを広く見せることができる。



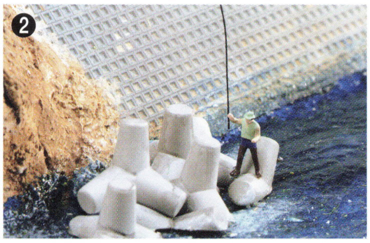
→併用軌道の奥には寺の山門が建つ。実物の江ノ島電鉄の江ノ島～腰越間にある龍口寺をイメージした情景だ。

江ノ電レイアウトのディテールを観察してみよう!!



漁に向かう小型の漁船

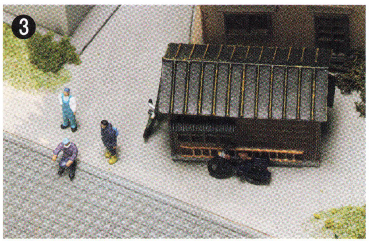
ジオコレの漁船を利用、船底は水面で切断。舷側の緩衝材を斜めに取り付けてあるのがミソ。海にはドライブラシで波を描いてある。



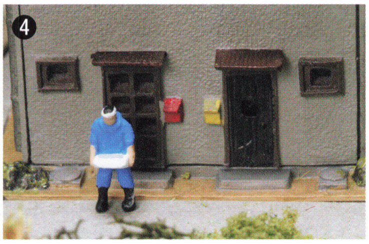
消波ブロックで釣りをする人

消波ブロックもジオコレの製品。これも水面になるところで切断して海に貼り付けてある。打ち寄せる波はドライブラシで描いた。

海を眺める漁師たち



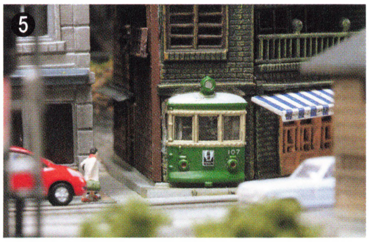
出漁する漁船の見送りか、はたまた単なる夕涼みか…。海辺まで自転車に乗って集まってきたというシチュエーションだ。



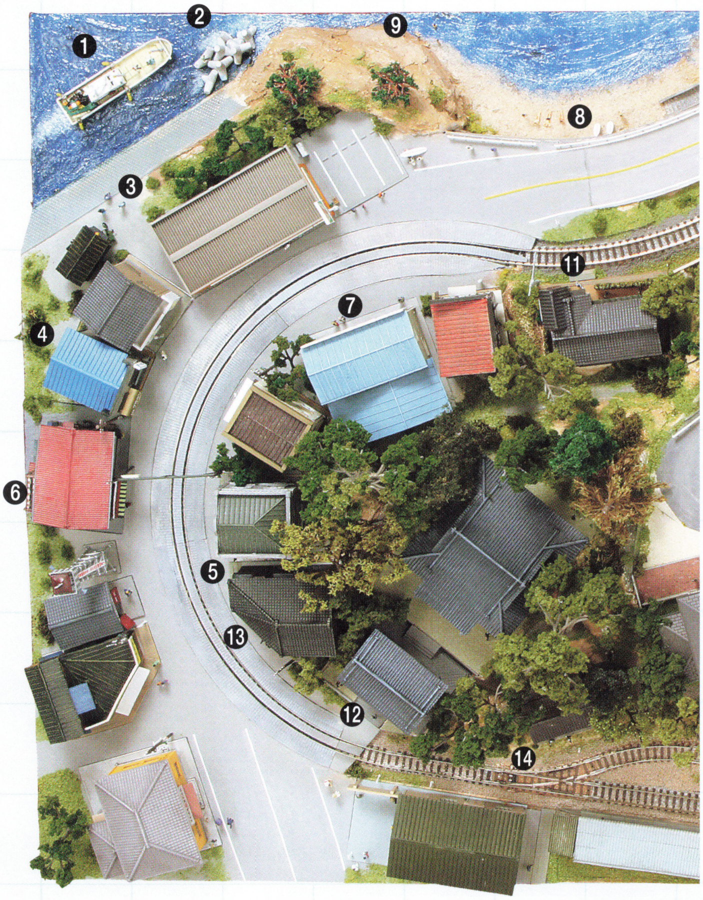
食堂に荷物を届ける魚屋さん

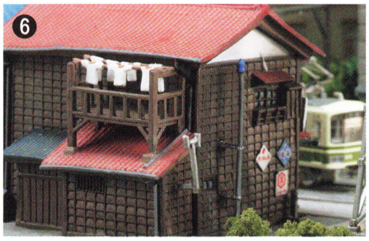
漁港に揚がった新鮮な魚を届ける魚屋の親父さん。手に持つのはトロ箱。配達は正面ではなく、勝手口からというのが業者の常識。

家に付けられた江ノ電の顔



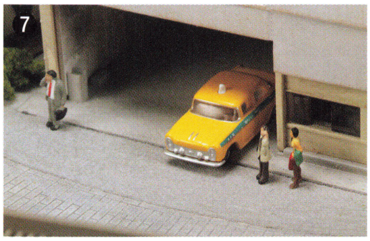
江ノ島にある和菓子店をモチーフに制作。電車の顔はNゲージサイズのプラモデルをカットしたもの。余った車体はどうしよう？





洗濯物を干す小さなベランダ

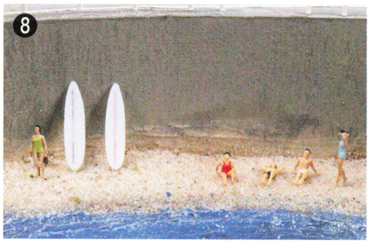
ベランダというより昔ながらの物干し台といったほうがしっくり来る。ここに干す洗濯物は、シャツなど白いものが効果的だ。



繁盛するタクシー会社

タクシー会社は車を1台だけ置き、残りの車は実車で動いている想定。待つ乗客を配置してやると、繁盛している雰囲気が出てくる。

レイアウトの楽しみはディテールの観察にもある。随所に仕掛けられた情景を探していくと、900×600㎜のスペースとは思えない面白さがある。こうした鑑賞ポイントをどれだけ作り込むか、それがレイアウトを楽しく作るコツなのだ。

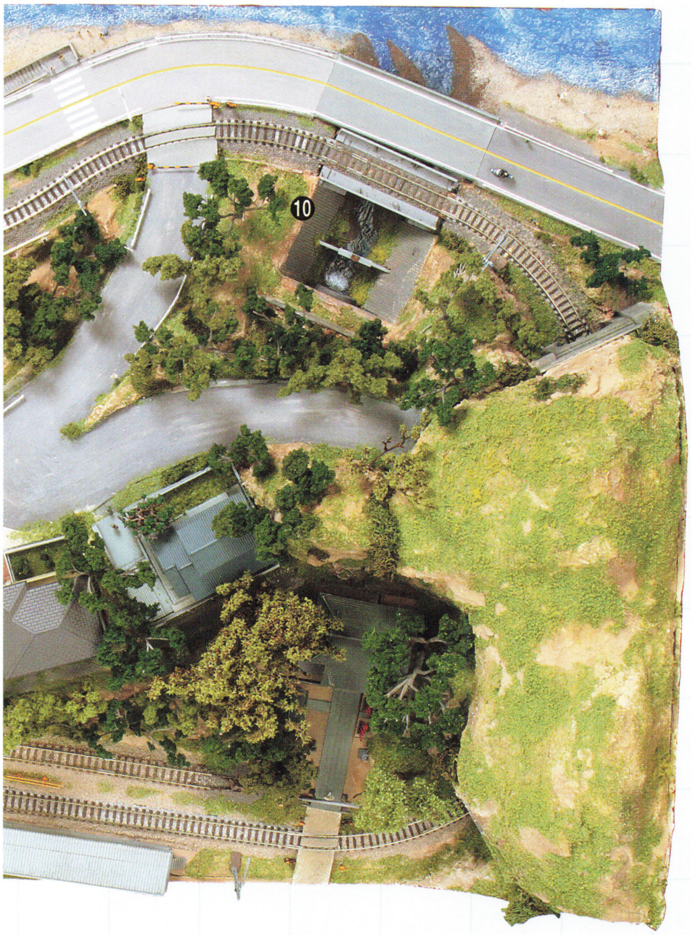


波を待つサーファーたち

サーフボードはプラシートで自作。ちょっと大き目のロングボードとした。さらに人形にはウエットスーツを着せたいところだ。

磯で遊ぶ子どもたち

磯には水着姿の子どもを集中して配置してある。Nゲージサイズの子どもはかなり小さいため、ある程度の数がないと効果が薄い。



水路にある水門と土管

流程の短い水路だが、水門や土管を設置した。これにより見どころとしての楽しさがぐんと増す。岸辺の草も効果的なアイテムだ。

線路わきの民家は階段がミソ

江ノ電沿線では線路に向かって玄関が作られた民家も多い。ここでは敷地わきに階段を作り、その珍しい雰囲気を演出してみた。

山門がある線路わきの寺

江ノ島〜腰越間にある龍口寺をイメージした情景。山門や本堂を大きく見せるため、地面は奥に向かって高くなる階段状にしてある。

バイクで配達ちょっと立ち話

店先に停めた原付バイク。それを中心に人形を配置すれば、店先でちょっと立ち話をしている情景を演出できる。人形の向きが重要。

保線作業員が午後の一休み

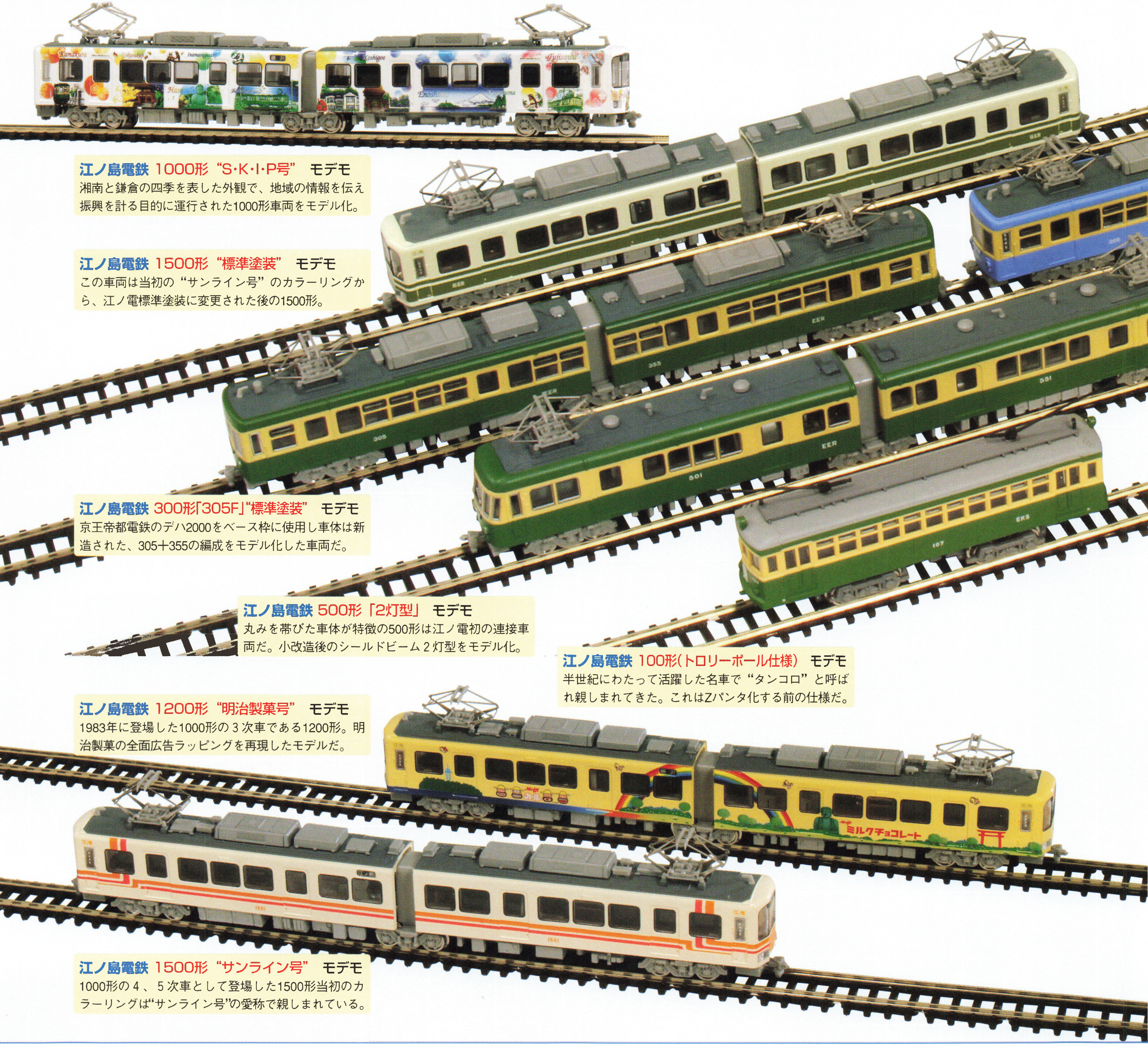
駅構内にある保線小屋。コンクリートの叩きの上に保線作業員を寄りかからせるとちょっと休憩中といった雰囲気になってくる。

小型レイアウト向き車両大紹介

小さなレイアウトでリアルな運転を楽しめる小型車両たち。環境に優しい乗り物として注目されている最新の車両から昔懐しい車両までラインナップされている。

江ノ電を走る車両たち

開業100年を超える日本有数の鉄道会社江ノ島電鉄は、湘南の海沿いを走り、民家の脇を走り抜け、併用軌道ありと模型の世界で再現したい見所満点の乗り物だ。



江ノ島電鉄 1000形"S·K·I·P号"　モデモ
湘南と鎌倉の四季を表した外観で、地域の情報を伝え振興を計る目的に運行された1000形車両をモデル化。

江ノ島電鉄 1500形"標準塗装"　モデモ
この車両は当初の"サンライン号"のカラーリングから、江ノ電標準塗装に変更された後の1500形。

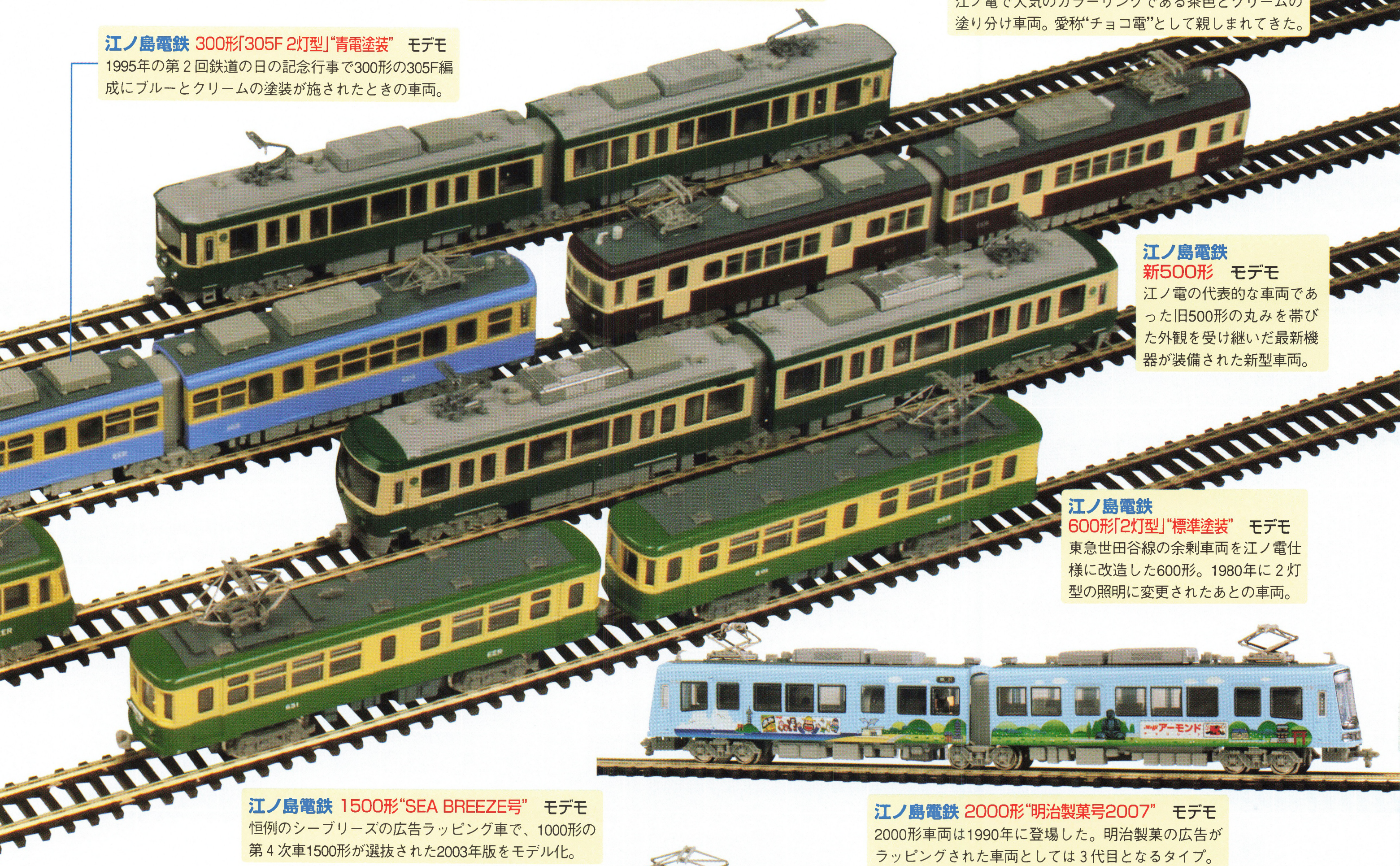
江ノ島電鉄 300形「305F」"標準塗装"　モデモ
京王帝都電鉄のデハ2000をベース枠に使用し車体は新造された、305＋355の編成をモデル化した車両だ。

江ノ島電鉄 500形「2灯型」　モデモ
丸みを帯びた車体が特徴の500形は江ノ電初の連接車両だ。小改造後のシールドビーム２灯型をモデル化。

江ノ島電鉄 100形(トロリーポール仕様)　モデモ
半世紀にわたって活躍した名車で"タンコロ"と呼ばれ親しまれてきた。これはZパンタ化する前の仕様だ。

江ノ島電鉄 1200形"明治製菓号"　モデモ
1983年に登場した1000形の３次車である1200形。明治製菓の全面広告ラッピングを再現したモデルだ。

江ノ島電鉄 1500形"サンライン号"　モデモ
1000形の４、５次車として登場した1500形当初のカラーリングは"サンライン号"の愛称で親しまれている。



江ノ島電鉄 20形　モデモ
レトロなデザインで人気を博した10形車両のデザインを引き継ぎより洗練された外観を持つ最新鋭の車両。

江ノ島電鉄 300形“チョコ電塗装”　モデモ
江ノ電で人気のカラーリングである茶色とクリームの塗り分け車両。愛称“チョコ電”として親しまれてきた。

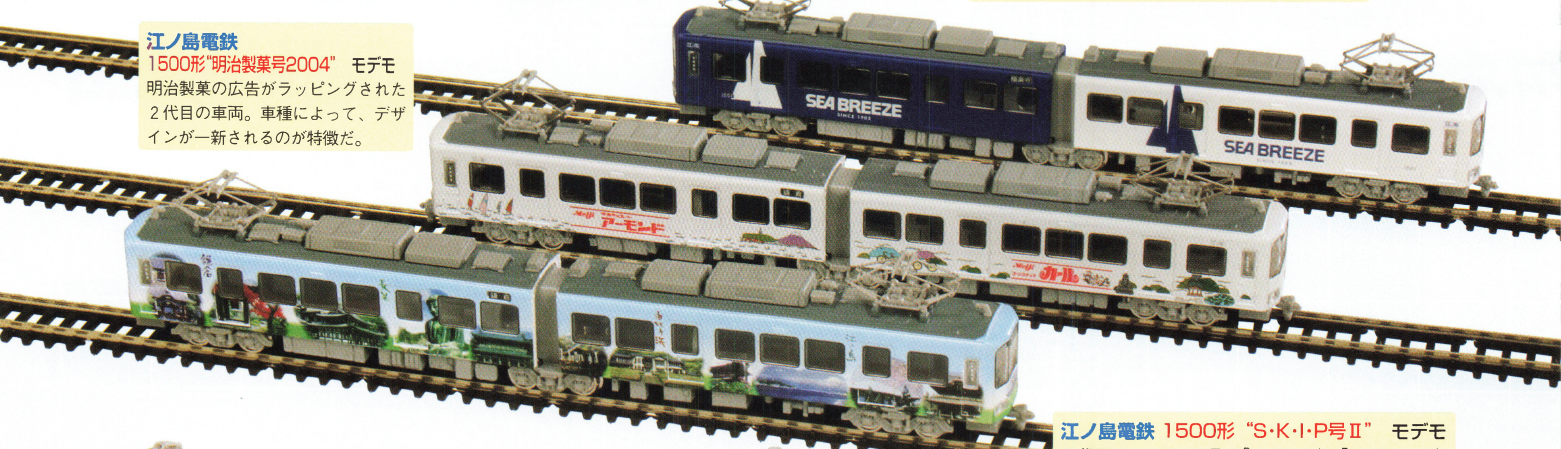
江ノ島電鉄 300形「305F 2灯型」“青電塗装”　モデモ
1995年の第２回鉄道の日の記念行事で300形の305F編成にブルーとクリームの塗装が施されたときの車両。

江ノ島電鉄 新500形　モデモ
江ノ電の代表的な車両であった旧500形の丸みを帯びた外観を受け継いだ最新機器が装備された新型車両。

江ノ島電鉄 600形「2灯型」“標準塗装”　モデモ
東急世田谷線の余剰車両を江ノ電仕様に改造した600形。1980年に２灯型の照明に変更されたあとの車両。

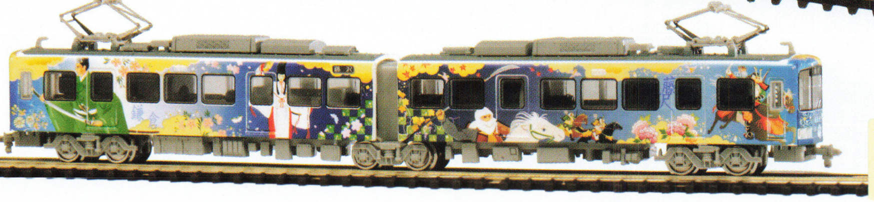
江ノ島電鉄 1500形“SEA BREEZE号”　モデモ
恒例のシーブリーズの広告ラッピング車で、1000形の第４次車1500形が選抜された2003年版をモデル化。

江ノ島電鉄 2000形“明治製菓号2007”　モデモ
2000形車両は1990年に登場した。明治製菓の広告がラッピングされた車両としては３代目となるタイプ。



江ノ島電鉄 1500形“明治製菓号2004”　モデモ
明治製菓の広告がラッピングされた２代目の車両。車種によって、デザインが一新されるのが特徴だ。

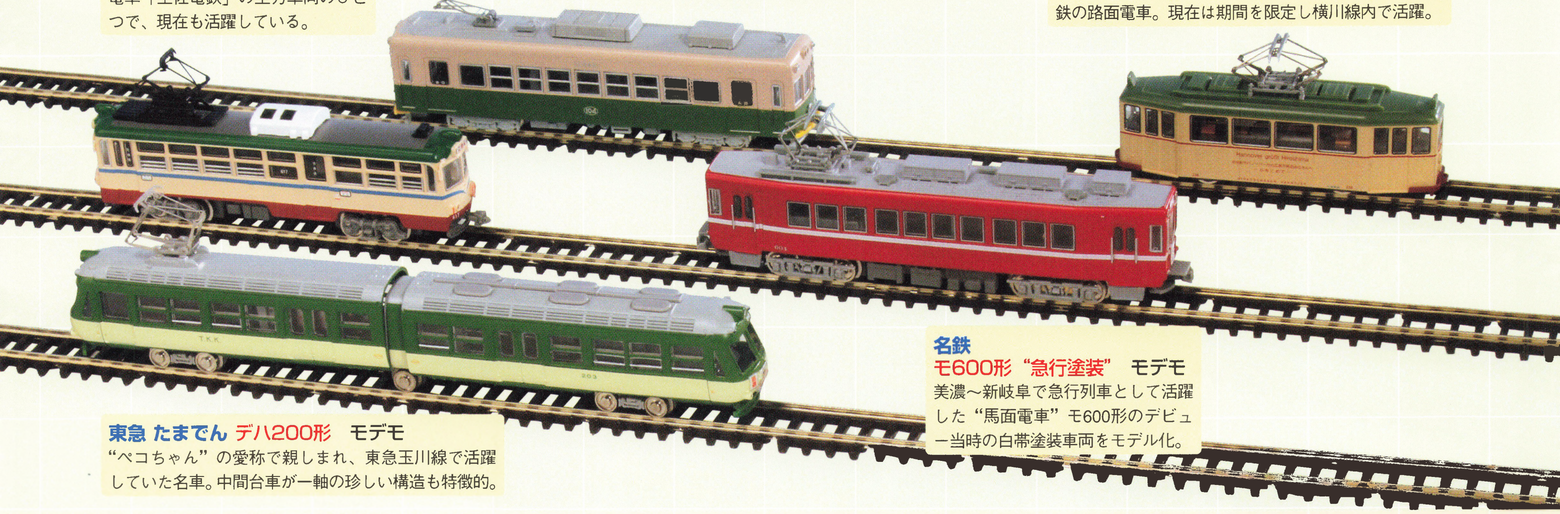
江ノ島電鉄 1500形 “S･K･I･P号Ⅱ”　モデモ
２代目S・K・I・P号。「Shonan」、「Kamakura」、「Information」、「Promotion」の頭文字から命名。



江ノ島電鉄 1100形 義経号　モデモ
江ノ電で初めて冷房装置の搭載準備が整えられた1000形の２次車で、大河ドラマ「義経」のラッピング版。

路面電車いろいろ

全国各地で活躍する路面電車たちが、Nゲージの世界でもたくさん登場している。現役車両からその勇姿が今では見られない懐しの名車までその一部を紹介する。



土佐電鉄
600型“標準塗装”　モデモ
600型は四国の高知市内を走る路面電車「土佐電鉄」の主力車両のひとつで、現在も活躍している。

京福電鉄 モボ101形“標準塗装”　モデモ
嵐山本線と北野線で活躍する嵐電の主力車両。旧モボ101形を改造して1975年に登場した車両をモデル化。

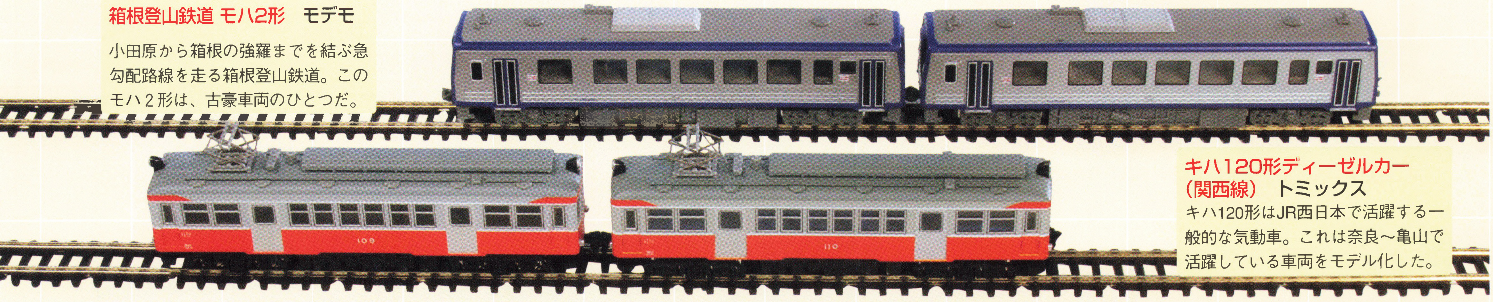
広島電鉄 200形（ハノーバー電車）　カトー
1988年にドイツ・ハノーバー市から寄贈された広島電鉄の路面電車。現在は期間を限定し横川線内で活躍。

名鉄
モ600形“急行塗装”　モデモ
美濃～新岐阜で急行列車として活躍した“馬面電車”モ600形のデビュー当時の白帯塗装車両をモデル化。

東急 たまでん デハ200形　モデモ
“ペコちゃん”の愛称で親しまれ、東急玉川線で活躍していた名車。中間台車が一軸の珍しい構造も特徴的。

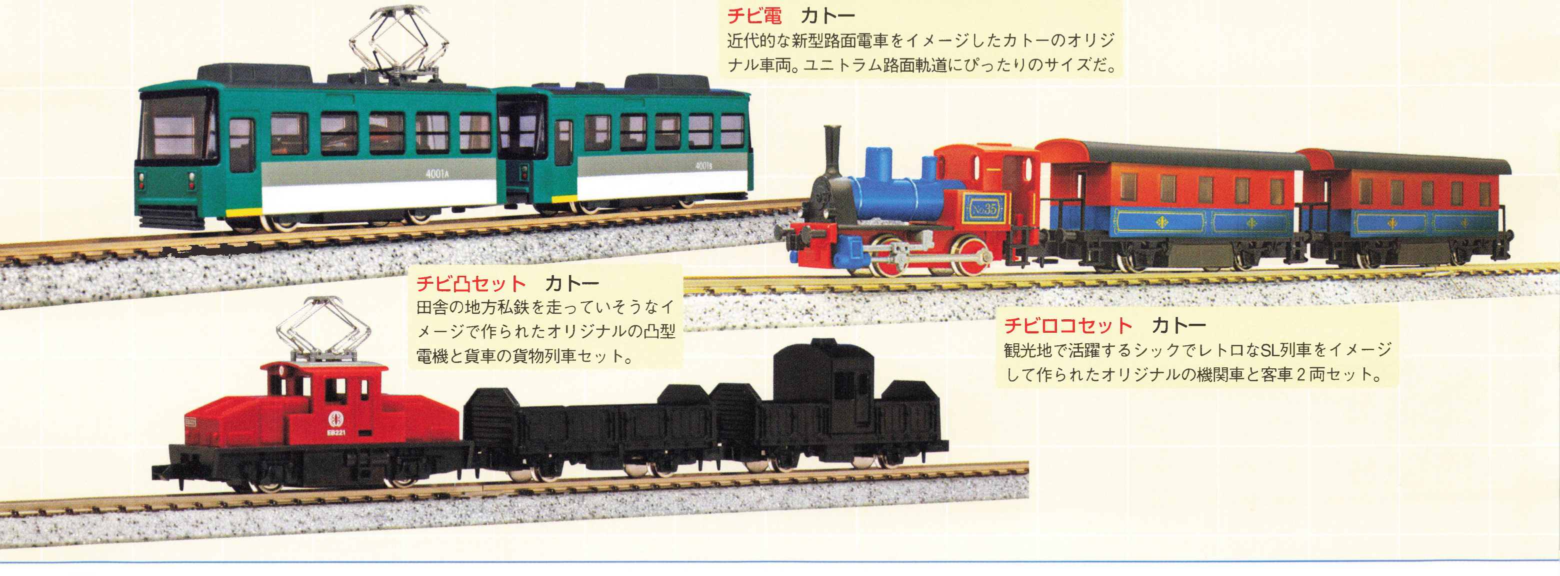
その他の小型車両

路面電車以外にも、小型レイアウトで走らせることができる車両はいろいろある。車両の長さが短いミニ電車や気動車など、おすすめの車両をピックアップした。



箱根登山鉄道 モハ2形　モデモ
小田原から箱根の強羅までを結ぶ急勾配路線を走る箱根登山鉄道。このモハ2形は、古豪車両のひとつだ。

キハ120形ディーゼルカー（関西線）　トミックス
キハ120形はJR西日本で活躍する一般的な気動車。これは奈良～亀山で活躍している車両をモデル化した。

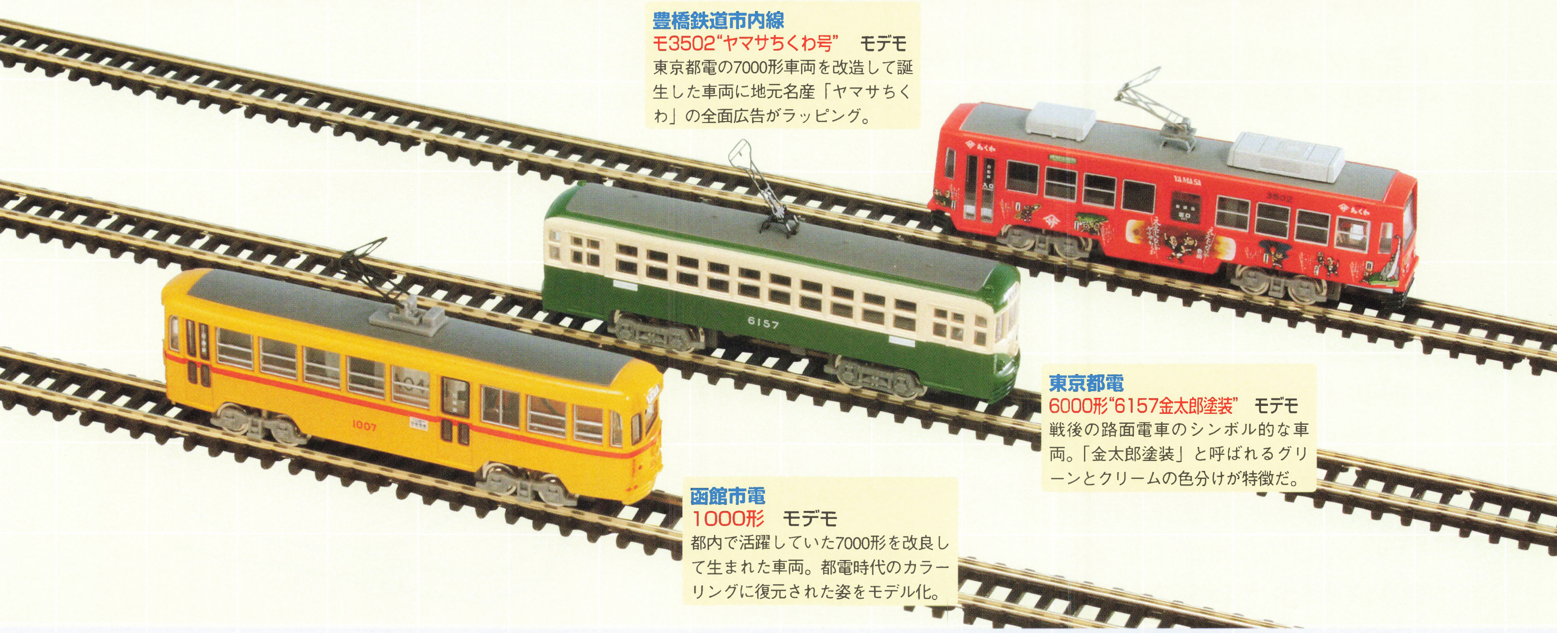


チビ電　カトー
近代的な新型路面電車をイメージしたカトーのオリジナル車両。ユニトラム路面軌道にぴったりのサイズだ。

チビ凸セット　カトー
田舎の地方私鉄を走っていそうなイメージで作られたオリジナルの凸型電機と貨車の貨物列車セット。

チビロコセット　カトー
観光地で活躍するシックでレトロなSL列車をイメージして作られたオリジナルの機関車と客車2両セット。

日本全国から色とりどりの魅力あふれる車両が揃う



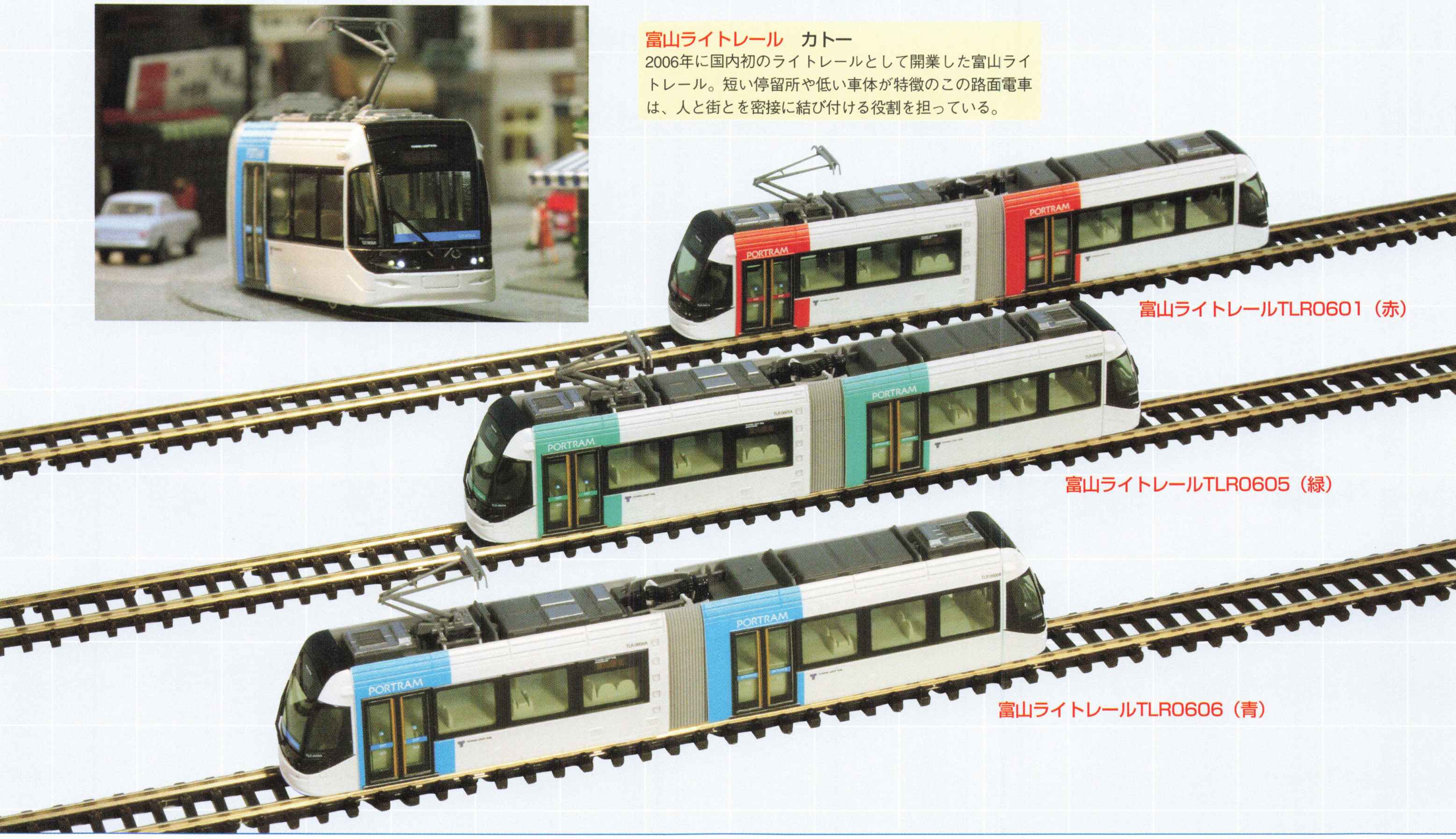
豊橋鉄道市内線
モ3502"ヤマサちくわ号"　モデモ
東京都電の7000形車両を改造して誕生した車両に地元名産「ヤマサちくわ」の全面広告がラッピング。

東京都電
6000形"6157金太郎塗装"　モデモ
戦後の路面電車のシンボル的な車両。「金太郎塗装」と呼ばれるグリーンとクリームの色分けが特徴だ。

函館市電
1000形　モデモ
都内で活躍していた7000形を改良して生まれた車両。都電時代のカラーリングに復元された姿をモデル化。

ライトレール

環境にやさしい交通機関として世界中で注目されているLRT（Light Rail Transit）交通システム。そのライトレールがNゲージの世界でも手軽に楽しめる。



富山ライトレール　カトー
2006年に国内初のライトレールとして開業した富山ライトレール。短い停留所や低い車体が特徴のこの路面電車は、人と街とを密接に結び付ける役割を担っている。

富山ライトレールTLR0601（赤）

富山ライトレールTLR0605（緑）

富山ライトレールTLR0606（青）

コラム●レイアウト作りを楽しむアイデア①

路面電車＆小型車両の運転を楽しむレイアウトプラン2題

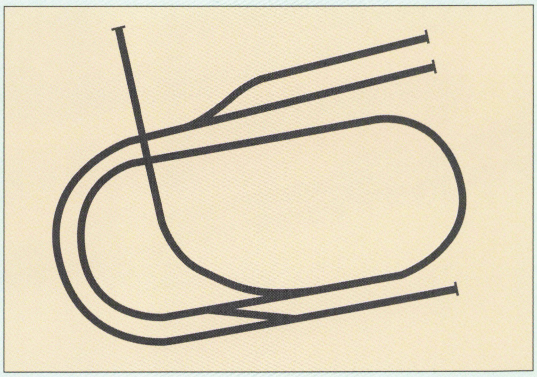
トミックスがリリースしている「スーパーカーブ」レールを使用して制作するレイアウト２題。小型車専用のレイアウトを作ることができる。

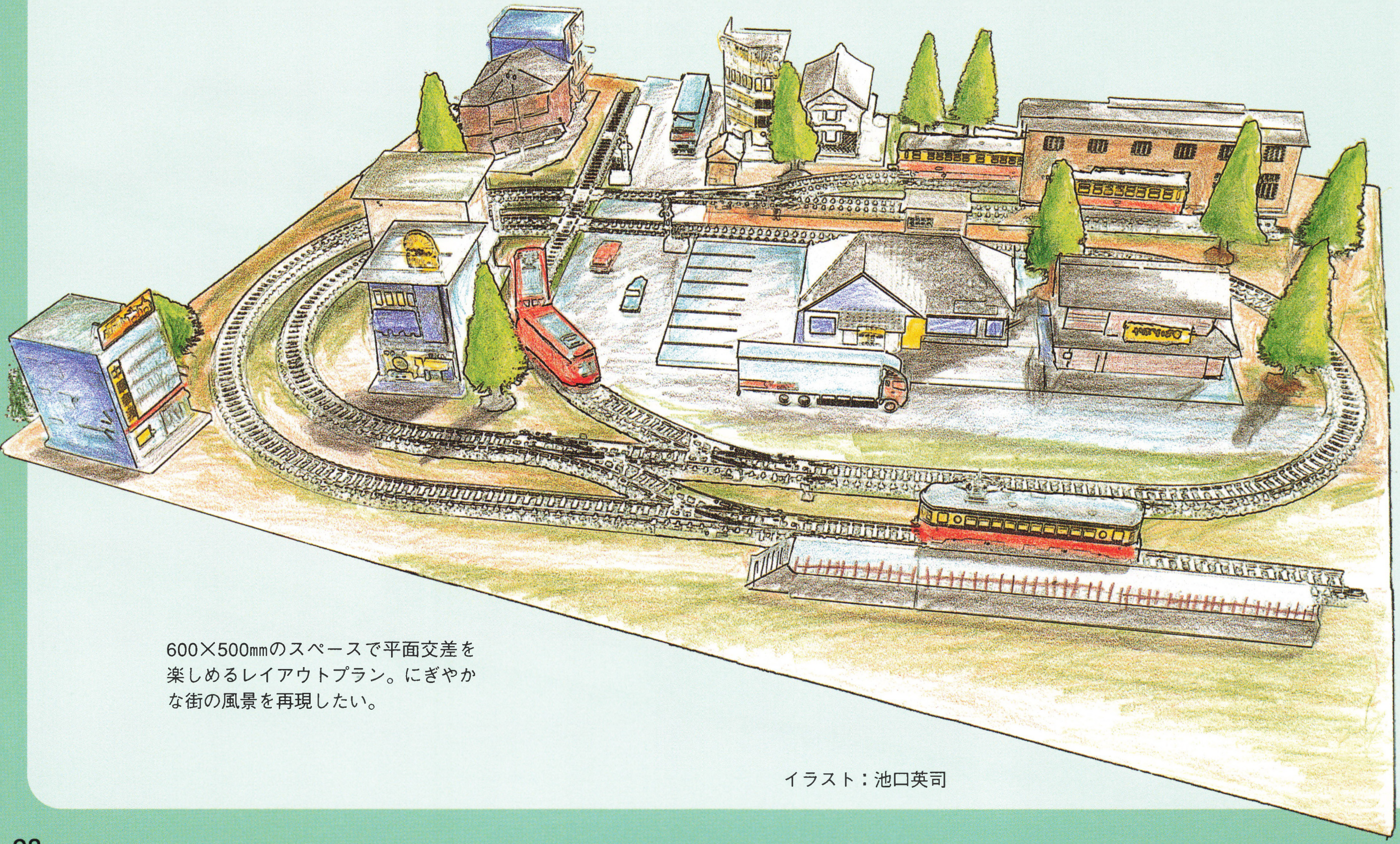
レイアウトプラン1

小さなスペースで路面電車の平面交差の雰囲気が味わえるプラン

少し前まで、小型Nゲージレイアウトの定番は900×600㎜だったが、トミックスから「スーパーカーブ」レールが登場したことで、さらに小さなスペースでもレイアウトを作ることが可能になった。プラン１の寸法は600×500㎜。レイアウトの奥に設けられた停留所をなくせば600×400㎜に収まるが、運転に変化をつける意味でも、この停留所は残しておきたい。

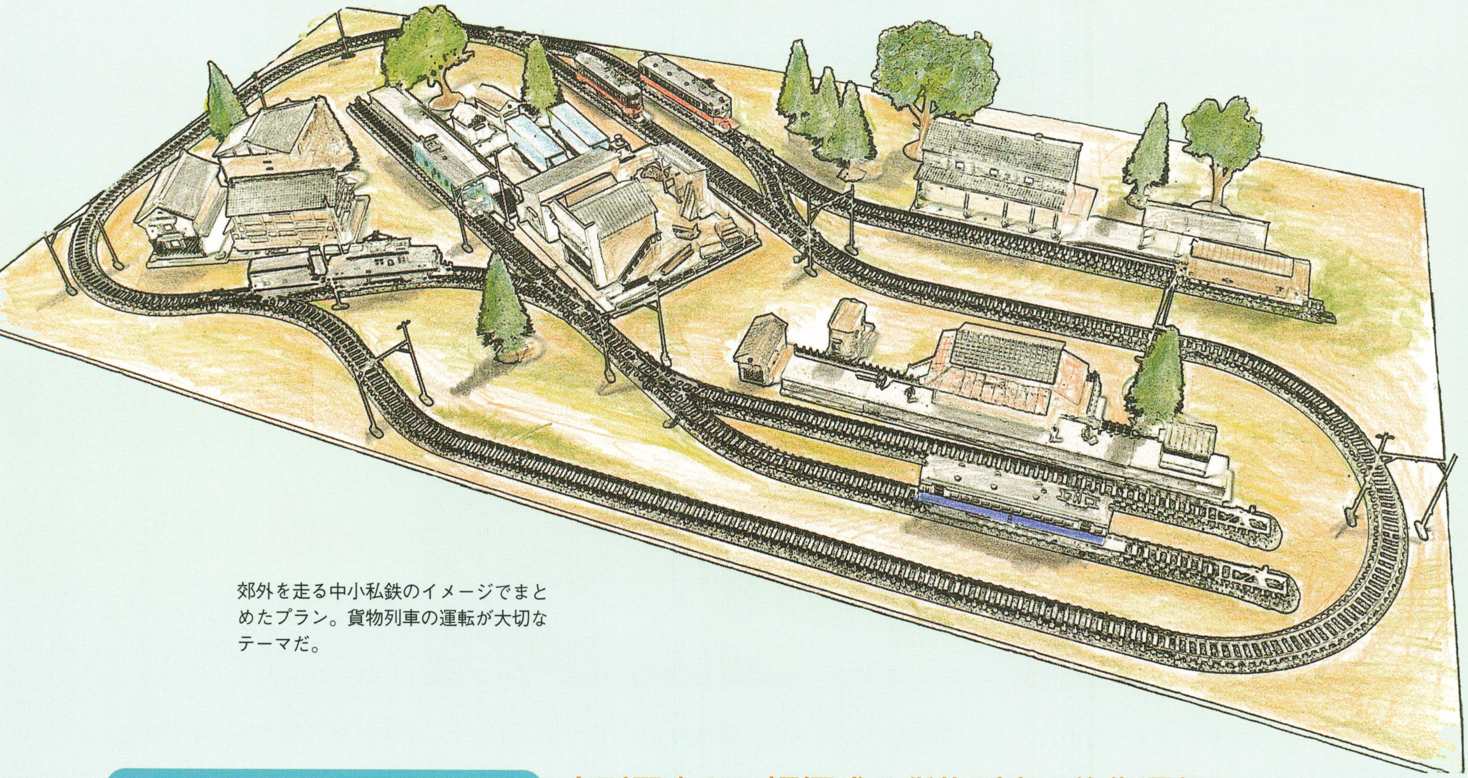
レイアウト右奥には車庫を設置。ここを出発した電車は、入出庫線を走ってレイアウト手前の駅に着き、ここで折り返して本線エンドレスを周回。ポイントで本線から分岐して支線の停留所に向かうというのが、基本的な運転スタイルとなる。本線エンドレスの直線はベースの縁とは平行にならないように敷設。これは視覚に変化をつけるための措置。曲線半径はR103とR140で、ポイントも同シリーズの小型のもの。一部に33㎜長などの線路を挟んで線路位置を微調整している。プランではレイアウト中央にファミレスなどを配置してみたが、ここを天井を開口にした半地下式の商店街としても面白そうだ。





600×500㎜のスペースで平面交差を楽しめるレイアウトプラン。にぎやかな街の風景を再現したい。

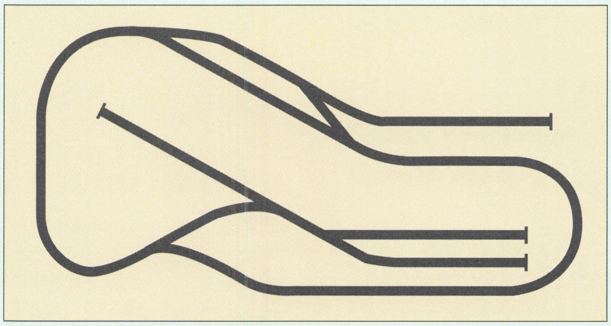
イラスト：池口英司



郊外を走る中小私鉄のイメージでまとめたプラン。貨物列車の運転が大切なテーマだ。

レイアウトプラン2

小型電車と、短編成の貨物列車の往復運転を楽しむプラン



プラン1と同じく、トミックスの「スーパーカーブ」シリーズのR103とR140、それに同シリーズのポイントを使用してまとめたプラン。他に33㎜長の短い線路も使用して、線路位置の微調整を図っている。このプランも当然小型車専用となるが、2軸貨車であっても、ワム80000形のような固定軸距（ホイールベース）が長めの車両は急曲線の通過は不得手であることは忘れずにおきたい。より小型の2軸貨車か、むしろタキ5450形のような小型のボギー貨車の方が、急曲線のレイアウトでの運転には適している。

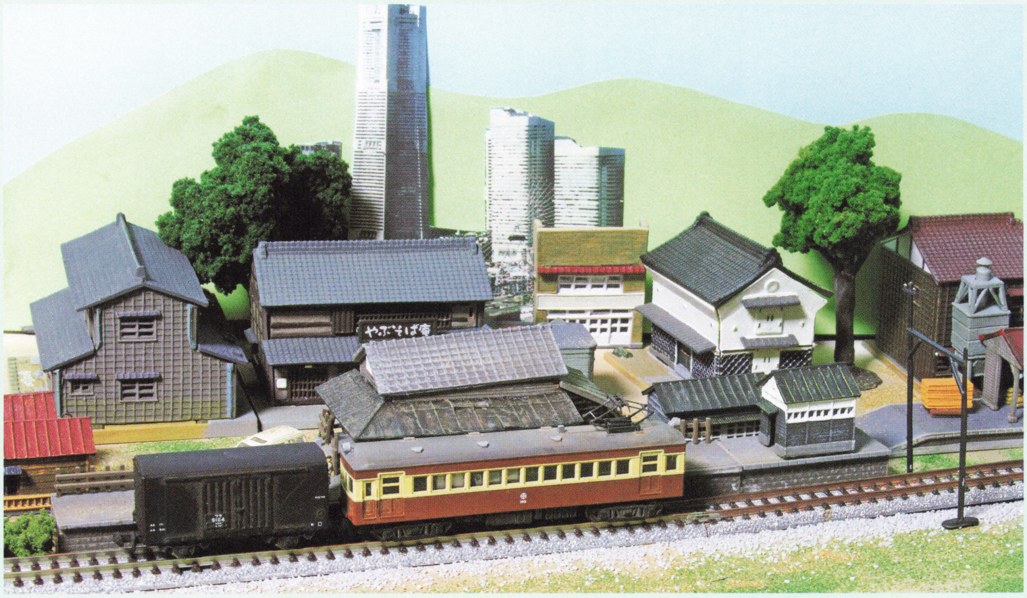
プランの寸法は900×500㎜で、エンドレスの内側には留置線を備えた終着駅と引込線を、エンドレスの外側にも留置線を設置しており、本線上を走る電車の合間を縫って、荷物電車、あるいは短編成の貨物列車が2本の引込線の間を往復するというのが運転の基本。本線エンドレスの奥には交換設備も設けているが、ここは信号場的な扱いとして、大きな駅施設は設けず、あまり目立つことのないように処理しておきたい。レイアウトの奥に多くの建物があると、レイアウトが小さく感じられるからである。レイアウトの右奥にある引込線は、線路配置を工夫すればさらに線路を増やすことができるが、有効長の短い側線は運転のストレスを増やしてしまうことも考えられ、それを承知の上で線路を増やすかどうかは、好みの問題といえそうだ。

プラン1、プラン2とも、線路はフラットな配置で、勾配は存在していない。小型レイアウトに勾配を設けると運転が難しくなるので、それを避けた措置だが、その替わり地形には高低差を設け、あるいは電柱などの、垂直方向に延びるストラクチャーを適宜配置して、レイアウト全体がフラットな印象になってしまわないよう工夫しておきたい。

コラム●レイアウト作りを楽しむアイデア②

簡単な工作で完成、レイアウトに背景をつけよう

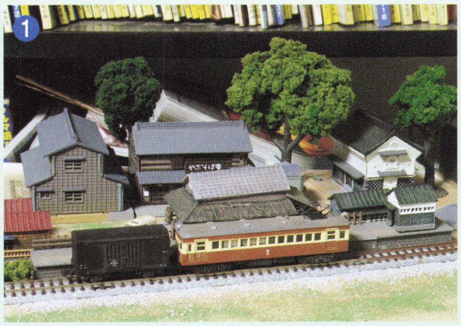
レイアウトで効果絶大なアイテムである背景。ここでは簡単な工作で背景を作る。



簡単な背景が付けられたレイアウト。その効果のほどを左下の写真と見比べて欲しい。

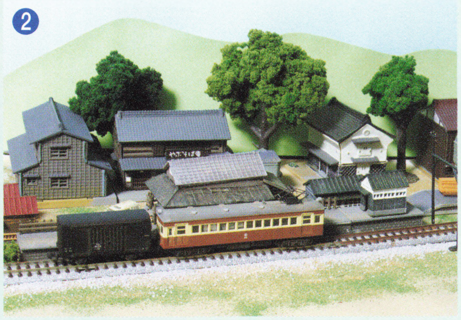
レイアウトをリアルに仕上げるのに抜群の効果を発揮する背景画。これには主にヨーロッパ製の輸入品があるが、品薄なのが現状。そこでこれを簡単な工作で作ってみよう。

用意したのは水色と黄緑のカラーケント紙。これをカットしてボードに貼り、レイアウトの後ろに立てるだけでも、十分な効果がある。さらにここでは印刷された写真を切ってその上に貼り付け、レイアウトの背後にそびえる建物に見立ててみた。もちろん、これには自分で撮影した写真を利用してもよい。わずかな工作でも、その効果は抜群。是非、お試しあれ。



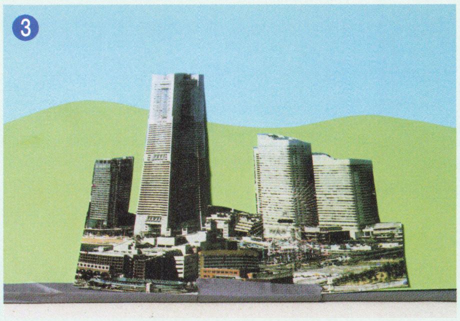
背景なしの状態

小さな駅をテーマにしたレイアウトセクションを本棚の前に置いてみたところ。これはこれで楽しむことができるけれども…。



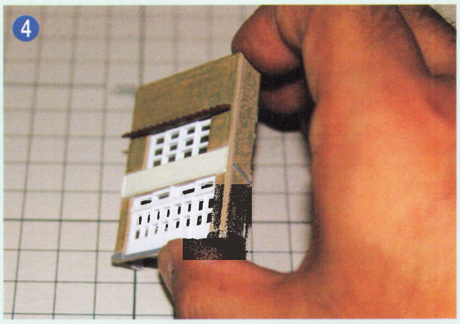
カラーケント紙の背景を追加

適当なサイズにカットしたケント紙をボードに貼って、レイアウトの背後に建ててみた。これだけでも十分に効果がある。



建物の写真を追加する

その上に雑誌を切り抜いた建物の写真を貼ってみた。もちろん自分で撮影した写真を使用してよい。工作ともいえないほどの簡単な作業だ。



建物を追加

さらに既製品のストラクチャーの正面だけを薄くカットして設置する。「ローレリーフ」と呼ばれる技法だ。

第3章

初心者向け
レイアウトスタートの基礎知識

レイアウトを作るためには、知っておきたいことがいくつかある。
初めて作る人のために必要な基本的な事柄をわかりやすくまとめて
紹介した。これでレイアウト作りがいっそう楽しくなるはずだ。

あらゆる要素を組み込んだ完成度の高いレイアウト。それはモデラーなら一度は手にしたい究極の夢だ。（制作：小沢菊夫）

1 レイアウト作りへの第一歩

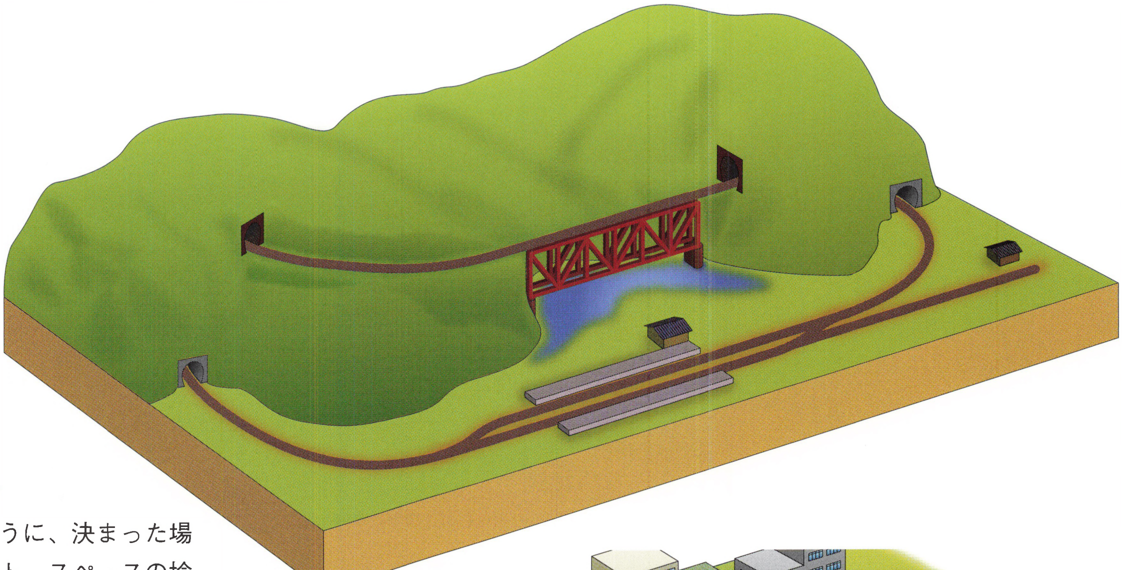
モデラーであれば誰もが夢見るレイアウトの制作。けれどもそれは実現の難しいものではない。ここでは夢を実現する方法について検証してみよう。

ちょっとした工夫でレイアウトオーナーになれる

「レイアウト」という言葉を聞くと、どうしても鉄道博物館のような鉄道関連施設に展示される「鉄道模型パノラマ」などを連想してしまう。あるいは、アメリカの鉄道模型雑誌に掲載されているような大規模レイアウトを思い浮かべる人もいるかもしれない。しかしそのような大規模なものは、実はアメリカでもヨーロッパでも極めてまれな存在なのが現実なのだ。身近な例でいえばハウジングセンターに建っている立派な住宅。あれは「家が欲しい」という欲望を喚起するためのもので、住宅団地などで実際に建っている家とは規模や設備が大きく異なる。たまに展示場から抜け出したような立派な個人住宅も見かけるが、そのようなものは数が極めて少ないのと同じ理屈である。アメリカでもヨーロッパでも都市部の住居は集合住宅（いわゆるマンション）が中心。おのずとスペースが限られてくるわけで、そのような家庭にあるレイアウトのことを「ホームレイアウト」と呼んでいる。そして、さまざまなアイデアを駆使して場所をひねり出す工夫をしている。彼の国でできることが日本でできないはずがない。「レイアウトオーナーになりたい」と強い思いを持ち、スペースや予算を工夫することが、レイアウト実現への第一歩なのだ。

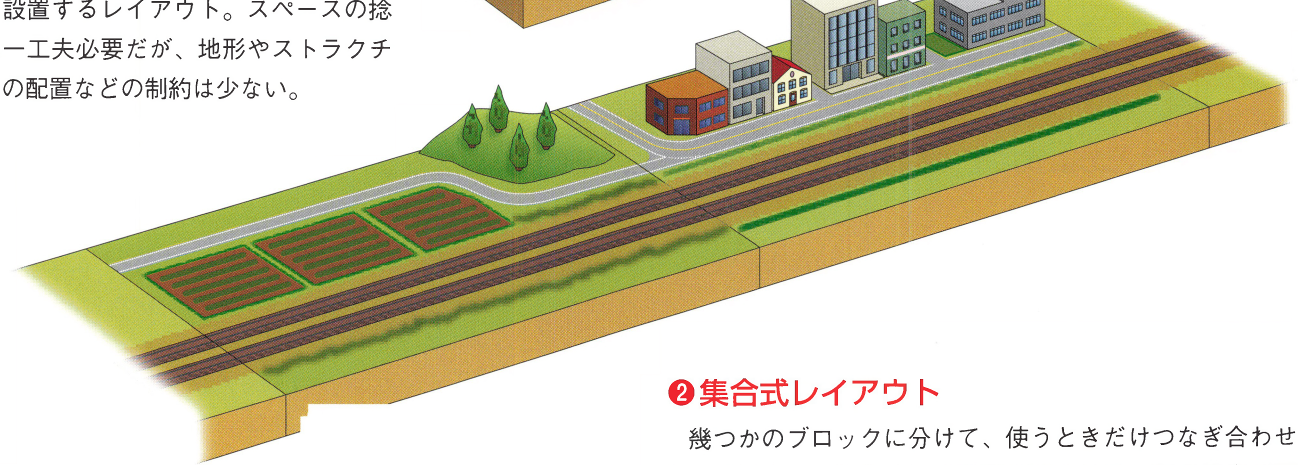
クラブでレイアウトを共有する方法もある（モデルアイゼンバーンクラブ）

レイアウトにはさまざまな種類がある



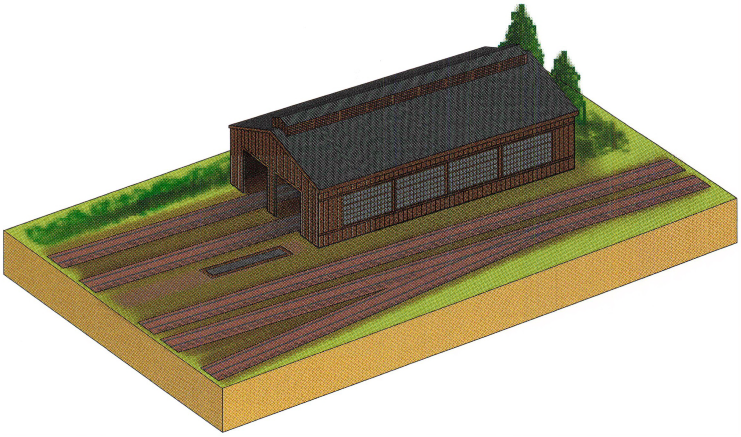
❶固定レイアウト

家具や住宅設備のように、決まった場所に設置するレイアウト。スペースの捻出に一工夫必要だが、地形やストラクチャーの配置などの制約は少ない。



❷集合式レイアウト

幾つかのブロックに分けて、使うときだけつなぎ合わせるレイアウト。組み立てに時間が掛かり接合部の精度が要求されるが、収納しやすく長大編成の運転も可能。

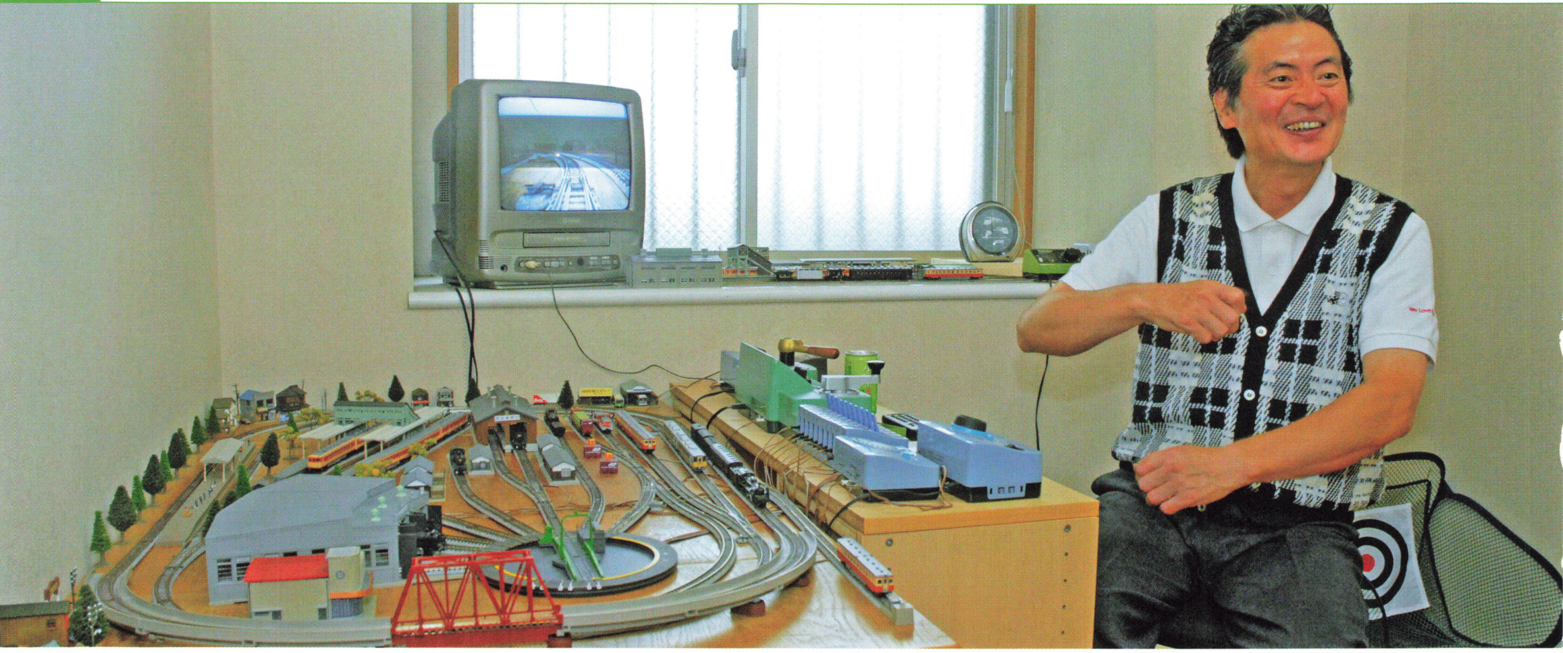


❸ジオラマ

特定の風景の、ある瞬間を切り取った状態を表現した立体パノラマ。スペースの制約は少ないが動きはない。

他にもこんなスタイルが

レイアウトに必要な最小スペースはNゲージなら50㎝が目安。これだけあれば円形のエンドレスが組める。ということは、身近な家具や道具にレイアウトを組み込むというスタイルも可能だ。たとえば、天板がガラスになったテーブルの下にレイアウトを作るとか、スーツケースの中にレイアウトを作るようなアイデアも浮かんでくる。運転を行なわない時はレイアウトを部屋の隅に立て掛けておく方式、Nゲージでは少ないが、庭やベランダにレイアウトを設置する庭園鉄道というスタイルもある。



フジテレビでお馴染みの堺正幸さんの例。空いたダイニングテーブルの上に線路を常設。気分によって線路配置を変えることも簡単だ。

2 レイアウトの設置場所を考える

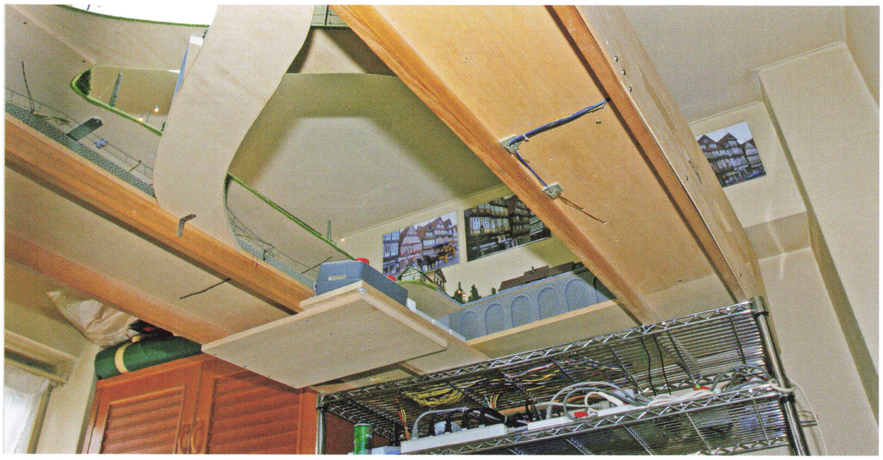
ホームレイアウトがあればお気に入りの車両をすぐに走らせることが可能。それではどのように工夫すれば、そのスペースを確保できるのだろう。

レイアウトを生活空間に組み込むのがコツ

日本の家は狭い、とよく言われる。だからレイアウトなど置けるスペースなどあるはずがないと…。しかし、本当にそうなのだろうか？　確かに集合住宅中心の都市部ではそのように考えてしまうのも無理はない。だが、レイアウトの普及率が高いドイツでも都市部の集合住宅一戸当りの占有面積は、実は日本のマンションと大差ないそうだし、とてつもなく広い印象のあるアメリカでも巨大都市の事情は似たようなものだという。つまり、「家に十分なスペースがない」ことは、レイアウトの保有を阻む要素にはなりえないということなのだ。前述したように、Nゲージのレイアウトなら50cm四方、大形の車両を走らせる場合でも奥行きで60cmあればエンドレスができる。洋服ダンスの奥行き程度の寸法だ。

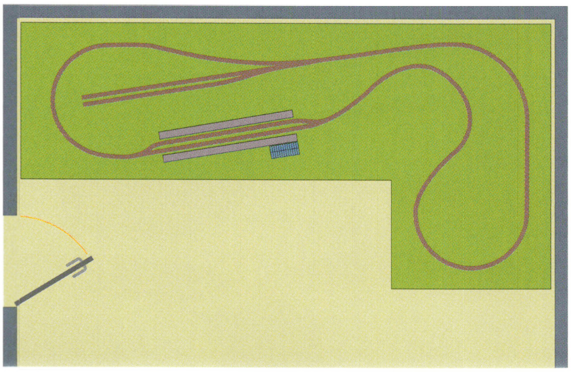
一方、タタミ1畳の長手方向の標準的な寸法は1.8mなので、外周を除くと1.2mほどの直線区間が採れる。20m級の車両なら1両およそ13cmなので、8両編成くらいなら余裕で直線に停められる計算になる。これを家具や物入れスペースと立体的に組み合わせれば、邪魔もの扱いされることも少なくなるはずだ。

レイアウトの設置を考えたとき、どうしてもそれだけが鎮座する場所を思い浮かべてしまうが、ちょっとした工夫をするだけであなたの家でもホームレイアウト設置の可能性がでてくる。



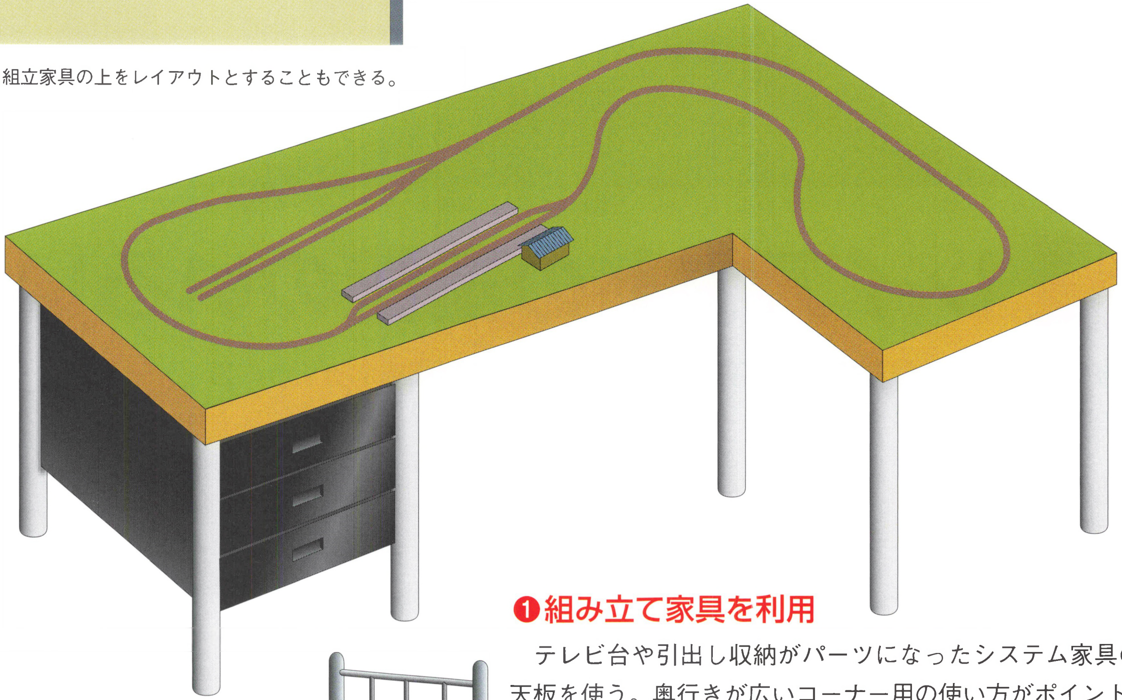
鴨居にレイアウトを設置した例。空間をうまく利用する発想がポイント。（制作：久保田憲一）

すでにある家具などを利用する



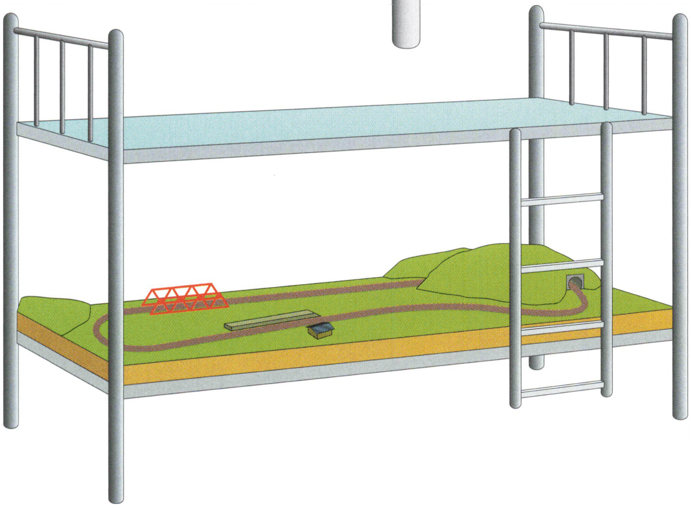
壁に沿って設置した組立家具の上をレイアウトとすることもできる。

日本のタンスやサイドボードの奥行き寸法は40〜60㎝程度で決まっている。Zゲージのレイアウトならそのまま家具の上に置けるし、Nゲージでも少しクリアランスを採れば大丈夫。また、標準的な食卓テーブルは150×80㎝、ベッドは220×105㎝程度なのでHOゲージのレイアウトも置ける。これらの家具の機能を生かしつつ、レイアウトの設置場所をひねり出すアイデアを考えるプロセスも、楽しみのうちかもしれない。



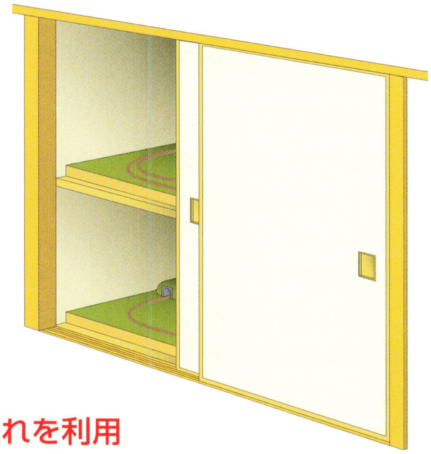
❶組み立て家具を利用

テレビ台や引出し収納がパーツになったシステム家具の天板を使う。奥行きが広いコーナー用の使い方がポイント。



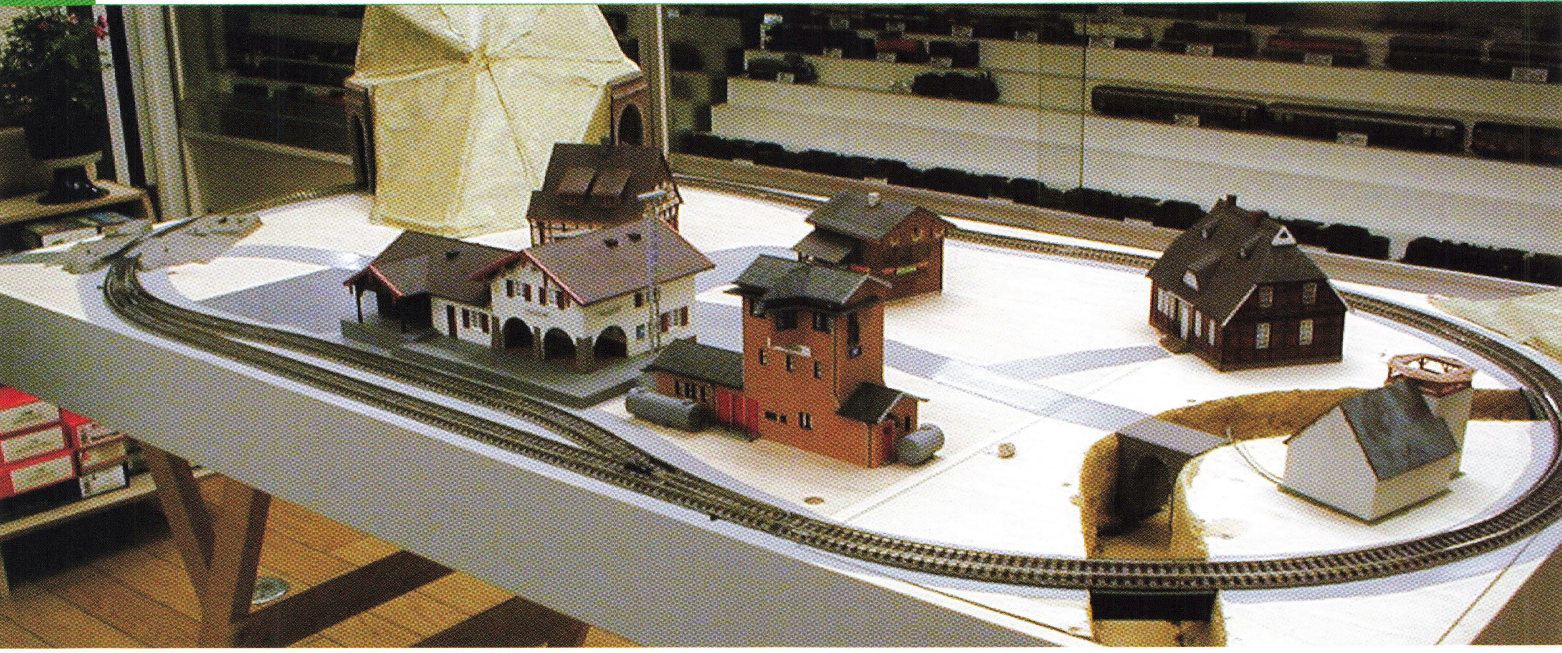
❷ロフトベッドを利用

ベッド下の空間に入れ込む例。デスクがセットされたものもあるので、これを利用すれば基盤工事が不要。



❸押入れを利用

押入れの中段は、運転を楽しむには程よい高さ。左右の引戸だと開口が半分になるので、両側に開く折戸が理想。



工事中のレイアウトの例。レイアウトの生命線は、しっかりした基盤にある。（写真提供：モデルバーン東京店）

3 レイアウトの基盤のいろいろ

レイアウト作りの最初の作業は基盤を作ること、この行程をおっくうに思う人も多いかもしれないが、少しの工夫でハードルをクリアできる。

レイアウト基盤は製品利用がおすすめ

レイアウトを作るにあたり、最初にやらなければいけないのは基盤作りだ。基盤はレイアウトの大きさ、形などによって構造を考えていかねばならない。

簡単なのは、カトーの「レイアウトパネル」、トミックスの「レイアウトボード」など、レイアウト用として発売されている基盤の利用だ。どちらもベニヤ板と角材を組み合わせたパネル状の構造で、大きさは共に900×600㎜。また、共に付属のボルト・ナットで複数の基盤を連結して使うこともできるようになっているが、孔の位置が違うため、混用は避けるほうが懸命だ。

また、集合式レイアウトなどに便利なサイズの基盤もカトーは「モジュールパネル」、トミックスは「コンビネーションボード」の名前で発売している。これも接続して使うなら同一メーカーのものに統一したほうがいい。

このほか、写真やポスターを貼るパネルなどもレイアウト基盤に転用できる構造のものもある。

このような基盤の利用では作れない大きさや形のレイアウトを作るときは、自分で基盤を準備することになる。

簡単には市販のレイアウト基盤と同じようなパネル構造となる。中心となるベニヤ板は最低でも厚さ5.5㎜のものを使い、反りが出ないように枠組みを付けていく。ちなみにベニヤ板は畳1枚の大きさなら厚さ1㎜あたり約1kg目安といわれており、がっちり組み上げるとかなりの重量になる。

軽量化という点からおすすすめしたいのは、スタイロフォームなどの建材用発泡スチロールだ。厚さ50㎜以上のものを使えば、畳1枚の大きさでも反りはほとんど出ない。スタイロフォームは一般の発泡スチロールより目が詰まり、強度もあるが、やはり擦れると角が落ちてくる。そのため、周囲はベニヤ板で囲っておくと安心だ。この場合は、一番薄いもので十分。DIYでスタイロフォームの厚み＋αの幅に切ってもらい、木工用接着剤で縁取りするように貼っていく。これによって反りに対する強度も出る。

さらに大きなレイアウトを作る場合、板（合板）を井桁状に組み合わせて基盤とする方法もある。線路は厚さ5.5㎜程度のベニヤ板で路盤を作り、その上に敷設する。路盤は井桁に直接乗せてもいいし、脚を付けて高さを変えることも可能だ。工作はやっかいになるが、ベニヤ板平原を作らない分、軽く仕上げることができる。なお、板を井桁に組むのはかなりの工作力が必要。ベテランモデラーでも、この台枠だけは大工さんに発注する人が多い。

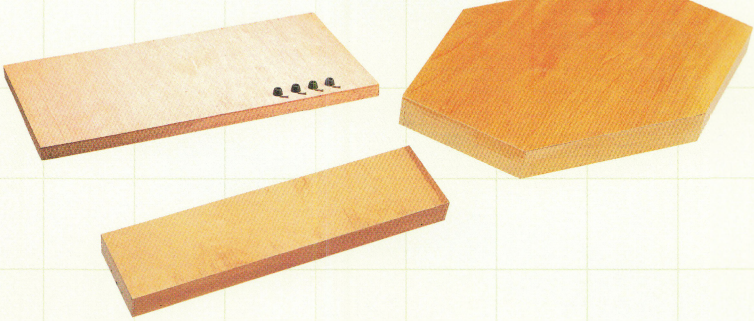
さまざまな製品を活用しよう

既製のレイアウト基盤

トミックスから「レイアウトボード」（写真）、カトーから「レイアウトパネル」として発売。サイズは共に900×600㎜

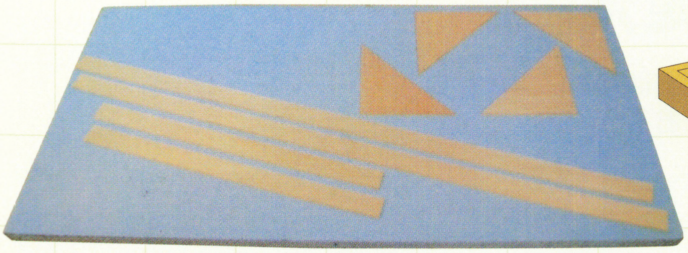
集合式レイアウトに便利な基盤

トミックスから「コンビネーションボード」（写真左上）、カトーから「モジュールパネル」（写真右上、下）として発売。サイズ、形状はさまざまある。



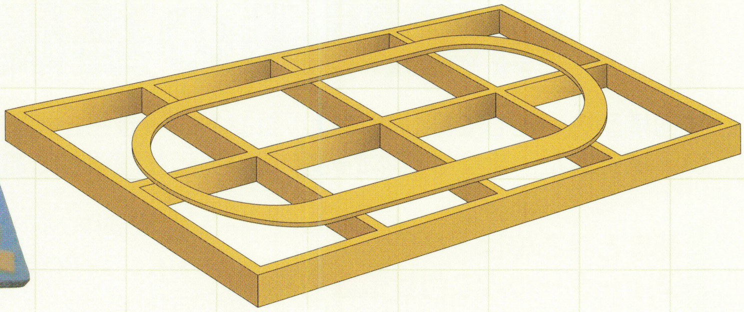
発泡スチロール板も使える

スタイロフォームなどの建材用発泡スチロールは強度もあるのでレイアウト基盤に使える。厚さは最低でも50㎜以上のもの。また、ベニヤ板で縁取ればさらに強度が増す。



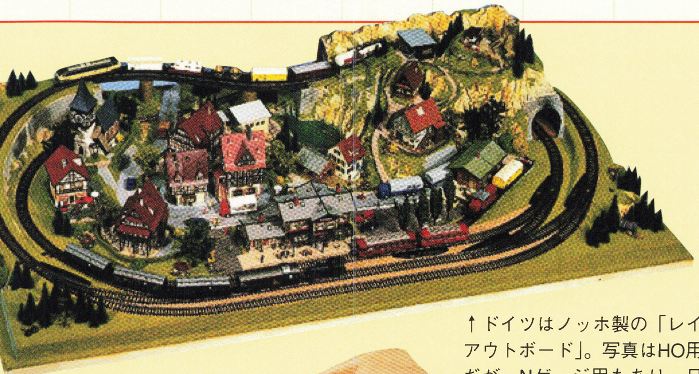
板を井桁に組んで作る基盤

板（合板）を使って組み上げる。自分自身で設計、好きな大きさや形に作れるが、相応の工作力が必要となる。



地形までできたレイアウト基盤もある

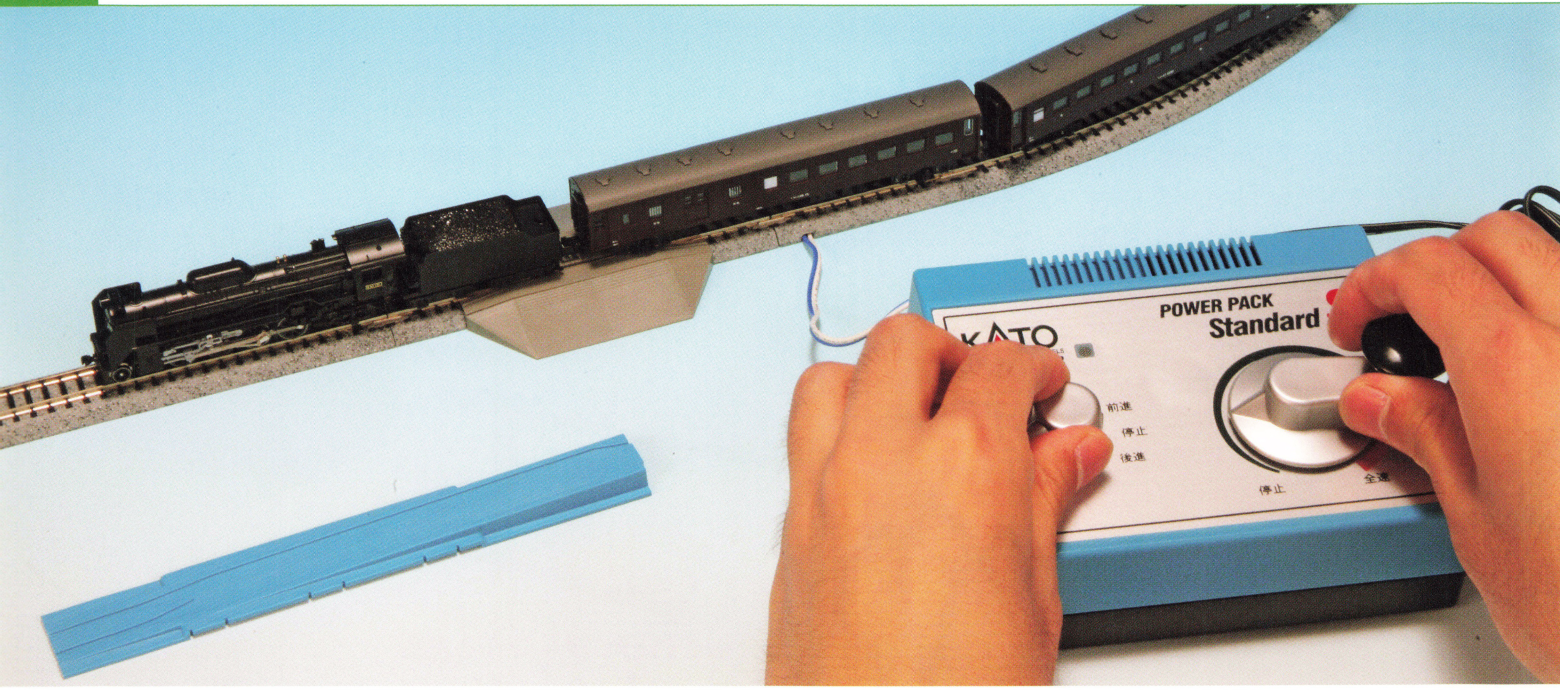
線路の路盤や山などの地形まで作られたレイアウト基盤も発売されている。線路配置は決まってしまうが、簡単にレイアウトを作りたい人におすすめ。



↑ドイツはノッホ製の「レイアウトボード」。写真はHO用だが、Nゲージ用もあり、日本にも輸入されている。

↑カトーの「デスクトップレイアウト」。地形はほぼ完成、線路を敷設、建物を配置すれば一応完成だ。

←トミックスの「レイアウトベースキット」。未塗装なのでオリジナリティを発揮できる。



車両のコントロールをシステマチックに行なうことも、模型運転の大きな楽しみだ。

4　給電関係の基礎知識

鉄道模型を運転して楽しむには、コントローラーと線路は絶対に欠かせないアイテムだ。まずは基本的な接続の基礎を理解しておこう。

基本となるのは フィーダーの取り付け位置

コントローラー（パワーパックなどとも呼ばれる）は、線路に給電する電気をコントロールする制御器だ。鉄道模型はこの電気を線路から受け取り、動力としているのだ。

コントローラーは家庭のコンセントに接続、まず鉄道模型に適した電気に変換する。この電気をさらに調整することで列車の速度や進行方向が変わり、本物の列車のように動きを操作することができるのだ。このコントローラーと線路をつなぐ電線、あるいはこの電線を線路につないだところをフィーダーと呼ぶ。

コントローラーは、1列車を運転するのに必ず1つ必要となる。もしも、2列車を同時に運転するならコントローラーも2つ必要になるのだ。

しかし、すべての線路が電気的につながっているエンドレスで2列車運転したいからといって、ここに2つのコントローラーをつないでもうまくいかない。2つのコントローラーから供給される電気がぶつかってしまい、ショートしてしまうのだ。このような2列車を運転する方法については110ページで紹介する。

さて、線路にフィーダーを接続する場合、どの位置に取り付ければいいのだろうか。単純なエンドレスやポイントの入っていない往復線路の場合、フィーダーはどこに付けてもいい。

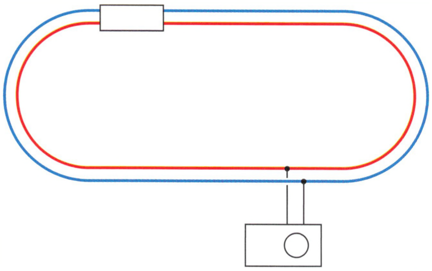
フィーダーの位置に注意しなくてはならないのは、ポイントを組み込むときだ。すでに運転を体験している人なら分かっていると思うが、例えばヤードから列車を引き出すとき、まずポイントを切り替え、その列車の進路を設定すると、その列車だけが動き、ほかの列車は動かない。実は鉄道模型のポイントは、単に進路を決めるだけでなく、先端レールの動きに合わせて電気の流れを操作するスイッチにもなっているのだ。

このような電気構造のポイントを“選択式ポイント”と呼ぶ。カトー、トミックスのポイントはいずれもこの状態の設定で発売されている。

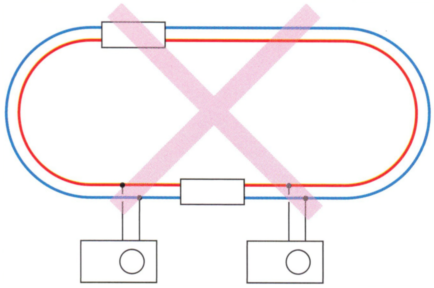
さて、ポイントを組み込んだ線路にフィーダーを接続するときは、「ポイントの根元側、分かれた先には付けない」と覚えておけばいい。すべてこの基本に則った方法でやればいいのだ。

なお、このルールに反するフィーダーが必要になるときは、その間の線路を電気的に分断するギャップが必要になってくる。ギャップについては110ページを参照のこと。

1列車、1コントローラーが原則

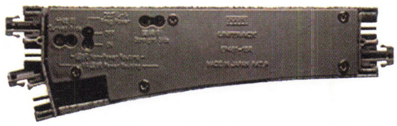


Nゲージなどの鉄道模型は２本のレールに電気を流し、それを動力として運転している。

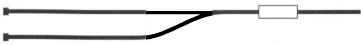


図のような方法ではエンドレス上の2列車を操作することはできない。

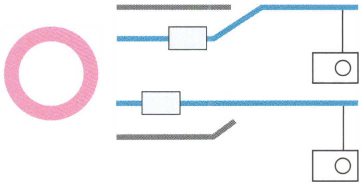
ポイントの電気構造とフィーダーの位置関係



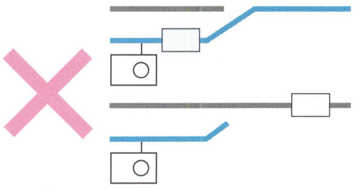
カトー、トミックスとも電気方式は選択式が基本。写真はカトーのポイント裏側。



図のようなヤードでの運転操作を考えてみよう。

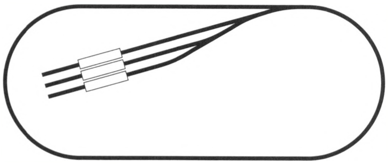


フィーダーをポイントの根本側に付けた場合。ポイントの切り替えに関わらず、運転可能だ。

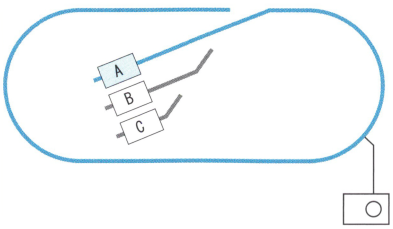


フィーダーをポイントに付けた場合、側線から本線に出ることはできるが、本線側にポイントを切り換えた時点で本線側には給電されなくなる。

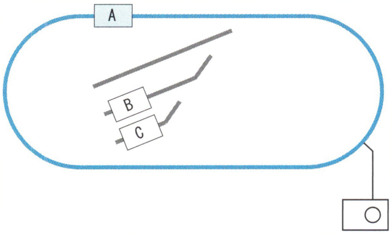
ポイントに電気スイッチ機能があるので、列車の選択もできる



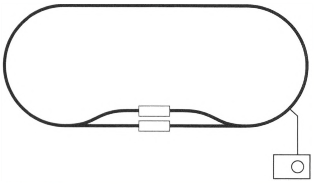
エンドレスの内側に３本のヤードを設けたプランで考えてみよう。



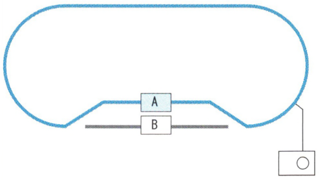
ヤードにいるＡ列車を動かすため、ポイントの進路を開く。フィーダーから供給される電気はＡ列車に届き、ほかの列車には届かない。



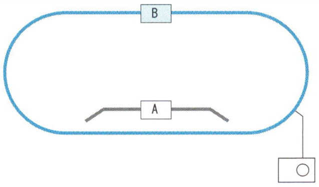
Ａ列車がエンドレスに出たところでポイントを切り替えると、エンドレスを周回可能になる。引き続き、ほかの列車に電気は届かない。



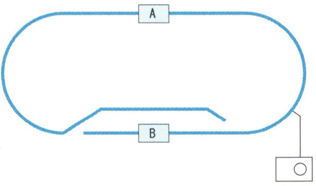
列車交換ができる側線を設けたプランで考えてみよう。



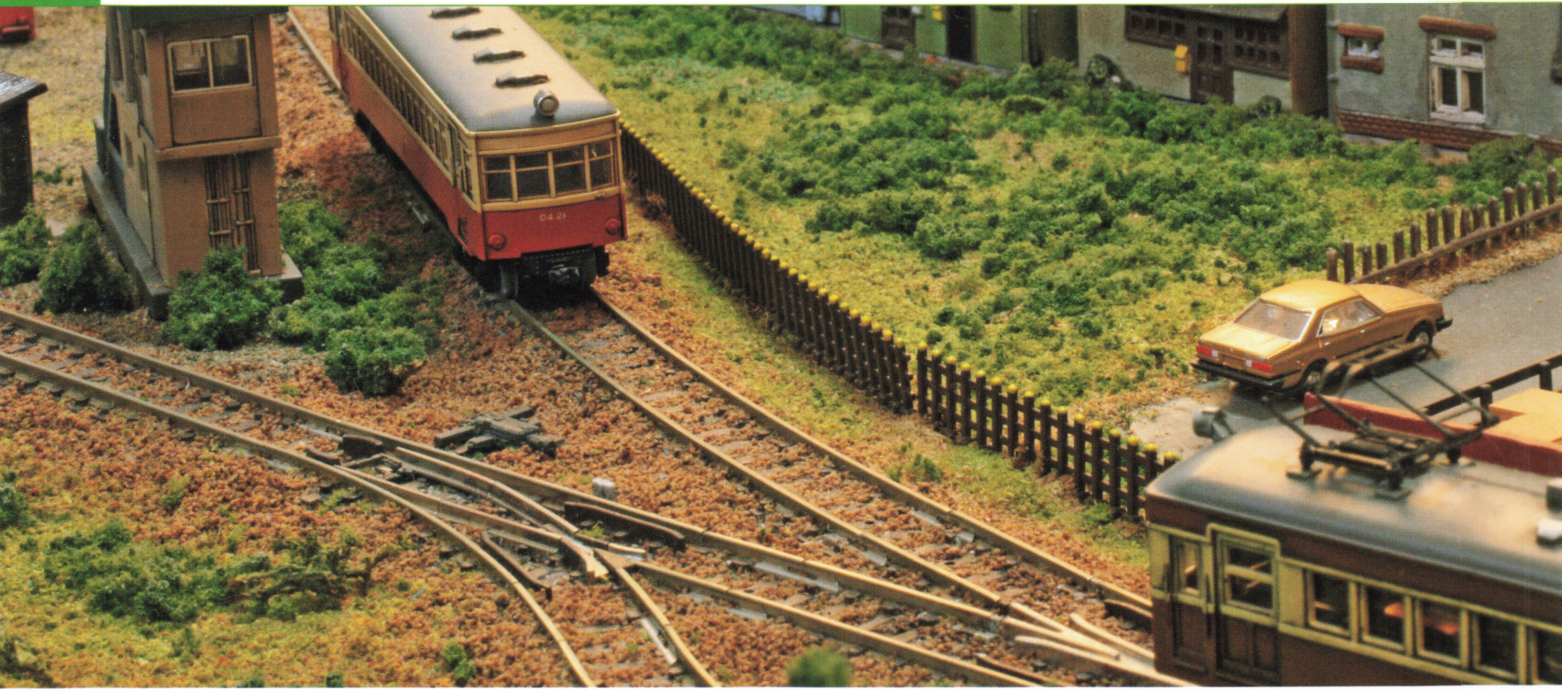
2個のポイントを側線側に切り替えれば列車Aが走行可能。



2個のポイントを本線側に切り替えれば列車Bが走行可能。



ポイントの切り替え方向が逆だと2列車とも動いてしまう。



たくさんの車両を思うままに運転する。誰もが夢見る鉄道模型の醍醐味だ。（制作：荻巣 伸広）

5 2列車運転の基礎知識

レイアウトで同時に2列車以上運転させたいこともある。まったく別の運転経路を設定するなら簡単だが、交互に列車を行き来させるとしたら…？

線路をブロック分け 1区画に1列車のみ走らせる

レイアウト（線路）で複数の列車を同時に運転するときには、実物の鉄道と同じような考え方が必要になってくる。実物の鉄道では安全を管理するため、線路を一定の区間ごとに分け、その間には1列車しか走らせない。こうすれば追突や正面衝突といった事故は起こりようがないのだ。

鉄道模型にこの考え方を取り入れてみよう。図1は中央に行き違い設備を持った駅がある単線の線路だ。ここに2列車走らせてみる。

まず線路は電気的にいくつかのブロックに区分けする。ここでは駅構内を線路ごとに分けて2つ、そして駅の右側と左側の本線もそれぞれ分離して4つのブロックに分けている。

A列車、B列車とも左右の本線を駅に向かっている。ポイントは、進行方向左に分岐するように切り替え、コントローラーからの電気は、それぞれの本線とポイントの切り替わっている側線に通じさせておく。これによってA列車とB列車は個別に運転しながら駅に停車させることができる。出発するときは、ポイントを切り替え、電気も側線から進路の本線に切り替える。これで引き続き、A列車、B列車とも終点に向かって走らせることができるのだ。

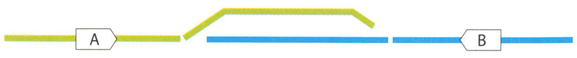
概念が分かったところで、これをエンドレスの中に組み込んでみたのが図2だ。同時に2列車運転したいので、行き違い設備のある駅も2つにしてある。

ブロック分けは図1と同じ考え方だ。さらにここではコントローラーからのフィーダー配線も描いている。コントローラーと線路の間に入っているのは、電気の流れを切り替えるスイッチだ。カトー、トミックスなどからもこうした役割に使えるスイッチが発売されている。どのような運転方法を取ればいいのか、図1と図2を見比べながら考えてみよう。なお、このような運転方法を鉄道模型では「デュアルキャブコントロール」と呼び、多くのモデラーが採用している基本となるシステムだ。

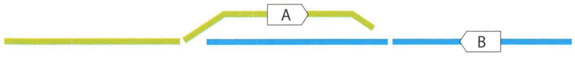
図3は複線エンドレスに側線のある駅を設けたプランだ。この側線は待避線などとして使うことができる。複線エンドレスがそれぞれ独立している場合はさほど悩まなくていいが、そこに渡り線のポイントが入るとちょっと難しくなる。渡り線のポイントには、内外のエンドレスを電気的に直接結ばないようにギャップを入れねばならない。なお、製品の両渡りポイントはあらかじめギャップが入っている。

図1

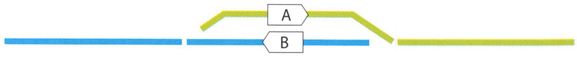
キャブコントロールの概念



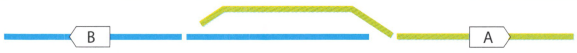
交換設備のある駅に双方から列車が接近。



A列車が先に到着して待機。



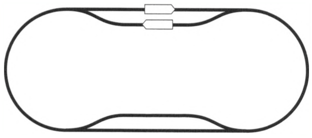
B列車も到着。ここでポイントを切り換え、運転用の電気も進路側に切り替える。



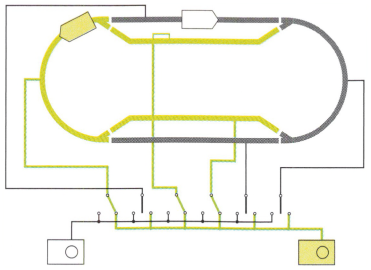
A列車、B列車がすれ違い、双方に出発する。

図2

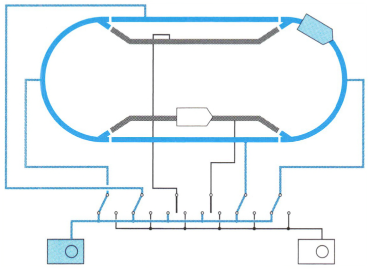
単線エンドレス＋駅2つ



エンドレスに2ケ所の交換設備を設けたプランで考えてみよう。



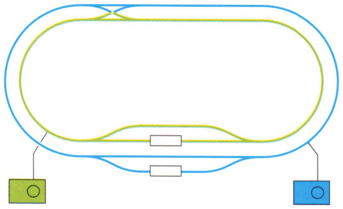
パワーパックは2つ用意する。区分けした各ブロックに切り換えスイッチを設け、どちらのパワーパックにも接続できるようにしておく。この段階では左の列車を右のパワーパックで運転中。



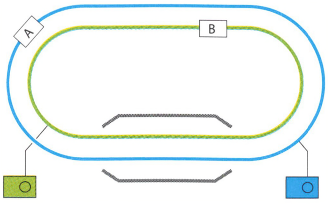
ブロックの切り替えスイッチを操作、左のパワーパックで右の列車を運転する。運転士が2人いれば、2列車同時に運転することもできる。

図3

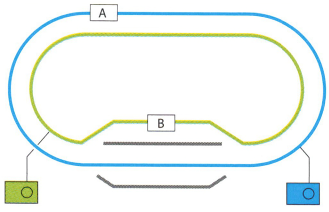
複線エンドレス



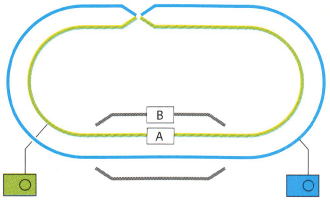
複線のエンドレスで2列車を2個のコントローラーで操作する方法を考えてみよう。



内線、外線の列車を各々のコントローラーで運転操作。

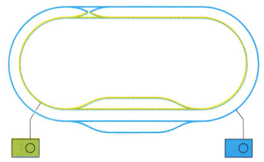


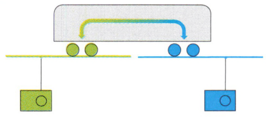
列車Aを外線から内線に移すため、まず列車Bを内線の側線に止める。



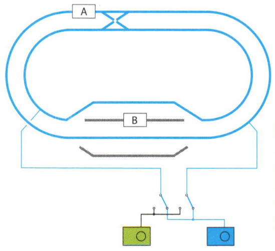
渡り線を切り替え、列車Aを外線から内線に移動させる。

ブロックコントロールの応用

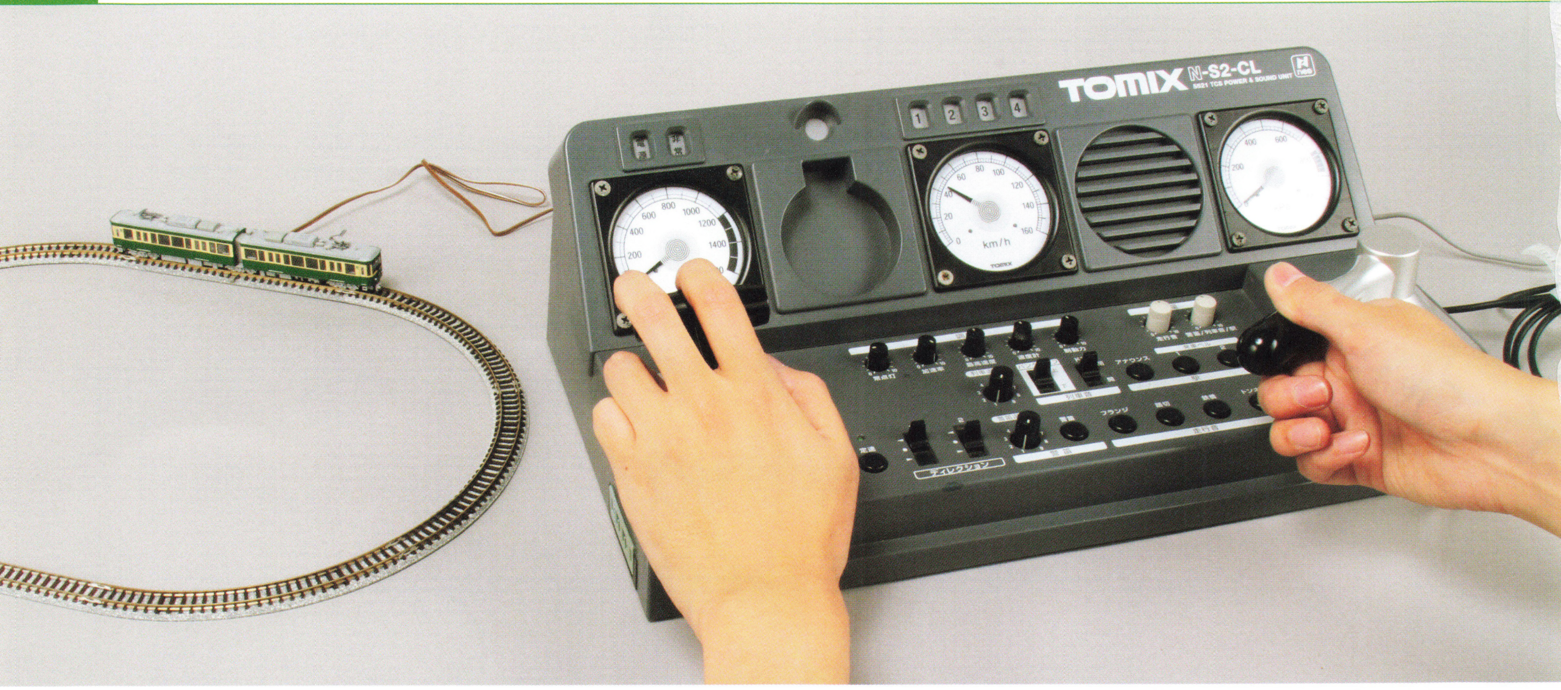




図のような操作方法では渡り線を列車が通過する際、列車を通じて2個のコントローラーの電気が混じりあってしまう。



解決策としてはエンドレスとコントローラーの間に選択スイッチを組み入れ、コントローラーが操作できるエンドレスを指定できるようにする。


TOMIX N-S2-CL
km/h

トミックスからリリースされているN-S2-CL。多彩な走行音の演出が可能なスグレモノだ。

6 列車コントロールの新しい潮流

Nゲージのコントローラーには、デジタル技術を用いて作られた新しいスタイルのものも登場。いずれも運転の楽しみを倍加させてくれる。

さまざまな車両の走行音を自由に再現

トミックス TCSパワー＆サウンドユニット N-S2-CL

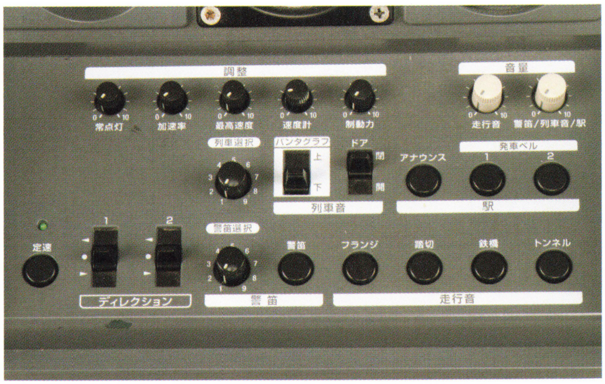
走行音や警報機の音を巧みに再現

細部まで精密に仕上げられた美しい外観を備えた車両、豊富に揃ったストラクチャーと線路システム…。現代のNゲージモデルは、「無いものは無い」と形容したくなるほど、商品は充実し、システムは成熟の度合いを増している。

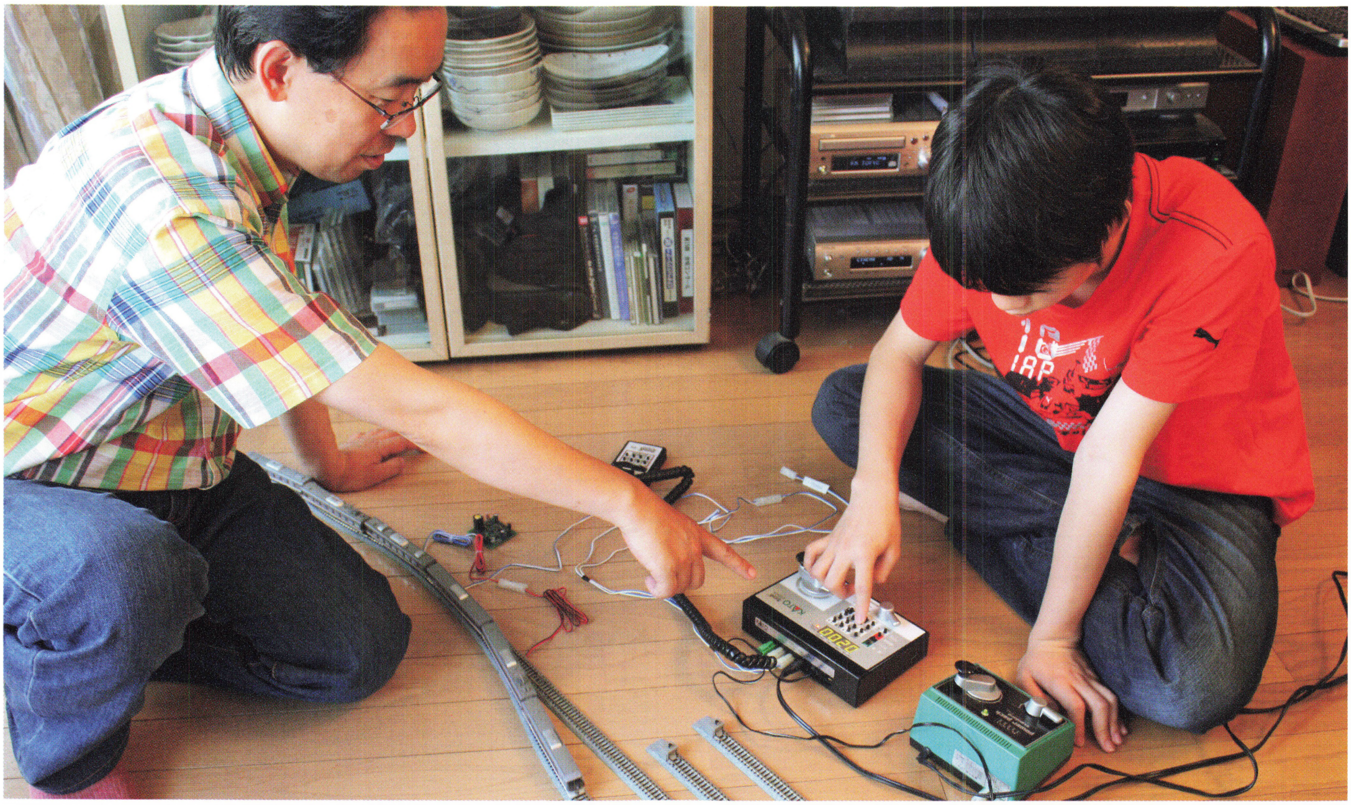
それでも、実物のような走行音が楽しめないことに不満を感じているモデラーは多いかもしれない。そんな人にお薦めしたいのが、トミックスからリリースされている「TCSパワー＆サウンドユニットN-S2-CL」だ。

このシステムは直線指令式のマスコンとブレーキハンドルを備え、実物の車両と同じように自然な加速、惰行、ブレーキ操作による減速と停止という運転を楽しめ、コンソールも速度計や、時計置場を備えたリアルな仕上がりで、運転士気分を味わえる。

そして最大の特徴となっているのが、サウンド機能の搭載だ。これは、72・73系といった旧型電車から、最新のE231系、あるいはキハ58系などの気動車、ディーゼル機関車、さらには電気機関車の走行音までを表現できるというもの。さらにはタイフォンや、踏切警報機の音、トンネル内や鉄橋上の走行音、ドア開閉音、発車ベル、アナウンスまで再現され、その多彩な機能、迫力は驚くばかり。13万4400円と価格もそれなりとなってはいるが、一度使ってみれば、やみつきになってしまうこと間違いなしの逸品である。「いつかはN-S2-CL」とでも呼んでみたい憧れのシステムだ。


調整
音量
常点灯
加速率
最高速度
速度計
制動力
走行音
警笛/列車音/駅
列車選択
パンタグラフ
ドア
アナウンス
発車ベル
列車音
駅
定速
警笛選択
警笛
フランジ
踏切
鉄橋
トンネル
ディレクション
走行音

新型車両の音でも、旧型車両の音でも、自由な設定が可能だ。



DCCシステムで楽しむNゲージ。KATOから発売されているDCCコントローラーは従来の同社製DCコントローラーも併用可能だ。

究極の制御システム誕生

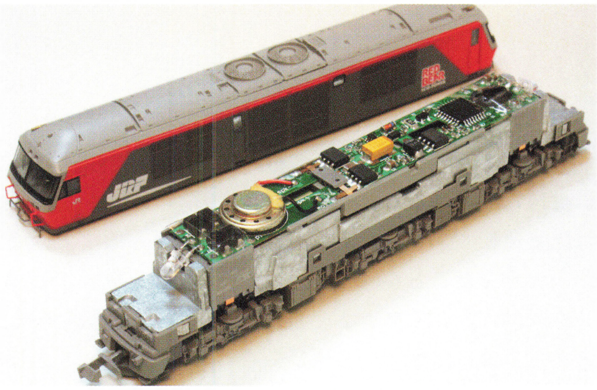
DCCコントロール

従来のイメージを覆す新しいスタンダード

こちらは、今いちばん注目されている鉄道模型の新しい制御システムDCC（＝Digital Command Control）。従来のNゲージ運転方式は、先にも紹介したように、レールに電気を流し、車両のモーターを回転させて走行させる。

これに対しDCCではレールに流すのはデジタル信号を付加した定圧の電気で、車両に搭載されたデコーダーがこれを判読して車両の動作を司る。これにより従来のシステムでは不可能だった同一線路上の列車の個別制御が可能になり、他にも走行音や気笛などのサウンドを出すことや、ヘッドライトのON／OFFの設定（車両が停車中でも点灯が可能）、従来は難しかった超低速走行や、機関車を２両連結した重連運転もスムースに行なえ、ポイント操作の一元化や、さらに工作を加えることでドア開閉などのギミックも可能にしている。また、レールへの配線は基本的に１ヶ所だけで済み、これも大きなアドバンテージとなる。

難点は従来の制御方式との混在が難しく、従来車をDCC対応にするためにはデコーダーと呼ばれる部品の搭載などの追加工作が必要になる。デコーダーは数千円から２万円ほど。またコントローラーもDCC専用のものが必要。コンバートにはそれなりの手順も必要となるが、駅のアナウンスをバックに、雄壮な音を出して、重連運転の機関車がスムースに発車してゆく姿、最大数千にもおよぶ列車をひとつのコントローラーで管理できる素晴らしさを知ってしまえば、導入を検討したくなるはずだ。



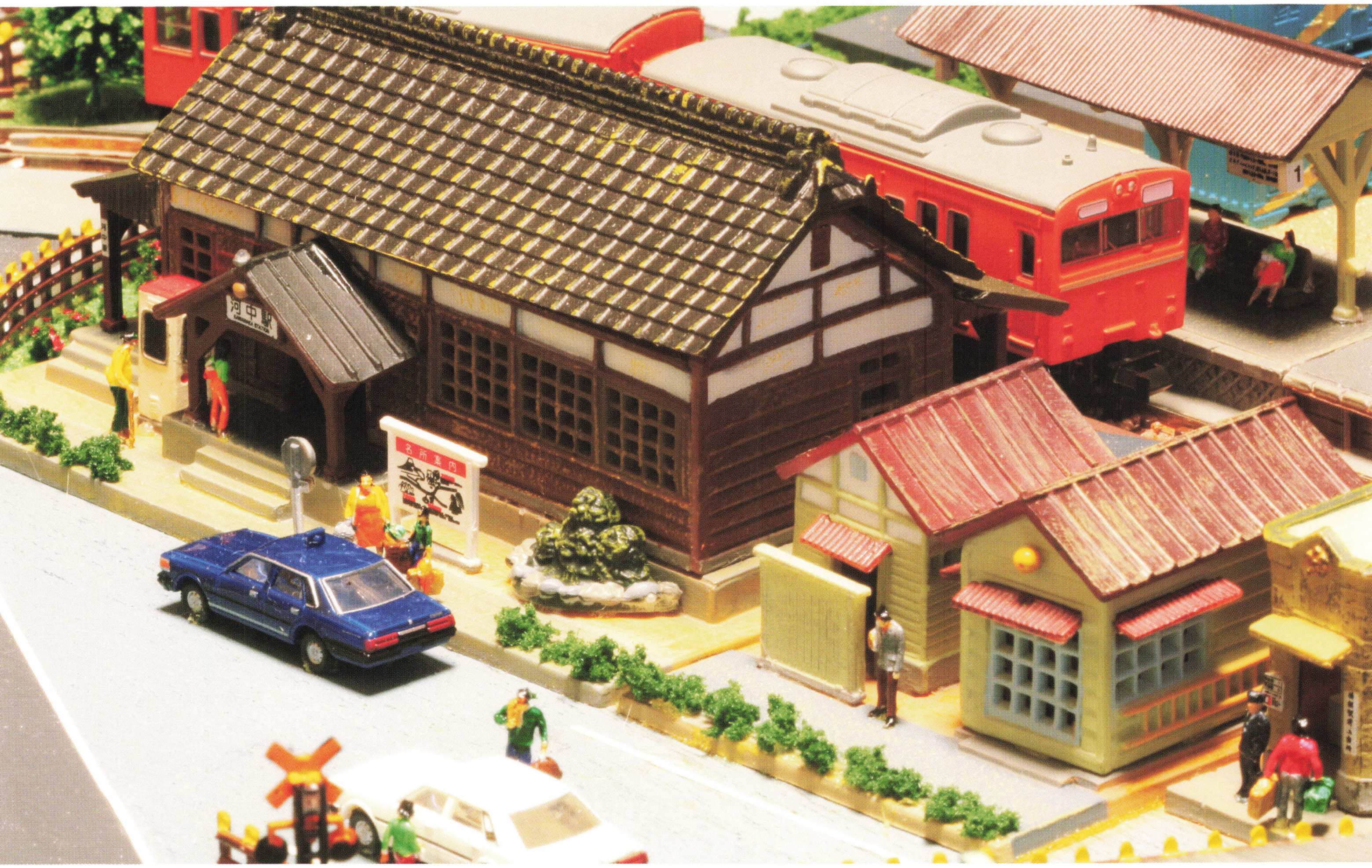
従来の車両をDCC対応にするためにはデコーダーを搭載する。

トランクに仕込んだミニレイアウト

持ち運びでき、短時間で運転準備が整い、さらにはできるだけ広い面積を確保する……。そんな思いで制作されたミニレイアウトだ。

トランク鉄道　制作：鈴木 惇久

レイアウトの大きさ	680×440㎜
使用線路	トミックス
制作のべ期間	約3ヶ月



トランクを開くと夢の世界が現れる

他の人に鉄道模型の楽しさをPRするには現物を見せることが一番。つまりは出張運転できるシステムがあればいい…。そんなことを考えて作ったトランク収納式のレイアウトです。制作にあたっては、気楽に持ち運びできること、短時間で運転準備が整うこと、そして、できるだけ広い面積を確保することといったコンセプトを掲げて設計しました。

最初はトランクの片側に情景を作り、反対側にはコントローラーを設置してありました。蓋を開け、電源ケーブルをコンセントに差し込むだけですぐに運転できるのはよかったのですが、小さなエンドレスをぐるぐる回っているだけではおもしろくありません。

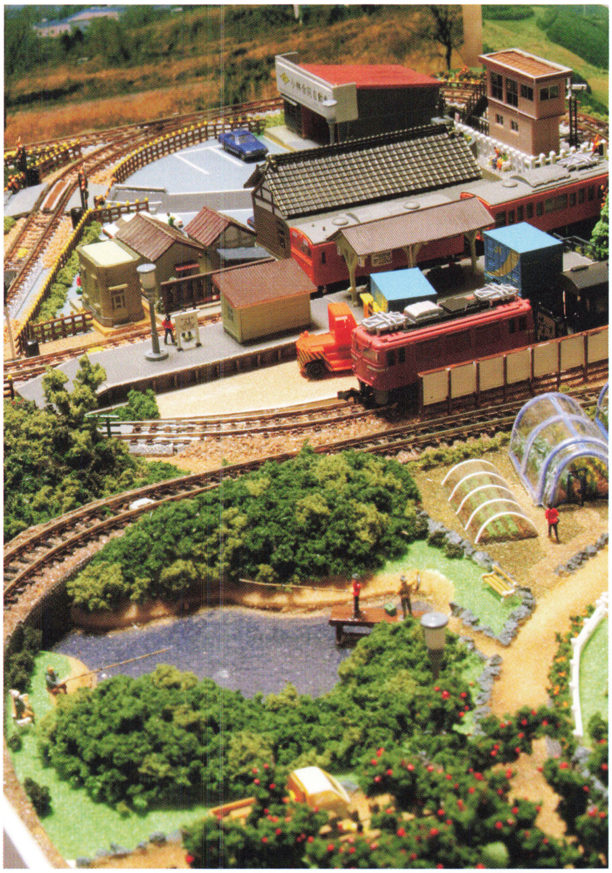
そこでレイアウト本体を折りたたみ式にして、スペースを倍増させることにしたのです。しかし、たたんだ時に互いの建物などが干渉しないように設置しなければならず、このデザインには相当悩まされました。結局、接続部の線路やコンテナヤードは取り外し式で対処することにして、1ヶ月ほどでなんとか狙い通りに仕上げることができました。

⬆茅葺き屋根の農家
農家の縁側で茶飲み話をするおばあさん、庭には布団を干す姿も表現、生活感を演出している。

⬅駅前の情景
駅のわきにはトイレや交番を配置。これらはすべて製品を活用、建物には照明を仕込んである。

⬇貨物扱いもする駅
レイアウトの中心は駅。ホームには乗客、そのわきでは貨物列車にコンテナを積み込む作業。

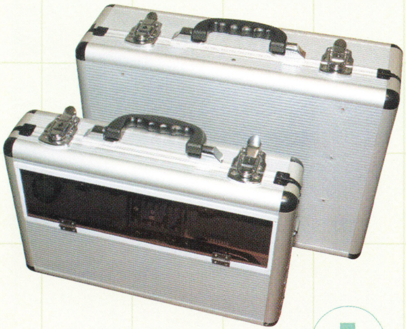
➡池もある田園地帯
レイアウトは駅を境に田園地帯と町に作り分けられている。手前の田園地帯は最初に作った部分。池やビニールハウスなども作り込まれている。



さあ夢のトランクを開けてみよう！

私のトランク鉄道は、レイアウト、制御器、車両が2つのトランクに収納されています。トランクはアルミ製のアタッシュケースで、写真下の奥にある大きいトランクがレイアウト本体、手前の小さなケースに制御器や車両（主にBトレを動力化したもの）が収められています。

設営の手順は下にお見せする通り。慣れると5分足らずで運転開始です。また、撤収も同じく5分ぐらいでできます。アタッシュケースを使っているので、移動時の破損も心配ありません。

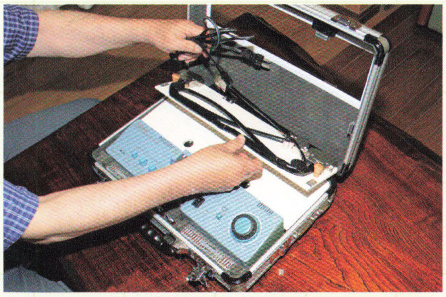


トランクの中から素敵な世界が出現

トランクの中はスペースを可能な限り広く使うため、収納や組み立てには、目からウロコのアイデアがぎっしりと詰まっている。

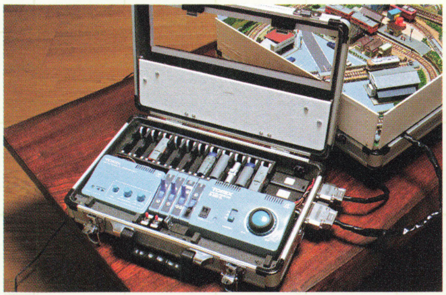
制御装置が収納

ケースを開けケーブルを取り出す



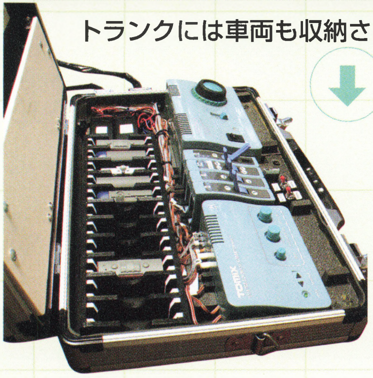
手前の小さいトランクには制御器と車両がコンパクトに収納されている。ケーブル類はトランクの蓋の裏側に収納。このあたりも手際よく納められている。

ケーブルを接続する

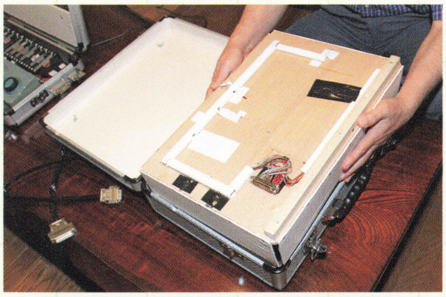


制御器とレイアウト本体との電気的な接続はパソコン用のコネクターを使用して極力簡単に作業できるように工夫されている。

トランクには車両も収納されている

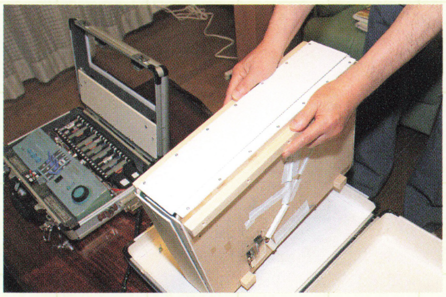


トランクから引き出す



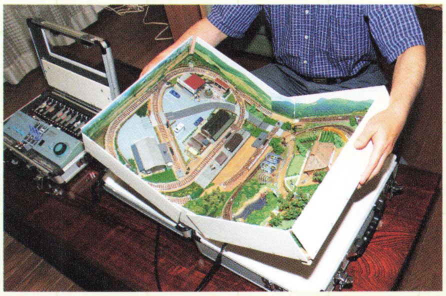
レイアウトのトランクを開くとレイアウトの裏側が見える状態で収納されている。配線ダクトや接続ケーブルのコネクターが見える。

レイアウトを開く



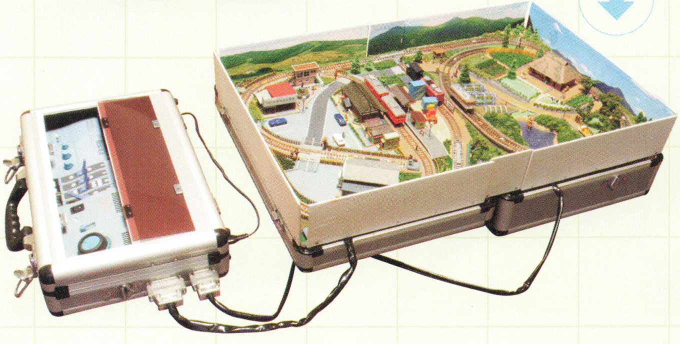
レイアウトをトランクから引き出し、位置決め用の棒を持ってレイアウトを開く。

レイアウトを設置する



レイアウトを左右に開き、位置決め用の棒がトランクに納まるように置く。別パーツとなった接続部の線路とコンテナヤードを取り付ければ設置完了！

車両を置いて運転開始

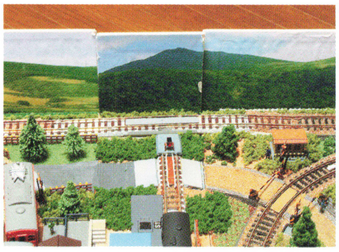


小さなスペースを生かす5つの工夫

トランクに収納する折りたたみ式の小型レイアウトならではの工夫の数々。自動運転は普通のレイアウトでも使ってみたいアイデアだ。

1 全周に背景画を設置

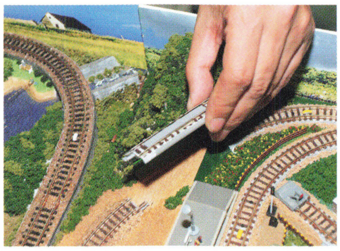
レイアウトの保護も兼ね、背景画を全周に取り付けました。これは手持ちのバルサ材に市販品を貼ったものですが、問題は折り畳んだ時。いかに干渉しないように処理するか、知恵の輪を作るような作業でした。



↑背景画の段差が折りのための工夫だ。

2 接続線路は伸縮レール

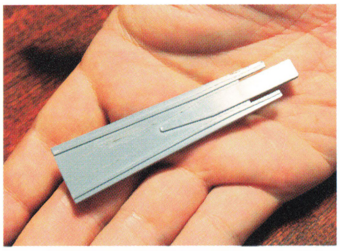
折りたたみ部の接続線路はトミックスの伸縮レールを使用。レイアウトを開いた状態で、伸縮レールを置き、レールを延ばしながら接続します。ただし、制作時の線路位置決定はカーブもあるので苦労しました。



↑伸縮レールを継ぎ目に置く。

3 リレーラーも小型化

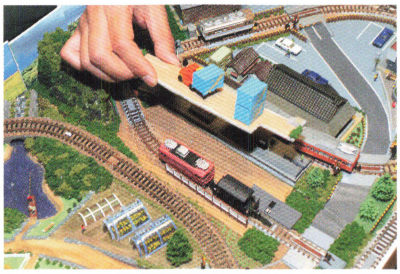
車両を線路にのせるリレーラーは直線部分でないと使用できないため、私のようなミニレイアウトでは位置が限定されてしまいます。建物や背景画などに干渉しないよう、レイアウトに合わせて短く調整しました。



↑長さを詰めたリレーラー。

4 折りたたみ部分のつながりを自然に見せるコンテナヤード

ミニスペースのレイアウトにも関わらず、さらに折りたたみ式としたため、たたんだ時の状態を予想しながら厳密に作らねばなりません。特に中央部の80㎜幅には、折りたたんだ際、ホームの屋根が入ってくるため、構造物を固定することができません。そのため、コンテナヤードを別に作り、レイアウトを開いたところではめ込む方式で対処しました。

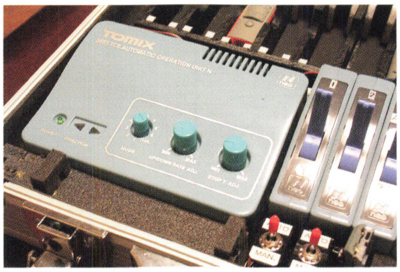


↑レイアウトを開いてコンテナヤードを設置。

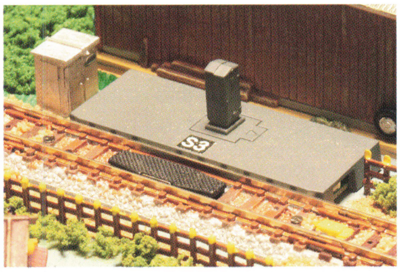
↑コンテナヤードにはフォークリフトも固定。

5 ミニレイアウトだから自動運転も効果的

このレイアウトではトミックスの「TCS自動運転ユニット」を利用した自動運転システムも組み込んでいます。この製品の運転モードは9種類ありますが、このレイアウトでは3列車交互運転モードを使用しています。停車時間などの設定に改良の余地がありそうですが、ともかく手放しで結構複雑な運転ができるため、ゆっくりと鑑賞する楽しみが増えました。



↑TCS自動運転ユニットの位置センサー。

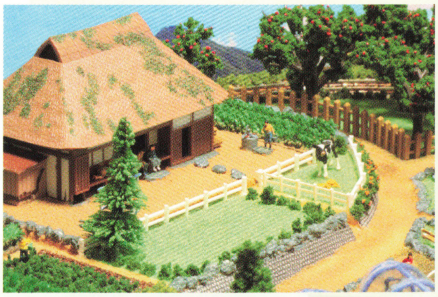


↑センサーやフィーダーの設置位置。

このレイアウトの全貌を見てみよう

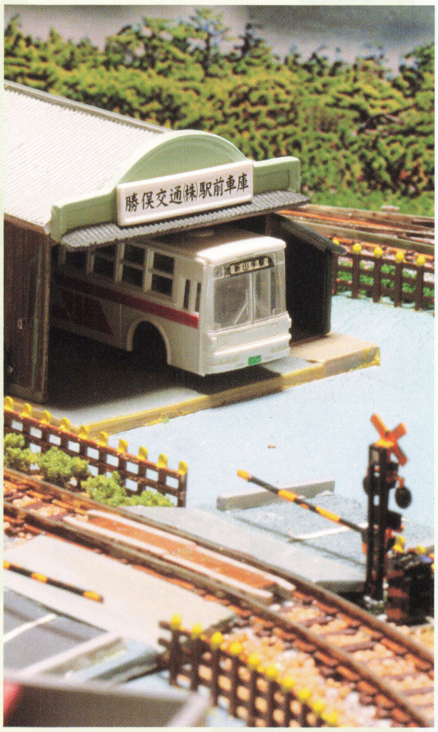
持ち運び可能なトランクに仕込まれたミニレイアウト

トランクにぴったり入るレイアウトだが、広げると680×440㎜となる。ディテールが作り込まれ、背景画もあるため、数字以上に広く見えるのだ。



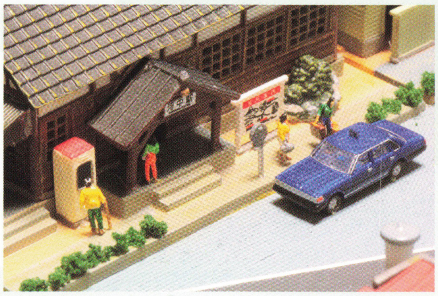
❶乳牛も飼う農家

農家はトミックスの製品を加工。特にプラの質感が強い屋根の処理がポイント。庭には乳牛もいる。



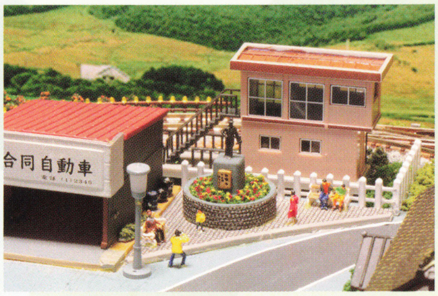
❷駅前のバス営業所

バスの車庫は街コレ利用。バスと大きさのバランスを取るため、前部のみを車庫からのぞかせた。



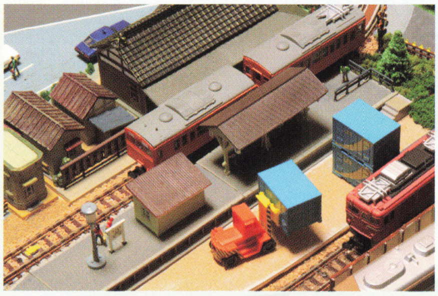
❸駅前のタクシー

駅舎も街コレ利用。客待ちのタクシーや人形などは持ち運びを考え、すべてレイアウトに固定。



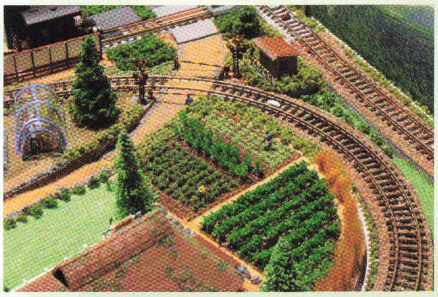
❹広場に立つ銅像

駅前広場の一角には銅像が立つ。人形をブロンズ色に塗ったものだが、花壇で雰囲気を出している。



❺コンテナヤード

小さな駅だが側線を設け、コンテナヤードとしてある。ここではフォークリフトが荷役中だ。



❻農家に隣接した畑

農村エリアには耕作地も作り込んである。農家のわきにある畑は人工芝を加工して使ったもの。

データファイル

レイアウト名	トランク鉄道	作　者	鈴木 惇久
テーマ	持ち運び可能なレイアウト	場所設定	地方都市と農村
大きさ	680×440㎜	基　盤	トランク×２個
使用線路	トミックス	制御装置	ＴＣＳ自動運転ユニット
制作のベ時間	約３ヶ月	総費用	約８万円
模型歴	13年	月にかける費用	不明
楽しむ日	おもちゃ病院で子供たちと	よく利用するお店	ユザワヤ吉祥寺店他
使用車両	トミーテック「鉄道コレクション」各車両、Ｂトレ改造車両		
参考にしたもの	「Ｎゲージで始める鉄道模型」（成美堂出版）		

PROFILE

ボランティアの「おもちゃ病院」で皆に見せています

鈴木 惇久さん　75歳　東京都

62歳でリタイア、毎日が日曜日。暇を持て余し、いろいろなことに挑戦しましたが、続いているのは鉄道模型と陶芸です。熱中すると食事以外部屋から出てこなくなるため、家内からも「助かる！」と歓迎されています。

❼線路わきの池

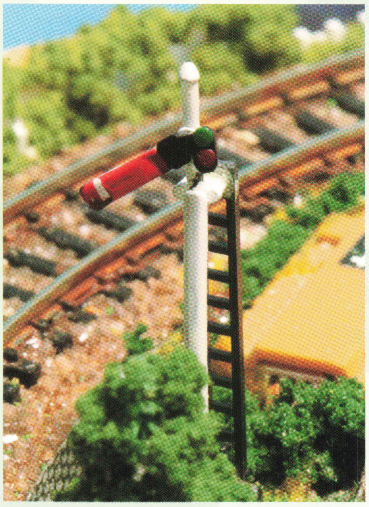
小さな池だが、桟橋を作り、人形を配置。池の水面は凸凹のあるプラ板を裏から着色して作った。

❽ビニールハウス

透明な筒状になった電池のパッケージを廃品利用。フレームは青色被服の針金を接着して表現した。

⓫遮断機のある踏切

踏切も津川洋行の製品を利用。警報器や遮断機、安全柵などを設置すると、それらしい雰囲気に。

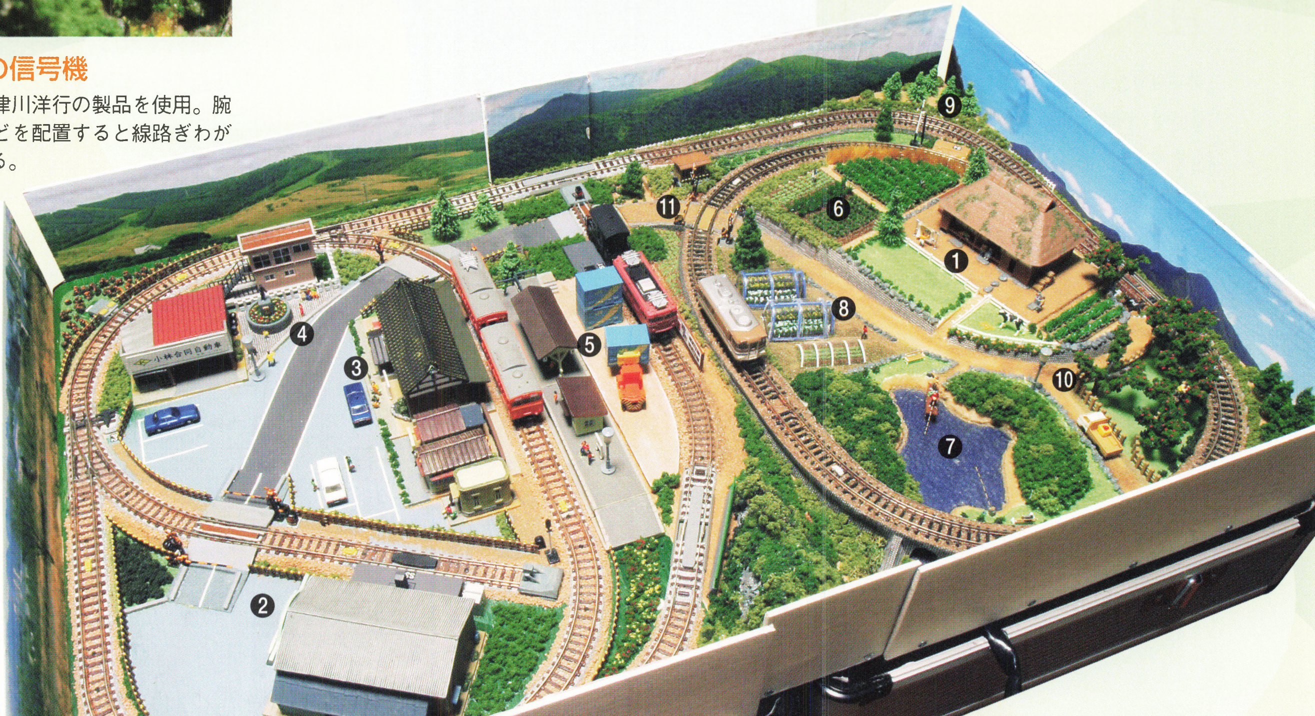


❾腕木式の信号機

各種信号機は津川洋行の製品を使用。腕木式信号機などを配置すると線路ぎわがリアルに見える。

❿リンゴの木

リンゴの実は、ケシの実を赤いラッカーに浸し、ラッカーが乾かぬうちに1粒ずつ付けて作った。

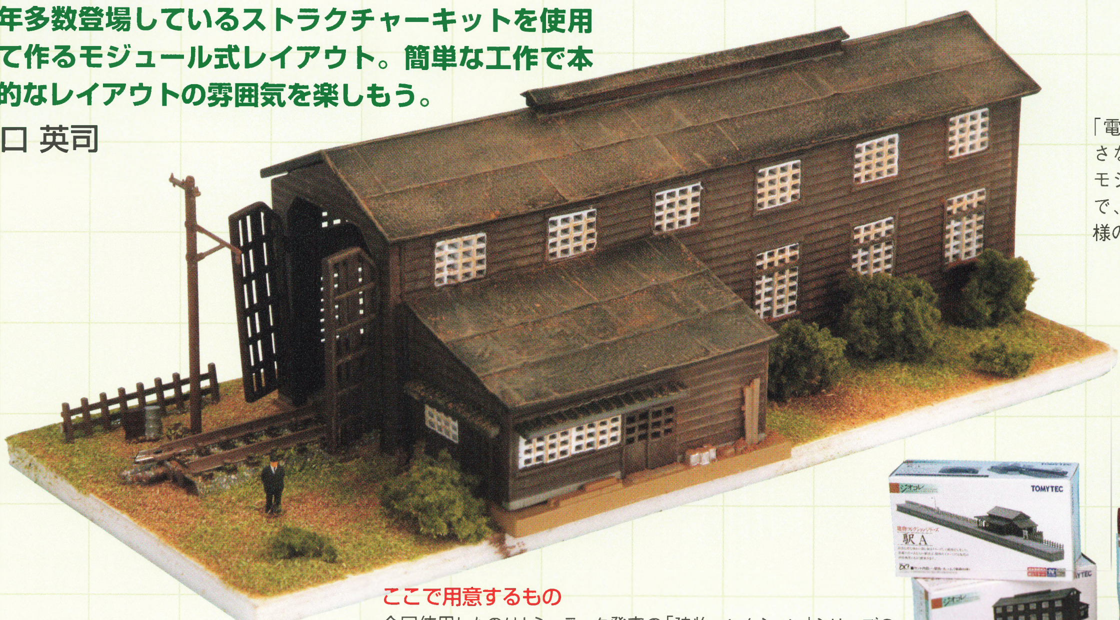


Nゲージ 簡単工作

モジュールレイアウトを楽しむ

近年多数登場しているストラクチャーキットを使用して作るモジュール式レイアウト。簡単な工作で本格的なレイアウトの雰囲気を楽しもう。

池口 英司



「電車庫A2」を使って小さなベースの上に作ったモジュール。僅かの工作で、本格レイアウトと同様の風景が完成する。

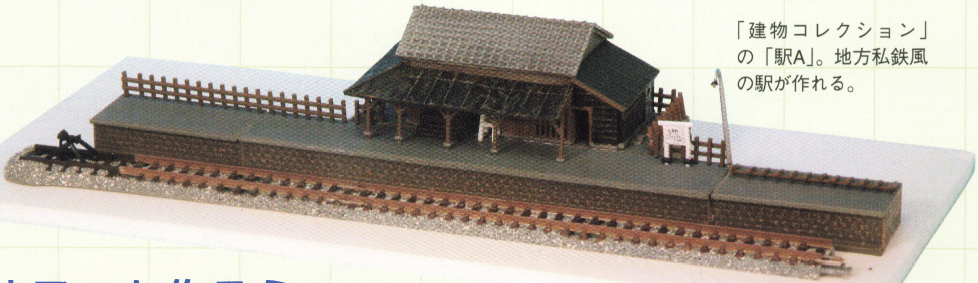
TOMIX
エンドレスセット
TOMYTEC
駅A
電車庫A2
TGW

ここで用意するもの

今回使用したのはトミーテック発売の「建物コレクション」シリーズの「電車庫A2」と「駅A」。どちらも廉価だがクラシカルな雰囲気が嬉しい。他にトミックス製レール、津川洋行製架線柱などを用意した。

リーズナブルなキットでも仕上がりは本格的に

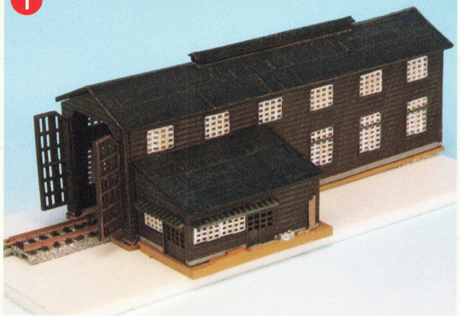
「本格的なレイアウトは欲しいけれども、場所も予算も限られる」。そんな悩みを抱えているモデラーにお薦めのスタイルが、まず小さなレイアウトを作ってみることだ。嬉しいことに、近年は簡単に組み立てることができて、そのままレイアウトに使うことができるリーズナブルなキットが多数登場している。これを使用して、まずは「大レイアウト作りへの習作」を決めてみよう。ベースを用意し、建物を配置して、パウダーや、アクセサリーを配置すれば、たちどころに「鉄道のある風景」が誕生する。



「建物コレクション」の「駅A」。地方私鉄風の駅が作れる。

簡単組立の建物でジオラマを作ろう

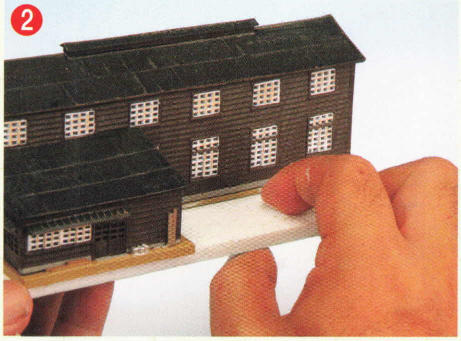
①



ベース上に建物を固定する

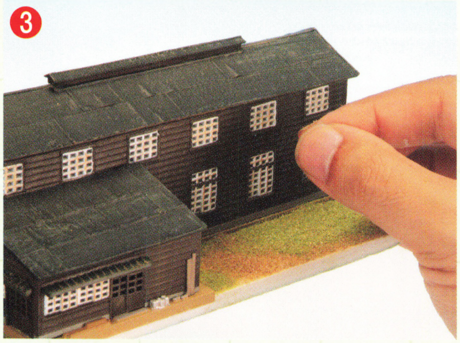
まずは建物をベースの上に固定する。ここでは3㎜厚のスチレンボードをカットして使用し、少量のエポキシ系接着剤で建物を固定した。

②



木工用接着剤を塗る

建物が固着したら、ベースの上に、水で2〜3倍程度に薄めた木工用接着剤を塗る。作業は手早く行なうこと。

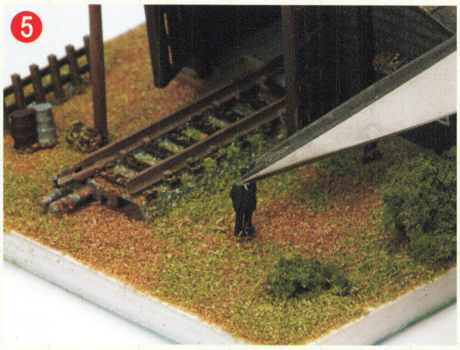


パウダーを撒く

ボンドが乾かないうちにカラーパウダーを撒く。茶系のパウダーで地面を、緑系のパウダーで雑草を表現。複数の色をブレンドしてもよい。

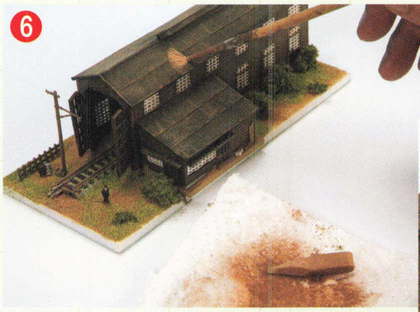
パウダーが固着した状態

パウダーを撒き終わったら、軽く上から押さえてボンドが行き渡るようにする。後はボンドが乾くのを待つ。



人形を配置する

パウダーが固着したら人形を配置する。小さな人形でも効果は抜群。足の裏に少量の接着剤を塗って、ピンセットを使って配置する。



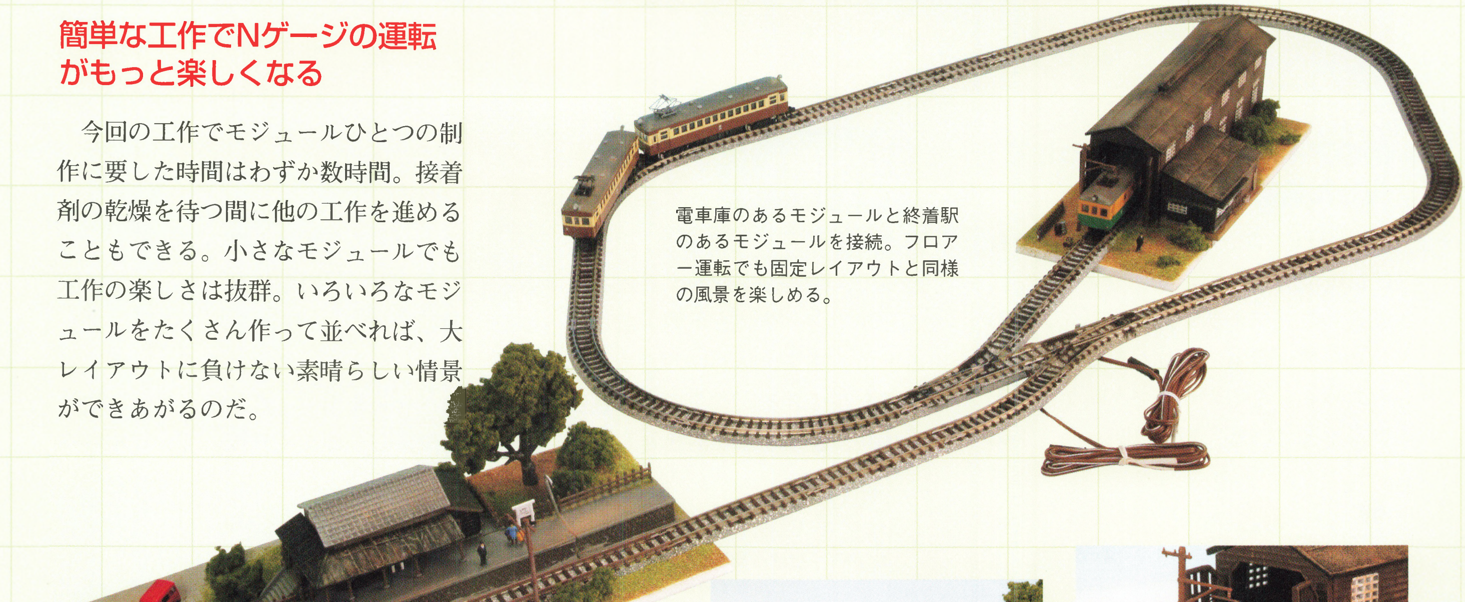
ウェザリングを施す

粉末にしたパステルを筆で屋根に塗り、錆を表現。ウェザリングと呼ばれる作業がこれ。

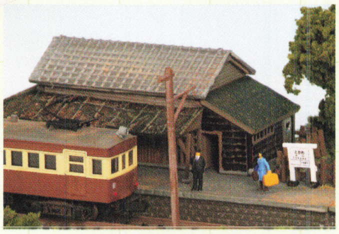
モジュールレイアウトでフロア運転をもっと楽しむ

簡単な工作でNゲージの運転がもっと楽しくなる

今回の工作でモジュールひとつの制作に要した時間はわずか数時間。接着剤の乾燥を待つ間に他の工作を進めることもできる。小さなモジュールでも工作の楽しさは抜群。いろいろなモジュールをたくさん作って並べれば、大レイアウトに負けない素晴らしい情景ができあがるのだ。



電車庫のあるモジュールと終着駅のあるモジュールを接続。フロアー運転でも固定レイアウトと同様の風景を楽しめる。



終着駅で発車を待つ小さな電車。

電車庫では荷物電車が発車を待つ。

コラム●レイアウト作りを楽しむアイデア③

トミーテック製 ジオラマコレクションをさらに楽しむ

トミーテックの「ジオラマコレクション」シリーズは、味のある仕上がりが魅力。もうひと手間を加えて、さらに魅力的に仕上げてみよう。

TOMYTEC
第7弾 駅前歓楽街
アーケードA

上は今回使用した「ジオラマコレクション」シリーズの一品。廉価だが豊富なラインナップが魅力。左は「駅A」を使って仕上げたホームの情景。小さな灯りが心を和ませてくれる。

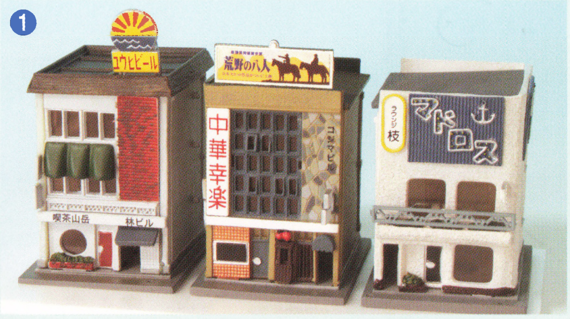
他のアイテムとの組み合わせで生きた情景を表現する

登場以来コンスタントに充実を続け、圧倒的ともいえるラインナップに成長した「ジオラマコレクション」のシリーズ。廉価でありながら、モデラーのハートをくすぐるでき映えが、人気を支えている。製品は組立キットの形でのリリースであるが、「食玩」の感覚で、接着剤を使わずに組み立てることができ、塗装も不要。数を並べることで、さらに味わいのある情景を作ることができる。ここでは、さらに手を加え、建物を活き活きとした情景に仕上げてみる方法を探ってみた。

作例1 「町並みコレクション（駅前歓楽街）」を使って商店街を作る

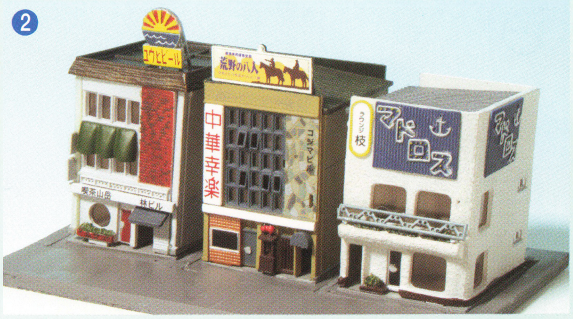
作例1は「町並みコレクション（駅前歓楽街）」の建物を商店街風にアレンジしたもの。まずはスチレンボードのベースを用意。これをグレーに塗装した後、一部をくり抜いて、ビルのベ

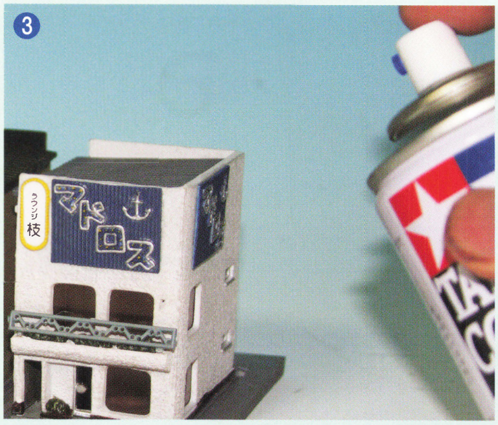
①


ユウヒビール
荒野の八人
中華幸楽
マドロス
枝
喫茶山岳
林ビル

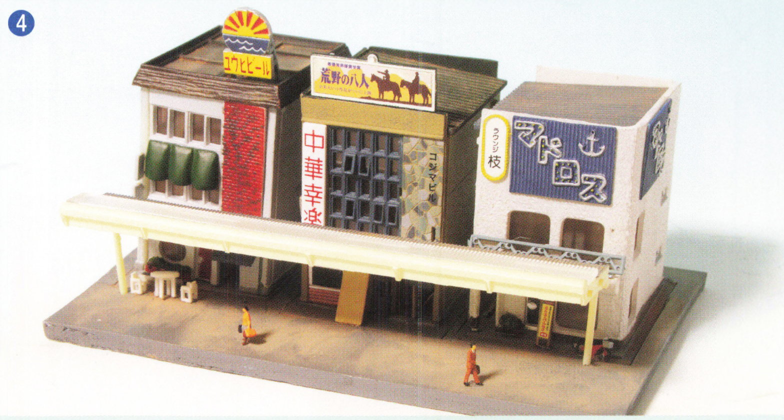
左は「駅前歓楽街」のビルをそのまま並べたもの。道路に対して建物の土台が、でこぼこしてしまう。そこで別のベースに穴を空けてビルをはめ込み、道路面との位置関係をすっきりさせた。

②


ユウヒビール
荒野の八人
中華幸楽
マドロス
枝



艶消しのスプレーを吹いて、プラの表面のてかりを抑える。これで雰囲気がぐっと落ち着いたものとなる。



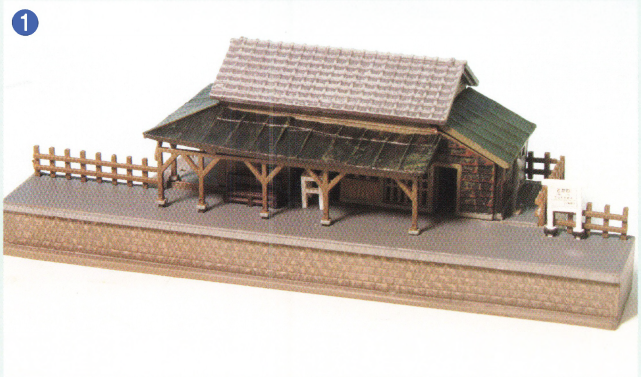
さらに「アーケードＡ」の屋根を半分に切り、高さも半分に詰めたものを添えて商店街を表現。スチロール製のベース部分にもウェザリングを追加。

ース部分をはめ込んでみた。ジオラマコレクションシリーズの建物の多くは、厚みのあるベースの上に建っているので、これを単に並べると、街の中がでこぼこしてしまうが、他にベースを用意することで建物がきれいに並ぶというわけ。

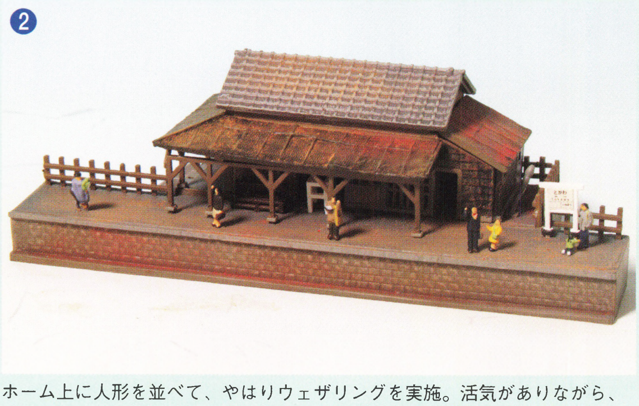
なお、艶消しスプレーを使って、プラのてかりを抑え、薄茶系の色のパステルを粉末にしたものを乾いた筆ですり込んでウェザリング。これで雰囲気はぐっと落ち着く。作例ではさらに「アーケードA」の高さを半分に詰めたものを添えて、商店街のイメージをフォローしてみた。

作例2 地方私鉄の駅をさらにリアルに仕上げる

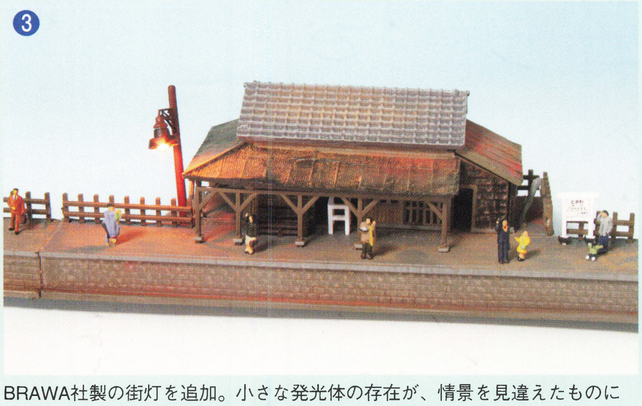
作例２は、「建物コレクション」の「駅A」を使用したもの。まずはキットをストレートに組む。これだけでもリアルな仕上がりをみせるアイテムだが、ここではさらに人形などのアクセサリーを配置し、屋根にはウェザリングを実施。ついやり過ぎてしまうのがこの工程で、注意しないと建物がクタクタになってしまう。作例では最後にドイツ「BRAWA」社製のＮゲージ用街灯を建ててみた。ややオーバースケールだが、小さな発光体の存在感は抜群で、思わず頷いてしまう仕上がりとなる。



「駅Ａ」をストレートに組んだ状態。これだけでも繊細な仕上がりをみせるキットだけれども…

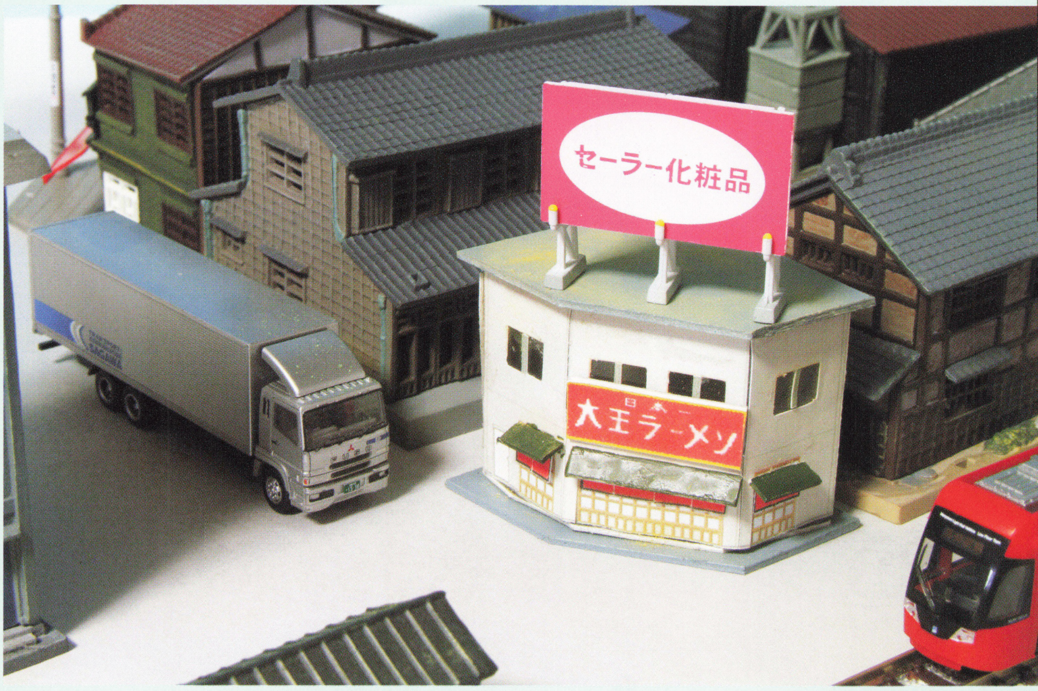


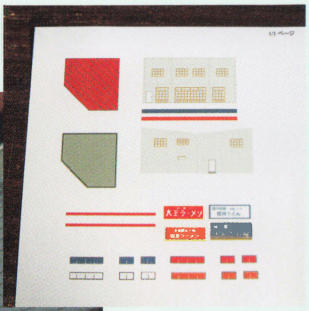
ホーム上に人形を並べて、やはりウェザリングを実施。活気がありながら、地方私鉄のものらしい、どこかくたびれた感じに近づいてきた。



BRAWA社製の街灯を追加。小さな発光体の存在が、情景を見違えたものに仕上げてくれる。

ペーパークラフトにチャレンジしよう





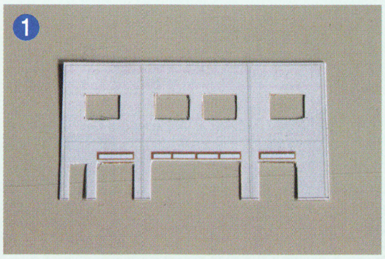
津川洋行のホームページからダウンロードしたデータをプリントアウト。用紙はペーパークラフト用として市販されているもの。ただし艶があるので裏返して使用した（上）。左はその完成例。自分だけのオリジナルストラクチャーをゲットできる。

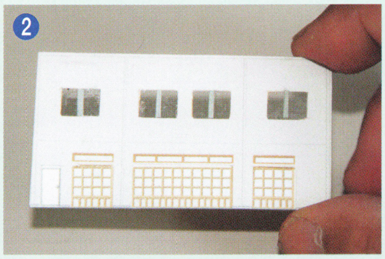
パソコン利用で簡単に楽しめるペーパークラフトで、Nゲージストラクチャーを作ってみよう。

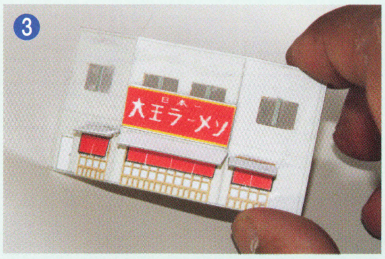
簡単工作のペーパークラフトでストラクチャーにバリエーションを

キットの組み立てとも、完全自作とも異なる工作を楽しめるのが、ペーパークラフトの組み立てだ。最近はパソコンの普及で、ネット上からデータをダウンロードし、プリントアウトして使用するスタイルのものもあり、Nゲージのストラクチャーに利用できるものも増えている。そこでここでは、津川洋行のホームページからダウンロードしたデータを元に、改造を加えて完成させる方法を紹介しよう。

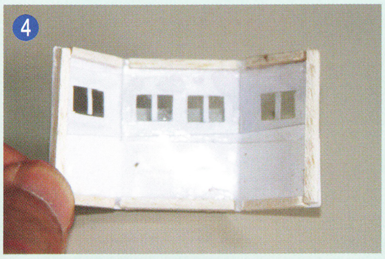
工作は簡単。プリントアウトしたデータを切り抜いて組み立てるだけ。ここでは強度を確保するために、屋根にはスチレンボードを使用し、トミーテック製の野立て看板を追加してみた。簡単な工作でオリジナルストラクチャーが完成する。

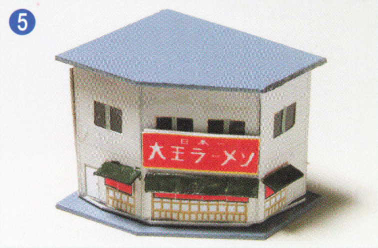

①作例は変化をつけるため窓と扉を切り抜いた。


②扉と窓枠を追加。少し立体感が増した感じだ。

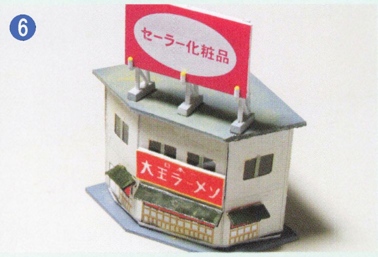


③プリントアウトした看板などを貼りつける。


④裏面には細い棒を貼り付けて補強する。



⑤組み立て終了。



⑥屋根上に看板を追加。立体感がさらに増加。

第4章

みんなのレイアウト

ANA
サマーランド
KATO
テナント募集中！
TOMIX
JR
Iwatani

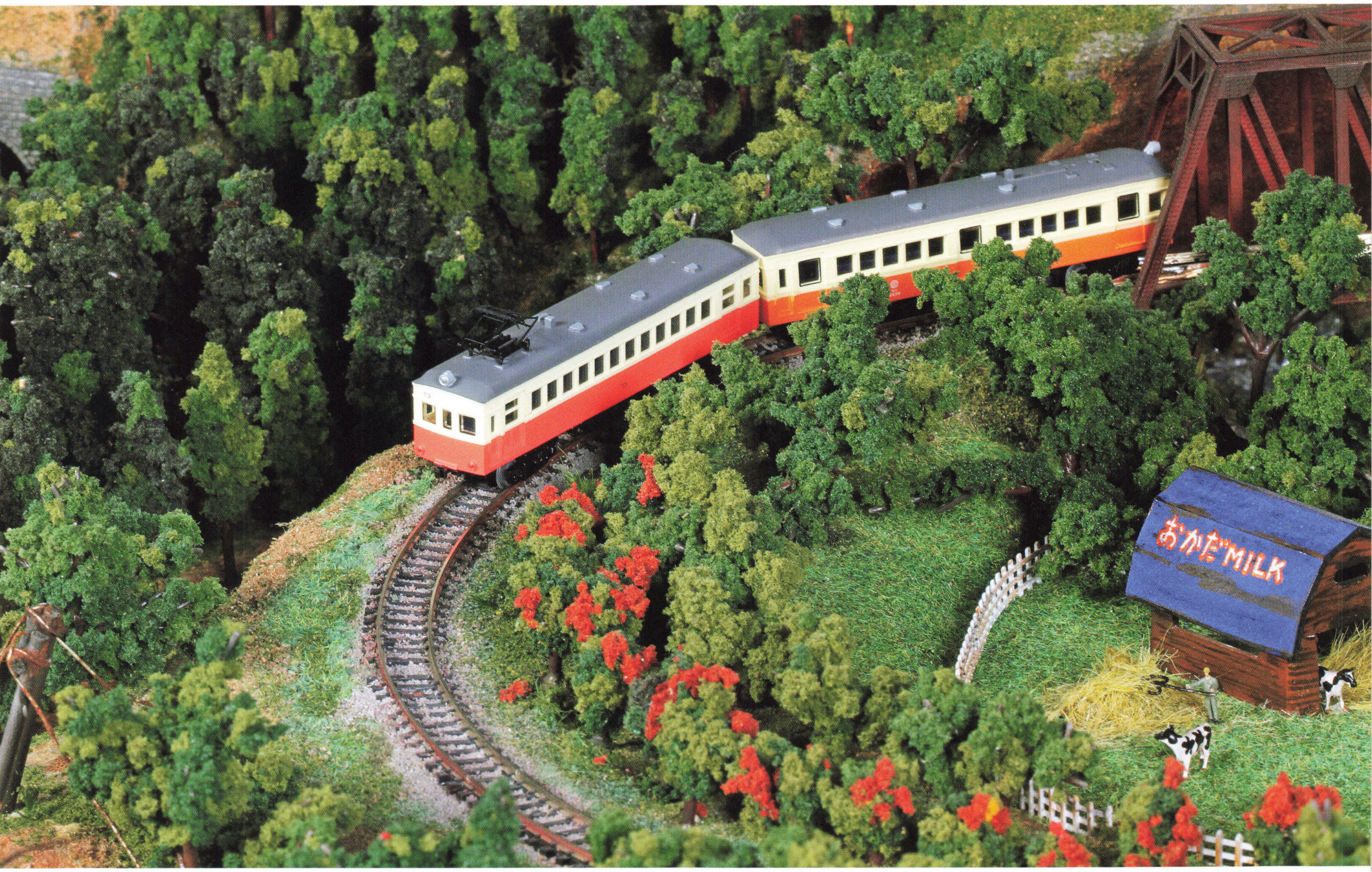
鉄道模型のレイアウトには作った人ひとりひとりの情熱と思いがいっぱいにあふれている。それぞれの作者たちが精魂を傾けて作った素晴らしい鉄道模型の世界。その魅力を思い切り堪能してみよう。

いろいろな橋を盛り込んだレイアウト

コンパクトなスペースで豊かな自然を再現。クラシカルな車両が良く似合うレイアウトが誕生した。

岩倉鉄道　制作：小山 義記

レイアウトの大きさ	1,200×900㎜
使用線路	カトー・フレキシブルレール
制作のべ期間	2ヶ月

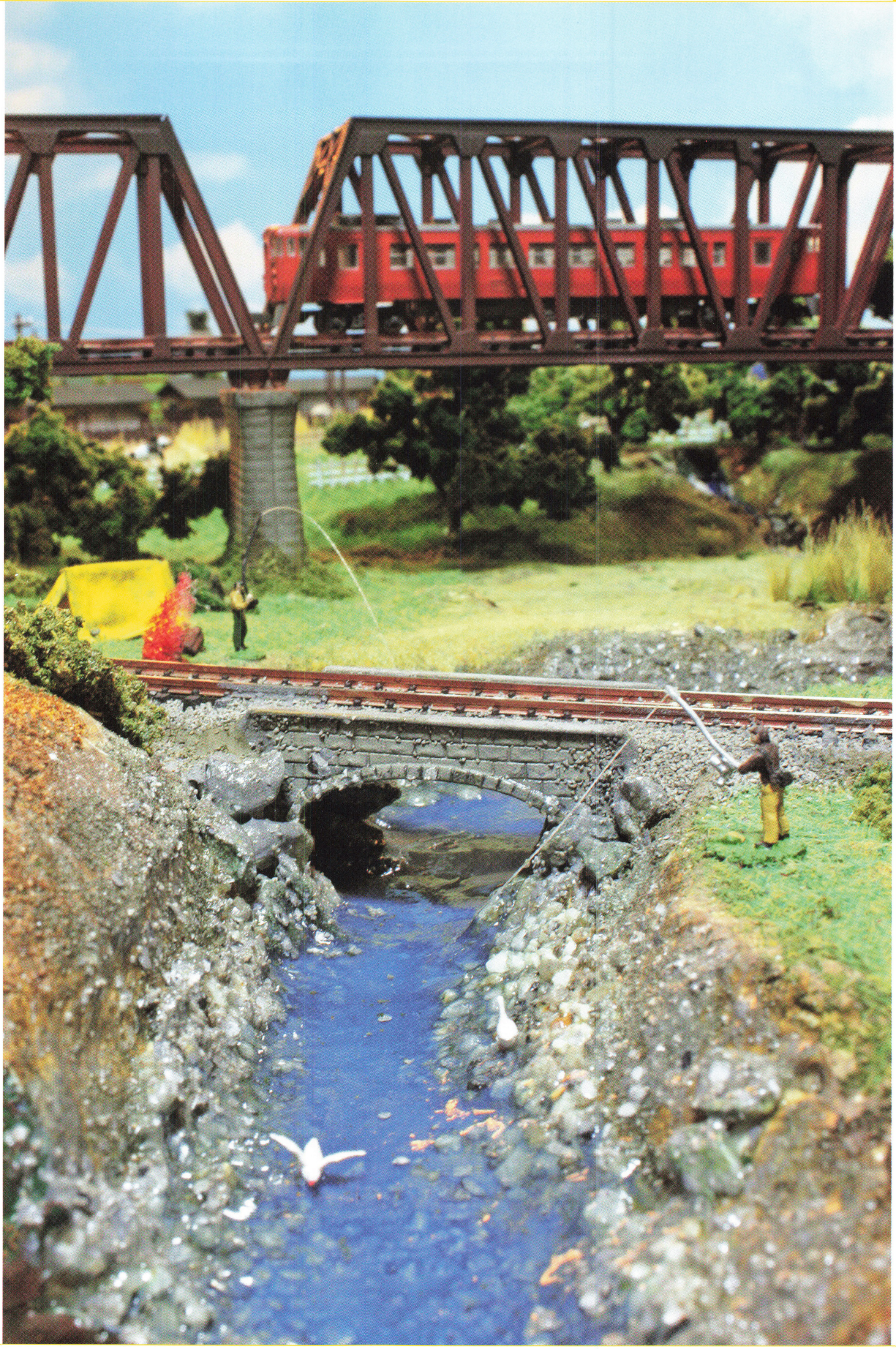


細かい作業が好きな私に親友がレイアウト制作を提案

細かい作業をすることが好きな私に、親友がレイアウト作りを薦めてくれました。2人で話し合っていくうちに、橋がたくさんあるレイアウトを作ろうということで意見が一致。作業に着手しました。手作り仕事が好きな妻も、面白そうなことが始まったとばかりに、すかさず水周りの処理や、色塗りの仕事を手伝ってくれました。

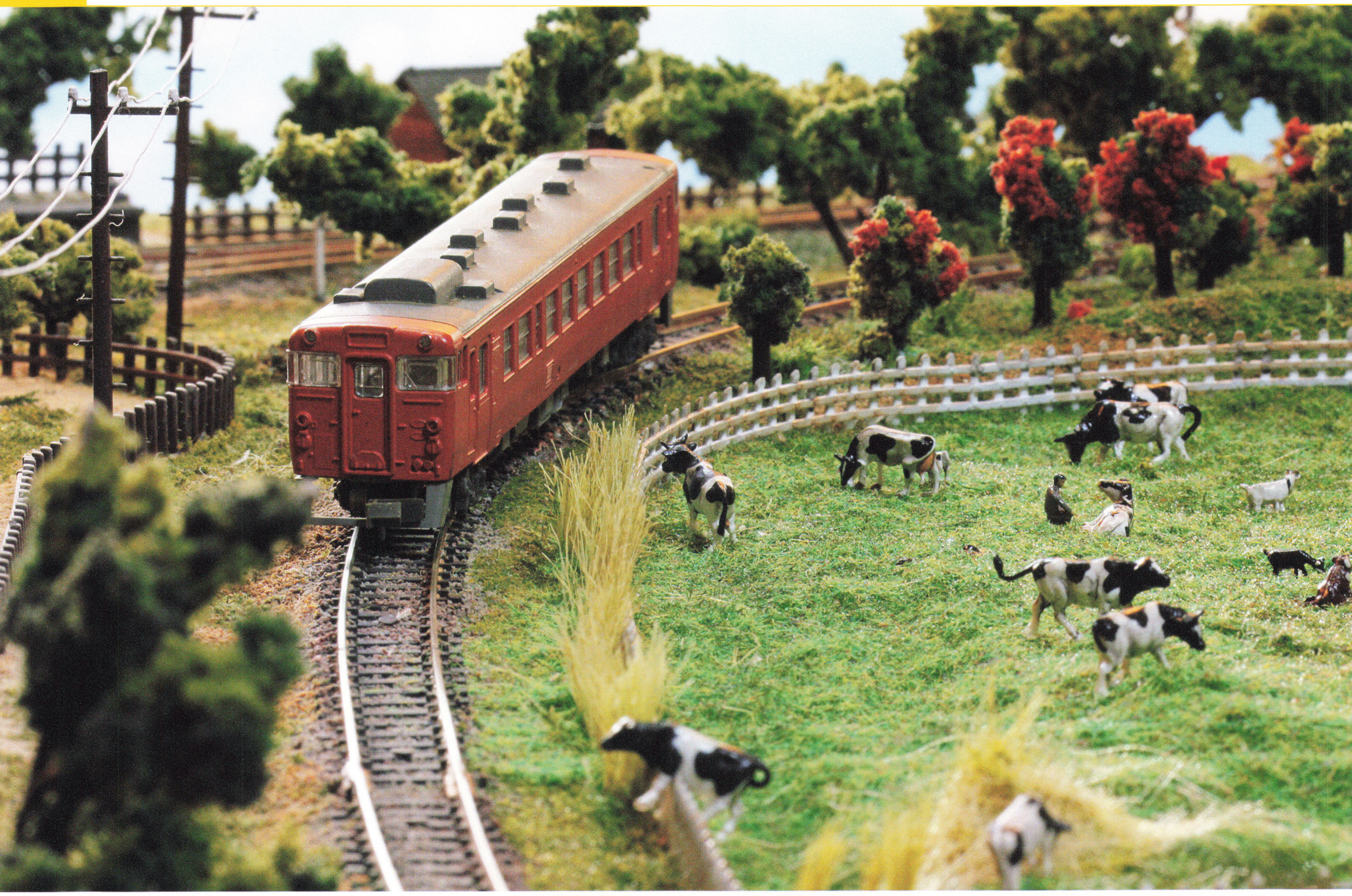
本に載っていることと同じことをしてはダメとばかりに、独自の発想を盛り込んでいきましたが、苦労したのは川を作る作業。まずは、輸入品の素材を利用してみましたが、何度作業をしてもうまくいかず、絵の具を混入してみたり、作業の途中でドライヤーを動員してみたり、さらに素材を追加してみたりと、工夫を重ねたのですが、思うように仕上がりません。

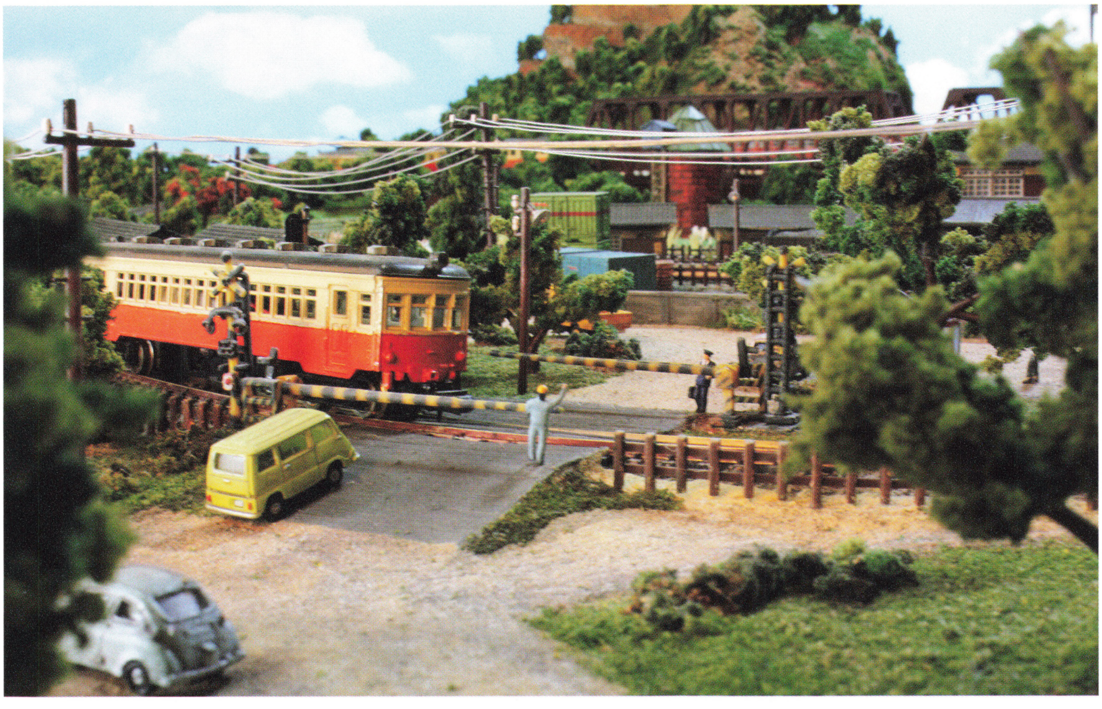
結局は、水性ニスを使うのが、色も艶も良く、乾燥も早いということが判明。苦労の繰り返しとはなりましたが、振り返ってみれば、これも楽しい思い出となりました。それと同時に、やはりいちばん大切なのは柔軟な発想だと再認識。こんな機会を与えてくれた友人にも感謝しています。



←谷に向かう列車
レイアウトの中央部は樹林帯が続き、深い緑とクラシカルな電車の鮮やかな塗りわけが、ひときわ美しいコントラストを描き出している。

→トラス橋を渡る単行
レイアウトの中央部にも、複数の橋が重なり合うようにして架かっている。小さな流れと、小さな石橋、そして釣り師が見事にマッチしている。





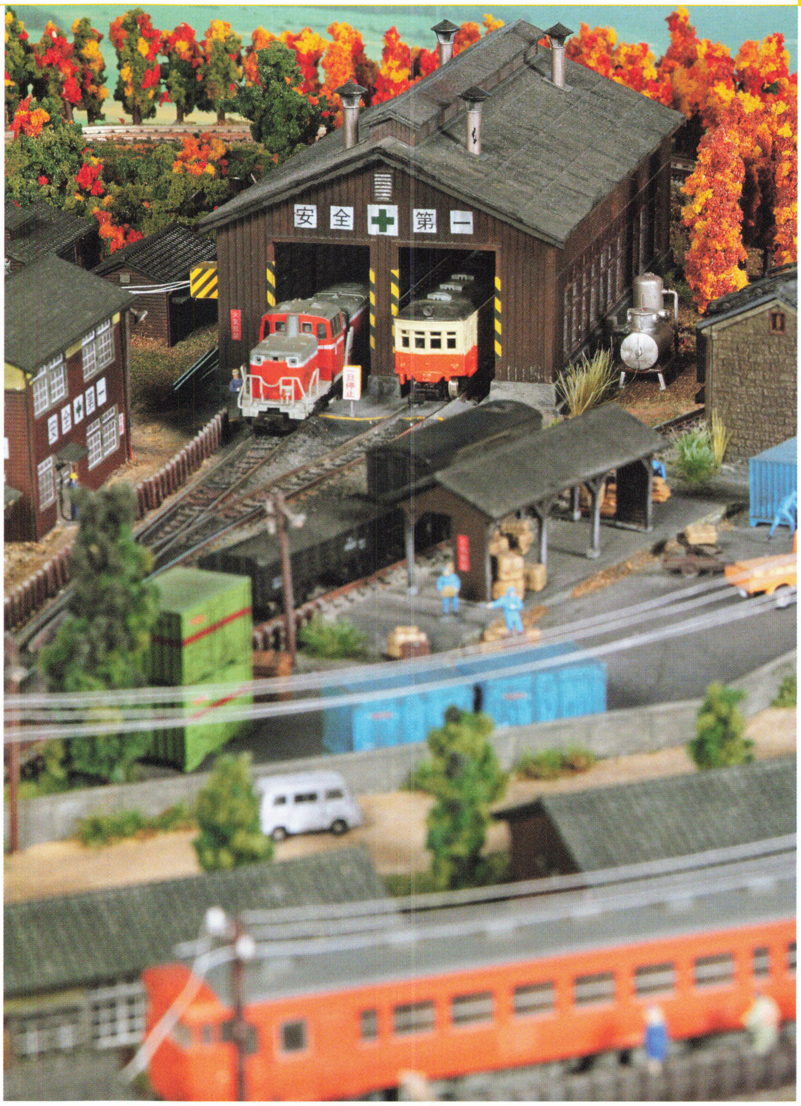
⬆牧場の脇を通過する列車

レイアウトの中央にあるのが牧場。さまざまな素材の使いわけによって、風景を細やかに仕上げている。線路脇に見えるリアルな電線にも注目。

⬅踏切の風景

踏切もレイアウトに不可欠のアイテムだ。人形、自動車、柵などが配置され、警報機の音が聞こえてきそうな情景に仕上げている。やはり電線が抜群の存在感を見せている。

↑貨物駅の周辺
何台ものトラックが行き交い活気のある風景が造られている。重厚な雰囲気の建物も魅力的だ。



↑機関庫周辺の風景
機関庫は複線の木造のもの。気動車とディーゼル機関車が体を休めているところ。

↓ガーダー橋を渡る
本線上に設けられている小さなガーダー橋。日本の田園風景にもっともよく似合う。

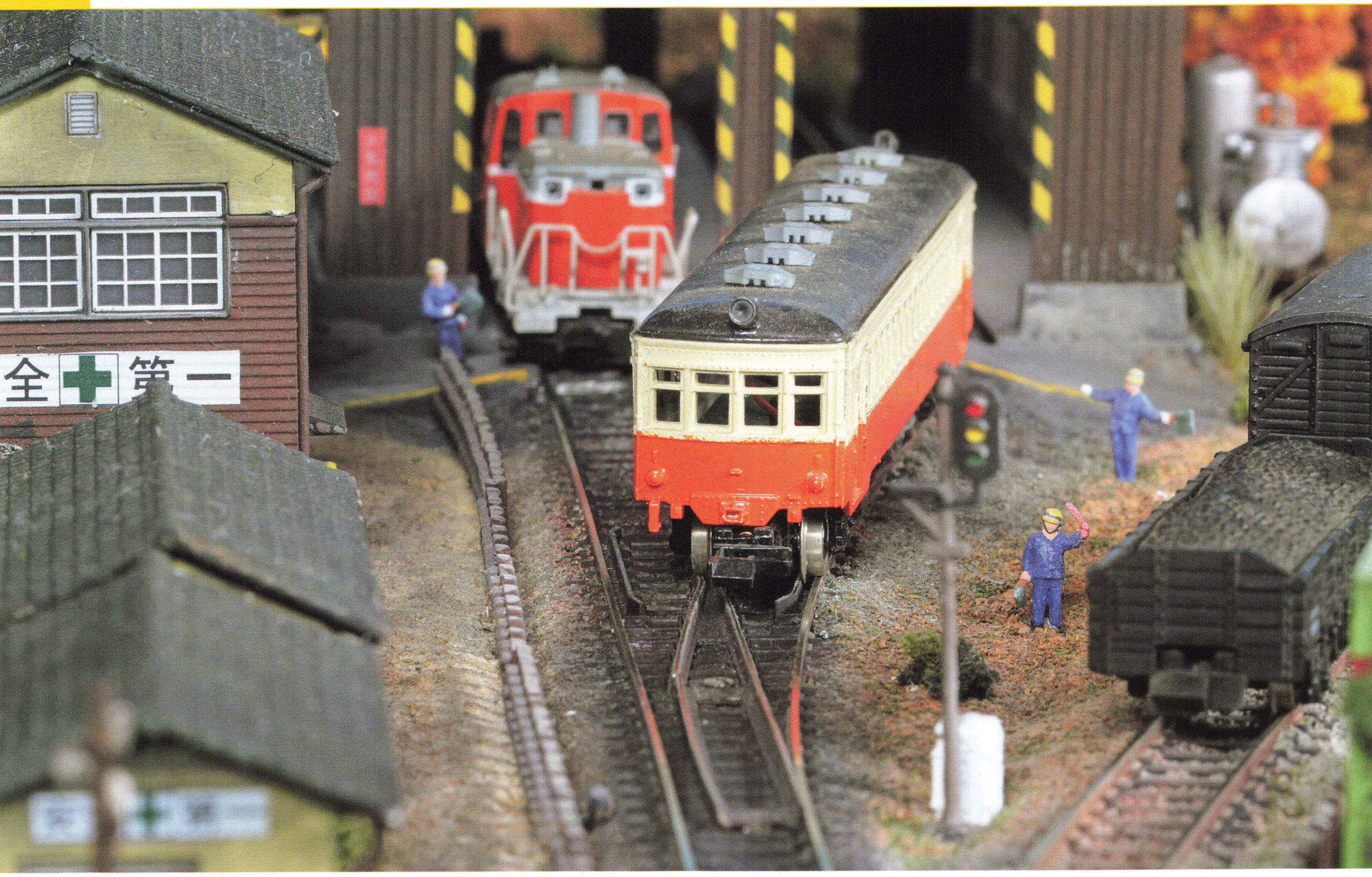
昭和30年代の風景を想像を交えて制作

このレイアウトは、ゆっくりと時間が流れていたような、昭和30年代の田園風景を再現することをテーマとしました。私は昭和40年代生まれですので、想像を交えての制作です。

気を配ったのは、建物や線路と地表で、不自然な境目や段差ができるだけ出ないようにしたことです。これによって、建物が周囲の風景と馴染んでいることが表現できたのではないかなと考えています。

もうひとつは電線です。これは色々と材料を試してみました。ニクロム線、糸なまり、針金…。碍子に電線を巻きつけてみると、たわみ具合がうまく再現できず、最終的には碍子にピンバイスで穴を開けて、針金を通すやり方が、たわみ具合の表現も納得のゆく方法であることが見つかりました。

また、ある時、突然車両が動かなくなったこともありました。テスターでチェックしてもどこも異常なし。苦労した末、フィーダー線路のコードが抜けてしまっていたことが判明。配線類は容易にチェックができるようにすることが必要という教訓を得ました。



⇧機関庫へ向かう気動車
地表と自然につながった線路、木造の建物の古ぼけた味わいも、レイアウトを美しく見せている。

⇦貨物倉庫の裏手
ジャンク品や、古ぼけた車両など、機関庫、倉庫の裏には、必ず魅力的な何かがあった。

⇧急カーブを曲がる2両編成
小さなレイアウトだけにカーブはきつめだが、線路配置にはメリハリがある。

このレイアウト制作のポイント POINT OF THE LAYOUT

昭和30年代の田園風景を再現

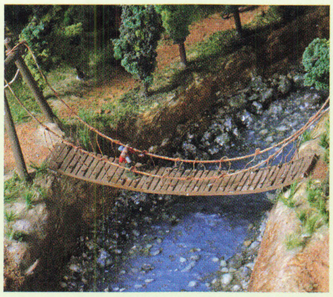
❶橋を数多く配置
❷建物や線路が地表と馴染む姿を表現
❸さまざまな材質を使用してたわみのある電線を再現
❹水周りの表現にも細心の注意が払われた
❺いろいろな素材を使い分けて草や樹木にもニュアンスを

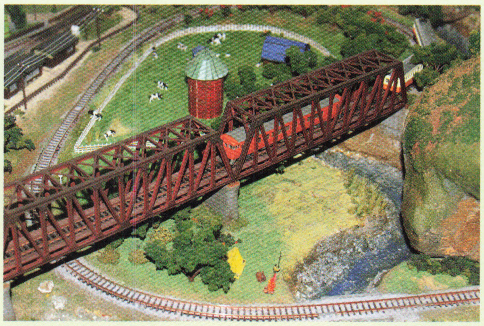
・・レイアウトの中にある個性的な橋・・

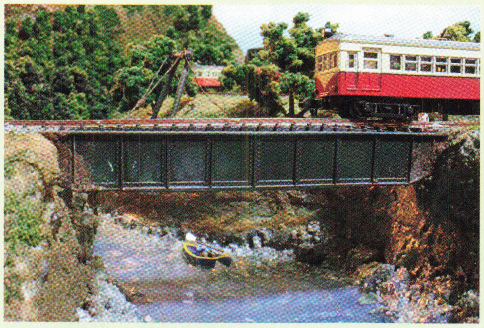
このレイアウトを作る上で、まず掲げられたテーマが、たくさんの橋を作ること。明確な指針が生まれたことから、レイアウトの細部にも、こだわりを反映することが可能となった。

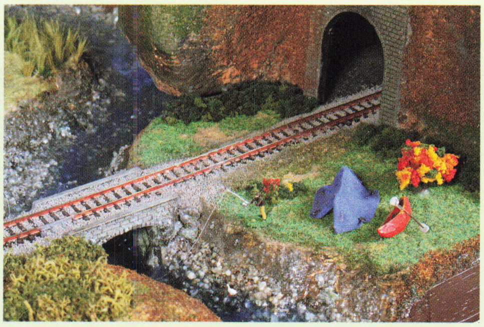
いくつあっても飽きることがない橋という存在

このレイアウトを制作する際に、まずテーマとして決めたことが、橋を多く作るということでした。これは私と友人の意見が一致したことから方針が決められたわけですが、構造物としても機能的な美しさが楽しめ、形態にも、用途や設置場所によってバラエティがあり、それぞれの美しさが楽しめる橋を数多く作ることで、レイアウトに迫力であるとか、山深い風景を採り入れることができると考えたという次第です。それぞれの橋は、主に製品を改造することで制作しましたが、レイアウト本体の工作とは別に作業を進めることができ、「作りおき」をしておくことが、効率の向上にも役立ちました。


山奥の吊り橋を渡るハイカー。橋は今にも壊れそう。気をつけてお渡り下さい。


キャンプ場をまたぐ赤いトラス橋。


ガーダー橋を渡る電車の下をカヌーが通過


小さな流れに似合う小さな石橋。

断崖の上に立つ茶屋

このレイアウトはどの方向からでも楽しめるように作りました。トンネルのある裏側は断崖に仕上げ、その上に自作の茶屋を建てました。

絶景を楽しめること間違いなしの茶屋。

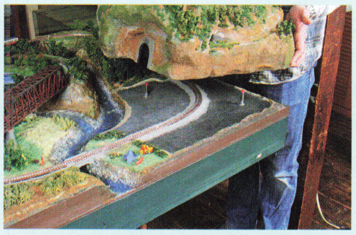
川沿いの風景

川沿いには深い茂みを作ってみました。草の素材にはここではフィールドグラスを使用し、大きさ、色合いを変えて適宜配置してあります。岩肌とのバランスをチェックしながら、樹木を増やしてゆくことでリアルな風景を作ることができました。

フィールドグラスで制作したブッシュ。

取り外し可能な山

写真は、取り外しが可能なように作った山です。あらかじめ取り外し可能な蓋となる部分を制作しておき、その上にシーナリーを追加してゆきます。もちろん、車両の脱線に備えたもので、時々役に立つことがある便利なシステムです。

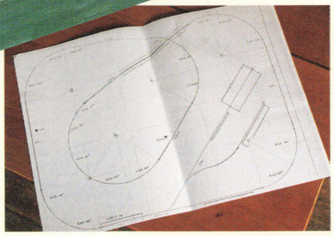

位置ずれしないように注意。

このレイアウトはこうして作られた

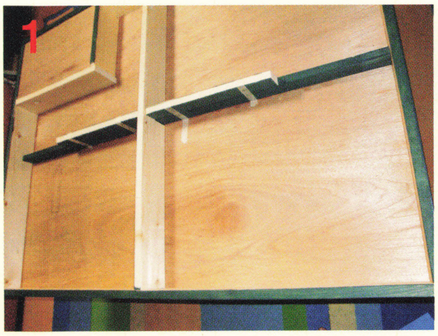
友人との共同企画によって生まれたレイアウト。まずふたりで全体像を把握し、制作の作業は、少しずつ、手作業で進められていった。

最初に仕上がり後の全体像を把握

このレイアウトは、友人との共同企画によって生まれました。作業は仕上がり後の姿をお互いに把握することから始まり、作業開始の前に図面を作りました。制作は、すべて手仕事です。作業がスムーズに進んだのは、まず初めに図面を作って、線路やストラクチャーの位置を決定しておいたことが、大きな要因になったようです。

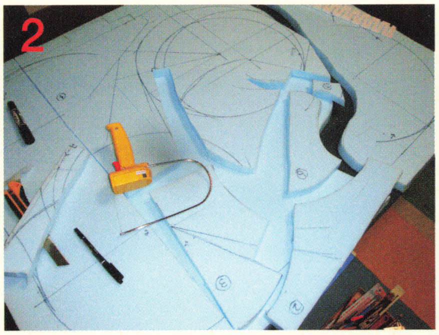


最初に作った図面。ベースとなるスタイロフォームのカット、ストラクチャー、線路の位置決定のため平面図と立面図を1／3のサイズで制作した。



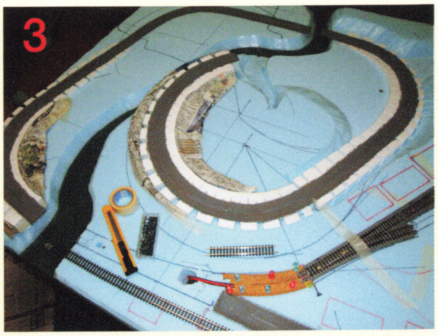
土台の制作

5.5㎜厚の合板をレイアウトのサイズ(1200×900㎜)に合わせてカット。台枠、裏骨を取り付け、下地塗装をすませておく。



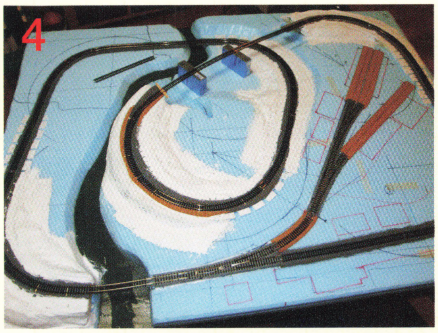
スタイロフォームのカット

レイアウトのサイズに合わせて25㎜厚×2のスタイロフォームをカット。線路位置を描き入れ、川の場所などに合わせてカットしておく。



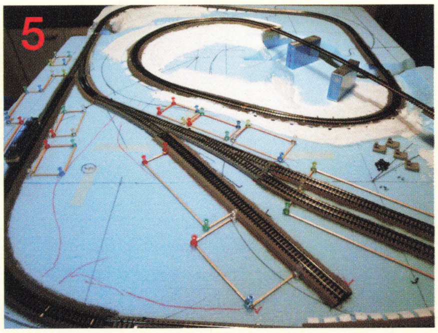
勾配、道床の設置

市販のサブテレインを使用してこう配区間を作り、センターの線路位置にコルク道床を設置。これも下地塗装をすませておく。



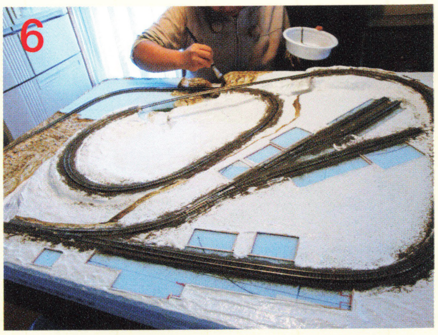
線路の敷設

道床の上にフレキシブル線路を仮止めし、走行をチェック。OKとなったら、スパイクを使用して、線路を固定する。



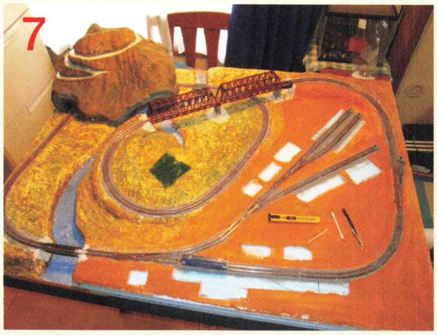
ストラクチャーの位置決め

ストラクチャーの位置を決定。プラスターの流れ込みを防ぐため、2㎜厚のバルサで仕切りを作成しておく。



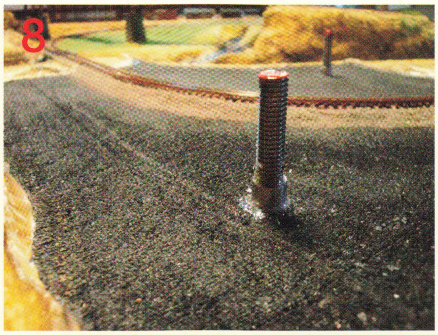
プラスターの流し込み

全体にプラスターを流し込み地形を整える。プラスターは固まると修正が大変なので、カップ半分ほどの量で、少しずつ作業を進める。



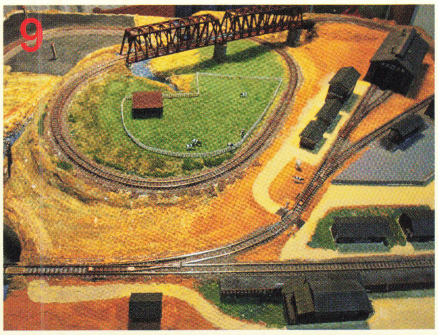
下地の塗装

線路全体を錆色に塗装。さらに鉄橋などを配置して全体の雰囲気を確認する。土の部分の塗装には、主にグレインペイントを使用した。



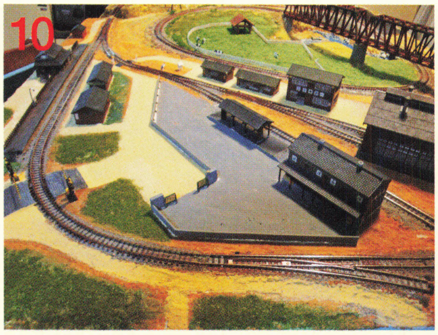
金具の固定

脱線対策として山の一部は取り外し可能にしておく。そのために、前もって取り付け金具を設置しておく。



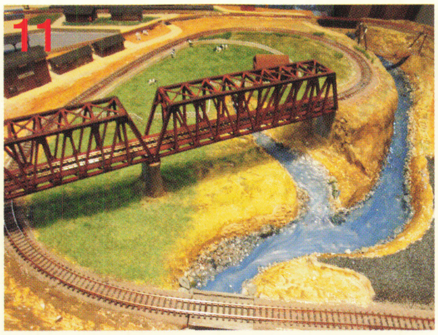
アウトラインの作成

牧場の芝などを作成し、あらかじめ塗装・ウェザリングを済ませたストラクチャーを設置。建物と地面の接点にはスムースイットを使用。



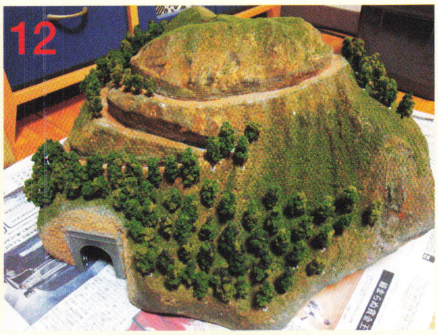
ストラクチャーの設置

地表に埋め込む作業が必要なストラクチャーについては、この時点ですべて取り付け作業をすませておく。



川の仕上げ

川の素材を流し込み、塗料で着色。その上からさらに素材を流し込み、水の流れと深さを表現した。

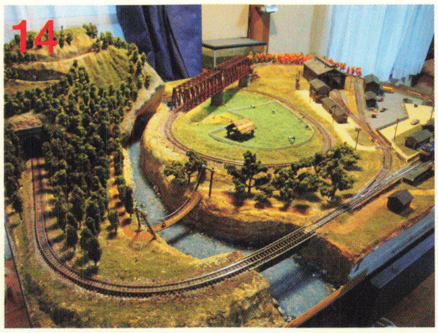


山の作成

山は重量がかさまないようにスタイロフォームをベースにして作成。トンネル内にはプラスタークロスを張って岩肌を表現した。

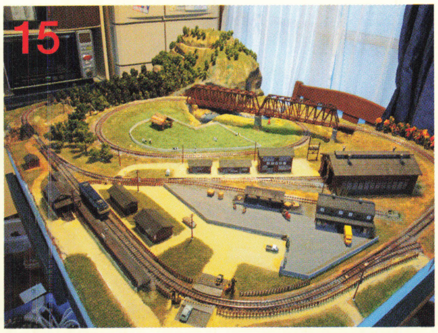
演出アイテムの作成

川沿いに配置するテント、カヌー、サイロなどのアクセサリーを作成。裏山にある茶屋もこの時点で作成した。



山以外にも樹木を植える

さらに樹木を増やし、最後に全体につや消しのトップコートを吹き付けて、全体の色調を落ち着いたものにした。



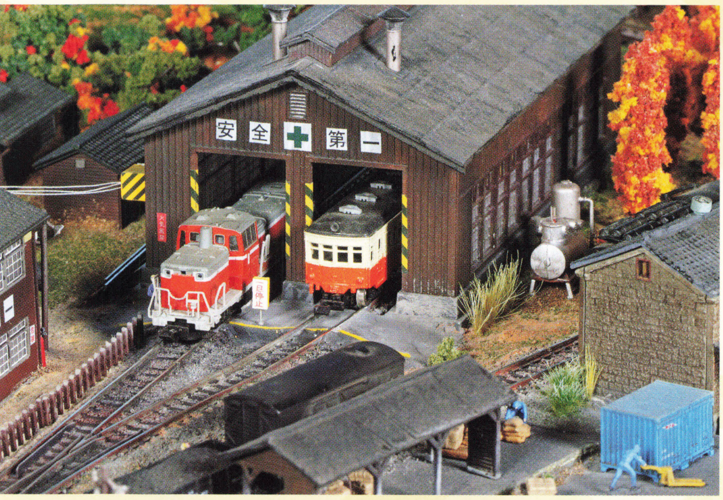
完成間近！

試運転をして全体を再チェックし、さらに樹木、ストラクチャーを追加。この時点で電線を張る。外枠の仕上げをすれば完成は間近だ。

これがレイアウトの全貌だ！

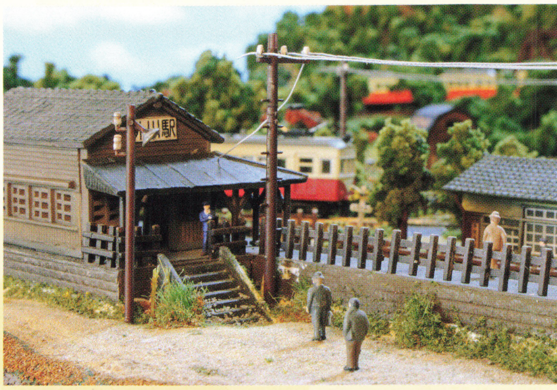
レイアウトに多くの橋を設置山深い風景が誕生した

まず設計図をひくことから制作が開始されたレイアウトは、コツコツと作業が進められた結果、美しい自然を再現した形で結実した。



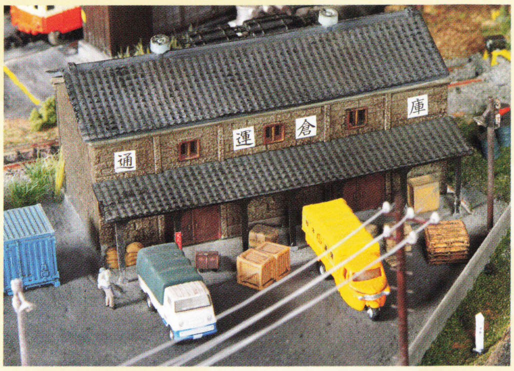
❶1日の仕事を終えた車両たち

レイアウトの中央にある木造機関庫に気動車とディーゼル機関車が入庫。かつてどこでも見られた風景が再現された。



❷駅周辺

駅も典型的なローカル線を再現。多過ぎない建物も、日本の田園風景のイメージをキャッチ。

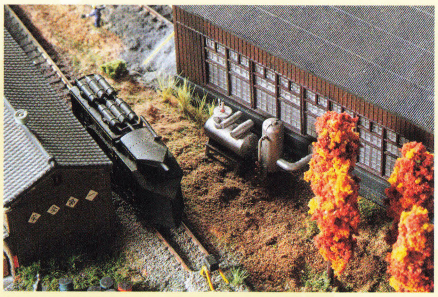


❸貨物倉庫

クラシカルなスタイルのトラックが出入り。電線の効果も抜群だ。

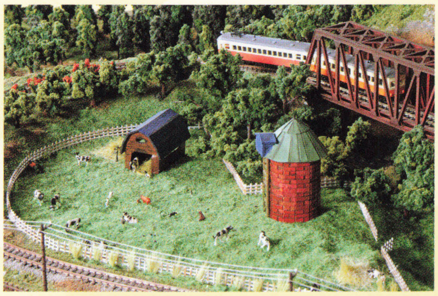
❹列車を待ち構える牛

列車の姿を見るのが好きなのか。こんな牛も日本のどこかには1頭くらいはいるかもしれない。



❺機関庫脇

機関庫の脇にはさまざまなアクセサリーを配置。狭くても、作り応えがあるのがこのような場所。モデラーのセンスの見せどころでもある。



❻牧場全景

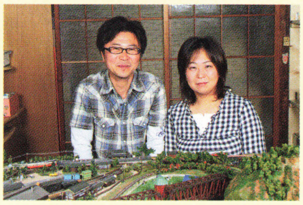
サイロは自作したもの。今日では見かけることが少なくなったサイロの存在も、時代をうまく表現している。

DATA FILE データファイル

レイアウト名	岩倉鉄道	作　者	小山 義記
テーマ	橋のある風景	場所設定	昭和30年代の田舎
大きさ	1,200×900㎜	基　盤	自作
使用線路	カトー	制御装置	カトー
制作のべ時間	2ヶ月	総費用	約200,000円
模型歴	10ヶ月	月にかける費用	必要な材料を買い揃えるだけ
楽しむ日	休日	よく利用するお店	イズミ教材店、F MODELS
使用車両	キハ30系などディーゼルが中心		
参考にしたもの	「鉄道模型Nゲージを楽しむ2010年版」、「鉄道模型大事典」		

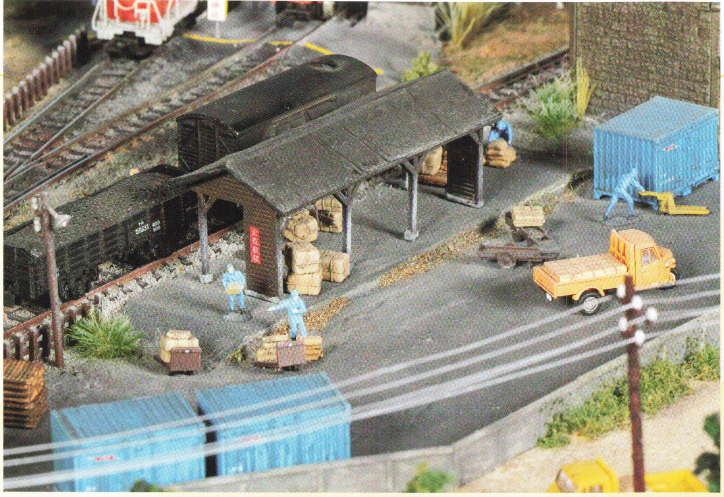
PROFILE

レイアウト作りを薦めてくれた友人に感謝



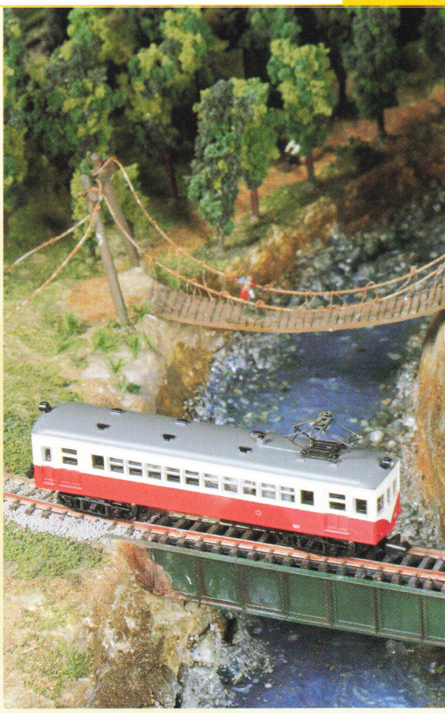
小山 義記さん　43歳　東京都

友人と、それから妻の助けを借りて、レイアウトが完成しました。模型歴の短い私でも作れるのですから、作業は難しいものではありませんし、何よりも、次に何を作るのかを考えるのが、楽しい時間となりました。



❼荷物でにぎわう貨物ホーム

貨物ホームの上にはたくさんの貨物、荷物が到着。アクセサリーがひとつ増えるだけで、風景は俄然リアルなものとなってゆく。



❽吊り橋とガーダー橋

ハイカーが渡る吊り橋と並行して、鉄道用のガーダー橋が設けられている。このような風景であれば、今もどこかで見ることができそうだ。

❿焚き火

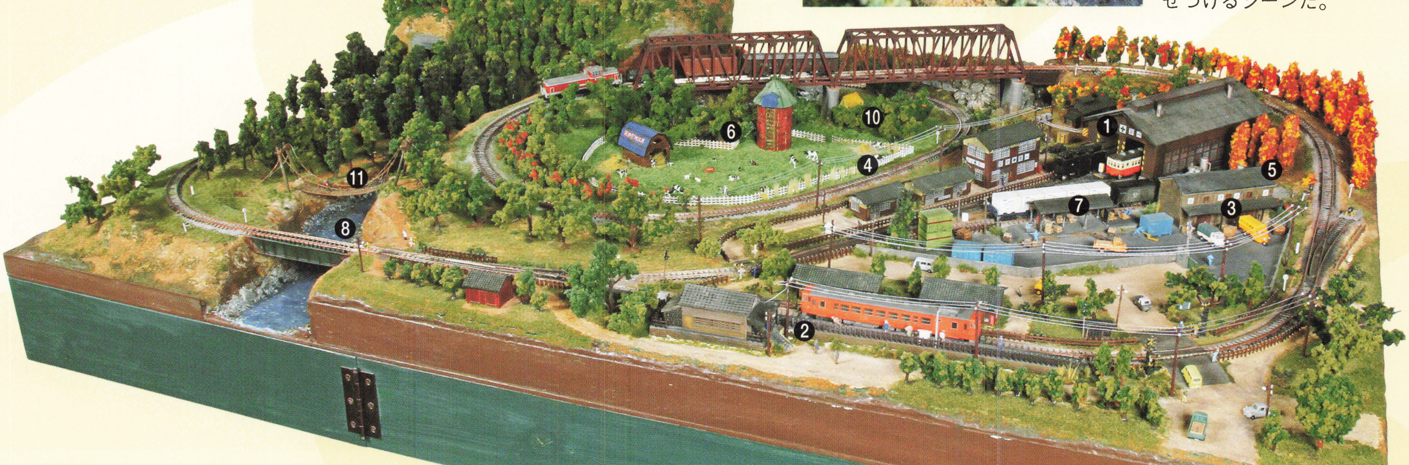
キャンプファイアーはキャンプ生活に不可欠。もっとも今日では火の扱いも要注意。こんな風景にも時代が再現されている。

❾山頂近くの茶屋

断崖、絶壁の上に建つ茶屋。眺望は抜群だが、高所恐怖症の人は、辿り着くまでがひと苦労かもしれない。

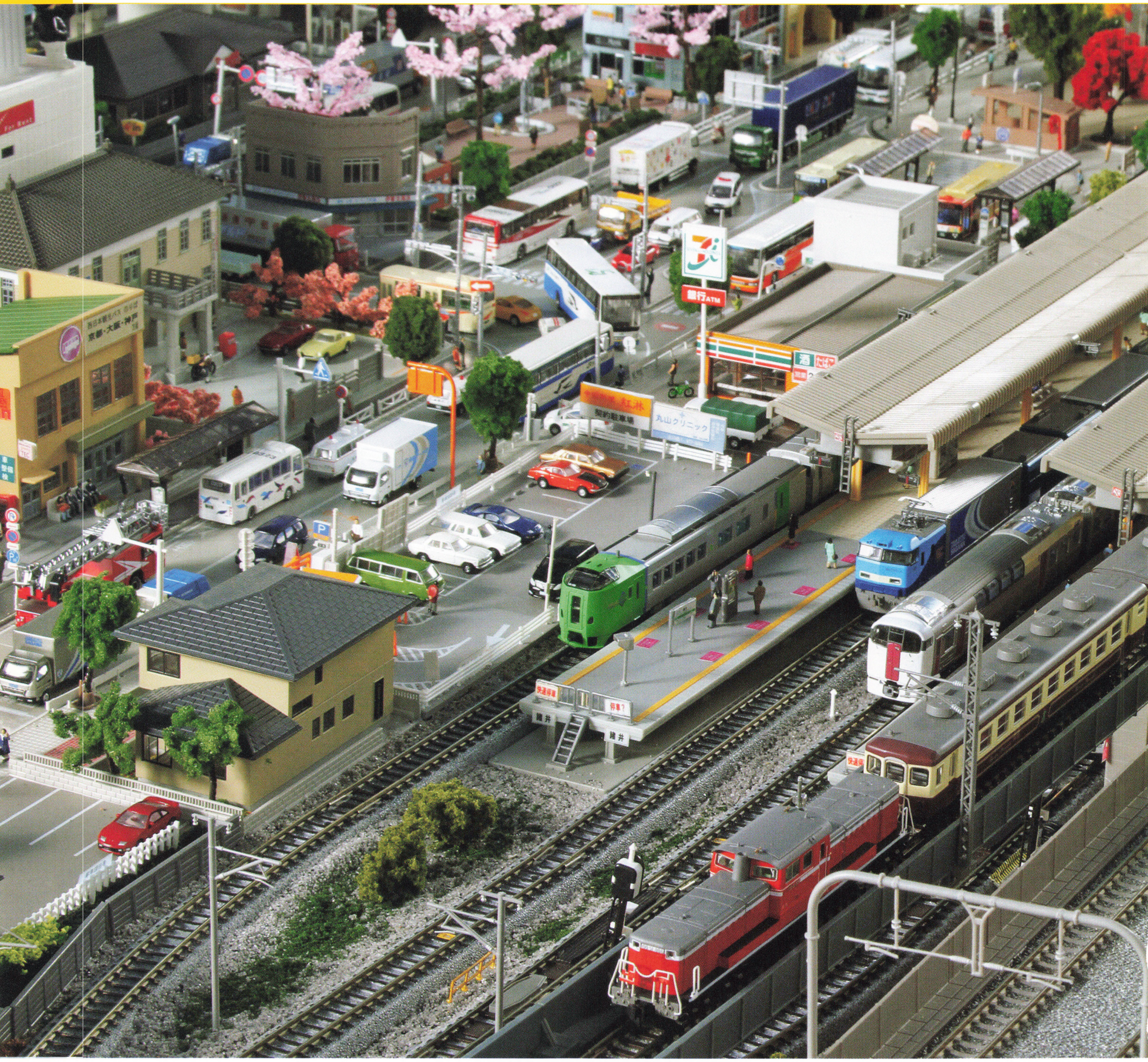
⓫冬のソナタの小道

林の中にはカップルが。作者名付けて「冬のソナタの小道」とか。小さな人形が抜群の存在感を見せつけるシーンだ。



⓬茶屋

青空をバックにして建つ茶屋を別のアングルから。小さくても間違いなく、このレイアウトの名所のひとつだ。



同時7列車運転が楽しめるレイアウト

レイアウト制作のためにまずプレハブを建てて着工。長大編成の運転が可能だ。

青梅臨海高速鉄道　制作：木崎 郁夫

レイアウトの大きさ	4,700×2,000㎜
制作のべ期間	1年
総費用	約1,200,000円

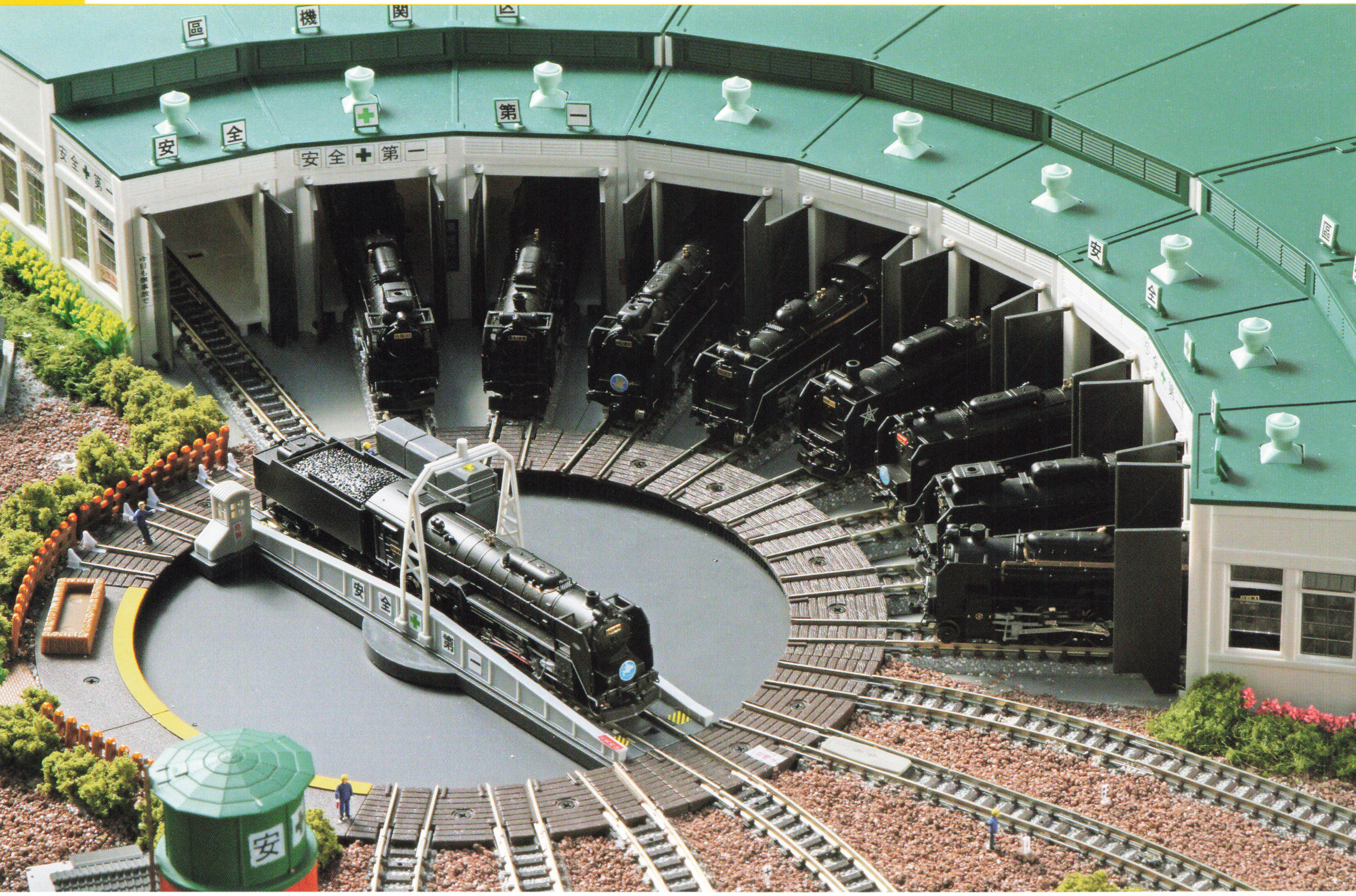
←新幹線と在来線を独立して再現
近代的な姿のメインステーションには、現代の車両がよく似合う。密度の高い風景に、作者の情熱が窺える。

↑M250系スーパーレールカーゴ
本線は高架上を周回。レイアウト上の線路総延長はおよそ130mと、長編成の列車も無理なく運転できる。

夢に描いた都市の姿をコンパクトに再現

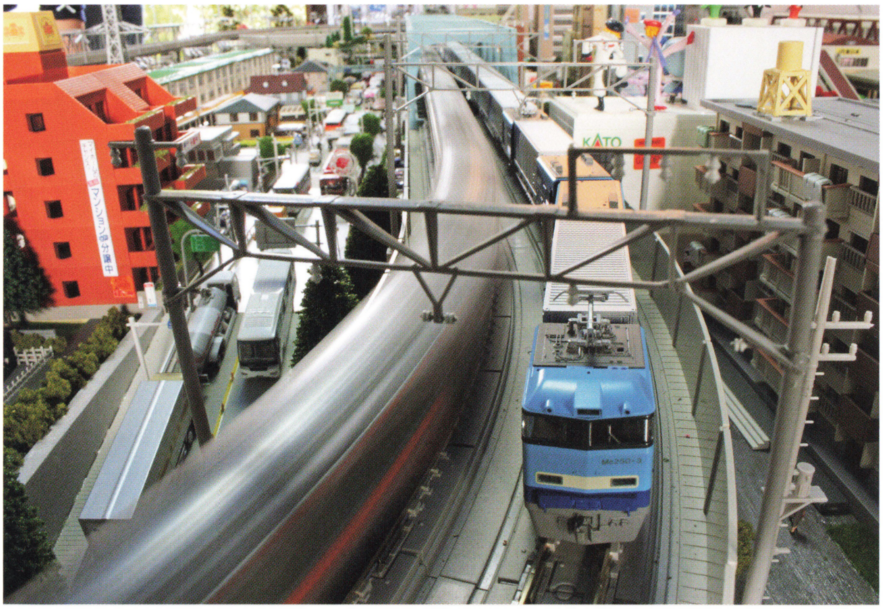
「鉄道模型Nゲージを楽しむ2007年版」を購入し、誌上に発表された皆さんのレイアウトを拝見したことが、私がこのレイアウトを作ることになったきっかけです。用地確保のために、まず妻を説得し、プレハブを購入。これでおよそ9畳のスペースが確保できました。せっかくのスペースを最大限活かせるように心がけて、制作を進めました。

建物はカトーの「ジオタウン」を利用しましたが、これをコンパクトに並べて、都会の風景をレイアウト上で再現しています。むしろ苦労したのはシーナリー作りの方で、バラストや、カラーパウダーの散布には思いのほか時間がかかりました。製品の在庫切れも頭痛の種で、一部の品物はネットオークションで購入しています。



⇧9両対応の扇形機関庫
扇形機関庫の周辺の風景は、作者のお気に入りのひとつ。市販の製品を3つ並べて完成した。

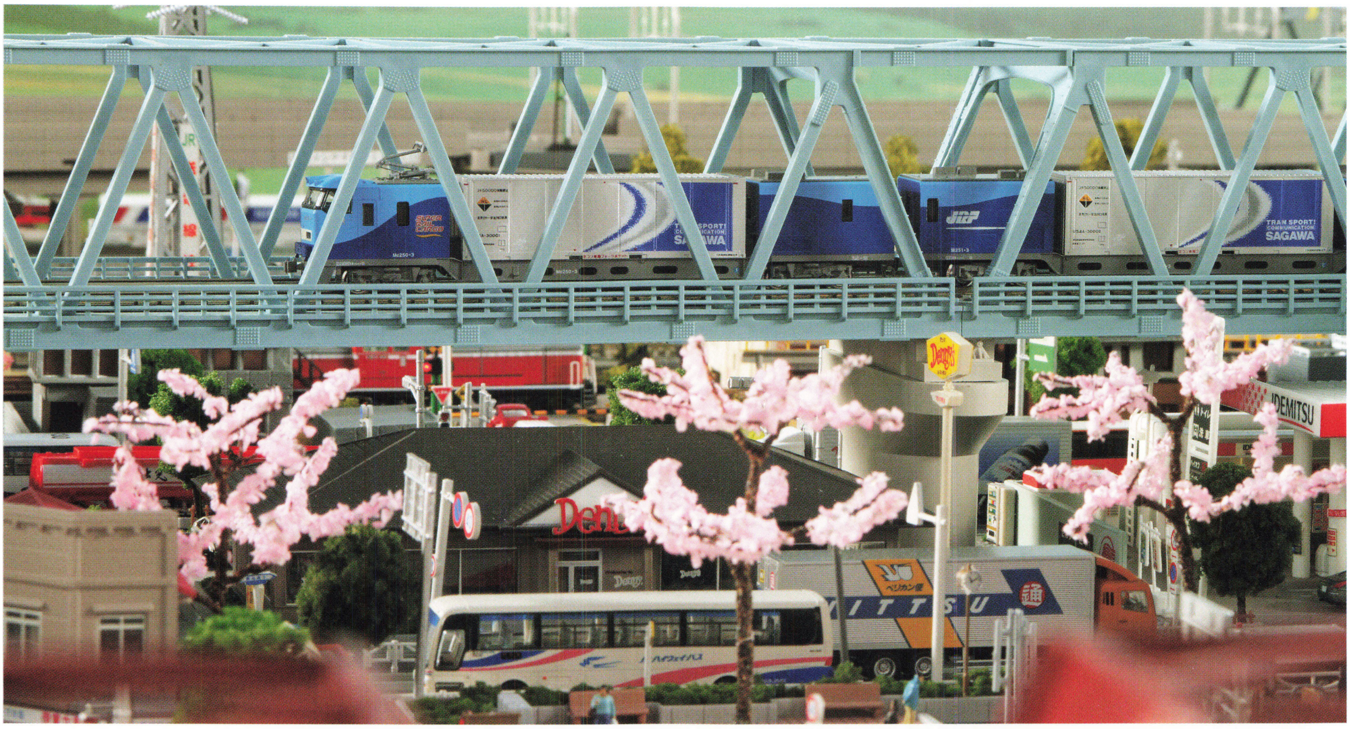
⇩高架線を盛りあげるビル群
高架の本線には線路際までビルが建ち並ぶ。既製品利用でも、建物が密集した雰囲気が出ている。



さまざまな列車を編成し お似合いの速度で運転

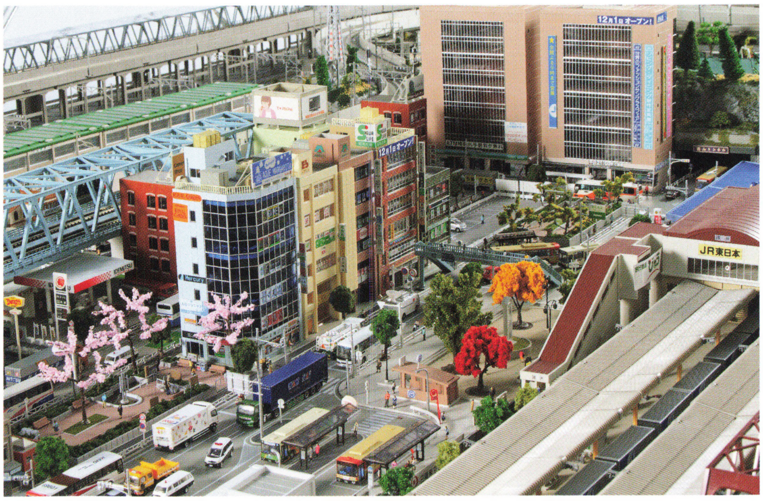
最大７列車の同時運転が可能で、JRの車両を中心にして、SLから新幹線まで、好みのものを編成して適宜運転しています。ひとつ留意している点は、新幹線は高速で、SLはスローでと、それぞれの列車に似合ったスピードで運転していることです。

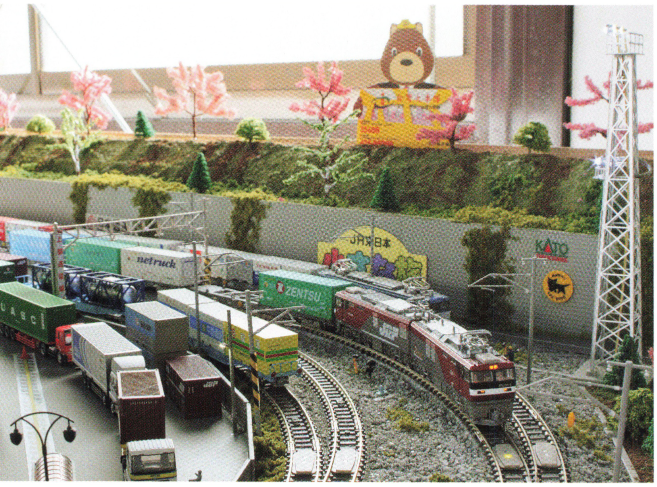
レイアウトには警報機、遮断機付きの踏切を組み込み、列車通過時の音と動きも楽しんでいます。走行する列車以外にも、レイアウトの上で動きがあるものを見るのは楽しいものです。これからは車載カメラからの風景を楽しんでみたいと考えています。



↑3連トラス鉄橋
3連トラスを渡る「スーパーレールカーゴ」。さまざまな樹木が、レイアウトに彩りを。

↓大型のビルが並ぶ駅前
建物にはLEDの照明を組み込み、夜景を楽しむことも可能。公園のキットで完成。





↑青梅コンテナターミナル
青梅コンテナターミナルを出発するEH500形。コンテナ貨物は実際には青梅にはない。モデルならではの楽しい風景だ。

ここに注目

身近にあるものを利用して作った

このレイアウトでは、私たちの身近にあるアクセサリーも多数再利用されています。チラシやアクセサリーを再利用して、レイアウト上に展開する風景をさらにリアルに仕上げる作業も、レイアウト作りの大きな楽しみのひとつです。

映画館の屋上にはキャラクターが並ぶ。

パンフレットを利用して作った看板。

ケーキの飾りも風景の中に。

↑高架の下にも別世界が
停車しているのは233系と「ビューやまなし」。限られたスペースの中に、実物でも見かけることができるリアルな情景が展開している。

←トラス橋の下のコンビニ
トラス橋の下をどのように埋めるかは案外難しいもの。メーカーカタログに記された寸法をチェック。かくして町に1軒コンビニが増えたのだった。

このレイアウト制作のポイント POINT OF THE LAYOUT

既製品のストラクチャーを工夫して使用

①「ジオタウン」シリーズを積極的に使用して工期を短縮
②建物の並べ方を工夫して密度の高い都市風景を再現
③本線は高架にして長い距離を確保
④ホームを中央に設置して長編成列車が停車できる長さに
⑤たくさんのアクセサリーを並べて都会の活気を演出

いちばん大切なのは夢を持ち続けること

これからレイアウトを作ろうとしている人に贈りたいメッセージは、いちばん大切なことは夢を持ち続けていること、その次に大切なのは、夢の実現に向けて行動するということでしょうか。私の場合は、完成するまでの間がいちばん楽しかったようにも感じましたが、それは皆同じであるのかもしれません。

レイアウト作りをスムーズに進めるコツは下準備をしっかりとしておくことです。具体的には資料や材料の調達、それから、いろいろな作品を見て、良い所は学び、納得のゆくレイアウトを作りあげたいものです。

・風景の立体感を強調したレイアウト作り・

レイアウトの風景が、実物よりも平板になってしまうことは少なくない。そうならないために、垂直方向の風景の展開にも工夫してみたい。

レイアウトをさらに実感的にするいくつもの表現

メインラインが高架となっているこのレイアウトでは、いたるところに立体交差を作り、駅前に展開するビル街の存在感もあって、いかにも現代的な都会の風景を作ることができました。他にも道路を地中に導くトンネルや、上空を飛ぶ飛行機など、レイアウトという限られた空間に、さまざまな方向への広がりを与えることができたと思います。

レイアウト中央のトラス橋は市販の製品を組み合わせて。

道路はトンネルで地中に続くと想定。

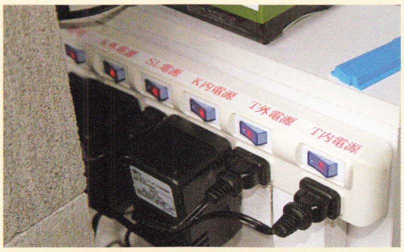
扇形庫も3組の製品を使用。

頭上を飛ぶ戦闘攻撃機FA18。

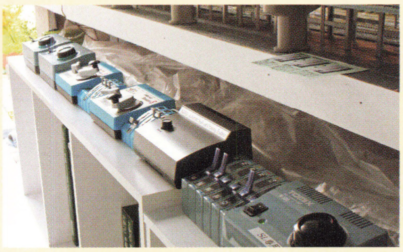
ANA旅客機の姿も。

制御部はコンパクトに配置

車両の運転、ポイント操作などを行なう制御部はレイアウトの手前の台枠下にコンパクトに配置。市販のカラーボックスなども利用してまとめてみました。カラーボックスは車両の収納にも便利。整理整頓を欠かさないことも、レイアウトを好調に保つ秘訣といえます。



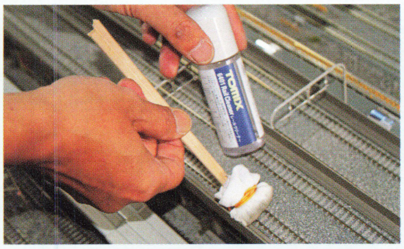
選択スイッチを設け、用途別にコントローラーを選択。


コントローラーはカラーボックス上に設置。

レイアウトを清潔に保つ工夫

レイアウトの大敵がホコリ。ホコリの存在は好調な運転を妨げ、鉄道模型の楽しみを半減させてしまいます。そこでこのレイアウトではアクリルカバーを設置。レールクリーニングには、使い古しのTシャツと割り箸を利用して、クリーニング棒を自作してみました。

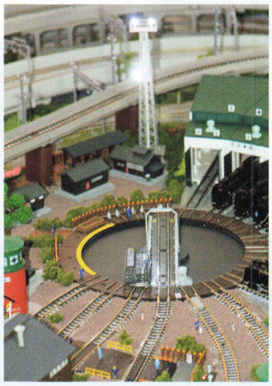
アクリルカバーはレイアウトをホコリから守る。


市販のクリーニング液を染み込ませて使用する。

これがレイアウトの全貌だ！

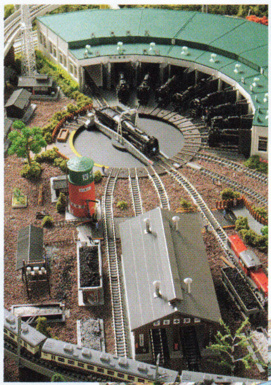
およそ9畳のスペースに延長130mの線路が展開する

プレハブを購入して生み出したおよそ9畳のスペースに、延長130mの線路が展開する青梅臨海高速鉄道。都会的な風景が大きな魅力となっている。



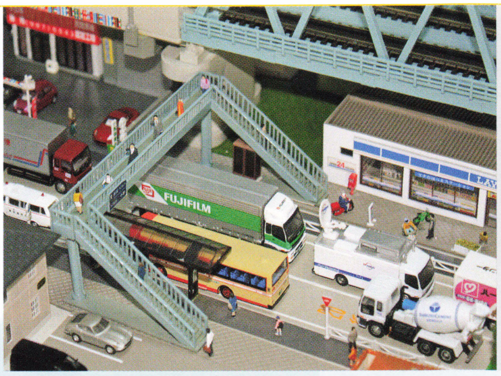
❶転車台周辺

扇形庫には9両を収容。動きが楽しめ、限られたスペースに多くの機関車を収容できる。



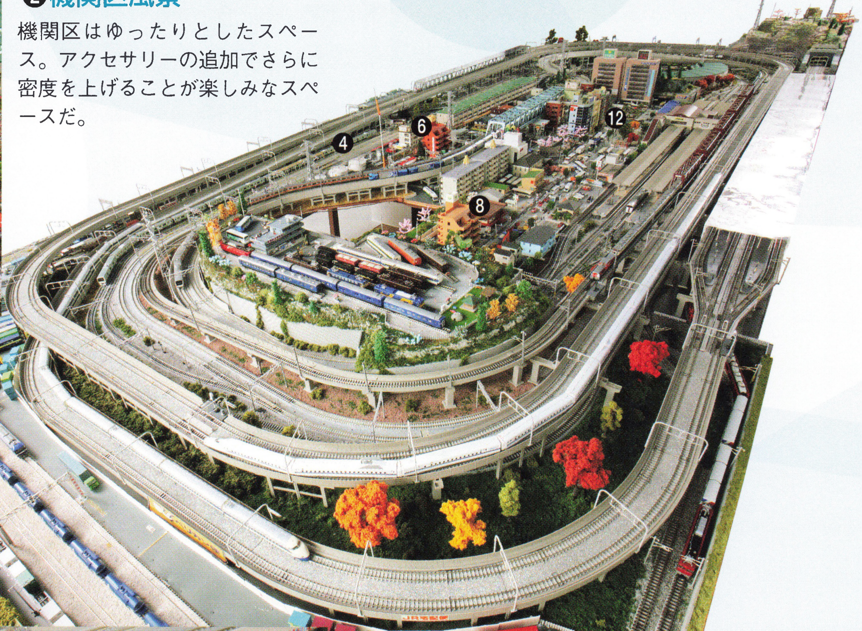
❷機関区風景

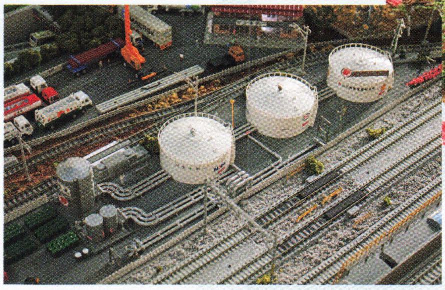
機関区はゆったりとしたスペース。アクセサリーの追加でさらに密度を上げることが楽しみなスペースだ。



❸存在感抜群の歩道橋

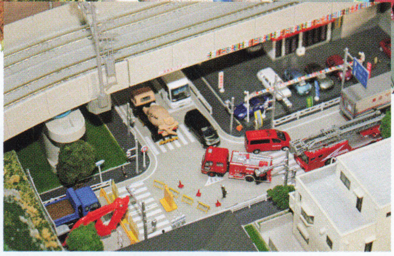
これも都会の風景に不可欠のアイテム。人形を配置することで、さらに活き活きとした情景が生まれる。





❹タンクのある施設

パイプラインで、近くにある空港にジェット燃料を運んでいるという想定。



❺高架下の交差点

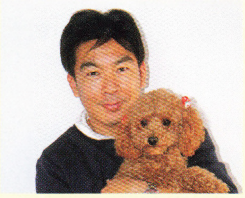
トンネル工事のために迂回中。直線のみのジオタウンをフォローするアイディア。

データファイル

レイアウト名	青梅臨海高速鉄道	作　者	木崎 郁夫
テーマ	夢の都市をコンパクトに再現	場所設定	Nゲージ専用プレハブ(9畳)
大きさ	4,700×2,000㎜	基　盤	コンクリートブロック3段積み＋自作ボード
使用線路	トミックス・カトー	制御装置	トミックス・カトー
制作のべ時間	1年	総費用	約120万円(プレハブ含む)
模型歴	約3年	月にかける費用	10万円位(レイアウト完成後は2万円位)
楽しむ日	休日2時間・夕食後1時間	よく利用するお店	マイホビーキョーサン、タムタム相模原店、上新電気
使用車両	蒸気機関車、ディーゼル機関車、電気機関車、客車、貨車 新幹線、電車(通勤型・近郊型・特急型)		
参考にしたもの	「鉄道模型入門」、「鉄道模型大事典」、「鉄道模型Nゲージを楽しむ2007年版」、「NHK趣味悠々・レイアウト制作入門」		

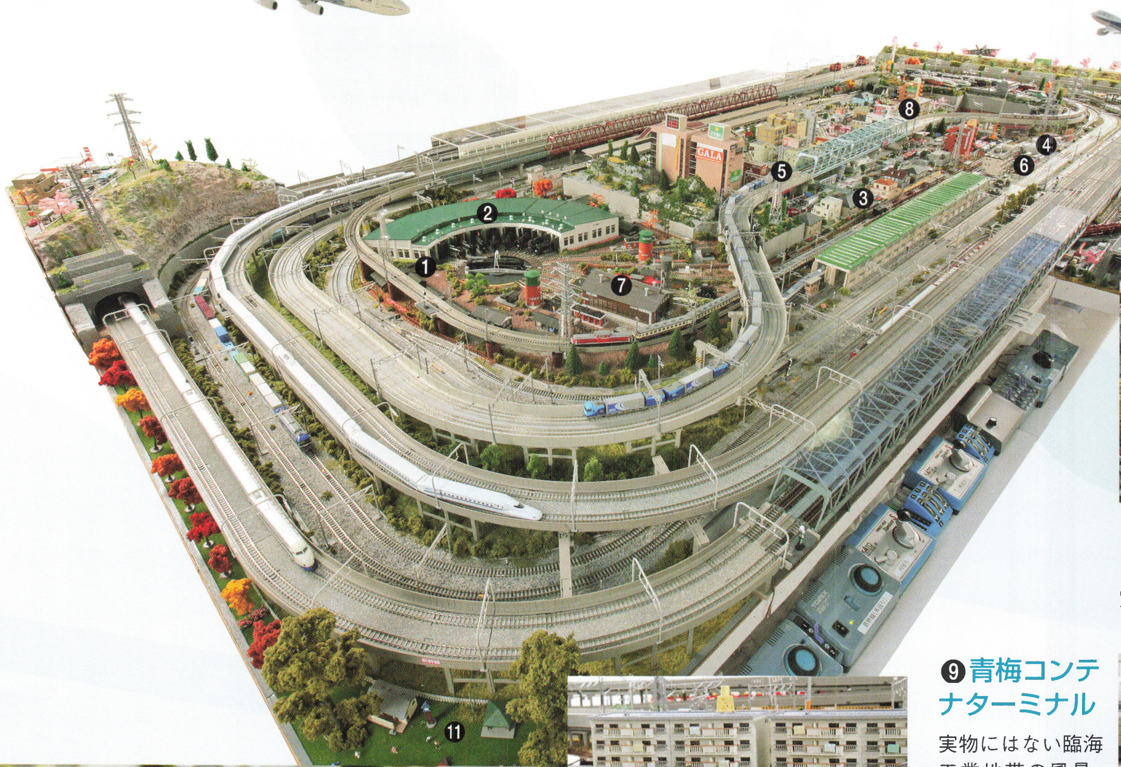
PROFILE

夢の鉄道模型は実現できました



木崎 郁夫さん　47歳　東京都

自宅の前を青梅線が走り、将来の夢は運転士と思っていたら、なぜか今は不動産の仕事。人生いろいろですが、夢の鉄道模型は実現できました。このレイアウトの運転をなさりたい方、レンタル致します。お気軽にどうぞ。


❶
❷
❸
❹
❺
❻
❼
❽
❾
❿
⓫
GALA

❻線路際の施設

中央に踏切を設置。左右に電車庫と空港用のタンク施設を配置した。

JR宅配便
青梅コンテナターミナル
JR東日本旅客鉄道株式会社
TOKYO

❾青梅コンテナターミナル

実物にはない臨海工業地帯の風景。看板類はパソコンによる印刷や、パンフレットの切抜きを使用した。

❼保守・点検用の木造機関庫

やはり各種のステッカーが雰囲気を盛り上げている。

❽青梅サンライズマンション

鉄道公園も近く、人気の高いマンションが小高い丘の上に建っている。

❿人形は重要なアクセサリー

高校生や会社員たちの話し声が聞こえてきそうな、作者お気に入りの情景のひとつ。

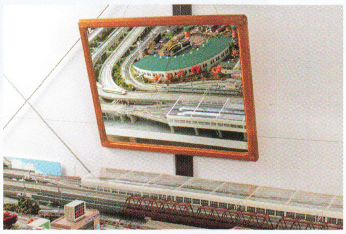
⓫角のスペースに公園を

人工芝の上にストラクチャーを配置して、短時間のうちに公園が完成した。

AQUE MARGARITA
12月1日オープン!

⓬駅前の雑居ビル

建物にはLEDの照明を取り付け。夜景を楽しむこともできる。



停車位置確認

リサイクルショップで見つけた鏡を利用。建物に隠れた車両の位置もわかる。

ここに注目

レイアウトの中の鉄道博物館

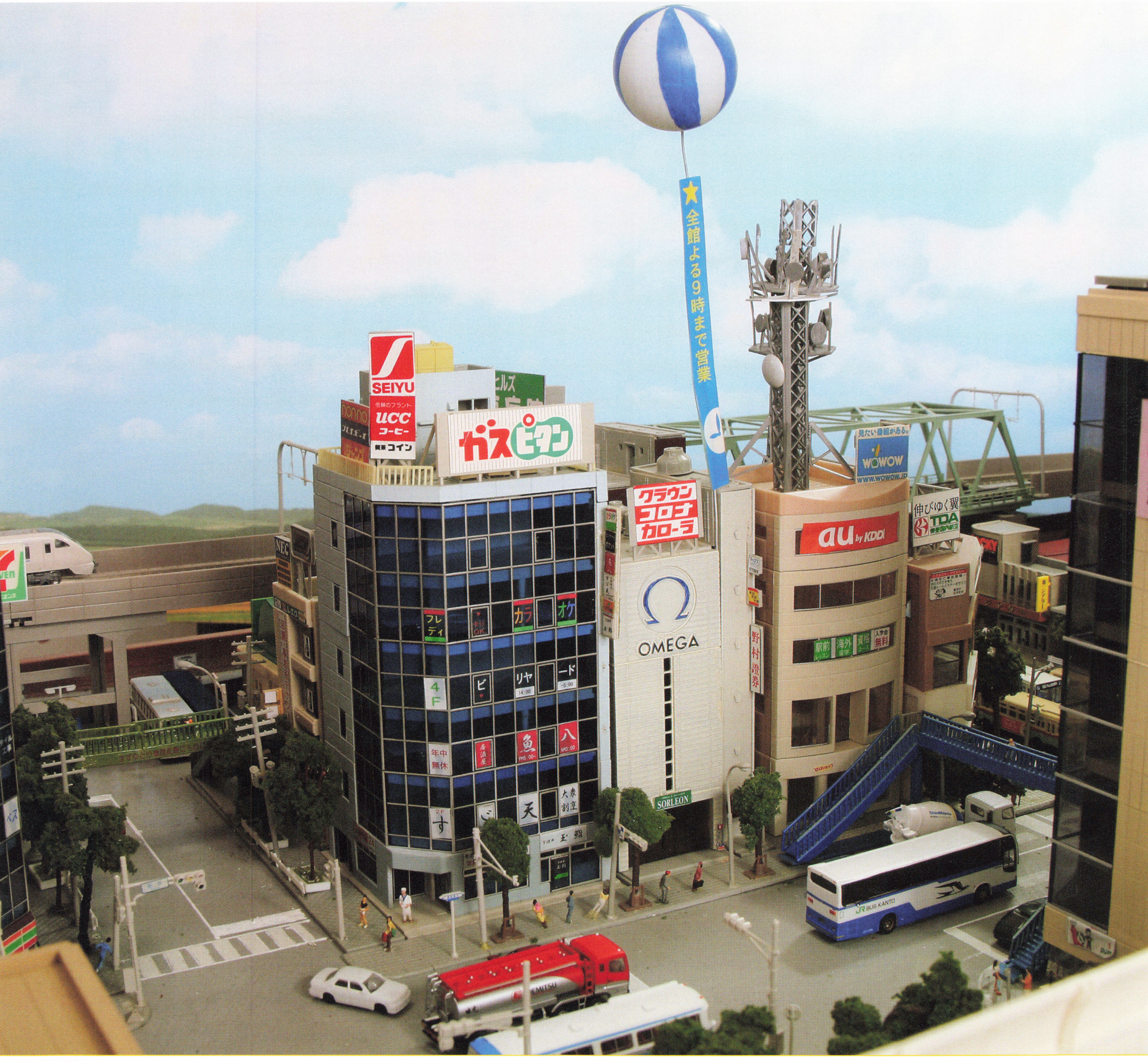
丘の上にある青梅鉄道博物館。元々は不調の車両の処分を考えていたうちに思いついたアイデアだが、いまはより積極的に、蒸気機関車の展示も検討中という。

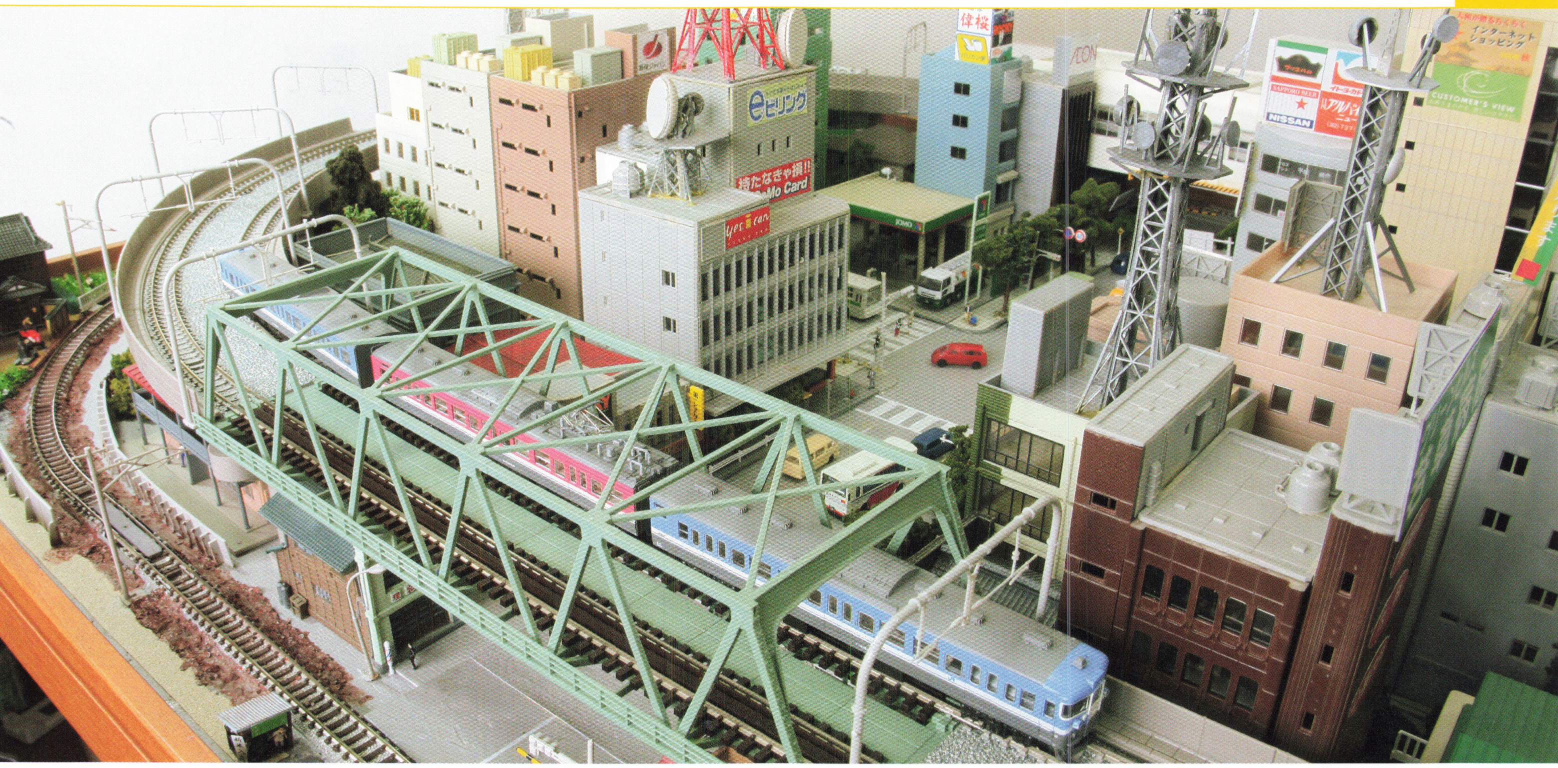
高架線のある都市の風景

都市の情景をイメージ、高架駅と駅前の大通りを中心に構成。百貨店やホテルなどのビルも建ち並び、活気に満ちた都市の表情を再現。

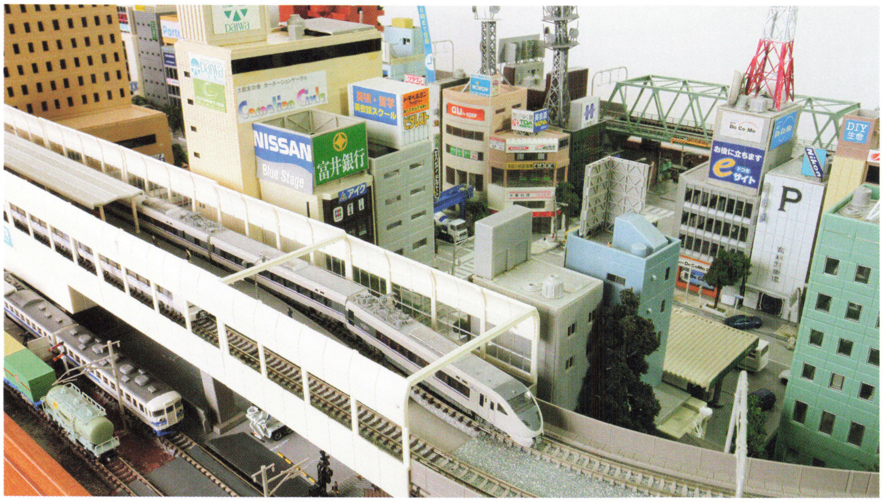
射水戸破鉄道　制作：釣 康宏

レイアウトの大きさ	1,600×800㎜
制作のべ時間	約2年
総費用	180,000円


全館よる9時まで営業
SEIYU
UCC コーヒー
ガスピタン
クラウン コロナ カローラ
OMEGA
au by KDDI
WOWOW
伸びゆく翼 TDA
野村證券
SORLEON
JR BUS KANTO


eビリング
持たなきゃ損!!
JOMO
AEON
NISSAN
SAPPORO
インターネットショッピング
CUSTOMER'S VIEW

大通りを渡るトラス橋
都市部の橋梁は、コンクリートかプレートガーダーが多いが、トラス橋も使われている。


Daiwa
NISSAN
富井銀行
Blue Stage
DoCoMo
eサイト
DIY
P

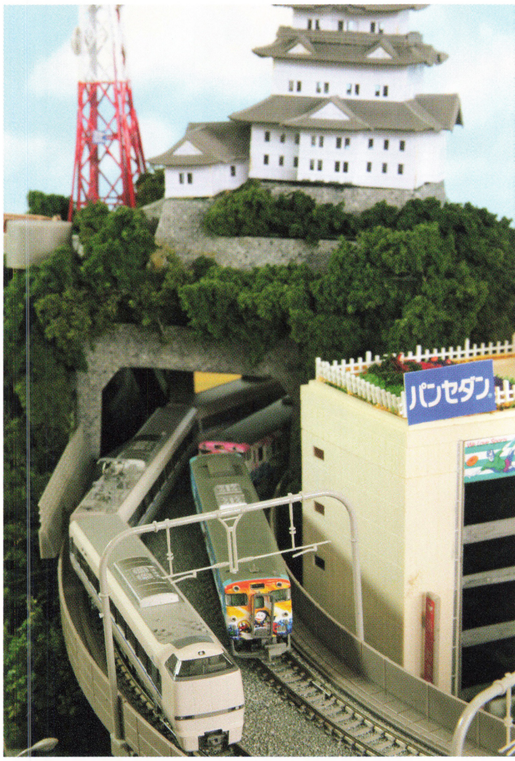
大通りに面したビル街
ビルの上に設けられた広告やアドバルーン、アンテナなどが臨場感の演出に役立っている。

高架駅を出発する「サンダーバード」
高架駅はトミックスの製品を利用。背後のビルが折り重なり、都市の大きさをうまく演出。

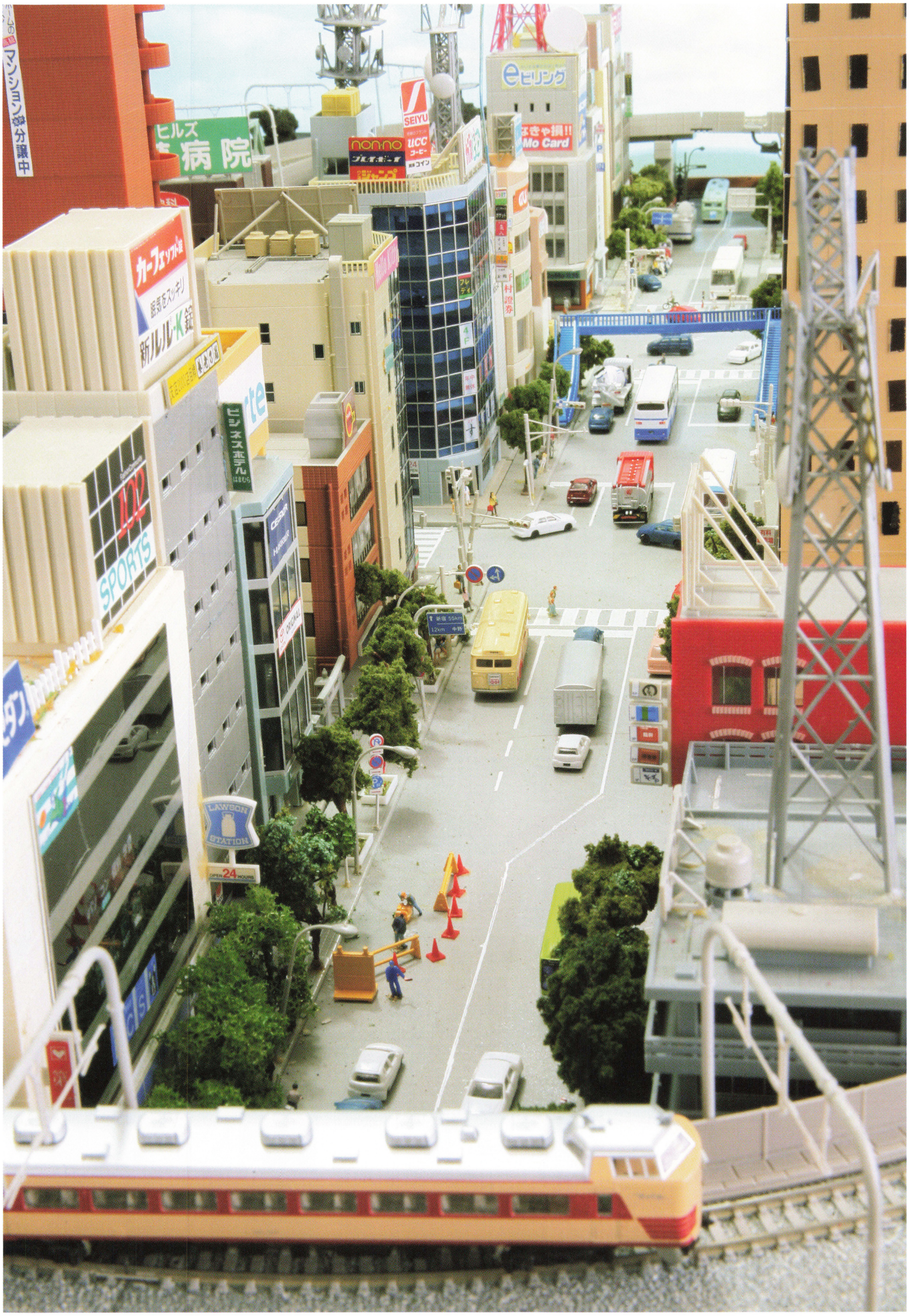
限られたスペースに都市のボリューム感を演出

最初にレイアウトを作ったのが10年前。これは3つめの作品となります。

今回は都市の情景をテーマにしました。レイアウトの大きさは限られていますが、地元の北陸本線を再現するため6両編成の運転は必須条件。そこで本線は台枠ぎりぎりまで広げた小判型として、その内側に大通りを中心とした町を作り込みました。なお、近年は北陸地方も駅周辺で高架化が進んでいます。地平線とは別に独立した高架エンドレスも設置。何とか都市のボリューム感を表現できたと思っています。

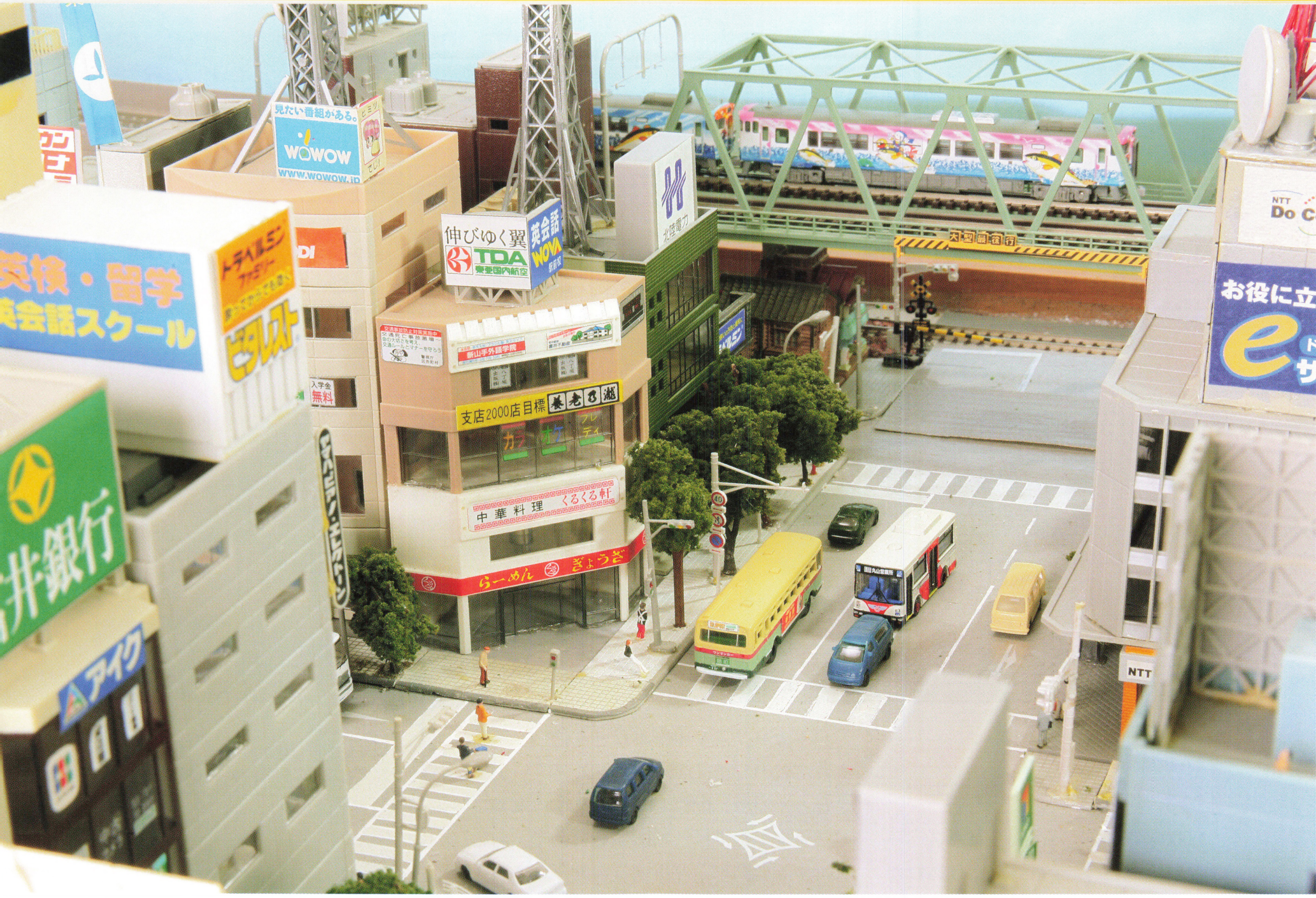


山頂に立つ城
城の下を列車が走り抜ける。あまり考えられない情景だが、これもレイアウトの楽しみだ。



マンション分譲中
ヒルズ
病院
SEIYU
non-no
UCC
eビリング
Mo Card
カーフェ
新ルル-K錠
ビジネスホテル
102
SPORTS
LAWSON STATION
OPEN 24 HOURS

大小のビルが建ち並ぶ大通り
レイアウトの長手方向に貫く全長1,600㎜の大通り。大小のビルが建ち並び、ボリューム感のあるリアルな景観を描いている。街路樹の緑も心を落ち着かせる。


英検・留学
英会話スクール
ピタレスト
伸びゆく翼
TDA
東亜国内航空
英会話
WOWOW
支店2000店目標
中華料理　くるくる軒
らーめん
ぎょうざ
アイク
お役に立
NTT
DoC

大通りの交差点
自動車や人形は、シチュエーションを考えながら位置を決めたため、大半が固定されている。

既製品を使いながらもオリジナリティーを演出

基盤は軽量化のため、2枚の薄いベニア板で発泡スチロールを挟んだ構造としました。上面のベニア板は、全体にグレーに塗り、ここが道路面となっています。歩道を取り付け、センターラインを描くと、それらしく見えてきます。レイアウトはキャスターの付いたワゴン状の棚と組み合わせ、部屋の中で移動できるようにしました。

ストラクチャーは市販品を活用していますが、切り継ぎなども行ない、できるだけ変化の付くように工夫しています。また、ビルの上には通信施設、空調施設、広告塔などを取り付けました。このごちゃごちゃした感じが、街並みをリアルな感じに見せてくれます。

効果的なのはビルの各所に取り付けられた看板です。市販のステッカーも利用していますが、雑誌やチラシから切り抜いたものも使い、バリエーションを増やしてにぎやかにしました。

最後に信号機や外灯、街路樹を植え込み、人形や自動車を取り付けて行きます。これでぐっと街並みに活気が出てきました。

このレイアウト制作のポイント　POINT OF THE LAYOUT

都会的な情景をディテールまで再現

❶大通りらしさを演出するため、道路の幅員をできるだけ広く取り、街路樹のある歩道を敷設した。
❷ビルは既製品を使いながらも、変化の付くように工夫した。屋上の通信機器や広告塔もできるだけ設置。
❸自動車と人形は、その場の状況を考えて位置や向きを決める。

古い街並み

裏通りにはレトロな建物も残り、これがビルの建ち並ぶ大通りとの対照的な変化を演出。

都会の雰囲気を演出するには自動車と人形の配置が重要

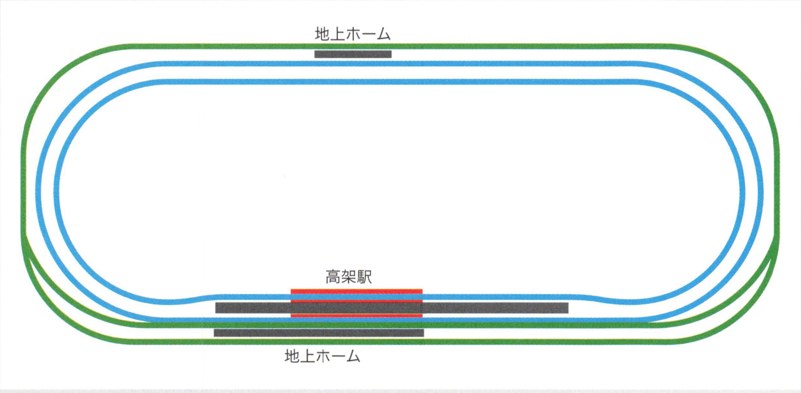
1,600×750㎜という限られたスペースの中に、都会の雰囲気を盛り込むため、自動車や人形の配置には特に気を配りました。

自動車は乗用車のほか、トラック、バス、タンクローリー車、ミキサー車、パトカー、ＴＶ中継車などを使い、それぞれのシチュエーションを考え、似合った場所に配置してあります。なかでも交差点では、横断する自動車、右折する自動車、左折する自動車とさまざまな向きに置き、動きのある情景を心がけています。これは人形にも同じことがいえます。

完成したレイアウトを鑑賞するときは、できるだけ目線を下げ、人形と同じ視線から街並みを眺めるのが好きです。ビルは道路に覆いかぶさるようにそびえ立ち、圧倒的な迫力で迫ってきます。それを見ていると、２年間にわたる苦労が報われる思いです。

一方、これから手を入れていかねばならない課題も多く残っています。線路はトミックスのファイントラックを使い、地平線ではバラストを撒きました。これがうまく行かず、気になっています。また、山の木々はフォーリッジ、クラスターなどで単調に作ってしまいました。例えば、一角を竹林に変えるなど変化を付けたいところです。とはいっても竹林に使えそうな素材がなかなか見つからず、今は検討中といったところです。

このレイアウトのプラン図

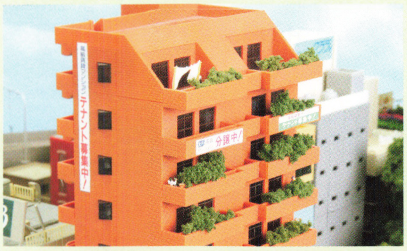


・・・都会を表現するさまざまな工夫・・・

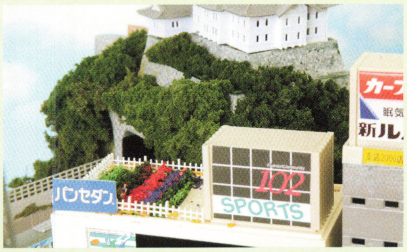
使用した建物は、既製品を活用しながらオリジナルの雰囲気を出すため、小加工から他メーカー製品の合体まで、さまざまなアイデアで変化を付けている。

ベランダや屋上など、ビルの緑化

マンションに生活感を出すため、ベランダに洗濯物や観葉植物を置きました。特に緑は効果的で、ちょっと多めに配置してみました。高層マンションでは許されませんが、これぐらいなら大丈夫でしょう。また、一部のビルでは、近年流行している屋上の緑化も行なっています。



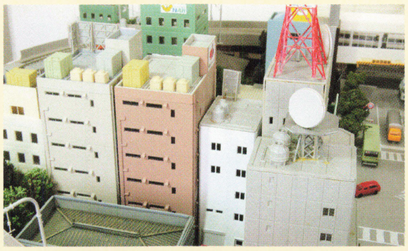
↑マンションのベランダに観葉植物を。



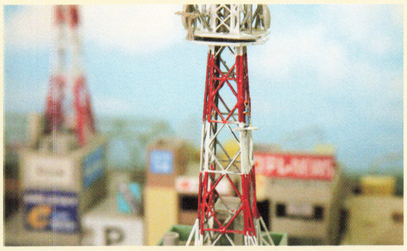
↑屋上緑化は人工芝を貼り込んだもの。

ビルの屋上には各種アンテナが林立

ビルの屋上にはTV、無線、携帯電話などのさまざまなアンテナが立っています。一番目立つのはカトーの高圧鉄塔キットを改造したTV局のもの。保守作業員の姿も見えます。アンテナは現在の情報社会において欠かせないアイテムで、制作は苦労しますが、とても効果的です。



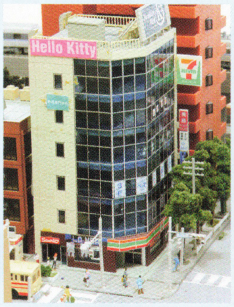
↑空調装置と並んだパラボラアンテナ。



↑大型アンテナは赤と白の塗り分けも必要。

製品を合体して使用

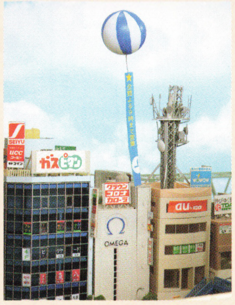
既製品の建物に変化を付けるため、同じ建物を重ねて高層化したものもあります。単純な手法ですが、かなり効果的です。この発想をさらに拡大、別メーカーの建物を積み重ねてみました。作例はカトーのビルとトミックスのコンビニを重ねました。



→２つの建物を合体し、ビルの１階に作られた都市部のコンビニを表現した。

空に浮かぶアドバルーン

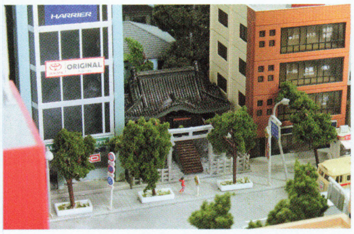
最近はあまり見かけませんが、ビルの屋上から上がるアドバルーンも作ってみました。トミックスの『テクニカルガイド』を参考にピンポン玉を着色、針金を突き刺し、ステッカーの広告を付けました。空間的な広さの演出にもなったようです。



→作例のように針金をちょっと曲げ、風にそよぐようにするとリアルに見える。

都会に残る神社

高層ビルの谷間に開発から取り残されたようにたたずむ神社です。都会といえども、こうした聖域も必要です。これはグリーンマックスの鳥居やお稲荷さん、城のプラキットを利用して作ったものです。狭い境内には樹木を多めに配しました。



↑ビルに挟まれた狭い境内に建つ神社。

これがレイアウトの全貌だ！

高架駅と駅前の大通りを中心に都市の表情を再現した

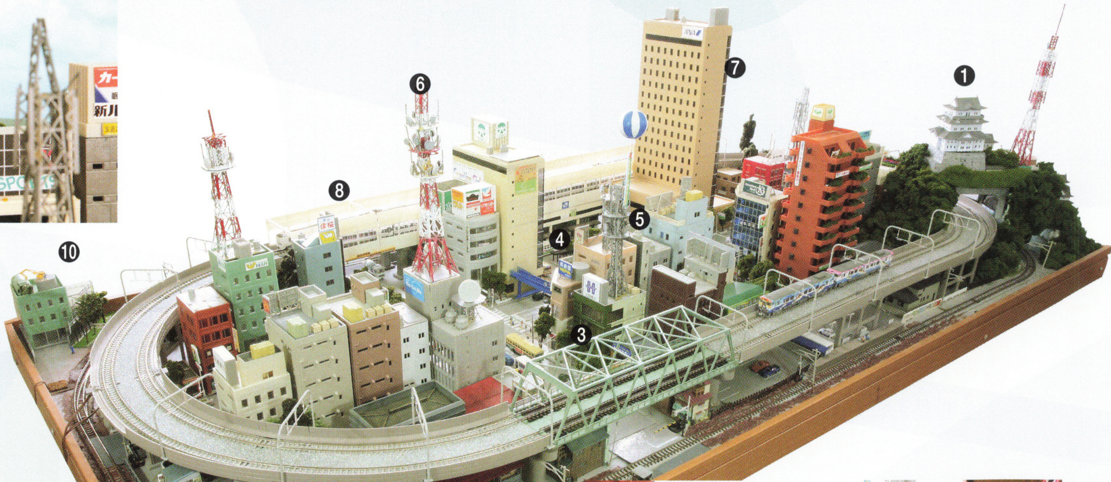
都市の表情はちょっと角度を変えて見るだけで変わる。そのため、1,600×800㎜というスペースを全方位から楽しめるように情景を作り込んである。

❸大通りを渡るトラス橋

東京の秋葉原、横浜の桜木町あたりをイメージして制作。

❶丘の上にそびえる城

丘の上にはプラキット利用の城が建つ。『Nゲージレイアウトを楽しむ』掲載の苦楽園鉄道を参考に制作したものだ。



❷交通事故発生!!

事故後の情景をリアルに再現するため、取調べ中の警官、被害者、加害者も人形をじっくり人選。またTV中継車も駆けつけている。

❹駅前広場と交差点

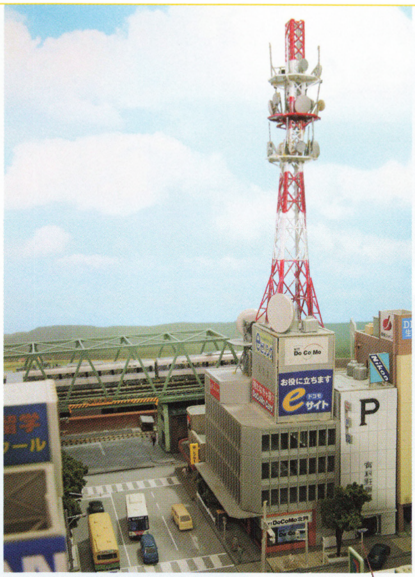
自動車のほか、街路樹、電柱、信号機、歩道橋などが通りの表情に精密感を与えている。ここに探究心と作り込みの価値が現われる。

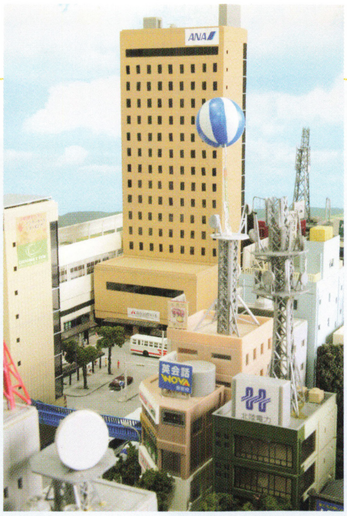
データファイル

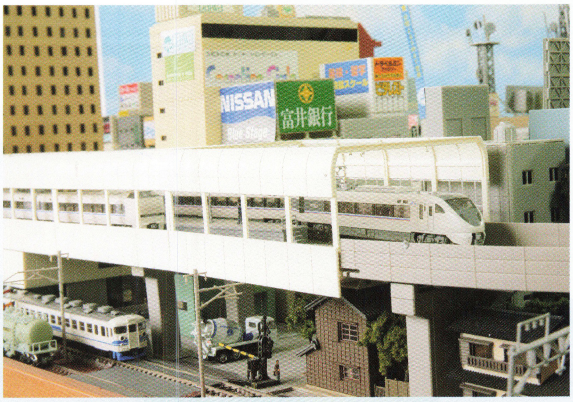
レイアウト名	射水戸破鉄道	作　者	釣 康宏
テーマ	都会的なレイアウト	場所設定	近未来の富山駅周辺
大きさ	1,600×800㎜	基　盤	発泡スチロールに2枚の薄いベニヤをはさんだ
使用線路	トミックス	制御装置	トミックスパワーユニットN-1000CL
制作のべ時間	約2年	総費用	約180,000円
模型歴	13年	月にかける費用	約10,000円
楽しむ日	月2～3日程度	よく利用するお店	キッズランド
使用車両	485系、681、683系、583系、475系 419系、EF81、EF510等		
参考にしたもの	トミックスの「テクニカルガイド」、「キロポスト」 「鉄道模型Nゲージを楽しむ」、鉄道模型雑誌等		

❺ガソリンスタンド

大通りに面したガソリンスタンドでは、地下のタンクにタンクローリーがガソリンを補給中という想定。これもよく見る情景だ。







❼高層ビルのホテル

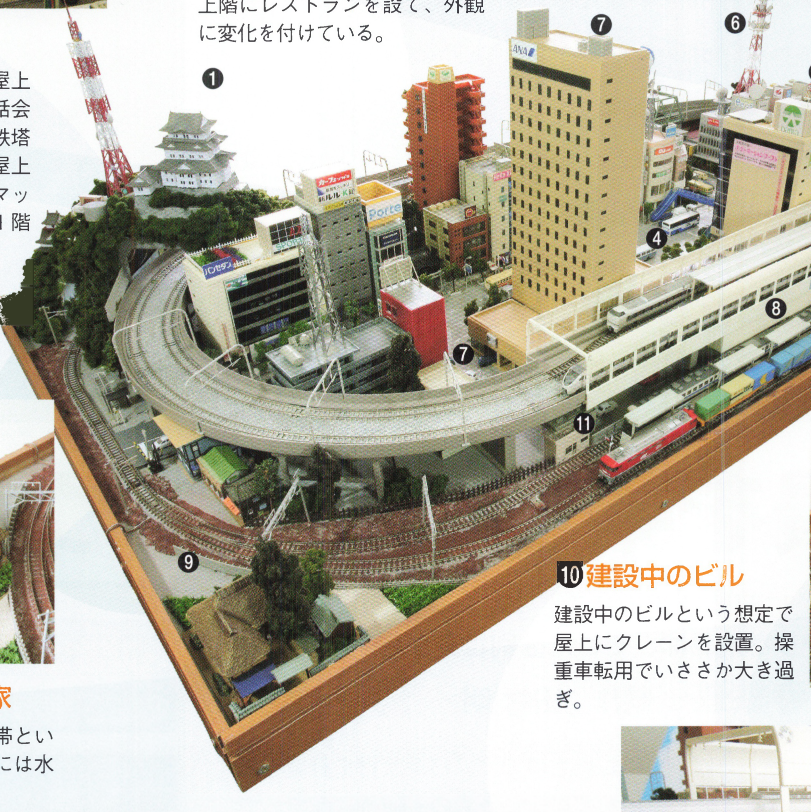
トミックスの総合ビルを2棟重ねたもの。低層部に張り出し、最上階にレストランを設て、外観に変化を付けている。

❽二重構造の駅

駅は高架と地平ホームの二段重ね。新幹線と在来線の接続駅などでよく見られる構造だ。

❻電話会社のビル

巨大なテレビアンテナを屋上に設置してある建物は電話会社のビルでカトーの高圧鉄塔キットを加工したものを屋上に設置。ビルはグリーンマックスの駅ビルを使用し、１階の店舗はトミックスのコンビニを転用。アンテナの高さゆえ、赤と白の警戒色で塗装。



❾コーナー部の農家

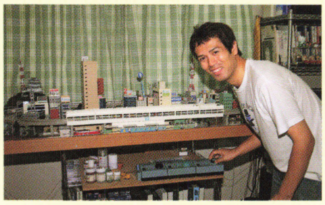
市街地に隣接した田園地帯というイメージ。農家のわきには水田も作られている。

❿建設中のビル

建設中のビルという想定で屋上にクレーンを設置。操重車転用でいささか大き過ぎ。

PROFILE

地元の“特急街道”こと北陸本線を再現しました

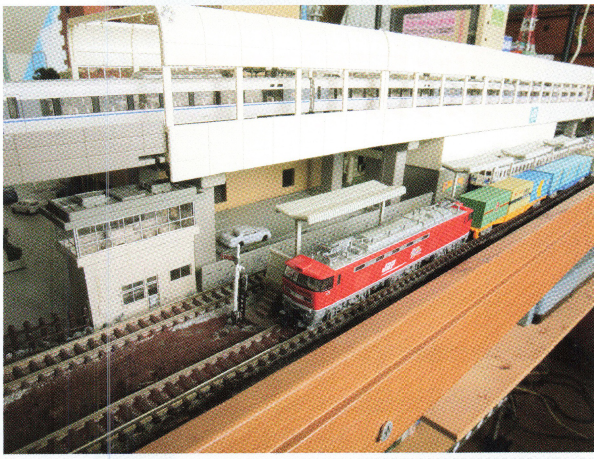


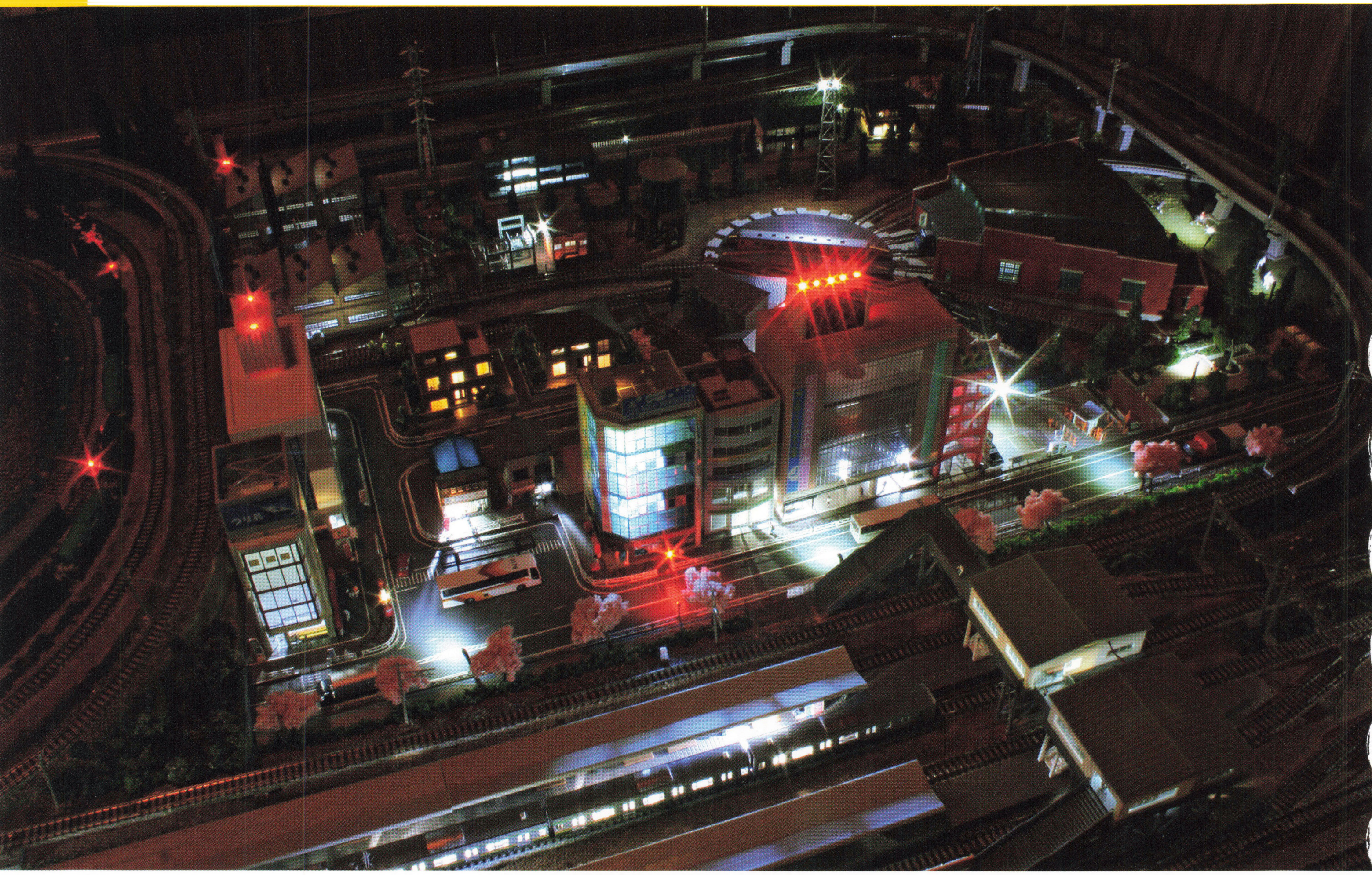
釣 康宏さん　36歳　富山県

小学校のとき、鉄道模型の本を買ってもらったのが始まりです。レイアウトを作り出したのは社会人になってから。JRで出張することが多く、いつも乗っている電車をコレクション。やがて、それを走らせるレイアウトへと発展しました。

⓫停車中のEF510

EF81の独断場だった北陸本線にも新鋭のEF510が登場。早速、射水戸破鉄道にも入線、貨物列車を牽いてがんばっている。





夜景を楽しむレイアウト

ストラクチャーの数多くに照明を組み込み、美しい夜景が楽しめるレイアウト。部屋の明かりを消せば、そこには別世界が現れる。

国分寺鉄道　制作：田村 明

レイアウトの大きさ	3,500×1,500㎜
制作のべ時間	1年6ヶ月
総費用	500,000～550,000円

ひと手間加える工作でオリジナリティが生まれる

3500×1500㎜というゆったりとしたスペースで、都会の風景と田園風景の融合を楽しめるレイアウトをめざしました。レイアウトの手前に2つの駅を設置し、左半分には緑豊かな田園風景が、右半分にはビル街のある都市の風景を展開しました。

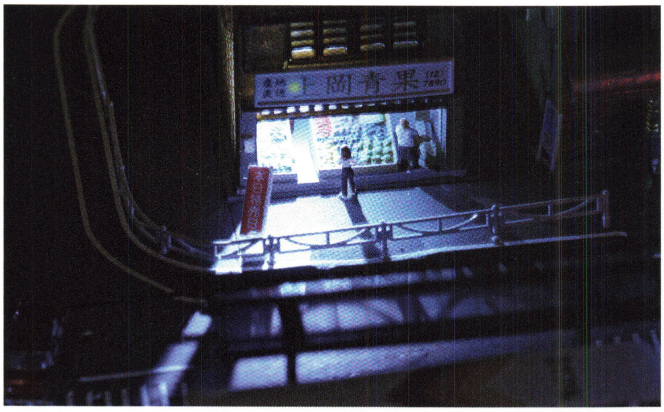
ストラクチャーの多くは完成品を利用したものです、バルサ材や針金を使用して自作したものも随所に配置しています。Nゲージストラクチャーは、今日ではラインナップが非常に豊かになっていますが、少しの工作を追加することで、レイアウト工作の楽しみ、仕上がりの美しさは何倍にも増加します。

このレイアウトではストラクチャーの多くに照明を組み込み、美しい夜景を楽しめるのもポイントです。

↑ホームを照らす照明
照明はホーム上にも設置されている。小さな明かりが風景をより魅力的なものに仕上げている。

←夜の住宅街
人通りもなく、ひっそりと静まりかえっている。手前に見えるホームでは照明灯が眠たげに光っている。

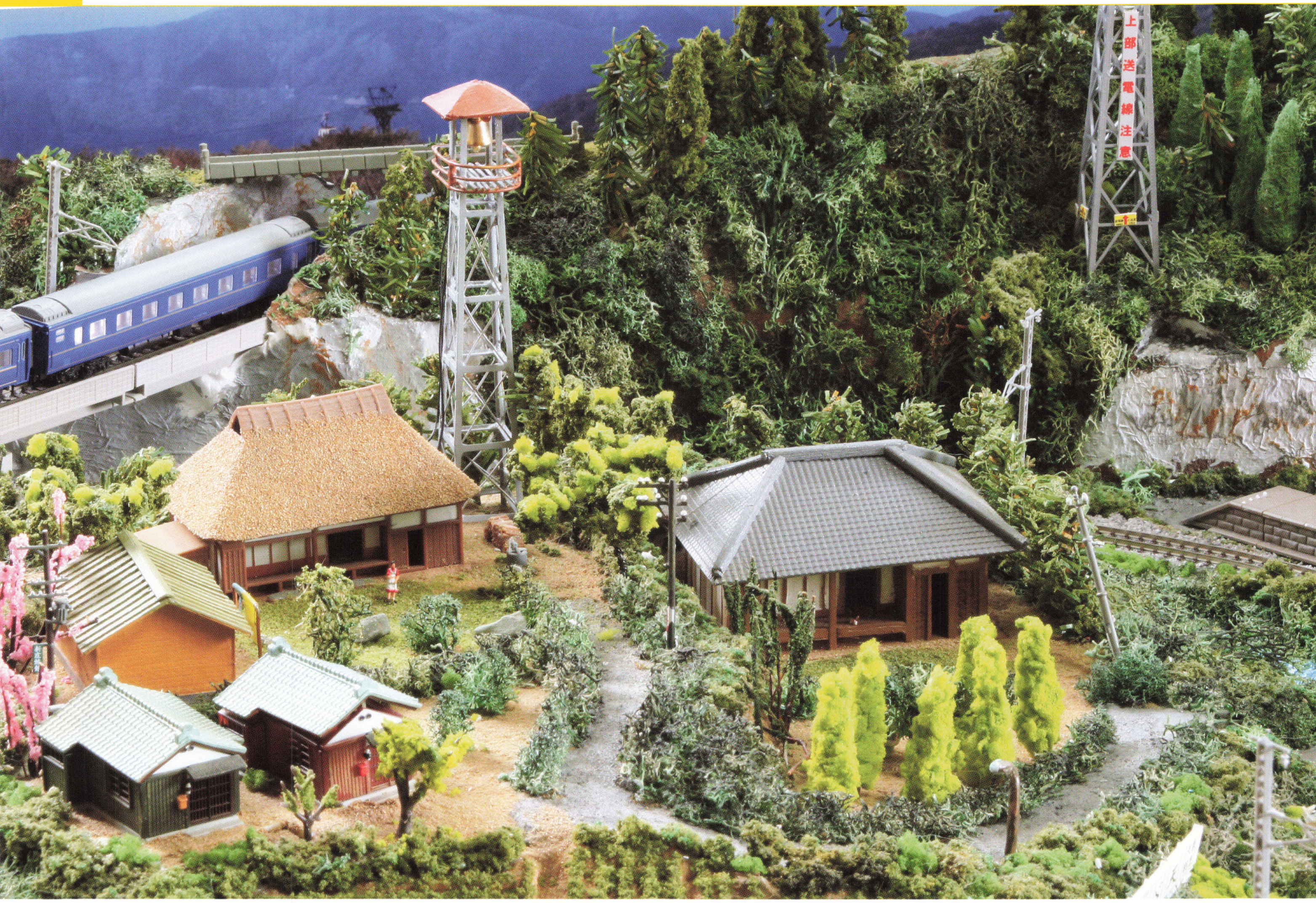
→夜の公園
細かなディテールは夜の闇に姿を消すが、それだけ印象的な風景が現れる。



↑商店
家の中の明かりが、道路も明るく照らしている。実際の風景の中でもよく見ることができる情景。

↓夜を走る特急電車
夜の闇の中をボンネット特急がゆく。ヘッドマークの明かり、室内灯も、頼もしげに見える。

↑公園の周辺
ナトリウム灯のオレンジ色の光が印象的な風景。湖面もオレンジ色に照らされている。



↑2軒の農家と火の見やぐら
農家の周囲に広がる緑のニュアンスに富んだ表現に注目。

都市近郊の豊かな自然も手間をかけた工作で巧みに再現

レイアウトの中央部には、都市近郊の、それこそどこにでも見られるような、自然に恵まれた風景を再現してみました。

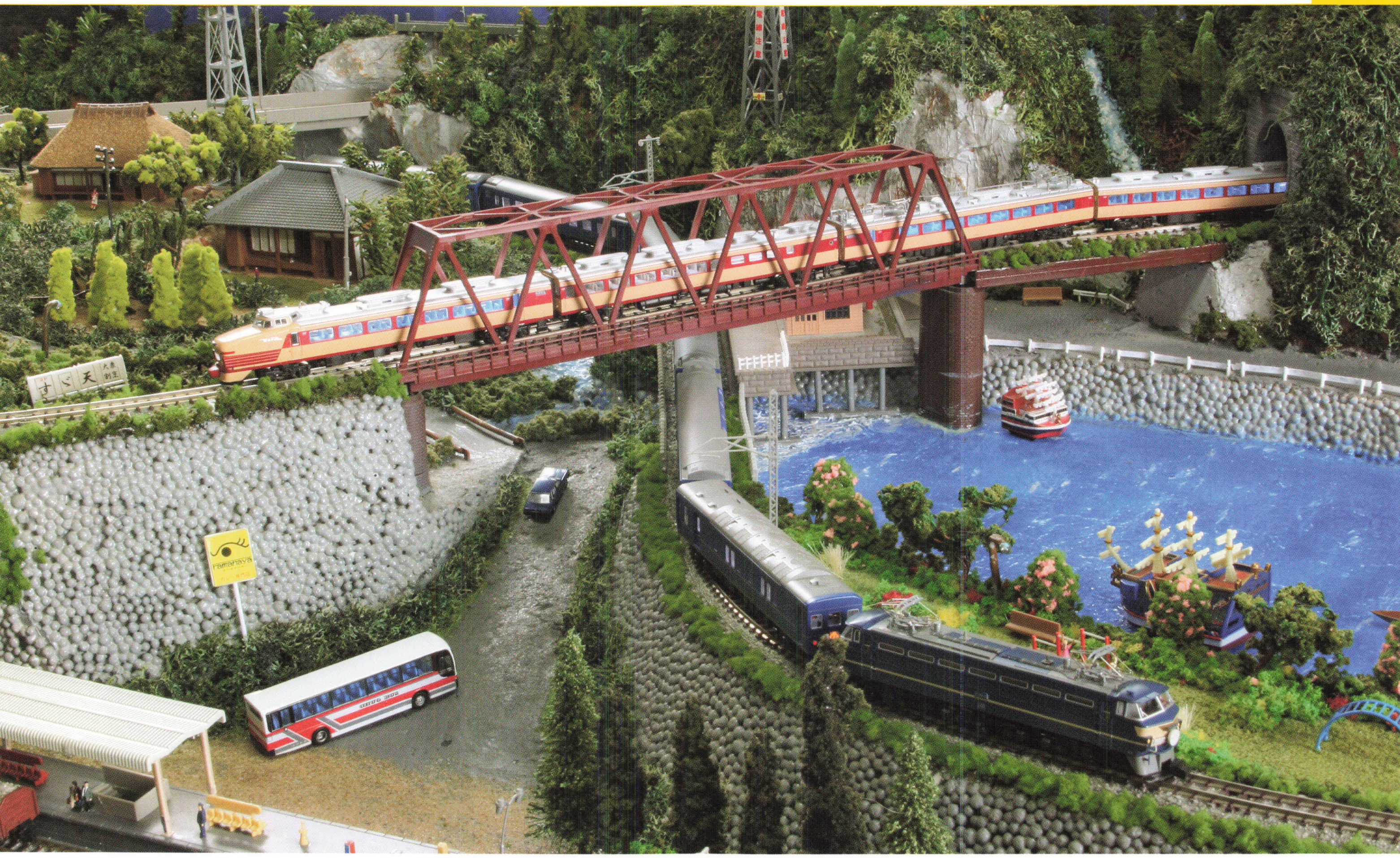
このレイアウトの風景が魅力的に見えるとしたら、随所に自作によるストラクチャーを配置し、それが無理なく周囲の風景と溶け込んでいるからでしょうか。農家の庭先に広がる緑、線路を支える石垣、湖の周囲に造られた公園など、さまざまな風景にオリジナリティを溢れさすことができたと思います。

樹木などの緑の配置にも苦労しました。これも自作、あるいは市販品に加工を加えたものを随所に配置しました。一般に市販されている樹木は、濃い緑色に彩色されたものが多いのですが、このレイアウトに配置した樹木はもっと明るい色のものを多くしてみました。それがレイアウトを明るい雰囲気に仕上げることになりました。買ってきた品物を並べるだけでなくちょっとした工夫がレイアウトを楽しくしてくれます。

このレイアウト制作のポイント　POINT OF THE LAYOUT

大都会の夜景と豊かな自然を再現

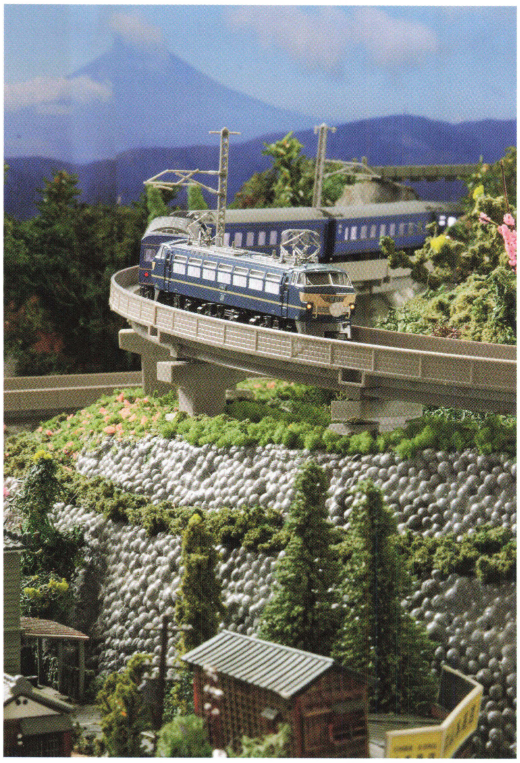
❶100個以上のLEDを使用して魅力的な夜景を再現
❷自作ストラクチャーの使用で、オリジナリティを演出
❸樹木も自作のものを適宜使用。風景に変化がつく
❹都会の風景と田園風景を別に配置し、異なった2つのイメージを表現
❺ゆったりとした線路配置で、長大な編成でも運転は楽



⇦石垣の上を走る列車
自作による石垣が、市販品にはない立体的な風景を作り出している。

⇧レイアウトの中央で出会う列車
レイアウトの中央にある立体交差での、特急電車とブルートレインの出会い。鉄道模型の醍醐味が味わえる風景だ。

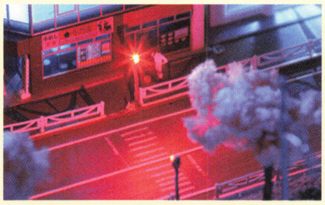
⇩このレイアウトの主力
「北斗星」塗装のディーゼル機関車が寝台特急を引いていく。



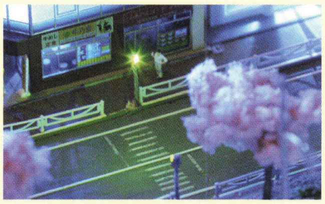
⇧夜の商業ビル
街の目抜き通りにあるビルにも照明がしつらえてある。窓が大きいだけに効果も抜群。

ここに注目　自動的に切り替わる歩行者信号機

　メインストリートには１基、時差で切り替わる歩行者信号が設置されている。これは行きつけの模型店店主にシステムを教えてもらい設置したもの。青信号の最後には点滅も行なわれ、ひときわ目を引く存在となっている。



●↑赤信号　路面も赤く照らされる。

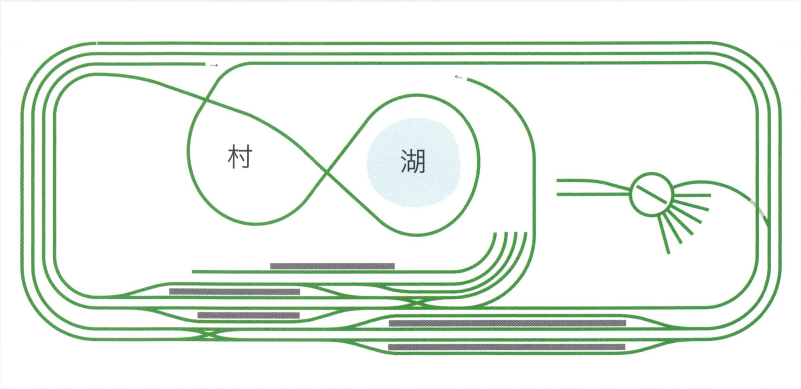


●↑青信号　赤に変わる前に点滅する。

⇧交差点と桜の木
　季節は春。街角には桜の木が並んでいる。自動販売機、電話ボックスなども効果的だ。

⇧新緑の街路樹
新緑の街路樹。プラタナスのイメージだろうか。すっきりとしたプロポーションが好ましい。

このレイアウトのプラン図

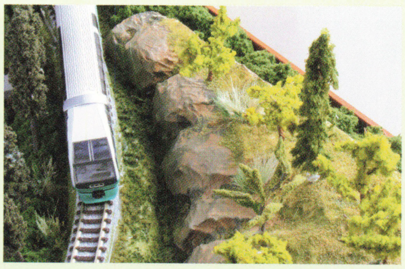


・・自作小物でオリジナリティを演出・・

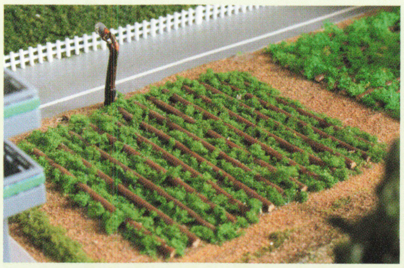
このレイアウトには自作によるさまざまな情景小物が用いられている。工作を楽しみながら、既製品利用では表現できない味わいを追加できるのが、自作の楽しみだ。

小物の自作によって生き生きとした風景を作る

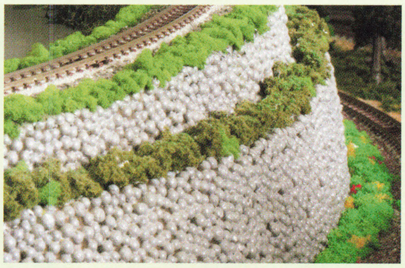
このレイアウトでは、情景小物の自作によって風景に生き生きとした情感が与えられている。発泡スチロールで作られた岩場や石垣、焼き鳥の串を利用して制作した畑などがそれで、これらの工作はいずれも特別に難しいものではないが、レイアウトに既成のキットの利用では表現できないオリジナリティが加えられている。小さな工作にも無限の楽しみが秘められている。



発泡スチロールを整形して作られた岩場。



焼き鳥用の串を畝のベースに使用。

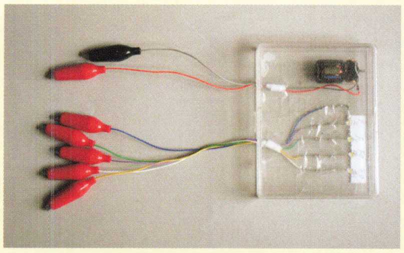


自作によって曲面の石垣が完成した。

レイアウトの運転にはDCCも導入

本書113ページで紹介したDCC制御を採用。ただし、すべてをDCC化しているわけではなく、従来のDC制御も併用、デコーダー未搭載の運転も楽しめるように配慮してある。DCCなら停車中もライト点灯が可能。本書写真撮影の際にも非常に効果的だった。

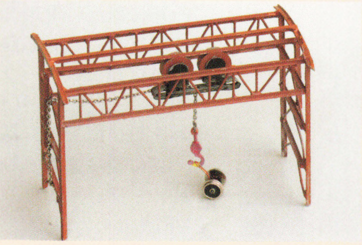
制御装置わきの表は、各車両のDCC用IDメモ。



デコーダーの動作確認に使うテスターも自作。

自作のクレーン

下の写真は屋内で使用されるクレーンを自作したもの。余っていたプラモデルのパーツを組み合わせて制作。観賞するのが楽しいアイテムだ。

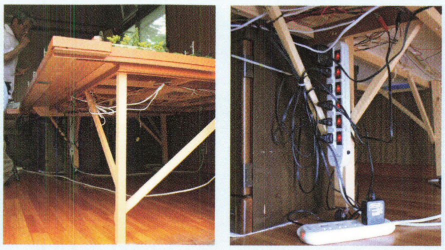


プラモデルパーツの組み合わせで生まれた。

本業を活かし、レイアウト基盤や脚も自作

作者の本業は大工。木工作業はお手のものとあって、レイアウト基盤や脚はすべて自作している。一見、華奢に見えるが、強度は十分。むやみに重くしない、プロの技が発揮されている。

また、保守を考え、基盤の一部は取り外せる構造。ここからレイアウトの奥に手が伸ばせるようにしてある。



レイアウトの脚はシンプルだが信頼性は高い。

一部は開き、メンテナンスに配慮。

これがレイアウトの全貌だ！

都市の風景と田園風景が美しく調和したレイアウト

ゆったりとしたスペースの中に都市の風景と田園風景が同居する国分寺鉄道。両方の風景はバランスよく融合し、魅力的なレイアウトになった。

❶トラス橋の下をゆく列車

レイアウト中央部に架かる赤いトラスの下を通過する列車。バラエティ豊かな樹木にも注目。

❷レイアウト隅のログハウス

印象的な姿のログハウスは、マッチ棒などを使用して自作。制作には手間がかかったが、見栄えは素晴らしい。

❸温室のある畑

温室は外国製ストラクチャーキットを使用したもの。このような建物であれば、洋の東西を問わず、レイアウトに使用できる。

❹池のある公園

田園地帯の中央には池のある公園が設けられている。青い水がなかなか印象的だ。

❺小さな牧場

線路際にある牧場。レイアウトの四隅のスペースを埋める好ましいアイデアだ。

❻列車留置線

駅の向こう側にも留置線が設けられている。もっぱらローカル線用の列車が使用している。

❼水辺で遊ぶアヒル

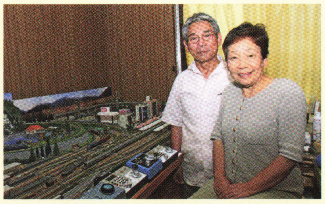
小さなフィギュアでも存在感は抜群。思わず微笑んでしまう光景だ。

データファイル

レイアウト名	国分寺鉄道	作　者	田村 明
テーマ	都市の風景と田園風景の調和	場所設定	都市近郊の豊かな自然
大きさ	3,500×1,500㎜	基　盤	角材、ベニヤ板、発砲スチロール
使用線路	トミックス	制御装置	カトーＤＣＣ　Ｄ－101他
制作のべ時間	1年6ヶ月	総費用	500,000～550,000円
模型歴	5年	月にかける費用	25,000～30,000円
楽しむ日	毎日夜１時間ぐらい	よく利用するお店	モリタ模型店他
使用車両	DD51、EF66、EH200、C57、雷鳥485系、 スーパービュー踊り子、E231系近郊型電車、13系電車		
参考にしたもの	『鉄道模型エヌ vol 20』		

PROFILE

Nゲージで孫と一緒に遊んでいます

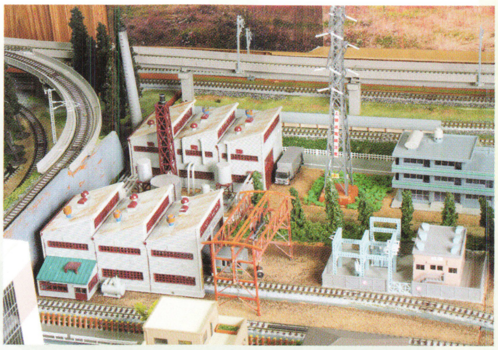


田村 明さん　67歳　東京都

孫が電車好きで、よく一緒に踏切に電車を見に行きました。私自身も昔３線式Oゲージで遊んだことがあり、それを思い出して、孫と一緒に遊ぶ道具としてNゲージレイアウトを制作しました。

❽テニスコート

こちらは住宅街の中にあるテニスコート。フラットな地形をそのまま活かせるアイデアだ。



❾工場街

ずらりと並んだ工場は、いずれもキットを改造したもの。たくさん並ぶと圧倒的な迫力が生まれる。

❿駅前風景

駅前には高層ビルが並ぶ。現代の都会らしい洗練された姿だ。

⓫釣り師たち

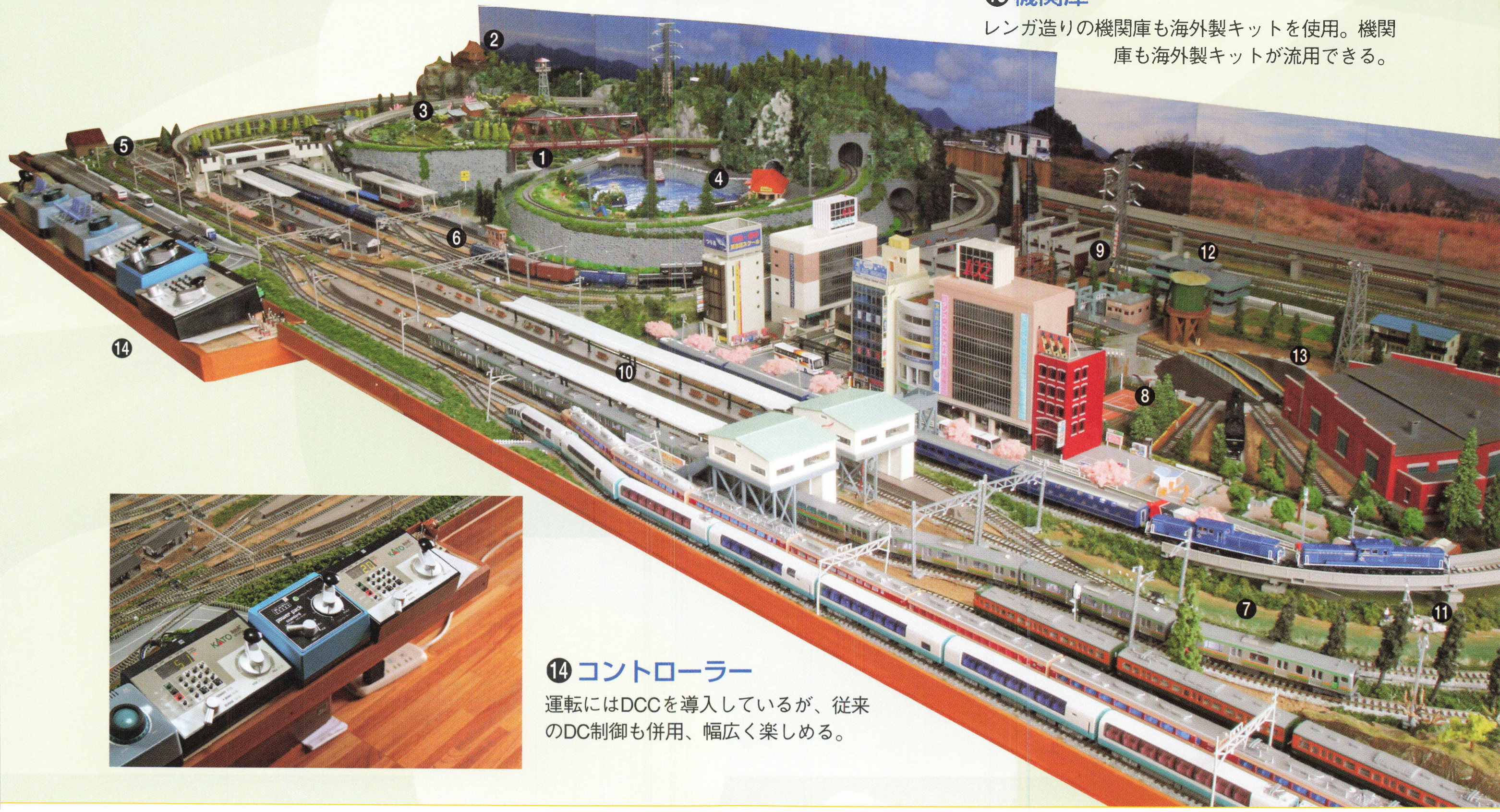
流れのほとりに立つ数名の釣り師。竿は燐青銅の細線を使用して表現した。

⓬給水塔

クラシカルな給水塔は自作。このレイアウトの鉄道の歴史を想わせる。

⓭機関庫

レンガ造りの機関庫も海外製キットを使用。機関庫も海外製キットが流用できる。



⓮コントローラー

運転にはDCCを導入しているが、従来のDC制御も併用、幅広く楽しめる。

コの字型の大型レイアウト

田舎と都会の情景を盛り込み、なおかつ15両編成の列車を走らせられるという条件で作り始めたレイアウトだ。一部は工事継続中だ。

甲総越鉄道

制作：松山 泰治

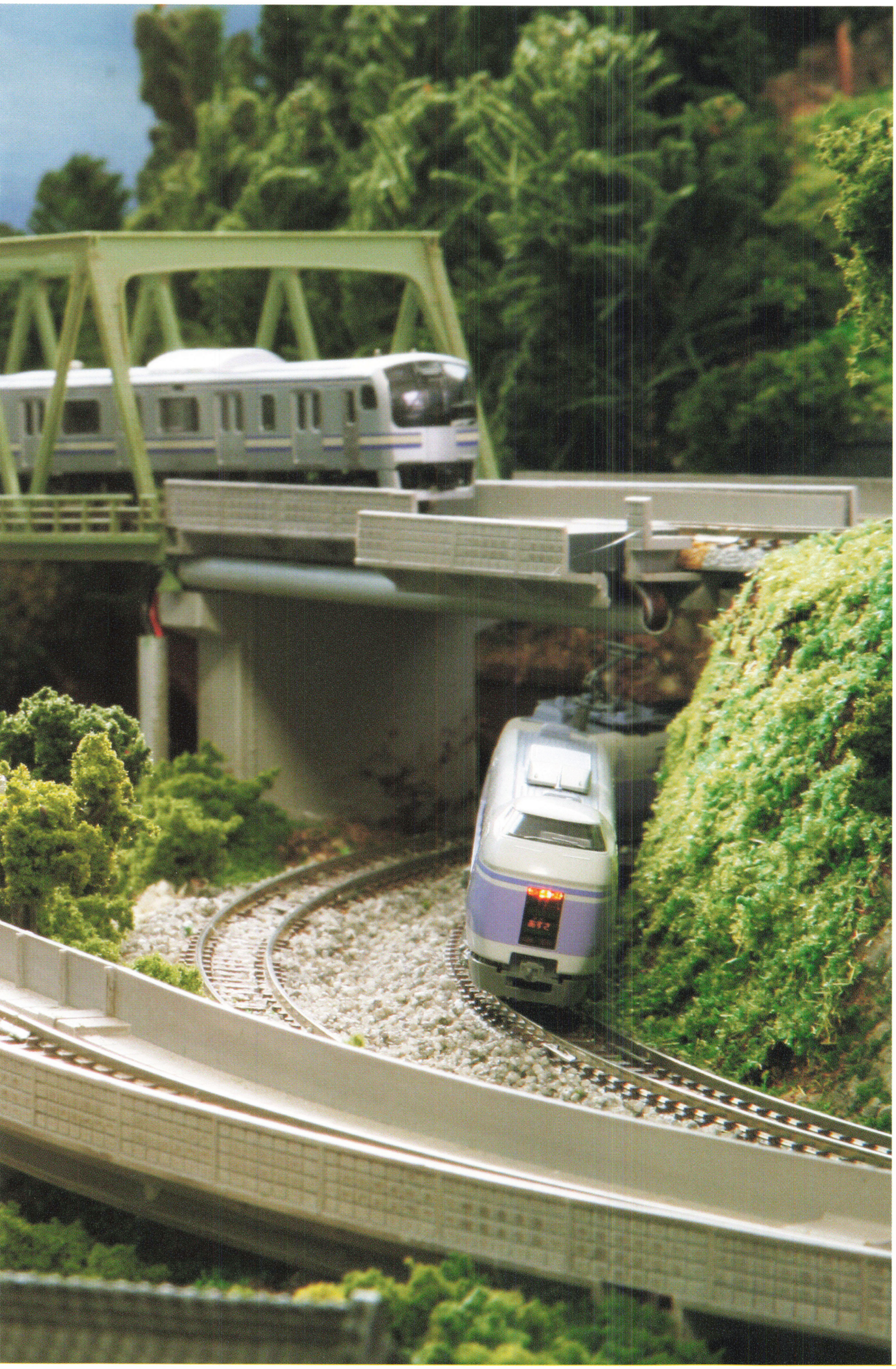
レイアウトの大きさ	3,600×2,550㎜
制作のべ時間	6年
総費用	約500,000円

➲杉林わきの農家
農家はトミックス製。屋根に乾燥させた草を貼り、茅葺きを強調。杉林は手前だけに幹を付けてある。

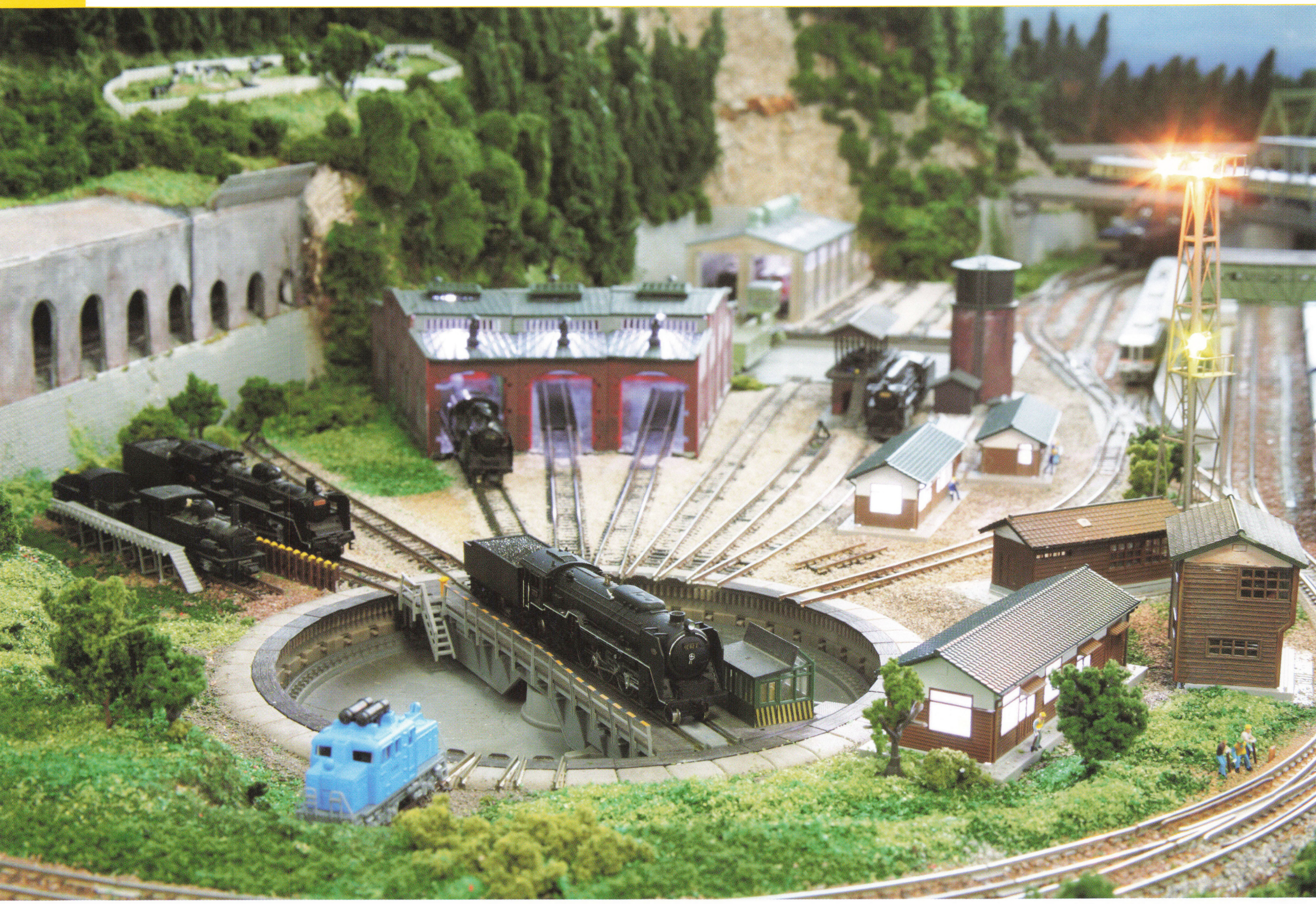
子どもの買った車両がきっかけで制作開始

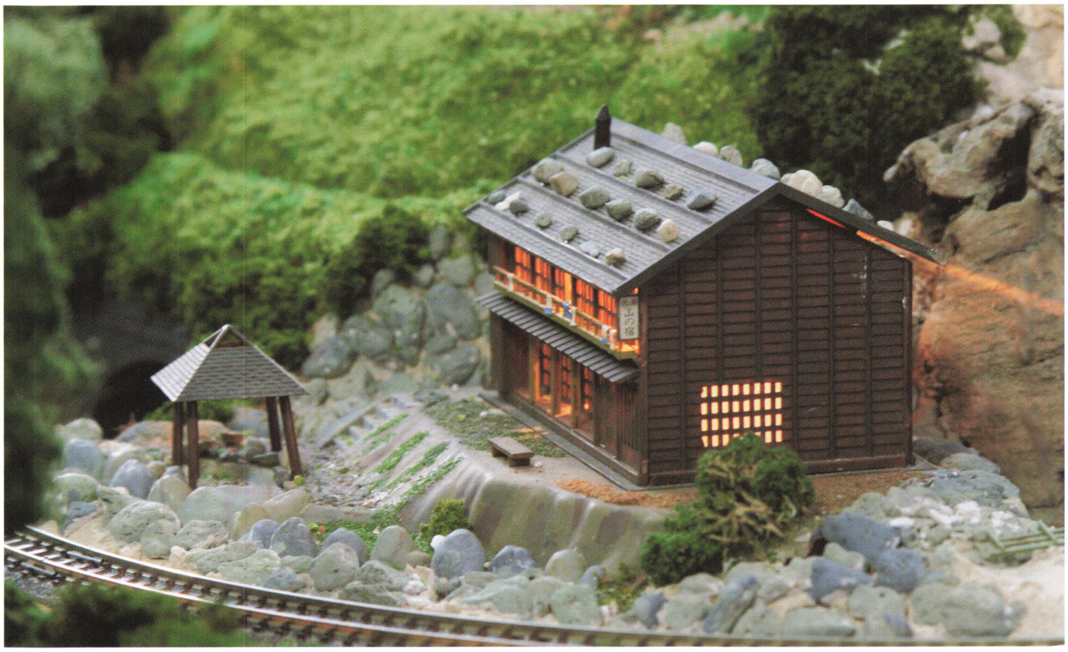
数年前、子どもが総武快速・横須賀線の15両編成を買い揃えました。当時作っていた2,000×1,000㎜のレイアウト（『Nゲージで始める鉄道模型』に掲載）では15両編成の運転は無理だったため、15両編成でも運転できることを条件に新たなレイアウトを作り始めたのです。ところが試運転をしてみると勾配が急で、15両編成は補機なしだと坂を登りません。慌てて作り直したのが、現在の三代目となる甲総越鉄道です。この鉄道名は、今自分が住んでいる甲斐、そしてかつて住んでいた上総、越後の頭文字を集めたものです。

レイアウトのベースはコの字形で、左手が田舎、右手が都会という設定です。数年前の10月にプランが完成、頓挫した２作目のレイアウトを解体の上、翌年１月に着工しました。その年中に線路敷設はほぼ終了、コントロールボードも完成して運転を楽しめるところまで進展しました。地形作りに着手したのは翌年２月から。左手の田舎側から作り始め、今は田舎と都会の中間部までできました。今後は都会の部分を進める予定です。



➲さまざまな樹木で覆いつくされた山
季節は真夏という想定で、山は自作したさまざまな樹木で覆われている。山と山の間には車両基地が併設された奥聖高原駅（左）が展開する。



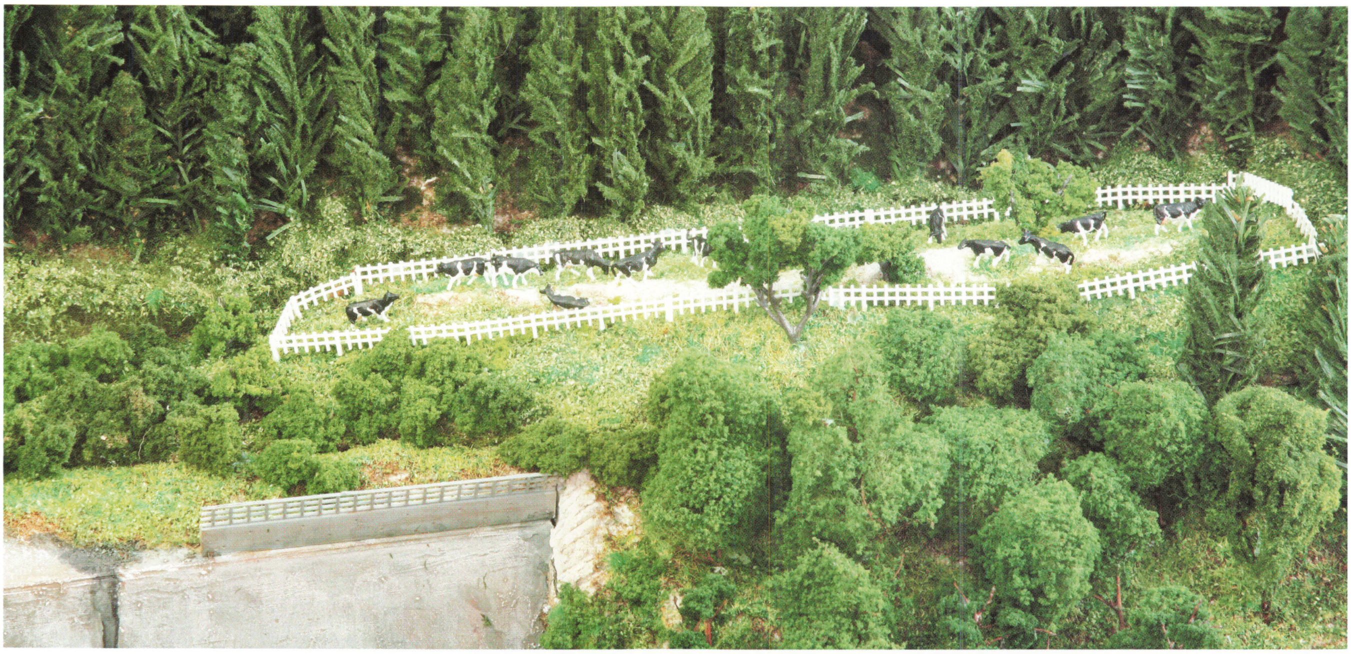


↑山間に設置された機関区

機関区の中心に設置されたターンテーブルはカトー製。購入当時、手に入るものでは唯一線路の角度が7.5度なので実感的。ヘルヤン製の機関庫とのマッチングもいい。詰め所など、他の建物を含め、明るめの色に塗り替え、軽くウェザリングしてある。

←明かりの灯った温泉宿

温泉宿はプラモデルを利用したもの。屋根に石を積んであるのが、それらしい雰囲気だ。露天風呂は屋根付きとしたが、列車から見えてしまうので、目隠しを作る予定という。



↑山間に開けた牧場
背後の山はメンテナンスのため取り外し可能。手前は広葉樹、奥は針葉樹を植え込んである。樹木の種類が違うため、境目が気にならない。

→奥聖高原駅を通過する特急
奥聖高原駅を通過するのはカトー製「スーパーあずさ」。線路はカント付き。製品に仕組まれた振り子式機能もあり、よりリアルな姿に見える。

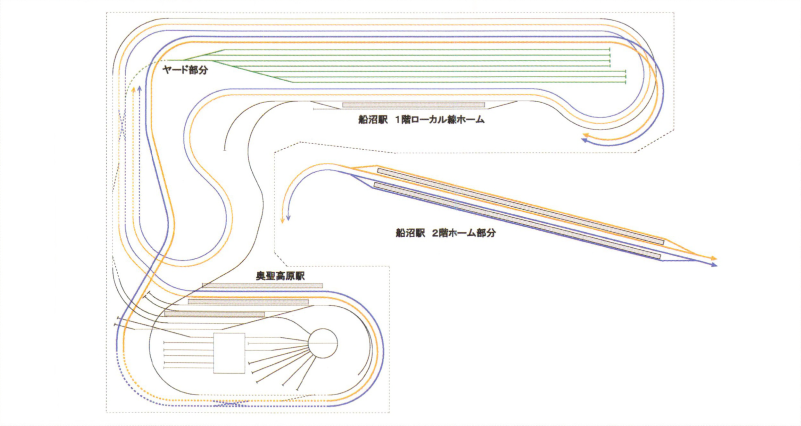
さまざまな樹木に覆われた山を作る

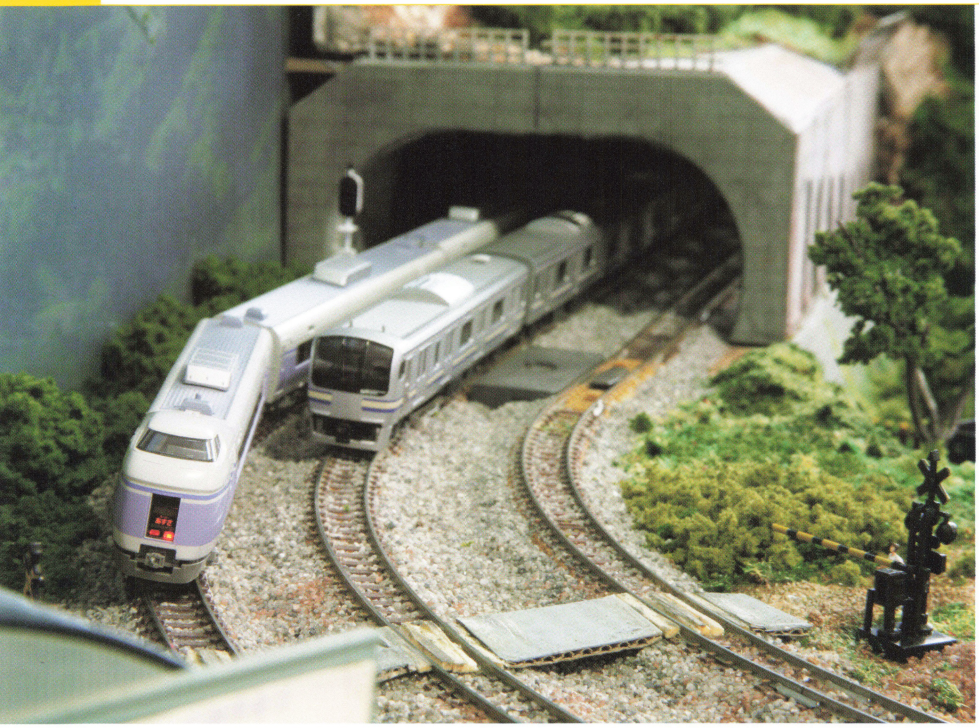
山は木を１本１本植林した方が、変化も自然な感じに付き、見応えがあると考えました。また、製品利用ではコストがかかりすぎてしまいます。そこで大半の樹木を自作しています。

多用したのは針葉樹です。まず、実物の木の葉をミキサーで細かく粉砕したものを振りかけて山の下地とし、そこにクリスマスツリーを加工した針葉樹を植えていきました。この作業はかなり手間がかかりましたが、できあがった部分を見ると、苦労の甲斐があったなとうれしくなります。

また、杉林の一部は手前に来る部分だけ幹を作り、後ろのほうは幹を省略してあります。手間を省きながら精密感を出す工夫も必要と思います。

このレイアウトのプラン図





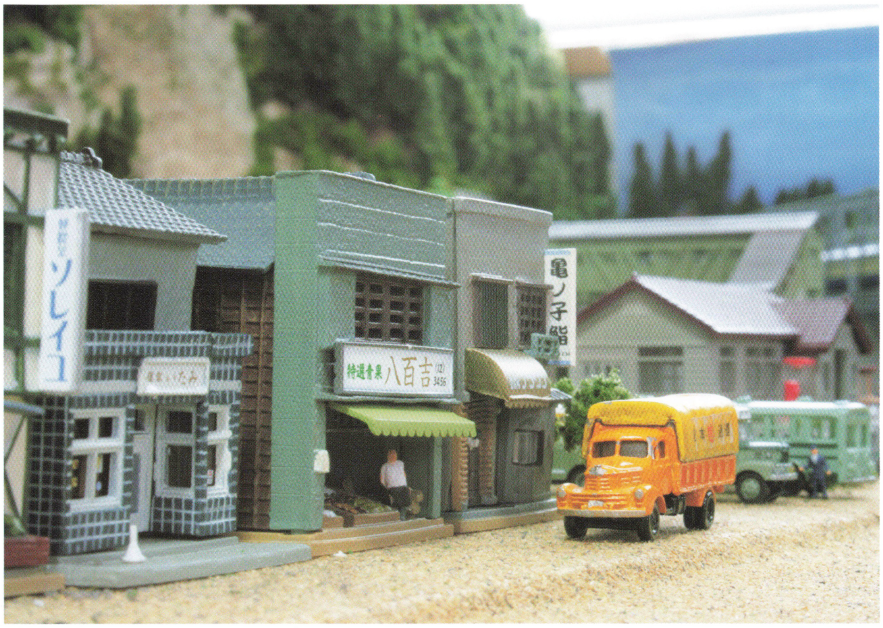
←落石覆いを走り抜ける列車
山間部の鉄道でよく見かけるコンクリート製の落石覆い。このカーブにもカントを付けてある。

大型レイアウトをつくるノウハウとその楽しみ方

レイアウトを作るとき、工作前に明確なイメージを持っていないとうまくいかないと思います。甲総越鉄道では「昭和50年代前半、新幹線が開通すると赤字に転落してしまう在来線を近代文化遺産として残すことに決定。廃車対象の車両も集め観光路線として保存することになった…」といったストーリーを考えてみました。

さらに情景を鑑賞するための工夫も必要です。このレイアウトは2つの駅前のスペースをどちらも広く取ってあるので、駅を正面から眺め、そこに展開する商店街も表現できるようにしました。さらに、駅に停まっている列車の前面が運転席からもすぐに見られるようにしてありますので、「ホームの端まで行って、列車の顔を撮ってくる」なんていう雰囲気も味わえます。

また、これだけ大きなレイアウトになると、奥の作業が大変なので、直接レイアウトの上に乗って作業できるよう強度を出し、作業台も工夫しました。



←奥聖高原駅の駅前風景
まだ建物を一部並べただけ。手前の一段低くなっているところには路面電車を敷設予定という。

↑線路班詰所
詰所は建てたばかりという設定で塗装が新しい雰囲気になっている。作業員の姿も見える。

このレイアウト制作のポイント　POINT OF THE LAYOUT

恵まれたスペースを活かす工夫が必要

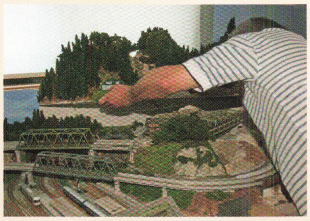
❶レイアウトが大きいため、作業の効率を考え、レイアウトに乗れるように台枠の強度をしっかりとる。
❷線路のメンテナンスを考え、大半の山は取り外し可能な構造にする。
❸見やすいコントロールボードを作り、運転や保守管理しやすいシステムを作る。

大きなレイアウトを作るための工夫

恵まれたスペースに制作されている甲総越鉄道。大レイアウトならではの問題やトラブルも多いという。それを解決するために施された工夫を見てみよう。

大きな山は取り外し可能

大きな山はメンテナンスのために取り外せるようになっています。芯材は発泡スチロールで軽量化。固定は山を乗せるだけですが、特に問題はありません。真上から見ると境目が分かりますが、少し視線を下げるだけではとんど分からなくなるように仕上げてあります。



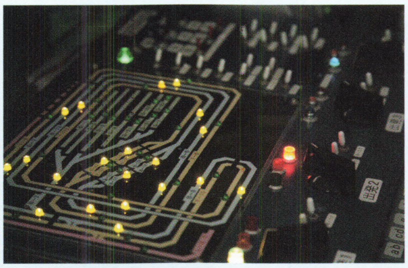
看板類はパソコンを活用して自作

実際の風景を眺めてみると建物や沿線にさまざまな広告看板が設置されています。インターネットで使えそうな素材を集め、カラープリンターで出力して使っています。ちなみに作例の上のほうにあるのは勤務先のもの。レイアウトで宣伝してやろうと思っています。

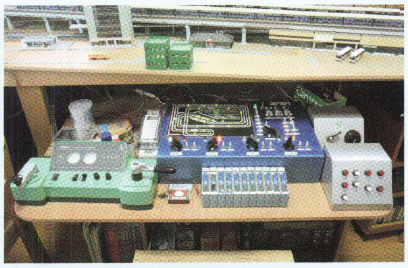
TERUMO
yamako

手作りのコントロールボードで一括制御

線路配線は上り・下り・ヤードの３ブロックに分け、さらに区間スイッチで細部をコントロールしています。電気が通っていると線路図のLEDが点灯。また、都会側の駅は1～4番線に分け、ロータリースイッチで制御。５灯式の信号と連動させ、出発信号のように区間スイッチが入った区間だけ青信号になるようにしました。



↑通電区間はLEDが点灯、一目で識別できる。



↑ポイントの切り換えは製品スイッチも活用。

甲総越鉄道は少しずつ進展を重ねている！

工事継続中の甲総越鉄道ですが、今回大神（おおかみ）神社の造成工事を行ないました。

昨年立派な神社を衝動買いしてしまってから、神社を置く場所をなんとか確保しようと考えた末に、一旦は形作られた山を削って設置することにしました。山を切り開き神社に上がるために40段の階段を設けて収めました。

神社から道路に向かう道沿いには社町商店街を作りました。ベニヤ板が傾斜しているため建物の水平を出すのに苦労しました。本線には自動踏切を取り付け、音と動作も楽しめるようにしました。

緑が増え、川底が完成した。

踏切近くの社町商店街。おもにジオコレを使った。

←今回造成をした大神神社と社町商店街。

→踏切を渡れば、神社へと続く階段がある。

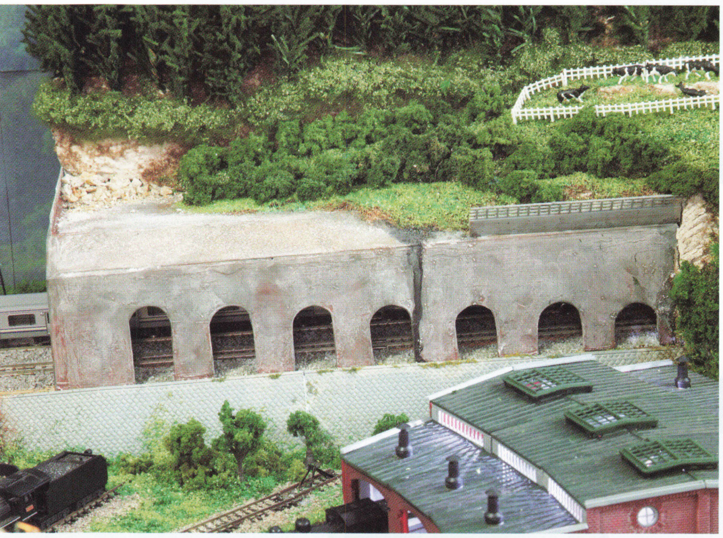
これがレイアウトの全貌だ！

コの字形に展開する固定式の大レイアウト

3,600×2,550㎜という恵まれたスペースに建設中の甲総越鉄道。全景写真で分かるように完成している左半分の田舎エリアを中心に紹介しよう。

❷可動式トラバーサーも設置

トラバーサーはブラヴァ製で可動する。かなりのスペースを必要とし、駆動音が大きいのも難点。



❶スノーシェッド

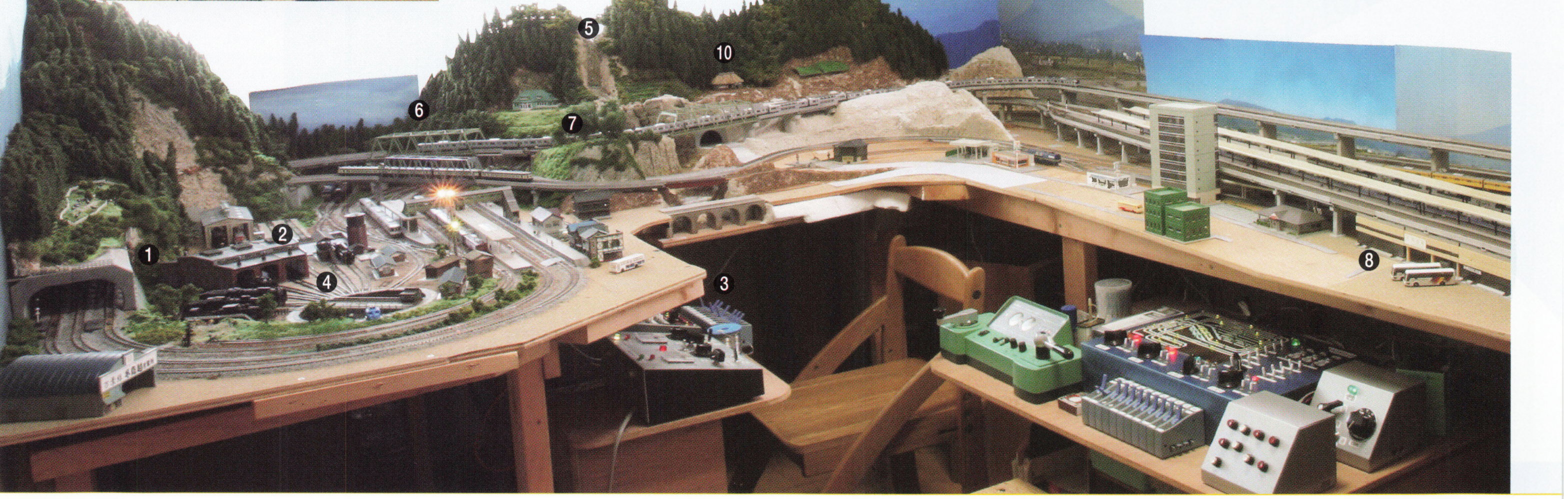
スノーシェッドは厚紙で作り、少々きつめにウェザリング。真ん中には湧き水が垂れる。山と同時に取り外せる構造だ。

❹ターンテーブル

機関区の中心にあるターンテーブルはカトー製。この回転は遠隔操作でき、レイアウトの訪問者には一番受けるポイントという。

❸ローカル線の制御

ローカル線は独立したコントロールボードで運転。こちらはコントローラーを含めて自作している。



❺滝と棚田

どうしても作りたかったアイテムという。水は津川洋行の「水の素プロ」。滝の麓には棚田を作り、地形的な変化を付けている。

❻2つのトラス橋

奥聖高原駅上に２つのトラス橋が架かっている。運転位置からは列車の正面から見ることになり、このレイアウトの見どころだ。

❼山間の温泉宿

プラキットを利用、山村にあった板葺き屋根を表現。屋根の石は風に対する重石だ。

❽高架の船沼駅

制作中の船沼駅はメインラインの高架ホームとローカル線の地平ホームという構造。完成が楽しみ。

❾駅に隣接した車両基地

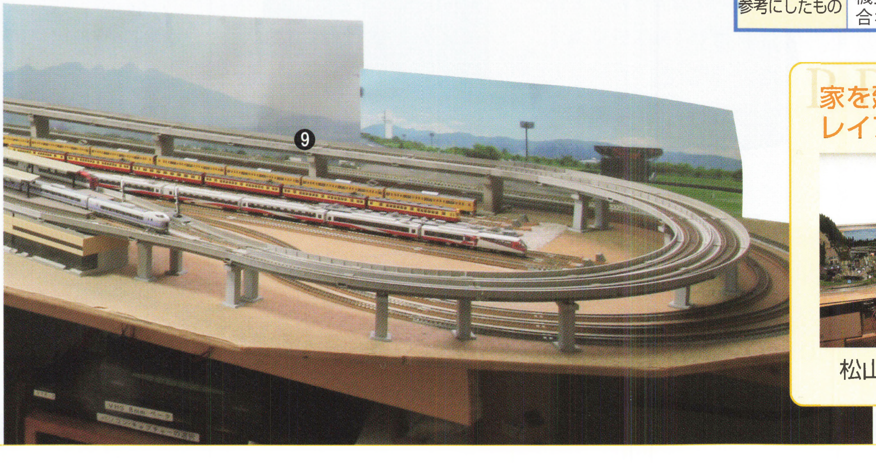
船沼駅から右手に180度回るカーブの内側は、15両編成を４本、13両編成を３本収納可能。

❿森のわきに建つ茅葺き屋根農家

茅葺き屋根の農家はトミックスの完成品。乾燥させた草を屋根に貼り込み、茅葺きらしさを強調しているのがポイントだ。

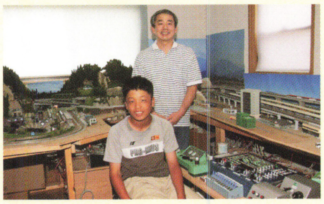
DATA FILE DATA FILE データファイル DATA FILE DATA FILE

レイアウト名	甲総越鉄道	作　者	松山 泰治
テーマ	コの字型の大レイアウト	場所設定	千葉、山梨、新潟の風景
大きさ	3,600×2,550㎜	基　盤	2×4を柱や梁に使用。
使用線路	トミックス	制御装置	自作SCR
制作のべ時間	６年	総費用	500,000円くらい
模型歴	40年	月にかける費用	10,000～15,000円
楽しむ日	長期連休にテーマを決めて	よく利用するお店	レール・パル351
使用車両	SLから電車まで幅広い。上信越線、総武線を走る車両。伊豆急も乗り入れています。車両総数ではまだ国鉄ものの方が、優勢です。		
参考にしたもの	機芸出版社発行の「TOMIXの使い方」が、ポイント使用時の線路幅合わせや、線路端合わせに役立ちました。		



PROFILE

家を建ててから鉄道模型はレイアウト中心になった



松山 泰治さん　51歳　山梨県

小学５年生、HOゲージをやっていた兄の影響で鉄道模型の楽しさを知りました。模型に負けないぐらい好きなのがオートバイ。ツーリングの旅先で出会った風景をレイアウトに再現しているので、何だか取材ツーリングみたいです。

子供と遊べる隠し絵のレイアウト

最初に手がけた湖。完成後、クジラのような形状に気が付いた。以後、動物好きの娘さんのために あちこちに隠し絵を仕込んでいった。

吉井本郷鉄道　制作：関根 一秀

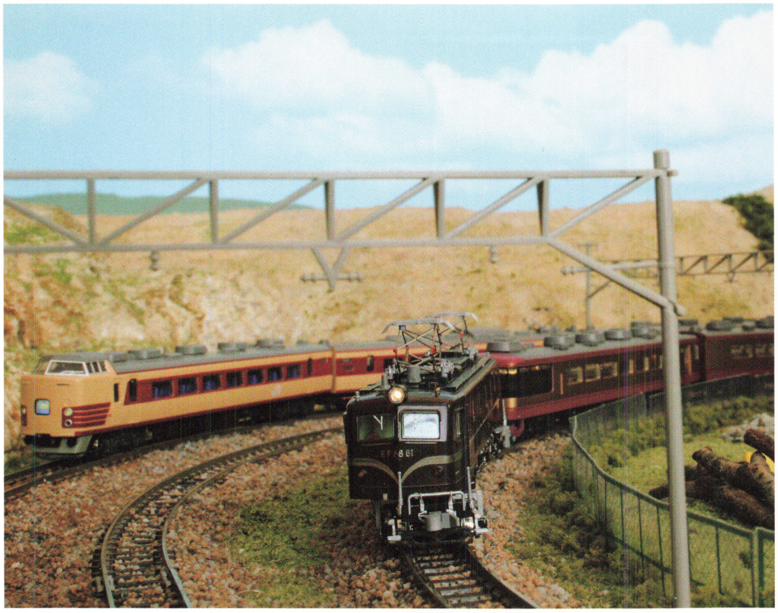
レイアウトの大きさ	2,900×1,500㎜
制作のべ時間	1年6ヶ月
総費用	200,000円くらい

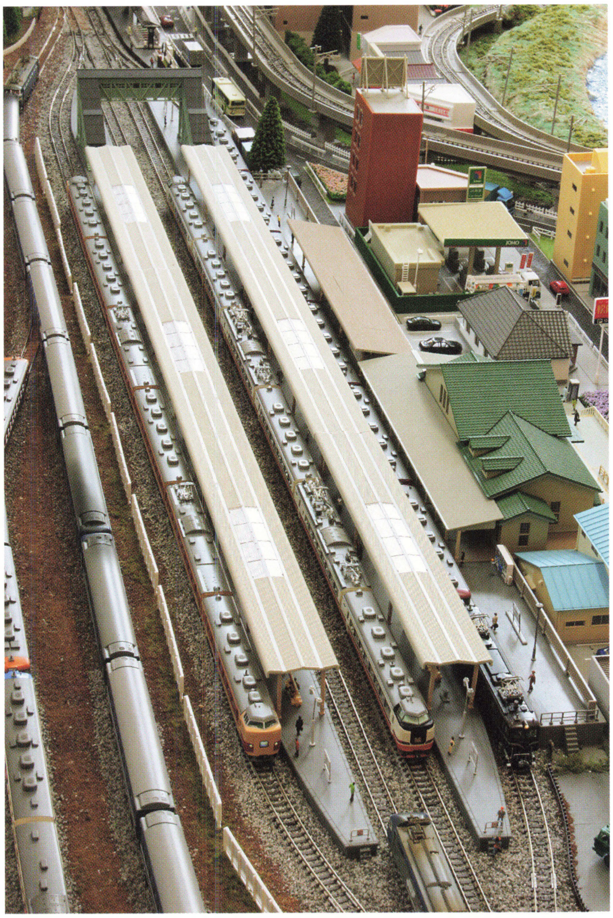
道床付き線路を組みながら現物合わせでプランニング

Nゲージの鉄道模型に出会い、最初はフロアー運転を楽しんでいましたが、やはり線路だけでは殺風景な感じです。そのうち、ほかの方が作られたレイアウトやジオラマを見るチャンスがあり、私もチャレンジしてみたくなりました。

しかし、当時は鉄道模型を初めてわずか2年目という状態でしたから、レイアウトの基本的な作り方がわからず、どこから手を付ければいいのか見当も付きませんでした。そこで、スペースに合わせて線路をつなげながら線形を検討、さらに地形やストラクチャーの配置を決めていくといった手法で行ないました。最初に机上で設計図を描くようなことはしていません。試行錯誤の繰り返しとなりますが、初めて作るときは、こうした現物合わせ的な方法のほうが考えをまとめやすいと思います。

ローカルムードあふれる田舎駅
田舎駅は、規模を小さくまとめ、ホームの上屋も小さくするなど都会駅との差別化をはかった。





↑3本の本線が並ぶコーナー

複線と単線の本線が並び、ここでの列車のすれ違いは見どころのひとつ。視線を下げると山に囲まれた雰囲気だ。

←湖を周回する高架線

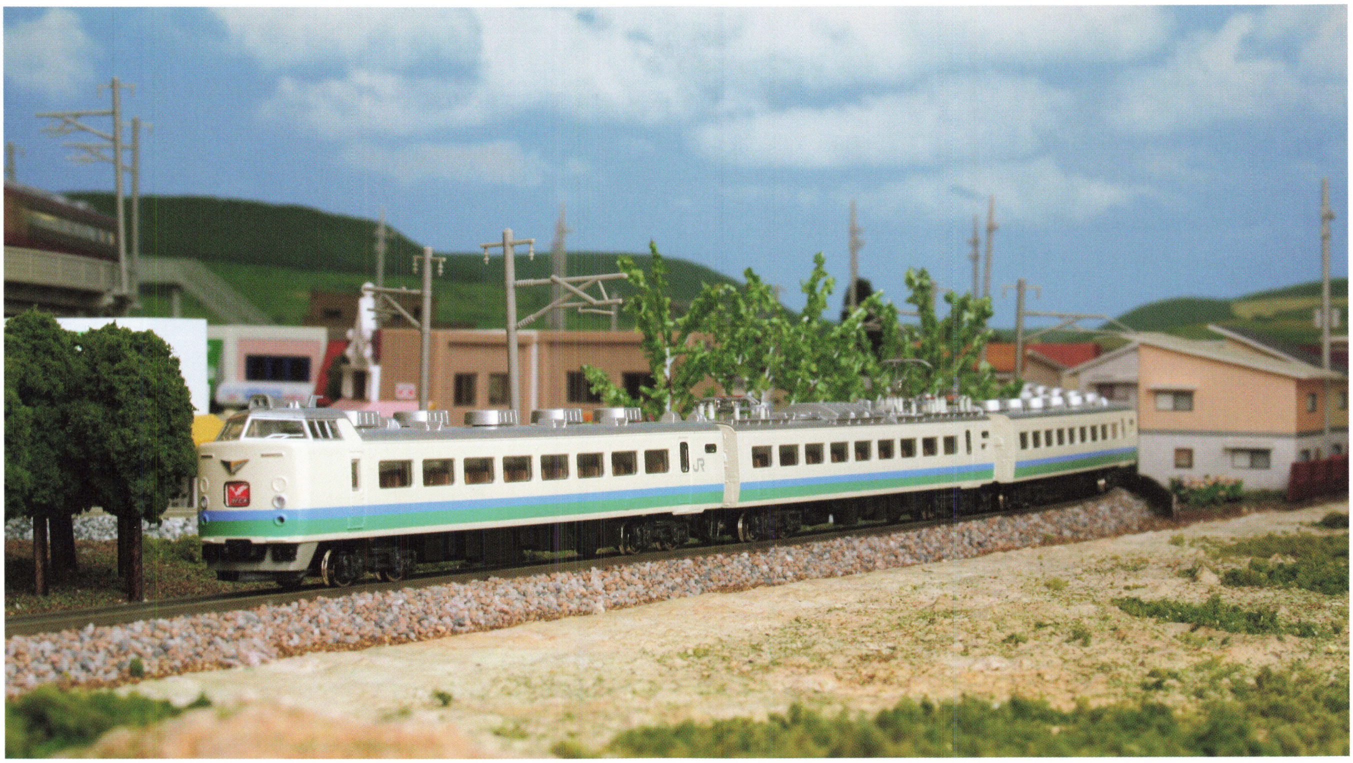
高架橋を使い、運転面や視覚的な変化の楽しめるループ線を設置。中央部は湖として、さらに見どころを追加。

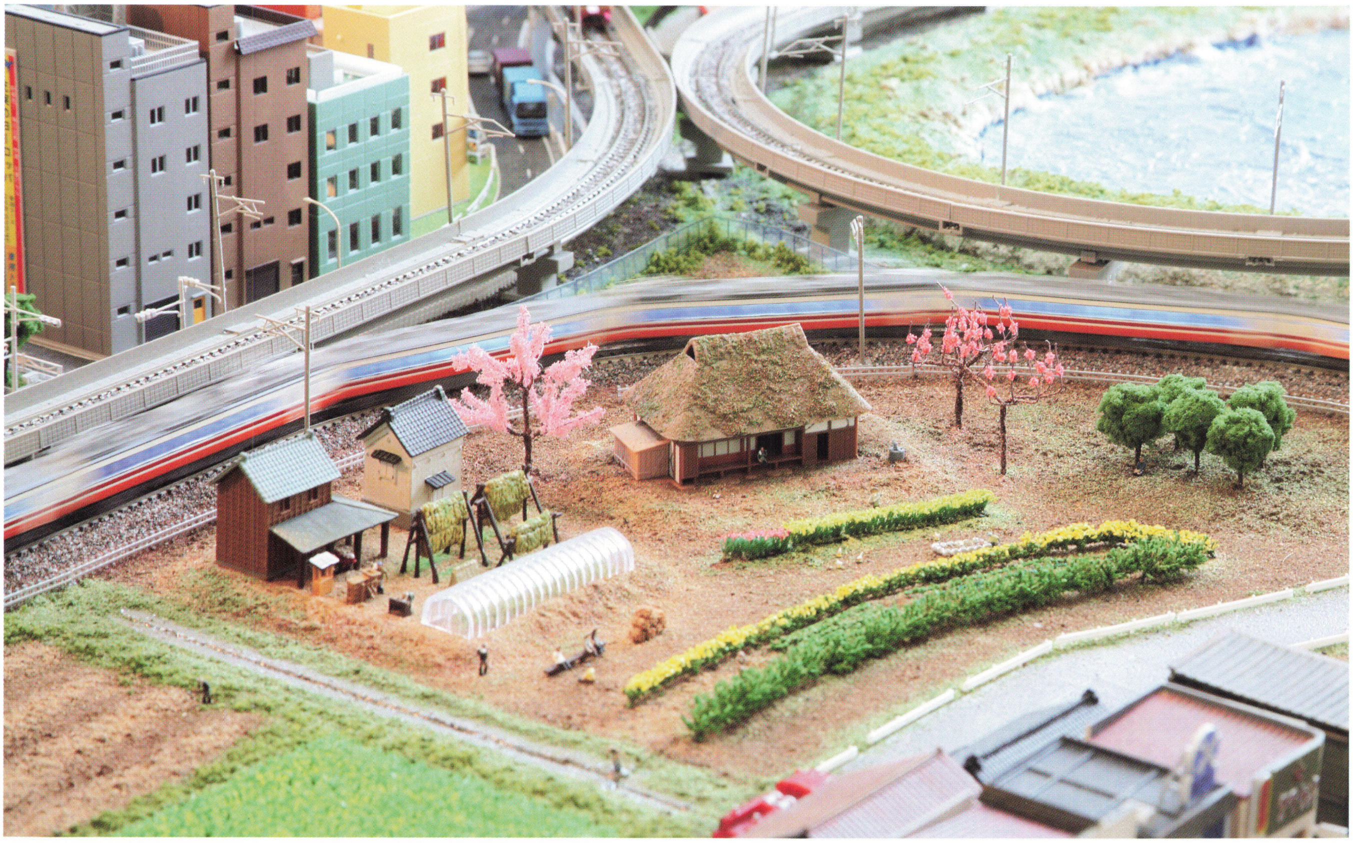
→都会駅とその周辺

駅のホームにはアクセサリーや人形を数多く配し、制作時にもっとも力を注いだ部分だ。効果はご覧の通り。

↓都会から田舎へ

都会と田舎という両極端の情景を作り込んでいる。境となる部分は両方の情景が無理なく連続するように配慮。





⇧茅葺き屋根の農家
線路を境に農村風景が広がる。建物は既製品利用だが、茅葺き屋根はパウダーで実感的に加工。

大きなレイアウトは工作の足場配慮も重要

レイアウト作りは、基盤となる厚手の発泡スチロールを部屋に設置、そこに線路を敷設することから始めました。この発泡スチロールは山などの地形の芯材、右ページで紹介するローレリーフ背景などにも多用しています。

限られたスペースで少しでも長いエンドレスをと考え、線路をつなげていきましたが、なかなかうまい線形にならず、悩まされました。また、レイアウトが大きいため、完成が近づくたびに足場が狭くなっていきます。これも想像しなかった苦労となってしまいました。レイアウト内にも足を置くスペースを確保すべきと思います。

なお、レイアウトを作るにあたり、部屋をひとつ独占してしまいます。これは家族の協力や理解があって初めて成し得たと思っています。また建物などの制作を手伝ってくれた友人の小澤和也さんにも合わせて感謝いたします。

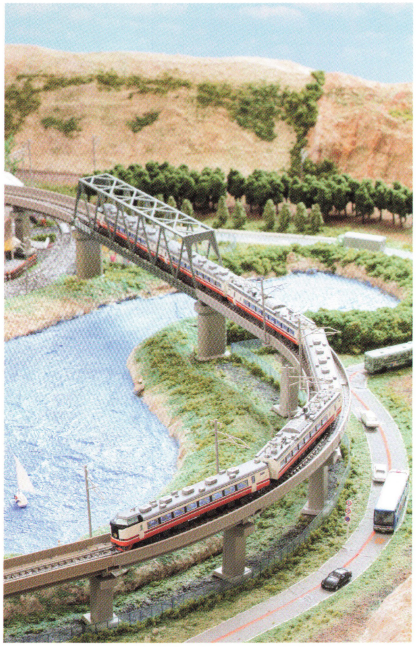
このレイアウト制作のポイント POINT OF THE LAYOUT

都会と田舎の情景を共に楽しめるレイアウト

❶余裕あるスペースにさまざまな情景を再現
都会と田舎、対極する両方の情景を取り込む。

❷豊かな自然の情景も盛り込む
町並みだけでなく、湖や山といった自然の要素も必須。

❸遊びの要素を含ませたオリジナリティーを楽しむ
既作品の模倣に留まらず、新しい世界を模索した。



⇧湖畔をめぐる本線
車内から湖を一望できるように設計した区間。湖面のさざ波はペーパータオルで表現している。

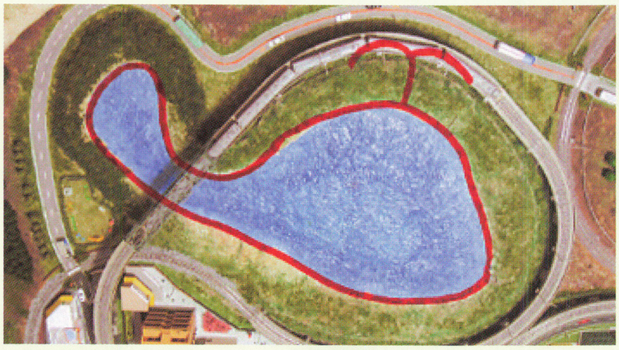
・・・家族との時間を大切に考える・・・

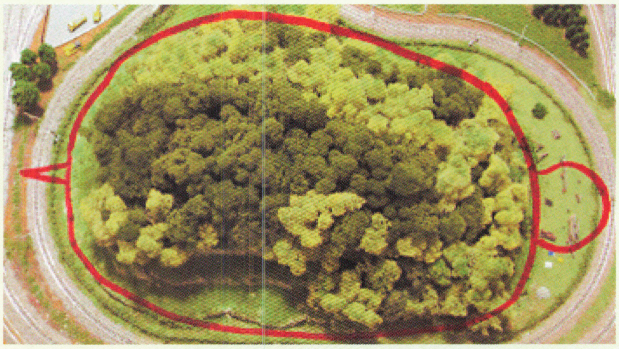
一部屋独占して建設したレイアウト。家族サービスを考え、子どもたちも別の視点で楽しめるようにと、今までにない斬新なアイデアを盛り込んでいる。

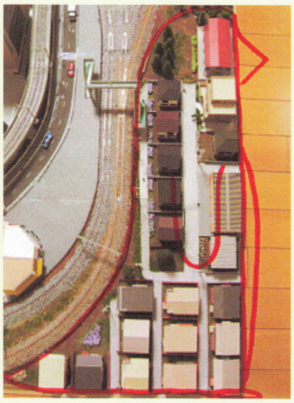
レイアウトは隠し絵の世界。いろいろな動物が隠されている・・・

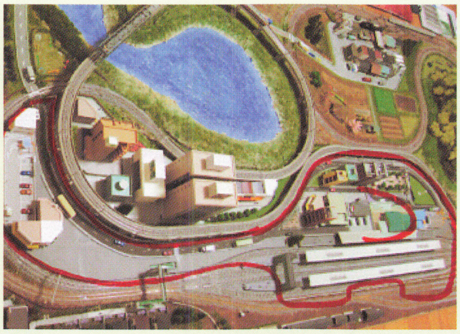
湖に鉄橋を架けるため、その形を調整していったところ、シルエットがクジラのようになっていることに気が付きました。これには動物好きの娘も大喜び！

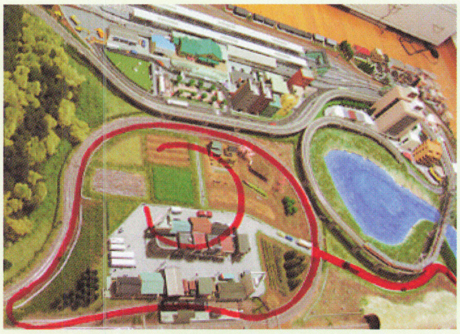
これをきっかけに、レイアウトにほかにも動物の形状を盛り込むことを思い付きました。以来、情景ができあがるごとに写真を撮り、それを娘に見せるようになりました。何の動物か当ててもらうと、親子で大喜び。鉄道とはかけ離れた遊びですが、これも家族で楽しむ秘訣のひとつと思います。


↑動物遊びのきっかけとなった湖。橋脚部のくびれでクジラになった。


↑緑豊かな山は亀の甲羅をイメージしている。

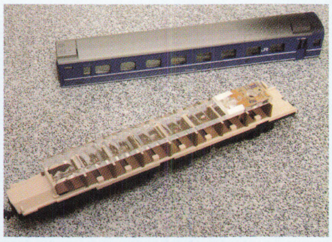

←コーナーにある住宅街はペンギンをイメージ。


↑駅周辺を胴体に、ぐんと伸びた鼻でゾウに見せる。


↑昭和の町並みに道路の尻尾でネズミ。

車両も室内加工やウェザリングで実感的に

車両はレイアウト作りの協力をしてもらっている小澤和也さんの作品です。製品を活用しながら室内加工やウェザリングを施しています。ブルートレインの場合、室内には黒およびオリーブグリーン、さらには木目などのデザインシートを貼り込んであります。


↑屋根はエアブラシで電源用エンジン排気口のまわりを煤けた感じに表現。

背景用の山はローレリーフ

レイアウト工作で余った発泡スチロール板をつなげ、プラスターとパウダーで仕上げたローレリーフの山を用意、随時背景として置いています。

↑厚みはないが、非常に効果的。地面としても使用可能。

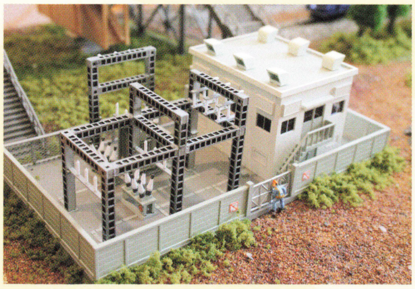
これがレイアウトの全貌だ！

都市の風景と田園風景が美しく調和したレイアウト

線路には高架も多用され、起伏のあるデザインでロングランが楽しめる「吉井本郷鉄道」。長編成の列車にも負けないのびのびとしたスペースも魅力だ。

❶山の麓を走る単線区間

本線に囲まれるようにそびえる山は、初夏を思わせる色味のライケンで覆われている。



❷変電所

トラスのビームは、全体を銀色に塗装後、凹部につや消し黒を筆さし、立体感を強調した。

❸都市部の公園

駅前に憩いの場として設けられた公園。さまざまな人たちが利用している。

❹さまざまな農作物

畑の作物は人工芝や市販の繊維素材などを活用。わきには防風林として杉並木も植えた。

❺伐採現場

木こりたちがキャンプをしながら伐採作業中。積み上げられた丸太は庭木の細枝を利用した。

❻湖に隣接する公園

都市部から少し離れた公園。小さいけれどアスレチックがたくさんある設定。

❼街中の駐車場

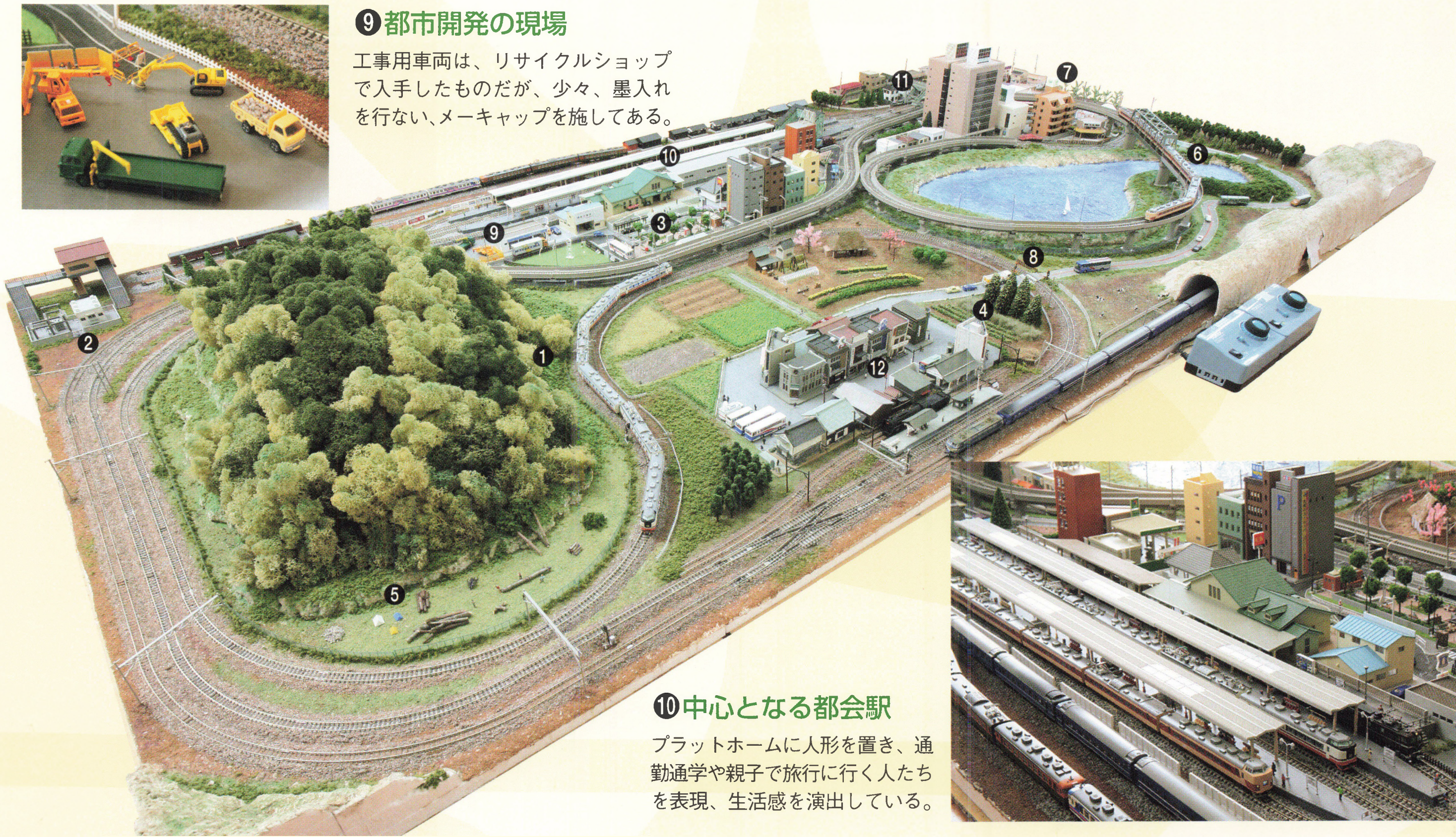
商店街に行くために車をここに止め、買物に出かける人たちの姿もある。

データファイル

レイアウト名	吉井本郷鉄道	作　者	関根 一秀
テーマ	子供と遊べるレイアウト	場所設定	オリジナル
大きさ	2,900×1,500㎜	基　盤	発泡スチロール
使用線路	トミックス	制御装置	トミックスN-1、N-1000-CL
制作のべ時間	1年6ヶ月	総費用	200,000円くらい
模型歴	4年	月にかける費用	10,000円くらい
楽しむ日	土、日曜日	よく利用するお店	エルホビー
使用車両	485系、183系、165系、EF58 61号機＋14系、EF66＋14系		
参考にしたもの	NHK趣味悠々「鉄道模型編」		

❽踏切

単線の本線にある踏切。津川洋行製の警報機と遮断機を取り付けて、それらしい雰囲気に仕上げた。線路内の踏み板は脱線の原因にならないように注意深く設置。



❾都市開発の現場

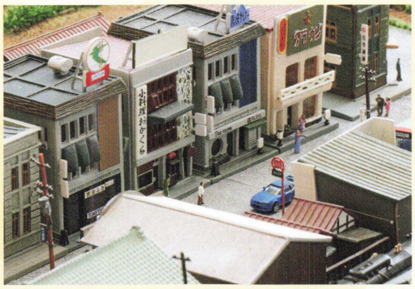
工事用車両は、リサイクルショップで入手したものだが、少々、墨入れを行ない、メーキャップを施してある。

❿中心となる都会駅

プラットホームに人形を置き、通勤通学や親子で旅行に行く人たちを表現、生活感を演出している。

⓫駅周辺のショッピング街

都会駅周囲はデパートやショッピングモールを設置。高架の鉄道もあり、都会の町を表現。



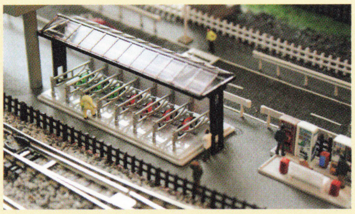
⓬古い町並み

昭和の雰囲気を残した町並み。今では観光地として脚光を浴びている想定になっている。

ここに注目

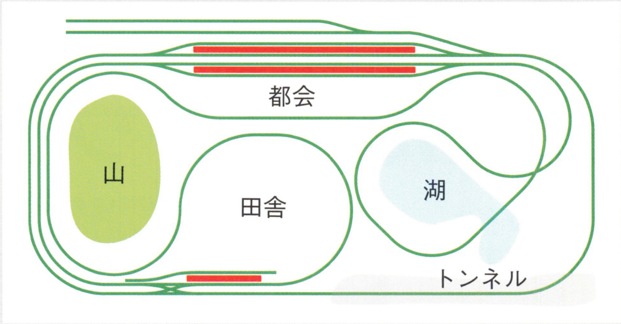
駅のわきには駐輪場も設置

駐輪場はパーツや廃材を使って構成したもの。



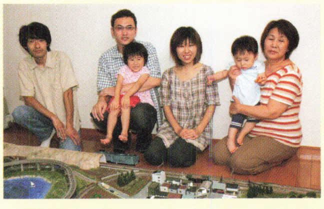
↑自転車はこれから設置する予定。

このレイアウトのプラン図



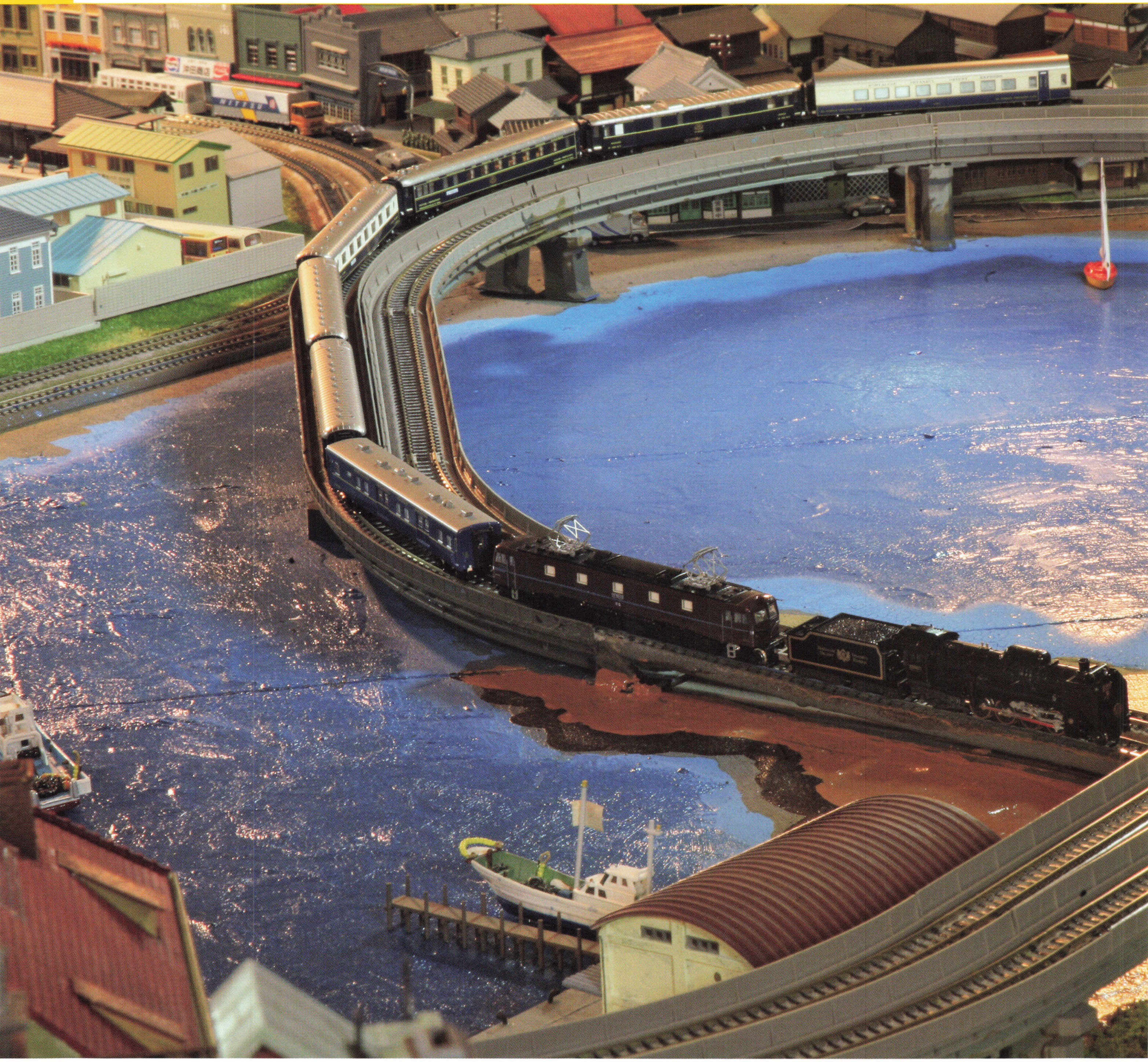
PROFILE

家族の理解と協力でレイアウトが完成!!



関根 一秀さん　33歳　群馬県

カラオケやTVゲームを楽しむ毎日でしたが、鉄道模型と出会って生活が激変。模型仲間となった小澤さん（写真左）からの刺激も受け、初心者にも関わらずレイアウトに挑戦!!　さらに二代目のレイアウトも完成が近付いています。



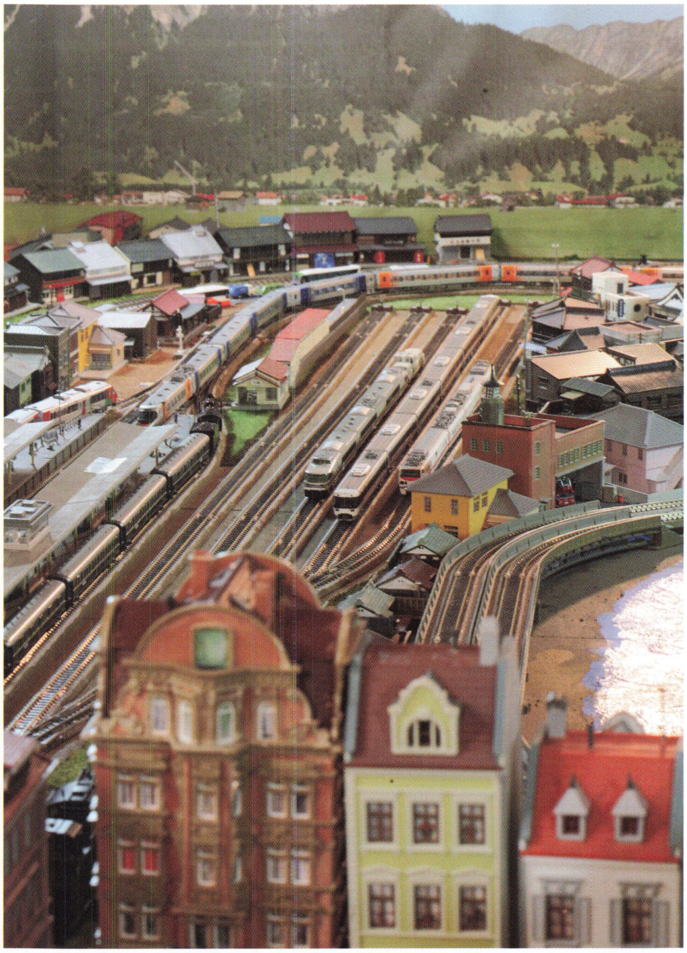
HOとNゲージを混在させたレイアウト

限られたスペースを有効に活用するため、Nゲージのレイアウトに
HOゲージも混在。違う縮尺の模型をうまく調和させた世界を実現。

愛媛鉄道　制作：高岡 隆雄

レイアウトの大きさ	3,350×1,900㎜
制作のべ時間	約8年
総費用	500,000〜600,000円

鉄橋の架かる湖
かつて日本国内をイベント運転された「オリエント急行」が走行中。



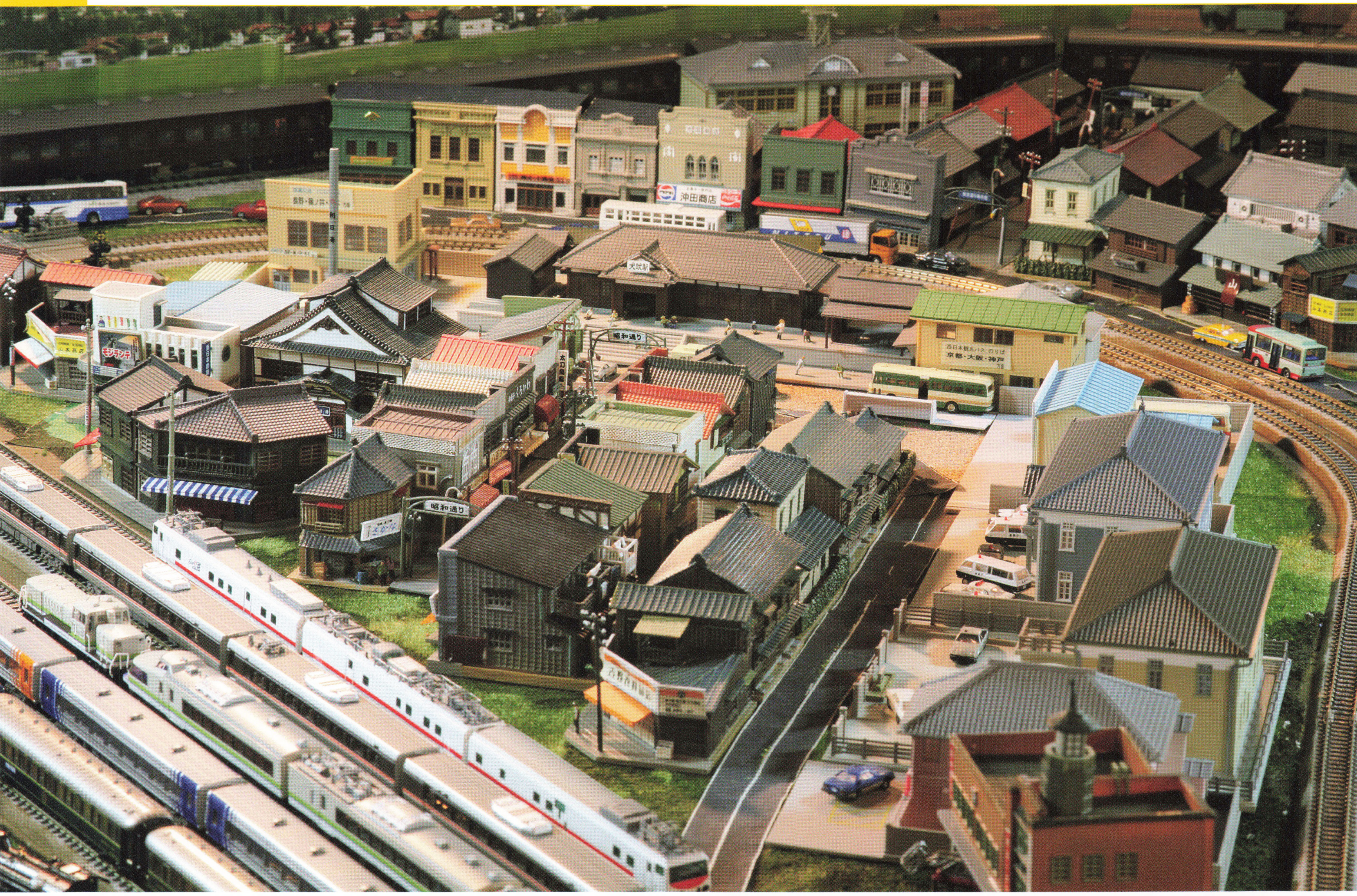
中央駅界隈
中央駅を境に奥側はNゲージで作られた田舎町。街道沿いに古い家屋が並んでいる。手前はHOサイズで作られた欧州の町。近景と考えれば遠近感にも見え、違和感は少ない。

中央駅の留置線
中央駅には5本の留置線があり、車両基地としても機能している。昭和ムードの町が隣接している。

HOゲージ導入のきっかけは「オリエント急行」との出会い

8年ほど前、Nゲージの基本セットに出会ったのをきっかけに、鉄道模型に没頭しています。最初は車両をコレクションするだけでしたが、家内から許可を得て六畳間を占有、レイアウトの制作を始めました。以来7年、幾度もの改良＆改修を経て、ようやく完成の域に近付いてきました。

当初、Nゲージだけだったのですが、以前、娘と乗った「オリエント急行」の車両も欲しくなり、ようやく手に入れた模型はHOゲージでした。この動力車は、汽笛やブレーキ音をはじめ、駅員のアナウンスまで再現可能というサウンド付き。飾っておくだけでは宝の持ち腐れと考え、Nゲージで作っていたレイアウトの外周にHOゲージの線路も敷くことにしたのです。



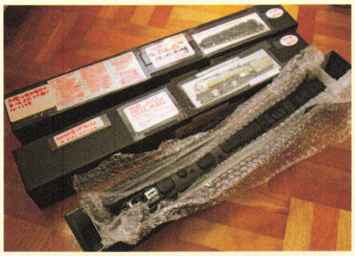
↑"とある田舎町"の街並み
木造駅舎のある駅を中心に"とある田舎町"の街並みが広がっている。手前は中央駅の留置線。

↓ヨーロッパの旧市街
レイアウトの右手前1/3ほどのスペースはHOサイズでしかも欧州の雰囲気。夜景も見どころ。

ここに注目

車両の収納は専用ケースで効率化

HOゲージの蒸気機関車は、機関車とテンダーが分かれた状態でパッケージされている製品が大半です。そのため、製品の箱もさまざまな大きさとなり、保管管理が面倒です。そこで花屋で見つけた花用の長い箱を利用、すべてここに移し替えました。箱のサイズが統一され、また車両の出し入れも簡単になり、おすすめです。



⇧湖に架かる赤いトラス橋
湖にアクセントを付ける目的で周囲に鉄橋や高架橋を設置。トラス橋は色も目立つ赤にした。

レイアウトの情景も日本と欧州が混在

レイアウトに盛り込んだ情景は、田舎町（昭和の情景）、地方都市、湖といったものですが、特にこれといったプロトタイプがあるわけではなく、自分のイメージで作り上げていきました。

レイアウトの基盤は、部屋にスチールの長机を数本並べ、その上にレイアウトボードを敷き詰めたものです。当初、部屋の窓から日が差し込む状態でしたが、日にさらしておくとレイアウトボードや線路が反ることもあると聞き、窓には遮光力の強いロールカーテンを取り付け、逆にレイアウトルームの照明を強化しました。

私の住んでいる愛媛県では、レイアウトに使うストラクチャーなどがなかなか揃わず、これは東京や大阪に出張したとき、少しずつ買い集めたものです。「オリエント急行」の車両を探しているとき、ヨーロッパ製のストラクチャーにも出会いました。プラキット方式のものが多く、照明を入れるといい雰囲気です。これもレイアウトにぜひ取り入れたくなり、駅前のスペースをそっくり入れ替えました。日本とヨーロッパの情景が混在してしまいましたが、これも仮想の街並みということで楽しみのうちと思っています。

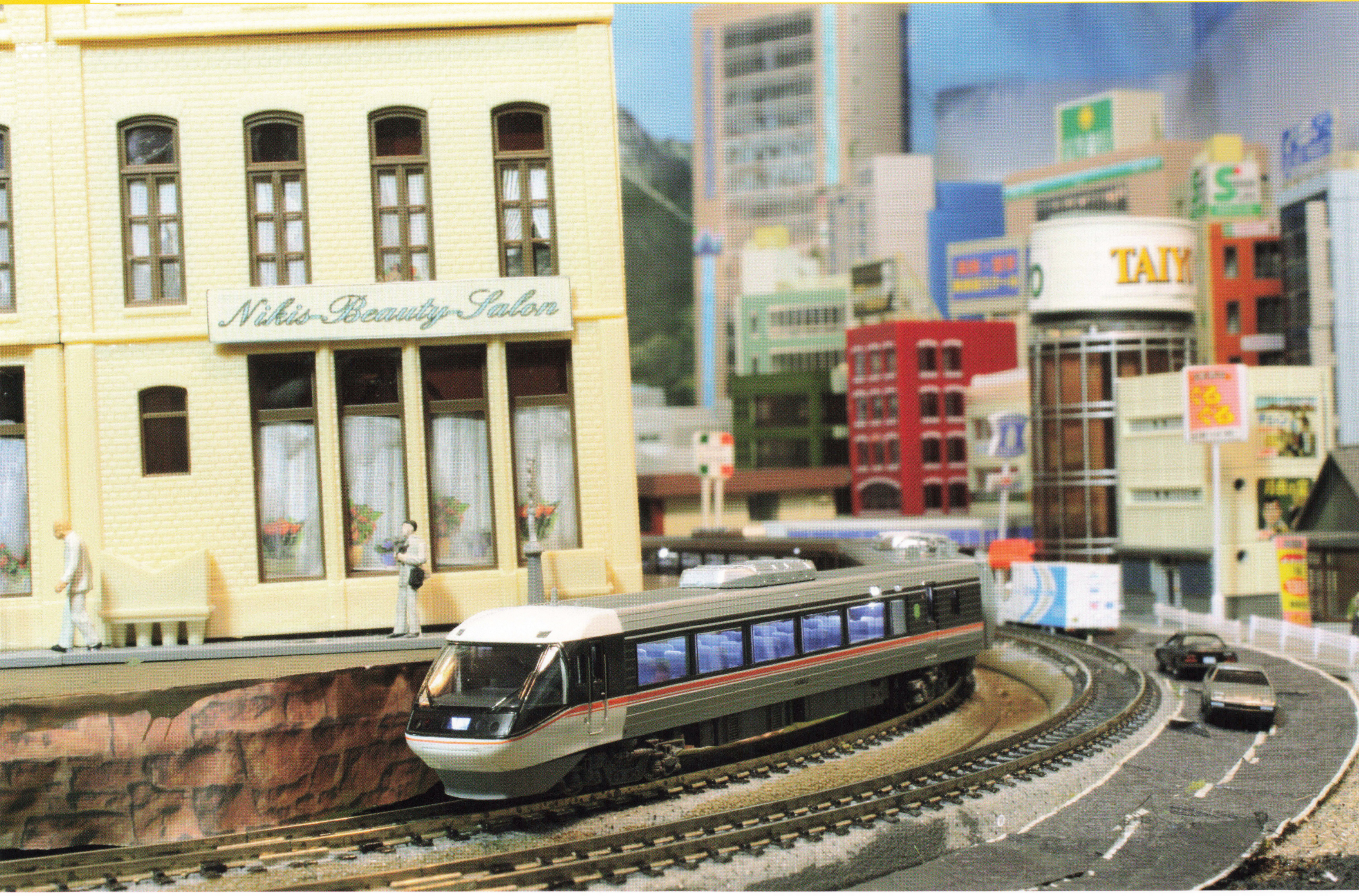
このレイアウト制作のポイント POINT OF THE LAYOUT

いろいろな街並みが楽しめるレイアウト

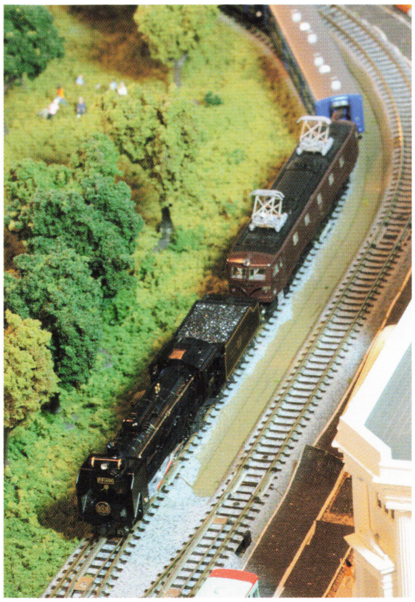
❶都市と田舎町の世界を再現
豊富なストラクチャーを都市と田舎町に分離して設置。

❷ヨーロッパの街並みも再現
別の縮尺ながら一角にまとめることで違和感を減らしている。

❸Nゲージだけでなく HOゲージの車両も運転可能
外周にHOゲージの線路を敷設、ちょっとした運転が楽しめる。

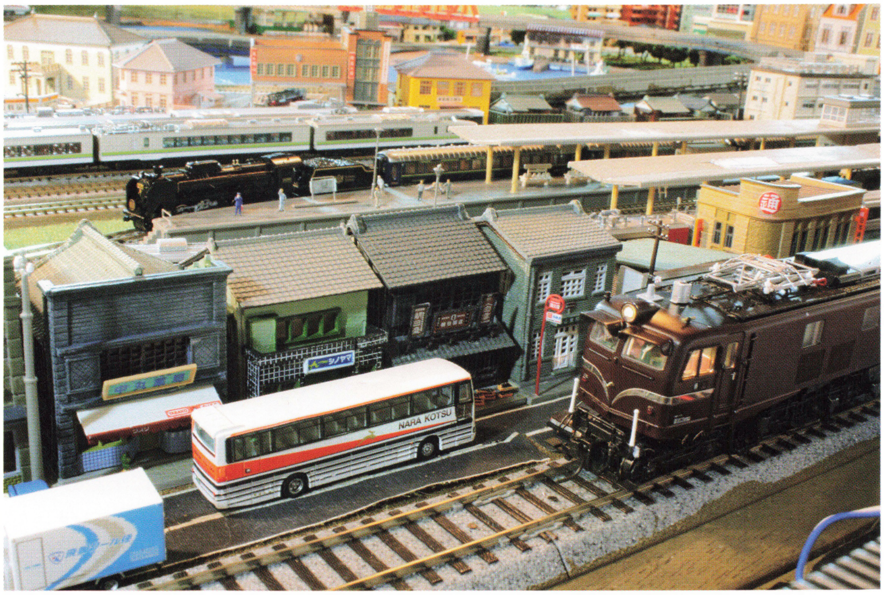

Nikis Beauty Salon
TAIY

⇧HOサイズの街並み
左側はHOサイズで作られた欧州の街並み。右奥はNゲージ。車両がなければ違和感は少ない。



⇧公園のわきを走る「オリエント急行」
レイアウトの右側にある緑地は公園という設定。人形も数多く配置、家族連れが憩う情景を演出。

⇩HOゲージの外周線
線路も外周の１本はHOゲージとなっている。手前から見ると、遠近感を演出する効果が…。



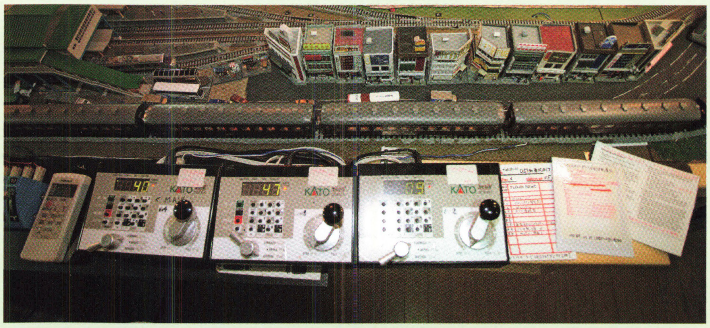
・・・このテクニックを活用しよう・・・

背景画と照明でレイアウトをより効果的に演出。さらにHOゲージにはDCCも導入、実感的なサウンドを使って新たな鉄道模型の楽しみを満喫している。

DCCで鉄道模型の楽しみを広げる

私のレイアウトはNゲージにHOゲージを加えただけでなく、DCCも採用しています。DCCとはデジタル・コマンド・コントロールと呼ばれる制御方式のことで、日本のNゲージで一般的に採用されている制御方式とは異なります。車両にはデコーダーと呼ばれる部品を搭載、制御器もDCC専用のものを使います。何やら面倒なシステムに思われますが、同一線路上の車両を個別に制御、汽笛やアナウンスの音声再現など高度なサウンドも楽しめるのです。そうした魅力により、今では欧米型製品の多くがDCC対応となっているそうです。もっともこれはHOゲージでの話で、NゲージのDCC対応製品はあまりありません。私もHOゲージのみをDCC化しています。

なお、DCCの動力車は、製品により扱い方法が異なることもあります。特にサウンドを制御するボタンは、車種によって音の種類が違うのです。そこで名刺大のカードにこうした情報を記入、これを車両といっしょに保管、運転時に困らないように管理しています。

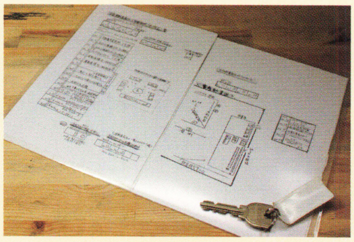

DCC用の制御器はカトー製のDCS50K（D101）を使用。

レイアウトのわきに設けられた工作台。DCCではサウンドの音量や加減速の度合いを個別に調整することも可能。こうした作業もできるように線路も設置されている。

動力車ごとの取り扱い情報は手札大のカードに記入して管理。

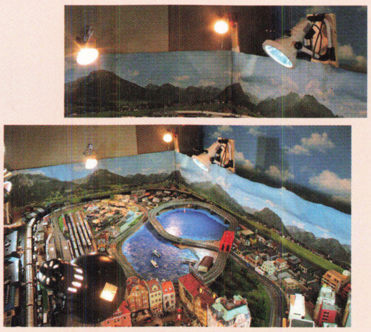
複雑な電気配線の管理

レイアウトルームの電気配線は、車両を運転する制御器のものだけでなく、照明ランプ用、駅構内放送を再現するラジカセ用などとたくさんあり、自分でもどれがどれだかわからなくなってしまいます。そのため、複雑な電気配線が一目でわかるような仕様書を作ってあります。


↑配線一覧と図面が描かれた配線仕様書。

背景画と照明装置

レイアウトの背景画は、当初友人が撮影した写真を使っていましたが、今は製品を使っています。見栄えがよく、とても気に入っています。照明も見どころごとにスポットが当たるように数多く設置しています。


↑背景画はドイツのファーラー製を使用。

車両は専用棚に収納

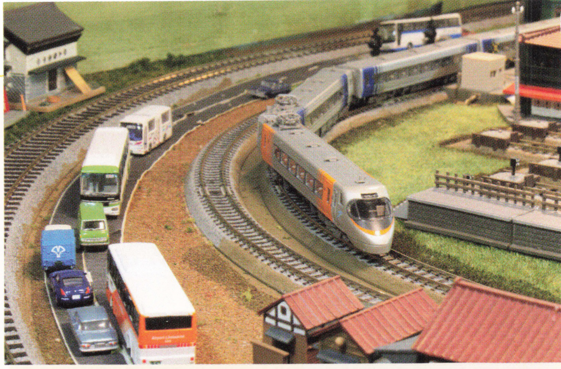
車両は当初、押し入れに収納していましたが、ある日、ドーンというすごい音とともに中棚が落ちました。鉄道模型も数が集まると相当な重量になるのです。今では出入り口わきのたたきにスチールケースを並べ、ここに収納しています。ここなら床が抜ける心配はありません。

↑車両ケースはスチールケースに収納。

これがレイアウトの全貌だ！

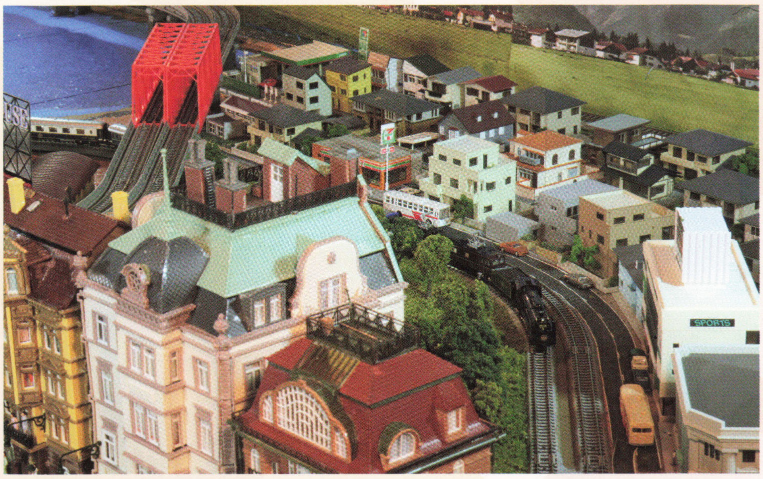
豊富なストラクチャーで さまざまな街並みを表現

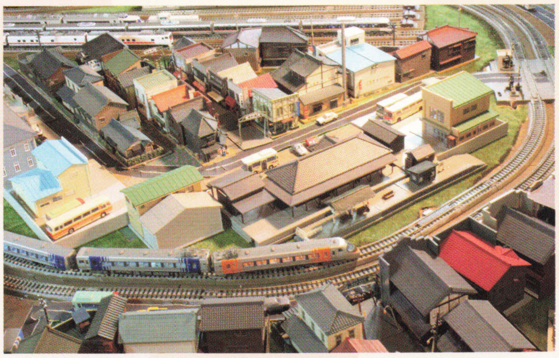
コツコツと収集した豊富なストラクチャーを並べ、さまざまな街並みの情景が楽しめる愛媛鉄道。ヨーロッパの街並みも違和感なく調和している。



❶JR特急「しおかぜ・いしづち」

愛媛鉄道には地元のJR四国で活躍する車両も数多く配備されている。これはその代表格8000系。



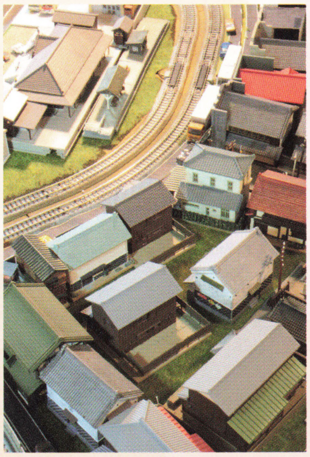


❸田舎町の駅

駅舎は木造としてローカルな雰囲気を演出。駅前は昭和の香りが漂う商店街、駅裏が住宅街となる。

❷日欧の境界

本線の左はヨーロッパの旧市街、右は日本の地方都市。ヨーロッパのストラクチャーはHOゲージだが、手前に来ると違和感はあまりない。

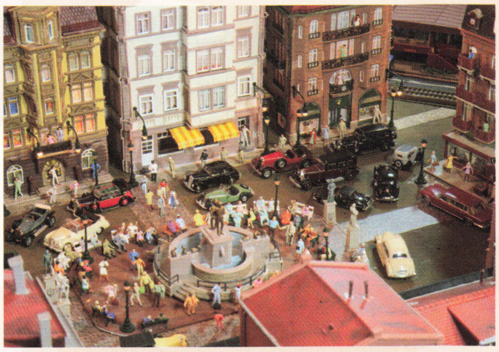


❹田舎町の住宅街

田舎町の駅裏に広がる住宅街。凸凹した家並みがそれらしい雰囲気を演出してくれる。

❺中央駅のホーム

中央駅は地方都市の玄関口といったイメージ。ホームの人影も多い。



❻ヨーロッパの街並み

ヨーロッパの街並みは旧市街のイメージで制作。中央部は広場として人形やミニカーを多数配置。

データファイル

レイアウト名	愛媛鉄道	作　者	高岡 隆雄
テーマ	実在しない風景	場所設定	私の空想の情景
大きさ	3,350×1,900㎜	基　盤	カトー製レイアウトボード
使用線路	カトーユニトラック（N・HO共）	制御装置	トミックス＆カトー製各種
制作のべ時間	約8年	総費用	500,000～600,000円
模型歴	8年	月にかける費用	平均30,000円
楽しむ日	毎日夕食前の1時間。休日は半日	よく利用するお店	しおかぜ堂本舗（愛媛県）など
使用車両	Nゲージはカトー、トミックス、マイクロエースの日本型車両（約100種）、KATO、TRIX、BRAWA、FLEISCHMANNの外国型車両（50種）、その他HOゲージ		
参考にしたもの	『鉄道模型Nゲージを楽しむ』の各年度版。松山市にある「しおかぜ堂本舗」のオーナーからも毎回貴重なアドバイスを受けています。		

PROFILE

さまざまな趣味を遍歴 最後に辿り着いた鉄道模型

高岡　隆雄さん　65歳　愛媛県

小学生の切手収集に始まり、カメラ、オーディオ、ビデオと楽しんできましたが、8年前に出会った鉄道模型の基本セットが新しい趣味人生の始まりとなりました。自分でもここまでのめり込むとは思っていませんでした。

❼高架線で囲まれた湖

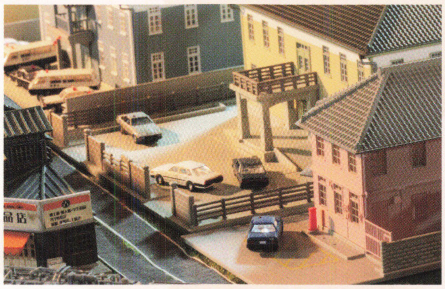
高架線で囲まれた湖は海につながる汽水湖の設定だ。湖面には漁船が浮かび、湖岸には魚市場もある。

❽中央駅の構内

中央駅は特急も停まる幹線の駅といった設定。構内には留置線も設けられ、相応の規模となっている。

❾駅前の歓楽街

中央駅の線路わきは歓楽街という想定。手前にあるのがHOゲージの外周線。縮尺の違いがわかる。

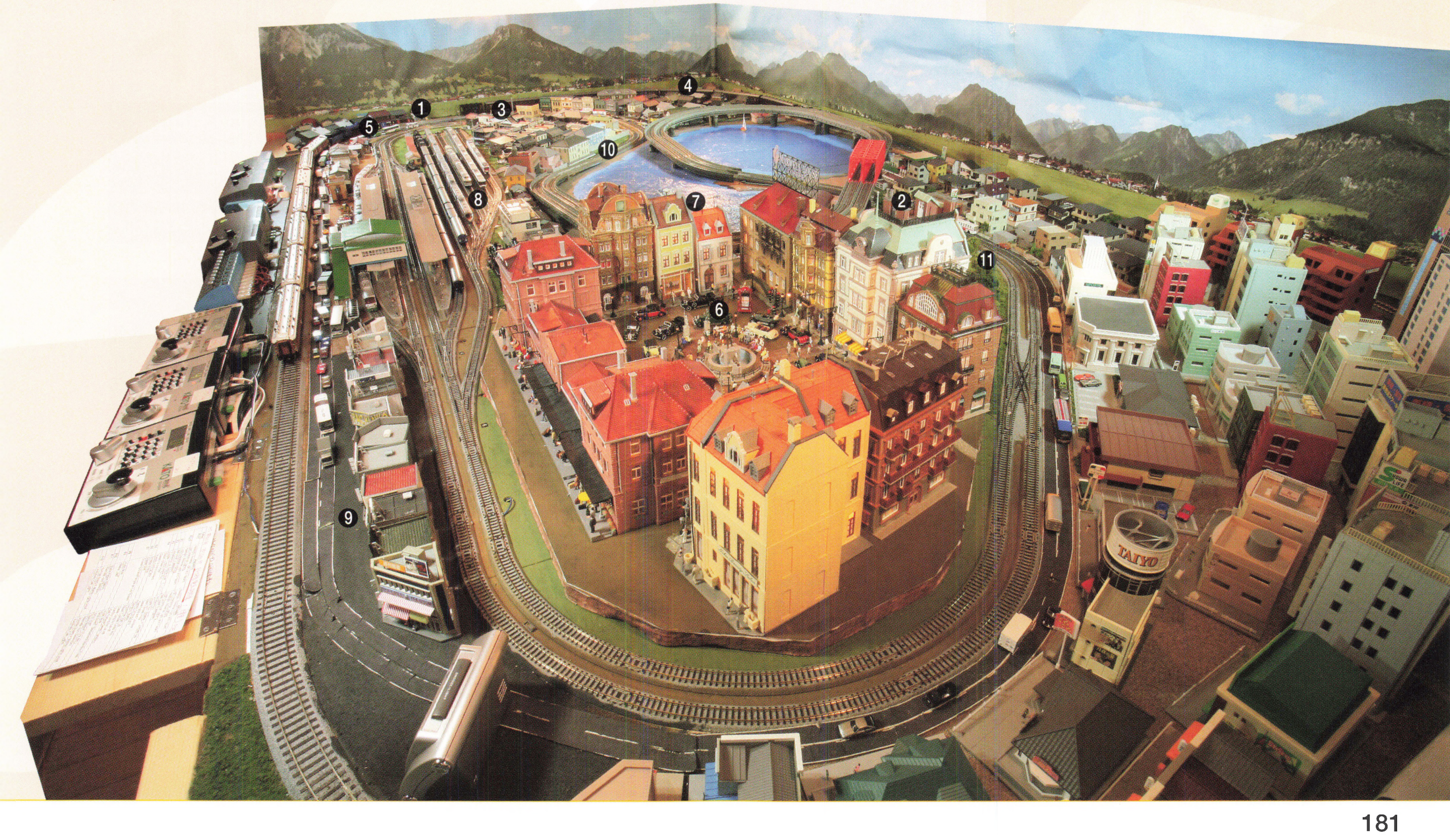


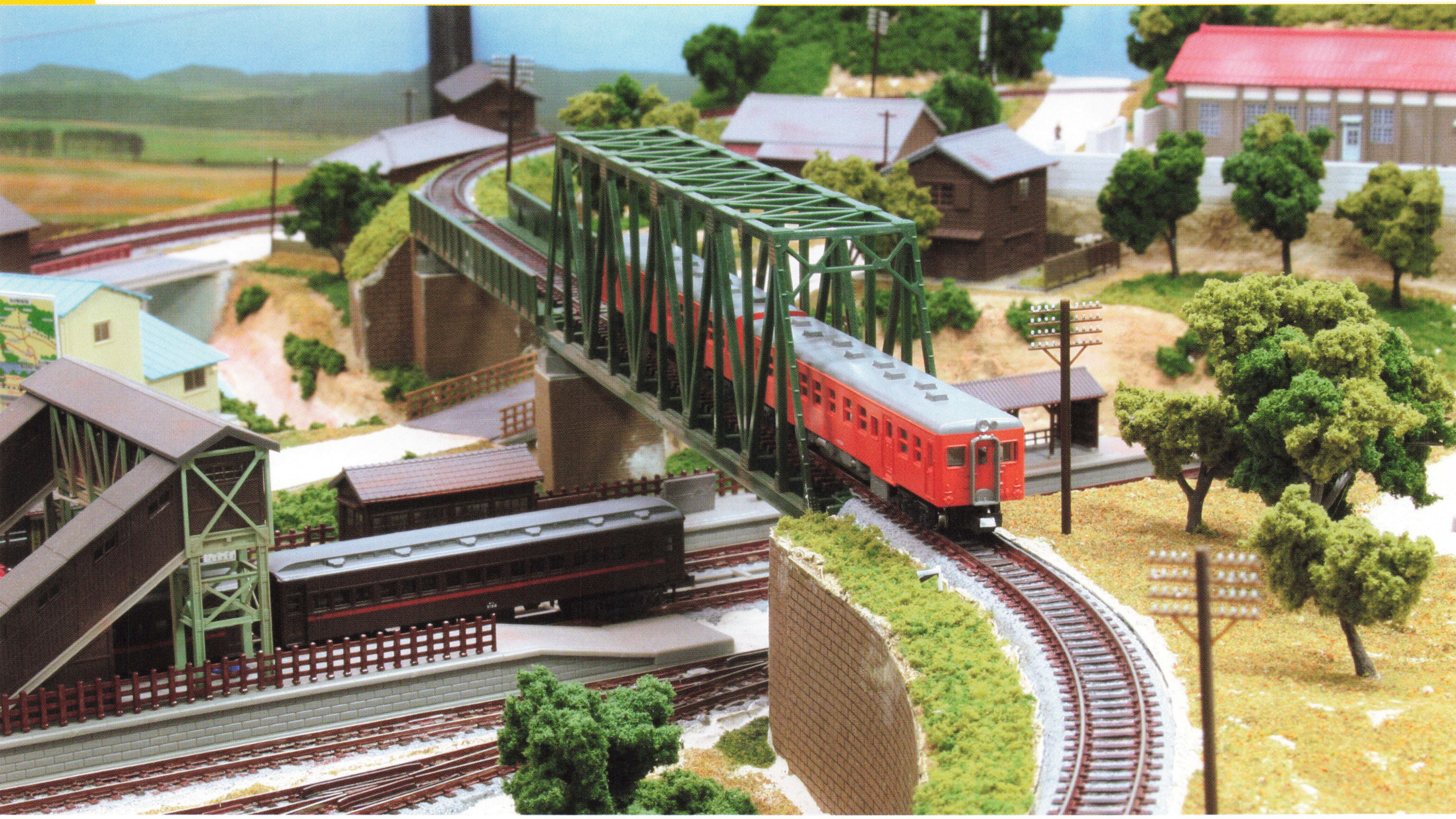
❿田舎町の官庁街

田舎町にも警察署、役場、郵便局などが建ち並び、ちょっとした官庁街を築いている。

⓫地方都市の公園

ヨーロッパの町と日本の地方都市の境に位置する公園。こうした造成物がうまく緩衝になっている。





ガイドブックで作ったレイアウト

書店で見かけた鉄道模型入門書に触発されてレイアウトに挑戦。これが初めての作品とは思えない完成度を見せる。

明石大窪鉄道　制作：上村 芳啓

レイアウトの大きさ	1,800×900㎜
制作のべ時間	1年
総費用	約130,000円

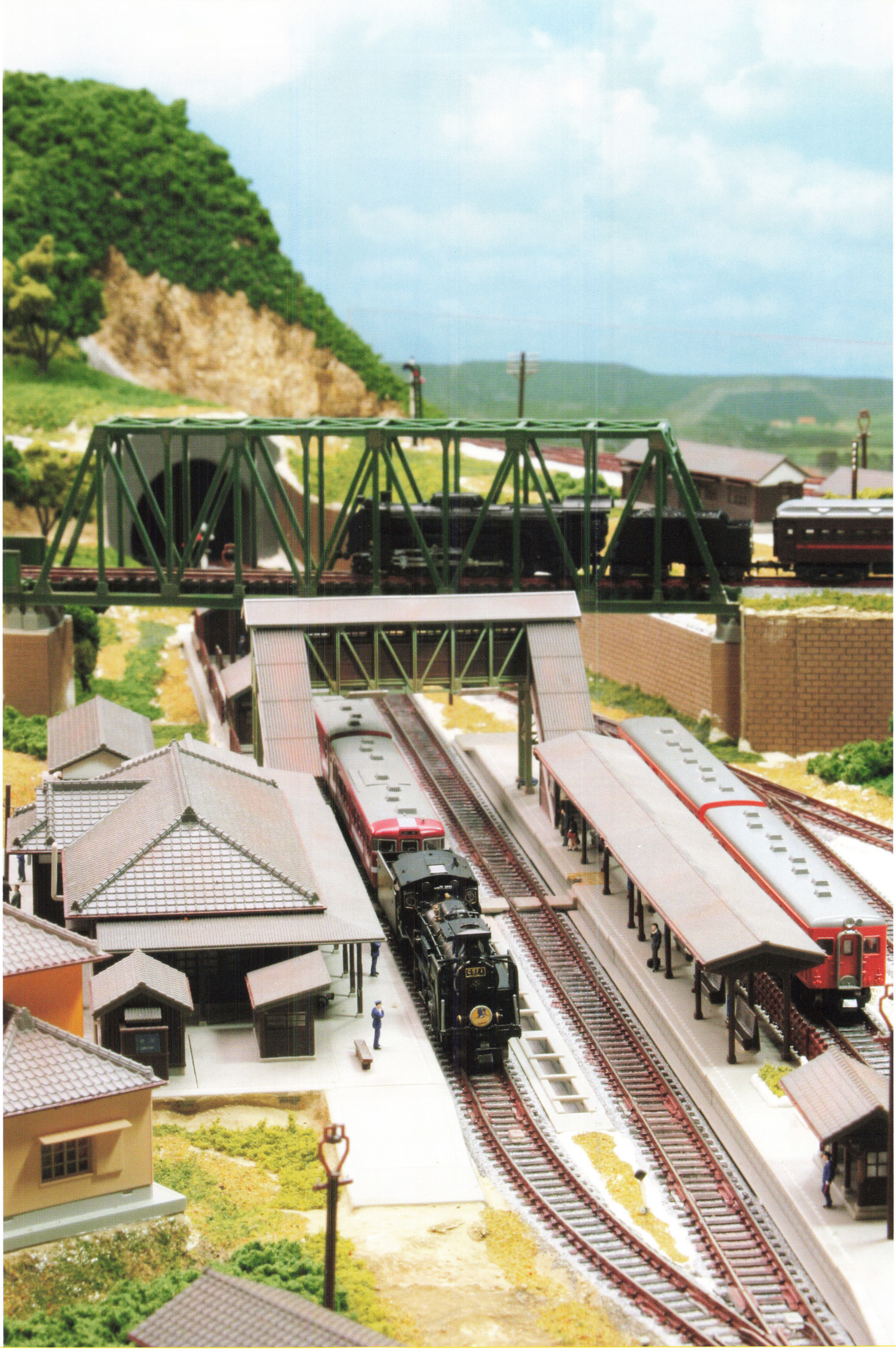
ガイドブックの記事を忠実にフォローしたレイアウト

私はこれまで鉄道模型とは無縁だったのですが、書店で入門書を手にしたことからレイアウト制作を決意。一冊のガイドブックの制作記事を忠実にフォローした結果、見事にレイアウトが完成しました。

レイアウトの全体的なイメージは、古き良き日の国鉄ローカル線でまとめ、ゆったりとした線路配置と、落ち着きのある色調で、昔、日本全国で見ることのできた地方の国鉄駅の姿を再現しています。

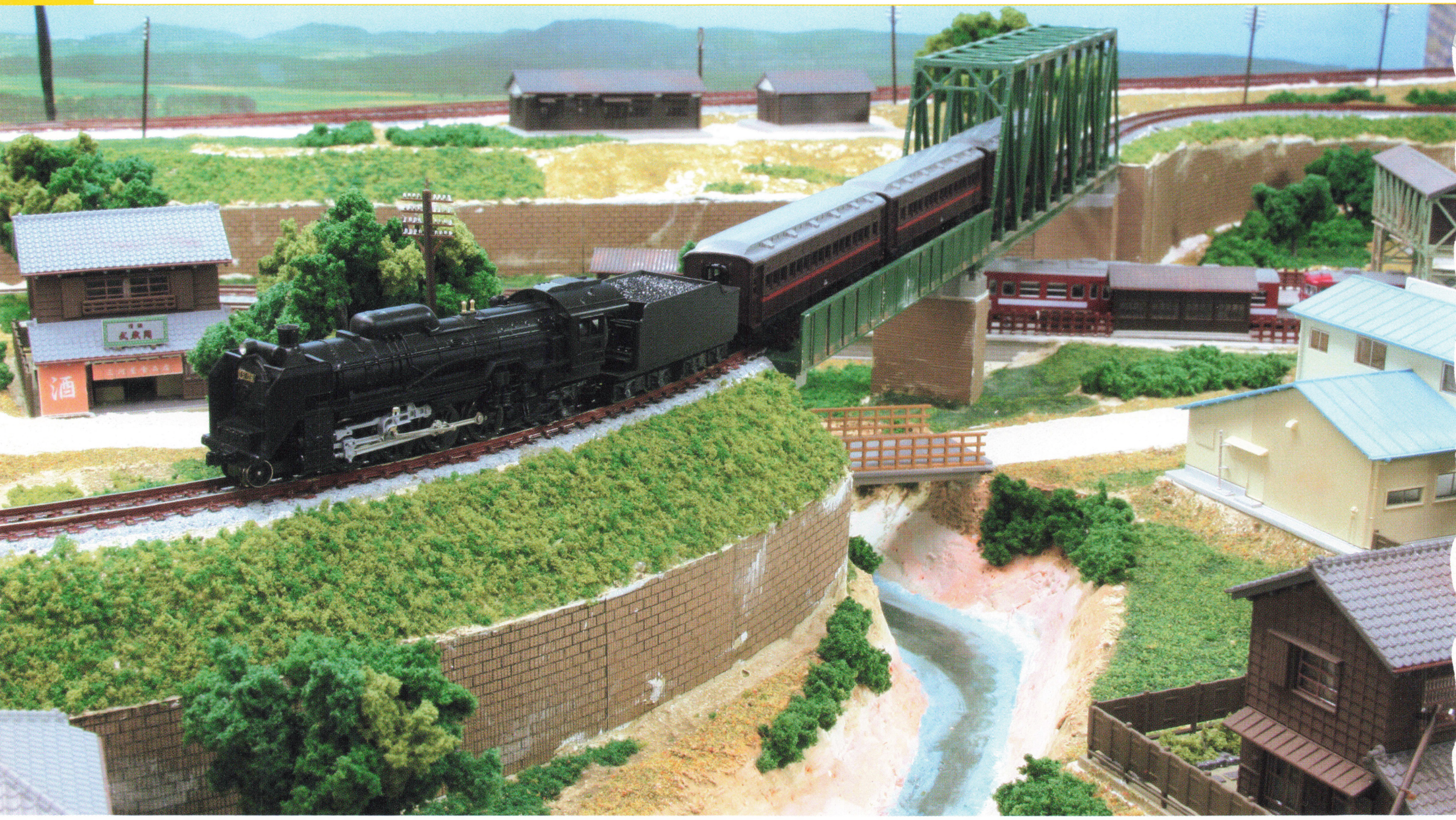
目下、このレイアウトを走っているのは、キハ20系などわずかな数の車両ですが、いち早くレイアウトが完成しましたので、今後、ここを走るのにふさわしい国鉄形の車両を順次増備してゆくつもりです。これは多くのモデラー方のやり方とは少し異なるかと思いますが、効率という点では悪くないかとも思えます。制御装置にはDCC（デジタル・コマンド・コントロール）を採用。これもレイアウト着工と同時に導入しましたので、効率良く新方式への切り替えが完了しました。

↑唯一の電機ＥＦ58
ローカル線用の車両が多い中で異色のEF58。それでも周囲の風景にはよくマッチしている。



⬅トラス橋を渡る気動車
当レイアウトの主力キハ20系がトラス橋を渡る。朱色の車体が、緑の多い穏やかな自然風景と、鮮やかなコントラストを見せる。

➡駅に到着した客車列車
主力として活躍する蒸気機関車と客車列車。昭和40年代中頃まで、全国の国鉄の駅で、このような情景を見ることができた。

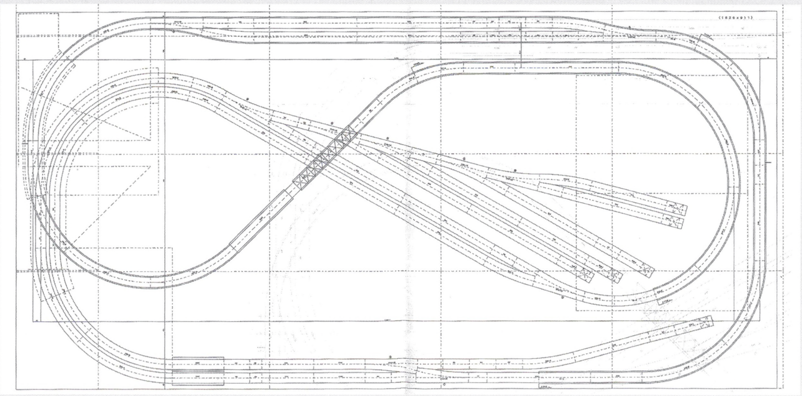


レイアウト中央部を走る客車列車
このレイアウトにいちばんよく似合うのは、蒸気機関車牽引の短い編成の列車だ。

丁寧に工作を続ければいつかレイアウトは完成する

　レイアウトを作る時、誰もがおちいりがちな失敗は、壮大なスケールのものを一度に作ろうとすることにあるのではないでしょうか。このレイアウトでは、そういった欲は抑え、徹底的にガイドブックの指示に忠実に従ったことで、当初の予定通りのものが完成しました。最初は欲張らず、自分なりのテクニック、ノウハウを習得すること。焦らずに作業を続ければ、レイアウトは必ず完成の日を迎える。それが今回のレイアウト工作を経て、私が得ることができた教訓です。

このレイアウトのプラン図



トンネルを飛び出す気動車
レイアウトの左に作られた山はトンネルに対して十分な高さがあり、風景に変化をつけている。

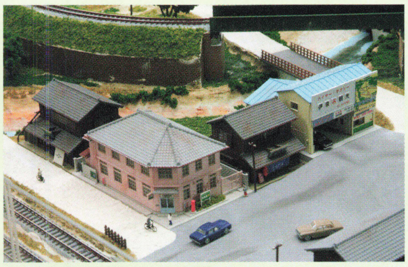
・簡単なアイデアでも見るべきものが・

レイアウト制作には日が浅い作者による作品だが、見るべきものは至るところにある。簡単なアイデアでも、レイアウト制作と運転をスムーズにする。

市販のストラクチャーを積極的に利用

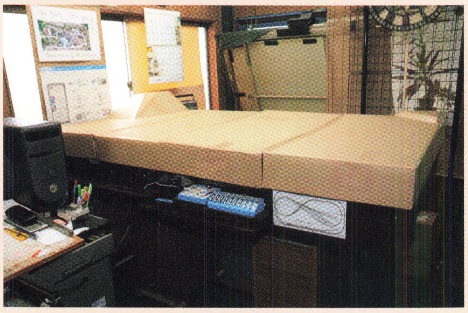
このレイアウトは、私が鉄道模型を開始したのと同時に着工したので、ストラクチャーのほとんどは、市販品を利用したものとなっています。それでも近年は、複数のメーカーからさまざまな製品がリリースされていますので、選択肢には不自由しませんでした。ただし、メーカーのカタログは小まめにチェックしました。

駅の裏手に並ぶ詰所。


古い町並も既製品で表現できる。

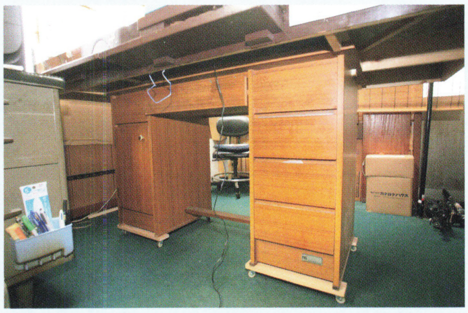
レイアウトのホコリ対策のアイデア

レイアウトに積もるホコリには頭を悩ませました。そこで対策として、工業製品に使用される段ボールを、そのままレイアウトにかぶせることにしました。大きな段ボールは入手が難しくとも、DIY店で入手したものを、テープを使ってつなぎ合わせても構いません。ローコストのホコリ対策です。


運転が終わったら、そのまま段ボールをかぶせて、ホコリ対策は終了。

レイアウトの基礎は簡単に

本格的な固定レイアウトでは、基礎工事をどう進めるかも悩みの種のひとつ。このレイアウトでは、不要となった机を利用し、その上に市販の木製パネルを並べることで、これを解決しました。きちんと作られた家具だけに強度は十分。引き出しを、工具や模型材料の収納に使用することもできます。


不要となった机をレイアウトの基礎に使用。強度も十分で安心して工作ができる。

↑レイアウト中央部の駅
駅は終着駅の形をとり、レイアウトの中央に。ゆったりとしたスタイルは国鉄の駅そのものだ。

このレイアウト制作のポイント POINT OF THE LAYOUT

ゆったりとした線路配置と自然の風景が調和

❶昭和時代の国鉄ローカル線を思わせる駅風景が展開
❷車両も国鉄ローカル線に似合ったものを増備
❸駅前の風景も昭和を彷彿とさせる懐しいものに
❹線路配置も国鉄のスタイルにならいゆったりと
❺柔らかな色調が日本的な風景にマッチ

これがレイアウトの全貌だ！

ゆったりとした線路配置で、往年の国鉄ローカル線を再現

作者が鉄道模型を始めると同時にとりかかったレイアウトは、心を和ませる美しい風景が展開。初めての作品とは思えない高い完成度だ。

❷築堤を行く列車

レイアウト中央の立体交差に続く線路は、ゆったりと曲がる築堤で高度を稼いでいる。

❶高台に建つ公民館

レイアウトの左手には公民館が建っている。このストラクチャーも既製品を利用。周囲の風景とうまくマッチしている。

❸駅前広場

国鉄の駅前には広場があり、町の中核として機能していた。このレイアウトでもその情景を再現。

❹左手前のコーナー部

トンネルから顔を出した列車はゆっくりとカーブ。これも往年の国鉄を彷彿とさせる情景だ。

❺小さな流れ

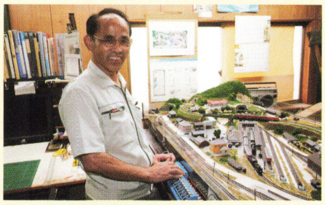
このレイアウト唯一の川は小さなもの。それでも巧みな色の使い分けで美しく仕上げられている。

DATA FILE データファイル

レイアウト名	明石大窪鉄道	作　者	上村 芳啓
テーマ	ガイドブックで作ったレイアウト	場所設定	昭和の良き時代の風景
大きさ	1,800×900㎜	基　盤	90×19㎜の角材とベニヤ板
使用線路	ユニトラック（カトー）	制御装置	カトーパワーパックスタンダードS
制作のべ時間	1年	総費用	約130,000円
模型歴	鉄道模型は今回が初めて	月にかける費用	最近はなし
楽しむ日	特に決まっていない	よく利用するお店	ここ2～3年はなし
使用車両	カトーのD51、EF58、オハ31、キハ25、キハユニ26		
参考にしたもの	技術評論社「Nゲージレイアウト作りに挑戦！」		

PROFILE

一冊の書籍を手にしたことからレイアウトが誕生



上村 芳啓さん　68歳　兵庫県

これまで鉄道模型とは無縁の生活を送っていたが、ある日、書店で一冊の入門書を手にしたことからレイアウト制作を決意。およそ1年の歳月をかけて、ここまでの完成を見た。でき映えに作者の繊細な感性が感じとれる。

❻駅を跨ぐ鉄橋

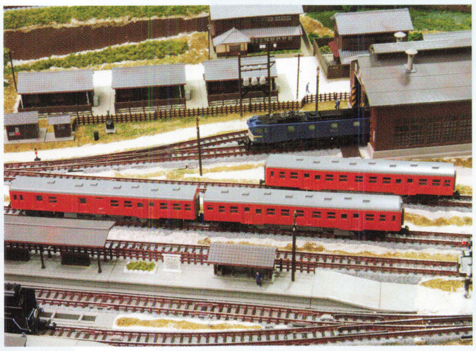
レイアウト中央部には駅があり、これを跨ぐ形で本線のトラス橋が架けられている。落ち着いた緑の彩色も好ましい。

❼駅裏を周回する本線

本線エンドレスはレイアウトの縁に沿ってゆったりと延びている。

❽駅前の風景

駅は国鉄ローカル線の終着駅の姿となっている。落ち着いた佇まいが国鉄の在りし日を思わせる。

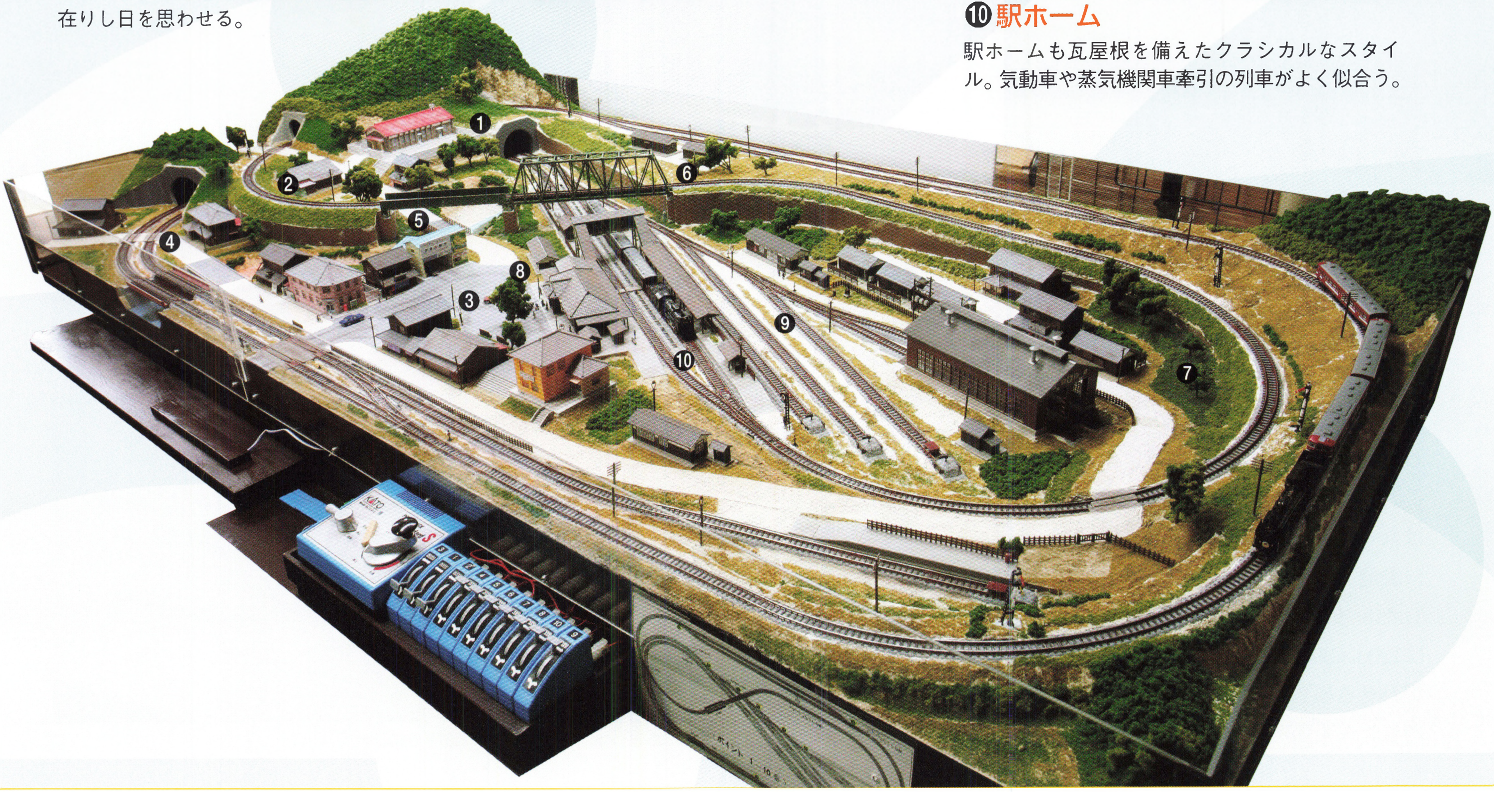


❾駅構内

駅構内はさして広くはなく、レイアウト全体と美しい調和をみせている。

❿駅ホーム

駅ホームも瓦屋根を備えたクラシカルなスタイル。気動車や蒸気機関車牽引の列車がよく似合う。



ミニレイアウト工作

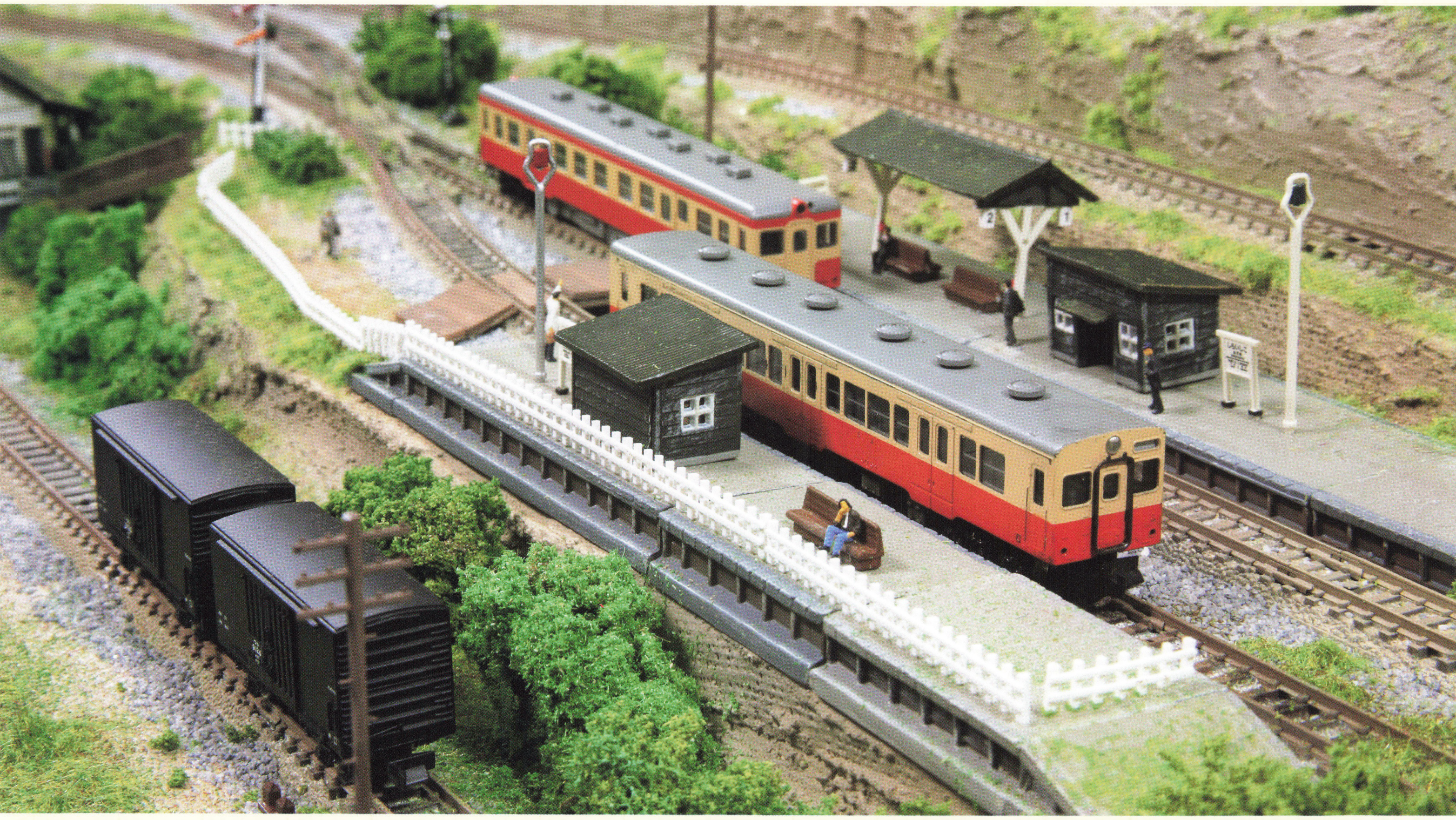
テーマとスペースを考えてレイアウトを作る

スイッチバックレイアウトに挑戦

本棚の上、あるいは壁に沿った細長いスペースに設置できるレイアウト。
スイッチバック駅を中心にした実感的な往復運転を楽しめる。

箒沢（ほうきざわ）鉄道高根線

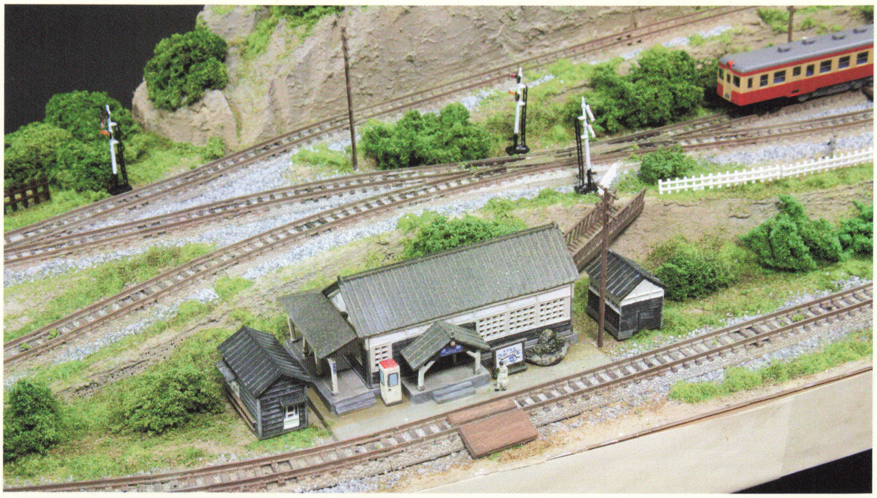
制作＆解説：池口 英司



レイアウトのほぼ中央に設けられたスイッチバック駅で交換する単行気動車による2列車。

本棚に飾れるサイズでも実感的なレイアウトが作れる

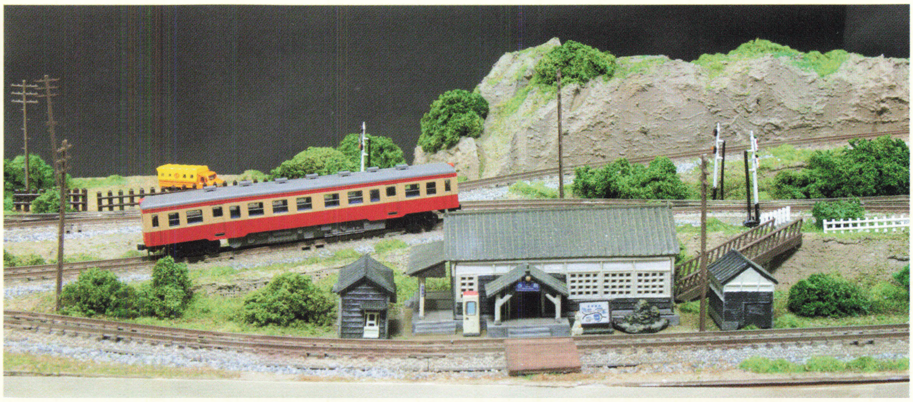
畳１枚、あるいはそれ以上のスペースをレイアウト専用にあてがうことが難しい人でも、本棚や飾り棚の上、あるいは壁に沿った一角などであれば、これを模型用とすることができるのではないだろうか…。そんなことを念頭におき、スイッチバック駅をテーマにしたレイアウトを作ってみた。サイズは1200×300㎜で、古き良き国鉄時代を想わせる風景を再現。引込線も2本設け、運転に変化がつけられるようにした。



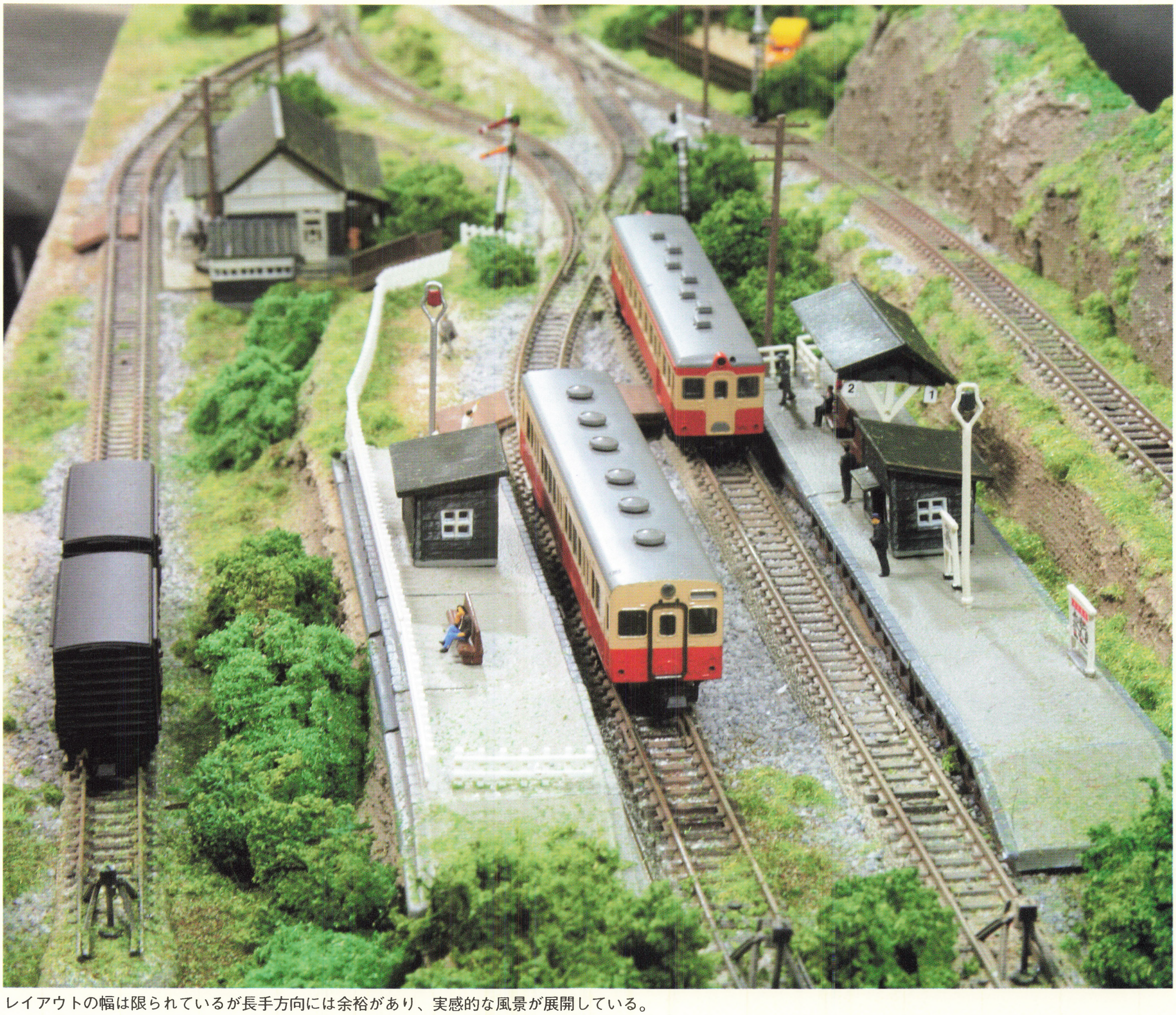
駅舎はホームよりも低い位置にある。ホームとは木製の階段で結ばれている。

急な崖に沿った狭いスペースにスイッチバック駅が展開する

山腹には鉱石の積込所も設けられている。



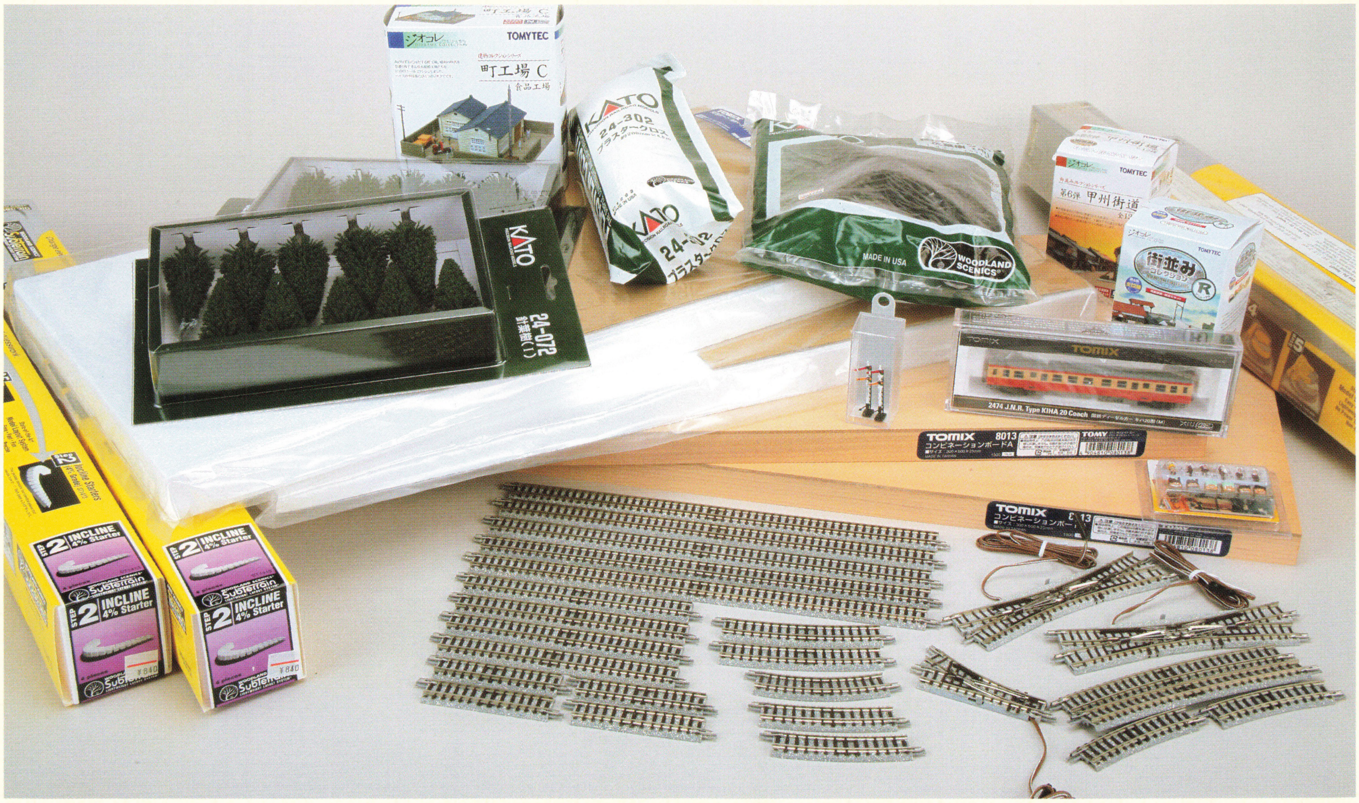
急なこう配を単行気動車がゆく。エンジンのうなりが聞こえてきそうだ。



レイアウトの幅は限られているが長手方向には余裕があり、実感的な風景が展開している。

Step I 材料を準備しよう

レイアウト作りの第一歩は、設置する場所を決め、与えられたスペースの中にどう線路を敷くかを決定すること。そして条件に合わせて材料を調達する。

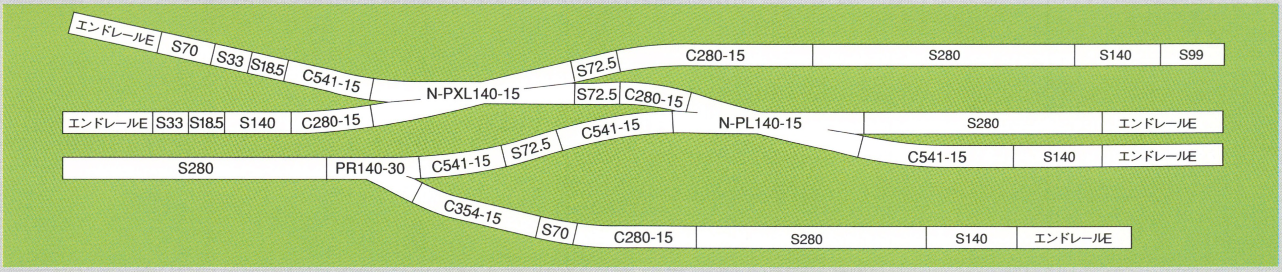

TOMYTEC
町工場C
KATO
24-302 プラスタークロス
24-072
WOODLAND SCENICS
MADE IN USA
第6弾 甲州街道
街並みコレクション
TOMIX
2474 J.N.R. Type KIHA 20 Coach
TOMIX 8013 コンビネーションボードA
STEP 2 INCLINE 4% Starter
SubTerrain

レイアウトを作るのに欲張りは禁物

レイアウトを作る第一歩は、部屋の中にレイアウトを設置するスペースを確保することから始まる。それが決まれば、さあ着工だ。とはいっても、無限の広さが与えられることはなく、場所には限りがあるから、新幹線から、ローカル線、路面電車までのすべてをひとつのレイアウトで再現することはできない。

そこでリアルなレイアウトを作るためには、テーマの設定が必要になる（テーマを設定せず、思いつくままに制作するというのも、ひとつの方法だが）。今回は国鉄時代のローカル線の、スイッチバック駅をテーマとしてみた。季節は春から初夏。単行のディーゼルカーと、短い貨物列車のみが運転されている路線である。

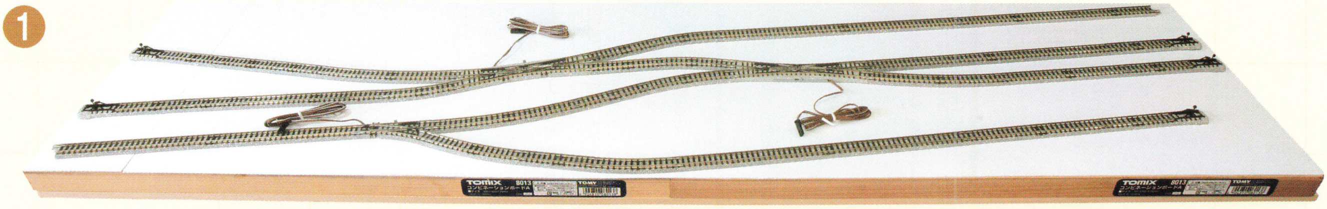
このレイアウトのプラン図　作例の線路はトミックスを使用。


エンドレールE
S70
S33
S18.5
C541-15
N-PXL140-15
S72.5
C280-15
S280
S140
S99
S72.5
C280-15
エンドレールE
S33
S18.5
S140
C280-15
N-PL140-15
S280
エンドレールE
S280
PR140-30
C541-15
S72.5
C541-15
C541-15
S140
エンドレールE
C354-15
S70
C280-15
S280
S140
エンドレールE

Step 2 線路を敷設しよう

レイアウトのサイズが決まったら、線路配置を決定する。昔はコンパスや定規を使って図面を作成したが、現代のスタイルはもっと簡単なものだ。

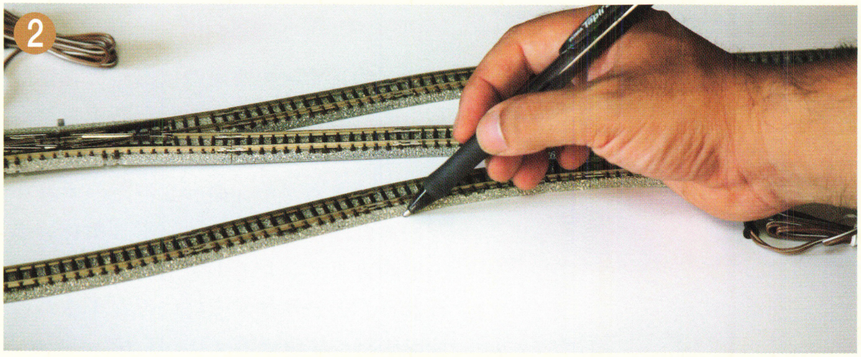
①



線路を並べてプランを検討する

上の写真は、ベースの上にスチレンボードを敷き、線路を並べてみたところ。トミックス、あるいはカトーからリリースされている線路のほとんどは道床付きのものなので、これをつないだり、外したりしながらプランを検討する。

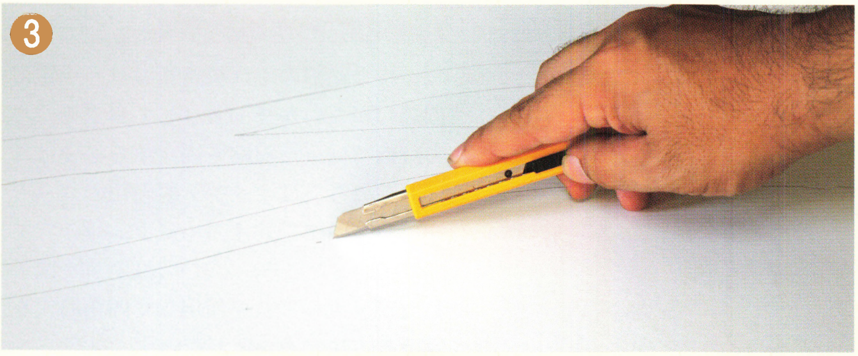
②



線路の位置を決定する

この工作ではトミックスの「コンビネーションボードA」を２枚並べ、その上に２㎜厚のスチレンボードを敷き、スチレンボードを道床とすることにした。スチレンボードは加工が容易だが強度もあり、利用価値は高い。スチレンボードの上に線路を並べ、まずはその位置を鉛筆などでなぞってゆく。

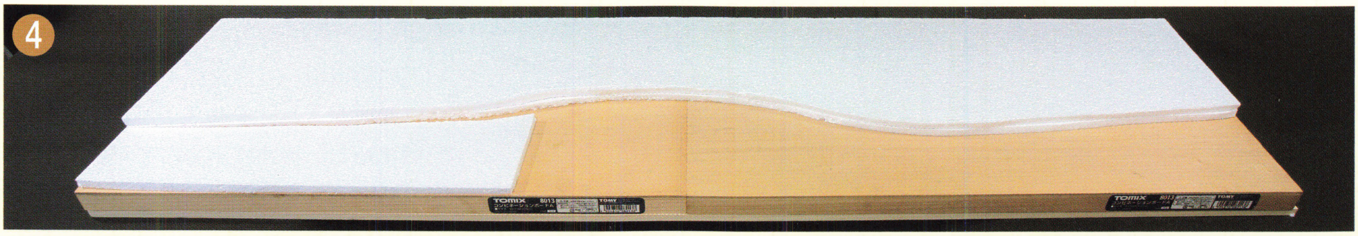
③



スチレンボードをカットする

線路の位置をなぞり終わったら、線路より一回り大きな幅でスチレンボードをカットする。これが犬走り部分までを含めた軌道の幅となる。すべての部分をカットする必要はなく、線路と同レベルで水平となる部分はテーブル状のまま残しておく。スチレンボードの接着には木工用接着剤などを使用する。

④

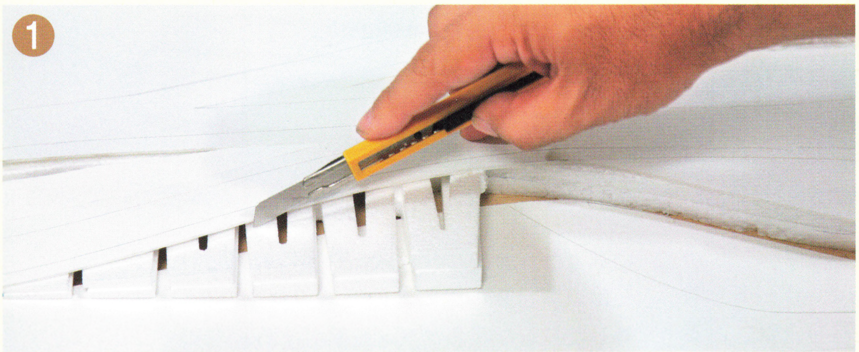


発泡ボードで地形を作る

ここでスチレンボードとは別に用意した10㎜厚の発泡ボードを適当なサイズにカットして並べ、大まかな地形を決定する。高くなる場所は発泡ボードを2枚、3枚と重ねてゆく。発泡ボードの接着にも木工用接着剤を使用する。

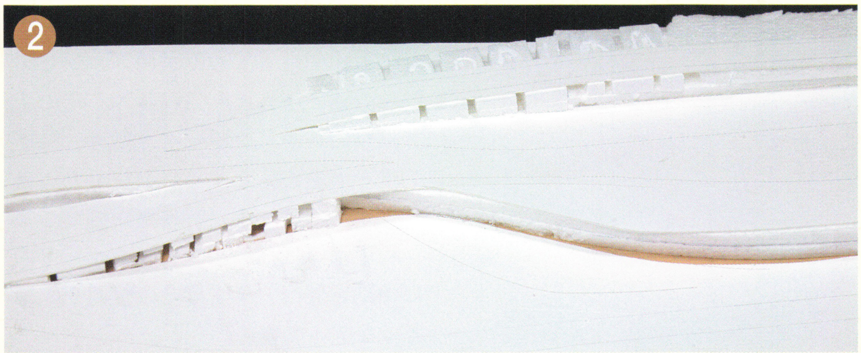
Step 3 線路の位置を確認して試運転

小さなレイアウトは、大きなレイアウトに比べて運転の制約が大きくなることが多い。スムーズな運転ができるか、小まめにチェックしながら作業を進めよう。



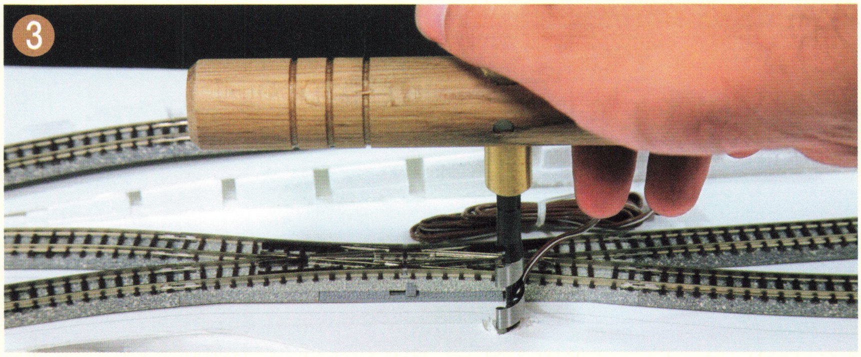
サブテレインでこう配を作る

このレイアウトではこう配区間の制作に、カトーが輸入している「サブテレイン」を使用した。これはスチロール製の線路基盤で、線路のこう配を一定に保つことができ、左右に曲げることもできる優れた一品。作例ではこれを組み合わせて使用して、4%のこう配を作った。



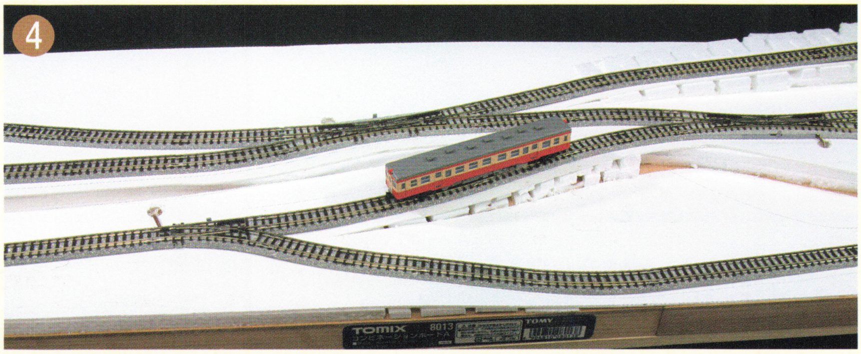
完成したこう配区間

サブテレインを所定の位置に接着したら、その上に先にカットしたスチレンボードを接着してゆく。これで線路を敷く路盤ができあがる。微妙な位置のずれなどがあれば、サブテレインやスチレンボードをカットしたものを追加して修正を行なう。この作業が気軽に行なえるのも樹脂素材を使用するメリットだ。



線路の位置を確認する

ここで路盤の上に線路を並べ、予定に間違いがないかチェックしておこう。この時点ではまだ線路を固定する必要はない。左の写真はポイント駆動用のコードをベースの下に通すために9㎜径の穴を開けているところ。ドリルはDIY店で購入したが、カッターを使用して四角の穴を開ける方法でもかまわない。



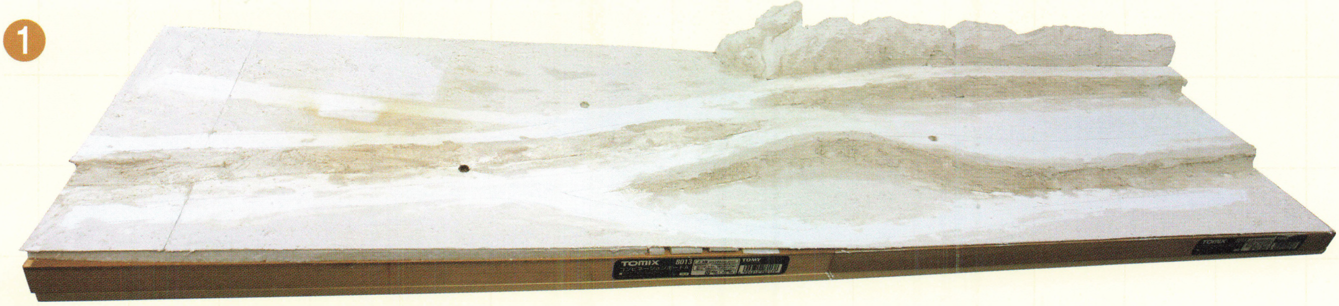
試運転を行なう

この時点で一度試運転を行なっておこう。必要があれば線路数ケ所を小さな釘で仮止めし、線路に通電して車両を動かす。スムーズな運転ができることが確認できたら線路を撤去。この時点でレールの側面をさび色に塗装しておくと良い。ただしポイントの可動部分には塗料が回らないように注意する。

Step 4 地形を仕上げてゆく

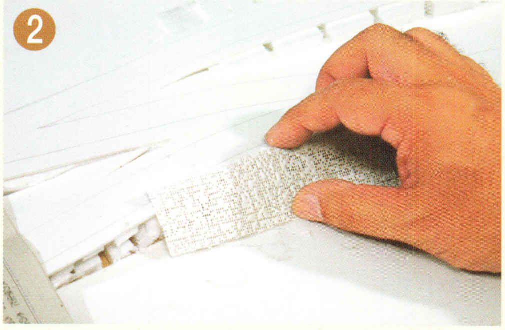
線路位置が決定したら地形を仕上げてゆく。レイアウトができあがった後の情景が想像できるようになるのは、この行程の後だ。

①



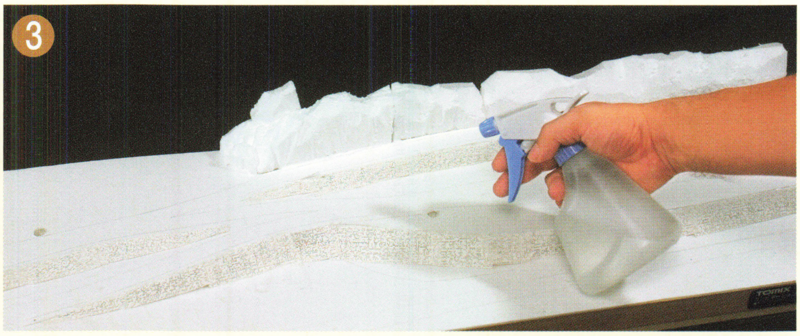
大まかに仕上がった地形

下の写真で紹介している作業を経て、大まかに地形が仕上がった状態。スイッチバック駅を中心にして、線路が往復する地形ができあがっている。サイズは小さいが高低差のあるレイアウトが徐々にその姿を整えつつある。



プラスタークロスをカット

地形の仕上げにもカトーが輸入する「プラスタークロス」を使用。これは布地にプラスターを凝着させたもので、カットして使用する。

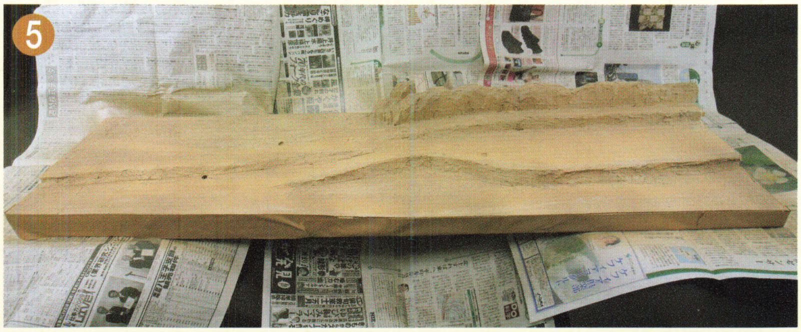


水を与える

「プラスタークロス」を貼り付け、固着したら霧吹きで水を与える。すると、布地に凝着していたプラスターが硬化し、堅牢な地形が仕上がる。これだけで不足する部分にはトミックスの「シーナリープラスター」を追加。

土の色を塗装

プラスターが固着したら水性スプレーで塗装。筆塗りでも構わない。薄い色を塗り重ねて土の色にもニュアンスをつけるのがコツ。



全体に色が塗られた状態

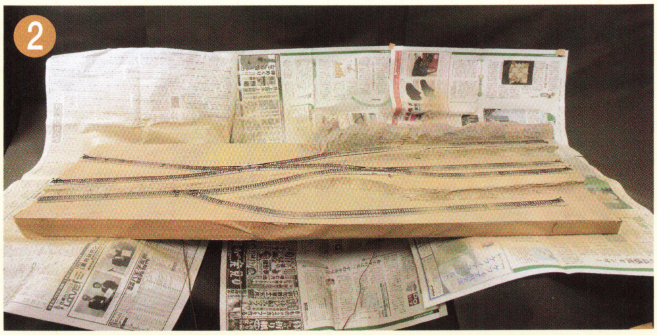
明るい茶系の色でレイアウト全体が塗装された状態。まだシンプルな色調だが、この上にさまざまな色を塗り重ねてゆく。実物の土の色は、思っているよりもはるかに明るい。一度に濃い色を塗ってしまわないよう注意。

Step 5 風景はより実感的に

レイアウト工作は、細部の塗装や、建物を設置する行程に移る。風景がより実感的になり、工作の楽しさが倍増してくるのがこの行程だ。

グレーの塗装を追加する

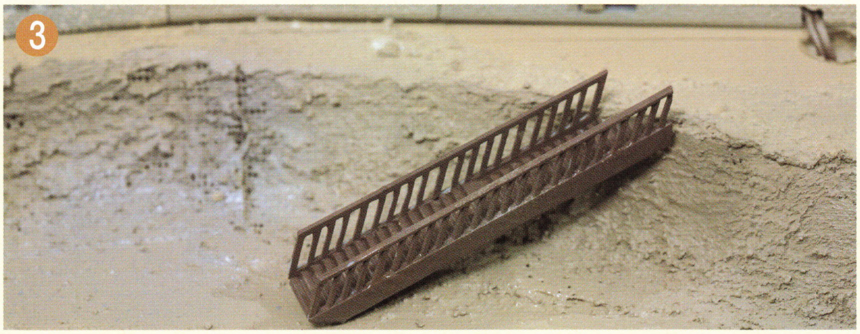
さらにグレーの塗装を行ない、色調に変化をつける。



塗装が終わった全景

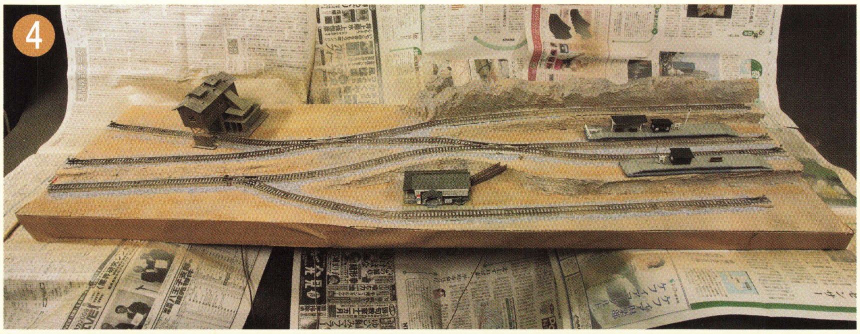
レイアウトの塗装が終わった状態。細部の塗装の追加も可。

塗装が終了したら線路を固定しよう。専用の犬釘を小さなペンチで挟み、線路の枕木部分に開けられた穴を通して、路盤の上に押し込み、線路を固定する。



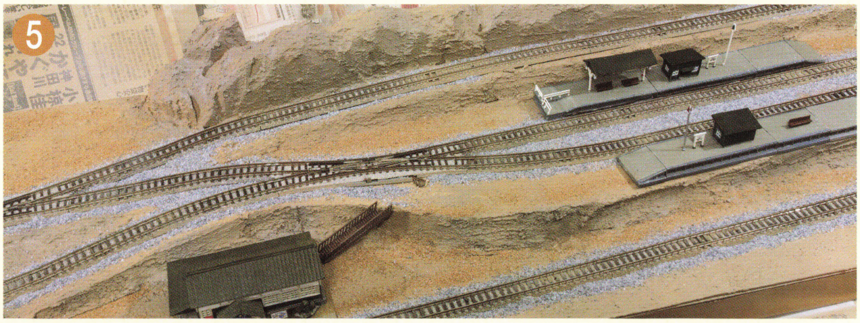
ストラクチャー工作を開始

次にストラクチャーの工作を開始。まずは駅舎とホームを結ぶ階段を制作。これはグリーンマックスの歩道橋キットに含まれる階段部分を使用した。



各種の建物を並べた状態

レイアウトの上に建物（ストラクチャー）を並べたところ。今回のレイアウトではこれでほぼすべて。小さなレイアウトでは、あまり大柄な建物を設置しないことが得策。レイアウト全体が小さなものに見えてしまうからだ。建物は少量のゴム系接着剤でレイアウトの上に固定。



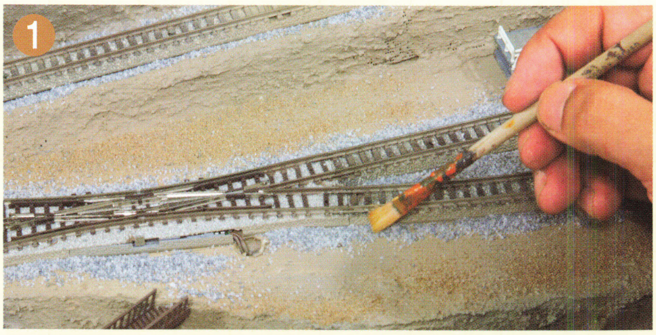
バラストを撒く

次に線路にバラスト（線路を固定するための砂利）を撒こう。これもさまざまな製品が発売されている。枕木の間のバラストはプラ成型で表現されているので、少量のバラストのみを、線路の両側に撒いてゆく。ローカル線では、実物も線路のバラストは少ないように見える。

Step 6 いよいよ完成だ！！

いろいろな工作を続けてきたことで、レイアウトは完成に近づいた。あとはのんびり慌てず、レイアウトの密度が上がってゆくのを楽しもう。

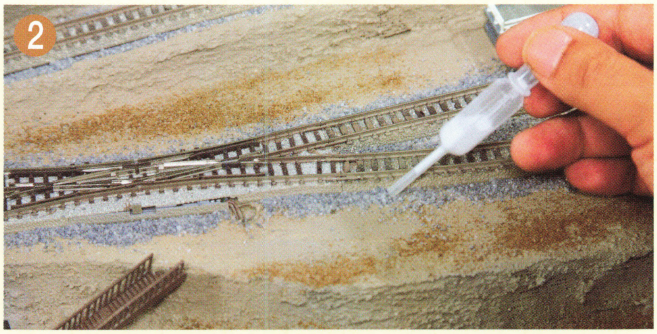
①



バラストの形を整える

撒き終わったバラストは筆を使って形を整えておく。整えおわったら霧吹きを使用してバラスト全体を湿らせておく。

②



ボンド水を滴下する

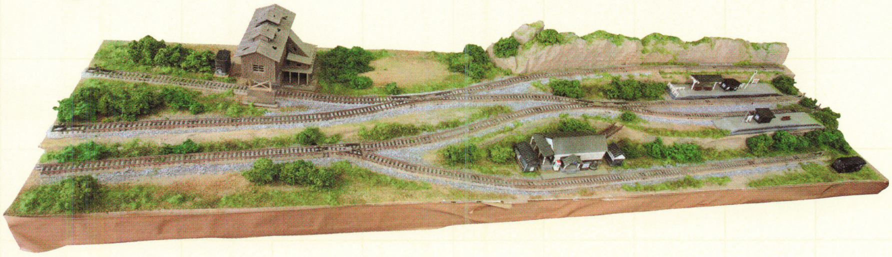
水で3〜5倍程度に薄めた木工用接着剤（ボンド水）をバラストに滴下。なお、ボンド水に中性洗剤をごく少量入れるのが秘訣。

③

樹木を制作する

「ライケン」の名で製品化されている素材をボンド水に浸し、緑色のパウダーをまぶす。

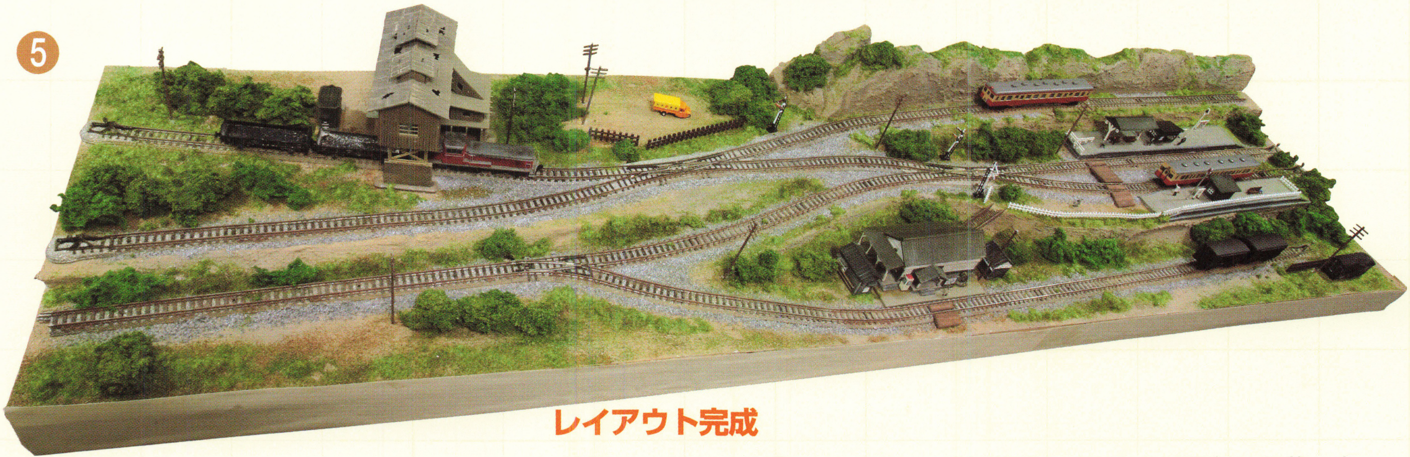
④



樹木、雑草を追加したレイアウト

「ライケン」とパウダーを使用して制作した樹木は枝ぶりが細かく実感的。これも木工用接着剤を使ってレイアウトの上に固着させる。

⑤



レイアウト完成

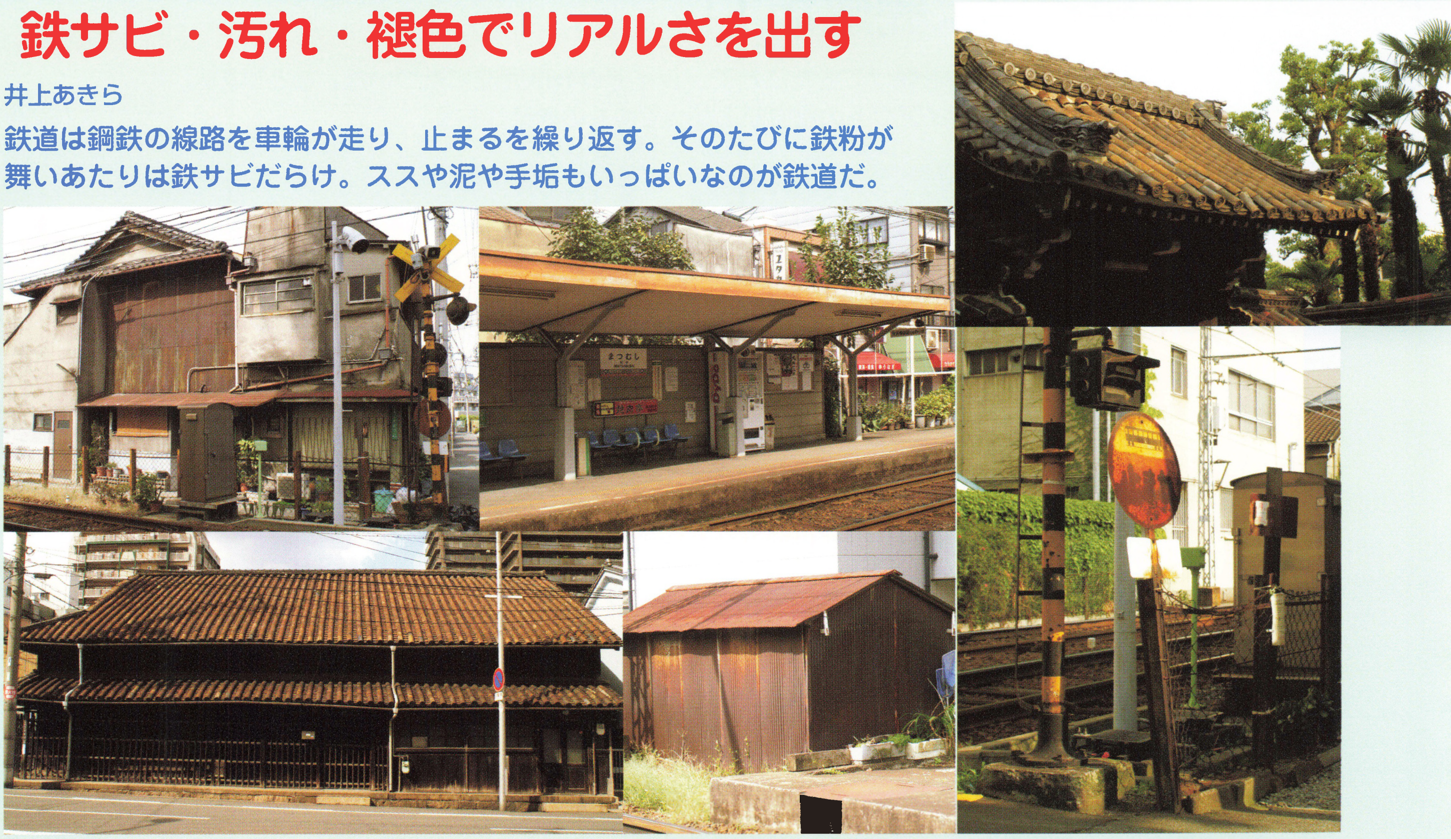
緑色のパウダーを撒いて、バラストと同様にボンド水で固着。雑草を表現する。人形などのアクセサリーを追加すれば、レイアウトは完成だ。

コラム●レイアウト作りを楽しむアイデア⑤

鉄サビ・汚れ・褪色でリアルさを出す

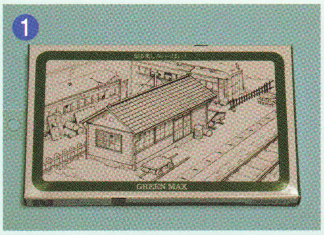
井上あきら

鉄道は鋼鉄の線路を車輪が走り、止まるを繰り返す。そのたびに鉄粉が舞いあたりは鉄サビだらけ。ススや泥や手垢もいっぱいなのが鉄道だ。

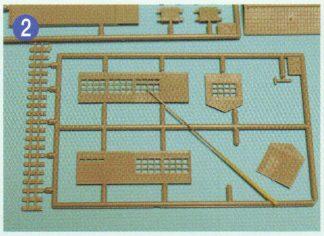


実際の鉄道関連の建物や施設を見ると、どれもこれも鉄サビ色に染まっているのが分かる。よく観察して簡単工作で再現してみよう。

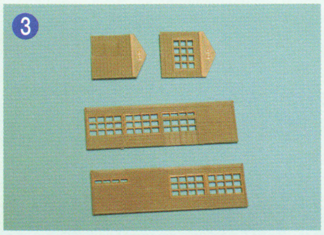
作例1 詰め所のキットを組み立てる



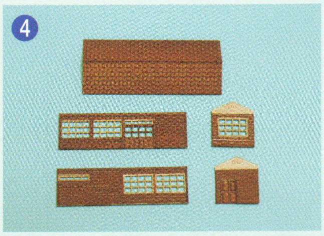
① グリーンマックス製の詰所キット。



② まず格子のバリを紙ヤスリで削りとる。



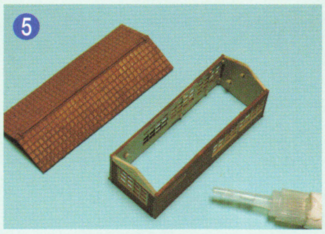
③ 細かい格子を先に塗ると後が楽になる。



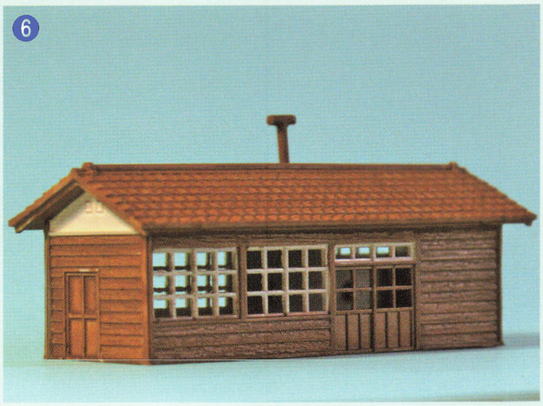
④ 壁と屋根など全体を赤錆びた色に塗る。

組立行程を最初によく考え 塗装しながら組むのがコツだ

まず最初にキットに色を塗りながら組み立ててみよう。グリーンマックス製の詰所キットは簡単に組立ができる定番商品だ。最初にバリを取る。格子の色は白など明るい色にすると、異常に太く見えるので抑えた色がおすすめ。赤茶や茶色を混ぜるのがコツだ。

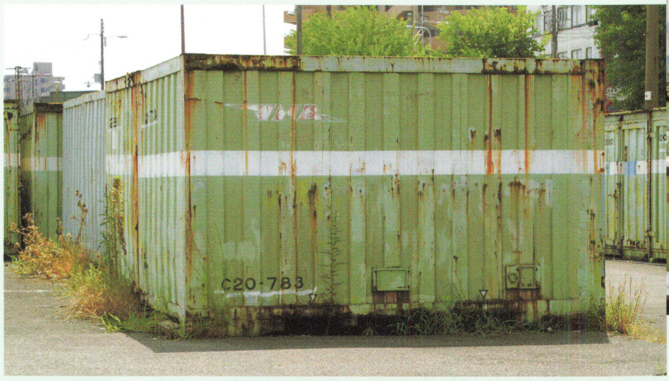
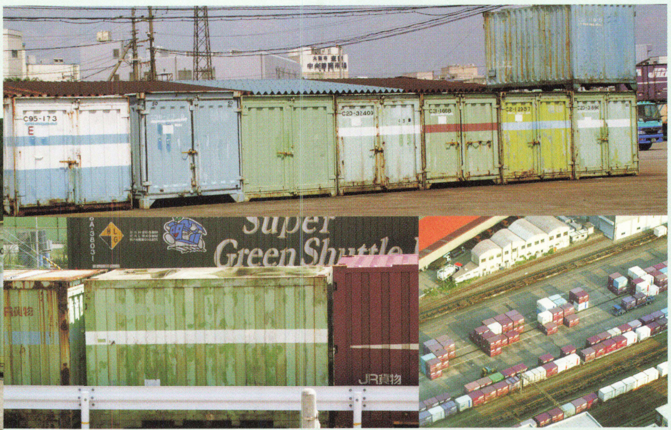


⑤ 接着剤で先に側壁から組み立てる。



⑥ 小さな煙突を屋根に取り付けて完成だ。小さな建物のチャームポイントがこの小さな煙突だ。

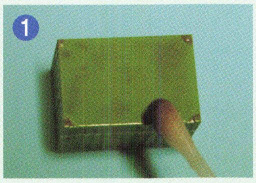
作例2 くたびれたコンテナを並べてみる

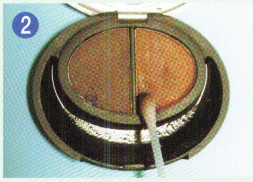


駅の構内に並んでいるコンテナも汚れ具合はいろいろだ。その微妙な違いをよく観察して、実際の着色で表現してみよう。

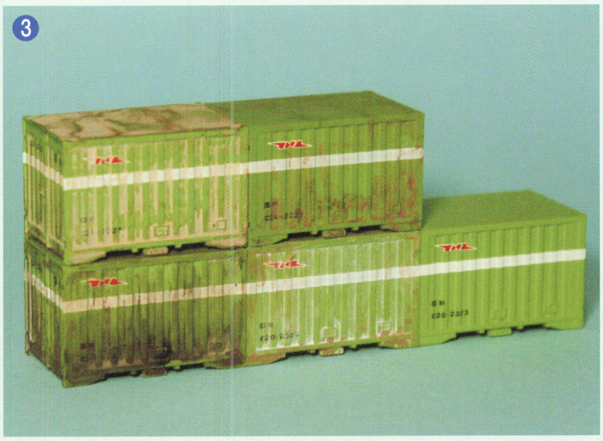
100円化粧品を使ってコンテナをウェザリング

トミックス製の国鉄コンテナを使い、汚れ方のバリエーションを出してみた。アイシャドウの粉はエナメル薄め液によく溶けるので、こういう作業にはおすすめだ。粘りのある塗料や画材よりも使いやすい。

コンテナの屋根に水たまりができている感じもうまく表現できた。退色して白く見えるコンテナはフラットベースを少し混ぜて塗ってみた。

①

100円化粧品のアイシャドウを少量、エナメル薄め液で溶いて綿棒に含ませる。

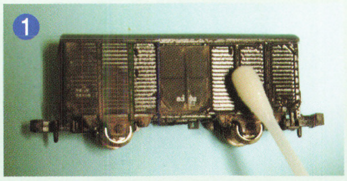
②

綿棒で薄めた液をひたひたと塗っていく。

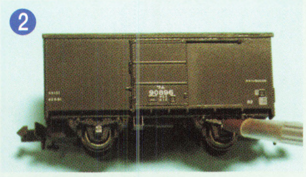
③

完成したところ。錆び具合、汚れ具合、薄れ具合などをいろいろ変えて塗ってみた。いちばん右が何も塗っていないもの。汚れの効果は歴然だ。

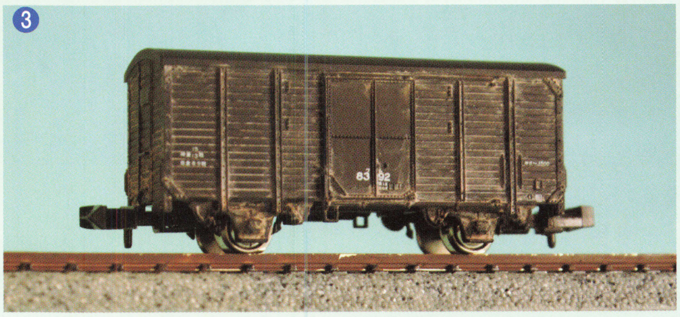
作例2 貨車を汚して立体感を出す

今度はアイラインペンシル、化粧品が鉄道模型に大活躍だ

昔の２軸貨車はどれも個性的に汚れていた。ここでは河合商会のワム3500を取り上げてみた。市販モデルはどれも最初は黒光りしている。アイシャドウをエナメル薄め液で薄く溶いたものを綿棒でひたひたにすると、毛管現象で液が細かい部分に入り、乾くと板の継ぎ目などのディテールがよく分かりいい感じに仕上がる。下回りにはアイラインペンシルに登場してもらった。

①

貨車の車体はコンテナと同じように溶液を綿棒でひたひたと塗っていく。

②

下回りは100円化粧品のアイラインペンシルで塗り、赤錆の感じを表現した。

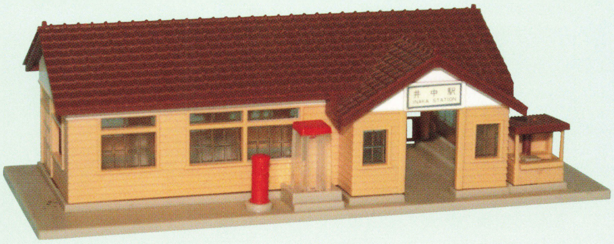
③

単純な黒一色だった２軸貨車がアイラインペンシルを使って汚すことによって驚くほどの立体感を出すことができた。

駅舎に色を塗ってリアルさを演出

井上あきら

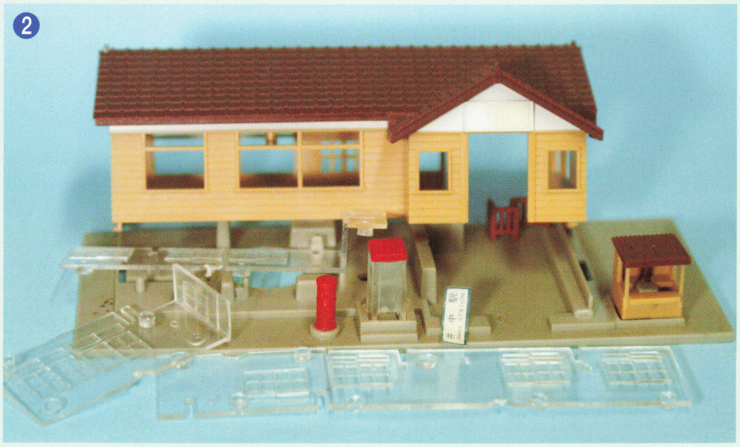
鉄道独特の鉄錆が駅舎にもたっぷり降りかかっている。トミックスの木造駅舎を使って本物の駅を出現させてみよう。

❶



トミックスから発売されてロングセラーとなっている木造駅舎セット。

❷



製品のままでは塗りにくいので、できるだけ分解、屋根は外れない。部品を破損しないように慎重に分解する。

完成品はいったん分解して塗装しながら組み立てていく

トミックスから発売されている木造駅舎はロングセラーの好ましい製品だが、ローカル駅として使用するには少し色が派手で、ガラスがギラギラする印象がある。

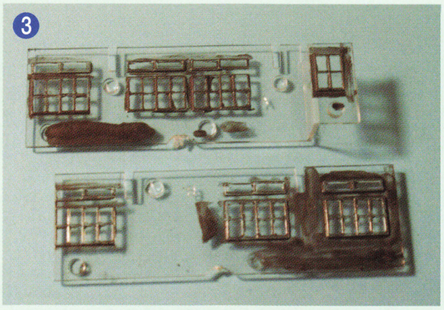
ここでは築60年くらいのイメージを目ざして、焦げ茶色主体で塗装しよう。面倒でも透明パーツに窓の格子を描くとぐっとよくなる。

少しくらい塗料がはみ出しても、半乾きのうちにつま楊枝でこちょこちょやれば大丈夫。あまり細かいことにはこだわらないで楽しんでやることが大切だ。

塗り壁は真っ白にしないでややくすんだ色に塗るとよい。

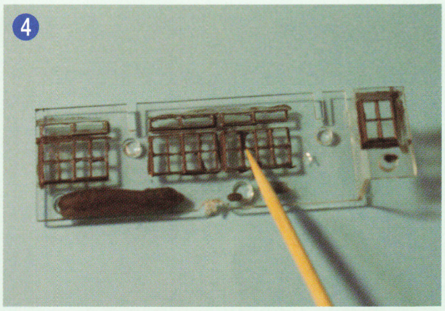
艶消しの白を塗っても、地の色が透けて見えるようであれば、塗料を塗り重ねるようにする。濃い塗料を一度に塗ると、ぼてっとした仕上がりになるので避けるように。裏技としては事務用の修正液を塗るという方法もある。

❸



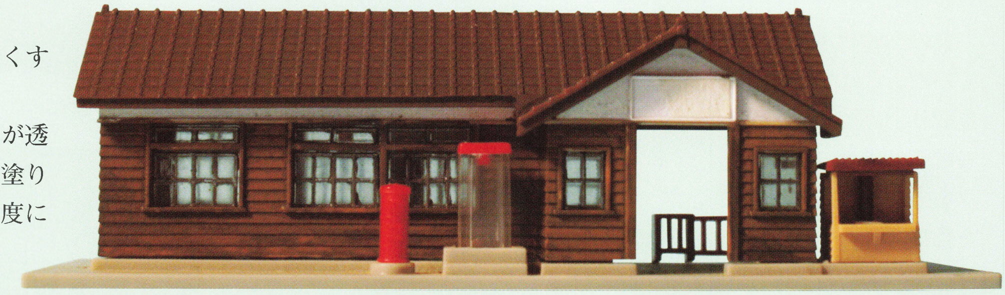
窓の部品はエナメル塗料を薄めに溶いて格子を筆でなぞる。何回も塗り重ねる感覚で作業する。

❹



塗料がはみ出しても、半乾きのうちにつま楊枝でこすればOK。ゆっくり作業しよう。

❺



これが完成した姿。めざした築60年の駅舎に近づいた。電話ボックスも旧式に変えたいところだ。

第5章

実物の風景を観察しよう

レイアウトを作るうえでいちばん大切なことはなににもまして、実際の風景をよく観察することでしょう。鉄道関連施設を中心にして実物の風景をたっぷり紹介したのでレイアウト作りの参考にしよう。

実物の風景を観察する

レイアウトを作るとき、実物の橋梁やトンネルがどうなっているか参考になる資料を用意しておくといい。リアルなレイアウトを作るときの必須アイテムだ。

Nゲージの鉄道模型では、橋梁やトンネルの入口となるトンネルポータル、さらには駅舎やホーム、機関庫まで、レイアウト作りに役立つさまざまな製品が発売されている。設置方法については製品にも多少説明されているが、実態は千差万別。現場の地形や条件に合わせた最善の姿として建設されているのだ。

こうした鉄道に関わる建築物の姿をイメージとして捕らえていても、ディテールはなかなか思い浮かばないもの。レイアウトを作るとき、こうした実物の情景資料を手元に用意しておくといいだろう。例えば、旅先で見かけた橋梁や駅構内を撮影した一枚の写真。それがあるだけでもすごく参考になる。

ここではレイアウトに役立ちそうな情景をいくつか紹介したが、こうした写真を自分でも撮影し、ストックしておくといい。

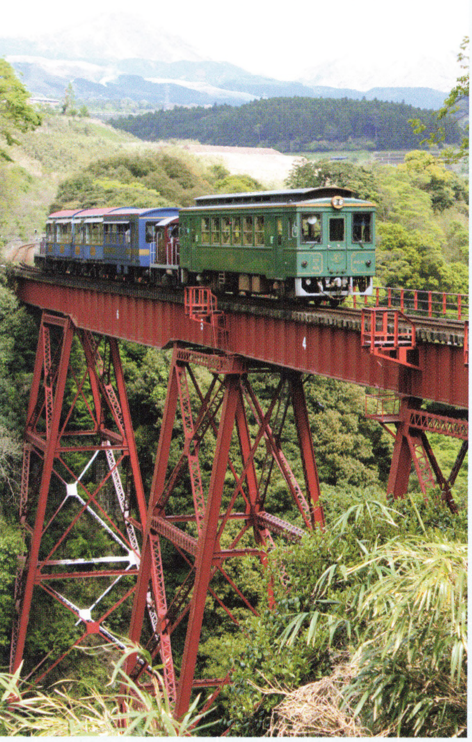
橋梁

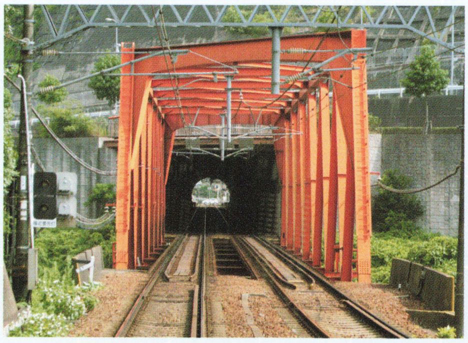
橋梁は、川、谷、道路などを跨ぐときに使われる構造部だ。トラス、プレートガーダー、コンクリートなどさまざまな形状がある。

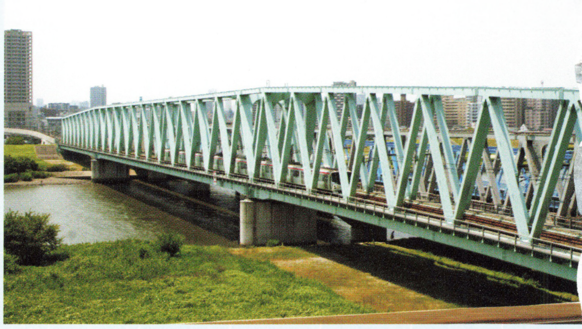
橋梁は、大別すると鋼橋、コンクリート橋、合成桁などの種類に分けられる。コンクリート橋は、都市部や新幹線の高架線でも多用されている。

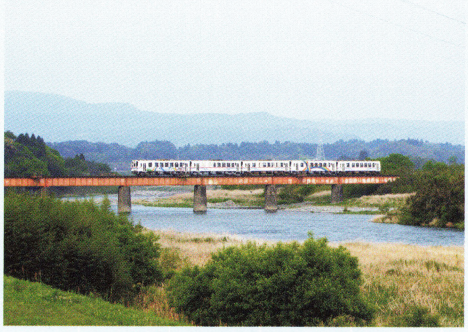
ここではふだん“鉄橋”と呼ばれている鋼橋を中心に紹介しよう。鉄道の鉄橋は短いものではプレートガーダーが多く、長いものではトラスが多用される。また、構造物に対する線路の位置により、下路式、上路式に分かれている。鋼橋の場合、道床を使わないものが一般的だが、道床付きとなっているものもある。

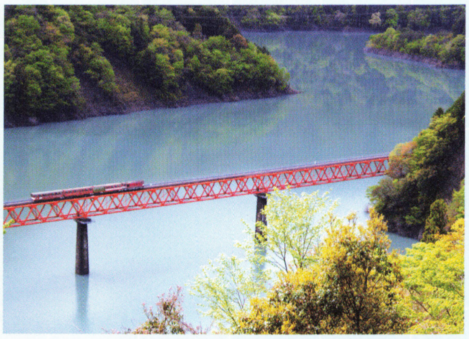
なお、構造物を端で支えるのが橋台、橋の途中で支えるものが橋脚となる。

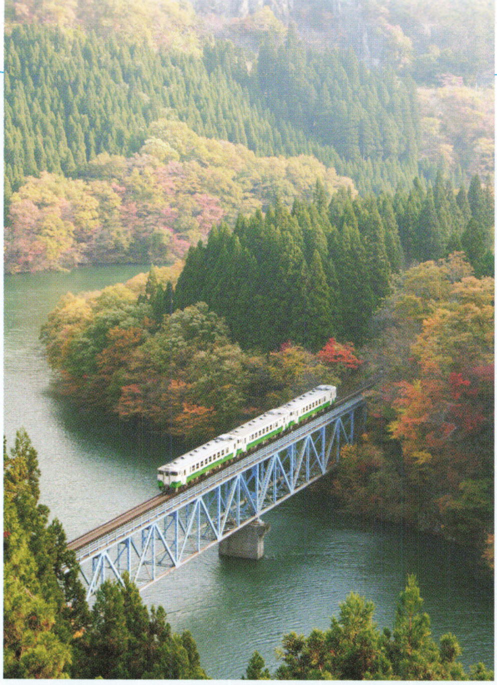

↑南阿蘇鉄道立野～長陽間にある立野橋梁。山陰本線旧餘部橋梁と同じトレッスル橋だ。


↑能勢電鉄鶯の森～鼓滝間にある猪名川橋梁。1969年の同区間複線化で新設された複線トラス橋だ。

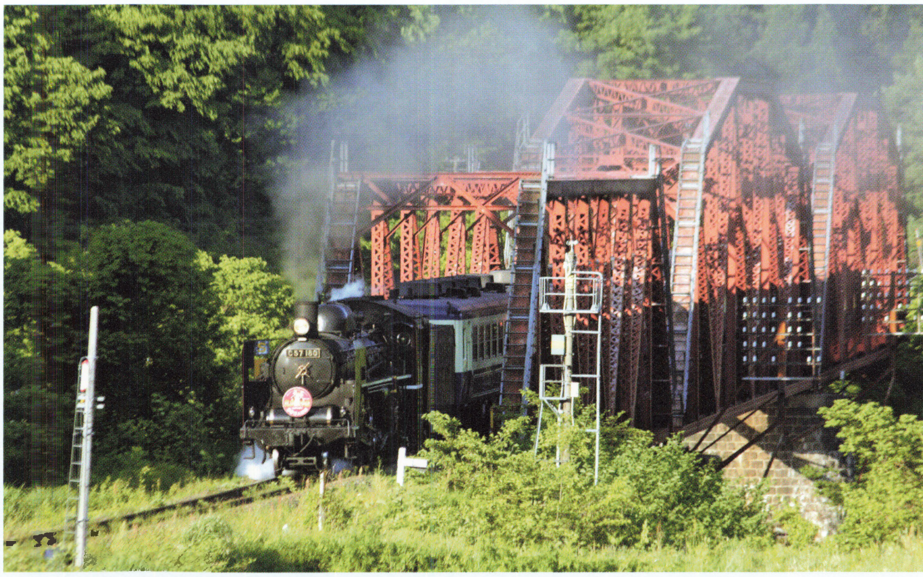

↑つくばエクスプレスこと首都圏新都市鉄道北千住～青井間にある荒川橋梁。荒川には数多くの橋が架かる。


↑くま川鉄道川村～肥後西村間にある第四球磨川橋梁。上路式のプレートガーダーを連続した構造だ。

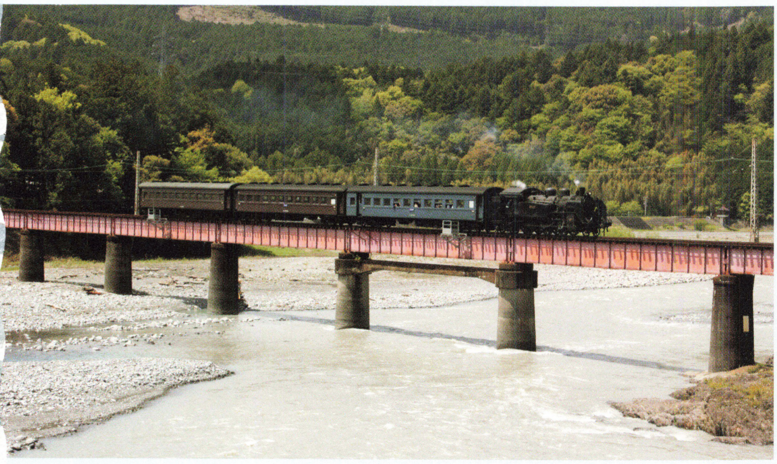

↑大井川鐵道井川線の奥大井レインボーブリッジ。これは奥大井湖上駅の前後に架かる2つの橋を総称した名称。



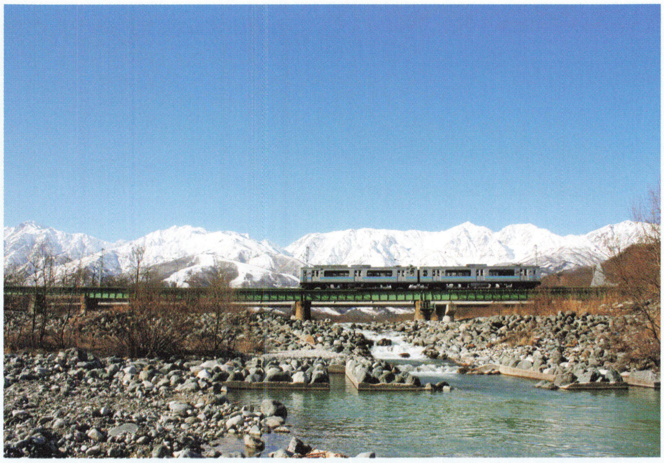
↑只見線会津宮下～早戸間の第三只見川橋梁。上路式になったワーレントラス橋だ。ここは只見線の有名撮影地だ。



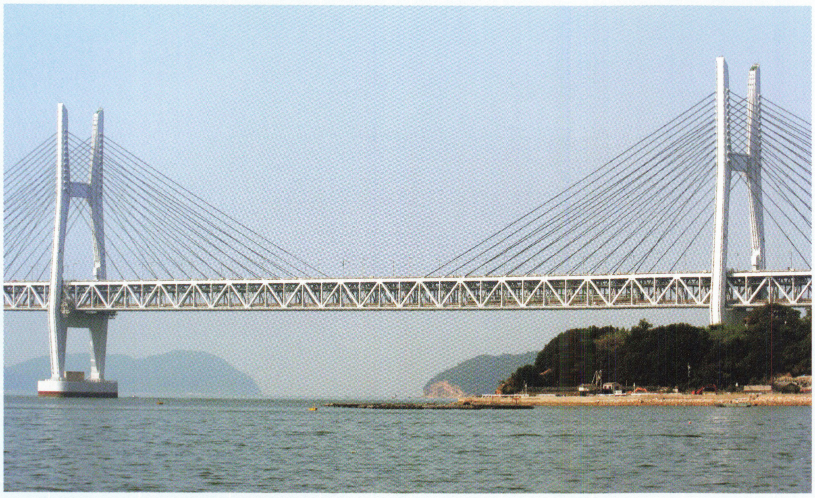
↑磐越西線日出谷～鹿瀬間の阿賀野川当麻橋梁。プラットトラスとワーレントラスの複合橋だ。



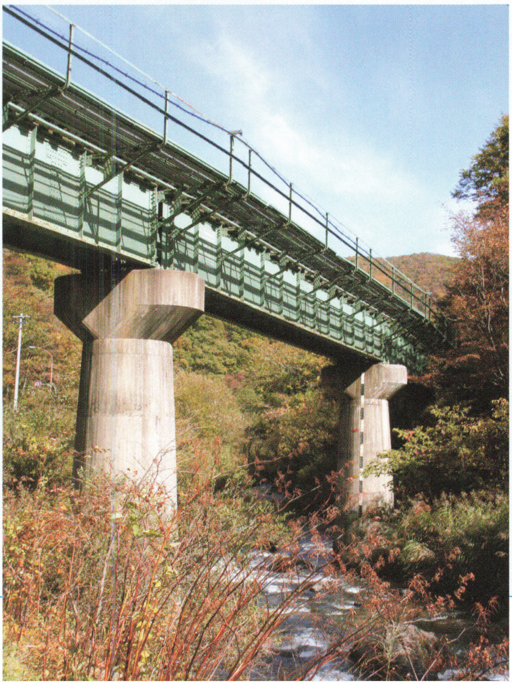
↑大井川鐵道大井川本線の崎平～千頭間にある大井川第四橋梁。



↑大糸線白馬～信濃森上間にある松川橋梁。背後は北アルプスの山々。



↑瀬戸大橋のうちの下津井瀬戸大橋。道路と鉄道の二段構造になった吊橋だ。



→山田線松草～平津戸間の御山川橋梁。橋脚の様子を観察してみよう。

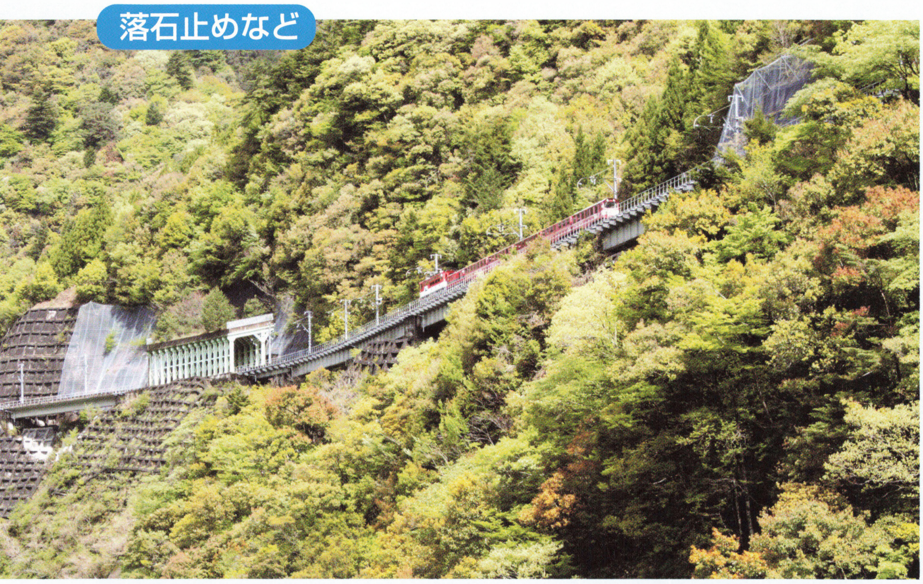
トンネル・落石止めなど

山岳地の多い日本ではトンネルや落石止めといった構造物も多い。落石止めはレイアウトに取り入れやすいアイテムだ。

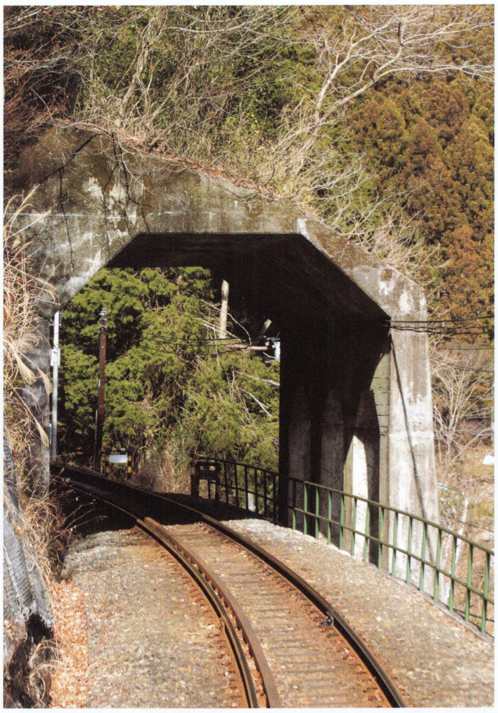
トンネルは山間部を効率的に走行するために作られる施設だ。ただし、建設費用や工期もかかるため、古い時代に建設されたローカル線などでは極力短くなるように設計されている。現在は掘削技術が進み、新幹線などでは10kmを超える長いトンネルも多用されている。

レイアウトに組み込むときは、トンネルポータルの形状の違いを楽しむだけでなく、前後に設けられた落石止め、なだれ止め、なども作り込んでいくと、ぐっとそれらしい雰囲気が出てくる。また、落石覆いや雪覆いなどもコンパクトで作りやすいアイテムだろう。

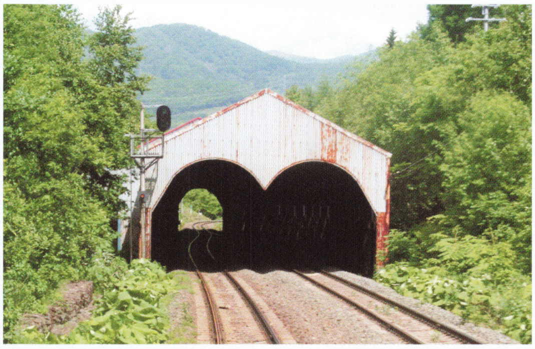
落石止めなど



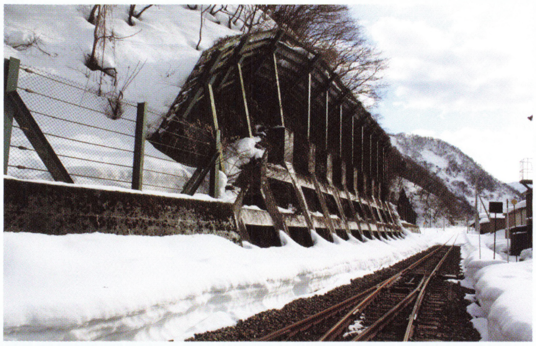
↑大井川鐵道井川線のアプトいちしろ～長島ダム間。落石覆いや擁護壁などに注目したい。



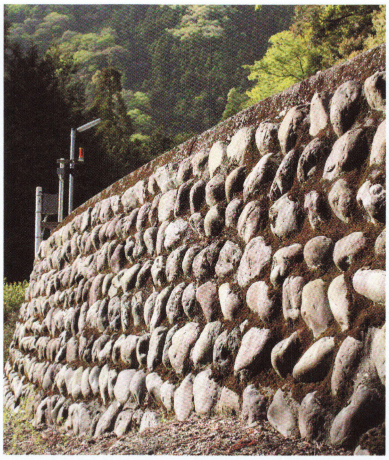
↑名松線比津～伊勢奥津間にあるコンクリート製の落石覆い。レイアウトでは短いトンネルと見立てても楽しい。



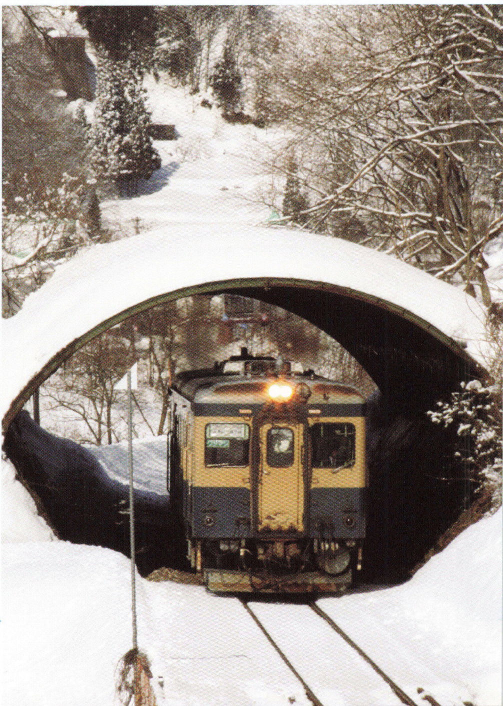
↑石勝線の各駅で見かけるポイント部の雪覆い。



↑大糸線根知駅構内にあるなだれ止め。降雪地の必須アイテム。

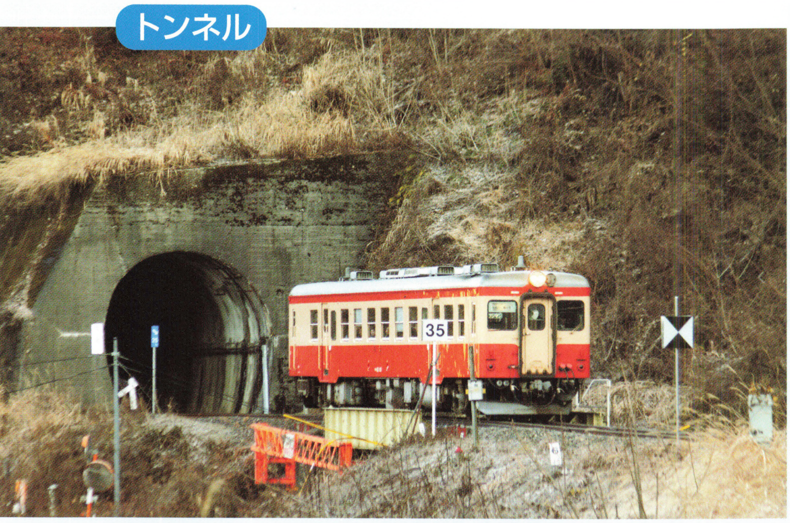


↑トンネルの前後や切通しには石垣などの擁護壁がある。大井川鐵道井川線川根小山駅。

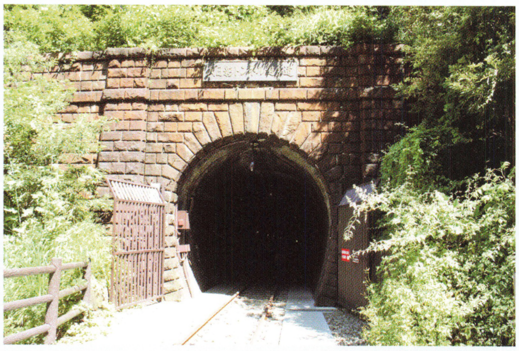


→大糸線の南小谷～中土間にある雪よけ。かまぼこ状のドームで、石勝線などにもある。

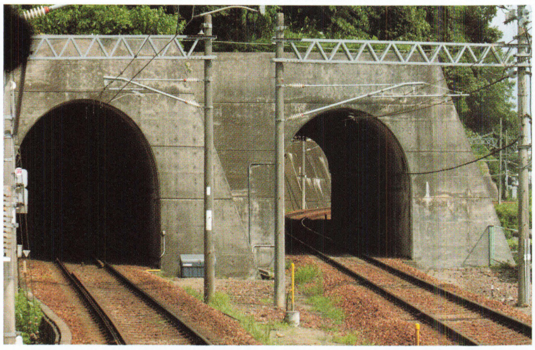
トンネル



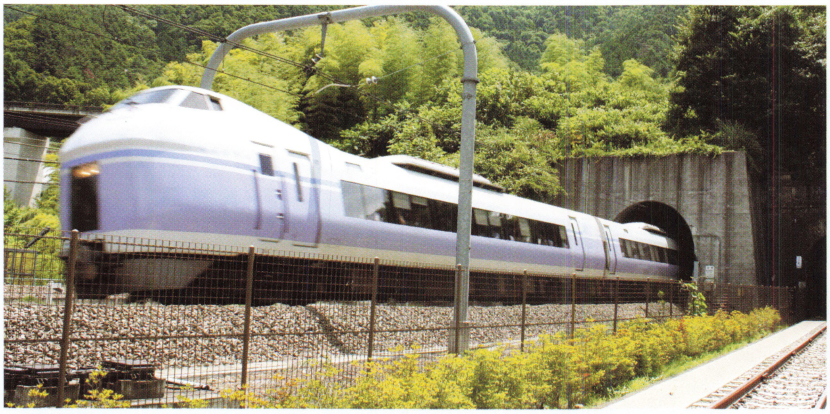
↑大糸線北小谷～平岩間の下寺トンネル。トンネルポータルが地形に合わせてある。



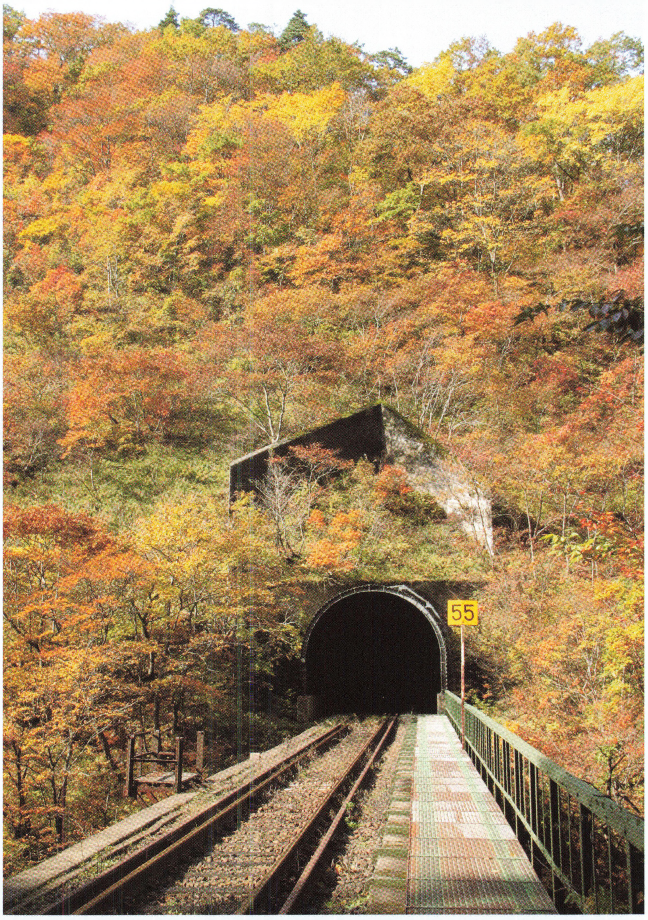
←中央本線大和甲斐～勝沼ぶどう郷間の大日影トンネル。明治期の古いトンネルだが、今は使われず遊歩道となっている。



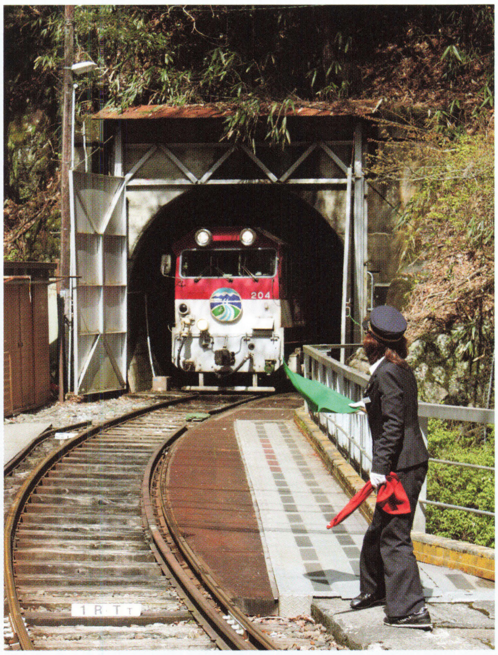
←能勢電鉄鶯の森～鼓滝間にある鶯の森トンネル。短い単線トンネルが2本並んで複線となっている。後で複線化した区間に多い構造だ。



↑中央本線大和甲斐～勝沼ぶどう郷間の新大日影トンネル。右は遊歩道となった大日影トンネル。



↑米坂線にあるトンネル。豪雪地帯のため、トンネル上になだれ避けも設置。



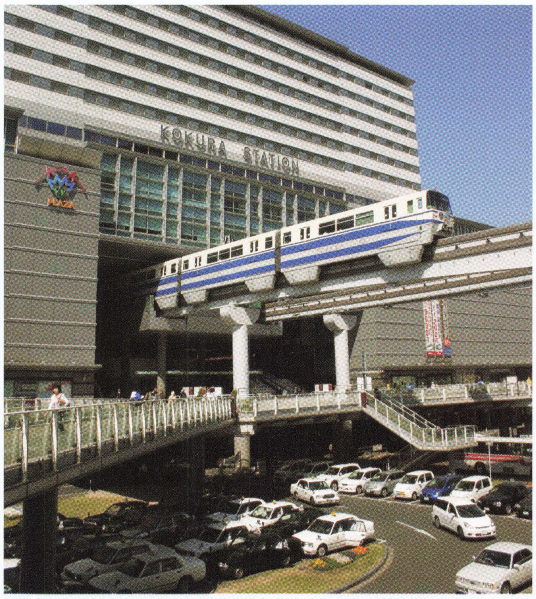
↑大井川鐵道井川線の井川駅構内にあるトンネル。入口に扉を設けているのが面白い。黒部峡谷鉄道などにもある。

都市の駅

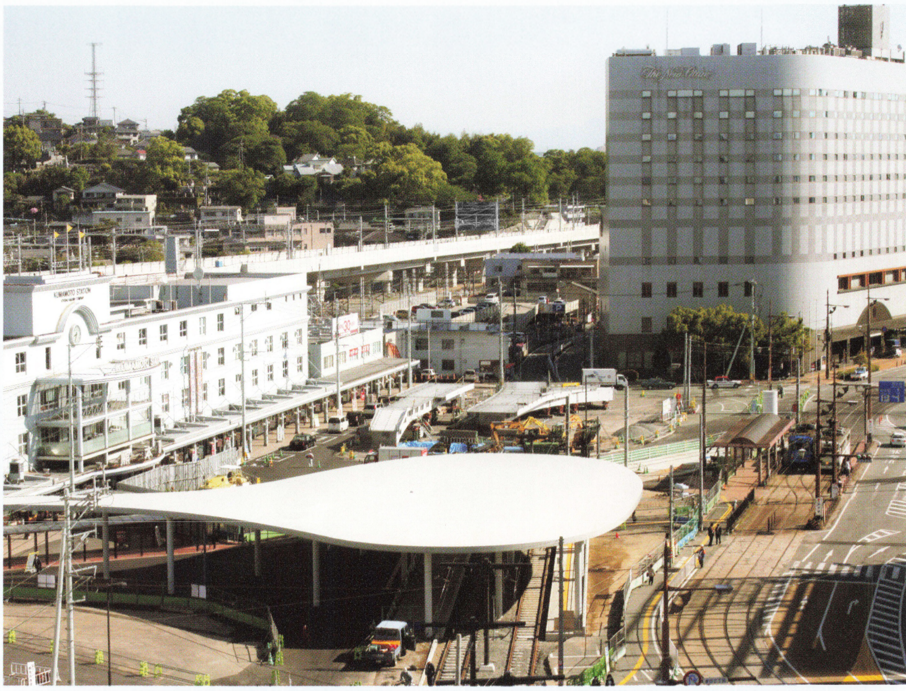
鉄道の玄関口となる駅。レイアウトにも取り込んでみたいテーマだ。まずは都会の駅を紹介しよう。

列車を発着させ、乗客の乗降を行なったり、貨物の積みおろしをしたりするのが駅だ。旅客と貨物の両方を扱う「一般駅」、旅客のみを扱う「旅客駅」、貨物のみを扱う「貨物駅」、そして特定期間だけ臨時に開設する「仮駅」などに分類される。

旅客駅の場合、施設としては駅本屋（いわゆる駅舎のことで、「えきほんや」と呼ぶ）、乗降場（プラットホーム）、跨線橋や地下道、駅前広場などから構成されている。都会の駅の場合、駅本屋には商業施設や飲食店なども併設された複合ビルになっているものも多い。また、高架化されたものも多い。



↑小倉駅。JR線のほか、モノレールも発着している。



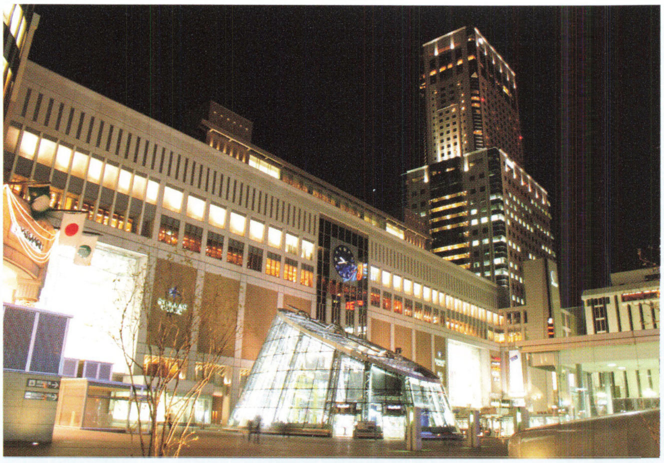
↑熊本駅の駅前広場。左が駅本屋。写真は市電への乗り換えを便利にするための工事中の姿。

↑博多南駅。新幹線車両が発着するが、在来線扱いの駅だ。

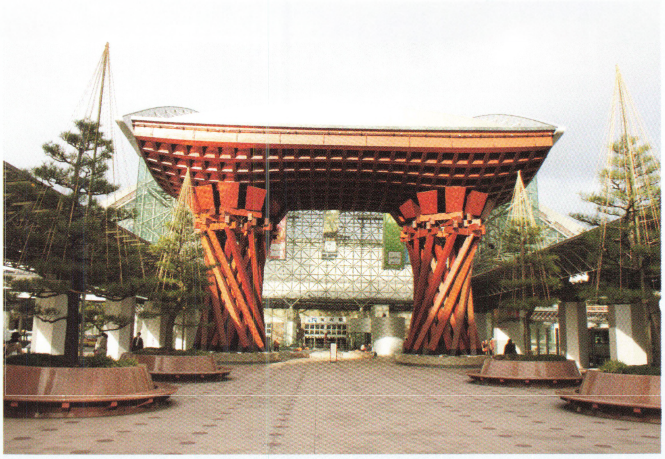
↑新大阪駅。写真は新幹線ホームを囲んだ部分で巨大な建物だ。

↑新神戸駅。新幹線の駅としてはこじんまりしている。地下には地下鉄も発着している。

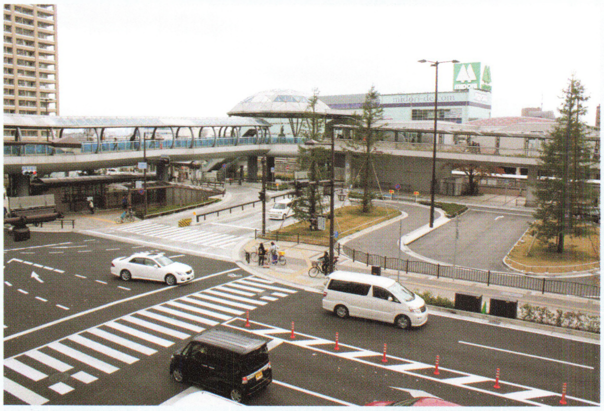
↑品川駅。JR各線のほか、京浜急行も発着するターミナル。高層ビルも都市らしい情景だ。



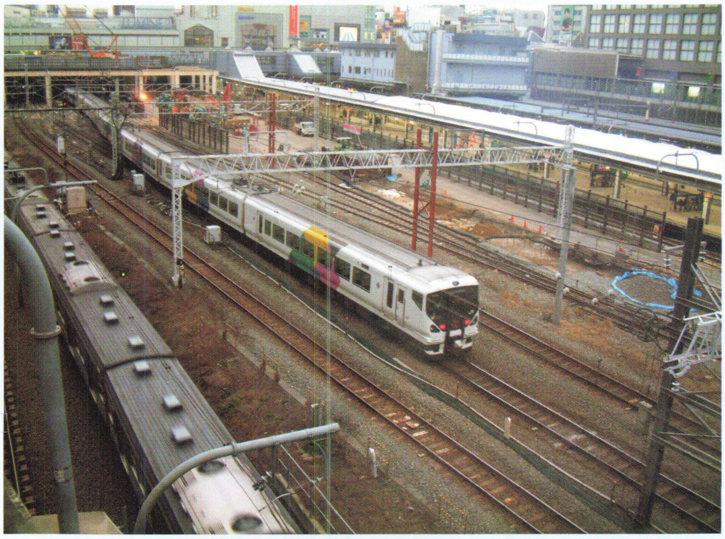
↑札幌駅。高架駅への切り換えの際、近代的なデザインの駅ビルに変更。



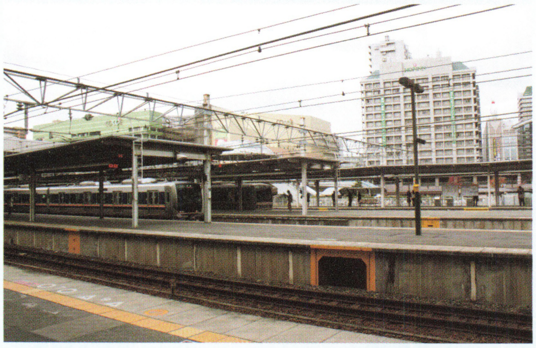
↑金沢駅。ここも従来の駅とは思えぬデザインの駅ビルとなっている。



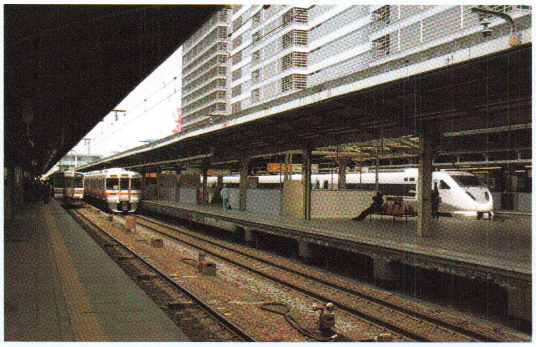
↑尼崎駅の駅前広場。ペデストリアンデッキで囲まれているのが特徴。



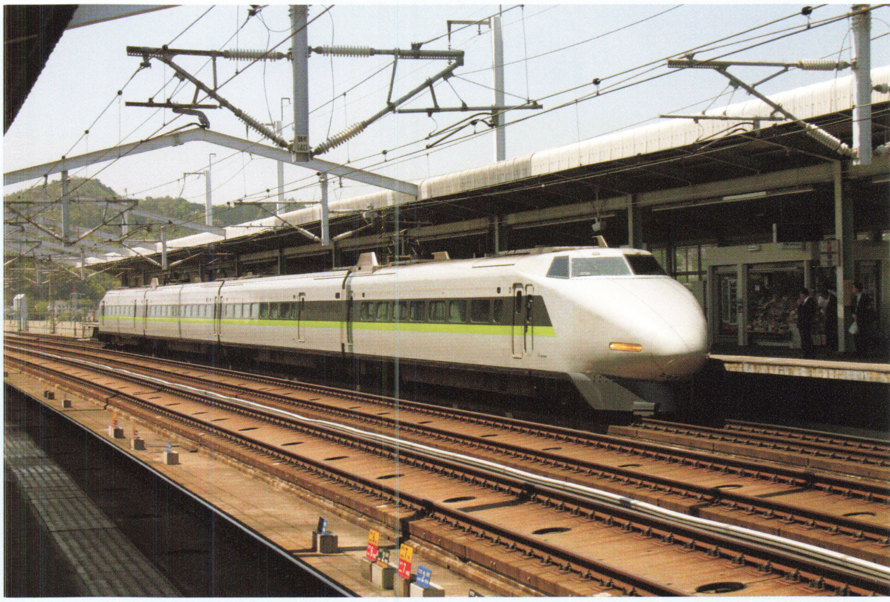
↑ホームを増設工事中の新宿駅。駅の改良工事もあちこちで見かける姿だ。



↑尼崎駅。都会の駅の場合、大半のホームに屋根がある。



↑名古屋駅。長距離列車の発着する駅には給水栓も設置。



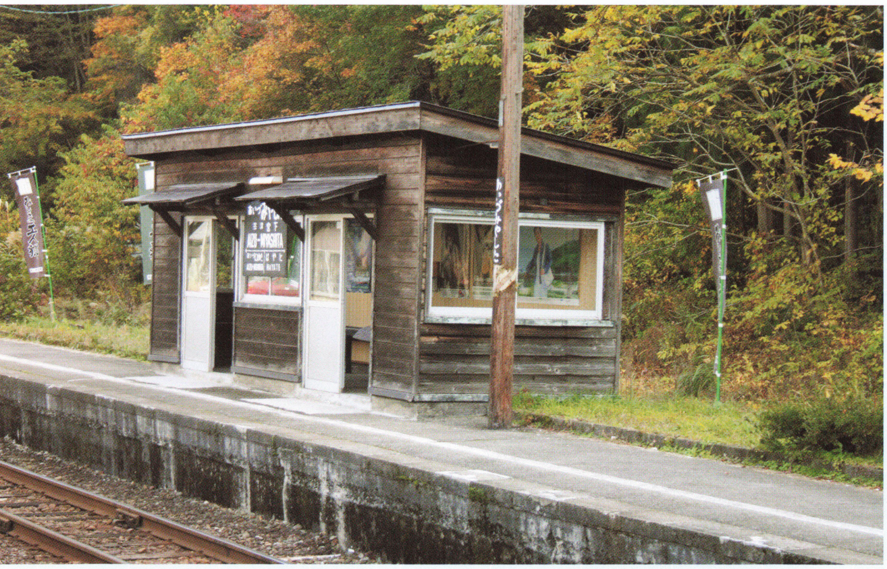
↑新山口駅。新幹線の場合、ホームが長く、線路はスラブ軌道が多い。

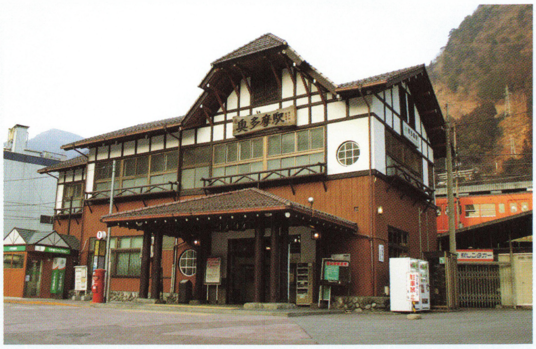
ローカル駅

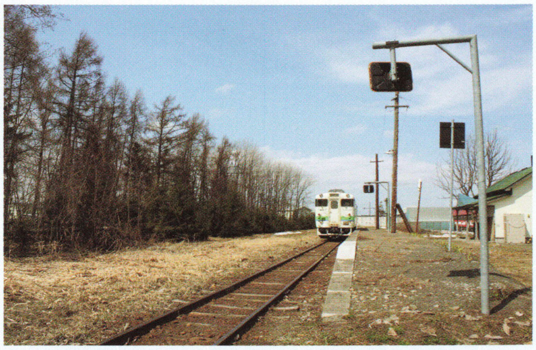
ローカル線の駅は都市の駅とはまた違った雰囲気だ。こぢんまりとした規模の駅も多く、スペースの制約が大きいレイアウトにも表現しやすい。

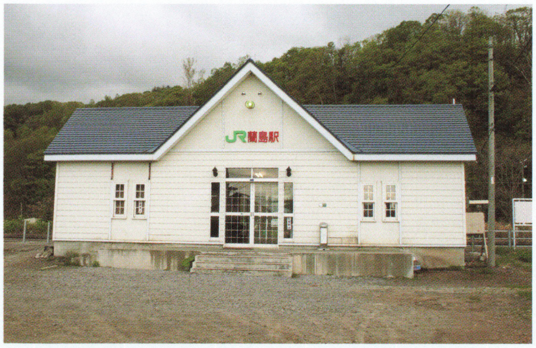
ローカル線の駅は必要最小限の設備に抑えられたものが多い。また、ホームにしても比較的短く、模型化するときも雰囲気を出しやすいだろう。

ローカル線の場合、単線となっているところが多い。そのため、多くの駅に列車行き違いのための設備が設けられていた。この場合のホームは、線路を挟む相対式か、線路に挟まれる島式が一般的だ。しかし、近年では合理化のため、行き違い設備を撤去、規模を縮小してしまったものも多い。この場合、相対式ホームの片側のみを単式として使っているが、使わなくなったホームを残しているところもある。

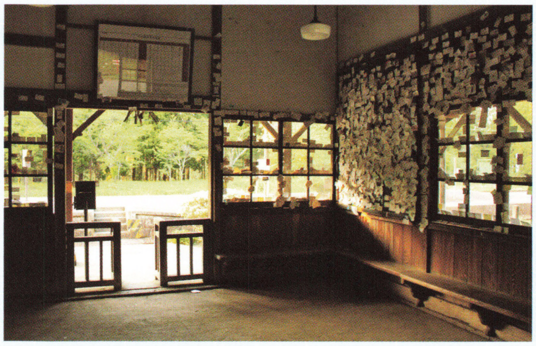

↑只見線会津宮下駅。駅本屋と反対側の相対式ホームにある待合室。

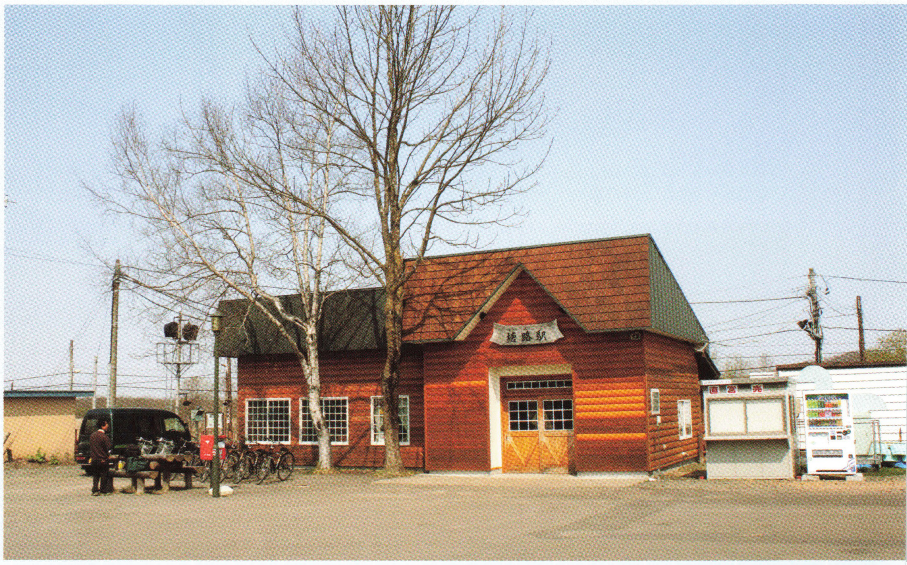

↑青梅線奥多摩駅。観光地の玄関口らしいデザインだ。


↑札沼線新十津川駅。線路とホーム1本ずつの終着駅。

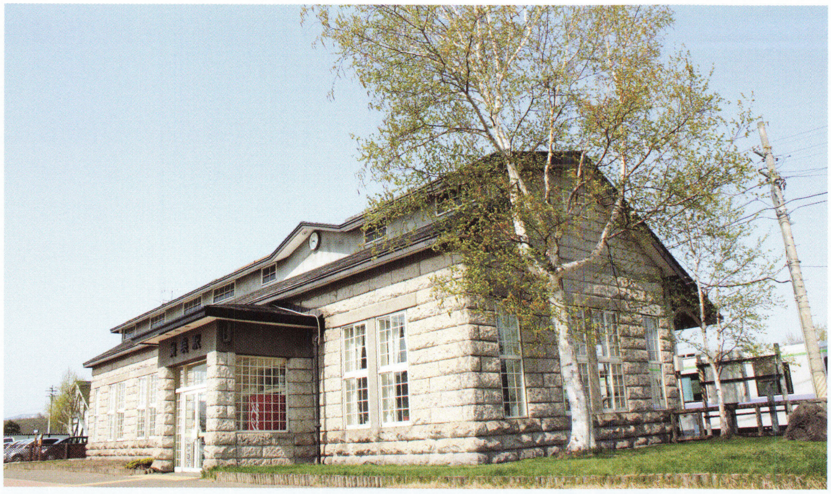


↑函館本線蘭島駅。ローカル線でも駅本屋の改築が進んでいる。

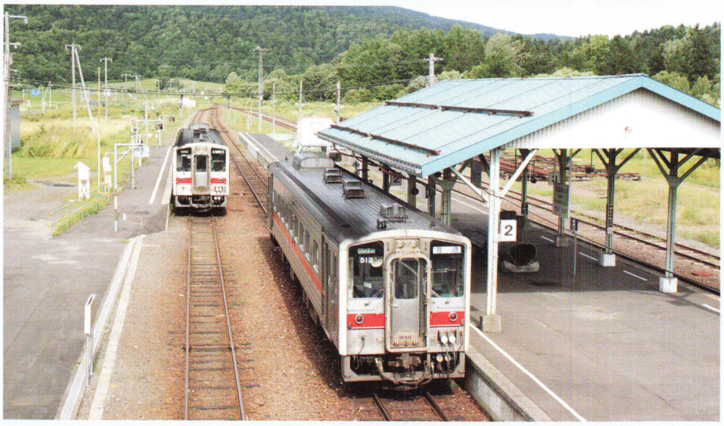

↑肥薩線大畑駅。昔ながらの木造駅舎。“千社札”が見苦しい。



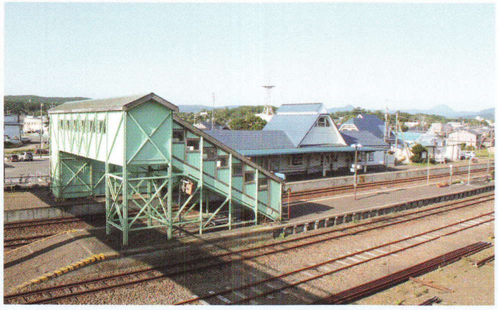
↑釧網本線塘路駅。ログキャビン風のかわいい駅舎に改築されている。



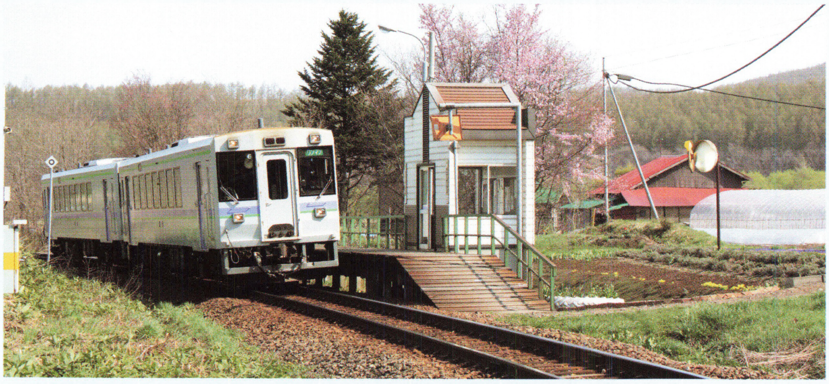
↑富良野線美瑛駅。珍しい石造りの駅だが、これは地元で産出する資材を活用したもの。



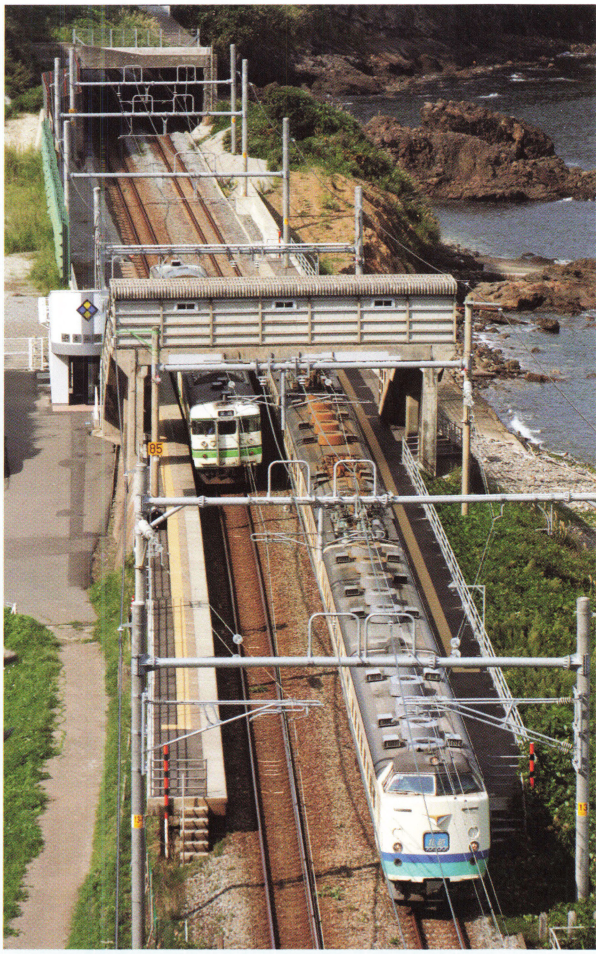
↑宗谷本線音威子府駅。ホームの中央部に必要最小限の屋根が付いている。かつては分岐駅だったため、駅構内は広々としている。



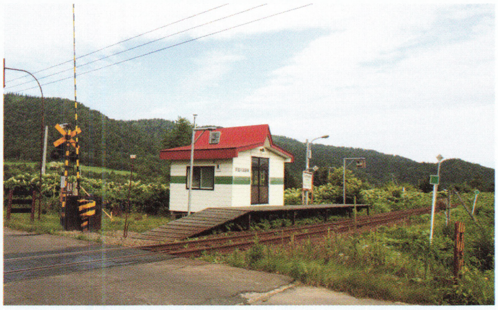
→釧網本線摩周駅。駅本屋とホームを結ぶ跨線橋に注目。色は木造の場合、淡い緑色が多いようだ。



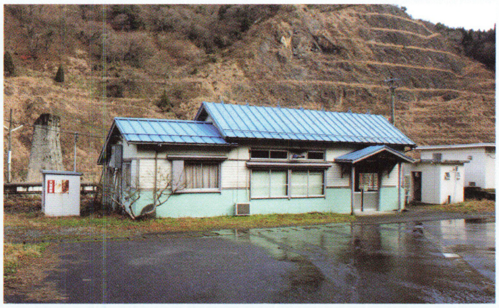
↑富良野線北美瑛駅。木造のホームに小さな待合室という簡素な構造の駅だ。



↑信越本線青海川駅。海に近い駅のひとつとして知られるところ。跨線橋の左たもとに見える小屋が駅舎だ。



↑宗谷本線天塩川温泉駅。かつては仮乗降場だった駅だ。



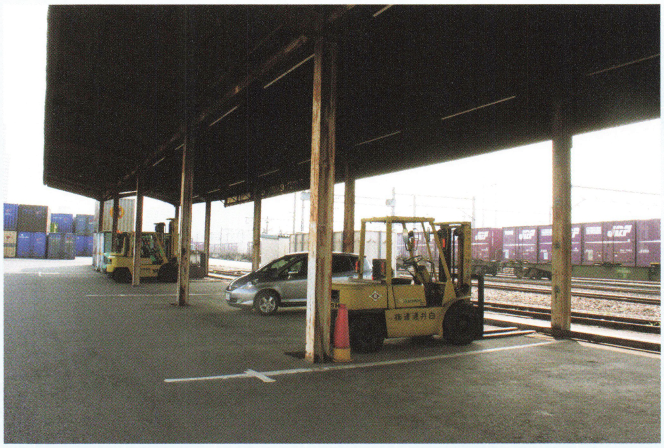
↑大糸線小滝駅。屋根の造りは降雪地の典型的スタイル。

貨物駅

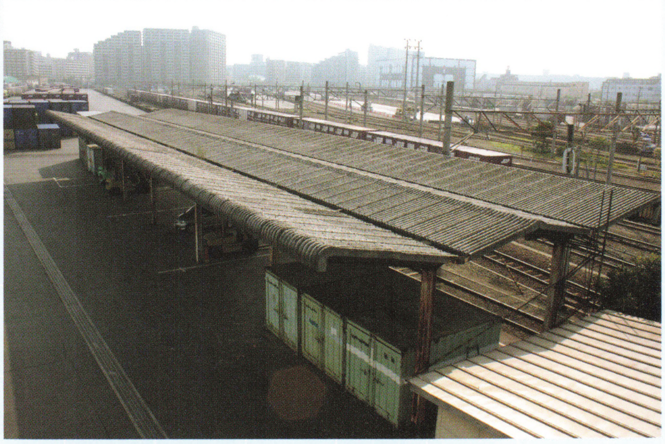
貨物駅はその名の通り、貨物を専用に扱う駅だ。現在はコンテナ列車をメインに運転されているが、物流を扱う重要な拠点となっていることには変わりない。

貨物駅の場合、駅の施設としては線路構造が重要になってくる。コンテナ列車中心の貨物駅では、列車の発着する「着発線」、コンテナの積みおろしをする「荷役線」、さらに着発線と荷役線の移動に必要な「引上線」「機回り線」などがある。このほか、貨車検修の設備を併設した貨物駅もある。

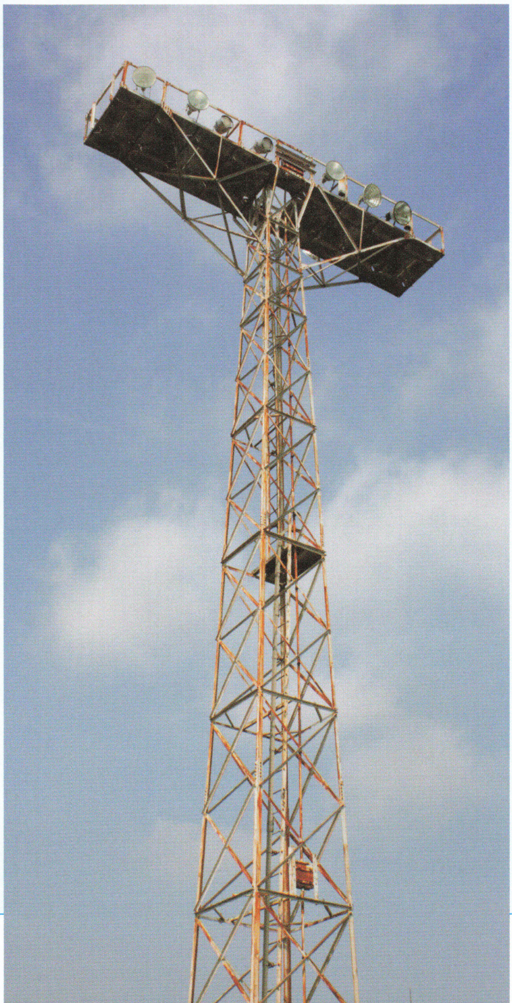
着発線と荷役線が分離しているのは、コンテナの積みおろしにフォークリフトを使うため、架線があると不便なためだ。荷役線にあるホームは、フォークリフトやトラックが自由に動けるように、またコンテナの一時置き場としても使えるように広く造られている。



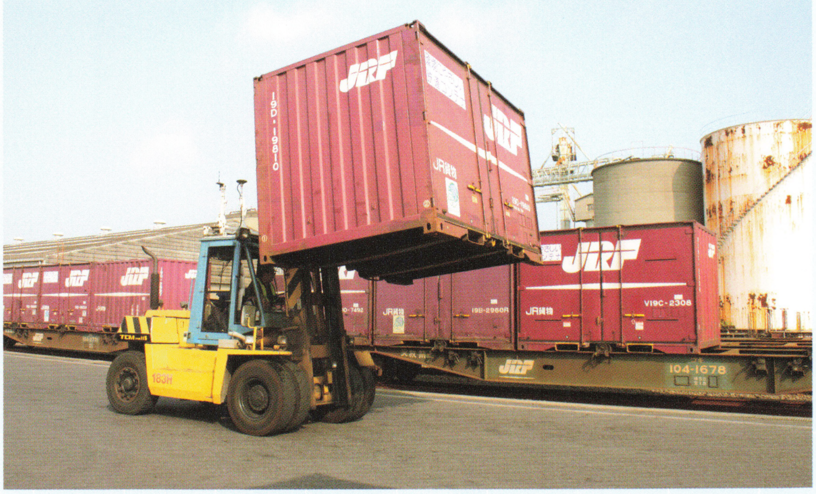
↑有蓋車の荷物積みおろしに使われる貨物ホームは屋根付きが基本だ。



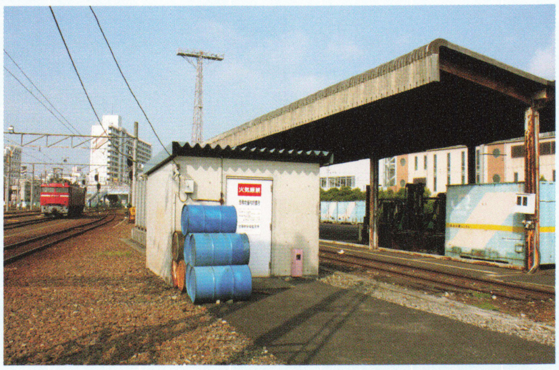
↑貨物ホームの屋根はスレート葺きなどの構造が多い。



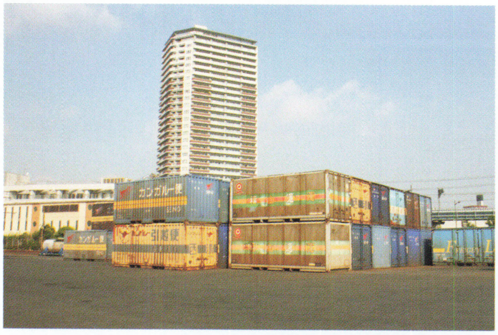
←貨物駅は夜間でも作業が行なわれる。そのため構内には巨大な照明灯がいくつも立っている。



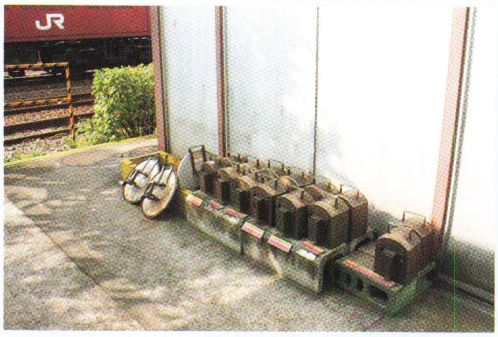
↑フォークリフトを使い、コンテナの積みおろし作業。荷役線のホームは旅客線よりもかなり低い。



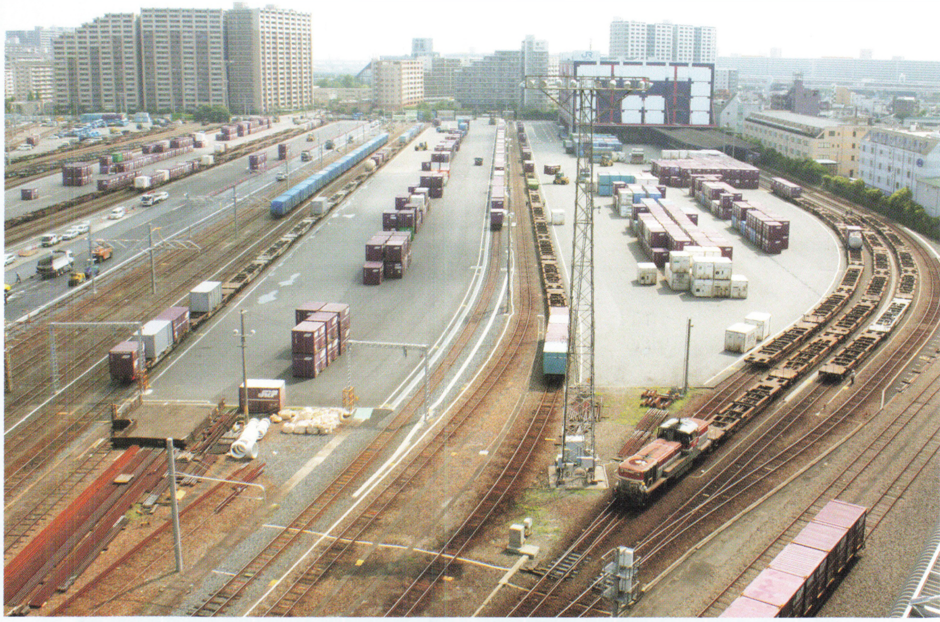
→事務所の暖房などに使う灯油などの燃料は、専用の小屋を設けて収納されている。



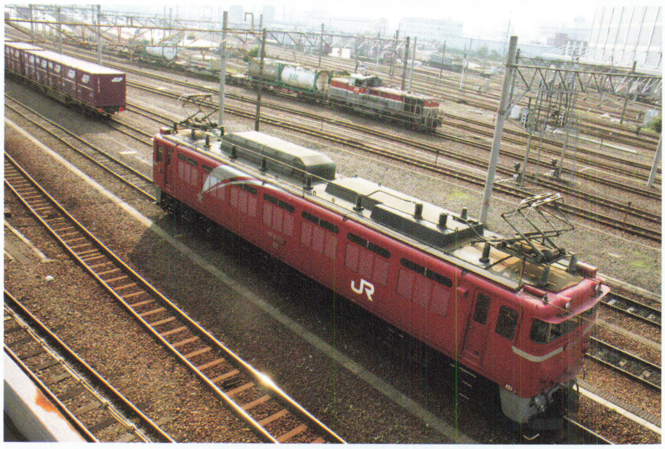
↑ホームのコンテナは最大でも2段重ねで置かれている。



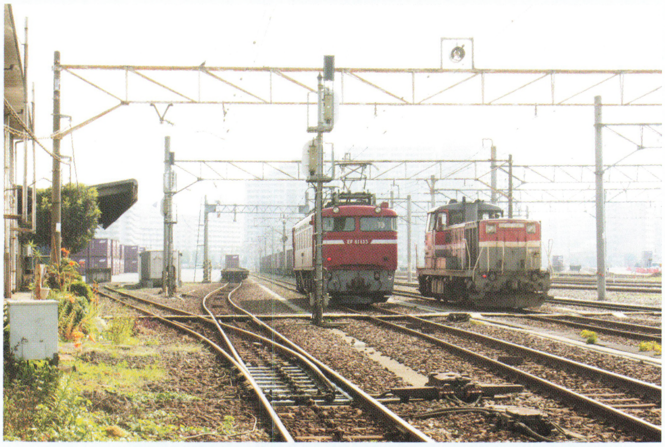
↑テールランプは列車の発車まで保管されている。



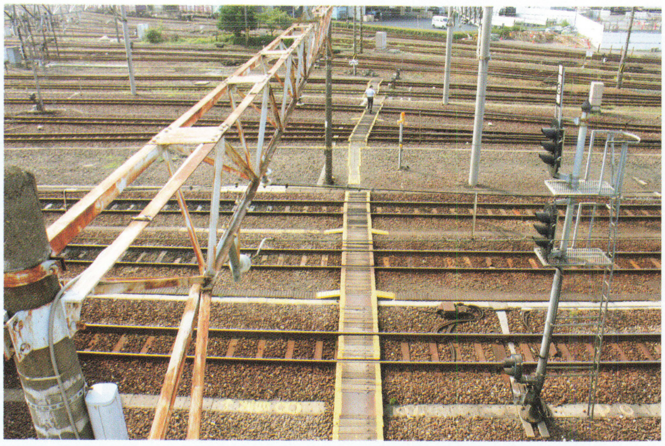
↑隅田川貨物駅の広大な荷役線。ホームの大きさやコンテナの置き方に注目。



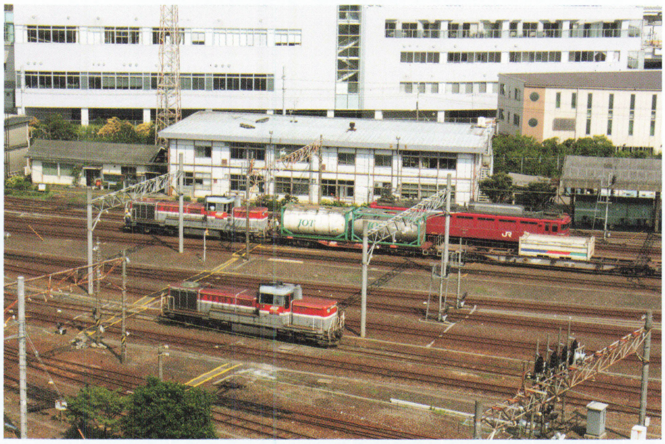
↑貨物駅に旅客用機関車が!!　旅客会社から借り入れて運行するケースもある。



↑列車が貨物駅に到着するとディーゼル機関車で荷役線へと転線する。



↑構内通路と着発線の出発信号機。こうしたものもレイアウトに取り込みたい。



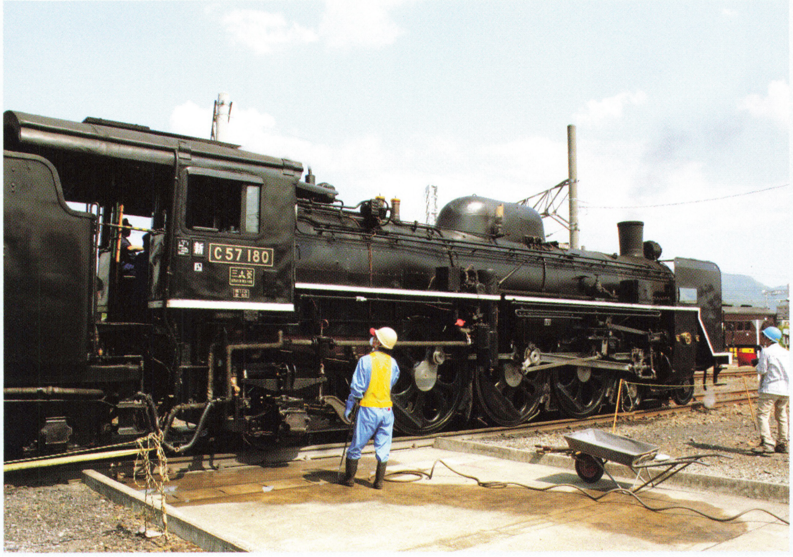
↑構内のわきに設置された詰所。ポイントを切り替える信号場などもある。

車両基地

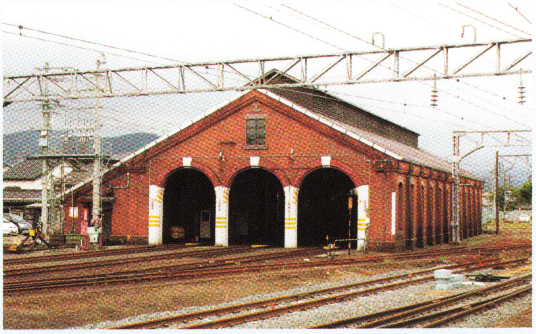
機関車や電車、気動車などの検査・修繕・整備・留置を行うのが車両基地だ。レイアウトにも必ず欲しくなる設備だ。

車両基地は、機関車を扱う「機関区」、電車を扱う「電車区」、気動車を扱う「気動車区」、客車を扱う「客車区」、貨車を扱う「貨車区」のように分類されているが、近年は電車と客車など2区以上を共同管理する「運転所」となっているものも多い。

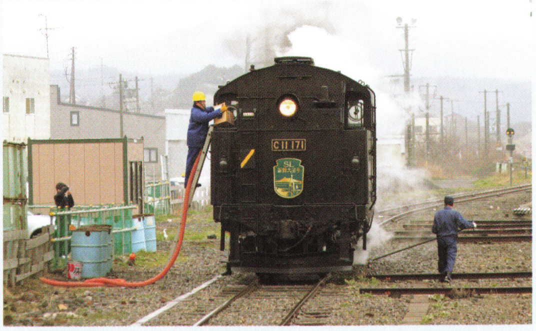
構内で一番大きな面積を占めるのは、「留置線」だ。特に電車、気動車、客車を扱っている車両基地が顕著。このほか、検査や修理を行なう「検修車庫」、車体の洗浄を行なう「洗浄線」なども必要だ。なお、構内の入出区のための着発線、留置線、検修線などが効率よく動けるように配置されている。



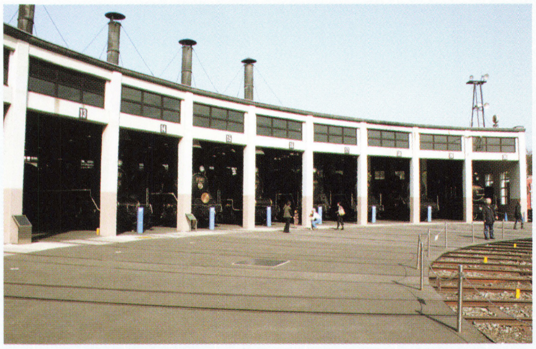
↑会津若松駅での折り返し時間に整備を受けるC57。ここでは石炭ガラの処理作業中。



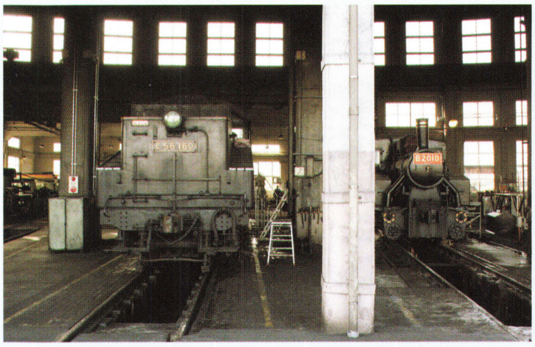
↑糸魚川駅に併設された車両基地にあったレンガ造りの機関庫。



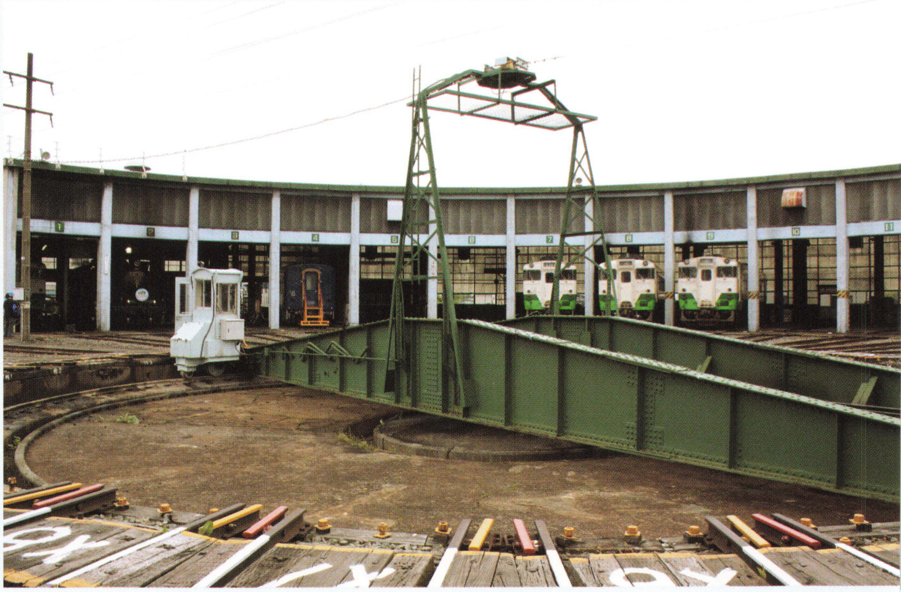
↑森駅で給水中。保存運転の場合、こうした簡易作業が多い。



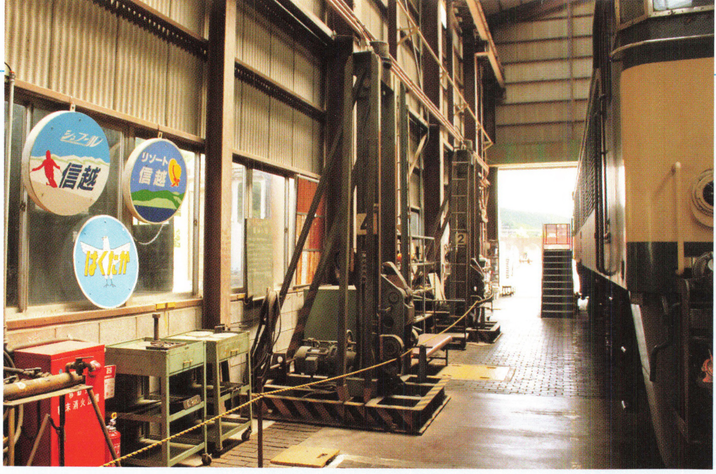
↑梅小路蒸気機関車館として保存されているSL用の扇形庫。



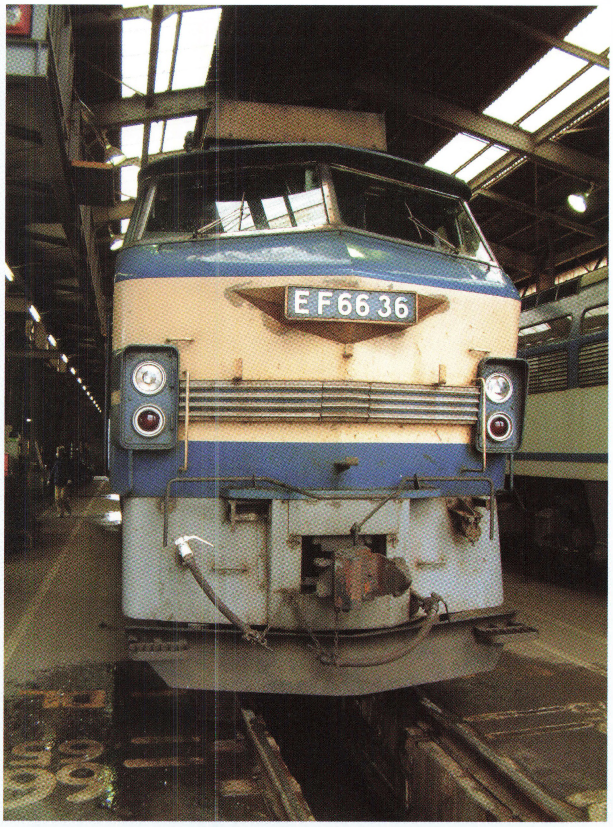
↑扇形庫では留置だけでなく検修などの整備作業も行なわれる。



↑ターンテーブルを中心に扇形庫が広がる。気動車などの車庫としても使用。会津若松にて。

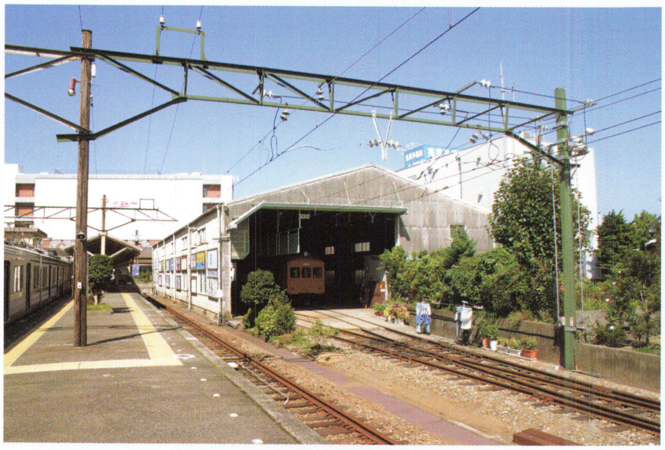


↑検修車庫にはさまざまな道具が用意されている。信越本線横川運転区は当時のままの姿で「碓氷峠鉄道文化むら」として展示中。

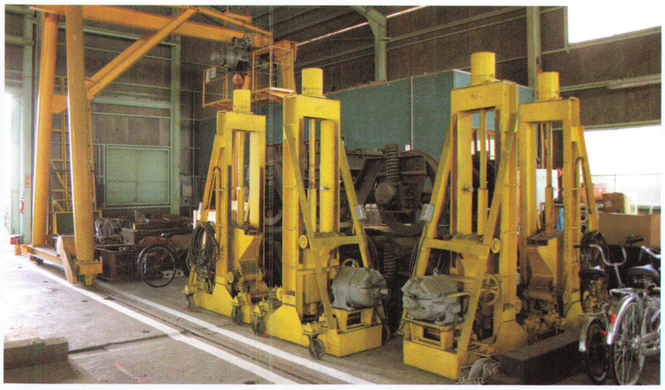


↑東京貨物ターミナルに隣接した大井機関区の検修車庫。

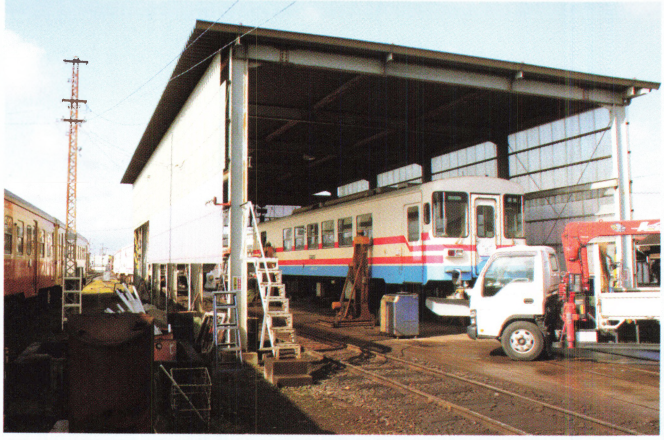
→SLの石炭ガラなどを運ぶときに使われる一輪車。こうした小物も車両基地に必要だ。



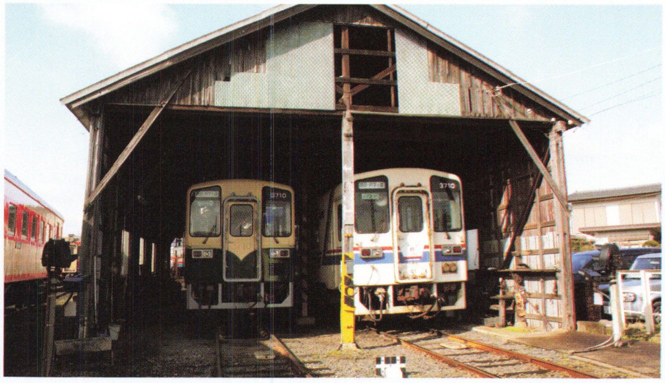
↑伊豆箱根鉄道大雄山駅に併設された検修車庫。



↑伊豆箱根鉄道大雄山駅の検修車庫にある車体用のジャッキ。



↑ひたちなか海浜鉄道の那珂湊駅に併設された新しい検修車庫。



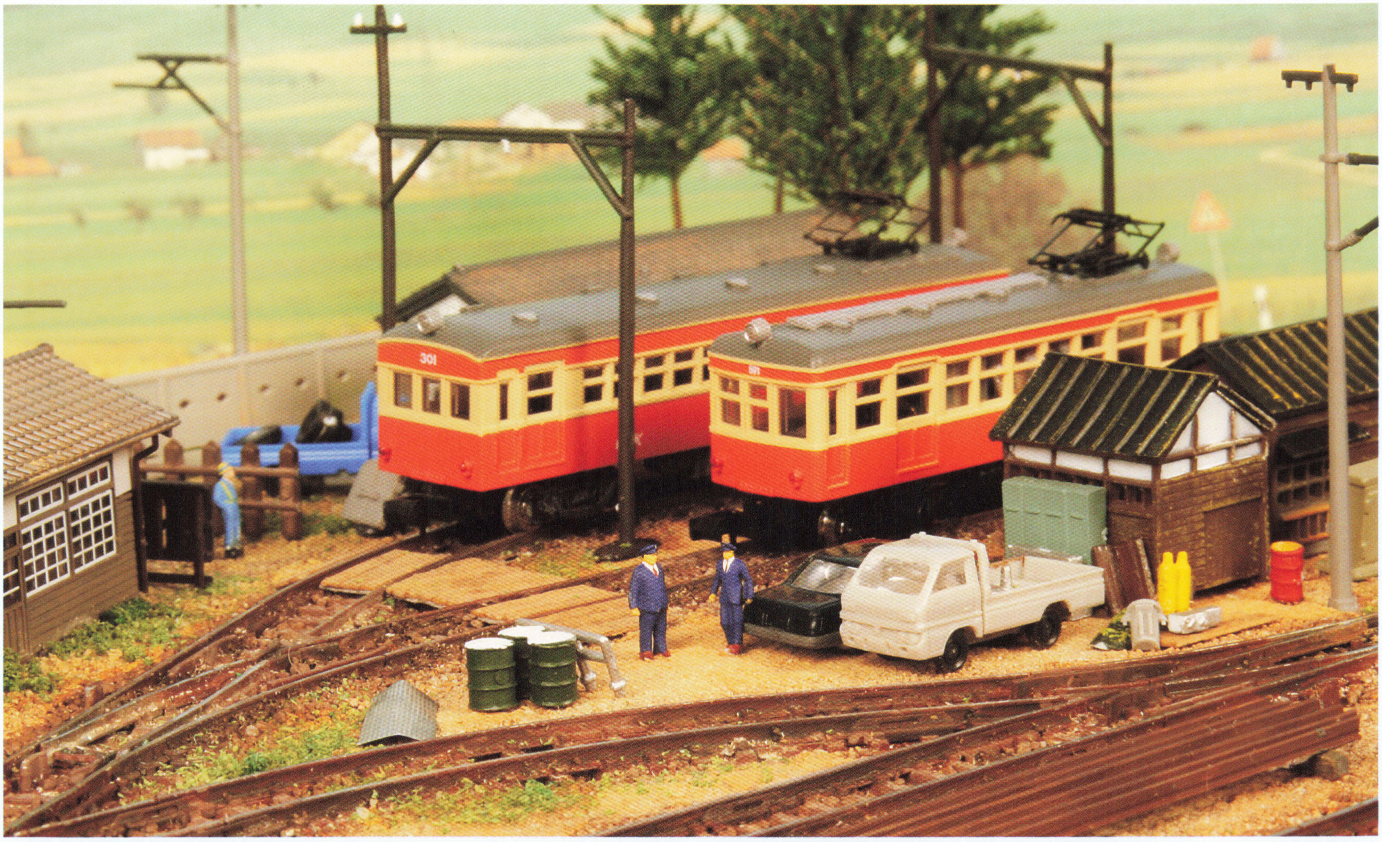
↑ひたちなか海浜鉄道の那珂湊駅に併設された木造の検修車庫。

ミニレイアウトを作る 銚子電気鉄道仲ノ町風レイアウト

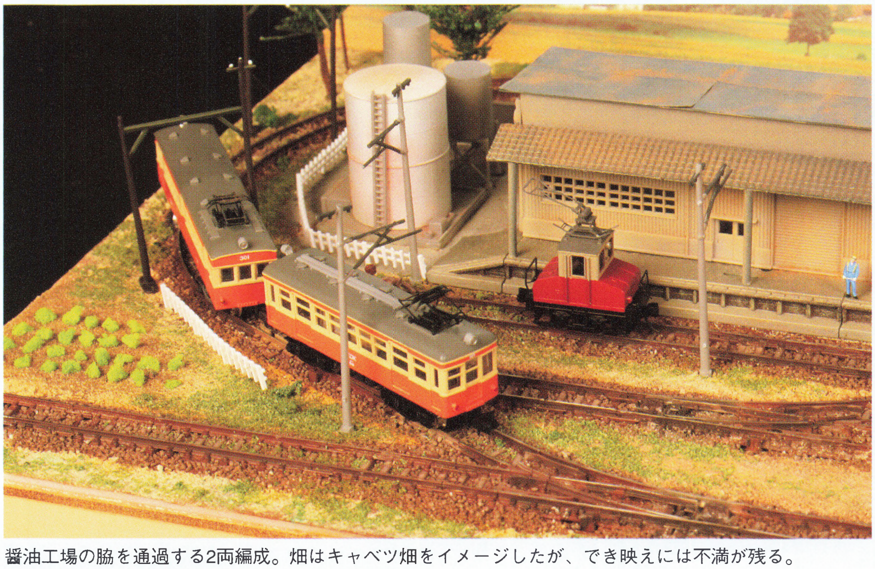
実物の風景を観察して作ったレイアウト

市販されているベースボードを利用して作った、サイズ600×300㎜のミニレイアウト。小型車両専用だが、このサイズでもエンドレスや留置線が作れる。

制作＆解説：池口 英司



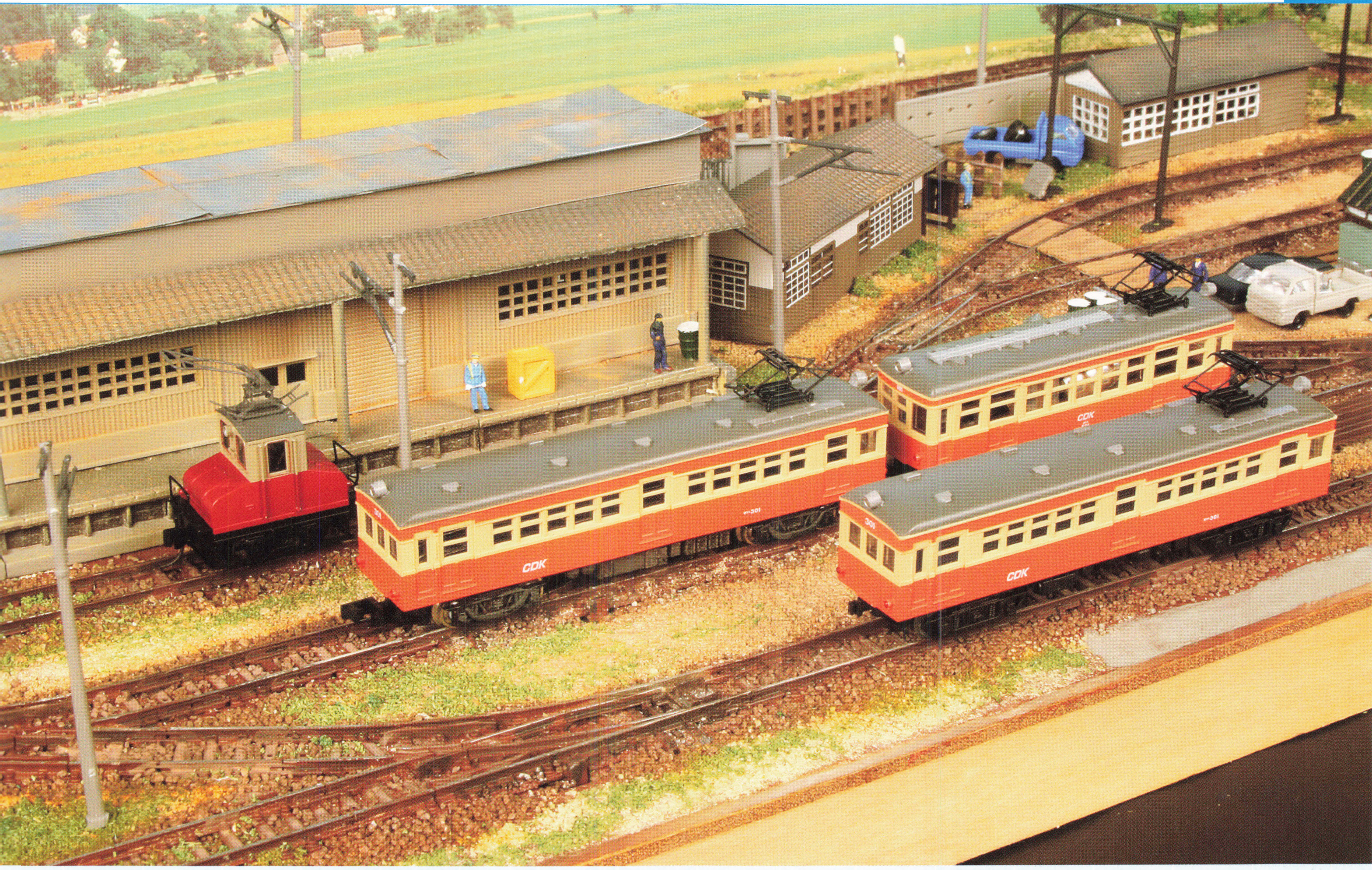
レイアウトの中央に電留線があり、2列車の留置が可能。この付近にはアクセサリーを集中的に配置した。



醤油工場の脇を通過する2両編成。畑はキャベツ畑をイメージしたが、でき映えには不満が残る。

曲線半径R103の小型車両専用レイアウト

トミックスの「スーパーミニカーブレール」と「コンビネーションボードA」１枚を使用して作ったミニレイアウト。曲線半径はR103で、カーブがこれだけ急だと走らせられる車両も限られるが、600×300㎜という小さなスペースでも、エンドレスや、電車の留置線などを作ることができる。これくらいの大きさであれば、どんな部屋にも置くことができるはず。工作の楽しさは、大レイアウトと変わりない（制作記事は218ページ参照）。

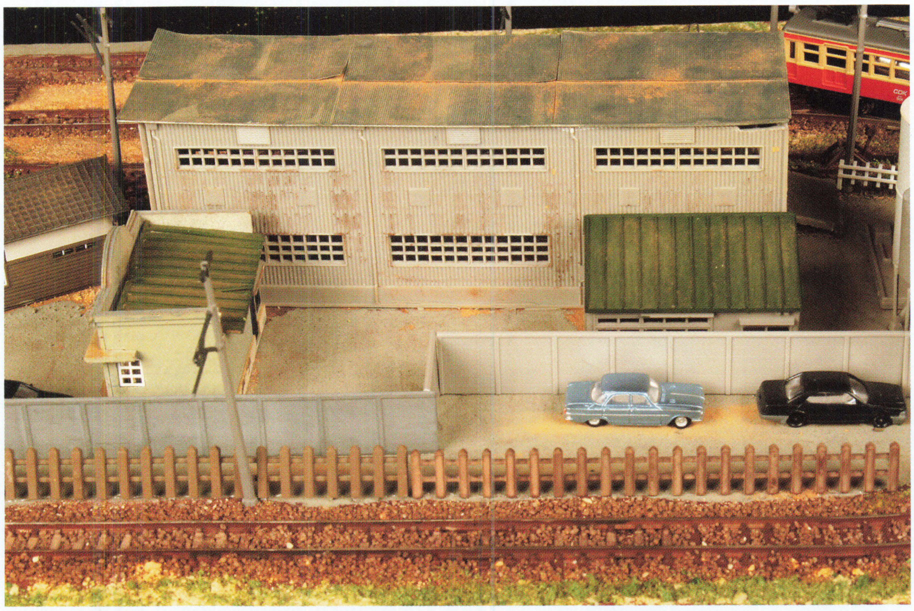


レイアウト中央に集う主力車両。背後に見える機関車は、実物も銚子電気鉄道のアイドル的存在だ（模型協力：ワールド工芸）。

小型レイアウトならではの密度の高い風景が展開する

多数配置されたアクセサリーは存在感十分だ。

詰所の裏手にもアクセサリーが配置されている。

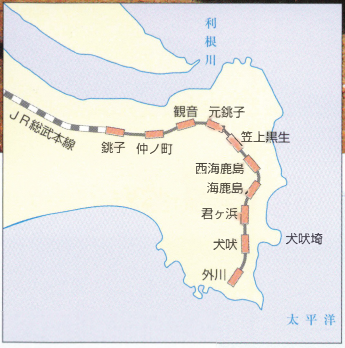


醤油工場の裏手は人影もなく森閑とした雰囲気だ。

銚子電気鉄道フォトスケッチ

千葉県の東端を走る銚子電気鉄道。地方私鉄らしい佇まいを残したこの路線では、模型化に好適な題材を、いくつでも見つけることができる。

1001
銚子・外川
ワンマン
ふうりん
銚子↔外川
702


利根川
JR総武本線
銚子
仲ノ町
観音
元銚子
笠上黒生
西海鹿島
海鹿島
君ヶ浜
犬吠
犬吠埼
外川
太平洋

銚子電気鉄道

銚子電鉄のアイドル的存在デキ3。今も仲ノ町の車庫に留置されている。

地方私鉄を旅して模型作りの題材を拾おう

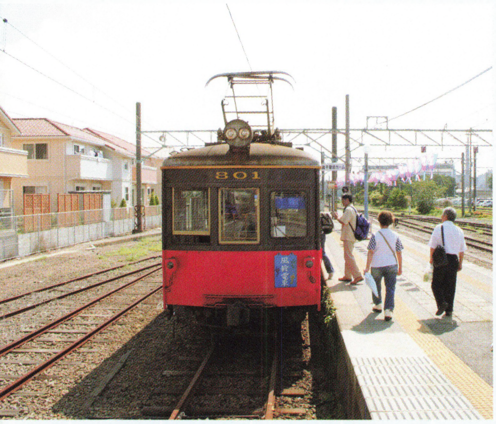
銚子駅でJRと接続して、犬吠埼にも近い外川駅までを走る銚子電気鉄道。営業距離わずか6.4kmのこの路線は、しかし、小型電車による運転、沿線に数多く残っているクラシカルな設備など、模型化にも好適な題材を数多く見つけることができる。今日では失われがちな、ローカル私鉄らしい個性が失われていないのがこの鉄道なのである。

ここでは銚子電鉄の旅の記録から、そのまま模型にできそうな情景を紹介してみよう。リアルなNゲージモデル作りに、きっと役に立つはずだ。

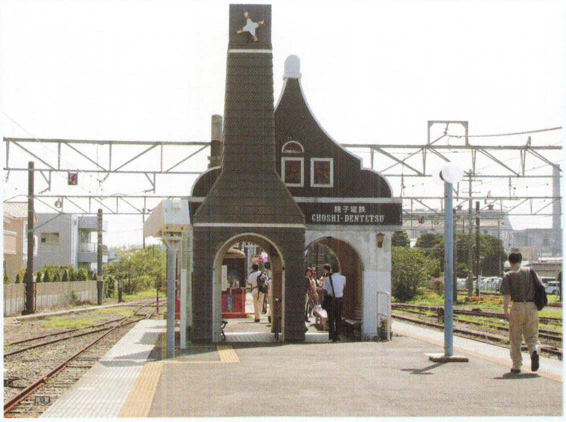
銚子駅

JRのホームの端にこの路線の起点がある

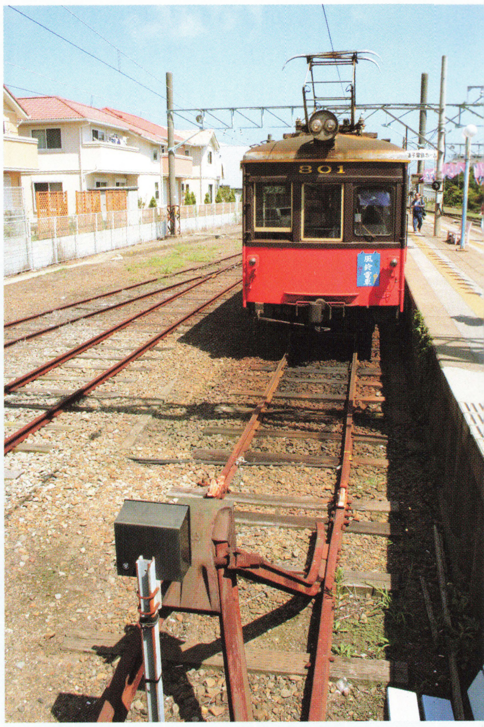
銚子電気鉄道の銚子駅は、JR銚子駅2・3番線ホームの端にある。ホーム上にメルヘンチックなデザインの駅舎が建つ珍しい構造で、駅舎内は無人だが、さまざまなグッズが展示され、観光色が前面に出されている。この駅を模型化するのであれば、銚子電鉄の電車と、JRの電車を並べてみるのも面白そうだ。



銚子電鉄の銚子駅はJRの2・3番線ホームの先端に、片面のホームが設けられている。



ホーム上の駅舎。1991年に改築、オランダの風車を思わせる造りになったが、今は羽根車がない。

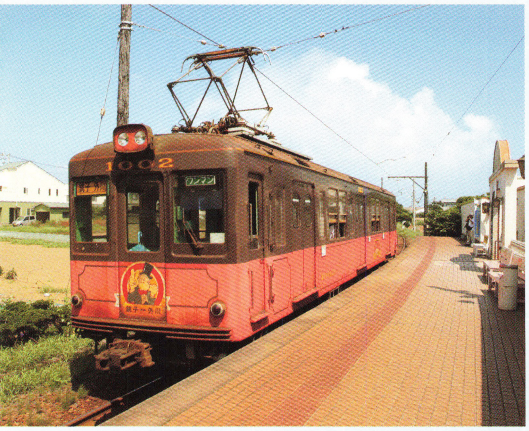


古びた車止めも、リアルなスタイルで模型化してみたいテーマのひとつだ。

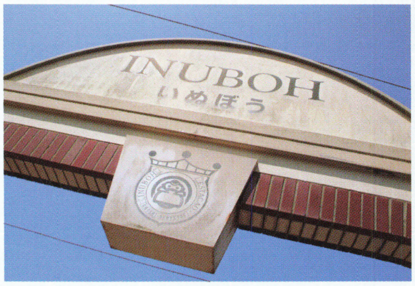
犬吠駅

駅前にも南国ムードが漂う駅

犬吠駅の駅舎は、改築によって南欧風のデザインに変身した。駅前も公園を思わせる明るい雰囲気となり、エキゾチックな雰囲気が漂っている。駅前に置かれている車両は、かつて銚子電鉄で働いた電車の廃車体。今も一風変わったモニュメントとして、観光客の記念写真のバックなどに役立っている。

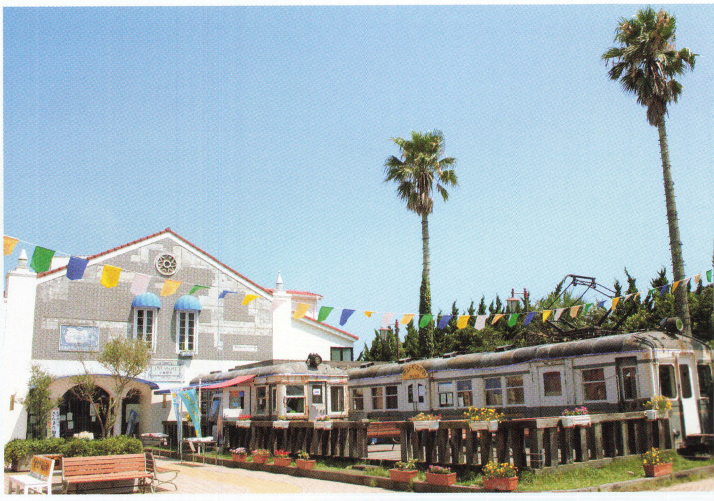


犬吠駅もホームは1面1線。観光地も近く、多くの人がこの駅を利用する。



駅名を示すアーチも南欧風の造りだ。

駅前のポストはごく普通のデザイン。のぼりの存在が観光地らしい。

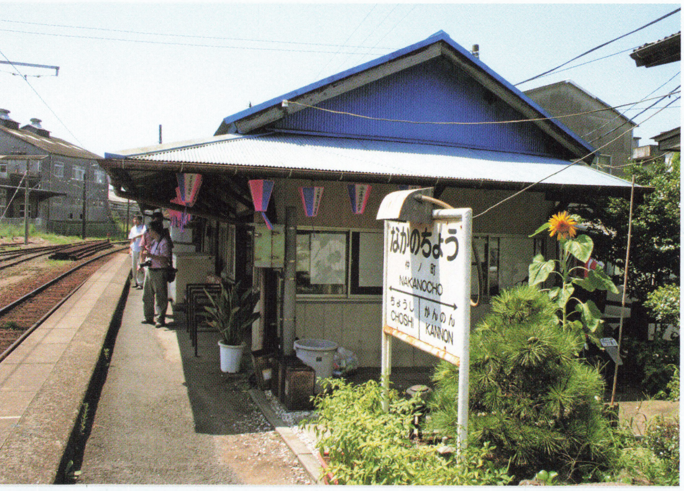


犬吠駅の駅舎と廃車体。廃車体はかつては工芸教室などに利用されていた。今も観光客の目を引いている。

仲ノ町駅

車庫が隣接する銚子電鉄の中枢の駅

銚子駅からわずか0.5kmの距離にあるのが仲ノ町駅。この駅に隣接して銚子電鉄の車庫が設けられており、いつも複数の車両が留置されている。また、ヤマサ醤油の工場もすぐ近くにあり、大きなタンクがずらりと並ぶ姿は壮観。駅構内には保線用の資材も所狭しと並べられ、モデラーには魅力的な情景となっている。この駅は列車の交換も可能な配線になっているが、ホームは１面のみなので、実際の運転では列車の交換は行なわれていない。


なかのちょう
仲ノ町
NAKANOCHO
ちょうし CHOSHI
かんのん KANNON

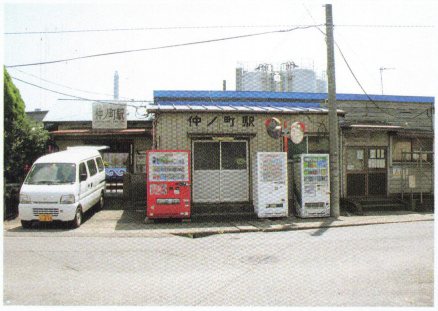
なかのちょう
仲ノ町
NAKANOCHO
ちょうし CHOSHI
かんのん KANNON

駅名標。オーソドックスなスタイルだが、思えばこのような駅名標も数少なくなった。

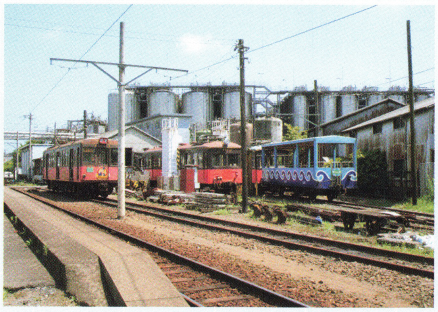
ホームは1面のみなので、当駅での列車の交換は行なわれない。ヒマワリの咲く花壇が印象的だ。

仲ノ町駅
NAKANOCHŌ STATION

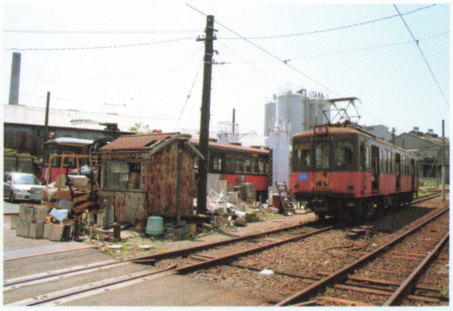
駅舎入口。手書き風の駅名標も、いかにも地方私鉄のものらしい魅力的な存在だ。



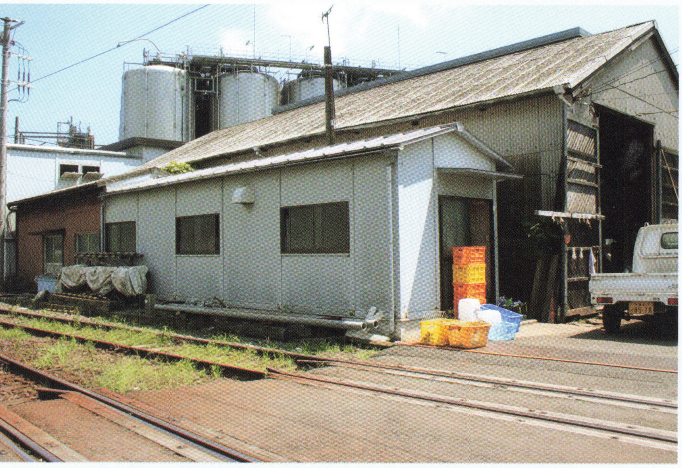
駅舎の前には自動販売機が並び、駅舎の横の空き地は駐車スペースになっている。



駅構内にはいつも複数の車両が留置されている。後方に並んでいるのはヤマサ工場のタンク。



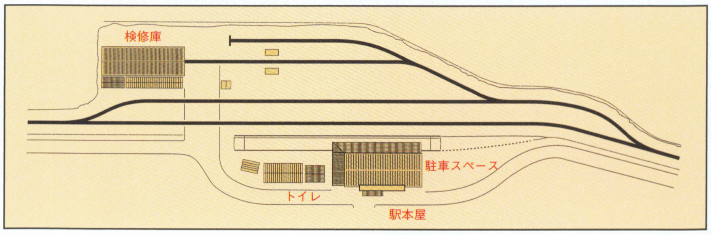
駅構内にはさまざまな資材も並べられている。モデルもこれを模して賑やかな構内にしてみたい。



検修庫。模型化するなら、張り出し部分を自作して、個性的な姿を再現してみたい。

荷役にはフォークリフトも使用されている。

駅構内ではデキ3の姿を発見できる。

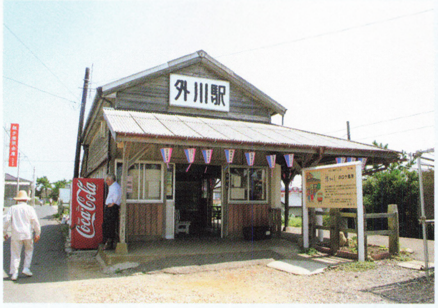

検修庫
駐車スペース
トイレ
駅本屋

外川駅

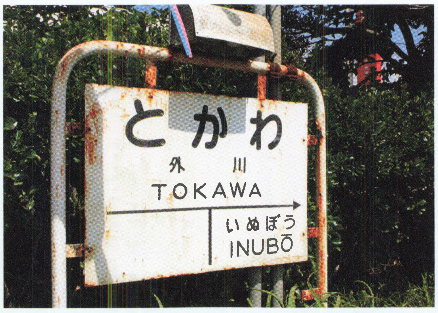
銚子電鉄の終着駅はクラシカルなスタイル

銚子電鉄の終着駅が外川駅。銚子駅や、犬吠駅などが改装によってエキゾチックなスタイルに変身したのに対し、この駅は小さな木造駅舎が建つ昔ながらのスタイルを保ち、対比の妙を描いている。

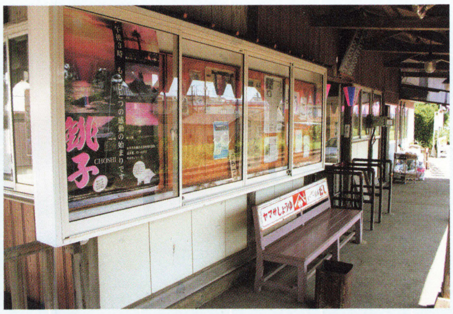
バラストがほとんど無くなった線路、線路を囲む木製の柵、同じく木製の架線柱なども、地方私鉄らしさが感じられるアイテム。何度訪れてみても、模型化してみても、魅力たっぷりなのが、外川駅だ。



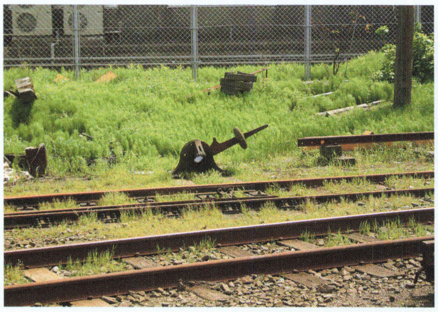
出入口は建物の妻側に設けられている。朝のテレビドラマのロケ地になったことを紹介する看板が建つ。



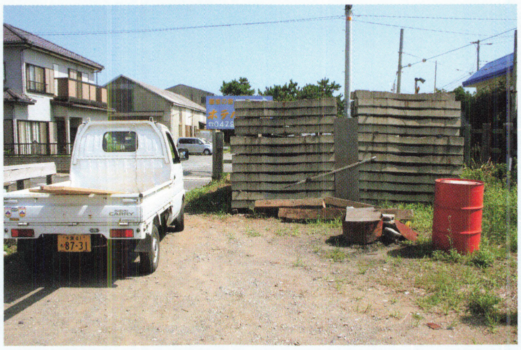
駅名標。もちろん隣の駅は片側しか書かれていない。模型でもこれは是非再現してみよう。



ホーム上、改札口の脇には木製のベンチが置かれている。

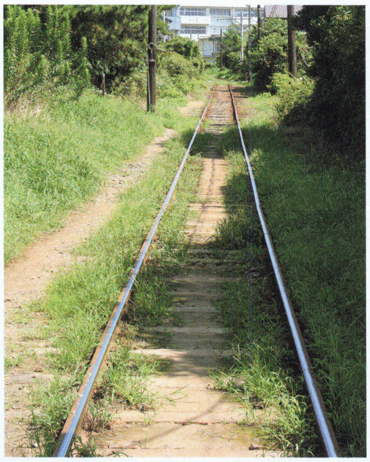


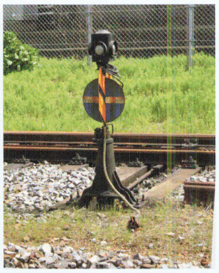
線路の脇で、雑草に埋もれるようにして残る転轍器ハンドル。



駅構内の端には枕木が積み上げられている。

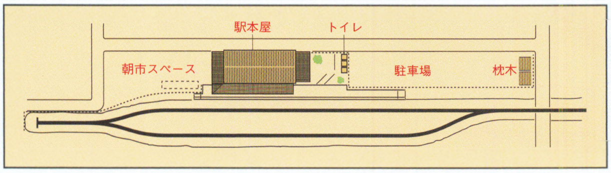
これは君ヶ浜駅で見かけた情景。後方のベンチも、いかにも銚子のものらしいスタイルだ。

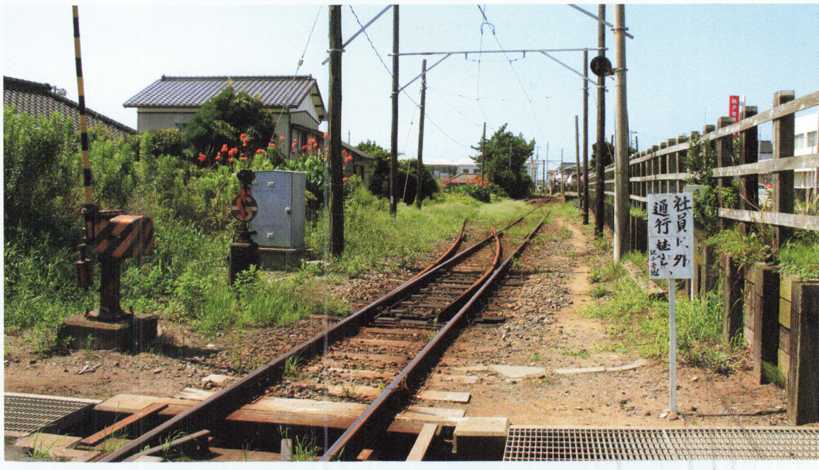




ポイントの脇には矢羽根も建っている。これも地方私鉄らしいアイテムだ。

←枕木は土に埋もれ、バラストはほとんど無くなっている。都市の鉄道ではこのような情景は見られない。





銚子側から見た駅構内。木製の柵は廃品となった枕木を再利用したものだ。

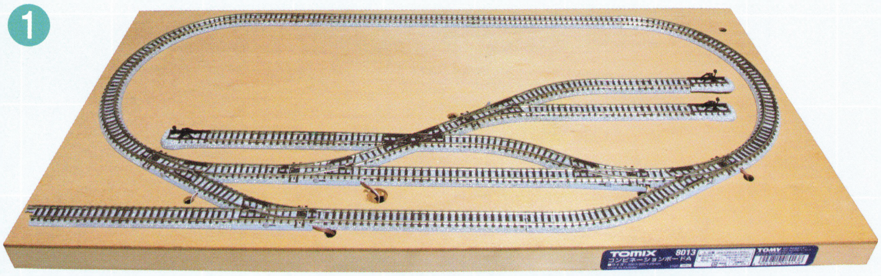
銚子電鉄風レイアウトを作る

300×600㎜という小さなスペースに、エンドレス、留置線、交換設備など、レイアウトに必要な要素を可能な限り詰め込んだレイアウト。地方私鉄の小型電車の運転が楽しめる。

Step I　ボードに線路を取り付ける

レイアウトのベースには市販品を使用。全体にフラットな地形を想定しているので、作業はテンポよく進められる。

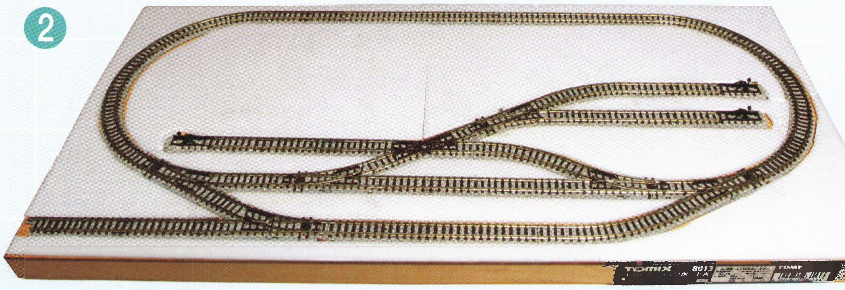
①



ボードに線路を固定する

まず最初に、ボードに線路を固定する。作例ではトミックスの「コンビネーションボードA」を使用し、小釘を使って線路を固定。線路配置の決定は、実際に曲線やポイントをつないだり、外したりしながら決定してゆくのもひとつの方法だ。

②



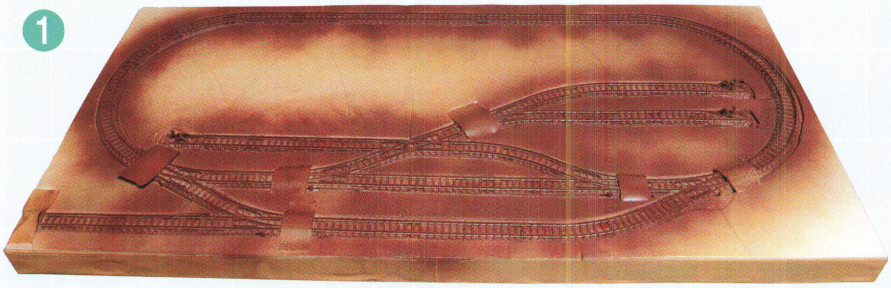
スチレンボードを敷く

ローカル線の線路に撒かれているバラストの薄さを表現するために、線路以外の場所に3㎜厚のスチレンボードを接着する。レールを固定する前に、スチレンボードの上に線路を置き、場所をなぞっておいてから、ボードをカットする。

Step 2 線路と地面の質感を作る

線路が固定されたなら、地面と線路まわりの制作に入る。線路の塗装はレイアウトをリアルに仕立てるが、ポイントの可動部には塗料が回り込まないように注意する。

①



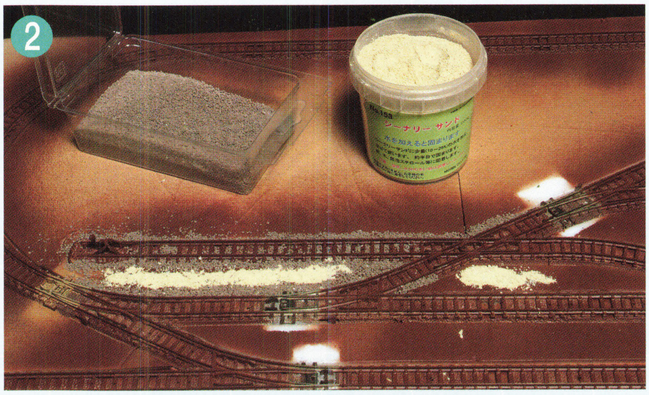
線路を塗装する

スプレーを使って線路を塗装する。レールが錆びた色に近い茶系を使って、道床ごと塗装。この時、ポイントの可動部はマスキングテープなどで覆って塗料が回り込まないようにすること。全体に落ち着いた色調に仕上がるよう留意する。

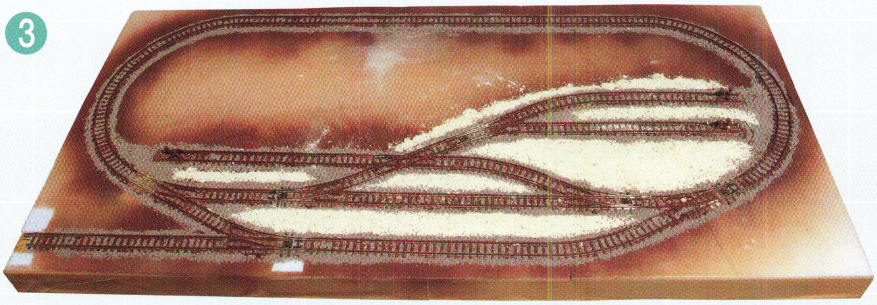
バラストを撒き、地面を作る

塗料が乾いたら、バラストを散布する。バラストは水で5倍程度に薄めた木工用ボンドをスポイトで滴下して固着させる。地面の表現には「シーナリーサンド」というジオラマ制作用の素材を使用。通常は粉末に水を加えて敷き詰めるが、ここではまず粉末を敷いてから、スポイトで水を滴下させて固着させる方法を採った。

②



③



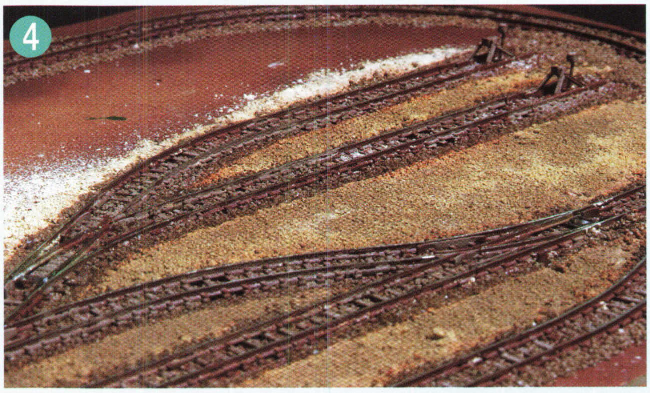
地面作りの作業を続ける

バラストが固着したら、これも薄い茶系で着色し、レールと同様の色調に仕上げる。一度に濃い色を塗らず、薄い色を何度も塗り重ねるようにするのがコツ。薄く溶いた塗料を筆先に含ませ、少しずつ「置いてゆく」感じで塗るようにする。

色の微調整を行なう

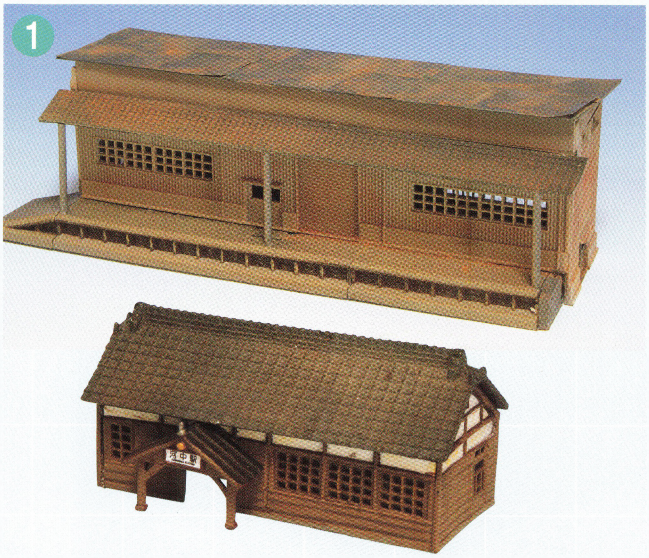
写真は地面の一部の着色を始めた状態。塗料が乾燥すると全体に明るい色調となるが、作例は暗めの色調に感じられたので、さらに「シーナリーサンド」を撒いて、色調を明るくするよう努めた。少しずつ手直しができるのもレイアウト工作のよいところ。できあがりを観察しながら、慌てずに作業を進めたい。

④



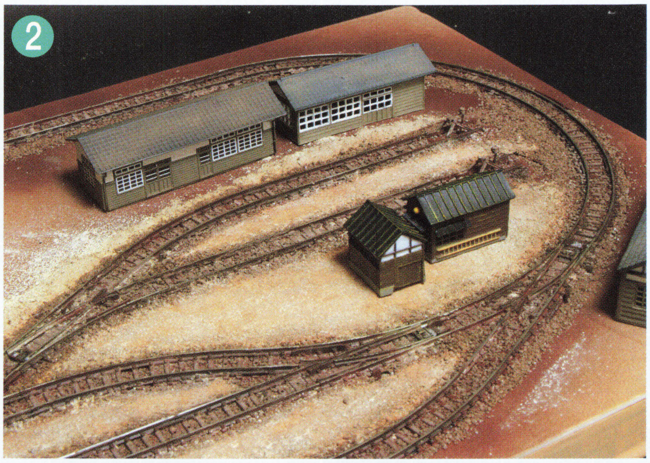
Step 3 ストラクチャーを配置する

地面ができあがったらストラクチャー（建物）を配置しよう。レイアウトの中に生活感が生まれてくるのが、この工程だ。



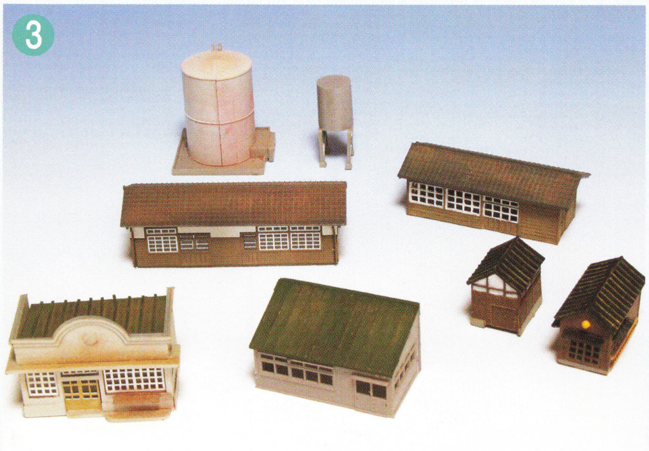
ストラクチャーを用意しよう

レイアウトに配置するストラクチャーは、レイアウト本体の工作とは別工程で用意しておくとよい。写真はキット改造による醤油工場と、完成品を再塗装した駅舎。



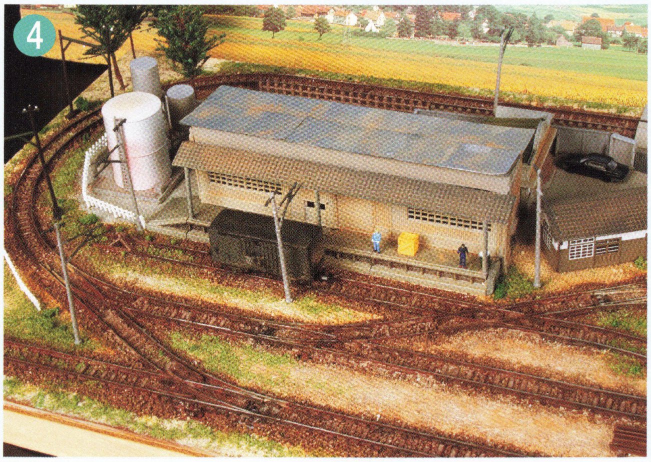
イメージを再確認する

地面が仕上がったら建物を仮に置いて、イメージを確認しよう。建物が大き過ぎて予定の場所に置くことができないことなどが時にはあるもの。予定通り建物を配置することができることが確認できたら、少量のゴム系接着剤で、建物をレイアウトの上に固定しよう。



他にもストラクチャーを用意する

他にも写真のようなストラクチャーを用意した。木造の詰所はカトー製。トイレ、日通事務所などはキットを組み立てたものだ。いずれも超精密な仕上がりとはいえないものの、ある程度の数を並べてみると、レイアウトは活気に満ち溢れたものとなる。

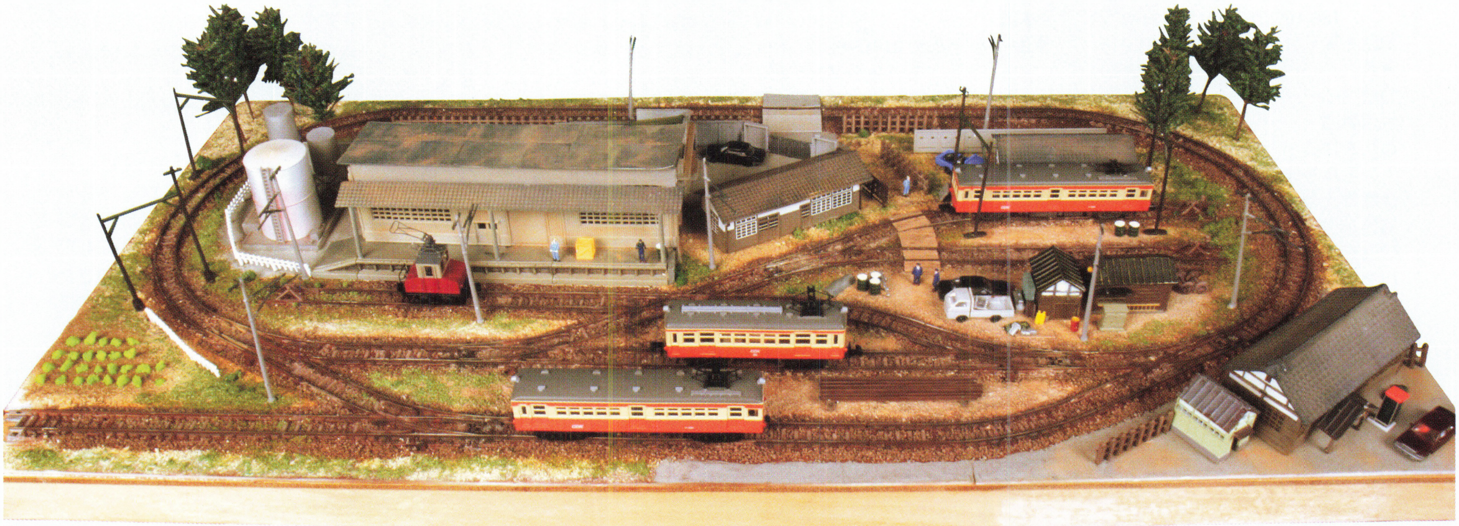


完成した醤油工場引込線

醤油工場の屋根は、グリーンマックス製のコルゲート板を貼り合わせ、パステルの粉をたっぷりとすり込んだもの。塗装も、わざとムラをつけてある。ホーム上にはアクセサリーを配置。小さなアクセサリーがひとつ増えるだけで、風景はがぜんリアルなものとなってゆく。

Step 4 ついに完成だ！

小さな作業を積み重ねて、レイアウトが完成した。ひとつひとつの作業は難しいものではなかったはず。根気よく作業を進めれば、必ず完成にいたるのがレイアウトの工作だ。



醤油工場の引込線に停車中の貨物列車。短い編成が短い引込線によく似合う。

レイアウトの右手前には駅舎を設置。小さな造りが地方私鉄らしさを演出。

醤油工場引込線を側面から見る。小さな機関車はアイドル的存在だ。

留置線に停車中の電車。このレイアウトでは単行、または２両編成で運転される。

INDEX

●作る
レイアウト……49〜55,64〜93,188,195,212〜213,218〜221
線路を取り付ける 70,132,191,218
背景……100,117,179
勾配……132,192
併用軌道……71
踏切を作る……86
トンネルを作る……72
建物や土台……73,86,132
道路を作る……74
砂浜を作る……87
川を作る……75
樹木を植える……88,133,195
草を植える……87,195
岩を作る……76
地形の基盤を作る……76
石垣を取り付ける……76
地面を作る……77
道路面の標記を描く……89
地面を塗装する……78
水面を塗装する……78
水面を仕上げる……79,133
海を演出する……79
完成品の加工……80
キットを塗装する……82
樹木キットを作る……84
プラスター……77,193,219
バラストの散布法……86,194,219
キットを組む……81〜82,196
樹木を自作する……85
ウェザリング……123,171,197,198
墨入れ……71,80
ドライブラシ……71,80
線路を塗装する……219
建物の位置を決める……70
人形を配置する……38,45,89,121
埃対策……33,41,141,185
●製品
駅……81,183,198
小型車両……94〜97
詰所……196
サブテレイン……73,132,192
コンビネーションボード……107
デスクトップレイアウト……107
レイアウトボード……107
ジオラマコレクション……122
缶スプレー……82
木工用接着剤……69
プラスチック用接着剤……83
●テーマ
固定レイアウト……103
集合式レイアウト……103
ジオラマ……103
駅…24,46,51,55,115,120,122,123,136,167,168〜169,173,180,188,189
ミニレイアウト……114〜119
駅前広場……55,164,186〜187
併用軌道……51〜52
高架線……144〜151
電車庫、機関庫……120,129,138,143,159,162
跨線橋……47
橋梁……18,20,21,43,48,127,129,131,139,144,148,155,160,167,168,170,174,177,187
道路橋……68
トンネル……32,48,90,133,155
踏切……46,52,119,128,172
集落……21,47
住宅地……55,180
商店街……122,173,181
店舗……52,124
鉱山……22,24
詰所……164,196
農家……45,115,154,161,167,170
桜並木……28
樹木……84〜85
ドライフラワー……85
海岸……29,50,53〜54
寺院……54
神社……46,52,149
牧場……44,46,128,158,163
参道……30,32
雪景色……31
小川……32,46,47
川……18,23,43,127,133
公園……32,41,143,158,172,181
消防団倉庫……46
ローカル空港……23
携帯電話のアンテナ……24
雪だるま……33
ミニカー……38
本物の木……84
ペーパークラフト……124
ローレリーフ……100,171
夜景……152〜153,156
●基盤
ベースボード……65,68〜69,106
ベニヤ板……69
外壁……69
●フィーダー、ギャップ
線路への配線……108〜111
●制御器
コントローラー…25,108,141,165
N-S2-CL……112
DCC……113,157,179
●実物風景
江ノ島電鉄……56〜63
銚子電気鉄道……214〜217
駅……204〜207
貨物駅……208〜209
車両基地……210〜211
橋梁……200〜201
トンネル……203
落石止め……202
都市……34
四季……26
川……17
農村風景……42

鉄道模型用語辞典

[あ]

アクリル塗料
模型に使われる塗料のひとつ。水溶性のため、毒性が少なく、安心して使える。乾燥後は耐水性になる。専用の溶剤もある。

インレタ(インスタントレタリング)
文字やマークを転写で表現する一種のシール。台紙をモデルに当て、先の丸い棒などでこすれば、文字やマークが転写する。転写後、台紙をその上に当てて、全体に軽くこすっておくとインレタがはがれにくい。

ウエザリング
風雨にさらされたり、日差しによる退色など、環境による外観の変化を表現する仕上げ技法で、シーズニングともいう。塗料だけでなく、パステルなども使用する。単なる汚しではなく、メーキャップのひとつ。

エアブラシ
塗装技法のひとつ。ボンベやコンプレッサーに接続したスプレーガンを使い、エアーの圧力で塗料を吹き付ける。筆塗りと違って、均一な塗面が得られ、ぼかし塗りや塗り重ねも可能。スプレーガンは高価だが、モデラーならぜひ用意しておきたいアイテムだ。

エナメル塗料
模型に使われる塗料のひとつ。乾燥が遅いので筆塗りしやすい。また、ラッカーやアクリル塗料を侵さないので、筆塗りでも重ね塗りも可能。そのため、Hゴムの塗装や墨入れなどに使われる。専用の溶剤がある。

エポキシ接着剤
主剤と硬化剤の2液を混合して使う接着剤。樹脂系素材から金属、ガラス、木など、幅広い接着が可能で、接着力は強力。硬化は最短タイプでも5分ぐらいかかる。

エンドレス
模型用線路の基本配置。一般的には円または小判形に線路をつなぐ。終点のないのが名前の由来。

[か]

カプラー
連結器のこと。模型用の連結器は種類が多く、その多くは併用できない。種類によっては自動連結・解放連結できるものもある。連結器を解放する仕掛けを解放ランプ(アンカプラー)という。

カブリ／カブる
湿度の高いときに塗装すると、表面が白く曇った仕上がりになる。この状態を「カブる」という。カブリを防ぐためには、湿度の低いときに塗装するのが基本。

紙やすり(サンドペーパー)
表面に研磨剤を貼り付けた紙。適当な大きさに切って使うのがコツ。研磨剤の荒さは番号で示され、数字の大きいものほど細かい。Nゲージのプラキット製作なら180番、400番、800番あたりを揃えておきたい。水研ぎ可能な耐水ペーパーのほうが、使い勝手が広い。

軌間(ゲージ)
対になったレールの内側の幅寸法。実物もモデルも同じ位置を測定する。「ゲージ」には規格の意味もある。

キット
部品をセットにした商品で、自分で組み立てる。素材はプラから真鍮、紙など製品によって異なる。車両だけでなく、建物のキットも多い。

ギャップ
レールとレールを絶縁する切れ目のこと。リバースを作ったり、動力車を留置するときに使用する。

ゴム系接着剤
模型工作でよく使用する接着剤のひとつ。接着しようとする両面に塗布、その表面が乾いたところで双方を押し付け、接着する。

[さ]

サウンド
汽笛やドラフト音、ブロワー音など、より実物に近い姿で楽しむ模型用音響のこと。音を鳴らす方式は各種あり、近年はDCCによる方式が増えている。トミックスの「TCSパワー＆サウンドユニットN-S2-CL」のように、車両ではなくパワーパックに音源を仕込む方法もある。

ジオラマ
車両運転を考えない情景模型のことで、運転のできる「レイアウト」と使い分けている。

シーナリー
一般には風景のことだが、鉄道模型では線路やストラクチャー(建物、構造物)を除く地面や樹木、草などの自然の部分を示す。

集合式レイアウト
一定の規格に従ってセクション(モジュールともいう)を作り、これを

集めてレイアウトにする方式。収納が楽で、仲間同士で競作も可能。新たなレイアウトの楽しみ方として注目されている。

瞬間接着剤
模型工作には欠かせない接着剤。速乾性で、接着力も強い。ゼリー状瞬間接着剤など、各種発売されているので、用途によって使い分けるのがコツ。

ジョイナー
レールとレールをつなぐパーツ。道床付き線路では、線路と一体になった形態のジョイナーもある。

ショート
電気が正規の流れではなく、短絡して流れるトラブルのこと。過電流が流れるため、発熱したり、短絡箇所が焼き付いたり、非常に危険な状態。すぐに電源スイッチを切って、ショート箇所を直そう。

スチロール
プラスチックモデルから鉄道模型まで幅広く使われるプラスチック樹脂。

ストラクチャー
レイアウト上の建造物。駅舎やプラットホーム、鉄橋やトンネルポータルなども含まれる。

スパイク
レールを枕木に固定する犬釘。模型の場合、フレキシブル線路をベースに固定するときに使う。「スパイクする」と動詞として使われることもある。

セクション
ギャップによって区切られ、電気的に独立した区間のこと。また、集合式レイアウトでは、ひとつのブロックをセクションということもある。

線路
2本のレールを枕木の上に並べたもの。線路のことを広義にレールと呼ぶこともある。

鉄道模型の場合、左右のレールは絶縁されており、ここに電気を流して列車の動力としている(メルクリンHOなど、異なる方式を採用しているものも一部ある)。この電圧や電流を制御することによって、列車のスピードや走る向きが変わる。

フロアー運転に使われる線路は、枕木と一体の道床(どうしょう)を付けて、強度を出し、かつ線路を安定させている。

[た]

デカール(ディカール)
文字やマークを転写で表現する一種のシール。水に入れて、台紙から転写膜を浮かし、スライドさせながらモデルに貼る。乾燥すれば接着するが、傷を付けると剥がれてしまう。適当なクリアー塗料を吹付け、万全をはかるモデラーも多い。

[な]

ナローゲージ
標準軌(スタンダードゲージ)よりも狭い軌間を狭軌(ナローゲージ)という。通常は1mよりも狭い、いわゆる軽便鉄道やトロッコのことを示す。9㎜幅の線路を使うものもあるが、縮尺は1/80あるいは1/87で、Nゲージとは別もの。

[は]

パーツ
部品のこと。

パステル
チョーク状になった絵画用顔料。車両やストラクチャーのウェザリングに使う。直接こすりつけずに、サンドペーパーで粉状に削り、筆で叩くように塗り付ける。ビギナーでも土埃をかぶったような表現をたやすくできるが、平滑な面では簡単に取れてしまうのが難点。

バラスト
線路に敷きつめられている砂利のこと。バラスともいう。

パワーパック
鉄道模型のコントロール機器。家庭用電源(AC100V)に接続して鉄道模型運転用の電気(一般的には最高電圧DC12V)に変換、列車のスピードや走る向きを制御する。コントローラーとも呼ばれている。ちなみに右側レールにプラスの電気が流れている状態で前進するのが、日本も採用している国際ルール。ポイント制御や照明用の電源を備えたものもある。

ハンダ付け
真鍮などの金属を接続する技法。スズと鉛の合金で作られたハンダを電気ハンダごてなどの熱で溶かして流し、冷めれば固定する。

フィーダー(フィーダー線)
パワーパックと線路を接続し、走行用電流を流す電線のこと。

プラスター
石膏プラスターが正式名称。粉末を水で溶いて盛り付け、地面や岩肌を作る石膏の一種。焼石膏より硬化時間が長く作業し易く、乾燥後も丈夫だ。

プラ用接着剤
プラスチック専用の接着剤。プラスチックの表面を溶かして接着するので、接着力は強力。接着面以外へのはみ出しに注意。溶剤のシンナーで代用するモデラーもある。

プラ用塗料
プラスチックを侵さない素材で作られた塗料。モデル用としては、一般的にラッカー(プラスチックを侵すものもあるので、プラ用のものを選ぶこと)、水性アクリル、エナメルが使われる。

フレキシブル線路
通称“フレキ”。Nゲージの場合、プラスチック枕木にレールがはめられた状態でいくつかのメーカーから市販されている。自由なカーブに曲げることのできるのが特徴。

プロトタイプ
模型に対して実物のことを示す言葉。「プロトタイプを忠実に再現」というように使う。

ポイント
線路の分岐装置のこと。スイッチともいう。分岐の形によって、Y形、渡り線などがある。

ボンド水
レイアウト工作でバラストや草の固着に使う接着剤。酢酸ビニル系の白い木工用接着剤を水で薄めたもの。一般的にはスポイトで滴下させながら使う。薄める割合は4～5倍ぐらいからテストするといい。中性洗剤を1滴ほど加えると、素材への浸透性が増す。

[ま]

マスキング
塗装テクニックのひとつ。塗ってはいけない部分をマスキングテープ(粘着性の弱い紙テープ)やマスキングゾル(木工用ボンドに似た液体。乾いた後、塗面を痛めずにはがすことができる)で被うこと。吹き付けのみならず、筆塗り時にも有効なテクニックだ。

木工用接着剤
紙や木の接着に使う専用接着剤。濃すぎる場合は、水で薄めて使うことも可能。レイアウト工作には欠かせない。

[ら]

ライケン
レイアウトやジオラマ製作に使う樹木用の素材。本物のコケをモデル用に処理したもので、枝分かれの雰囲気などは秀逸。

リバース
列車がぐるりと回って、逆方向を向いて戻ってくる線路配置のこと。

レイアウト
模型列車を走らせる目的で作られた箱庭のこと。レイアウトの元々の意味は配置。線路を配置するというところから、この名称がある。博物館などではパノラマ、ジオラマとも呼ぶ。

レール
線路を構成する重要な部分。モデルのレールの大きさは、レールの高さをインチで表示する。例えば#100は0.100インチ(2.54㎜)、#87は0.087インチ(2.21㎜)となっている。Nゲージの場合、通常、#87以下の小さなレールが使われている。

[A]

AC(エイシイ)
電気で交流のことを示す。

DC(デイシイ)
電気で直流のことを示す。

DCC(デイシイシイ)
デジタル信号を使って列車やポイントなどを操作する、新しい制御方式。同一線路で複数列車を運転したり、また、サウンドや照明などの新たな楽しみも出てきた。DCCとは、デジタル・コマンド・コントロール(Digital Command Control)の略。

t(ティ)
板の厚みを示す記号。数値は㎜で表示し、「t10」といえば厚さ10㎜の板を示す。

R(アール)
曲線の半径を示す記号で、数値は㎜で表示する。「R610」といえば半径610㎜の曲線を示す。

φ(ファイ)
円の直径を示す記号で、線材の直径を示すときにも使う。数値は㎜で表示し、「φ1」といえば直径1㎜の円または線材を示す。

協　力

(株) グリーンマックス	〒173-0014東京都板橋区大山東町18-4	☎03-5943-1715
(株) 関水金属 (KATO)	〒161-0031東京都新宿区西落合1-30-15	☎03-3954-2501
(株) トミーテック (お客様相談室トミックス係)	〒124-8511東京都葛飾区立石7-9-10	☎03-3695-3161
(株) ハセガワ	〒425-8711静岡県焼津市八楠3-1-2	☎054-628-8241

編集制作　(有)オネストワン
　田中一平
写　　真　池口英司
　アドフォーカス
　荒木英仁
執　　筆　松本典久
　池口英司
イラスト　小林弘明
　橋本美貴子
装　　丁　スーパーシステム
　吉田　亘
デザイン　(株)オリーブグリーン
　馬嶋正司
編集協力　井上あきら
　大穂考悦
　モデルバーン東京店
企画・編集　成美堂出版編集部
　宮原正美

DVD制作
レイアウト制作・監修　松本典久
コーディネート (有)オネストワン
撮影編集 (有)nanimo
オーサリング　プロスタッフ

列車に注意
中将軒
美顔

※掲載されている製品は常に生産、販売、在庫されているとは限りませんので、ご了承ください。
※掲載されている製品の仕様・価格は変更されることがあります。

お知らせ
車両やレイアウトの写真をお送りください。鉄道模型本にて紹介してまいります。
住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、下記オネストワン宛「鉄道模型係」まで。
メール：honestone@mtd.biglobe.ne.jpでも受け付けております。

DVD付き もっと楽しい Nゲージ鉄道模型レイアウト
編　者　成美堂出版編集部
発行者　風早健史
発行所　成美堂出版
　〒162-8445　東京都新宿区新小川町1-7
　電話(03)5206-8151　FAX(03)5206-8159
印　刷　凸版印刷株式会社
©SEIBIDO SHUPPAN 2010　PRINTED IN JAPAN
ISBN978-4-415-30919-4
落丁・乱丁などの不良本はお取り替えします
価格はカバーに表示してあります

• 本書および本書の付属物を無断で複写、複製(コピー)、引用することは著作権法上での例外を除き禁じられています。また代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても一切認められておりません。

●この本の内容に関する問い合わせは下記にお願いします。
〒165-0026　東京都中野区新井1-25-4-801　(有)オネストワン　TEL.03-5380-5825　FAX03-5380-5813

70分DVD付き

もっと楽しいNゲージ鉄道模型レイアウト

ISBN978-4-415-30919-4
C2076 ¥1800E

価格：本体1800円＋税

70分DVD付き

もっと楽しいNゲージ鉄道模型レイアウト